

甲南女子大学
看護リハビリテーション学部

自己点検・評価報告書

平成 26 年度

甲南女子大学 看護リハビリテーション学部

はじめに

平成19年4月に開設した看護リハビリテーション学部は今年（平成26年）開設8年目を迎えました。これまで、2冊の『自己点検・評価報告書』を発刊しており今回は3冊目となります。前回発刊から3年が経過し、その間に大学院看護学研究科が開設されました。今回は大学院の自己点検・評価も含めて教育内容、管理・運営の状況、地域貢献活動、学生の授業評価、教員の自己点検評価等についてデータを集計・分析しています。第2号から第3号までの3年間の動きを振り返ってみますと理学療法学科、看護学科ともに開設4年を経過した時点からカリキュラムの見直しを行い、現在も継続しています。特に看護学科は平成28年度を目途に3つのポリシーを見直し教育目標・教育目的を再考し、甲南女子大学看護学科での特色ある教育を目指したいと考えており、それに合ったカリキュラムを構築しているところです。教員の研究活動についてはそれぞれの学科で研究活動委員会を立ち上げ教員の研究環境を整えていくよう努力しています。理学療法学科ではWomen's Healthに関する研究のために研究室を設置し、外部の病院と連携し少しずつ前進しているところです。両学科の各教員は学位取得や研究業績を積み上げるために研究活動を進めており科研費への応募数も増え、それなりの成果を上げてきています。今後の教員の研究活動のさらなる活性化に期待しています。

平成24年に開設された大学院看護学研究科は平成26年3月に完成年度が終了し7名の看護学修士が誕生しました。社会人として昼間働きながら夜間と土曜日に勉学するのは並大抵ではありませんが、それぞれの院生が努力してきたことが良い結果につながりました。しかしCNSコースの修了生は今後まだ継続して学んでいくことも多く、修了生の研究活動を見守っていく必要があります。今後の大学院教育の教育内容や専攻分野についての検討を継続しつつ、より質の高い大学院教育を目指していきたいと考えています。

平成27年度からの看護学科の定員増が決定され、それに伴う教員の確保、教室等のハード面の充実等また理学療法学科の大学院開設に向けての課題解消等、検討すべき課題は多く、今後さらなる改革が必要と思われますが教員、事務職員が一丸となって進めていけるよう職場環境の改善にも力を注ぎたいと思っています。この報告書を発刊するに当たり、多忙な中ご尽力いただいた関係各位に心から感謝いたします。本報告書をご高覧いただき、ご意見を頂ければ幸甚です。

平成26年12月吉日

甲南女子大学大学院看護学研究科委員長
甲南女子大学看護リハビリテーション学部長
荒 賀 直 子

目 次

はじめに

第1章 本学部の教育理念・目標	1
1.1 教育理念	1
1.2 目的・目標	2
1.2.1 看護学科	2
1.2.2 理学療法学科	3
1.3 中期目標・中期計画	6
1.3.1 看護学科	14
1.3.2 理学療法学科	14
1.3.3 学部事務室	16
第2章 組織と運営	18
2.1 組織(構成)	18
2.1.1 看護学科	18
2.1.2 理学療法学科	20
2.2 教授会組織、役割等	21
2.3 学部運営	25
2.3.1 看護学科	25
2.3.2 理学療法学科	25
2.4 委員会組織・役割	27
2.5 事務組織・役割	32
2.6 予算	43
第3章 学生の受け入れ	44
3.1 学部に関するPR	44
3.1.1 看護学科	44
3.1.1.1 出張講義	44
3.1.1.2 オープンキャンパス	44
3.1.1.3 高大連携	45
3.1.1.4 進学相談会	45

3.1.1.5 高校訪問.....	45
3.1.1.6 学内見学会案内.....	45
3.1.1.7 ホームページ.....	46
3.1.1.8 広報・パンフレット等の作成	46
3.1.2 理学療法学科.....	47
3.1.2.1 出張講義.....	47
3.1.2.2 オープンキャンパス.....	48
3.1.2.3 高大連携.....	50
3.1.2.4 進学相談会.....	51
3.1.2.5 学内見学会案内.....	52
3.1.2.6 ホームページ	52
3.2 学生の募集・選抜方法.....	53
3.2.1 入学試験実施状況.....	53
3.2.1.1 看護学科.....	53
3.2.1.2 理学療法学科.....	55
第4章 教育課程.....	58
4.1 看護学科教育課程.....	58
4.1.1 国家試験4種類の履修モデル.....	64
4.1.2 カリキュラム改正に関する取り組み.....	65
4.1.3 教職課程.....	65
4.1.4 編入学教育.....	66
4.2 理学療法学科教育課程.....	69
4.2.1 国家資格取得の履修モデル.....	70
4.3 臨地臨床実習.....	75
4.3.1 看護学科.....	75
4.3.2 理学療法学科.....	76
4.4 研究科設置準備委員会.....	80
4.4.1 看護学科.....	80
4.4.2 理学療法学科.....	80
4.5 その他、教育・研究に関する支援.....	86
4.5.1 施設設備.....	86
4.5.1.1 看護学実習室.....	86
4.5.1.2 理学療法実習室.....	87
4.5.2 図書.....	88

第5章 教育・研究・社会(地域貢献)活動	92
5.1 教育・研究・社会(地域貢献)活動	92
5.1.1 看護学科	92
5.1.2 理学療法学科	151
5.2 研究倫理審査	198
5.3 FD について	199
5.3.1 看護リハビリテーション学部	199
5.3.2 看護学科	203
5.3.3 理学療法学科	206
第6章 学生生活の支援	213
6.1 学生生活に関して	213
6.1.1 アドバイザー制度	213
6.1.2 奨学金制度	213
6.1.3 感染症対策	214
6.1.4 コモンルームの使用	217
6.2 学生の福利・厚生	217
6.3 国際交流	220
6.4 国家試験対策	222
6.4.1 看護学科	222
6.4.2 理学療法学科	228
6.5 就職活動	229
6.5.1 看護学科	229
6.5.2 理学療法学科	235
6.6 ハラスメントに関する保護	236
第7章 学生による授業評価	238
7.1 講義・演習に関する評価	238
7.1.1 評価方法	238
7.1.2 結果および考察	238
7.1.2.1 看護学科	242
7.1.2.2 理学療法学科	262
7.2 臨地実習に関する評価	282
7.2.1 看護学科	282
7.2.2 理学療法学科	282

第8章 大学院	283
8.1 大学院の教育理念・目的・目標	283
8.1.1 看護学研究科の教育理念	283
8.1.2 看護学研究科の教育目的・目標	283
8.1.2.1 教育目的	283
8.1.2.2 人材養成の目標	285
8.2 大学院の教員組織と運営	285
8.2.1 組織体制と運営	285
8.2.2 教員体制と教員資格	286
8.2.3 教員の研究活動	287
8.2.4 FD 活動	300
8.2.4.1 看護学研究科 FD 委員会	300
8.3 教育課程・教育活動	302
8.3.1 科目と科目配置	302
8.3.2 専門看護師の教育課程	305
8.3.3 履修方法	305
8.3.4 入学選抜	306
8.3.4.1 大学院生の募集・選抜方法	306
8.3.4.2 アドミッション・ポリシー	308
8.3.4.3 社会人受け入れのための具体的方策	308
8.3.4.4 入学者選抜等の入試に関する情報提供	309
8.3.4.5 定員管理	309
8.4 学位論文指導体制・評価基準	310
8.4.1 学位論文作成過程と指導体制	310
8.4.2 学位論文作成過程における倫理的配慮	311
8.4.3 評価基準	312
8.5 修了認定	312
8.5.1 修了認定	312
8.5.2 学位授与状況	313
8.6 中期目標・中期計画	316
8.7 研究・学習の環境	324
8.7.1 施設・設備	324
8.7.2 実習体制	325
8.7.3 図書館	328
8.7.4 学生支援体制	329
8.7.4.1 経済的支援および就職支援	329
8.7.4.2 健康保持増進支援および保険	330

8.7.4.3 ハラスメントおよび多様な学生が学ぶための支援について	331
8.7.4.4 学生生活環境の整備	331
8.8 自己点検・評価体制	331
第9章 教員による自己評価	334
9.1 看護学科	334
9.1.1 教育活動	334
9.1.2 研究活動	335
9.1.3 大学運営	335
9.1.4 社会活動	336
9.2 理学療法学科	338
9.2.1 教育活動	339
9.2.2 研究活動	339
9.2.3 大学運営	340
9.2.4 社会活動	342
第10章 自己点検・自己評価体制	344
資料: 自己点検評価『評価基準』	347
編集後記	362

第1章 本学部の教育理念・目標

1.1 教育理念

本学の教育理念は、「まことの人間をつくる」という建学の精神を基盤に、品格と国際性を備え、社会に貢献する高い志を持つ女性を育成するということである。看護リハビリテーション学部は、豊かな人間性を培い、高いヒューマンケアの視点で看護及びリハビリテーション領域の専門職者としての実践力を備え、医療及び保健福祉の分野で看護は看護師、保健師、助産師及び養護教諭として、理学療法学科は理学療法士として、地域社会や国際社会において活躍できる人材育成を目的とする。看護リハビリテーション学部のカリキュラムポリシー及びディプロマポリシーは以下の通りである。

<カリキュラムポリシー>

学生の専門的知識への興味や将来の進路への期待に応え、目的意識を明確にし、学習意欲を高めるため、1年次から専門基礎科目や専門科目の講義、演習、実習を開講する。

看護学科、理学療法学科共通の講義を開講し、幅広い知識技術を養うとともに、チーム医療の必要性を理解し、健康の維持増進・予防・治療・回復・社会復帰までを担える保健医療職者としての共通認識を育む。

また、臨地・臨床実習においては、本学が提携する病院施設、老人保健施設、訪問看護ステーションをはじめ、主として兵庫県内の多様な実習施設で少人数制によるきめ細やかで実践的な実習を行う。

<ディプロマポリシー>

以下の能力を備え、各学科が定める履修上の要件を満たした学生に対して、「学士」の学位を授与する。

- ① 幅広い教養、倫理的態度、コミュニケーション力及び豊かな人間性を身につけている。
- ② 専門的知識及び技術に基づき判断・実践できる問題解決力を有している。
- ③ 医療、保健、福祉、教育等の分野の人々と連携・協働しながら、チームケアを実践する一員として活躍できる素養を身につけている。
- ④ 専門職者として国際化・情報化へ対応できる能力を身につけている。
- ⑤ 生涯学習者として自学創造の姿勢を持ち、自己の専門領域を学術的に探求することができる。

以上の教育理念、教育目的、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーをふまえ、看護リハビリテーション学部では、以下のようなカリキュラムの特徴を有している。

- ① 入学年次から臨床的な体験を含む演習・実習科目の実施
- ② 両学科の授業を相互に受講できる学際的なカリキュラム
- ③ 実践的なチーム医療の基礎となる教育の実施
- ④ 看護およびリハビリテーションの理念を基礎に、保健医療専門職者に必要な幅広い共通科目、専門基礎科目、専門科目の開講
- ⑤ 臨地・臨床実習施設との連携による、教育と実践の効果的な学習体制の充実

1.2 目的・目標

1.2.1 看護学科

【現状】

<看護学科の教育目標>

平成25年度より、学部教育の教育理念・目的に加え、アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーが明文化されたことを受けて、看護学科でも三つのポリシーについて再検討した。本学科の志願者に分かりやすく、入学後の自身の将来像を明確にできるように配慮した。

<アドミッションポリシー>

- ① 人と関わることを志向し、命の尊さや人々の健康と生活について理解しようとする姿勢を持つ人
- ② 確実な看護実践力を身につけ、幅広い看護の分野で自分の能力を高めたいと考えている好奇心旺盛な人
- ③ 高等学校までに学ぶべき教科（理科、数学、国語、英語、社会）を習得し、看護学を学ぶために必要な基礎学力を身につけた人

<カリキュラムポリシー>

看護への目的意識を明確にし、学習意欲を高めるために、1年次から4年次まで専門基礎科目および専門科目の講義や演習の知識学習と実体験の実習を交互に系統的に配置して開講する。専門基礎科目では、看護学科、理学療法学科共通の講義を開講し、幅広い視点を身につけるとともに、チーム医療の必要性を理解し、生活の質の維持または向上、生活機能の低下の早期発見・早期対処、要支援・ケア状態の改善・重症化予防のための看護ケア、保健医療職者としての共通認識を育む。

また、専門科目の分野は、下記の看護学3分野と、公衆衛生看護学、助産学、学校保健学で構成する。臨地・臨床実習は、多様な実習施設で少人数制によるきめ細やかな実習を行う。

- ① 生活デザイン看護学：生活の場で生きる人々の健康レベルに適した看護・QOL（Quality of life 生活の質）を対象者との協同作業で計画を創り、看護を展開する科目。基礎看護学、老年看護学、在宅看護学、公衆衛生看護学など。
- ② 療養デザイン看護学：主として療養患者の生活に適した看護・QOL（Quality of life 生活の質）を対象者との協同作業で計画を創り、看護を展開する科目。精神看護学、成人看護学、小児看護学、母性看護学など。
- ③ 総合看護：看護の専門的知識・理論と看護実践・技術を統合させ、看護実践の基本的能力の達成を図る。総合実習、国際看護、看護倫理、看護実践統合演習など。

<ディプロマポリシー>

- ① 看護の基礎となる知識と技術を習得するとともに、多文化・異文化に関する知識をふまえた上で、対象者の理解、自己の理解を深める。これらを基盤とし、相互関係の中で統合的に看護を実践し、理解する。
- ② 対象者に対する関心を基盤とし、自らの身体と言語を用いて、ケアリングを目に見える形で

表現するとともに、論理的に看護を思考することができる。

- ③ 看護実践に必要な情報を収集し、論理的に分析し、活用することをとおして、個人および集団のよりよい健康を目指し、問題解決に向けた取り組みができる。
- ④ これまでに獲得した看護の基盤となる知識・技術を統合的に活用し、看護を実践していく中で、自らの看護観を培うとともに、看護専門職者としての自らの課題を見出し、探求していくことができる。
- ⑤ 他職種との連携の中でチームの一員としての役割を理解し、リーダーシップ、メンバーシップを発揮できる基礎能力をつける。
- ⑥ 看護専門職としての責任や論理的態度について理解し、責任ある行動をとるとともに、社会に貢献する意欲を持つ。さらに、看護専門職者として自律・自立して学んでいくための展望を持つ。

【評価】

開学当初より教育活動として重視してきた内容を、学科ポリシーとして再検討したことで、教育の方向性をより明確に示すことができた。その理由として、第一に学科FDの場を設けることで、教員間の教育に対する教員の共通理解、および評価の視点としても再確認することができた。第二に、育成したい学士力の明確化により、カリキュラム上部分的に担当している近視眼に陥りやすい教育実践を、往来を可能にすることで、統合的な教育実践を可能にした。

【課題】

上記の各ポリシーのもと、教育活動を行っているが、今後、年度単位の評価を行うことで、教員の教育力の向上も併せて検討していく必要がある。

1.2.2 理学療法学科

【現状】

＜理学療法学科の教育目標＞

平成25年度より、学部教育の教育理念・目的に加え、アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーが明文化されたことを受けて、理学療法学科でも三つのポリシーについて再検討した。本学科の志願者に分かりやすく、入学後の自身の将来像を明確にできるように配慮した。

＜アドミッションポリシー＞

理学療法学科では、以下のような学生を求めます。

- ① ひとに役立つことを生きがいに感じ、理解力と行動力を身につけ、問題解決のために努力を惜しまない人
- ② 理学療法士としての能力を高めて医療・地域社会に貢献する意志の強い人

- ③ 自己学習力があり、高等学校までに学ぶべき教科（理科、数学、国語、英語、社会）を習得し、理学療法を学ぶために必要な基礎学力を身につけた人

<カリキュラムポリシー>

社会人、医療人として必要とされる広範で多様な基礎的知識と基本的な学習能力の獲得のため、すべての学生が履修する全学共通科目として基礎科目、発見科目、展開科目、外国語科目、情報科目を配置する。特に、理学療法士になることへの強い意志と自覚を持たせ、学習意欲を高め、理解力と行動力を身につけるために、1年次・2年次では「基礎ゼミ」、3年次・4年次では「卒業研究」と「理学療法総合演習」といった少人数制によるきめ細やかな教育体制を整備した。

専門基礎科目と専門科目では系統的な積み重ね学習を行えるように講義と実技実習を交互に配置・開講し、幅広い視点を身につけると共にチーム医療の中で働く専門職としての共通認識を育むために看護学科との共通の講義も開講する。

このような教育成果として学生の知識・技能・態度を評価するために臨床実習前では客観的臨床能力試験(OSCE：Objective Structured Clinical Examination)を実施し、臨床実習後では卒業試験を課して、女性理学療法士としての清潔さ、誠実さ、忍耐力をも確認する体制を整備した。以上をふまえて、医療・医学分野における科学的根拠に基づいた専門知識と臨床能力を段階的に学び、幅広い教養を修得し、心理面を含めて人を総合的に把握できる理学療法士を養成する。

<ディプロマポリシー>

- ① 生命に対する深い畏敬の念と倫理観に満ち、人を総合的に把握し理解できる幅広い教養のある人間性豊かな人材
- ② 理学療法の専門的知識と技術を習得し、急性期医療から地域ケアにいたる課題を科学的根拠に基づいて探求できる人材
- ③ 理学療法の専門性に基づいて、広く全般的な相互理解を深め、保健・医療と福祉の連携・協力に向けて、チーム医療の一員として活躍できる人材
- ④ 自己学習能力を身につけ、新たな知見・技術の開発に貢献し、社会変化に対応した理学療法の専門性を探求することができる人材
- ⑤ 国際交流の場において、様々な国の人・文化を理解し、理学療法士として国際的な視野をもつことができる人材

理学療法学科では、臨床から地域リハビリテーションまで幅広い領域に対応できる学生の育成を基本におき、卒業後理学療法士として豊かな教養とグローバルな視野を持ち、広く社会に貢献できる人材を育成する。また、卒業時の学生像としては“豊かな人間性を持ち、問題解決能力に優れ、活動の場に応じた適切な専門技術が提供できる実践力を備えた臨床家”であることを目指す。つまり、理学療法技術を習得するだけでなく、対象者及び周辺環境に添う学びの姿勢を持ち、対象者を支援することのできる専門職者になることである。

理学療法士には対象者の立場を理解かつ尊重しながら問題解決を図るという人との関わりが必須となることから、それらを円滑に実施するため、豊かな人間性を有するとともに高度なコミュニケー

ション力をもつことが重要である。その上で、専門職としての役割を果たすために、具体的に次のような能力を獲得する必要がある。

- 対象者を一人の人として捉えられる
- 対象者の生活を含めた広い視野を持つ
- 問題点を把握して、その対策を検討する
- 専門的知識を駆使し、対象と活動環境に適した専門技術を提供する
- 結果を分析するとともに疑問点を科学的に考察する
- 新たな問題にはその対応を図り、速やかに目標到達を実現する

学生は卒業までにこれらを修得し、誠実さと優しさ、情熱を持って対象者に接し、ともに喜び・感動できる理学療法士になることを目指す。

教育理念および教育目標は毎年の学生要覧に記載されており、学内での共通認識が行われている。また、学生に対しては、各学年当初のオリエンテーション時において解説し、理解を図っている。さらに、科目「基礎ゼミⅠ」では、理学療法士の役割や責任など医療スタッフとしてのあるべき姿を理解できるよう指導している。

入学後に、学生がリハビリテーションの中核を担う理学療法士として幅広い視点を身につけた“実践力を備える臨床家”を目指すための手助けとして、学科の教育目標と各科目との関連、ならびに履修モデルを学生要覧（看護リハビリテーション学部）に掲載し、科目履修がスムーズに行われるようにしている。

【評価】

本学科における教育目標及び各科目間の連携等に関する前期の課題として、①3年次に実施される専門教育において、各教員における担当講義の開講セメスターに片寄りがみられているのでこれを是正すること ②複数の科目で、学生の学習と体験に必要な時間をさらに追加し、また新たな科目を追加すること ③選択科目について、4年間の学生履修状況から必要な科目の選定をすることを挙げた。

担当講義の開講セメスターの片寄りについては、後期に開講されていた「スポーツ障害理学療法学」「地域理学療法学」「運動学演習」などの年次開講科目を半期早めて開講することとし、各教員における担当科目の開講セメスターのバランスを図った。また、学習時間の追加について、「人体の構造」「整形外科学」「内部障害学」「理学療法総合演習」に対して取得単位数を変えずに授業時間数の増加を図り、さらに、「リハビリテーション医学」「医学概論」「運動生理学」「基礎運動療法学」「医療統計学」などの新科目を追加している。選択科目については、「現実を見る」「科学の方法」などについては二者択一として選択の自由度を提示した。

【課題】

授業科目の年次配当、前・後期の担当配分を片寄り少なく開講できるようにすることによって、自己学習時間やグループ学習時間を利用しやすいようにしてきたが、学生個々の自己学習力向上までに

は至っていない。これについては、自己学習のための時間のみだけではなく、能動的な学習行動を引き出していくための教育方法の改善が必要である。

学科として教員相互に連携した教育方法を模索し、それに関する勉強会などを通して本学科の学生に対して最適な教育方法を立案し、数年以内に実践できるようにする必要がある。

1.3 中期目標・中期計画

本学では平成21年度に3か年の中期目標・中期計画を策定し、平成24年度から2期目の中期目標・中期計画に取り組んでいる。本学部も看護リハビリテーション学部中期目標・中期計画に示す内容で取り組んでいる。(表1-1～1-3) 中期目標は、入試・入学定員確保に関する事項、教育・研究の質向上に関する事項、学生支援に関する事項、社会貢献に関する事項、自己点検・評価に関する事項、大学院開設に関する事項等である。看護学科・理学療法学科・学部事務室と連携して計画実施に臨んでいる。中期目標達成のための措置として、それぞれ小項目を設定し、具体的計画を立案した。立案に当たっては、学部長、学科主任、関係委員会の委員長との合議により行った。

表1-1 看護学科 第二次(平成24～26年度) 中期計画

平成23(2011)年11月2日

大項目	小項目	具体策	担当
I. 入試に関する事項	1. 入試制度の変更 2. 学部定員数の見直し 3. 安定した入学生数の維持	1-1. 編入制度の廃止(2・3年次) 1-2. 学部定員数に社会人を若干名含む 2-1. 1学年90名×4学年の360名定員 3-1. 教育の質担保のため、1学年100名程度を目途	入試委員
II. 教育の質向上に関する事項	1. 看護師教育課程の教育内容強化 2. 保健師教育課程の教育内容強化 3. 助産師教育課程の教育内容強化 4. 臨地実習の充実	1-1. 4年次4月集中講義期間中の科目開講 「フジ ガルアメントⅡ」「ストリズムメント論」 1-2. 4年次後期の科目開講 「ベッドサイドの英会話」 1-3. 卒業前教育内容の強化 「看護実践統合演習」 1-4. 専門科目の内容の見直し(コアカリ、カリキュラムマップ) 2-1. 保健師選択制の導入に伴う統合カリキュラムとの教科内容の検討 2-2. 実習内容の強化 「産業保健実習」「学校保健実習」 2-3. 実習前後の学内演習の充実 3-1. 教科内容の充実 「助産診断技術学Ⅰ・Ⅱ」「助産管理」 3-2. 助産実践力アップのための演習強化 3-3. 科目開講 「助産診断技術学Ⅲ」「総合助産」 3-4. 助産学実習の区分と内容強化 「助産学実習Ⅰ」「助産学実習Ⅱ」 3-5. 受胎調節実地指導員講習認定の申請 4-1. 拡大する実習施設の人的対応として、実習非常勤講師を導入 4-2. ポートフォリオ導入による実習効果アップ 4-3. 実習施設の指導体制による実習委託費の見直し 4-4. 実習施設の開拓	教務委員 FD委員 保健師担当領域 助産師担当領域 実習委員

	<p>5. 教員の教育力保証</p> <p>6. 教育課程の将来構想</p> <p>7. 学生の質の担保</p>	<p>5-1. 教員間による授業評価</p> <p>5-2. 公開授業の導入による教育力アップ</p> <p>5-3. 学生による授業評価の有効活用</p> <p>5-4. 教育倫理の徹底</p> <p>5-5. 研修会の開催</p> <p>6-1. 開設時以来の度重なるカリキュラム改正の評価 (平成 21・23・24 年度改正)</p> <p>6-2. 第三次中期計画に向け将来構想案の立案</p> <p>6-3. 助産師教育に関するニーズ調査</p> <p>6-4. 助産師教育課程の検討</p> <p>7-1. 同一学年の在籍年数限度 (2 年間) の設定</p> <p>7-2. 助産選択学生の選抜方法の見直し</p>	<p>FD 委員</p> <p>新委員会</p> <p>新委員会 助産 助産 教務 助産</p>
<p>Ⅲ. 学生支援に関する事項</p>	<p>1. 国家試験の支援</p> <p>2. 養護教諭採用試験の支援</p> <p>3. 就職支援</p> <p>4. マナー講座の有効活用</p> <p>5. 学習環境の整備</p>	<p>1-1. 100%合格対策として、国家試験支援室の存続</p> <p>2-1. 資格枠・トータルとの連携強化による教員採用試験対策</p> <p>3-1. キャリア教育の充実</p> <p>4-1. 学年別マナー講座の開講</p> <p>4-2. 新入生に対する理学療法学科との合同開講</p> <p>5-1. 図書館内での複数グループの学習が可能となる学習室の設置申し入れ</p>	<p>国試委員 養教担当</p> <p>就職委員 学生委員 学生委員 図書委員</p>
<p>Ⅳ. 研究の質向上に関する事項</p>	<p>1. 研究への取り組み支援</p> <p>2. 研究水準向上の支援</p>	<p>1-1. 外部資金の獲得推進</p> <p>1-2. 学内研究助成金の活用</p> <p>1-3. 共同研究の推進 (学内外)</p> <p>2-1. 研修会の開催</p> <p>2-2. 学部研究発表会の開催</p> <p>2-3. 国内・在外研究事業への参加</p>	<p>FD 委員</p>
<p>Ⅴ. 社会貢献に関する事項</p>	<p>1. 実習施設指導者の指導力支援</p> <p>2. 実習施設スタッフの研究支援</p>	<p>1-1. D-PEC の継続</p> <p>2-1. 実習施設への講師派遣</p>	<p>D-PEC 担当者 各自</p>
<p>Ⅵ. 研究科に関する事項</p>	<p>1. 研究科運営の基盤整備</p> <p>2. 諸規定等の充実</p> <p>3. 必要経費の獲得</p> <p>4. 高度実践看護師制度への移行</p> <p>5. 研究科設置アフターケア (AC)</p>	<p>1-1. 各委員会組織編成</p> <p>1-2. 各申し合わせ事項等の作成</p> <p>2-1. 論文審査基準等の作成</p> <p>3-1. 研究費、図書費、実験実習費等の適正配分</p> <p>3-2. 昼夜開講に伴う教員手当の検討</p> <p>4-1. 高度実践看護師 (APN) 制度の導入の検討</p> <p>5-1. AC への対応</p>	<p>研究科委員会</p>
<p>Ⅶ. 卒業生に関する事項</p>	<p>1. 卒業後の動向</p> <p>2. 国家試験の支援</p>	<p>1-1. 卒業後の就業状況の把握</p> <p>2-1. 卒業後の国家試験対策</p>	<p>就職委員 国試委員</p>
<p>Ⅷ. その他</p>	<p>1. 自己点検・自己評価</p> <p>2. ホームページ</p> <p>3. 学科申し合わせ事項の整備</p>	<p>1-1. 教員の自己評価票の見直し</p> <p>1-2. 自己点検・評価結果の公表 (報告書)</p> <p>1-3. 各種委員会活動の評価の充実</p> <p>2-1. 魅力あるホームページの充実</p> <p>3-1. 学科内委員会活動の簡素化</p> <p>3-2. 各種申し合わせ事項の周知徹底</p>	<p>学科主任 自己点検 委員 HP 委員 学科主任</p>

表 1-2 理学療法学科 第二次（平成 24～26 年度）中期計画

平成 23（2011）年 11 月 2 日

看護リハビリテーション学部 中期目標				
I. 入学定員確保 II. 教育研究等の質の向上 III. 自己点検・評価機構作り IV. 大学院開設				
大項目・中項目・小項目	理学療法学科	具体的内容	担当委員会 関係部署	
I. 入学定員確保に関する目標達成のための措置	<p>1) 平成 24-26 年度入学者数 115%</p> <p>① 学科パンフレットの内容の充実</p> <p>② 高校訪問への積極的参加</p> <p>③ 指定校の新規加入と既存校選定の検討</p> <p>④ 特別入学試験（社会人）の設置</p> <p>⑤ 成績および入学時アンケートの分析</p> <p>⑥ 単独の学科説明会開催の検討</p> <p>⑦ オープンキャンパス、来場者増加を目的とした学科企画の検討</p>	<p>1) 平成 23 年度入学者数 78 名（130%）</p> <p>入学者数は、昨年度よりも上回り 130%に達した。本学の周辺地域にある 4 年制大学養成校との競合の影響が懸念される中で、受験者数の増加は本学への関心の高さがうかがえる。しかし、学生の質的、学力的な側面から更なる教育レベルの向上を視野に入れた入学定員の確保に取り組む必要がある。入学時アンケートを分析し、具体的な対策の検討に活かしていく。</p> <p>大学パンフレットをはじめ、リーフレット、ダイレクトメールなど学科をアピールする方法を工夫する。あらためて学科方針を提示し、国家資格取得に向けての取り組みと国家試験合格率、就職率と卒業生からのコメントを掲載するなど内容の充実を図っていく。</p> <p>学外における進路相談会の参加実績は 5 件（平成 23 年 9 月現在）で、そのうち高校内進路相談会の講師依頼は 3 校であった。入試委員が対応した学部見学申し込み高校の案内は 2 校であった。また、個別の学科見学、進学相談の問い合わせが 1 件あり、入試委員が直接対応した。今後も入試課と調整して高校訪問、医療系職種の進学説明会の依頼には積極的に対応するとともに、オープンキャンパス以外で単独の学科説明会を開催する意義についても検討する。</p> <p>指定校については定員数を減らすことなく、より良質な学生の入学を確保するため、これまでの成績等のデータを分析し、学科が求める指定校の選定を進める。また、成績優秀ランクの新規校を開拓することも入試課と調整する。現在、平成 25 年度から実施する特別入学試験（社会人）の設置を進めている。</p> <p>オープンキャンパスは、直接的な学科アピールが可能なので、受験者獲得に大切な機会である。集客効果に期待できる一般公開講座の同時開催といった特別企画や、理学療法学科の大学生一日体験、理学療法士体感ツアーなどの学科企画の新たな試みを検討し、来場者数増加に結びつく広報や学科アピールの工夫が必要</p>	入試委員会	
II. 教育研究等の質の向上に関する目標達成のための措置	1. 教育に関する措置	1-1. 教育プログラムの内容と方法	教務委員会 FD 委員会	
		1) 教員の教育力の向上		<p>教育力向上のために、これまでの FD 活動を継続発展させる。</p> <p>教育力向上のために、FD 研修会を充実させる必要がある。これまでの FD 活動を継続発展させる。これによって教員間の連携を密にし、学士力向上につながるように教員の教育力を向上させていく必要がある。</p>
		2) 基礎学力向上の支援	<p>入学者の学力レベルの個人差の是正（基礎学力の向上）が必要である。</p>	

			2) 基礎学力向上の支援	<p>入学者の学力レベルに個人差が大きい（偏差値40台から60台）のが現状である。この格差を埋め合わせるために、数学、物理、生物は専門基礎科目や専門科目との関連性を考慮した内容を基礎ゼミ I においてより濃密な授業を展開する。英語は、能力別にクラス編成されるが、3年次以降には専任教員による学力向上を進めるように強化しつつある。国語力に関しては、各専任科目教員による授業展開において、文章作成力、口述説明力の強化に努めている。</p>	
			3) カリキュラムマップに基づいた学習指導体制の整備	<p>基礎ゼミによる学習指導強化体制は平成22年度から開始されている。これは、1年次基礎ゼミ担当教員が基本的にはそのまま卒業まで持ち上がる体制である。基礎ゼミでは、主に初期の2年半の間、理学療法への学習意欲を確認しつつ、大学生たるべき勉学・学習、姿勢を教育することに主眼をおいている。年々かわる学生の資質に対応しながら、強化が進められている。</p> <p>しかしながら、現状では多様な学生を受けていることから基礎ゼミ担当教員体制だけでは十分な学習指導が行き届かないのが実状である。これを改善すべくカリキュラムマップに基づいた学習指導体制の整備し、年次ごとの学生到達レベルを確認しながら学習指導し、カリキュラムを展開できるようにする。</p> <p>この体制整備の成果は、平成25年以降の卒業生、就職率、入学者の資質によって現れてくると考えられる。</p>	
			4) 基礎医学と臨床医学の学習支援	<p>①専門基礎科目・専門科目における学習力の強化（基礎医学の学力向上）</p> <p>人体の構造を3科目構成に分割することによって分野別に理解力向上を目指す。しかも、理学療法に特化した内容となる構成とする。人体の構造演習では、運動器の解剖と体表解剖学の学習は強化されてきているが、解剖生理に関する学習の強化をしていく。</p> <p>②臨床医学の学習の推進</p> <p>専門基礎科目の大幅な見直しを行い、文科省への届出を完了し、平成23年度から新カリキュラムが展開されている。そして、学習目標を明確にすることで学生の理解を促すように改善し、学生のレベルアップを図る体制を整える必要がある。</p> <p>新カリキュラムを順当に展開するためには、科目間での内容を整合させ、時間割が学生にとって涵養であるように配慮する必要がある。</p> <p>専門科目においては、実技指導にかかる時間数を確保しているが、自主学習による実技習得への環境を整備する必要がある。そのための空き時間の利用と教室の確保が必要である。</p>	
			5) 共用試験の導入	<p>①臨床実習前の知識の向上、および、よりスムーズな臨床実習の実施。</p> <p>②優秀な学生を実習に送り出すことにより、就職活動につなげる。</p> <p>③国家試験問題を用いることにより国家試験合格率向上対策とする。</p>	
			6) 学科強化の推進	<p>6-1) 医療センター設置の検討 <女性リハビリテーション研究所> ①女性を理解した女性のための理学療法士を育成</p>	

		6) 学科強化の推進	<p>② 現在、女性の社会進出は顕著であり、職域拡大を図るとともに就職の促進に結びつく。</p> <p>③ 専門療法士としての学科教員の活躍により、研究活動の活性化や教育の資質向上につながり、学科の広報戦略に役立つ。</p> <p>④ 研究所の存在は外部の教育・研究施設との連携が構築され、学科のアピールと今後の発展をもたらす。</p> <p>6-2) 研究所設置の検討 <医療センター(淀川キリスト教病院跡地)></p> <p>① 初学年における明確な医療者像や理学療法士像を形成し、医療に対する真摯な態度や緊張感を維持させることで学習意欲を高める。</p> <p>② 女性リハビリテーション研究所の実践的な活動の場を確保し、臨床研究も推進することで、研究成果を学生教育へ活かす。</p> <p>③ 理学療法学科が直接指導する臨床実習が可能となる。</p> <p>④ 理学療法学科が主体となる大学院設置の専門理学療法士養成における臨床実習地としたり、大学院生の研究及び就労の場を確保できたりなど、大学院の特色を強調できる。</p> <p>⑤ 医療センター自体が社会貢献となるため、大学及び学部学科のイメージやブランドを高めることが可能である。</p> <p>⑥ 比較的大きい規模の建物であり、学部としての独立を構想した場合に、将来の学科増設などが容易となる。</p>	
	1-2. 学習環境の整備	1) 図書館	<p>① 学習体制に応じた利用方法の改善</p> <p>② 科目と連携した積極的活用の促進</p> <p>③ 冊数の充足</p>	教務委員会 コモンルーム委員会 図書委員会 実習委員会
		2) 実習施設の拡大と関係強化	<p>① 近畿圏内の臨床実習施設の拡充</p> <p>② 実習施設である医療福祉施設との共同研究を通じ、関係強化、教育・研究のレベルの向上をはかる。</p> <p>③ 共同研究内容に関する臨床実習施設と研究会を開催する(学生も参加する)。</p> <p>④ 施設との関係強化により、就職活動時のアピールにつなげる。</p>	
	1-3. 学生支援	1) 国家試験対策	<p>① 国家試験合格率を高めるための教育管理体制の検討と構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 合格率 100%を目標とした教育指導の実践 ・ 長文問題の読解力向上を目指した教授方法の検討と実施 ・ 学習進度に沿った成績管理方法の検討 ・ OSEC の共用試験と連携した基礎 3 分野(解剖学・生理学・運動学)の基礎学力強化 ・ 初学者に対し国家試験における基礎科目の重要性の認識強化 <p>② 国家試験不合格者に対する教育支援体制の検討と構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 既卒者合格率 100%を目標とした教育管理体制の検討と構築 ・ 就業状況に応じた介入方法の検討と実施 	学生生活委員会 国家試験委員会 就職委員会
		2) 就職活動支援 ① 各病院・施設へ求人依頼	① 教員が各病院・施設へ訪問して、採用のお願いをする。訪問できないところはダイレクトメールでお願いする。	

	1-3. 学生支援	<p>②学生へのオリエンテーション</p> <p>③保証人への説明</p>	<p>④ 4年生前期のオリエンテーションで就職活動の方法を説明する。</p> <p>③活動時期を明確にし、早期からの取組を支援</p> <p>④1年～3年生までは、採用試験に面接・小論文があることを意識させ、日常より言葉遣い、文章の書き方に注意を向ける。また、成績の向上を意識させる。</p> <p>⑤就職説明会、教育懇談会で就職活動支援について説明する。</p>	<p>学生生活委員会</p> <p>国家試験委員会</p> <p>就職委員会</p>
		<p>3) 2年次以降のアドバイザー制度の見直</p>	<p>2年次以降はA組、B組に分かれ、小人数のきめ細かいフォローが行えるように、2年以降も基礎ゼミの教員がアドバイザーになる。1年次ゼミから、アドバイザー教員が適宜相談にのりながら定期的な勉強会を実施することで、3、4年次のグループ学習、卒論ゼミへのスムーズな導入や学生同士の助け合いで勉強する姿勢を養っていく。</p>	
		<p>4) 卒業生に関する事項</p> <p>①卒業生の動向</p> <p>②国家試験の支援</p>	<p>①卒業後の就職状況を把握する。国家試験不合格者に対しては、不合格確定後、就職先への対応について協議する。担当教員を配置し、今後の国家試験支援・就職支援を継続して行う。</p> <p>②国家試験不合格者に対しては、総合演習の履修および国家試験模試を行うことで支援。</p>	
2. 研究に関する措置	2-1. 研究への取り組み支援	<p>1) 臨床実習協力施設の臨床家や学外研究者の招聘および協同研究実践に向けた体制作り</p>	<p>研究への取り組み支援について、現状では、学士力向上に力を注ぐ環境を整えるのにかなりの時間を必要としている。研究力向上のための時間が十分ではない。些少の時間でも研究の積み重ねができるような環境整備が必要。</p> <p>設備に関しては大学の大きな理解の御蔭でかなり整備されているが、研究実務が不十分である。この改善のためには、主に臨床実習協力施設の臨床家や学外の研究者を招聘し、協同的な研究が取り組めるような体制を構築していく必要がある。</p>	
		<p>2) 大学科研費申請奨励金の申請率向上</p>	<p>上記の研究支援を受けるにあたっては、研究費獲得のために科研費申請奨励金の申請率を100%にしていける必要がある。</p>	
		<p>3) 学科強化の推進</p>	<p><臨床バイオフィードバック研究所の設置></p> <p>①バイオフィードバック及びニューロフィードバックに関する基礎研究と臨床研究の国内拠点とし、理学療法学科独自の研究体制を推進する。</p> <p>②女性リハビリテーション研究所と密接に連携し、女性特有の問題である骨盤底筋障害や慢性疼痛に関して共同研究を実施する。</p> <p>③リハビリテーション医療におけるバイオフィードバックおよびニューロフィードバックの導入を推進するために、国際的な資格認可団体であるBCIA (Biofeedback Certification International Alliance) の日本事務所を設置し、技術研修会や資格認定業務を担当する。</p> <p>④BCIA および海外研修先であるサンフランシスコ州立大学との関係を深め、共同研究などを推進して理学療法学科の国際化を図る。</p>	
	2-2. 研究水準の維持・研究成果のフィードバック	<p>研究成果発表の定例化 (FD)</p>	<p>①各種学会での研究成果発表の推進</p> <p>②学部FD活動において、研究成果の発表</p>	<p>FD委員会</p>

	3. 地域貢献：社会との連携協力に関する措置	3-1. 地域貢献事業	1) 実習施設での研修会開催	臨床実習施設からの依頼に対する研修会を施設担当教員によって開催。実習施設スタッフの資質向上と学生指導の充実を図る。	各実施者
		3-2. 公開講座	1) 客員教授による研修会開催	客員教授による講演会を開催する。	教務委員会
		3-3. 研究会等	1) 各種研究会の開催		各実施者
Ⅲ. 自己点検・評価に関する目標達成のための措置	1. 自己点検・評価体制に関する措置	1-1. 自己点検・評価ガイドラインの策定	1) 自己点検・評価運営ガイドラインの策定	構成内容は、平成21年度にすでに確定しており、次年度完成に向けて、平成21・22年度分原稿を収集・整理している。	自己点検・自己評価委員会
		1-2. 授業評価	1) 学生による授業評価	学生による授業評価を演習・実習科目にも拡張	1) 実習委員会 2・3) FD委員会
			2) 公開授業	オープンキャンパスなどにて公開授業を実施する	
	2. 自己点検・評価結果等の学内外への公表に関する措置	2-1. 年報の発行	1) 自己点検・評価報告書との統合化への取り組み	①年報と自己点検・評価報告書との一本化	自己点検・自己評価委員会・ホームページ委員会
				②自己点検・自己評価委員会と調整の上、学外者の閲覧も行えるよう、自己点検・自己評価活動報告をホームページで公表できるようにする。	
	2-2. 自己点検・評価報告書の発行	1) 年報との統合化への取り組み	年報と自己点検・評価報告書との一本化	自己点検・自己評価委員会	
自己点検・自己評価委員会					
Ⅳ. 大学院開設（平成25年4月）に向けての措置	1. 大学院構想の確立に向けての措置	1-1. 大学院開設委員会の立ち上げ	1) 平成25年度大学院開設に向けて新たな大学設置準備委員会を立ち上げ	平成23年度から理学療法学科を中心とした新たな大学設置準備委員会を設置し、平成25年度大学院開設に向けて準備を行う。	大学院設置準備委員会 新研究科設置準備委員会
		1-2. 他大学調査	1) 多様な大学院の設置形態を検討するための他大学調査を実施	理学療法学科が単独で大学院を開設するのは、国内で前例がない。したがって、多様な大学院の設置形態を検討する必要があるため、国内外の大学院を調査する。	
	2. 文部科学省申請に向けての措置	2-1. 自己点検・評価報告書の作成	1) 平成24年度の文科省申請に向けて準備	自己点検・自己評価委員会と協力する。	
		2-2. 人材の確保	1) 大学院設置に向けて新たな人材の確保と専任教員の準備を進める。	大学院設置に向けて合および〇合教員を合計12人必要とするため、専任教員の研究活動と学位獲得を促進している。必要条件を満たせるよう、不足している部分への対応を検討する。	
			2-3. 予算計画	1) 大学院設置申請の準備に必要な予算計画立案	理学療法学科単独での大学院設置はかなり高いハードルがあり、専門のコンサルテーションへの依頼なども含めた予算計画を立てる。
		2) 大学院設置に必要な施設や機器の整備のための予算計画立案		大学院設置については、施設や機器などの整備が必要となるため、平成24年度内での整備に向けた予算計画を立案することが必要となる。	

表 1-3 看護リハビリテーション学部事務室 第二次（平成 24～26 年度）中期計画

平成 23（2011）年 11 月 2 日

大項目	小項目	具体策		関連部署
I. 入試に関する事項	1. 看護学科 2 年次 3 年次編入制度廃止への対応	1) 看護学科編入制度廃止に伴う文科省への提出書類作成	H24	企画広報課
	2. 看護学科収容定員変更への対応	2) 看護学科収容定員数見直しに伴う文科省への提出書類作成	H24	
	3. オープンキャンパスの有効な利用の促進	3) オープンキャンパスでの案内担当学生への指導・受験生への対応サポート	H24~26	入試課
II. 教育の質向上に関する事項	1. 実習施設との関連強化	1)-1 実習施設との事務的連携強化 1)-2 看護学科実習施設との実習謝礼金見直しとそれに伴う円滑な事務手続き	H24~26 H24~26	
	2. 実習施設確保	2) 実習施設の開拓支援	H24~26	
	3. 理学療法学科教育力の強化	3) 他大学の取組等の情報収集と提供	H24~26	
	4. 教員間連絡支援	4) 教員不在時の教員間の連絡支援	H24~26	
III. 学生支援に関する事項	1. 国家試験受験体制の整備	1)-1 既卒生対応を含めた国家試験申請業務の整備 1)-2 学生への国家試験受験書類作成指導の強化	H24 H24~26	資格支援課 経理課
	2. 就職支援	2)-1 病院・施設等からの求人依頼へのきめ細やかな対応で学生と就職先との関係を強化 2)-2 理学療法学科就職対策支援（病院・施設向けパンフレット作成等） 2)-3 病院奨学金受給者の就職先確認・トラブル回避	H24~26	就職課 学生生活課
	3. 学習環境の整備	3)-1 夜間帰宅時安全確保のために試行しているタクシー制度の継続対応 3)-2 図書館との連携や教室・COMMONルーム等学習環境整備	H24~26	総務課 学生生活課 図書館
IV. 研究の質向上に関する事項	1. 研究への取り組み支援	1) 教員と学術研究支援室の連携支援	H24~26	学術研究支援室
V. 社会貢献に関する事項	1. 看護学科 D-PEC 支援	1) D-PEC 実施に伴う関連事務の整備	H24~26	社会貢献室
VI. 研究科に関する事項	1. 看護学研究科運営の基盤整備	1)-1 関連規程整備 1)-2 夜間・土曜日開講時の院生対応マニュアル整備 1)-3 非常勤講師のためのマニュアル整備 1)-4 研究科委員会運営	H24/25 H24	企画広報課 教務課 学生生活課
	2. CNS から高度実践看護師制度 (APN) への移行	2) APN 制度導入に伴う文部科学省への変更申請書類作成	H24~26	
	3. 研究科設置アフターケア (AC)	3) 完成年度までの文部科学省への AC 書類作成提出	H24	
	4. 理学療法学科大学院研究科設置構想 (平成 25 年開設予定)	4) 理学療法学科研究科構想支援 (情報収集と提供)	H24/25	
VII. 卒業生に関する事項	1. 卒業後の国家試験受験支援	1)-1 前期末卒業生、不合格者・未受験者の国家試験受験支援 1)-2 連絡方法の整備	H24~26	資格支援課
VIII. 自己点検・自己評価	1. 自己点検・自己評価	1) 自己点検・自己評価表の集計方法の見直し	H24	
IX. 事務室に関する事項	1. 学部事務室業務の整理と強化	1)-1 学部事務室業務分担の見直し 1)-2 大学院事務業務の整備	H24	総務課
	2. 事務力の強化	2)-1 事務文書作成の基礎知識習得	H24	

		2)-2 契約書の基礎知識習得 2)-3 教員への事務手続き周知のためのマニュアル作成（フローチャート等） 2)-4 実習施設との書類の形式・内容見直し	H24	総務課
	3. 新任教員オリエンテーション強化 4. 1号館危機管理体制整備	3) 新任教員オリエンテーションの内容整備及び強化（大学と連携） 4) 1号館内危機管理体制を今後検討（大学との連携）	H24	管財課

1.3.1 看護学科

【評価】

看護学科は開設して7年目となり、「自己点検・自己評価」や、年度単位の「委員会活動報告」などを通して、随時評価修正を実施してきた。

カリキュラム改正のための資料として、一昨年度から重視してきたのは3つのポリシーおよびカリキュラム・マップであった。カリキュラム・マップの作成により見えてきた課題は、以下のとおりである。①基礎科目・専門基礎科目では、「知識・理解」が中心の授業であり、汎用性技能や創造的思考力を培うには課題がある。②演習科目では、汎用性技能が多く、創造的思考力が育成しにくいこと、実習科目では、バランスよく学習ができています。このように、科目の特徴によって培う能力には差があるが、学生は4年間を通して大学で培うべき能力を学ぶ機会があることが明らかになった。

上記の内容、またFD研修会における教員間の討議をとおして看護学生に必要な力量形成が課題となった。具体的には、①学生が主体的に学ぶための教育方法の工夫、②看護実践力の育成に向けた専門的学習の順序性、③段階的学習の取り組みの検討である。これらを解決し、教育の質の保証と向上を目指すために、今年度（平成25年度）よりカリキュラムワーキングを設置した。このワーキングは、第三次中期計画に向けた将来構想案の一項目を担うものであり、平成28年度のカリキュラム改正に向けて、今年度より検討を行うこととなった。

国家試験に関しては、これまでの成果、教育的効果（合格率100%）を鑑み、国家試験支援室とアドバイザー教員が連携をしながら、学生のサポートを行っていく方針である。さらに、社会的背景から高い就職率を維持しているが、学生が自身のキャリアデザインを踏まえた活動ができるよう、引き続きを支援していく。

【課題】

これまでの教育評価を踏まえ、平成28年度のカリキュラム改正に向けた取り組みを行っていく。それに併せて、教員の更なる教育力の向上のためのFD活動も行っていく方針である。

1.3.2 理学療法学科

【評価】

当学科における今期中期計画として、特に「理学療法学科の強化」および「大病院との連携強化」

の2つの課題があげられた。そして、理学療法学科の強化における問題点として、学科の教育のあり方の検討の必要性、女子大学としての特徴ある理学療法教育の不明瞭さ、実習のあり方や実習施設との関連性の検討などがあげられた。これらに対する方針として、若手教員の育成をはじめとする教員の教育力・研究力を伸ばすこと、Women's health を焦点とした新科目の構築、高い資質を持つ実習病院（大学病院等）の獲得などを推進することとした。

教員の教育力・研究力の向上について、将来の大学院設置計画の実現のため、今期の学位取得状況は修士1名、博士3名を数え、学科全体では修士取得者7名、博士取得者8名となり、教育力・研究力向上の推進が図られた。しかし、研究活動について科研費/厚生労働科研費の採択状況をみると、今期中に11件の申請を行ったが、新規の採択は3件にとどまった。また、臨床実習の資質向上を図るための大病院との連携強化では、大学病院を中心に教育水準の高い医療施設に対する実習施設としての依頼を積極的に行った。その結果、神戸大学医学部附属病院をはじめ京都大学医学部附属病院、広島大学附属病院、横浜市立大学附属病院、順天堂大学医学部附属練馬病院など初期の目標を大きく上回る多くの実習病院を獲得できたことから、今後の臨床実習教育の向上が期待されることである。

その他の中期計画として、入学者数の確保、学力の向上、国家試験合格率の維持向上、大学院の開設などをあげた。まず、入学者数の確保について、今期3年間の平均入学者数は126%となり、当初目標であった115%（後に120%）を上回ることができ、目標を達成することができた。学力の向上では、基礎学力向上の支援のために「基礎ゼミⅠ・Ⅱ」の充実、カリキュラムマップに基づいた学習指導体制の整備のための教員の自己達成評価の実施、基礎医学と臨床医学の学習支援のための新カリキュラムの展開および共用試験の導入などを行った。国家試験合格率の維持向上では、教員の業務量の緩和にも対応するため、25年度から学科独自の国家試験対策専門教員を採用した。合格率は23年度92.2%、24年度98.1%、25年度98.2%を達成することができ、良好な結果を獲得した。大学院の設置では、当初25年度の開設に向けて準備委員会を立ち上げた。しかし、設置条件となる教員の育成・確保に対する専任教員の対応が不十分なために、開設を延期せざるを得ない状況が続いている。

当学科教員の今期の目標エフォートの実績は、表1-4のとおりである。この結果から、教育活動の比率が50%と高く、研究活動がやや低い傾向がみられた。

表 1-4 理学療法学科における今期の目標エフォートの平均実績 (%) N=19

	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平均
教育活動	54	50	47	50
研究活動	16	18	19	18
大学運営	18	18	20	19
社会活動	13	14	14	14

表 1-5 理学療法学科における今期の目標エフォートの達成状況 (%) N=19

	目標以上の 成果達成	目標を 順調に達成	目標を おおよそ達成	目標を 下回った
教育活動	24	60	15	1
研究活動	16	35	14	35
大学運営	11	49	33	7
社会活動	20	49	20	11

また、目標エフォートの達成状況をみると、表 1-5 の通りであった。「目標を順調に達成」以上の達成率は、教育活動 84%、大学運営 60%、社会活動 69%であったのに対し、研究活動は 51%とやや低かった。反対に「目標を下回った」ものは、研究活動がその他の活動と比較して 35%と著明に高かった。

【課題】

- (1) 理学療法学科の強化を推進するために、昨年度に立ち上げた「知名度向上検討委員会」では高校生のための体験授業の開講を実施した。今後もその継続を図り、高校生の理学療法に対する興味を向上させ、受験生の確保を推進する必要がある。
- (2) 教員の教育力・研究力の向上について、ある程度は向上している面はみられるものの、カリキュラムマップの自己達成評価の検討や研究活動の活性化を図る必要がある。特に、研究活動については、大学院設置のための教員の育成を図る目標もあることから、昨年度後半に研究活動推進のためのグループを設置したので、このグループ活動を推進することが重要となる。

1.3.3 学部事務室

【評価】

学部事務室では、第 2 次中期計画として平成 24 年度～平成 26 年度 3 年間の中期目標を策定し、両学科教員や他部署との連携を図りながら、日々の業務と並行して取り組んできた。

今期は、特に大学院看護学研究科修士課程の申請をはじめとして、学部・研究科の教育・研究の質向上のために、次の申請書類を教員・関係部署とともに作成・申請し、それぞれ認可された。

<文部科学省への申請>

平成 23 年 5 月 大学院看護学研究科設置申請 (10 月認可)

10 月 看護学科保健師選択制・助産師カリキュラム変更承認申請 (平成 24 年 1 月認可)

平成 24 年 5 月 看護学科入学定員の変更・編入学廃止・収容定員の変更承認申請 (8 月認可)

<日本看護系大学協議会への申請>

平成 25 年 7 月 専門看護師教育課程 (がん看護学・老年看護学 各 26 単位) (平成 26 年 2 月認可)

また、文部科学省の大学院看護学研究科設置計画履行状況等調査を受けることになり、平成 25 年 5 月に履行状況調査報告書を提出、同年 11 月 29 日に大学院看護学研究科設置計画履行状況等調査の「面接調査」が文部科学省で行われ、学長をはじめ関係者が対応を行った。

学生支援や入学者確保、教員への対応や自己点検・評価については、例年通りきめ細かく対応を行っている。

平成 25 年 9 月に、1 号館内での火災発生を想定した避難訓練や消火設備の確認、非常時のエレベーターからの脱出方法など、他部署の教職員の協力も得、看護リハビリテーション学部全体で危機管理への対応を行った。

【課題】

学部事務室と教員との連携を深め、第 2 次中期計画の目標を達成する。その検証・評価を行い、学部・学科・研究科の特長をより引き出せるような、第 3 次中期計画を策定・実行する。

文責：看護リハビリテーション学部長	荒賀直子
看護学科長	前川幸子
理学療法学科長	八木範彦
学部事務室 事務長	吉井貴子

第2章 組織と運営

2.1 組織（構成）

本学部の教育理念・目標を達成するために構築した基盤教育カリキュラム、専門教育カリキュラムの実施にあたり、構成した各学科の専任教員は下記のとおりである。

表 2-1 専任教員の構成（人数）

	平成 23 年度 (平成 23 年 4 月)		平成 24 年度 (平成 24 年 4 月)		平成 25 年度 (平成 25 年 4 月)	
	看護	理学療法	看護	理学療法	看護	理学療法
教授	17(3)	9(1)	20(8)	10(2)	19(8)	10(2)
准教授	1	4	5	4	6	4
講師	11	3	12	4	14(2)	4
助教	10(1)	2	9(1)	1	5(2)	2(1)
助手	1	0	0	0	1	0
計	40	18	46	19	45	20

資格所有者内訳（平成 25 年 4 月）

看護学科	： 看護師免許 16 名	看護師・保健師免許 22 名	看護師・助産師免許 5 名
看護師・保健師・助産師免許	2 名	医師免許 1 名	
理学療法学科	： 理学療法士免許 17 名	作業療法士免許 1 名	医師免許 2 名

※〇内の数字は、第3種特任教員（「大学の教員等の任期に関する法律」に基づき任期を定めて任用する）の数。

教授には第1種特任教員（本学定年規程により満65歳に達した者で、職務内容が専任教員と同様で、1週3日以上勤務し、授業担当時間は1週10時間(5コマ)を含む）を含む。

2.1.1 看護学科

【現状】

看護学科は、平成 19 年度の開設当初より看護師・保健師を志向する学生の教育を主軸に置き、多様な学生のニーズに応え、助産師、養護教諭の資格取得が可能なカリキュラムを提供してきた。しかしながら兵庫県下の看護系大学の増加に伴う実習施設確保の困難さ、保健師として就職できる可能性の低さを鑑み、平成 23 年度入学生より保健師養成に関しては選択制とした。これにより専門科目は生活デザイン看護学（基礎看護学、老年看護学、在宅看護学）、療養デザイン看護学（精神看護学、成人看護学、小児看護学、母性看護学）、総合看護の3分野、選択分野として保健師、助産師、養護教諭の構成となっている。教員組織編制は、専門基礎科目（1名）、専門科目（37名）、国家試験支援担当教員（1名）の総計39名であり、専門科目の分野別教員配置は、表2-2、表2-3、表2-4の専門科目分野別教員配置に示す通りである。なお、在宅看護学ならびに助産師科目で2名の欠員が生じており、非常勤助手で対応している。欠員補充教員、産休代替教員および私傷病による休職中代替教員に対す

る教育補助者としての資質の担保については、学科責任者である学科主任および各専門領域の教授等が責任をもって対応している。

また、当該教育課程の中核である看護実践能力の育成における臨地実習施設は、本学が提携する甲南病院グループ、松下記念病院、淀川キリスト教病院に加え、平成 25 年度には日生病院も提携病院となり、兵庫県下および大阪府下の各施設を確保できている。本学科の場合、臨地実習は指導者および実習先スタッフと一緒に全教員が指導を担う体制にしているため、日々の関わりの中で教育・指導能力が育まれている状況である。

表 2-2 平成 23 年度分野別教員配置（人数）

	生活デザイン 看護学	療養デザイン 看護学	基礎・専門 基礎科目他	保健師 科目	助産師 科目	養護 科目	計
教授	5	5	3	2	2	0	17
准教授	0	1	0	0	0	0	1
講師	4	5	0	1	1	0	11
助教	3	4	1	1	1	0	10
助手	1	0	0	0	0	0	1
計	13	15	4	4	4	0	40

表 2-3 平成 24 年度分野別教員配置（人数）

	生活デザイン 看護学	療養デザイン 看護学	基礎・専門 基礎科目他	保健師 科目	助産師 科目	養護 科目	計
教授	5	7	2	3	2	1	20
准教授	2	2	0	1	0	0	5
講師	3	5	1	2	1	0	12
助教	4	4	1	0	0	0	9
助手	0	0	0	0	0	0	0
計	15	18	4	5	3	1	46

表 2-4 平成 25 年度分野別教員配置（人数）

	生活デザイン 看護学	療養デザイン 看護学	基礎・専門 基礎科目他	保健師 科目	助産師 科目	養護 科目	計
教授	5	7	1	3	2	1	19
准教授	3	2	0	1	0	0	6
講師	4	6	1	2	1	0	14
助教	1	2	1	0	1	0	5
助手	1	0	0	0	0	0	1
計	15	17	4	5	5	1	45

【評価】

看護学は、学内における講義・演習だけでなく、臨地（病院・施設・保健所・学校）における学習が特徴である。そのため、本学科の教員は、直接臨地に赴き学生の実習指導にあたっている。実習施

設として附属病院を有さない本学科にとって、当該教育目標を到達するためには、現在の教員組織編成を欠いて成立することは不可能である。看護系大学の増設が目覚ましい昨今、教員の欠員があった場合には、大学当局の理解を得ながら、随時補充等を行いつつ、教育の質の維持を図っている。

【課題】

急激な看護系大学の設立に伴って、看護教員の大学間異動という看護界の課題がある。その課題は本学科にも通じるものであり、今後、本学科の特徴を生かすと共に、より一層の魅力的な教育の職場作り、組織作りに専念をする必要がある。

2.1.2 理学療法学科

【現状】

教員の投票により選出された学科主任（1年任期）が責任者となり、実際の運営の指揮を執っている。

本学科の教員組織体制について、開設時の就任予定者数は19名で、平成23年度まで1名の欠員が続いたが、平成24年度には当初の就任予定数を満たすことができた。この時の教員配置は、専任教員（教授）が第3種特任教員となったことを受け、その後任人事として教授1名が採用されたためである。また、この年度に助教1名の講師への昇任・昇格人事が承認されている。これにより、教育体制が確立され教育課程の充実が図られた。

しかし、学部完成年度を迎え、教育課程の充実を図ることにより教員の業務量が増加し、その中でも平成22年度より始まった国家試験対策にかなりの時間を費やす状況が出現した。平成24年度までどうにか教員による指導の下で国家試験対策を遂行してきたが、その対応も限界となり、平成25年度に学科専属の国家試験対策教員（第3種特任・助教）の採用が行われた（表2-5）。

表 2-5 教員配置(人数)

	教授	准教授	講師	助教	計
23年度	9 (1)	4	3	2	18
24年度	10 (2)	4	4	1	19
25年度	10 (2)	4	4	2 (1)	20

※（ ）は第3種特任教員数

(平成25年4月1日現在)

【評価】

教員数について、平成25年度には当初の就任予定者数を超える教員数となった。これは当初の教育課程において考えられなかった国家試験対策の想定外の業務量によるもので、このための専属教員を採用したためである。実際に、国家試験対策教員が採用され、この教員による指導が功を奏し、平成25年度の国家試験では98.2%という高い合格率が獲得できた。

教員数の充足は、教育課程の面においても充実をもたらした。当学科の講義形態は、特に基礎専門科目及び専門科目は実技演習も多く含まれることから、70名以上の学生を2グループに分けて開講しているが、これまで以上にきめ細やかな指導を行うことが可能となった。また、開設当時は教員の実績を考慮して、1科目に対し複数の教員によるオムニバス形式での講義が多くなっていた。これらの形態について、業務内容の煩雑さや教育責任の所在の明確さを問う意見が聞かれるようになった。今期、これらの課題の改善も含めてカリキュラムの検討が行われた結果、「人体の構造」「整形外科学」「内部障害学」「理学療法総合演習」に対して取得単位数を変えずに授業時間数の増加を図るとともに、各々の担当教員の指導領域を明確にすることができた。さらに教員の業務内容を整理することで、「リハビリテーション医学」「医学概論」「運動生理学」「運動学入門」「基礎運動療法学」「医療統計学」などの新科目の開講に結びつけることができた。

【課題】

教員数の充足はみられたものの、理学療法を修得するための基本となる「人体の生理機能」「神経内科学」「救急医学」などの科目は非常勤講師に頼らなくてはならない状況が続いている。理学療法の対象者は幅広く、内科学を中心に教授できる専任教員の存在は重要である。開設当初より就任していた当該領域を担当した教員が退職したことから、後任者の採用を強く望むところである。

2.2 教授会組織、役割等

【現状】

本学の教育研究事項の最高審議機関として位置づけられている学部教授会の学園組織における位置付けは、図2-1 学園組織機構図のとおりで、学部教授会規程に基づき執行されている。学部教授会では、学部の教育研究に係る事項、後述の第2章4に示す全学委員会から提出された事項、学部独自の委員会から提出された事項等の重要事項を審議する。議事進行及び議事内容の確認を行うため、学部長・両学科主任・議事提案委員・事務長による事前の会議を実施している。

学部教授会は1ヶ月に1～2回、水曜日15時から開催している。平成23年度は定例18回、臨時3回計21回、平成24年度は定例16回、臨時3回計19回、平成25年度は定例17回、臨時3回計20回開催した。

構成員は、学部長および教授(第1種特任教員を含む)・准教授・専任講師・助教で、必要に応じ第3種特任教員、助手他、構成員以外の者も出席している。

議事録の作成・保管は学部事務室で行っている。

学部教授会での決定事項のうち、大学評議会の審議事項に該当する事項に関しては全学的審議機関である大学評議会に提出され審議される。

表 2-6 平成 23・24・25 年度 学部教授会出席状況

年度	開催回数			欠席率 (%)			委任状提出率 (%)		
	23 年度	24 年度	25 年度	23 年度	24 年度	25 年度	23 年度	24 年度	25 年度
看護学科	21 回	19 回	20 回	3.8	5.5	10.0	16.2	15.8	13.7
理学療法学科				12.6	8.4	3.8	1.4	2.8	3.8

学部教授会の欠席率と委任状提出率は、表 2-6 のとおりである。

委任状制度を平成 20 年に策定し、運用している。これは、実習指導で学部教授会に出席できない教員が多い時期があるため、学部教授会を成立させるための学部独自の措置である。委任状は、平成 24 年度までは実習に関連する公務（実習指導・実習打合せ）が対象で、授業は対象とならなかった。専任教員の授業が学部教授会開催時間に極力重ならないように配置しているが、時間割の都合で動かせない場合があった。規程を改正し平成 25 年度から授業も委任状提出対象としたことで、欠席率の改善が見られた。理学療法学科教員 1 名が平成 23 年度に、看護学科教員 2 名が平成 25 年度に産休・育休を取得したため、欠席率が高くなっている。

平成 23 年度は通常の審議事項に加え、看護学研究科の平成 24 年度開設に向け、設置申請に伴う教育課程や教員人事、入学試験に関する事、研究科関連規程等の審議事項を、未設の研究科委員会の代替機関となり審議し、決定した。

この他に合同教授会が設置されている。通常、開催は学部教授会に先立って開催される。合同教授会では入学試験に関する事項と学部間の調整に関する事項を審議する。平成 23 年度は 15 回、平成 24 年度は 14 回、平成 25 年度は 15 回開催された。

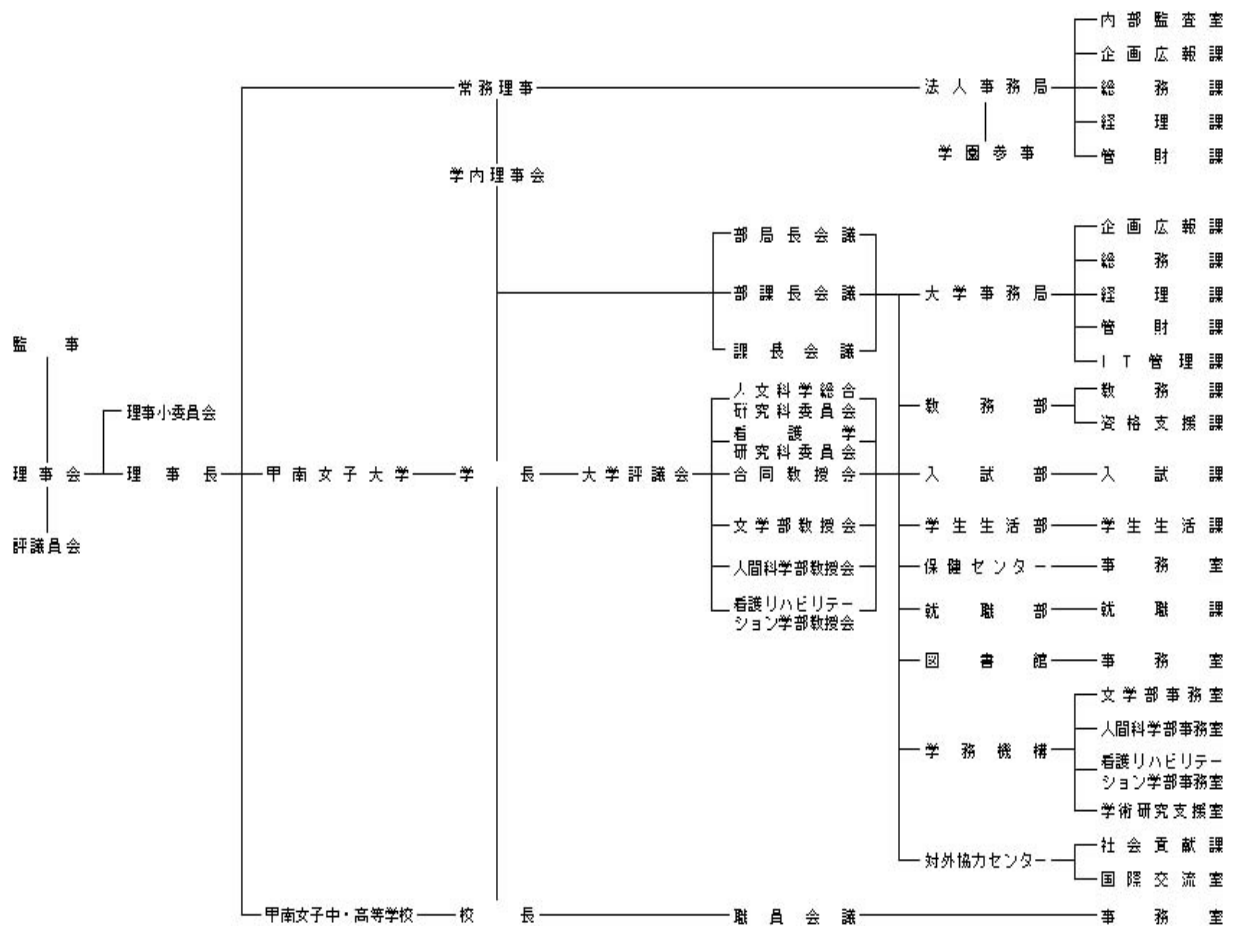
【評価】

学部教授会・合同教授会は学則上明確に規定されており、それぞれの目的にかなう活動が行われている。

平成 25 年度に規程を改正し、委任状の適応範囲を実習指導だけでなく授業にも拡大し、課題であった公務での欠席扱いの違いが解消できた。欠席者に対しては、学部教授会・合同教授会資料や議事録を速やかに配布し、情報伝達を行っている。

【課題】

委任状制度は整備されたが、学部教授会に出席できない状況を回避するのが本来である。実習指導体制や、授業の組み方を見直し、学部教授会や合同教授会に出席できる環境を整える必要がある。



平成25年4月1日現在

図2-1 甲南女子学園組織機構図

《学部教授会規程》

第1条 本学各学部に学部教授会を置く。

第2条 学部教授会は、当該学部長(以下単に「学部長」という。)及び当該学部の教授・准教授・専任の講師・助教をもって構成し、その3分の2以上の出席をもって成立する。ただし、内外研究員等長期出張者、休職中の者は、定足数に含めないものとする。

第3条 学部教授会は、次の事項について審議を行う。

- (1) 教員の人事に関する事項
- (2) 研究及び教育に関する事項
- (3) 教育課程に関する事項
- (4) 学生の入学、休学、復学、退学、転学及び再入学に関する事項
- (5) 聴講生、外国人特別生及び委託生に関する事項
- (6) 学生の試験及び卒業判定に関する事項
- (7) 学生の厚生補導及び賞罰に関する事項
- (8) 学則の当該学部に関する事項

(9) 自己点検・評価の実施及び第三者評価に関する事項

(10) 学部運営上の重要事項

(11) 大学評議員の選出に関する事項

(12) その他学部長が諮問する事項

第 4 条 学部教授会は、原則として毎月第 1 水曜日及び第 3 水曜日に開催する。

第 5 条 臨時の学部教授会は、次の場合に開催することができる。

(1) 学部長が必要と認めた場合

(2) 構成員の過半数が学部長に要請した場合

第 6 条 学部教授会は、学部長が招集し、その議長となる。ただし、学部長は、時宜により議長を指名することができる。

第 7 条 学部教授会に附議すべき議案及び報告事項は、所管部長が立案し、学部長の了承を得て学部事務長に提出し、学部事務長は、これを整理してあらかじめ全構成員に通知する。

2 緊急審議を要する議案は、議長が臨時に上程することができる。

第 8 条 議事は、出席者の過半数によって決する。可否同数のときは、議長の決するところによる。ただし、人事に関する事項については、出席者の無記名投票により、その 3 分の 2 以上の多数をもって議決する。

第 9 条 議長は、必要に応じて、会議の承認を得て構成員以外の者を出席させることができる。ただし、議決には参加させない。

第 10 条 学部長は、学部教授会における決定事項について、学長に報告するとともに、その他の関係機関に通知するものとする。

第 11 条 議事録は、学部事務長が作成し、学部長の確認を得て、次回の会議で承認を受けなければならない。

2 学部教授会の議事録は、各学部事務室において保管し、教授会構成員の請求があるときは、これを閲覧させなければならない。

第 12 条 この規程の改廃は、学部教授会の議を経て、合同教授会及び大学評議員会の議決による。

附 則

1 この規程は、平成 13 年 4 月 1 日から施行する。

2 甲南女子大学教授会規程(昭和 39 年 7 月 8 日制定)は、廃止する。

3 甲南女子大学短期大学部(以下「短期大学部」という。)が存続する間は、短期大学部教授会については、この規程を準用する。この場合において、「学部」とあるのは「短期大学部」と、「学部長」とあるのは「学長」と、「学部事務長」とあるのは「庶務課長」と、また、「学部事務室」とあるのは「庶務課」と読み替えるものとする。

附 則

この規程(改正)は、平成 19 年 4 月 4 日から施行し、平成 19 年 4 月 1 日から適用する。

2.3 学部運営

2.3.1 看護学科

【現状】

学科運営は責任者として学科主任（1年任期）を置き、看護学科会議により運営している。

学部の教育研究事項の最高審議機関である学部教授会へ提出する原案作成、あるいは学部長の諮問事項を審議するための各種委員会とは別に、学科主任の下で学科会議を開催している。本学科会議の目的は、学部教授会へ提出するための各種委員会の案件や看護学科人事案件などの重要事項の協議、さらに学科の効率的運営にある。

本学科会議の構成員は学科に所属する看護職である教員であり、原則として学部教授会のない週に開催している。平成23年度12回、平成24年度13回、平成25年度13回の開催であった。主な協議事項は、①専任教員および非常勤講師人事、②入学者選抜試験、③教務、④学生生活、④予算、⑤FD等に関する案件であった。

学科会議以外に、基礎看護学、老年看護学、在宅看護学、精神看護学、成人看護学、小児看護学、母性看護学、公衆衛生看護学、助産学の各領域で会議を開催している。また全学委員会の他に、開設当初より学部および学科独自の委員会を設置し、学科の教育研究運営にあたっている。なお教務委員会、実習委員会およびコア技術検討ワーキンググループは、各領域の代表者で構成している。

【評価】

本学科は、学科会議における協議結果を基盤としながら方針を決定し、その運営を行っている。学期の始まりなど時期によって会議時間の延長はあるものの、開催回数、時間などは特に問題はなく、妥当であると判断できる。

また、各領域における会議の検討内容や委員会活動を学科会議で共有することで、学科内における組織運営や教育方針のずれが生じることなく進めることができた。また、会議の議長である学科主任は、職階に拠らず学科運営に参画できるよう民主的な運営を心掛けていくことは引き続き必要である。

【課題】

看護系大学の増設に伴い、本学科においても看護教員の異動という課題がある。教育の質を維持する為には、現教員と新たに迎える教員との教育方針の共有や、課題の対策に一丸となって取り組む必要がある。そのための組織運営を、強化する必要がある。

2.3.2 理学療法学科

【現状】

学科運営は、学科会議においてその方針が決定される。会議の目的は、学科運営のかかわる課題をはじめ各委員会の担当委員からの提出議題を審議し、学科の円滑な運営を図ることにある。

会議は、水曜5限に定期開催している。開催回数は23年度29回、24年度29回、25年度27回で

あった。主な審議事項は、通常の学科運営に関する事項（教務関連、入試関連、学生生活関連、大学行事など）のほか、臨床実習成績判定や国家試験対策などの議題が多く検討されている。現在、特に懸案となる事項は、臨床実習においてドロップアウトを余儀なくされる学生の出現である。毎年、1～2名の学生が実習に対し精神的に不安定となり実習継続が困難となっている。各実習開始前には十分なオリエンテーションを実施し、必要時には個別の指導も行っているにもかかわらず、状況に変化がみられない。

その他の注目すべき事項では、中期計画・中期目標の一つである「理学療法学科の強化」への対応と、大学院設置のための研究活動の推進である。学科強化への対応として、まず受験者数の増加を図るため、オープンキャンパスの企画活性化や高校生への授業公開などを実施し、受験者数の維持につなげた。また女子大学における特色ある教育についても検討し、新たに「women's health」に関する教育を推進することを決定した。一方、教員の研究活動の推進については、十分な結果を得られていない。その原因の1つに、教員の教育活動に対するエフォート実績が高く（全体平均50%）、そのために研究活動に対応できていない。

【評価】

学科運営は年次計画の円滑な遂行により、順調に成果を獲得できていると考える。

まず、「理学療法学科の強化」の1つの課題であった受験生の確保について、今期3年間の入学合格者数が平均75名であったことから、効果的な対策による成果であると考え。また、当学科の最終目的は、理学療法士の育成であり、その成果は国家試験の合格率に表れる。今期の合格率は92.2%（平成23年度）、98.1%（平成24年度）、98.2%（平成25年度）であり、毎年、全国平均率を上回っていることから良好な学科運営の結果であると判断する。昨年度から採用された国家試験対策教員を中心に、今後もさらに努力し、100%を達成することが目標と考える。国家試験合格に引き続く就職活動については就職希望者に対し、これまで就職内定率100%を維持している。昨今の医療情勢により、昨年度は900件以上の募集情報が寄せられたことにも支えられているとはいえ、学生個人の希望内容と募集施設とのマッチング作業は、教員に想像以上の時間と労力を強いるものである。

さらなる成果は、動物実験室の活用が教員の研究活動や学生教育において実績を提示したことである。動物実験室については、学科開設後、本来使用予定であった担当教員の未就任のために、担当外の教員によって活用を図らなければならない状態が続いていた。しかし、開設4年目に動物研究を行う教員の採用が実現し、本格的な活用が開始された。その結果、これらの教員による研究活動や学生の卒業研究に役立てられ、動物実験室の有用性を示した。この状況は平成25年度の「学長との懇談会」の中で報告され、大学当局からも評価を得られた。

【課題】

- (1) 特に懸案となる事項は、臨床実習においてドロップアウトを余儀なくされる学生への対策である。毎年、1～2名の学生が実習に対する精神的不安定のために実習継続が困難となっている。

これらの学生の早期発見とその後の対応に関する検討が必要である。

- (2) 研究活動の推進について、教員の教育活動の現状を分析し、さらなる効率化を検討する必要がある。また同時に、研究活動に対する環境整備や協力体制の構築を行うことが必要である。

2.4 委員会組織・役割

【現状】

平成25年4月現在、本学の18の委員会の中で本学部は12の全学委員会に加え7の学部委員会で構成されている。各委員会の役割は表2-7と表2-8のとおりである。全学委員会の委員は、各学科から選出された1名が正式な構成員である。本学部では学外実習指導等で委員が委員会活動を行えない場合に備え、必要に応じ複数の教員を各委員会に充て、正式な委員が不在でも充実した委員会活動ができるようにしている。

表2-7 全学委員会

上段 平成23年度
中段 平成24年度
下段 平成25年度
(人数)

種類	役割	看護	理学
教務委員会	(1)教務(資格関係を含む)の実施上審議を要すべき事項に関し、学部教授会等に提出する原案を作成する。	6	3
	(2)教務(資格関係を含む)の実施上に関する学長の諮問事項について審議する。	9	2
	(3)教務(資格関係を含む)の実施に関して必要な事項を研究審議し、学長に進言する。	9	2
教職課程委員会	(1)教職課程の実施上審議を要すべき事項に関し、学部教授会等に提出する原案を作成する	1	—
	(2)教職課程の実施上に関する学長の諮問事項に関して審議する	2	—
	(3)教職課程の実施に関して必要な事項を研究審議し、学長へ進言する	2	—
入学試験委員会	(1)学生募集に関する計画	6	2
	(2)入学試験に関する大綱	7	2
	(3)『入学案内』等の学生募集に係る資料の作成に関する事項 (4)その他委員会が入学試験に関し、必要と認める事項	7	2
学生生活委員会	(1)学生指導の実施上審議を要すべき事項に関し、学部教授会等に提出する原案を作成する。	5	2
	(2)学生指導の実施上に関する学長の諮問事項について審議する。	7	2
	(3)学生指導の実施に関して必要な事項を研究審議	8	2

	し、学長に進言する。		
就職委員会	(1) 就職業務方針に関する事項	3	4
	(2) 就職の指導、斡旋に関する事項		
	(3) 求人開拓に関する事項	3	3
	(4) その他就職等に関する事項		
図書委員会	(5) 国家試験対策委員との連携（看護）	3	2
	(6) 就職試験について就職部と連携（看護）		
	(1) 図書費の予算及び決算に関する事項	2	3
	(2) 図書館の管理、運営及び事業計画等に関する事項		
国際交流委員会	(3) 前号に関して、特に学部教授会等の審議を要すべき重要事項については、審議のための原案を作成する。	3	2
	(4) 研究紀要及び大学院論集に関する事項		
	(1) 本学と諸外国の教育研究機関、政府あるいは非政府の諸組織等との学術及び文化交流に関すること。	3	2
	(2) 短期交換留学生の受入れ、募集、派遣、カリキュラム及び生活等に関すること。		
ハラスメント等 人権問題委員会	(3) 大学学則第 40 条及び第 41 条並びに大学院学則第 49 条に定める研究生、委託生及び外国人特別生の受入れに関すること。	7	2
	(4) 甲南女子大学認定留学生規程第 7 条第 2 項に定める認定留学生の選考、派遣、カリキュラム及び生活等に関すること。		
	(5) その他国際交流に関すること。	3	2
	(6) さらに、看護リハビリテーション学部内では、学部独自に設ける海外研修の計画立案、募集、実施に関する内容を行う役割をもつ。		
研究倫理委員会	学校法人甲南女子学園（以下「本学園」という）並びにその設置する甲南女子大学（以下「大学」という）及び甲南女子高等学校・中学校（以下「中高」という）におけるハラスメント等の人権侵害の防止及び排除のための措置（以下「ハラスメントの防止等」という）に関し必要な事項を定めることにより、本学園のすべての教職員及び学生・生徒が、個人として尊重され、ハラスメント等の人権侵害のない公正で安全な環境で就労・修学する機会と権利を保障することを目的とする。	1	2
		1	2
		1	2
動物実験委員会 〈平成 22 年 9 月制定〉	甲南女子大学の教員及び学生の人を対象とする研究計画申請書等について、「ヘルシンキ宣言」ならびに「疫学研究に関する倫理指針（厚生労働省）」の趣旨に沿う倫理的配慮を図ることを目的として、公平かつ中立的立場で審査を行う。	1	1
		1	1
		1	1
動物実験委員会 〈平成 22 年 9 月制定〉	(1) 本学教職員及び学生が行うヒト以外の動物を直接対象とする研究・実験並びにこれらの研究結果の公表（以下「動物実験等」という。）に対する倫理上の審査	-	2
		-	2
		-	2

	(2)前号の審査に当たって必要な事項		
FD・SD委員会 (平成23年度まで)	FD・SD委員会(平成23年度で終了) (1)FD(Faculty Development)に係る事項の研究調査、検討、実施及び評価に関すること。 (2)SD(Staff Development)に係る事項の研究調査、検討、実施及び評価に関すること。 (3)その他FD・SDに関し学長が諮問すること。	5	2
全学FD委員会 (平成24年度から)	全学FD委員会(平成24年度から) (1)全学的な教育改善のための施策に関する事項 (2)教員の職能開発に関する事項 (3)ワーキング・グループに関する事項 (4)その他委員会が必要と認めた事項	—	—
		1	—
		1	—
全学FD委員会学 科FD部会(平成 24年度から)	全学FD委員会の任務を遂行するために、各学科に共通する重要事項を協議し、また連絡調整を図ることを目的に、委員会のもとに、学科FD部会を置く。	—	—
		3	2
		3	2

表2-8 学部委員会

上段 平成23年度
中段 平成24年度
下段 平成25年度
(人数)

種類	役割	看護	理学
研究科設置 準備委員会	・看護学研究科：平成24年度開設。 ・理学療法学研究科：平成28年度設置に向けて準備中。 近年の医療とその関連技術の高度化に加え、高齢化や少子化の急速な進行や核家族化等による家族形態の変化、疾病構造の変化により今までになく多様化、複雑化している社会の中で、健康科学の理論と技術を統合し学際的なアプローチによって実践の場における問題を科学的に解決できる高度専門職業人の育成を図るための大学院の設置を目的とする。	10	3
		—	2
		—	2
自己点検・ 自己評価 委員会	教育・研究活動の向上を図ることを目的に、本学部の教育、研究、運営、社会活動の状況について自己点検評価を行う。これらの評価を行うことで、学部全体の教育力の活性化、向上及び教員の自己能力の開発、自己啓発を目指すものである。	5	2
		4	2
		3	2
臨地臨床実 習委員会 (看護学科)	(1)臨地実習の教育方針及び教育課程に関すること (2)臨地実習の運営に関すること (3)臨地実習の指導体制の整備に関すること (4)臨地実習に関する規定の制定及び改廃に関すること (5)その他臨地実習の実施及び運営に関し必要なこと	10	—
		11	—
		11	—
臨地臨床実 習委員会 (理学療法 学科)	(1)理学療法学科において行われる臨床実習(臨床実習Ⅰ、地域理学療法実習、臨床実習Ⅱ、総合臨床実習Ⅰ、総合臨床実習Ⅱ)の計画立案、実施に関すること。 (2)臨床実習施設の確保に関すること	—	6
		—	5

	(3)臨床実習施設への実習依頼、契約、調整に関すること (4)臨床実習における宿泊施設の確保、契約、宿泊施設使用料の集金に関すること (5)臨床実習中の問題解決に関すること	-	5
ホームページ委員会 (看護学科)	(1)ホームページ(看護学科オリジナルサイト)の企画と製作 (2)学生の成長記録の撮影・保管、および授業・演習・イベント等の写真撮影	3	-
		2	-
		1	-
ホームページ委員会 (理学療法学科)	(1)ホームページ(理学療法学科オリジナルサイト)の企画と製作 (2)学生の成長記録の撮影・保管、および授業・演習・イベント等の写真撮影 (3)入試等学科関連パンフレットの企画、校正 (4)学科PR活動の企画、実施	-	2
		-	2
		-	2
国家試験対策委員会	国家試験対策委員会は①国家試験合格に向けた学習支援、②4年間の学習プロセスにおける学生の主体性、論理及び分析力の向上、③学習仲間及びアドバイザー教員との信頼関係を基礎とする学習継続の喜び体験の実現を目的としている。 (1)国家試験対策に関する企画運営 (2)国家試験対策に関する学生指導の検討及び実施 (3)その他国家試験に関すること	3	5
		4	5
		4	3
コモングルーム委員(看護学科)	(1)看護学科コモングルームの運用について、学生と共に協議していく。 (2)コモングルームの利用状況などの点検を行う。 (3)コモングルームの利用・コモングルーム図書取り扱いについて、学生の相談役となる。	5	-
		7	-
		2	-
コモングルーム委員(理学療法学科)	(1)CR運営状況の監督及び提言 (2)学生委員会への立ち会い (3)学生委員の招集アナウンス (4)徴収運営費の管理 (5)その他学生生活動(学園祭や授業準備)に関する監督および提言	-	2
		-	2
		-	2
予算委員会	看護リハビリテーション学部の教育・運営計画及び予算案編成に関する事業計画等を審議する。	4	3
		3	3
		3	3

このほか、本学部の教員は構成員ではないが、平成25年度に設置された「甲南女子大学保健センター管理運営委員会」では、次のことが審議される。

- (1) 学生及び教職員の保健管理及び安全管理に関する事項
- (2) 保健管理に関する学長の諮問事項
- (3) 運営予算及び施設の改善等に関する事項
- (4) 学生相談に関する事項

(5) その他委員会が必要と認める事項

【評価】

1) 看護学科

本学科は開設されて7年が経ち、委員会の役割は定着し、その内容も個々の教員に理解されてきた。そのため随時、人数・教員配置を変更しながら各委員会を見直す試みを行ってきた。中でも、教員の教育力向上に関しては、積極的な取り組みがあった。

看護学教育の中核となる臨地臨床実習委員会では、学年進度に合わせた実習における学生支援について検討を行っており、学科FDとして拡大しながら教育力向上のために貢献した。また、教務委員会は、平成24年度に「学士課程におけるコアとなる看護実践能力」、「当学科のディプロマポリシー等」、「看護師・保健師・助産師教育の基本的考え方」をもとに、全教員によって専門科目の内容、目標達成度などを評価した。さらに、学科内でFD委員会と共催による研修会を行い、教育目標の設定・教育方法・教育力・教育環境など様々な視点から専門科目の見直しを行い、現行カリキュラムによる教育効果と今後の課題を共有することができた。それらをもとに、ワーキンググループを立ち上げ、新カリキュラム構築へと繋げている。FD委員会では、大学院におけるFDと併せて、「看護教育と人間観」をテーマとした講演会を実施した。これらは、看護学の根本となる「いのち」や「人間」の捉え方について考えを深め、看護の意味や看護教育について再考する機会となっていた。

また、学生への教育的支援において、国家試験対策委員会は、アドバイザー教員と一丸となって、その学年に合わせたサポートを工夫し、合格率100%を維持するための努力を行っている。

このように各教員は、委員会活動をとおして、課題を見出しながら解決に向けた取り組みを行うことで、教員としての能力の幅を広げ役割遂行を行っている。以上の教員の活動が、学科の教育の充実へと連関し、効果的な学科運営が可能となった。

2) 理学療法学科

今期は、学科創設5～7年となり学科事業も次第に落ち着きつつあったことや、各教員が多数の委員会を担当していたことで業務分担の負担も大きかったことから、委員会の活動状況を検討したうえで、委員会担当者数の削減を図った。担当者の削減が可能となった委員会は、教務、就職、図書、研究科設置準備、臨床実習および国家試験対策の各委員会である。その結果、平成23年度の担当委員数は平均3.4であったが、平成25年度には平均2.9となり、各教員の業務の軽減を達成することができた。

教務委員会は、平成23年度から新カリキュラムに移行した結果として、専門基礎科目及び専門科目に対する学生の学力向上が進みつつあることを報告している。就職委員会は、毎年、5,000か所以上の各病院・施設への求人依頼を行い、800件を超える求人票の獲得を達成している。その結果、卒業見込み者の内定率はほぼ100%を維持している。臨床実習委員会では、実習施設の拡大および関係強化の方針のもと、大学病院を含む10施設以上の医療施設と新たな実習施設契約を結ぶことができた。

さらに、国家試験対策委員会は、平成 25 年度から国家試験対策の専任教員が採用されたことにより、学内試験や模擬試験の年間計画のもと支援活動を実施している。個別的な面談や学習方法に関する介入、アドバイザー教員との各試験成績に関する情報の共有化などを行った結果、高い合格率を維持することができている（平成 23 年度 92.2%、平成 24 年度 98.1%、平成 25 年度 98.2%）。その他、担当者数の変動がなかったものの、入試委員会ではオープンキャンパスにおける多くの企画を展開し、さらに授業公開も実施した結果、各年 120%以上の入学者を迎え入れることができた。

これらの結果から、学科の方針に基づき各委員会活動が活発に行われたことによって、学科運営が順調に遂行できたと考える。

【課題】

1) 看護学科

委員会の組織構成において、公平性が重要であることは前提である。しかし、その役割と内容によって、教員負担の差があることは否めない。その解決の糸口として、教員の運営における力量を総じて上げていけるような組織的な取り組みが必要である。

2) 理学療法学科

今期、活動結果を明確に示されなかった委員会がある。研究科設置準備委員会である。当初、平成 24 年度に向けて文部科学省へ研究科設置申請を行う計画を立てた。しかし、専任教員の準備が思うように進まず、平成 28 年度まで設置計画を遅延せざるを得なくなった。日頃より、担当委員から各教員に対し学位取得状況や研究の進捗状況を聴取して、意識高揚を促していたが、学生への指導・教育や学科業務の繁忙さから、研究活動が十分に行われていない状況が伺われた。今後の対策が必要である。

2.5 事務組織・役割

【現状】

1) 本学の事務組織

大学及び大学院の事務組織は、学長の下に大学事務局・教務部・入試部・学生生活部・保健センター（平成 25 年度開設）・就職部・図書館・学務機構・対外協力センターがあり、構成は図 2-2 大学・大学院事務組織のとおりである。学部事務室の事務分掌は、事項に事務分掌（学部事務室）を示す。

2) 学部事務室の役割

学部事務室の役割は、大学や学部・大学院の教育理念に基づき当該学部生及び大学院生を教員とともに教育指導し、学術研究を支援することである。

学部運営に関する事項について、事務長は学部長と毎日打合せをし、大学内外の業務を円滑に進行させている。

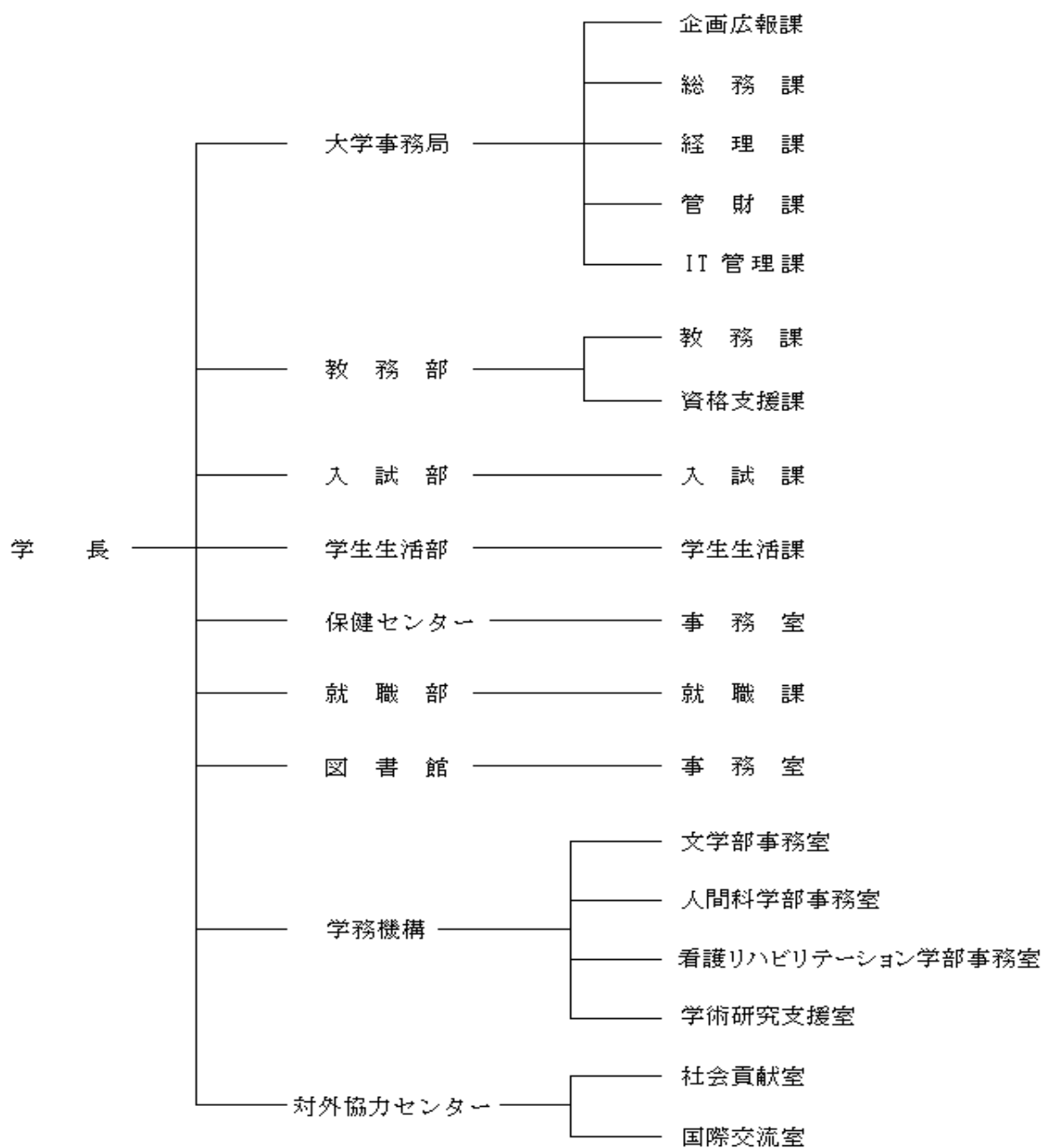


図 2-2 大学・大学院事務組織<平成 25 年 3 月 21 日>

《事務分掌 (学部事務室)》

<最近改正 平成 25 年 4 月 1 日>

(学部事務室)

第 32 条 各学部(以下この条において「学部」という。)の学部事務室においては、次の事務を掌る。

- (1) 学部長の公印の管守に関する事。
- (2) 学部運営の事務に関する事。
- (3) 学部長の秘書事務に関する事。
- (4) 学部及び大学院に係る諸規程に関する事。

- (5) 学部教授会及び大学院研究科委員会に関すること。
- (6) 学部事務室及び学部のコモンルーム等の管理に関すること。
- (7) 学部事務室及び学部のコモンルームの機器・備品の保守及び管理に関すること。
- (8) 学部の個人研究費、実験実習費に関すること。
- (9) 学部の教員の出張に関すること。
- (10) 学部の教員に係る内外研究員の事務に関すること。
- (11) 学部の非常勤講師の出講依頼に関すること。
- (12) 学部の自己点検・評価及び第三者評価の実施に関すること。
- (13) その他学部の運営及び教育研究活動に必要な事務に関すること。

3) 学部事務室の職員構成

平成 23 年度の職員構成は、事務長 1 名、事務長補佐 1 名、主任 1 名、書記 1 名の専任職員 4 名及び臨時職員 1 名の 5 名であった。

平成 24 年度は平成 23 年度の職員構成に加え、4 月の看護学研究科新設に伴い、アルバイト職員 1 名の追加配置があった。これは、夜間にも授業がある看護学研究科院生対応、21 時まで開館延長になった図書館のカウンター業務、及びスクールバスに代わる乗合タクシー手続対応のため、16 時 45 分から 17 時 50 分までは学部事務室で業務し、21 時まで及び土曜日は図書館カウンターで業務を行った。本学部の業務を理解してもらうため、4 月から 9 月までは学部事務室所属であったが、10 月からは図書館での業務のみとなり所属も図書館に変更になった。3 月末に主任が他部署に異動となった。

平成 25 年 4 月に主任 1 名の補充配置があった。同月、3 年間臨時職員として従事していた職員が専任職員（書記）に任用替えになった。5 月には有休取得の書記が復帰し、専任 6 名体制となった。平成 26 年 2 月に主任 1 名の異動があり、平成 25 年度末の構成員は事務長 1 名・事務長補佐 1 名・書記 3 名の専任職員 5 名となった。

4) 学部事務室の業務分担

平成 23・24 年度は、事務長は学部事務室全体の運営、特に学部教授会・人事委員会の運営、就職（求人施設への対応）・関係部署との調整等を、事務長補佐は国家試験関連業務、各種調査・申請対応、各種書類確認、実習施設との連絡調整等を、主任は総務・教務・調査回答・申請書類等・入試・感染症対応を、書記は経理・管財・IT 関連・図書メディアを、臨時職員は実習関連（変更申請書類作成および実習施設・担当教員との連絡）を担当した。平成 24 年度以降は、看護学研究科が新設されたため、それまでの業務に加え、研究科委員会・教員資格審査委員会の運営、教務補助、研究科実習関連業務、研究科予算管理などを担当し、関係教員と連携して各種業務に対応した。平成 25 年度は、これまで一人で対応していた業務をできるだけ複数で対応し、担当者不在時や異動時にスムーズに業務が遂行できるように分担を一部変更した。

5) 学部事務室の主な業務と現状

(1) 教育に関すること

①看護学研究科設置に関する業務

平成 23 年 5 月に設置申請を行い、10 月に設置の認可を受けた。

前年度に作成した看護リハビリテーション研究科設置申請書類を基に、看護学研究科の文部科学省への設置申請書類の学部事務室担当部分（主に教員の個人調書（「履歴書・教育研究業績書）及び授業科目に関する書類）の作成を行った。また、看護学研究科開設に伴い、学内で調整が必要な事案（夜間の授業（18 時～21 時 10 分）実施のための非常勤講師や教室設備対応、図書館（平日 21 時まで開館延長、土曜日開館）など）について、看護学研究科設置準備打合せ会議を開催し、各部署との調整を実施した。

看護学研究科を運営するに当たり必要な規程や申合せを、教員と検討し、策定した。

②カリキュラム変更に伴う文部科学省への変更承認申請

文部科学省は、平成 23 年度から保健師選択制の導入を認める方針を打ち出した。平成 18 年度文部科学省への申請で保健師選択制を構想していた本学部は、検討の結果、平成 23 年度からの選択制導入を決め、平成 22 年度に申請・承認を受け、平成 23 年度から保健師選択制を導入した。ところが、保健師選択制の導入について、平成 24 年度用に策定した新たな基準で申請するよう文部科学省から指示があったため、平成 23 年 10 月に文部科学省に再度申請を行い、1 月に承認を得た。合わせて、助産師のカリキュラム変更を申請し承認を得た。

③専門看護師教育課程申請に関する業務

看護学研究科の教育目的の一つである専門看護師の育成のため、平成 25 年 7 月に日本看護系大学協議会にがん看護学分野と老年看護学分野（各 26 単位）の専門看護師教育課程申請を行った際、教員の個人調書に関する書類及び申請書類の取りまとめ等を担当した。

④教員変更に伴う業務

毎年 5 月に開催される大学評議会で承認を得た人事案件について、人事委員会を立ち上げ、募集条件決定・審議・面接を行い学部教授会での投票を経て決定していく。当初予定されていた案件以外にも、さまざまな事情で新たな人事案件が起こり、迅速に対応している。

新規採用の求人は、研究者人材データベース JREC-IN への登録や大学ホームページ上で公募した。

産休・育休代替の教員は第 3 種特任教員（1 年契約）として採用されている。

平成 24 年新規採用人事（看護学科 7 件、理学療法学科 1 件、他 1 件）、昇任人事（看護学科 1 件、理学療法学科 1 件）。

平成 25 年度新規採用人事（看護学科 10 件、理学療法学科 1 件）第 3 種特任教員継続人事（看護学科 1 件）、昇任人事（看護学科 1 件）

平成 26 年度新規採用人事（看護学科 6 件、理学療法学科 3 件）。この他、看護学科の実習助手（23 年度 5 名 24 年度 2 名 25 年度 7 名）の採用及び勤務に関する業務を行った。

⑤実習施設追加・変更に伴う文部科学省への追加変更申請

平成 23 年度は看護学科 5 件、理学療法学科 14 件、平成 24 年度は看護学科 10 件、理学療法学科 11 件、平成 25 年度は看護学科 16 件、理学療法学科 17 件を文部科学省に追加申請し、すべて実習施設として承認され、全実習施設は、看護学科 146 件、理学療法学科 288 件となった。教員は積極的に実習施設確保に動き、事務室は教員から連絡を受けた各施設と細部の打ち合わせを行うため何度も連絡をとり、文部科学省への提出書類や契約書類等を作成した。

⑥実習先確保のための、資料作成・送付

理学療法学科の実習受入に関するアンケート送付件数は、平成 23 年度 156 件、平成 24 年度 179 件、平成 25 年度 163 件であった。

⑦実習施設との関連書類作成・送付

実習先へ送付した依頼・契約書数は看護学科が平成 23 年度 87 件、平成 24 年度 85 件、平成 25 年度 99 件、理学療法学科は平成 23 年度 270 件、平成 24 年度 244 件、平成 25 年度 262 件であった。

⑧実習後の謝礼金支払処理数

実習後の謝礼金支払処理件数は、看護学科が平成 23 年度 76 件、平成 24 年度 82 件、平成 25 年度 93 件、理学療法学科は平成 23 年度 257 件、平成 24 年度 231 件、平成 25 年度 249 件であった。

⑨病院奨学金貸与施設との交渉・調整

毎年 4 月のオリエンテーション時に、約 8 施設の病院が学内で主に看護学科新生を対象とした病院奨学金説明会を開催している。その調整は、学生生活課が行い、奨学金貸与病院と病院奨学金受給希望学生の連絡調整を実施。学部事務室は調整の補助及び 4 年生の受給先と就職内定先を確認し、相違のある学生がいた場合、必要に応じ教員への連絡を行い、トラブルにならないように対応している。

近年の社会状況で産科を閉鎖する病院があり、助産師として就職を希望し奨学金を受給していた学生がやむなく他病院に就職するという例がみられた。

⑩試験に関する措置

学部事務室は、教務課から教員への連絡事項等の窓口になるとともに、単位認定試験の事前調査・日程調整・教室確保・試験問題印刷及び受渡・学生への受験手続指導等の業務を行っている。全学で行っていた再試験制度は、平成 23 年度からは本学部のみでの実施となり、申合せを作成し運用している。

⑪帰宅時の安全確保(乗合タクシー制度整備)

学生の安全のため、20 時までには下校することを大学の方針としていたが、看護リハビリテーション学部生が実習や国家試験を控えた時期、20 時を過ぎても下校しない状態が続いていた。

学生だけでなく保証人からの要望もあり下校時間を繰り下げたが、近隣住民との関係などで 19 時 20 分以降のスクールバスの運行ができず、学生の安全確保のため、平成 21 年 12 月から看護リハビリテーション学部の学生を対象に、乗合タクシー制度の試行を開始した。事前に申し込んだ学生は、大学からタクシーチケット (1,000 円) を受け取り、21 時にタクシーで本学のスクールバスターミナル (JR 摂津本山駅・阪急岡本駅中間地点) まで利用できる。タクシーに関する手続きは、学部事

務室で行っていた。この制度は平成 23 年度まで続いた。

平成 24 年度の看護学研究科開設時に図書館開館時間が 21 時まで延長になったこともあり、乗合タクシー制度の対象者を平成 24 年度から 21 時まで図書館を利用しているすべての学生に広げ、その手続きは、図書館カウンターで行うことになった。

乗合タクシー利用者数及びタクシーの台数は、平成 23 年度は 455 名 148 台（うち看護学科 16 名、理学療法学科 439 名）、全学生対象となった平成 24 年度は 1,674 名 492 台（うち看護学科 903 名、理学療法学科 536 名）、平成 25 年度は 2,307 名 646 台（うち看護学科 1,212 名、理学療法学科 752 名）であった。

(2) 学生支援に関すること

① 国家試験

国家試験受験関連の一連の業務は次のとおりである。

- ・ 6 月 厚生労働省へ国家試験受験予定者数の申請。
- ・ 10 月 学生への国家試験受験手続き説明会開催。
- ・ 11 月 国家試験受験書類作成指導。
- ・ 12 月 近畿厚生局へ国家試験受験書類提出。
- ・ 2 月 国家試験受験留意事項について説明会および免許申請手続きの説明会開催。
- ・ 2 月第 3 週 木曜日（助産師）・金曜日（保健師）・日曜日（看護師）国家試験日
- ・ 2 月第 4 週 日曜日 理学療法士国家試験日
- ・ 3 月 近畿厚生局へ修業証明書等提出。

国家試験対策担当教員と学部事務室協力の下、学生の国家試験受験支援を行っている。平成 23 年度は前年度合格しなかった学生、保健師国家試験を受験しなかった学生への対応を行った。

この経験をもとに、平成 24 年度には「甲南女子大学看護リハビリテーション学部卒業者国家試験支援に関する申合せ」を策定し、平成 25 年度から施行した。

② 就職対策

病院看護職員の配置を患者 7 名に対し看護師 1 名の体制をとる（とりたい）施設が多い状況が続いており、看護師を確保したい病院や施設関係者の求人依頼来訪が平成 23 年度は 90 件、平成 24 年度は 95 件、平成 25 年度は 81 件（理学療法学科の求人も含む）あった。主に就職課職員と事務室職員で対応した。

「求人来訪者リスト」を作成し、グループウェア“サイボウズ”（LAN を活用して情報共有やコミュニケーションの効率化を図り、グループによる協調作業を支援するソフトウェア。その主な機能はスケジューラ機能・学内メール機能・掲示板機能・文書を共有するファイル管理機能を有している）の「ファイル管理」にアップし、就職委員や学部全教員と求人情報が共有できるようにした。リストの備考欄には、面談中の特記事項と、すでに本学部から就職者がいる場合は、その情報も記載している。

学生の就職に役立つ情報を得るとともに、来訪施設が看護師教育に熱心な場合は、専門看護師の教育課程を持つ看護学研究科の紹介を行っている。また、実習施設確保につながる場合もある。就職課では、各施設から送付や持参される資料を就職課の資料閲覧室に施設ごとにファイルし、地域で区分された棚に設置し、いつでも学生が閲覧できるように配架している。また、大学のキャンパススクウェア（WEB上の学生用連絡ツール）からも本学にきた求人情報が確認できる。この情報は、就職課職員が求人票を基に常に更新している。

③感染症対策

学生は臨地臨床実習に備え、感染症対策としてツベルクリン反応検査や小児感染症（水痘・流行性耳下腺炎・風疹・麻疹）やHBs抗原検査・HBs抗体検査・HCV抗体検査を受けている。

看護学科、理学療法学科の1年次生に対するツベルクリン反応検査実施について、平成23・24年度は両学科の学生生活委員と事務室職員で打合せを行った。平成25年度は保健室が保健センターへ組織変更されたことから、平成26年度以降はツベルクリン反応検査の主管を移行することを前提に保健センター職員も加わり打合せを行った。検査は1号館1階実習室で、兵庫県予防医学協会職員が実施した。事務室は準備及び当日の受付補助などを行った。

現在、小児感染症や肝炎検査については、学生が入学前に個別に医療機関で受け、その結果を大学に提出している。毎年医師や学生、保証人から検査の必要性や検査方法についての問い合わせがあるため、入学後、保健センターで一斉に実施することを検討している。これにより、学生が負担している1万円を超える検査費用を軽減できる。

平成23年度に実習病院で結核の疑いのある患者と実習学生の接触が疑われた。学生は大学生生活協同組合の学生賠償保険に加入していたが、生協の初期対応がうまく機能せず、担当教員と連絡を取りながら、学部事務室が調整を行った。

④海外研修

各学科国際交流委員が中心となりプログラムを実施しており、学部事務室は参加希望者の受付及び名簿等の作成を行っている。

(3) 教員支援に関すること

①新任教員オリエンテーション

毎年4月1日の入学宣誓式及び新入生との行事の合間を縫って、新任教員全員にオリエンテーションを実施している。学部長から大学の歴史や本学部の設置の趣旨と教育課程の特色、教員の質向上について、各委員会について、その他本学の教育と研究について説明を行った。総務課長と事務長で総務・教務・管財等の学内での事務手続きに関する説明及び“サイボウズ”の説明を行った。

②文書処理

文部科学省や各種団体・施設からの公文書は、平成23年度は434件、平成24年度は467件、平成25年度は525件を受け付けた。

学部事務室は、教員の出張に伴う書類、非常勤講師依頼書類、大学への各種届出書類など、ほと

んどの提出書類の窓口となっている。書類に関する問い合わせや、記載事項の確認等の対応を行った。

③スケジュール管理

毎年3月下旬から4月及び9月の前・後期セメスター開始前後に、授業や出張等、学部教員の公的な予定は事務室職員がサイボウズの各教員の予定表に入力し、教員の動きを誰でも把握できるようにしている。

教員の授業日時と使用教室をリンクさせる入力作業は、1時間の授業を複数の教員で担当する場合やオムニバス授業、教室以外にも実習室を複数使用する場合が頻繁にあるため大変複雑であるが、これを元に時間割変更や教室確保がなされるため、事務室の教務担当職員が慎重かつ迅速に対応している。

④教員の保険

実習指導中の事故等に対応するため、希望教員には日本看護学校協議会共済会の総合補償制度「Will」への保険加入手続きを事務室が一括して行っている。平成23年度29人、平成24年度33人、平成25年度29人の看護学科教員が加入した。

(4) 研究支援に関すること

①科学研究費申請

科学研究費や外部助成金申請の事務は、学術研究支援室で全学的に集約している。

学術研究支援室は、科学研究費以外の外部資金研究募集の情報について書類とサイボウズで教員に随時紹介し、申請の手続きや予算執行を補助している。

平成25年9月4日(水)に、研究活動の活性化と外部研究費の獲得数を増やすため、本学部教員が学術研究支援室と連携し全学教員対象に、「文章作成の決まりごとをクリアする」というテーマで説明会を行った。

②科学研究費申請・獲得状況

学術研究支援室が取りまとめを行っている。平成23～25年度の獲得状況は次の表2-9の通りとなっている。

(5) 地域貢献に関すること

平成22年度まで各学科で実施していた公開講座も、完成年度を迎え全学年がそろった後、国家試験対策をはじめとする学生へのきめ細やかな対応及び研究が中心となり、公開講座はこれまでのように開催されていない。

表 2-9 競争的資金獲得状況（複数回答）（件）

	(第3種特任教員及び休業者を除く)																	
	平成23年度						平成24年度						平成25年度					
	計		看護		理学		計		看護		理学		計		看護		理学	
n=52	%	n=36	%	n=16		n=52	%	n=35	%	n=17		n=48	%	n=31	%	n=17		
科研費/ 厚生労働科研費 代表者 申請	15	30.6	11	25	4	6	8.6	3	17.6	3	11	22.6	7	23.5	4			
科研費/ 厚生労働科研費 代表 採択	7	16.7	6	6.25	1	4	8.6	3	5.9	1	2	3.2	1	5.9	1			
科研費/ 厚生労働科研費 代表 継続	5	11.1	4	6.25	1	8	17.1	6	11.8	2	6	16.1	5	5.9	1			
受託研究 代表 申請	1	0.0	0	6.25	1	2	0.0	0	11.8	2	0	0.0	0	0.0	0			
受託研究 採択	1	0.0	0	6.25	1	2	0.0	0	11.8	2	0	0.0	0	0.0	0			

(6) 規程に関すること

次の規程・内規・申合せを、教員及び関連部署と調整のうえ制定・改正した。

<平成 23 年度>

『看護リハビリテーション学部の専任教員採用に関する申合せ』 平成 23 年 6 月 8 日制定

専任教員採用に関する学部での一連の過程を申合せとし、制定する。

『甲南女子大学大学院看護学研究科研究奨励金規程』 平成 23 年 10 月 26 日制定

研究奨励を目的とし、その研究費を給付する。返還義務はない。

『甲南女子大学大学院看護学研究科研究指導内規』 平成 23 年 12 月 7 日制定

看護学研究科における研究指導内容について基準を制定。

『甲南女子大学大学院看護学研究科個別の入学資格審査に関する申合せ』

平成 24 年 1 月 18 日制定

看護学研究科における入学資格審査の基準を制定。

『甲南女子大学大学院看護学研究科長期履修制度規程』 平成 24 年 2 月 8 日制定

職業を有している等の理由により、当該課程を 2 年間で修了することが困難な状況にあるものに対し、3 年間の長期履修を認める規定。

<平成 24 年度>

『修士論文の審査基準及び実施に関する申合せ』 平成 24 年 11 月 14 日改正

中間発表の方法や論文審査結果要旨の記載内容について、改正。

『甲南女子大学学部教授会規程第 2 条の看護リハビリテーション学部教授会に係る取扱内規』

平成 25 年 3 月 27 日改正

学部教授会の委任状提出対象者を実習指導関連での欠席者に加え、授業の場合も認める。

『大学院研究科委員会規程第 2 条の看護学研究科委員会に係る取扱内規』

平成 25 年 3 月 27 日制定

『甲南女子大学看護リハビリテーション学部卒業生国家試験支援に関する申合せ』

平成 25 年 3 月 27 日制定

看護リハビリテーション学部卒業生の国家試験受験支援対象者及び支援内容等を明確にした。

<平成 25 年度>

『甲南女子大学教員選考規程第 4 条第 2 項の看護リハビリテーション学部に係る申合せ』

平成 25 年 5 月 15 日改正

看護リハビリテーション学部教員選考をより円滑に実施するために、人事委員会構成員職位の一部を改正

『甲南女子大学大学院看護学研究科長期履修制度規程』一部改正 平成 25 年 9 月 25 日改正

長期履修学生の適用取り止めの申請時期の変更

『大学院研究科委員会規程第 2 条第 1 項の看護学研究科委員会に関する申合せ』

平成 26 年 2 月 5 日制定

看護学研究科の教育の質を高め、運営を充実させるため、研究科委員長が認めた場合、第 3 種特任教員を加えて構成できる。

(7) 施設・設備に関すること

平成 24 年度看護学研究科開設に伴い、1 号館 5 階の看護学専攻院生研究室では 16 名分の机、椅子、ロッカーの設置とともに、研究活動を促進するための PC10 台（統計解析ソフト SPSS 使用できる端末あり）、プリンター 1 台に加え、研究活動の資料等を保管するための保管庫等も設置した。また、談話スペースにも院生 16 人が一度に利用できる机(4 脚)と椅子 16 脚を設置したほか、冷蔵庫や給水設備も設置し、院生の意見交換や交流、また時には研究活動の休息の場として活用できるようにした。

図書館では、看護学研究科の資料として、平成 23 年度年度に専門図書 689 冊（うち外国書 124 冊）を新たに購入して、2014 年現在、看護学研究科用図書は 16,705 冊（うち外国書 1,693 冊）を所蔵。既存の共用図書（図書約 444,800 冊（うち外国書約 177,000 冊）、学術雑誌 5,377 種（うち外国書約 1,079 種）、視聴覚資料のマイクロフィルム・マルチメディア図書等約 8,300 点（うち外国書約 2,400 点）とあわせて、教育研究を行う上で十分な冊数・種類の蔵書がある。

既存のデータベースに加え、看護学研究科における学習研究のため、「医中誌 Web」「メディカルオンライン」の同時アクセス数を増加し、新たに「CINAHL Plus with Full Text」を加え、「ライブラリー・プラス」を追加した。これらデータベース利用は学内からのアクセスのみとなるが、全学学生及び教職員が利用できる。「医中誌 Web」の平成 24 年度の検索利用件数 15,337 件、「メディカルオンライン」の利用件数は 4,355 件、「CINAHL Plus with Full Text」は 2,258 件であった。アクセス数を増やしたこともあり、利用数が増加している。

(8) 研究科設置に関すること

平成 23 年度開設を目指していた看護リハビリテーション研究科の申請を 22 年 10 月に正式に取り下げた。その後、看護学研究科として平成 24 年度開設を目指し、平成 23 年度に新研究科設置委員会（学長を委員長とし、研究科設置担当教員や企画広報課、学部事務室及び全学の関係者で構成）を立ちあげ、申請に向けてそれぞれの役割を担い、5 月に申請、10 月に認可された。

学部事務室は、前回に引き続き、新研究科の教員の個人調書（履歴書・教育研究業績書）の作成を中心に、関連書類の作成を担当した。

(9) 予算執行

教員の研究を支援するため、研究助成金として科学研究申請以外で不採択になった教員に 1 人当たり 10 万円を学部長裁量経費から割り当てた（平成 23 年度 0 人、平成 24 年度 1 人、平成 25 年度 2 人）。

科学研究申請で不採択になった研究については、平成 22 年度から学長裁量経費で 20 万円を上限とした助成が行われている。

(10)3 学部事務室間の連絡強化

入学宣誓式後の新入生・保証人の各学部会場への円滑な移動をはじめとし、ティーチングアシスタント確保、大学全体の調査に対する回答、情報共有等、連絡・調整を行った。

【評価】

平成 22 年度に学部の完成年度を迎えた後、引き続き大学院設置関連の業務に対応してきた。学部の教員や学生への日々の対応に加え、この 3 年間、毎年文部科学省に定員数やカリキュラムの変更申請を行った。また、看護学研究科設置準備、看護学研究科運営と、新しいことの連続であった。看護学研究科開設後増加している学部事務室の業務は、教員や他部署とも十分な連携をはかり、専任職員がこれまでの経験を生かし対応できた。

「保健センター」が平成 25 年度に新設された。それまでの「保健室」は、学生生活部学生生活課の管理運営のもとに業務を行っており、従前に対処できなかった業務を積極的に実施する方向で動いている。これまで各自で入学前に行っていた実習に必要な感染症等の各種検査を大学内で実施できるよう検討が始まっており、学生にとって大変有益なことである。

【課題】

毎年のように文部科学省へ学生数やカリキュラムの変更申請を行う状況は、事務室職員だけでなく、教員にも大変な負荷がかかっている。看護学科の場合、4 学年の中で 3 種類のカリキュラムが動いていることは煩雑であり、学生にとっても不利が生じる場合がある。文部科学省からの通達や大学の方針、学科の教育の質を向上させるためのものではあるが、長期展望のもと、計画性が必要である。

2.6 予算

【現状】

平成 25 年度に学部から申請する予算は、主に次の 9 事業である。

- ① 国内・在外研究事業費：国内・在外の研究者としての学術研究又は調査研究の経費
- ② グループ研究費：学科横断的及び全学的な教育改革型の研究プロジェクト対象
- ③ 海外出張事業費：公務、学生研修旅行引率の経費
- ④ 教育研究設備整備費（機器備品）：教育研究課題との関連で設備の必要性が高く、設備を導入することにより教育研究の進展が期待できるものの経費（国庫補助対象事業）
- ⑤ 施設設備保守管理費
- ⑥ 機器備品・図書・実験実習費：経常的経費
- ⑦ 特色ある教育研究事業費
- ⑧ その他の事業費
- ⑨ 中期計画に伴う新規事業費：第 2 次中期計画（平成 24～26 年度）の平成 25 年度事業
平成 23 年度は上記事業の②グループ研究費と⑨中期計画に伴う新規事業費の代わりに、大学教育
改革支援事業費(GP)が組み込まれていた。
平成 24 年度は②グループ研究費が対象外となり、8 事業であった。

【評価】

教育に対する経常的経費は、平成 23・24・25 年度ともに各学科から申請された予算額が満額承認された。

研究に対する経費は、個人研究費が給付されている。また、条件を満たした場合、学部長裁量経費からも研究に対する助成がなされている。

全学中期計画の目標達成のための予算として、平成 24 年度に看護学研究科専門看護師（CNS）教育課程申請費用や、理学療法学科に実践センター開設予算がつき、それぞれの目標を達成できた。

【課題】

学部は設置後 7 年を過ぎ、設置時に購入した機器備品が故障したり、買い替え時期を迎え始めている。高額な機器や物品が多いため、十分な検討を行い、計画的に更新していく必要がある。

予算は要求通りの査定を受けている。平成 23 年度以降の経常的経費の予算は、学生一人あたりに決められた金額に学生数を乗じた金額となっている。これは他学部と同様であるが、本学部は医療系のため一人あたりの金額は他学部より高い。充実した教育・研究の実現を図りながらも、予算削減に向け引き続き努力を続ける。

文責：学部事務室 事務長 吉井貴子
看護学科長 前川幸子
理学療法学科長 八木範彦

第3章 学生の受け入れ

3.1 学部に関するPR

3.1.1 看護学科

【現状】

3.1.1.1 出張講義

平成23～24年度は教員の臨地実習、学内での業務が過密となり、特に日時指定の高校に出向くことが困難であり、出張講義の実施実績はない。しかし、近隣看護系大学との競争を鑑み、平成25年度は可能な範囲で実施し、模擬授業を3校担当した。

3.1.1.2 オープンキャンパス

全学的行事として年7回実施した。入試課と連携を取りながら各種イベントに参画し、学部説明会、体験授業、進路相談、1号館ツアーガイド、在校生相談会（平成24年度は卒業生相談会も含む）を実施した。

以下に主たるイベントの実施結果を示す。

<学部・学科説明>

学部長が大学の理念・目的から学部・学科の教育目的・目標、入学後の教育、国家試験対策ならびに前年度の結果、卒業生の活躍等、パワーポイントを使用し説明した。

<体験授業>

看護職や入学後の授業について来場者がイメージを持ち、興味を持てるように各開催日に2限ずつ実施した。これまでの傾向から午前と午後は来場者が入れ替わることから同じテーマでの実施とした。担当は、看護学領域ごととし2名配置とした。来場者平成23年度446名（前年度比92.7%）、平成24年度442名（前年度比99.1%）、平成25年度366名（前年度比82.8%）であり、参加者の減少傾向がうかがわれる。開催日程として6月が増加傾向であるのに対し、9月開催が台風等の影響もあり減少傾向にあった。

<進路相談>

オープンキャンパスの開催日の10～15時に実施した。来場予想数に応じた教員配置（1～3名）を行い、混雑の状況に応じて入試委員が応援に入り対応した。カリキュラム改正に伴う保健師の選択制や編入学試験の廃止、社会人入試の導入、大学院についてなど相談内容に関わる対応について新任教員でも担当できるように毎年進路相談マニュアルの見直しを行い、活用した。進路相談については、特に問題なく経過している。相談者数は平成23年度153名（前年度比88.6%）、平成24年度117名（前年度比76.5%）、平成25年度149名（前年度比127.4%）であった。平成24年度から大学祭開催日の2日間については、教員の配置はせずに基本的に入試課が対応し、教員からの説明が必要な場合にのみ出勤者に連絡が入る形をとった。

<1号館ツアーガイド・在校生相談>

在学生在ナースウェアを着用し、1号館の各実習室やコモンルームを案内した。小集団に対する案内を実施したことにより、コミュニケーションを図りながら個別対応ができ、質問等にも学生の目線での対応が好評であった。実績は平成23年度670名、平成24年度769名（前年度比114.8%）、平成25年度625名（前年度比81.3%）であった。

コモンルームでの在校生による相談では、学生生活など気軽に相談できる場が提供でき好評であった。平成25年度は卒業生による相談も併せて実施したが、看護学科を志望する生徒は卒業後よりむしろ大学生活への関心が強く、相談内容も在学中のものが多かった。

在学生のボランティア募集に関しては平成24年度から教務オリエンテーションの時間を用いてリーフレットを配布し、協力を呼びかけた。開催日が前期試験や実習準備、実習中、夏季休暇と重なるため、特に7月の募集が毎年困難な状況にある。

3.1.1.3 高大連携

甲南女子高等学校の大学講座Ⅳを受けている。平成23年度は受講生6名、平成24年度は開講せず、平成25年は受講生10名であった。看護学科担当部分はオムニバスで12回実施した。

3.1.1.4 進学相談会

社会に向けた周知活動の一環として進学相談会に参加している。主催者は看護協会、業者であり、兵庫県、大阪府での開催に入試課職員とともに参加している。オープンキャンパスでの進路相談同様、マニュアルを活用し当学科の教育の魅力を伝えている。

実績としては平成23、24年度各5回（看護協会主催1回、業者主催4回）、平成25年度9回（看護協会主催2回、業者主催7回）と新設近隣大学との競合への対策として積極的な参加を行っている。

3.1.1.5 高校訪問

平成23～24年度は教員の臨地実習、学内での業務が過密となり、高校に出向くことが困難であり、実施していなかった。しかし、平成25年度は新規開拓を希望する地域やランクの高校で教員が職員と同伴することが有効であると予測できる場合に実施する計画を立てていた。実際には高校とのスケジュール調整が直前でしかできないため、数件調整したものの教員との日程調整ができず、実施に至らなかった。また、一般入試に向けての秋の実施の計画も挙がることがなかった。

3.1.1.6 学内見学会案内

年々個人あるいは高校から大学の見学希望が増えている。少数の場合は入試課、事務室が対応しているが、バスツアーなど訪問者が大勢の場合は、教員も各実習室の案内を教育内容や本学の特徴を交えて説明している。1号館見学実績は、平成23年度17名、平成24年度15名、平成25年度59名であった。

3.1.1.7 ホームページ

【現状】

平成 23 年度は全学サイトのリニューアルに伴うリンクの変更や修正を企画広報と連携しながら実施した。平成 24 年度は学科オリジナルサイト閲覧のターゲットを入学希望者に絞り、内容の統一化を図った。既存のキャンパスアルバムと学科日誌を中心として、写真や記事を更新していったが、更新のタイミングが授業や実習のない時期（夏季休暇、冬季休暇の期間）に偏ってしまう状況になった。

平成 25 年度は、学科オリジナルサイトの教員紹介部分を更新し、新たな教員の紹介や入学希望者に向けての言葉を掲載した。学科日誌では、初めてユニフォームに袖を通した学生の姿や実習前のマナー講座の様子を、写真と文書で説明し、看護学科の現状を伝えた。

【評価】

学科オリジナルサイトは、リンクや内容を整備したことで徐々に充実し、学科日誌で学生の授業風景や日常を伝えることで、看護学科のアピールの一助になったと考える。しかしながら、学科日誌の更新回数が少ないため、1 年を通しての様子が閲覧者に十分伝わっていない可能性がある。今後は、学生にも協力してもらいながら、学科の状況が分かる見やすいホームページを目指したい。

【課題】

ホームページの閲覧は高校生や外部の方が閲覧している。多くは、大学選択や看護を目指す学生が閲覧していることが予測される。そのため、学科日誌の更新が少なく、学生の状況が伝えられなかったことは、学科のアピールの低下を招くことにもつながる。今後は学科日誌を積極的に更新し、看護学科の様子を伝え、興味を持ってもらえるホームページを作成していくことが課題である。

3.1.1.8 広報・パンフレット等の作成

【現状】

大学案内、大学プレパンフレットに加え、高校生向けダイレクトメールの作成をおこなった。在学生、卒業生、教員へのインタビューや撮影、演習風景等の撮影など依頼、立会い、作成物の校正を行った。開学当初から変更されていない箇所の文章修正等を行い、最新情報を掲載できるように努めた。平成 24 年度から完成した広報物を学科教員全員へ配布し、広報活動への啓蒙を行った。

【評価】

当学科の教育に関する特徴や入学者選抜に関する周知活動は、3 年間の中で卒業生を輩出した実績、国家試験の実績を加えて、周知内容を他大学と差別化していくことができた。また、新設近隣看護系大学との競争に備え、平成 25 年度は広報物の配布機会の拡大を行い、周知活動を強化した。特に中断していた高校模擬授業や高校訪問等も入学する学生のレベルの確保を目指した実施が必要とされると考える。

【課題】

近隣の新設大学、既設校が乱立する中での受験者獲得に向けた広報活動の強化

- ① 来場者人数に応じて目的設定したオープンキャンパスの企画・運営
- ② 進路相談、体験授業、高校訪問などのなかで、良質の学生確保に向けた参加機会の精選ならびに教員への協力依頼
- ③ 魅力ある媒体を作成するための、資料収集を年間計画に基づき行い、他委員会（教員）と連携し情報が共有できるようにする
- ④ 全教員が学科の顔となり広報活動を行えるようにするためのマニュアル、オリエンテーションの徹底
- ⑤ 学生の広報活動参加への呼びかけ
- ⑥ 入試課と企画段階から連携し、窓口の一本化とスケジュールが過密にならないように調整する

3.1.2 理学療法学科

3.1.2.1 出張講義

【現状】

平成23～25年度の高校へのお出張講義を表3-1に示した。

この3年間に看護医療系コースのクラス設置や「総合健康類型」の授業を展開している高校からも出張講義の依頼があり2校に対応した。平成25年度の「総合健康類型（3年生）」の講義依頼は高校から直接依頼を受けたが、その他は入試課より高校内進学ガイダンスの一環として、「リハビリテーション」や「医療職種」についての講義依頼を受けた。

表3-1 高校出張講義

平成23年度	平成24年度	平成25年度
<ul style="list-style-type: none">・私立神戸常盤女子高等学校 2年生 看護医療系コース・兵庫県立須磨友が丘高等学校 2年生・私立神戸松蔭高等学校1年生・兵庫県立松陽高等学校2年生・私立神戸野田高等学校1年生	<ul style="list-style-type: none">・兵庫県立須磨友が丘高等学校 2年生・私立神戸山手女子高等学校 2年生・私立神戸学院大学附属高等学校 1年生・兵庫県立三田西陵高等学校 2年生・兵庫県立伊丹西高等学校 1年生	<ul style="list-style-type: none">・私立金蘭会高等学校 2年生・岡山県立津山東高等学校 1・2・3年生・兵庫県立西宮北高等学校 2年生・兵庫県立伊丹西高等学校 2年生・兵庫県立須磨友が丘高等学校 2年生・兵庫県立伊川谷高等学校 2年生・兵庫県立宝塚東高等学校 3年生「総合健康類型」

【評価】

平成 21・22 年度は、各 1 校からの講義依頼であったが、平成 23～25 年度はそれぞれ 5 校、5 校、7 校の出張講義に対応できた。入試課を経由した依頼数の増加に伴い、可能な限り学科で対応しており、リハビリテーション分野に関わる専門職種、中でも理学療法（士）により興味をもった受験生の確保に貢献できていると考える。

【課題】

高校生に理解しやすい内容であることが大切であり、高校の授業時間である 50 分程度の内容にまとめ、高校生が興味を抱くような講義をする必要がある。講義内容、プレゼンテーション等の資料作成は担当した教員にお願いしている現状から、高校内進学ガイダンスのテーマがほぼ同様なことから共有できるプレゼンテーション等の資料を作成し教員の負担を減らしていく必要がある。これからも教員の協力は不可欠なので、効率よく対応できるよう配慮する。

3.1.2.2 オープンキャンパス

【現状】

オープンキャンパス（以下、OC）は、直接的な学科アピールが可能なので、受験者獲得に大切な機会である。理学療法（士）への興味を深め、本学科への受験を希望してもらえるように、学科企画を工夫していく必要がある。以下に、各年度の OC の詳細を記す。

1) 平成 23 年度

<参加回数>

全学的行事として、年 7 回の OC に参加。

<学部・学科説明会>

学部長が大学の理念・目的から学部・学科の教育目的・目標、入学後の教育、国家試験対策ならびに前年度の結果、卒業生の活躍等、パワーポイントを使用し説明した。

<入試相談>

OC 開催日の 10～15 時に実施した。教員は午前・午後をそれぞれ 1 名で担当した。

<体験授業>

リハビリテーションおよび理学療法（士）への理解を深められるように、来場者が興味を持ちイメージしやすいテーマを担当教員がそれぞれ工夫して体験授業を受け持った。授業は午前と午後の 2 回で、それぞれ 1 教員が 1 テーマについて担当し、全 14 回授業を実施した。

<学科企画>

①1 号館理学療法学科ツアーガイド

1 階、2 階を中心に、理学療法（士）の紹介も加えながら演習室の役割や特徴を説明する。各演習室に教員と学生サポーターを配置し、来場者には柔軟に対応した。

②在學生との懇談（相談）

在學生と気軽に話ができる機会は、来場者から良好な手応えがあった。

2) 平成 24 年度

参加回数、学部・学科説明会、入試相談は昨年と同様である。

<体験授業>

0C 最初の 6 月は 1 授業のみ実施した。7・8・9 月の 0C は、午前・午後の 2 回の授業を 1 教員が担当し、全 13 回授業を実施した。

<学科企画>

①1 号館理学療法学科ツアーガイド

ツアーガイド時の説明をわかりやすくするため、測定機器（113 教室）の説明用ポスターを作製した。ツアーから体験コーナーに効率よく案内できるよう、学生サポーター間の連絡に配慮した。

②理学療法体験コーナー：「理学療法士のあんなコト・こんなコト体験」

これまでの口頭だけの案内では一方的な説明になってしまいがちなので、参加者体験型の企画を取り入れ理学療法（士）のことを体験しながら理解してもらい、本学への興味を一層深めてもらえるよう取り組んだ。物理療法体験コーナー、コミュニケーションコーナー、ストレッチコーナー、松葉杖コーナー、骨パズルコーナー、顕微鏡コーナーの 6 つの体験コーナーを実施した。

③クイズラリー：「クイズラリーに挑戦！（ミニレクチャー付き）」

理学療法体験コーナーごとに、体験内容についてのミニレクチャーを加えながら体験をしてもらった後にクイズを出題した。

④在校生・卒業生（OG）と話そうのコーナー：「在校生や卒業生と本音トークはいかが！」

在校生は 3 年の学生サポーターが担当した。昨年度、在校生と直接話ができることに好評を得たので、本年度は卒業生（OG）を招く企画を実施した。6 月の 0C を除き、6 名の第 1 期生 OG の協力を得ることができた。この企画も、参加者からは大変好評であった。

⑤学科ユニフォーム（ケーシー）着用体験（記念写真サービス付き）：「気分は理学療法士！」

3) 平成 25 年度

参加回数、学部・学科説明会、入試相談は昨年と同様である。

<体験授業>

体験授業のイメージ化を図るため、タイトルに「理学療法士の仕事シリーズ」、サブタイトルに脳機能障害分野、スポーツ障害分野、子ども分野、ウィメンズヘルス分野、地域福祉分野の 5 つの分野を挙げ、各担当教員のテーマを提示した。授業は、昨年度と同様に全 13 回実施した。

<学科企画>

①1 号館理学療法学科ツアーガイド

②理学療法体験コーナー：「理学療法士のあんなコト・こんなコト体験」

昨年度よりの参加者体験型コーナーを継続して実施。コーナーは一部変更して超音波検査体験コーナー、自助具・リフター体験コーナー、物理療法体験コーナー、ストレッチコーナー、コミュニケーションコーナー、骨パズルコーナーの6つの体験コーナーを実施した。

③クイズラリー：「クイズラリーに挑戦！（ミニレクチャー付き）」

④在校生・卒業生（OG）と話そうのコーナー：「在校生や卒業生と本音トークはいかが！」

全OCを第2期生OGの7名の協力を得ることができた。

⑤学科ユニフォーム（ケーシー）着用体験（記念写真サービス付き）：「気分は理学療法士！」

【評価】

学科企画は、24年度から変更、追加を加え刷新した。各演習室の役割や特徴を口頭で説明していた従来のツアーガイド形式に、理学療法士への興味をさらに刺激するため、「理学療法士のあんなコト・こんなコト体験」に加えクイズラリーを企画し参加者体験型に取り組んだ。学科OCチラシも作成し、裏面にクイズラリーの問題を掲載し、当日参加者に配布した。企画の変更にともない、学科の学生サポーター用引きも作成し直した。また、在校生と直接話ができる機会は良好であったので、在校生・卒業生（OG）と話そうのコーナーを設け、第1,2期生のOGの協力が得られた。参加した高校生や保護者からは、楽しく体験できた上に丁寧な説明があって学生サポーターやOG、教員と親しみながら新たな認識や不明瞭なことが理解できたなど有意義であったと好評を得ることができた。

OCの企画や運営に携われるように在学生の主体性の向上を視野に入れ、24年度からOC委員を1～3年生から各2名を選出し委員会を発足した。手始めに、学科教員紹介のポスターの作り直し、測定機器の説明用ポスターの作成を行った。また、委員会で学生サポーター用引きの周知を図り、委員には学生サポーターへの連絡など取りまとめの役割を担えるように取り組んだが、委員会としての機能はほとんど展開することができなかった。

【課題】

学生全体的にOCへの意識が薄く、主体性を高める足がかりとしてOC委員会を通じ、意識付けを活性化していくことが期待される。学生サポーターの応募は7月のOCを除き比較的良好であるが、毎年この時期は前期期末試験と重なるため学生の応募が激減する。7月は参加者数の多いOCなので、当日の担当教員、学生サポーターへの負担が大きくなっているのが現状である。

3.1.2.3 高大連携

【現状】

甲南女子高等学校の大学講座Ⅳを受けている。平成23年度は受講生6名、平成24年度は開講せず、平成25年は受講生10名であった。理学療法学科担当部分はオムニバスで12回実施した。

【評価】

甲南女子高等学校からの受講希望者に対しては、すべて受け入れており、大学の開講時間帯との違いについても調整して受け入れ態勢を整えることができた。

【課題】

大学の授業時間割上、調整が困難なことがある。これに対して、大学内時間割を計画する際に綿密に考慮していく。

受講生増員を目標に、受講生の興味・関心をより惹きつけるようなシラバス内容を検討する。

3.1.2.4 進学相談会

【現状】

1) 平成 23 年度

- ・学内の入試相談会は、0C（全7日）と大学祭（全2日）開催日に実施した。
- ・学外の進学相談会は、外部進路説明企画業者主催の進学相談会等に、入試課と協力して3つの進路説明会に参加した。

2) 平成 24 年度

- ・学内の入試相談会は、0C（全7日）開催日に実施した。本年度から大学祭での入試相談会は入試課での対応になり、大学祭に出勤している教員が必要に応じて入試課からの連絡に対応するようになった。
- ・学外の進学相談会は、外部進路説明企画業者主催の進学相談会等に、入試課と協力して4つの進路説明会に参加した。

3) 平成 25 年度

- ・学内の入試相談会は、0C（全7日）開催日に実施した。
- ・学外の進学相談会は、外部進路説明企画業者主催の進学相談会等に、入試課と協力して6つの進路説明会に参加した。本年度の相談会では、初めて理学療法体験コーナーのブースも担当した。また、神戸国際展示場での「夢ナビライブ 2013（神戸会場）」という大規模な進学相談会に参加し、約300名のブースで模擬授業と本学のアピールを行う機会を得ました。

【評価】

学科教員には学外の進学相談会の参加目的への理解が得られ、非常に協力的であることから迅速かつ多彩な企画にも対応していただけている。

【課題】

学外の進学相談会は、高校内進路ガイダンスだけでなく、体験コーナーや規模の大きな相談会など

多彩な企画に対応する機会が増えている。学科にとってプラスとなる進学相談会をセレクトすることや、学科教員が協力的であるとはいえ、教員への負担が過剰にならないよう配慮していく必要がある。

3.1.2.5 学内見学会案内

【現状】

個人や高校からの大学見学希望は、入試課を窓口を受け入れている。理学療法学科の見学希望には、可能な限り入試委員または対応できる教員が短時間であっても直接案内している。毎年の甲南女子高校からの大学授業見学会では入試委員が、大学体験授業では指定日に授業がある教員が対応している。表 3-2 に平成 23～25 年度の学科見学案内の内訳を示す。

表 3-2 学科見学案内内訳

個人、学校別見学者	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
個人見学者 対応数	2 組	1 組	1 組
学生数（高校生）	2 名	1 名	1 名
学校見学者 対応数	2 校	3 校	1 校
学生数（高校生）	37 名	101 名	16 名
学生数（中校生）	0 名	11 名	0 名
小計	39 名	113 名	17 名
甲南女子高校 大学見学会	9 名	0 名	7 名
大学授業体験	3 名	10 名	0 名
小計	12 名	10 名	7 名
総計	49 名	123 名	24 名

【評価】

入試課から依頼のあった個人または高校からの学科見学では、2 件の見学案内を入試課にお願いした以外は入試委員または授業担当の教員で対応した。24 年度の 2 高校からは、施設見学だけでなく授業見学や体験実習の要望もあり対応した。

【課題】

直接の見学者と対応できる機会なので入試委員または学科教員が対応できることが望ましいが、個人や高校から依頼があつてからの対応になるため、必ず対応できるかは確実ではない。また、施設見学以外の要望に対しても可能な限り対応するように努めたい。

3.1.2.6 ホームページ

【現状】

本学科の教育および設備や理学療法士の仕事内容について全学サイトの学科ホームページに記載し、本学科の教育目的および目標、特徴について示している。学科オリジナルサイトにおいては、教

員紹介をメインに掲げ、各教員の専門やアピールなどを学生に分かりやすい文章で示している。就職状況、学生生活、実習については、最新の情報を公開している。平成21年度から行っている学科日誌では、日々の出来事やイベントなどを随時掲載している。また、委員以外の教員および学生からの情報も募り適宜掲載を行った。毎年3月のオリエンテーション時には学生の学科日誌のサポーターを募集しており、学生の目から見た理学療法学科を紹介してもらい、高校生を中心とした外部の方々に本学科をアピールしているところである。企画広報課のデータによれば、最近の当学科オリジナルサイトへのアクセスが伸びているとのことなので、企画広報課の助言を受けながら学科日誌とともにさらに充実を図りたい。

【評価】

平成22年度からは、学科内での活動状況については学科日誌をメインに掲載を行っており、オリジナルサイトへの掲載内容は減っていたので、今後は充実を図っていく必要がある。学科日誌では、海外研修先からのメールを掲載したり、イベントに参加した学生による感想を載せるなど、教員だけでなく学生の視点からのPRを行うことができた。また、オリジナルサイトでは、教員紹介ページを受験生を意識した内容に一新したことにより、学科アピールの一助となったと考える。平成25年度には、企画広報課の協力を得てトップページのリニューアルを行い、より見やすいホームページを作成した。今後も、より見やすいホームページの作成を目指したい。

【課題】

本学科も開学より8年を経てきたが、アンケートや面談から高校生や外部の方が学科のホームページを閲覧していることが企画広報課のデータからも明らかになっている。今後も学科のホームページの充実のために、教員、学生、および外部の皆様からの意見を取り入れ、新たな視点でのホームページを作成していきたい。そのために、ホームページ委員として学科のアピールができるように、ホームページの内容を積極的に更新し、また見やすく興味を持っていただけるような内容を掲載していくことが課題である。

3.2 学生の募集・選抜方法

3.2.1 入学試験実施状況

【現状】

3.2.1.1 看護学科

受験者数は隔年変化を示しており、前年度の競争率に影響され変動しているが、傾向としては横ばいの推移とみなされる。毎年近隣に看護系大学が新設され、受験者の減少が懸念される中、受験競争率は年々上がっている。入学試験実施状況は表3-3、編入学試験実施状況は表3-4のとおりである。

表 3-3 看護学科入学試験実施状況

試験種類	平成24年実施					平成25年実施					平成26年実施				
	定員	受験者数	合格者数	競争率	入学者	定員	受験者数	合格者数	競争率	入学者	定員	受験者数	合格者数	競争率	入学者
推薦A I		62	18	3.44	18		67	20	3.35	18		68	16	4.25	16
推薦A II	20	56	24	2.33	9	21	67	24	2.79	11	21	71	25	2.84	11
推薦A III		32	3	10.67	3		24	6	4.00	6		55	9	6.11	9
ファミリー推薦	2	1	1		1	2	4	2	2.00	2	2	8	2	4.00	2
内部進学(専)	3	1	1		1	3	5	5		5	3	1	1		1
社会人						若干名	0				若干名	1	0		
推薦B I		138	32	4.31	14		70	23	3.04	8		115	38	3.03	18
推薦B II	17	150	39	3.85	20	18	100	39	2.56	15	18	128	43	2.98	12
推薦B III		49	2	24.50	1		25	6	4.17	5		36	6	6.00	6
推薦合計	42	489	120		67	44	362	125		70	44	483	140		75
A I (2教科S)		312	51	6.12	9		282	59	4.78	20		263	56	4.70	13
			S9					S12					S10		
A I (3教科S)	25	257	42	6.12		28	233	49	4.76		28	200	43	4.65	
			S7					S10					S9		
A II (2教科S)		297	44	6.57	7		215	50	4.30	13		247	52	4.75	14
			S9					S10					S12		
A II (3教科S)		246	35	7.03			186	48	3.88			191	47	4.06	
			S7					S9					S10		
内部進学(併)		2	2		2		2	2		0		2	2		0
B	3	41	4	10.25	3	2	38	2	19.00	2	2	19	2	9.50	1
C	2	26	2	13.00	2	2	25	2	12.50	0	2	13	2	6.50	1
センター前	8	209	53	3.94	4	9	188	56	3.36	2	9	176	56	3.14	5
センターS	3	180	11	16.36	0	3	157	12	13.08	0	3	155	10	15.50	1
センター後	2	21	7	3.00	1	2	23	2	11.50	0	2	13	2	6.50	0
一般合計	43	1591	251		28	46	1349	282		37	46	1279	272		35
総計	85	2080	371		95	90	1711	407		107	90	1762	412		110

表 3-4 看護学科編入学試験実施状況

入試年度	編入制度(定員)	受験者数	合格者数	入学者数
平成24年度	2年次編入(5)	4	0	0
	3年次編入(5)	3	1	1

入学試験に関する情報は、パンフレット・リーフレット・ダイレクトメールといった紙媒体やホームページなどWEB上で公開されている。平成26年3月からはfacebookを使い大学での日々の出来事の紹介を開始した。また、オープンキャンパスや進路相談会を通じて対面で入試情報のおよび本学科の教育上の特徴についても周知している。高校からの模擬授業の依頼にも可能な範囲で対応してきた。

入学試験方法の検討に関しては、平成24年度から編入学試験を廃止し、社会人入試を実施し入学定員を85名から90名へ増加した。社会人入試に関しては、平成24年度問い合わせがあったものの受験者はなく、平成25年度に初めての受験となった。看護職への意欲はあっても、基礎能力試験を課していることで合格基準に耐えうる学生の確保に至らなかった。

推薦入学試験と一般入学試験の定員比率を均等にしているが、実質入学生の比率が推薦入試に比重が大きくなっている現状は変わらない。推薦入学試験の日程が年内にあり、安全策をとって入学者が定員の1.5倍以上になり、年々増加し、本来求めている比率から離れている現状である。

一般入試B・Cに関しては入学手続き状況から合格者を定員のみとしている現状があり、競争率があがることから受験生の減少を招いている。

内部進学制度における専願者の内申点に関して、学科の偏差値が上昇しているにも関わらず、平成21年から変更されていない点において今後検討必要である。

【評価】

合格者の歩留りの予測が困難な状況であり、100名を超過している。歩留りは今後、他の競合する大学数が増加することによりますます読めなくなることが予測される。現状の入試制度の限界が、これまで培ってきた教育の質に影響しないよう、安定した入学者数を得られる方策が必要である。また、推薦入学試験と一般入学試験の入学者の比率を本来の定員比率と同等に確保できるように、入試制度そのものを変えていくことが必要である。このことは、一般入試B・Cのあり方にも影響しており、定員数の確保をしつつ良質な教育が受けられる入学生の確保ができる仕組みを作ることが急務である。

社会人入試に関しては、幅広い人材の確保という観点から期待される入試であるが、実績が得られていないため、今後の動向を見ていく必要がある。

【課題】

幅広く学科が求める人材を得るために様々な入学試験をおいているが、過去8年の実績を踏まえ、定員数を確保しつつ良質な教育が受けられる入学生数の確保のために、入試制度を抜本的に見直すことが必要である。制度を見直すことで生じる新たな課題、学生数の確定時期に合わせて入学準備ができる事務組織の仕組みが整えられることも改善点の一つと考える。

3.2.1.2 理学療法学科

【現状】

県下の4年制大学養成校数は公立大学1、私立大学6の全7大学と固定化してきた。大学志向の競合に及ばず影響が懸念される中で、入学者数の定員対比が高値に維持できていることは、本学への関心の高さが継続していると考えられる。しかし、学生の質的、学力的な側面から更なる教育レベルの向上を視野に入れた入学定員の確保の取り組みは継続していく必要がある。受験生の視野に本学科が入るために、中期計画で進行中の学科運営、女子大学の特徴をアピールしていく企画性の充実、広報の修正や方法の検討などの展開にともない、学科の知名度を向上していくことが必要不可欠であり、入試課と協同しつつ取り組んできた。

平成24年度には大学パンフレットやリーフレットの企画や写真を一新し、在校生や卒業生の声を多く掲載するように工夫した。特にダイレクトメールの効果は期待できるため、本学資料請求者データで本学部を志望している高校生や、情報入手した看護・医療系を志望している高校生に送付した。また、国家資格取得に向けての取り組みと国家試験合格率、就職率と卒業生からのコメントを掲載するなど内容の充実を図った。

平成24、25、26年度の入学者にあたる入学試験種類別の詳細について、表3-5、表3-6に示す。

表 3-5 理学療法学科入学試験実施状況

試験種類	平成24年度入試(平成23・24年実施)					平成25年度入試(平成24・25年実施)					平成26年度入試(平成25・26年実施)				
	定員	受験者数	合格者数	競争率	入学者	定員	受験者数	合格者数	競争率	入学者	定員	受験者数	合格者数	競争率	入学者
指定校	6	23	23		23	6	20	20		20	6	22	22		22
推薦AⅠ	10	12	7	1.71	8	10	12	8	1.50	8	10	17	9	1.89	8
推薦AⅡ		12	8	1.50	3		12	6	2.00	0		18	9	2.00	6
推薦AⅢ		3	2	1.50	2		6	2	3.00	2		9	3	3.00	3
ファミリー推薦	2	1	0		0	2	1	1		1	2	3	2		2
内部進学	2	3	3		3	2	3	3		2	2	2	2		0
社会人						若干名	0	0		0	若干名	0	0		0
推薦BⅠ	9	28	15	1.33	5	9	25	17	1.47	4	9	27	16	1.69	5
推薦BⅡ		34	26	1.31	9		32	20	1.60	7		36	20	1.80	8
推薦BⅢ		18	8	2.13	0		6	2	3.00	4		13	3	4.33	0
推薦合計	29	134	92		53	29	117	79		48	29	147	86		54
一般AⅠ(2教科型S)	18	115	54	2.13	8	18	105	50	2.10	12	18	101	47	2.15	8
一般AⅠ(3教科型S)		90	48	1.88			77	45	1.71			76	34	2.24	
一般AⅡ(2教科型S)		110	50	2.20	7		79	46	1.72	12		95	42	2.26	5
一般AⅡ(3教科型S)		83	50	1.66			58	28	2.07	12		68	29	2.30	
一般B	2	10	4	2.50	1	2	11	3	3.67	0	2	7	2	3.50	2
一般C	2	6	2	3.00	0	2	9	2	4.50	1	2	8	3	2.70	1
センター前期	5	83	45	1.84	3	5	64	47	1.36	2	5	78	37	2.11	7
センターS	2	68	10	6.80	1	2	59	10	5.90	0	2	62	9	6.89	0
センター後期	2	6	3	2.00	0	2	8	2	4.00	0	2	9	2	4.50	0
一般合計	31	571	266		20	31	470	233		27	31	504	205		23
総計	60	705	358		73	60	587	312		75	60	651	291		77

【評価】

入学者数の定員対比は、平成23年度は7%、平成24年度は5%、平成25年度8%と大学方針を上回る入学者を獲得できた(表3-6)。

表 3-6 理学療法学科入学定員対比

年度	入学者数	定員対比(実比較)	定員対比(大学方針)
平成24年度	73名	122%	115%
平成25年度	75名	125%	120%
平成26年度	77名	128%	120%

【課題】

入学者数の定員対比については、大学方針を上回り安定しているが、受験者数をみると平成24年度入学試験では705名であったが、平成25年度は587名と約120名減っていた。これは、この2年間の全国高校生数が5万人少なかったことが影響していると考えられる。平成26年度入学試験では651名と盛り返しており、本学志願者が安定している状況と思われる。しかし、「2018年(平成30年)問題」に近づいてきており、高校生数の減少が進む中で入学者数を確保するには、大学および学科の教学方針が受け入れられることが重要である。学科では女子大学における女子力をアピールできるウィ

メンズヘルス分野などの特徴を定着させ、学生教育の成果の一つとして国家試験合格率 100%を目指すことで、入口から出口までの明確な教学方針を示すことが必要と考える。

文責：看護学科	ホームページ委員会	藤永新子 安藤布紀子
	入試委員	川村千恵子
理学療法学科	ホームページ委員会	神沢信行 青田絵里
	入試委員	西川仁史

第4章 教育課程

4.1 看護学科教育課程

【現状】

看護学科のカリキュラムポリシー、及びディプロマポリシーは以下のとおりである。

＜カリキュラムポリシー＞

看護への目的意識を明確にし、学習意欲を高めるため、1年次から4年次まで専門基礎科目および専門科目の講義や演習の知識学習と実体験の実習を交互に系統的に配置して開講する。専門基礎科目では、看護学科、理学療法学科共通の講義を開講し、幅広い視点を身につけるとともに、チーム医療の必要性を理解し、生活の質の維持または向上、生活機能の低下の早期発見・早期対処、要支援・ケア状態の改善・重症化予防のための看護ケア、保健医療職者としての共通認識を育む。また、専門科目の分野は、下記の看護学3分野と、公衆衛生看護学、助産学、学校保健学で構成する。臨地・臨床実習は、多様な実習施設で少人数制によるきめ細やかな実習を行う。

- ① 生活デザイン看護学：生活の場で生きる人々の健康レベルに適した看護・QOL (Quality of life 生活の質) を対象者との協同作業で計画を創り、看護を展開する科目。基礎看護学、老年看護学、在宅看護学、公衆衛生看護学など。
- ② 療養デザイン看護学：主として療養患者の生活に適した看護・QOL (Quality of life 生活の質) を対象者との協同作業で計画を創り、看護を展開する科目。精神看護学、成人看護学、小児看護学、母性看護学など。
- ③ 総合看護：看護の専門的知識・理論と看護実践・技術を統合させ、看護実践の基本能力の達成を図る。総合実習、国際看護、看護倫理、看護実践統合演習、など。

＜ディプロマポリシー＞

- ① 看護の基礎となる知識と技術を習得するとともに、多文化・異文化に関する知識を踏まえた上で、対象者の理解、自己の理解を深める。これらを基盤とし、相互関係の中で統合的に看護を実践し、理解する。
 - ② 対象者に対する関心を基盤とし、自らの身体と言語を用いて、ケアリングを目に見える形で表現するとともに、論理的に看護を思考することができる。
 - ③ 看護実践に必要な情報を収集し、論理的に分析し、活用することをとおして、個人および集団のよりよい健康を目指し、問題解決に向けた取り組みができる。
 - ④ これまでに獲得した看護の基盤となる知識・技術を統合的に活用し、看護を実践していく中で、自らの看護観を培うとともに、看護専門職としての自らの課題を見出し、探求していくことができる。
 - ⑤ 看護専門職としての責任や論理的態度について理解し、責任ある行動をとるとともに、社会に貢献する意識を持つ。さらに看護専門職者として自律・自立して学んでいくための展望を持つ。
- 看護学科では、共通科目、専門基礎科目、専門科目、自由選択科目で構成される授業科目について、

所定の卒業要件単位数を修得し、最終的に128単位以上を修得することが卒業の要件である(表4-1)。この要件を満たした学生に対して「学士」の学位を授与し、看護師国家試験受験資格が与えられる。保健師・助産師については更に所定の単位を修得すると国家試験受験資格が与えられる。また、養護教諭一種免許状は、卒業要件を満たし、所定の単位を修得したものが申請できる。なお、平成25年度より、助産師資格選択者のみ受胎調節実地指導員(リプロヘルス・サポーターが申請により取得可能となった。

表 4-1 卒業に必要な単位数 (看護学科)

授業科目区分		卒業要件		
		2012 年度以降	2011 年度	
全学 共通 科目	基礎科目		2 単位以上	2 単位以上
	発見科目	科学の方法	2 単位以上	2 単位以上
		現実をみる		2 単位以上
	展開科目		6 単位以上	4 単位以上
	メディア科目	外国語科目	英語 8 単位以上	英語 8 単位以上
		情報科目	2 単位	2 単位
計		20 単位以上	20 単位以上	
専門基礎科目		26 単位以上	26 単位以上	
専門科目		68 単位以上	68 単位以上	
自由選択		14 単位以上	14 単位以上	
合計		128 単位以上	128 単位以上	

平成 22 年度入学生まで看護師および保健師国家試験受験資格は卒業要件であったが、文部科学省の「大学における看護系人材養成の在り方等に関する検討会(平成 21 年 8 月 18 日)」を踏まえ、平成 23 年度に保健師教育を選択性(50 名)に変更することで、保健師教育課程の内容の充実とあわせ、学生が身につけるべき学習成果・目標の明確化を行った。さらに、平成 24 年度には「保健師助産師看護師法」の改正、「保健師助産師看護師学校養成所指定規則」の改正省令に合わせ、また「看護教育の内容と方法に関する検討会第一次報告(平成 22 年 10 月)」、「大学における看護系人材養成の在り方等に関する検討会(平成 23 年 3 月 11 日)」を踏まえて、科目名称の変更および保健師教育課程の内容充実、助産師教育課程のカリキュラム内容の充実と実習の強化、看護師教育課程のカリキュラム内容の強化を行った。23 年度および 24 年度のカリキュラム改正における変更点と措置は以下の通りである。

<平成 23 年度改正>

(1) 卒業要件を満たす単位数の維持(表 4-2)

平成 23 年度のカリキュラム変更では、保健師教育課程の卒業要件は 128 単位を維持した。指定

規則に照らすと、本学の方が地域看護学等の専門科目及び専門支持科目で 12 単位多く、保健師教育課程科目の充実を図っている。また、看護師教育課程では自由選択科目が 8 単位から 14 単位に増えており、学生個々人の意向がより反映されやすくなっている。

(2) 保健師教育科目の充実 (表 4-3)

表に示すとおり、保健師教育課程内容の充実を図ることを目的に、授業科目の追加と併せ、専門科目の内容を平成 22 年度改定の「保健師国家試験出題基準」を参考に、看護実践能力育成をより重視し編成した。また「地域ケア論」に替え、「保健福祉行政論」を新設し、より保健師教育に絞り込んだ内容とした。実習科目については、2 形態（実習形態 A：神戸市、兵庫県下行政機関（県市）実習学生 20 名、実習形態 B：関連病院実習学生 30 名）に分け、希望する形態 A または B の実習を行うことにした。

(3) 看護師教育課程の科目内容の強化 (表 4-4)

保健師教育課程の選択に伴い、看護師教育課程における学習の整合性をもたせるため修正した。地域看護学実習Ⅱと 1 単位分の読み替えをしていた老年看護学実習を 3 単位から 4 単位とし高齢者の生活の場を多面的に捉えた実習とした。また在宅看護学では、在宅看護学方法論Ⅰの 1 単位 15 時間を 1 単位 30 時間とし、さらに在宅看護学実習を統合科目として内容を強化するために 4 年次に 2 単位の实習とした。また保健師教育課程および看護師教育課程において倫理教育の実施が求められていたことから、「看護倫理」を科目として開講した。

表 4-2 本学保健師・看護師教育課程と指定規則との単位数対比表

卒業要件	単位	履修方法	看護師教育課程				保健師教育課程			
			基礎分野	専門基礎分野	専門分野	臨地実習	計	地域看護学等	地域実習	計
卒業要件	128	必修単位数	10	26	41 4 (地域)	23	104	9 【22】	5	14 【22】
		選択単位数	10	0	0	0	10	0	0	0
			14 (自由選択)				14			
指定規則に関する増単位数			7	5	5	0	31	12	1	13
			12							
			14 (自由選択)							

*看護師教育科目を中心に取上げているため、保健師科目は選択扱いとなる。

*【 】内は保健師課程と看護師課程の教育内容を併せて教授する授業科目の単位数を示している。

表 4-3 新旧カリキュラム変更科目対比表

科目区分	本学現行保健師教育科目 (平成 22 年度)				新カリキュラム (平成 23 年度入学生より)				
	科目名	配当年次	必修単位	時間数	科目名	配当年次	必修単位	時間数	備考
専門基礎科目	健康と社会・環境	1	2	30	健康と社会・環境	1	2	30	内容充実
	疫学	2	1	30	疫学	2	1	30	内容充実
	医療と社会福祉学	1	1	30	医療と社会福祉学	1	1	30	内容充実
	地域ケア論(総論)	1	1	30	削除				
専門科目					保健福祉行政論	2	2	30	新設
	地域看護学概論	2	2	30	地域看護学概論	2	2	30	内容充実
	地域看護学方法論 I	2	2	60	地域看護学方法論 I	2	2	60	内容充実
	地域看護学方法論 II	3	1	30	地域看護学方法論 II	3	1	30	内容充実
	地域看護学方法論 III	4	1	30	地域看護学方法論 III	4	2	60	内容充実
	地域看護学実習 I	4	3	135	地域看護学実習 I	4	3	135	内容充実
	地域看護学実習 II	4	1	45	地域看護学実習 II	4	2	90	内容充実

*保健師教育科目選択学生のみを取上げているため、全ての科目は必修扱いとなる。

表 4-4 看護師教育課程新旧カリキュラム変更科目対比表

科目区分	本学現行カリキュラム (平成 22 年度)				新カリキュラム (平成 23 年度入学生より)				
	科目名	配当年次	必修単位	時間数	科目名	配当年次	必修単位	時間数	備考
専門科目	在宅看護学方法論 I	2	1	15	在宅看護学方法論 I	2	1	30	時間増
	老年看護学実習	3	3	135	老年看護学実習	3	4	180	内容充実
	在宅看護学実習 I	2	1	45	在宅看護学実習	4	2	90	内容充実
	在宅看護学実習 II	4	1	45					
					看護倫理	4	1	30	新設

<平成 24 年度改正>

(1) 卒業要件を満たす単位数の維持 (表 4-5)

表に示すとおり、看護師・保健師教育課程の卒業要件は 128 単位を維持した。助産師教育課程では 134 単位とし、5 単位増となった。

(2) 保健師教育課程のカリキュラム内容の充実と実習の強化 (表 4-6)

平成 23 年度改正カリキュラム内容と合わせ、科目名称の変更を行った。また、内容充実のため、社会的要請の高いテーマを取り上げ「公衆衛生看護学方法論Ⅳ」を新設した。

(3) 助産師教育課程カリキュラム内容の充実と実習の強化 (表 4-7)

「保健師助産師看護師法」の改正により助産師の基礎教育における修業年限が「1 年以上」に延長されたことをうけ、授業科目の新設と専門科目の内奥充実及び実習の強化を図った。カリキュラムは 23 単位から 28 単位とし、増加の 5 単位は、すべて助産専門科目で編成した。

(4) 看護師教育課程のカリキュラム内容の強化 (表 4-8)

平成 24 年度改正では、看護師のみを選択する学生に対する看護実践能力を強化する科目を新設した。これらは本学部のディプロマポリシーの 2)「専門的知識及び技術に基づき判断・実践できる問題解決力を有している」、および 4)「専門職者として国際化・情報化へ対応できる能力を身につけている」を強化する科目である。

表 4-5 看護師・保健師・助産師教育課程と指定規則との対比表

			看護師教育課程					保健師教育課程			助産師教育課程		
			基礎分野	専門基礎分野	専門分野	実習	計	公衆衛生看護学等	実習	計	助産学等	実習	計
指定規則の単位数			13	21	40	23	97	23	5	28	17	11	28
本学卒業要件	128 単位	必修単位数	10	26	45	23	104	28	5	33	17	11	28
		選択単位数	10	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0
14 (自由選択)					14								
指定規則に対する増単位数			7	5	5	0	31	5	0	5	0	0	0
			12										
			14 (自由選択)										

表 4-6 保健師教育課程新旧対比表

科目区分	本学現行カリキュラム(平成 23 年度)				新カリキュラム(平成 24 年度入学生より)				
	科目名	配当年次	必修単位	時間数	科目名	配当年次	必修単位	時間数	備考
専門基礎科目	保健福祉行政論	2	2	30	保健医療福祉行政論	2	2	30	名称変更
専門科目	地域看護学概論	2	2	30	公衆衛生看護学概論	2	2	30	名称変更
	地域看護学方法論Ⅰ	2	2	60	公衆衛生看護学方法論Ⅰ	2	2	60	名称変更
	地域看護学方法論Ⅱ	3	1	30	公衆衛生看護学方法論Ⅱ	3	1	30	名称変更
	地域看護学方法論Ⅲ	4	2	60	公衆衛生看護学方法論Ⅲ	4	2	60	名称変更
	地域看護学実習Ⅰ	4	3	135	公衆衛生看護学実習Ⅰ	4	3	135	名称変更
	地域看護学実習Ⅱ	4	2	90	公衆衛生看護学実習Ⅱ	4	2	90	名称変更
					公衆衛生看護学方法論Ⅳ	4	1	30	新設

* 保健師科目選択学生のみを取上げているため、全ての科目は必修扱いとなる。

* 保健師教育課程選択制に伴う選抜の実施方法の変更はない。

表 4-7 助産師教育課程新旧対比表

科目区分	本学現行カリキュラム(平成 23 年度)				新カリキュラム(平成 24 年度入学生より)				
	科目名	配当年次	必修単位	時間数	科目名	配当年次	必修単位	時間数	備考
専門科目	助産診断技術学Ⅰ	3	1	30	助産診断技術学Ⅰ	3	1	30	内容充実
	助産診断技術学Ⅱ	4	3	90	助産診断技術学Ⅱ	4	2	60	単位数減
					助産診断技術学Ⅲ	4	2	60	新設
					総合助産	4	1	15	新設
	助産管理	4	1	15	助産管理	4	2	30	単位数増
	助産学実習	4	9	405					削減
					助産学実習Ⅰ	4	5	225	新設
				助産学実習Ⅱ	4	6	270	新設	

* 助産師科目選択学生のみを取上げているため、全ての科目は必修扱いとなる。

* 助産師教育課程は、選択を希望する学生から 10 名以内を選抜する。選抜方法の変更はない。

表 4-8 看護師教育課程新旧対比表

科目区分	本学現行カリキュラム(平成23年度)				新カリキュラム(平成24年度入学生より)				
	科目名	配当年次	必修単位	時間数	科目名	配当年次	必修単位	時間数	備考
専門基礎科目	国際保健	4	1*	15	国際保健	2~	1*	15	配当年次変更
専門科目	フィジカルアセスメント	2	2	60	フィジカルアセスメントⅠ	2	2	60	名称変更
					フィジカルアセスメントⅡ	4	1*	30	新設
					ストレスマネジメント論	4	1*	15	新設
					看護実践統合演習	4	1*	30	新設
					ベッドサイドの英会話	4	2*	30	新設

* 選択科目

4.1.1 国家試験4種類の履修モデル

1) 旧カリキュラム(平成22年度入学生以前)

- (1) 看護師・保健師のみ選択学生
看護師と保健師の両方の能力を持ち、どちらの職を選択しても志向性、適格性が高く、視野の広い看護職として活躍が期待される。
- (2) 助産師選択学生
看護師・保健師の能力をあわせ、助産師として志向性、適格性が高く、視野の広い助産活動が期待される。
- (3) 養護教諭一種選択学生
看護師・保健師の能力をあわせ、養護教諭として志向性、適格性が高く、視野の広い養護教諭としての活躍が期待される。

2) 新カリキュラム(平成23年度入学生以降)

- (1) 看護師のみ選択学生
看護師として高い実践能力を持ち、また看護師として志向性、適格性が高い看護師として活躍が期待される。
- (2) 看護師・保健師選択学生
看護師と保健師の両方の能力を持ち、保健師として、あるいは看護師として志向性、適格性が高く、視野の広い看護職として活躍が期待される。
- (3) 看護師・助産師選択学生
看護師の能力とあわせ、助産師として志向性、適格性が高く、視野の広い助産活動が期待される。

(4) 看護師・養護教諭一種選択学生

看護師と養護教諭の両方の能力を持ち、養護教諭として、あるいは看護師として志向性、適格性が高く、視野の広い養護教諭または看護師としての活躍が期待される。

(5) 看護師・保健師・養護教諭一種選択学生

看護師・保健師・養護教諭の能力を合わせもち、どの職を選択しても志向性、適格性が高く、視野の広い養護教諭または看護職としての活躍が期待される。

4.1.2 カリキュラム改正に関する取り組み

平成24年度、看護学科教務委員会を中心に、現行の当学科の教育課程を、①学士課程におけるコアとなる看護実践能力（日本看護系大学協議会）、②当学科のディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、③看護師・保健師・助産師教育の基本的考え方（厚生労働省）を基準にして評価した。評価は専門領域ごとに以下の手順で行った。1) コアとなる看護実践能力について、各科目で教授している教育内容をチェックする、2) 教授している各看護実践能力の目標到達度を評価する。その際にコアカリキュラムの「卒業時到達目標」「学習成果」を参考にしながら、学生の成績や学習状況をもとに「A 概ね達成」「B まあまあ達成」あるいは「C 不十分」と評価する。必要に応じて、備考欄に記載する、3) 目標が達成されている理由、不十分な理由について、教育目標の設定・教育方法・学生の学力や準備性・教育力・教育環境（設備・備品・人的環境・実習環境を含む）・カリキュラムの順序性等の視点から考察する、4) 当学科のカリキュラムポリシーも参考にしながら、当学科の独自性と考えられる科目・教育方法・工夫等をあげる、5) 看護師・保健師・助産師教育の基本的考え方（厚生労働省）をもとに、学科の教育課程を（全体的あるいは領域毎）評価する、6) 1)～5)をもとに教育課程の問題点や今後の課題を考察する。

領域ごとにまとめられた評価は、平成24年度末にFD委員会と共催で行う学科研修会において、全学科教員で共有した。またこれらの成果をもとに、平成28年度カリキュラム改正に向けて看護学科カリキュラムワーキンググループが立ち上がり、新カリキュラムの検討が行われている。

4.1.3 教職課程

本学科は開設当初より、養護教諭一種免許状を取得するために必要な教職ならびに養護に関する科目を開講している。本学科の教職に関する必修単位は27単位（法定最低修得単位21単位）、養護に関する必修単位は50単位（法定最低修得単位28単位）、第66条の6に定める必修単位は10単位（法定最低修得単位8単位）である。なお、養護教諭選択の学生は、平成23年度卒業生17名、平成24年度卒業生14名、平成25年度卒業生21名と多いが、この3ヵ年で実際に養護教諭として教職に就いた卒業生は2名である。卒業生の中には、看護師として勤務し、臨床能力を獲得した後に、養護教諭として働くことを計画している学生もいる。今後、看護学科で養成する養護教諭の強みを生かした卒業生の活躍が期待される。

次に養護実習であるが、養護実習Ⅰ・Ⅱの履修資格を「教職課程ガイドブックⅦ」の中に明記して

おり、①3年次終了時に修得済の科目を指定、②教育的熱意を持ち、成績優秀で将来教職に就く意志があり、必ず教員採用試験を受験しようとする者、③養護実習に耐え得る心身の健康を保持する者、④所定の手続きを完全に済ませた者である。養護実習先は原則学生自身の卒業校であるため、3年次に学生が実習校を訪問し、4年次前期の実習日程を調整する。なお神戸市などの公立の場合は、大学から教育委員会に希望日程を申し入れるシステムになっている。しかしながら、4年次前期は集中授業、地域看護学実習、総合実習と過密状態であり、養護実習と重複するケースがある。その場合は甲南女子高校などで養護実習ができるように配慮している。現在、養護実習の1単位時間を本学は45時間で換算しているが、1単位を30時間としている他大学が多く、実習校より実習期間の制限などが出されており、今後、本学としても実習時間の検討が必要である。

さらに従前は、教育職員免許法において保健師の免許を取得に伴い養護教諭二種免許が付与されると解釈されていたが、「教職課程認定の手引き（平成22年度版）」において、保健師の免許の他に「教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目」の習得が必要となった。本学科では、「外国語コミュニケーション2単位」および「情報機器の操作2単位」の2科目は卒業要件であるが、「日本国憲法2単位」および「体育2単位」が別途履修要件となったため、平成22年度までの入学生に対しては履修指導により、学生の不利益にならないように対応をした。なお、平成23年度入学生より保健師養成は選択制となったため、入学時のオリエンテーションに選択希望の学生には必ず履修するように周知している。

4.1.4 編入学教育

平成25年度より2年次編入学及び3年次編入学は廃止している。これまでの実編入学の実績と廃止した理由は以下のとおりである。

表 4-9 甲南女子大学看護リハビリテーション学部看護学科編入学試験結果

入学年度	編入制度（定員）	受験者数	合格者数	入学者数
平成20年度	2年次編入（15）	8	5	4
平成21年度	2年次編入（15）	14	10	9
	3年次編入（10）	4	3	3
平成22年度	2年次編入（5）	4	1	1
	3年次編入（5）	1	1	0
平成23年度	2年次編入（5）	6	0	0
	3年次編入（5）	3	2	2
平成24年度	2年次編入（5）	4	0	0
	3年次編入（5）	3	1	1

1) 2 年次編入学及び 3 年次編入学の実績

甲南女子大学看護リハビリテーション学部看護学科は、平成 19 年度に開設し、看護職への志を持つ多様な学生を受け入れることを目的として、2 年次及び 3 年次編入学募集枠を設け、大学既卒者、看護師資格保有者を受け入れることとした。しかし、平成 19 年度、平成 20 年度編入学試験で定員を確保できなかったため、平成 21 年度から、学科全体の収容定員は変更せずに入学定員を 10 名増やして 85 名とし、編入学定員の人数を 5 名ずつに減らす措置をとった。

その後、編入学制度を継続したが、定員を満たすことができていない状況であった（表 4-9）。

2) 2 年次及び 3 年次編入学制度廃止の理由

2 年次及び 3 年次編入学制度は、看護職への志を持つ社会人の将来の可能性を広げるとともに、現役の看護職就業者のさらなる資格取得を目指す機会を増やす目的があり、保健医療福祉分野への豊かな人材供給として寄与することであると位置づけてきた。しかし、過去 6 回の編入学試験ではいずれも定員を満たすことができなかった。この背景として、2 年次編入では、本学が私立大学で授業料が高額であるために希望があっても受験しにくいこと、また 3 年次編入では、大学院にも入学が可能な状況であり、編入を希望する受験者が全体的に減少していることが理由としてあげられる。

入学後の 2 年次編入生は、4 年間分を 3 年間で学ぶため、過密なカリキュラムをこなすことが求められる。編入生の時間割には配慮を行っているが、入学後は一般入学生に開講されている 1、2 年次生の履修科目を同時に学ぶことが多いため、基盤となる知識がない状態で 2 年次科目を受講し、自分で不足部分を補ったり後で統合したりすることが求められる。特に、基礎看護技術は 2 年間かけて順序性を持って学習を進める内容であるが、2 年次編入生は、それを 1 年間で学ばなくてはならないために、基礎能力に不安のある学生は学習を積み重ねにくい。また、時間外のグループワークや共同で行うべき自己演習などの時間を確保できず、一般入学生と同じ動きが取れず孤立しやすかったり、学びが希薄になったりする傾向があり、看護学生に必要な学びの質を確保しにくい傾向になる。受験者数が少ない現状では、基礎能力の高い入学者を毎年定員分確保するのは非常に困難な状況である。

一方、3 年次編入生は、保健師または助産師を志して入学を希望する者が多く、それに必要な最低単位のみ取得しようとする傾向が強い。ほとんどの学生が仕事をしながら通学しているため、大学で看護学を学びなおすよりも資格取得に対する意欲のほうが高い。そのような中、平成 21 年、平成 23 年に施行された指定規則改正に伴い、保健師科目、助産師科目の単位数増加及び修業年限数延長の変更が行われた。これに伴い教育課程の内容充実を図ったため科目配当はさらに過密になり、十分な教育を行うためにも本学科では保健師の国家試験受験資格取得は平成 23 年度から選択制へと変更した。保健師・助産師の資格取得を希望する受験者は、増大した科目時間数をこなす力量が不可欠となる。従って、3 年次編入生も 2 年次編入生と同様、年々より高い基礎能力を求められる傾向にあり、受験者の少ない現状では、募集を継続することは難しくなった。

以上の理由により、基礎能力が十分にある編入生を定員分確保することが困難な状況であることから、2 年次編入学定員及び 3 年次編入学定員を 0 人とし、編入学制度を廃止した。

【評価】

当学科の教育理念、教育目標、3つのポリシーは学生要覧に明示しており、また大学ホームページにも掲載している。学生には、学生要覧に基づいたオリエンテーションを各年次前後期に行っており、それらを理解し共有している。

カリキュラムポリシーにあるように、授業科目は講義・演習、実習を連動させながら体系的に構成されており、看護学の基礎を効果的に学べるようになっている。共通科目について、本学には文学部と人間科学部があり、他学部の学生とも同じ教室で受講するため、異なる専攻分野の知識や価値観を共有させることで人間性を豊かにすることができる。また、専門が異なる他学部の教員から多彩な科目が提供されており、幅広い教養を身につけることも可能となっている。

各科目の目的、目標(到達レベル)、評価基準はシラバスに記載することになっており、学生はCampus Square システムを用いて、いつでも Web 上で閲覧できるようになっている。またオリエンテーションによる履修説明、アドバイザー教員による個別指導により、履修状況に大きな混乱はなく、各種選択科目の履修もスムーズにできている。

各授業科目の評価は、授業目標・到達目標に沿って、担当教員により厳格になされている。学生から疑問や不服があった場合は、担当教員により丁寧に説明し、また必要に応じて教務委員が相談に応じるなどの体制をとっている。

教務活動の企画・運営・実施は看護学科教務委員会が行っている。看護の各専門領域から1名ずつの委員(計9名)で構成されており、科目間の調整・連携もスムーズである。また委員長は全学組織の教務委員を務めており、全学の方針や運営を学科に伝えている。非常勤講師については、看護学科教務委員が各講師の担当を分担し、当学科の教育理念等を伝えるとともに、学生の学修状況の報告を受けるなどして、共通認識のもと教育に当たることができている。

修業年限内での課程卒業率率は平成23年度で80.2%、平成24年度で84.3%、平成25年度で84.8%であり、平成25年度は卒業延期する者が99名中15名であった。2年生前期、3年生前期の時間割が過密になっていることなど、カリキュラム編成や教育方法などを見直す必要がある。

なお、平成24年度に実施した現行のカリキュラム評価により、当学科のカリキュラムは学士課程におけるコアとなる看護実践能力(日本看護系大学協議会)の育成とほぼ一致していること、ただし専門職者として研鑽し続ける基本能力育成のための科目が十分でないことが確認された。

【課題】

修業年限内での課程卒業率率が十分高くないため、今後もその理由を分析する必要がある。平成24年度の現行カリキュラム評価では、2年生前期と3年生前期の科目が多い、特に3年生前期は演習科目が集中するため、グループワークも多く、学生の負担が大きいという時間割上の問題も教員間で共有されたので、新カリキュラム構築に向けて、単位数・時間数の変更や科目の精選も考え、スリム化をはかるなど考慮する必要がある。

4.2 理学療法学科教育課程

【現状】

理学療法学科のカリキュラムポリシー、及びディプロマポリシーは以下のとおりである。

<カリキュラムポリシー>

社会人、医療人として必要とされる広範で多様な基礎的知識と基本的な学習能力の獲得のため、すべての学生が履修する全学共通科目として基礎科目、発見科目、展開科目、外国語科目、情報科目を配置する。特に、理学療法士になることへの強い意志と自覚を持たせ、学習意欲を高め、理解力と行動力を身につけるために、1年次・2年次では「基礎ゼミ」、3年次・4年次では「卒業研究」と「理学療法総合演習」といった少人数制によるきめ細やかな教育体制を整備した。

専門基礎科目と専門科目では系統的な積み重ね学習を行えるように講義と実技実習を交互に配置・開講し、幅広い視点を身につけると共にチーム医療の中で働く専門職としての共通認識を育むために看護学科との共通の講義も開講する。

このような教育成果として学生の知識・技能・態度を評価するために臨床実習前では客観的臨床能力試験(OSCE：Objective Structured Clinical Examination)を実施し、臨床実習後では卒業試験を課して、女性理学療法士としての清潔さ、誠実さ、忍耐力をも確認する体制を整備した。

以上をふまえて、医療・医学分野における科学的根拠に基づいた専門知識と臨床能力を段階的に学び、幅広い教養を修得し、心理面を含めて人を総合的に把握できる理学療法士を養成する。

<ディプロマポリシー>

- ① 生命に対する深い畏敬の念と倫理観に満ち、人を総合的に把握し理解できる幅広い教養のある人間性豊かな人材
- ② 理学療法の専門的知識と技術を習得し、急性期医療から地域ケアにいたる課題を科学的根拠に基づいて探求できる人材
- ③ 理学療法の専門性に基づいて、広く全般的な相互理解を深め、保健・医療と福祉の連携・協力に向けて、チーム医療の一員として活躍できる人材
- ④ 自己学習能力を身につけ、新たな知見・技術の開発に貢献し、社会変化に対応した理学療法の専門性を探求することができる人材
- ⑤ 国際交流の場において、様々な国の人・文化を理解し、理学療法士として国際的な視野をもつことができる人材

理学療法学科では上記にあげる人材を育成する。そのために、共通科目、専門基礎科目、専門科目、自由選択科目で構成される授業科目について、所定の卒業要件単位数を修得し、最終的に128単位以上を修得することが卒業の要件である(表4-10)。この要件を満たした学生に対して「学士」の学位を授与し、理学療法士国家試験受験資格が与えられる。

表 4-10 卒業に必要な単位数 (理学療法学科)

授業科目区分		卒業要件	
		2011 年度以降	
全学 共通科目	基礎科目		2 単位以上
	発見科目	科学の方法	2 単位以上
		現実をみる	
	展開科目		6 単位以上
	メディア科目	外国語科目	英語 8 単位以上
		情報科目	2 単位
計		20 単位以上	
専門基礎科目		44 単位以上	
専門科目		60 単位以上	
自由選択		4 単位以上	
合計		128 単位以上	

4.2.1 国家資格取得の履修モデル

平成 23 年度から実施している理学療法学科履修モデルを表 4-11 に示す。

理学療法学科独自の指導体制は「図 4-1 理学療法学科の指導体制」および「表 4-12 理学療法学科アドバイザー教員の役割一覧」に示している。

理学療法学科では、学生を担当するアドバイザー教員を明確にし、学年進行に応じて以下のような独自の指導体制を取っている。1 年次に 10 人までの基礎ゼミ単位で指導し、2 年次以降も 1 年次のアドバイザー教員が持ち上がり 4 年間を通して指導を行うような指導体制にしている。これによって、学生とより親密な人間関係を築くことが可能となり、学年を超えた学生の関係作りも心がけている。そして、各学年での教務・学生生活のアドバイザー教員を 2 名配置し、学年でのクラス会や連絡事項の窓口とする。さらに、3 年後期以降は卒業研究指導教員ごとに卒論ゼミ単位へ学生を配置し、卒業研究の指導と国家試験および就職活動の指導を行うとともに、基礎ゼミ単位のアドバイザー教員もこれらの指導を支援する。

<現指導体制>

- 1 年次 基礎ゼミ単位で 10 名までの学生に対して 2 名のアドバイザー教員を配置、4 年次まで持ち上がり
- 2 年次 学年単位で教務・学生生活のアドバイザー教員を 2 名配置、4 年次まで持ち上がり
- 3 年次 後期からは卒業研究指導教員ごとに卒論ゼミ単位へ学生を配置
- 4 年次 卒論ゼミ単位、学年単位、基礎ゼミ単位の各アドバイザーが連携し学生支援

表 4-11 理学療法学科履修モデル（理学療法士の臨床を目指す場合）

甲南女子大学看護リハビリテーション学部理学療法学科履修モデル																	
	1年		2年		3年		4年										
	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数									
							○前期	●後期									
							修得単位数	卒業所要単位数									
共通科目	基礎科目	○自分の探求 ○大学探検(選)	2 2					4	2								
	発見科目	科学の方法	●科学の方法	2				2	2								
		現実をみる			○●現実をみる	2		2									
	展開科目		○化学(選) ○数学(選)※ ○物理学(選)※ ●心理学A(選) ●健康・スポーツ科学実習(選) ●倫理学入門(選) ●人間関係論(選) ●物質の探求(選) ●環境生物学(選) ●生化学(選)	2 2 2 2 1 2 2 2 2 2	○トレーニングの科学(選)	2			21	6							
		メディア科目	外国語科目	○英語会話 I ○英語 I ●英語会話 II ●英語 II	2 2 2 2					8	8						
			情報科目	○探検コンピュータ I ●探検コンピュータ II	1 1					2	2						
			人間の構造と機能及び心身の発達		○人体の構造 I ○人体の生理機能 I ○運動学入門 ○人体の構造 II ●人体の構造 III ●人体の構造演習 I ●人体の生理機能 II ●運動学 I ●運動生理学 ●人間発達学	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	○人体の構造演習 II ○人体の生理機能演習 I ○人体の生理機能演習 II ○運動学 II ○運動学演習 ●臨床運動学	1 1 1 1 1 1			16	16					
		疾病と傷害の成り立ち及び回復過程の促進			○医学概論 ○栄養学概論(選) ●リハビリテーション医学 ●精神医学	1 1 1 1	○整形外科 I ○内部障害学 I ○神経内科学 ●小児科学 ●整形外科 II ○内部障害学 II ●救急医学 ●臨床心理(選)※ ●薬理学(選)	1 1 1 1 1 1 1 2	○医療心理 ●高次脳機能障害学	1 1	16	13					
				保健医療福祉とリハビリテーションの理念		○リハビリテーション概論 ○医療コミュニケーション論 ●地域ケア論(総論) ●作業療法概論 ●医療と家族社会学(選) ●看護学概説(選) ●統計学(選)※	1 1 2 1 1 1 2	○地域ケア論(各論) ●医療カウンセリング(選) ●医療ソーシャルワーク論(選)※	2 1 2	○医療倫理 ○医療リスクマネジメント	1 1	●チームケア論 ●国際保健(選)※ ●人権擁護論(選)※ ●医療経営論(選)※	1 1 1 1	20	18		
					基礎理学療法学		○基礎ゼミ I ○理学療法概論 ●基礎ゼミ II	1 1 1			○医療統計学 ●理学療法研究法	1 1	●卒業研究 ●理学療法総合演習 ●職場管理論(選)※	2 1 1	9	9	
						理学療法評価学				○理学療法評価学 ●理学療法評価学演習 ●運動機能障害診断学 I ●運動機能障害診断学 II	2 2 1 1	●理学療法計画論	2			8	8
							理学療法治療学			○基礎運動療法学 ●筋骨格障害理学療法学 I ●筋骨格障害理学療法学 II ●脳血管障害理学療法学 I	1 1 1 1	○物理療法学 I ○物理療法学 II ○義肢装具学 I ○義肢装具学 II	1 1 1 1	●理学療法技術特論	1		22
											○脳血管障害理学療法学 II ○内部障害理学療法学 I ○スポーツ障害理学療法学 ○日常生活動作学 ○原書読解 ●理学療法行動科学 ●神経筋障害理学療法学 ●小児期障害理学療法学 ●骨髄障害理学療法学 ●老年期障害理学療法学 ●内部障害理学療法学 II	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1					
	地域理学療法学				●地域理学療法学			1	○福祉用具・生活環境論総論 ●福祉用具・生活環境論各論	2 1				4	4		
		臨床実習			○臨床実習 I	1		●地域理学療法実習	1	●臨床実習 II	2	○総合臨床実習 I ○総合臨床実習 II	7 7	18	18		
合計				62		37			30	23	152	128					

選:選択科目

※:履修推奨選択科目。国家試験に必要な知識やさらに幅広い知識・技術を習得して理学療法士としての資質向上に必要な科目

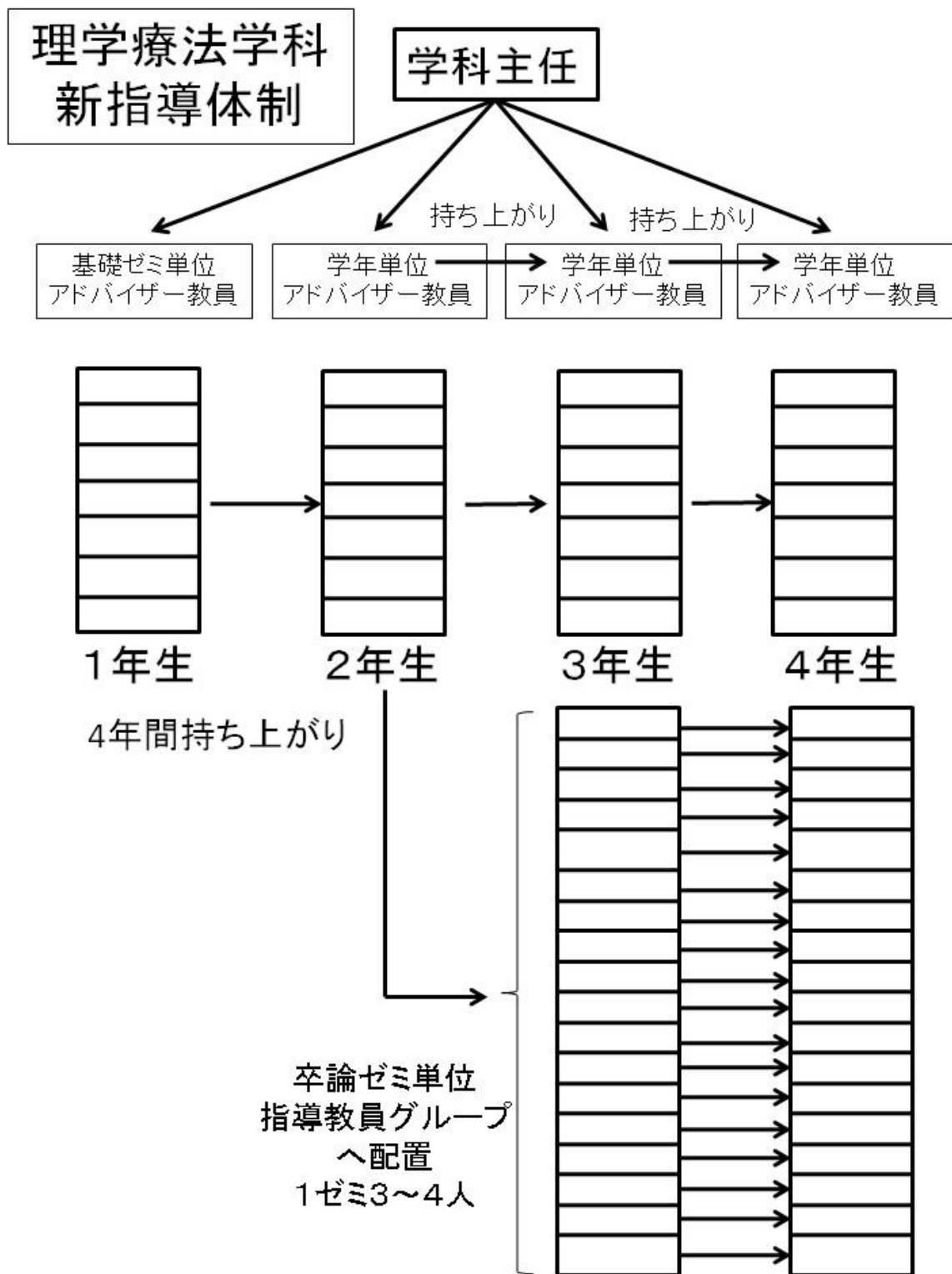


図 4-1 理学療法学科の指導体制

表 4-12 理学療法学科アドバイザー教員の役割一覧

<p>1. アドバイザー教員の基本的な役割</p> <p>1) 担当する学生の履修や学業成績について必要に応じて相談を受け、助言にあたる</p> <p>2) 担当する学生の休学/退学などの身分の異動等について相談を受け、指導する</p> <p>3) 必要に応じて担当する学生との面談を実施し、大学生活についての意見聴衆ならびに必要なアドバイスにあたる</p> <p>4) 授業等についての欠席状況や成績不振等の情報を受けて指導を行う</p> <p>5) 担当する学生に問題が生じた場合には、学生生活課と連携しカウンセリング等指導方法を検討し、指導にあたる</p> <p>2. 基礎ゼミ単位アドバイザー教員特異的な役割</p> <p>1) 基礎ゼミ I および II の講義を実施する</p> <p>2) 新入生合宿研修における指導</p> <p>3) 入学時の様々な不安の解消と問題の解決に個別に対応する</p> <p>4) 学年単位アドバイザー教員と卒論ゼミ単位アドバイザー教員を補助する</p> <p>3. 学年単位アドバイザー教員特異的な役割</p> <p>1) 2年から4年において基本的な役割について責任を持つ</p> <p>2) 臨床実習配置を実習担当教員と協力して行う</p> <p>3) 就職活動について就職課と協力して行う</p> <p>4. 卒論ゼミ単位アドバイザー教員特異的な役割</p> <p>1) 3年後期から定期的に集まり、研究テーマ絞込みと関連する文献の収集、および研究デザインの設定を指導する</p> <p>2) 基礎ゼミ単位アドバイザー教員と就職担当教員を補助する</p>

【評価】

平成 21 年度の自己点検・評価報告書の中で課題として挙げていた事項の改善・解決状況について評価する。

看護リハビリテーション学部は平成 22 年度で完成年度を迎えた。1 期生の教育に関する反省に基づいて、2 期生以降の国家試験全学生合格および優秀な理学療法士養成という目標を達成するために必要な教務システムを構築してきた。

平成 23 年度からは新カリキュラム運用の新生を迎えることになり、旧カリ学生との時間割調整や科目内容の整合性に関して問題点が多く出現することが想定されていたが、学科内の教員の協力のもと時間割の調整によって、順調にカリキュラムを展開することができた。

2 期生および 1 期生の国家試験結果を鑑みて、国家試験の受験に耐えうる基礎学力と応用力を身に付けるための学生教育方法を検討できたが、一時的な対応であり膨大な労力を各教員が注がなければ

ならなかった。より効率よく、質の高い学生を育てるために教育方法の見直しをし、それに基づいてカリキュラムの見直しがさらに必要となる。

ひとまず新カリキュラムの運用によって、学生への教育サービスは充実するものと思われるが、その成果を批判的に観察評価することで、より効果的なカリキュラムの修正を加えていかねばならない。基礎医学や臨床医学において、教員担当が入れ替わることで、特に新生生に関しては解剖学を中心とした基礎医学の実力向上が期待できるが、来年度国家試験を控える5期生に関しては、1期生と同じく基礎医学の知識不足と応用力の低下が継続するため、総合臨床実習終了後の半年で以下に実力を高めるかが教務委員としても大きな課題となる。これについては国家試験委員と綿密に連携を取りながら議論を進めていくべきであろう。

一方、転部・転科試験志願者の急増は見られず、学科内でとどまり最後まで就学しようとする意識がみられる。しかし、年々学力の低い学生を受け入れているので、本当に理学療法士になろうというモチベーションが高いのかどうかは疑わしく、むしろ乏しい学生が増えている傾向にあるので、教育の中で志の向上をより一層刺激していく必要がある。これは教務委員だけでなく、学生生活委員や入試委員など学科全体が検討していかねばならない重要な課題であり、アドバイザー教員間の連携が重要になってくる。

【課題】

来年度も継続した課題は以下の通りである。

- ① 学生の履修状況を常に確認し、学生からの科目履修相談へも対応する。
- ② 学生の遅刻や欠席を減らすように指導し、授業中の勉強意識を高める。
- ③ 学業が低迷する学生には進路変更も含めて、早期の対応に努力する。
- ④ 教育力の向上とカリキュラムの安定的な運用
- ⑤ 国家試験委員と協働して国家試験100%合格を達成できる教務システムを構築する。

①に関して、1年生に対しては、学科の教員が分担して基礎医学を中心に学習を進めてきている。また、基礎ゼミ単位や卒ゼミ単位でのグループ学習にも取り組み学習力向上がみられるが、個人差もありよりいっそうの改善が必要である。学生指導体制は現在のまま継続させ、より少人数の指導体制を構築していく。

②と③に関して、学生の履修状況を常に確認し、今まで以上に個別的な学生指導を進める。学生の履修状況や出席状況、生活状況などについて、アドバイザー教員あるいは講義を担当する教員からの情報を毎回学科会議で報告し、問題ある学生に対してはアドバイザー教員が中心となって迅速に対応できるようにした。学科の全教員が問題ある学生の情報を共有することにより、全教員が偏りのない統一した指導を行い、教員のチームワークで問題解決を効果的に行うことができています。

④と⑤学生の教育効果を上げるためには、教員の教育力向上が必要である。FD活動としてPBLの導入を検討し始めた。まだまだ学生への教育効果を高めるまでの大きな改善はできていない。

4.3 臨地臨床実習

4.3.1 看護学科

本学部の教育目的は、看護・保健・医療に関する科学的専門的知識・技術を授けるとともに、豊かな人間性を培い、看護、リハビリテーションの視点で高いヒューマンケアの実践能力を備え、基礎的な指導・調整能力を有し、現代社会に貢献できる看護職者および理学療法士を育成し、保健医療福祉の向上に寄与することにある。看護学実習は、看護職を志す学生が、学内で学習した知識・技術・態度を統合し、実際の看護場面で個々の対象者が必要としている看護を展開するという授業の一形態である。この看護の実践の場における体験を通して、看護専門職に必要な看護の本質と方法を学び、自己の看護観や倫理観を高めることをねらいとしている。

既習の知識と技術及び体験を自ら活用し、様々な健康レベルにある人々への援助活動体験を通して、以下のような能力を養うことを目的とする。

<看護学実習の目標>

- ① 対象（個人・家族・集団）との援助的人間関係を形成しながら、対象を全人的、総合的に理解する能力を培う。
- ② 科学的思考に基づいて対象独自の健康に関するニーズを明確にし、系統的な看護実践ができる基礎的能力を培う。
- ③ 対象への援助過程を通して、多様な年代・特徴を有する特定の健康問題を持つ人びとの看護の独自性・専門性について学ぶ。
- ④ 看護の実際を通し、看護倫理の基本的原理およびそのルールについて理解を深める。
- ⑤ 今ある健康を支えるための社会資源を知り、その適切な活用がわかる。
- ⑥ 医療・保健、福祉および教育などのチームのメンバーとしての役割と協働のあり方を学び、またヘルスケアシステムにおいての看護の機能と役割がわかる。
- ⑦ 看護の特殊性・専門性を学び、自ら学習する能力と研究的態度が身につく。

【現状】

実習委員会は月に1度のペースで開催し、構成メンバーは全領域の教員による。看護学科における臨地臨床実習全体を委員会が網羅しており、その中で学生の実習の状況や進捗状況などをリアルタイムに共有している。平成25年度では、1・2年次班、各論班、総合班、4年次班と役割を分担し委員会活動を行った。また、平成23年度からの継続案件であったコアカリキュラムを踏まえた「技術経験録」が完成し、2年次の基礎看護学実習Ⅱから使用開始した。

実習委員会予算は委員会として施設使用費、会議費、その他消耗品等の項目で要求し、執行できている。感染対策は実習委員会だけでなく、学生生活委員会と協同し、1年～4年までの学生オリエンテーション及び講義をプログラム化している。予防接種の経費負担は、提携病院で行うことにより、優遇措置が取られている。

実習中の事故や実習倫理のあり方については、特に3年次の各論実習および4年次の総合実習オリ

エンターションにおいて、講義・演習を行っている。インシデント事故に関しては、実習委員会で報告がなされ、各領域で対応策が取られている。実習の倫理的問題については、「看護倫理」を4年次後期に受講することで倫理的感受性をさらに高めるプログラムを組んでいる。

実習施設の確保は、実習施設的环境と入院患者の状況を鑑みながら継続して行っている。平成23年度～25年度にかけては、小児看護学実習で大阪赤十字病院、保育所、母性看護学実習では大阪厚生年金病院、大阪赤十字病院、成人看護学実習Ⅱでは、大阪市総合医療センター、淀川キリスト教病院、老年看護学実習ではコスモス苑、兵庫ミドリ苑、すばる魚崎の郷、神戸ポートピアステイを開拓した。公衆衛生看護学（地域看護学）実習は、平成23年度入学生より選択生となり、実習内容も産業・学校保健に対応すべく、企業、学校（小中高）の実習を開拓した。

ポートフォリオについては、成人看護学実習Ⅰが試験的に行っており、その具体的内容を学内のFD研修会で共有した。

【評価】

本学の実習指導体制は、教員が引率することによって、実習場と協力関係が良好であるため、実習環境は年々改良されている。一方で、施設側から、病棟毎に1名の教員配置を要望が出されている。また、病棟で実習する学生数がこれまで以上に制限している実習施設も増え、さらに感染症発症による実習中断の状況が起こっている。

ポートフォリオの効果については、現状報告で終わっているため、今後FD委員会と協働して、導入を進める必要がある。

【課題】

- (1) 実習中の事故やインシデントについては、これまでの状況をまとめ、内容を吟味し、対応策を検討する
- (2) 実習領域によっては、実習施設が大阪に偏っているため、神戸近郊の実習施設を開拓する必要がある。
- (3) 実習期間中における教員数の絶対的不足があるため、組織的な実習助手の確保が必要である。
- (4) ポートフォリオの導入を検討する。

4.3.2 理学療法学科

1) 理学療法学科臨床実習の基本的な考え方

臨床実習は、教育課程のすべての項目に関連した理学療法士養成に必要不可欠な教育科目群である。臨床実習では、既習の知識・技術・態度を統合し、理学療法の臨床場面を通して、総合的実践能力を養うことをねらいとしている。理学療法教育の集大成となる臨床実習の充実を図るため、適切な実習施設の確保を行うとともに、実習指導者との連携体制を確立し、教員及び実習指導者による指導体制の展開を目指している。実習は、年間計画表に従って保健医療福祉分野の各実習施設で行う。

2) 理学療法学科臨床実習科目の目的

平成 23 から平成 25 年度に行った各臨床実習の目的は以下のようなものである。

(1) 臨床実習Ⅰの目的

臨床実習Ⅰは、早期体験実習として行う。そのため、目的は、学生が早い時期に、実際の理学療法士が活躍する臨床現場を見学することで、医療・福祉分野における理学療法士の業務内容や他職種との連携を学び、理学療法士への動機付けと学習意欲の向上を図ることである。

(2) 地域理学療法実習の目的

地域理学療法実習は、少子高齢化・脱施設化に伴う現在の医療情勢において、今後理学療法士の活躍の場となる、地域リハビリテーションを理学療法士養成過程の早期に見学する科目である。地域リハビリテーションを早期より見学することで、地域理学療法への興味を深め学習意欲の向上を図る。

(3) 臨床実習Ⅱの目的

臨床実習Ⅱは臨床現場において臨床実習指導者の指導・助言のもと、基本的検査・測定を実践し、1 年次より 3 年次までに学習した科目の知識・技術を再確認する科目である。本実習では、対象者の問題点抽出や、記録・報告など理学療法における評価の過程を体験し、4 年次配当の総合臨床実習Ⅰ・Ⅱに臨む意識付けを図る。

(4) 総合臨床実習の目的

総合臨床実習Ⅰ・Ⅱでは、臨床実習指導者の指導・助言のもと、対象者の評価・治療プログラムの立案を学び、学内授業で習得した理論と技術を応用し実践する。理学療法部門の業務・管理・運営を学ぶだけでなく、医療機関や福祉施設における各種組織との連携に関しても学習し、専門職としての理学療法士の資質を高める。

【現状】

1) 平成 23 年度

- (1) 理学療法における臨床実習全体の計画立案
- (2) 臨床実習Ⅰの実施計画、実習施設への依頼・調整、手引き作成、オリエンテーションの実施
- (3) 地域理学療法実習の実施計画、実習施設への依頼・調整、手引き作成、オリエンテーションの実施
- (4) 臨床実習Ⅱにかかる計画、実習施設への依頼・調整、手引き作成、オリエンテーションの実施
- (5) 総合臨床実習Ⅰ・Ⅱの施設への依頼・調整、手引き作成、オリエンテーションの実施
- (6) 長期間の臨床実習にかかる臨床実習施設管理プログラムの運営
- (7) 臨床実習時の宿泊費・交通費の自己負担金の分担にかかる説明会の実施および集金の方法の検討・実施について
- (8) 臨床実習Ⅱ、総合臨床実習の実習形態の検討
 - ・クリニカルクラークシップを基本とした実習体系について検討し、本学としての形態のさらなる発展を図った。

- ・評価表の再検討を行った
 - ・臨床実習指導者の指摘、学生アンケート分析を行い、臨床実習を行うにあたっての問題点、今後の検討課題を分析した。
- (9) 実技試験に加え知識確認試験を加えた OSCE の検討と実施
 - (10) OSCE の計画、講師依頼、実施
 - (11) スーパーバイザー会議に関する施設への依頼・調整・実施

2) 平成 24 年度

- (1) 理学療法における臨床実習全体の計画立案
- (2) 臨床実習Ⅰの実施にかかる計画、実習施設への依頼・調整、手引き作成、オリエンテーションの実施
- (3) 地域理学療法実習の実施にかかる計画、実習施設への依頼・調整、手引き作成、オリエンテーションの実施
- (4) 臨床実習Ⅱにかかる計画、実習施設への依頼・調整、手引き作成、オリエンテーションの実施
- (5) 総合臨床実習Ⅰ・Ⅱの施設への依頼・調整、手引き作成、オリエンテーションの実施
- (6) 長期間の臨床実習にかかる臨床実習施設管理プログラムの運営
- (7) 臨床実習時の宿泊費・交通費の自己負担金の分担にかかる説明会の実施および集金の方法の検討・実施について
- (8) 臨床実習Ⅱ、総合臨床実習の実習形態の検討
 - ・クリニカルクラークシップを基本とした実習体系の再検討。
 - ・チェックリストの作成
 - ・心理・社会面での問題のため、実習継続が困難な学生が徐々に目立ってきており、退学する学生も見られるようになった。
- (9) 実技試験に加え知識確認試験を加えた OSCE の検討と実施
- (10) OSCE の計画、講師依頼、実施
- (11) スーパーバイザー会議に関する施設への依頼・調整・実施

3) 平成 25 年度

- (1) 理学療法における臨床実習全体の計画立案
- (2) 臨床実習Ⅰの実施にかかる計画、実習施設への依頼・調整、手引き作成、オリエンテーションの実施
- (3) 地域理学療法実習の実施にかかる計画、実習施設への依頼・調整、手引き作成、オリエンテーションの実施
- (4) 臨床実習Ⅱにかかる計画、実習施設への依頼・調整、手引き作成、オリエンテーションの実施
- (5) 総合臨床実習Ⅰ・Ⅱの施設への依頼・調整、手引き作成、オリエンテーションの実施

- (6) 長期間の臨床実習にかかる臨床実習施設管理プログラムの運営
- (7) 臨床実習時の宿泊費・交通費の自己負担金の分担にかかる説明会の実施および集金の方法の検討・実施について
- (8) 臨床実習Ⅱ、総合臨床実習の実習形態の検討
 - ・チェックリストの内容変更を行った。
 - ・心理・社会面での問題のため、実習継続が困難な学生が本年度も目立った。実習施設へも多大なご迷惑をかけている現状がある。
- (9) OSCE 実技試験時のビデオ撮影とその指導への活用をおこなった。さらに、実施試験内容の変更を行った。
- (10) OSCE の計画、講師依頼、実施
- (11) スーパーバイザー会議に関する施設への依頼・調整・実施
- (12) 臨床実習担当教員の必要性についての検討と大学への提言

【評価と課題】

1) 平成 23 年度

- (1) 実習施設の確保に関しては、
 - ・ 学生の居住地を考慮しより多くの施設を確保しておくこと。実際に大学病院を含め数件の新たな実習施設確保が行えた。
 - ・ 急性期医療から在宅ケアまで、より幅ひろい機能を有した実習施設を確保すること、
 - ・ 実習施設との関係を密にとり、本学の教育目標を理解していただいた上で臨床実習を行っているだけの施設を確保すること。
- (2) 臨床実習を行う上で、学内教育で足りない部分（主には、解剖、生理、運動学の基礎知識）をどのように行うか、実習前の再学習をどのように行うかを検討する。主には知識確認試験の適切な実施方法を再検討し、その分野の再学習を行うことが必要と考える。
- (3) 現在の社会情勢や学生にとって、よりよい臨床実習を行うためにどのような方法があるのかを検討し続けること。
- (4) 評定方法の再検討を行い、臨床実習Ⅱに関しては、評価表の一部改正を行った。

2) 平成 24 年度

- (1) 実習施設の確保に関しては、
 - ・ 横浜市立大学、広島大学病院などの施設の確保は達成できたが、今後も教育機関としての質の高い施設の確保に関すること。
- (2) 臨床実習を行う上で、学内教育で足りない部分（心理・精神面、社会性、知識）をどのように補うか、実習の再学習をどのように行うかを継続的に検討する。特に、心理・精神面での問題への対応は急務である。学生の精神面へのフォロー、症状に応じた対応、それらの問題を抱える学生

を受け入れていただく実習施設の確保が必要である。本年度は、スーパーバイザー会議で臨床心理士の先生に、臨床実習における精神面への対応について講義をしていただいた。

(3) チェックリストの活用と使用結果の検討を行った。

3) 平成 25 年度

(1) 実習施設の確保に関しては、

- ・ 順天堂大学、神戸大学医学部付属病院などの施設は確保できたが、今後もさらに教育機関としての質の高い施設を確保し続けること

(2) 実習中の心理・精神面での問題、学習が進まない学生への対応

- ・ 伊丹恒性脳神経外科病院に臨床実習担当教員の配置を行うことが決定された。
- ・ 平成 26 年度実習からは、この施設での実習をより効率的に行うための検討が必要である。
- ・ 現状では、精神・心理面での問題を抱える学生の実習施設として、追加実習施設として、継続的・より長期的な学習指導が必要な学生の実習施設として、利用する。
- ・ 今後、担当学生数、実習期間の工夫等が必要と考える。

(3) チェックリスト、評価表の再検討

- ・ クリニカルクラークシップによる実習を進めるために、評価表の変更、チェックリストの再検討および利用法の変更が必要である。具体的には、現状の評価表をチェックリストを中心としたものに変更する。それにより、レポートが重要視される実習・評価でなく、臨床経験・実施が重要な評価項目となる実習形態を目指す。

4. 4 研究科設置準備委員会

4. 4. 1 看護学科

【現状】

平成 23 年度は、文科省申請を取り下げ、次年度申請に向けて準備した。

4. 4. 2 理学療法学科

【現状】

理学療法学科研究科設置準備委員会は、大学院（修士課程）設立を目指して以下の活動内容を企画、運営した。

表 4-13 理学療法学科研究科設置準備委員会の活動内容

年度	活動内容
平成 23 年度	文科省申請と取り下げ後の対応検討
平成 24 年度	4 月 18 日 第 1 回会議 1. 平成 27 年度大学院開設に向けて新たな大学設置準備委員会の立ち上げ 組織委員：八木・辻下・川村

	<p>2. 経緯・現状説明、今後の課題検討</p> <p>3. 理学療法学科学位保有状況一覧表作成 (博士5、修士9名、学士1、専門士3)</p> <p>5月16日 第2回会議</p> <p>1. 平成24年度からは、理学療法学科を中心とした新たな大学設置準備委員会を設置し、平成27年度大学院開設に向けて準備を行う方針とし活動を開始した。</p> <p>2. 多様な大学院の設置形態を検討するための他大学調査の実施</p> <p>8月20日 第3回会議</p> <p>1. 理学療法学科が単独で大学院を開設するのは、国内で前例がないが、調査・検討した結果、単独で大学院を開設する方針は継続し、整備・充実することとした。</p> <p>2. 平成25年度の文科省申請に向けて準備する方針とした。</p> <p>3. 自己点検・自己評価委員会と協力していく。</p> <p>8月22日 第4回会議 (理学療法学科学科会議)</p> <p>大学院設置準備委員会提言(案) 議題提出 (本会議にては賛同を得た。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学院構想の確立に向けての措置 <p>1. 研究科創設要件</p> <p>1) 教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・○合教員：6名以上 ・合教員：数名以上 <p>2) 学位</p> <ul style="list-style-type: none"> ・○合教員：博士号 ・合教員：博士号あるいは修士号 <p>3) 担当科目のための論文業績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・○合教員：担当科目に対して過去5年間で査読付き論文5本以上 (主著者の論文5本以上が望ましいが、共同著者の論文が数本含まれていても良い。) ・合教員：担当科目に対して過去5年間で査読付き論文5本未満 <p>2. 基本構想</p> <p>1) 研究科 (大学院 修士課程) の意義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高度専門職業人育成 ・研究者育成 <p>2) 研究科名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理学療法学研究科 (事前に文部科学省受付官の本研究科名に対する解釈を確認することが不可欠である。) ・リハビリテーション学研究科 <p>3) 研究科開学年月</p> <p>第一案：平成27年4月 (平成26年4～8月申請開始) (準備期間：2年間)</p> <p>第二案：平成28年4月 (平成27年4～8月申請開始) (準備期間：3年間)</p> <p>4) 業績集積体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当理学療法学科内での協力体制：筆頭著者と共同著者の相互協力 ・他施設との共同研究への参画 <p>5) 学部及び対外的業務のスリム化による研究科創設要件充足のための機会確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学位取得 ・査読付き論文作成と蓄積 <p>3. 文部科学省申請に向けての措置</p> <p>1) 大学院設置に向けた新たな人材の確保と専任教員の準備の促進</p> <p>(1) 自己点検・自己評価委員会と協力の強化</p> <p>(2) 目標の平成27年の大学院設置に向けての合および○合教員を合計12人必要と</p>
--	--

	<p>するために、さらなる専任教員の研究活動と学位獲得の促進</p> <p>(3) 大学院設置申請の準備に必要な予算計画の立案</p> <p>(4) 大学院設置に必要な施設や機器を整備するための予算計画の立案</p> <p>(5) 理学療法学科単独での大学院設置はかなり高いハードルがあり、文部科学省の担当部門に指導を仰ぐことや専門のコンサルテーションへの依頼なども含めた予算計画の立案</p> <p>(6) 大学院設置についての施設や機器などの整備が必要となるための平成 26 年度内での整備に向けた予算計画の立案</p>
平成 25 年度	<p>4 月 4 日 第 1 回会議 (全国調査)</p> <p>単科学科の研究科の存在確認は、インターネット調査では、探し出すことはできなかった。</p> <p>4 月 29 日 第 2 回会議</p> <p>1. 大学院構想の確立に向けての措置</p> <p>1) 大学院開設に向けて新たな大学設置準備委員会の設置</p> <p>2) 大学院開設に向けての大学院設置準備委員会の構築</p> <p>平成 25 年度は、理学療法学科内および他施設との共同研究体制下での研究力強化・研究業績の蓄積化および学位取得体制強化などに主に取り組んできた。特に、研究論文蓄積のための方略は、基礎研究および臨床研究を個人で行い、そのことによる研究論文を蓄積していくことが、効率の悪いので、本年度からは、研究の立案・実施および研究論文の作成・蓄積には、4 研究グループを組織し、その中で、リーダーとサブリーダーを決めて、グループメンバー全員が一致団結して協力運営体制を行うこととなった。</p> <p>3) 多様な大学院の設置形態を検討するための他大学調査の実施</p> <p>4) 理学療法学科単独で研究科を設置している例がなく、参考とするモデルとして不相当と考えられたため、単科学科での研究科設置計画を中止した。</p> <p>2. 文部科学省申請に向けての措置</p> <p>1) 自己点検・自己評価委員会の協力体制の強化</p> <p>2) 大学院設置に向けて新たな人材の確保と専任教員の準備の促進</p> <p>3) 大学院開設は、平成 28 年度を目指すことになった。</p> <p>4) 大学院設置に向けた人材の育成・確保と専任教員の準備 (学位取得・研究力強化・業績の蓄積化) について</p> <p>当大学院設置準備委員会は、平成 28 年 4 月の大学院設置を目指し、理学療法学科内および他施設との共同研究体制下での研究力強化・研究業績の蓄積化 (4 研究グループ一致団結化)、学位取得体制強化 (昨年度に比べ博士号取得者 1 名増員・既取得者 1 名増員 現在 : 計 6 名) などに取り組んできた。さらに、具体的な大学院の形態構築のために議論を重ね、現在は、以下の大学院の名称案と形態案を考えている。</p> <p>甲南女子大学大学院健康科学研究科健康科学専攻</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 女性健康障害コース (修士 健康科学) ・ 運動器理学療法学コース (修士 理学療法学) ・ 内部障害理学療法学コース (修士 理学療法学) <p>上記の大学院の名称と形態案は、さらに、見直す必要性があり、今後、検討を行う方針である。</p> <p>5) 大学院設置申請の準備に必要な予算計画の立案</p> <p>6) 大学院設置に必要な施設や機器を整備するための予算計画の立案</p>

7)平成26年度予算計画立案は、学内関係者の調整を踏まえて、事前に、大学院設置委員会の委員3名が、文部科学省の所轄課に出向き、大学院設置のための情報収集と指導を仰ぐために2回は、東京の文部科学省に出張することを立案した。

6月3日 第3回会議

大学院形態(案)作成

1.名称:甲南女子大学大学院健康科学研究科
女性健康科学専攻——女性健康障害学コース(修士 健康科学)
理学療法学専攻——高齢者理学療法学コース(修士 理学療法学)
内部障害理学療法学コース(修士 理学療法学)

2.教育理念

本学看護リハビリテーション学部は、日本で唯一の女子大学における理学療学科を持ち、女性の健康科学の一分野である女性の健康障害に関わる尿失禁、妊産婦の腰痛、乳癌術後リンパ浮腫、女性のスポーツ障害などのWomen's health careに関わる理学療法を実践するための教育に特に力を注いできた。

一方、少子高齢社会の進展に伴い、療養・介護期間の長期化への対応や在宅ケアの拡充と質の向上、利用者本意のサービス提供の基盤づくりなどの課題が増大しており、高齢期においては住み慣れた地域で質の高い生活を送れる取り組みが求められている。

このようなニーズに応えるため、本学大学院では「女性の健康障害に対応出来る高度専門職業人あるいは少子高齢化社会における医療・保健・福祉分野で活躍できる人材の育成を推進」を目的として、医療・保健・福祉に関わる広い知識と技術を持つ高度専門職業人を育成することを目標とする。

3.教育目標

本大学院では、学生が終了時に次の能力を身につけることを目標とする。

1)Women's health care(尿失禁、妊産婦の腰痛、乳癌術後リンパ浮腫、女性のスポーツ障害など)や少子高齢社会の進展に伴い、療養・介護期間の長期化への対応や利用者本意のサービス提供の基盤づくりなどの課題について、現場で実践した内容を体系的に整理し、理学療法を實踐して社会に発信し、貢献できる能力を持つ人材の育成

2)施設、地域、行政などの現場において、女性としてリーダーシップを発揮し活躍できる人材の育成

4.形態・教員配置

2専攻3コース

女性健康科学専攻——女性健康障害学コース

(辻下守弘・服部耕治・松谷綾子・伊藤浩充・瀬藤乃理子・竹内さをり)

理学療法学専攻——高齢者理学療法学コース

(八木範彦・神沢信行・川村博文・鈴木順一・西上智彦・川勝那浩・永田昌美)

理学療法学専攻——内部障害理学療法学コース

(間瀬教史・芝 寿実子・高嶋幸恵)

5.課程および修得可能な学位

修士課程

女性健康科学専攻 修士(健康科学)

理学療法学専攻 修士 (理学療法学)

6. 開設時期 平成 28 年 4 月

10 月 16 日 第 4 回会議・11 月 20 日 第 5 回会議

甲南女子大学大学院健康科学研究科 (案)

1. 名称：甲南女子大学大学院健康科学研究科

女性健康科学専攻——女性健康障害学コース (修士 健康科学)

理学療法学専攻——高齢者理学療法学コース (修士 理学療法学)

理学療法学専攻——内部障害理学療法学コース (修士 理学療法学)

2. 教育理念

本学看護リハビリテーション学部は、日本で唯一の女子大学における理学療法学科を持ち、女性の健康科学の一分野である女性の健康障害に関わる尿失禁、妊産婦の腰痛、乳癌術後リンパ浮腫、女性のスポーツ障害などの Women's health care に関わる理学療法を実践するための教育に特に力を注いできた。

一方、少子高齢社会の進展に伴い、療養・介護期間の長期化への対応や在宅ケアの拡充と質の向上、利用者本意のサービス提供の基盤づくりなどの課題が増大しており、高齢期においては住み慣れた地域で質の高い生活を送れる取り組みが求められている。

このようなニーズに応えるため、本学大学院では女性の健康障害に対応出来得る高度専門職業人ならびに少子高齢化社会における医療・保健・福祉分野で活躍できる人材の育成を推進することを目的として、医療・保健・福祉に関わる広い知識と技術を持つ高度専門職業人を育成することを教育の基本理念とする。

3. 教育目標

本大学院では、学生が修了時に以下の、1)と 3)を組合せた能力、あるいは、2)と 3)を組合せた能力を修得することを教育目標とする。

- 1) 女性の健康障害に関わる尿失禁、妊産婦の腰痛、乳癌術後リンパ浮腫、女性のスポーツ障害などの Women's health care に対応した研究能力および実践能力
- 2) 少子高齢社会の進展に伴い、療養・介護期間の長期化への対応や利用者本意のサービス提供の基盤づくりなどの課題について、現場で実践した内容を体系的・科学的に整理し、理学療法を実践して社会に発信し、貢献できる能力
- 3) 施設、地域、行政などの現場において、女性としてリーダーシップを発揮し活躍できる能力

4. 大学院組織形態・教員配置

本組織形態は、2 専攻 (女性健康科学専攻・理学療法学専攻)、3 コース (女性健康障害学コース・高齢者理学療法学コース・内部障害理学療法学コース) とする。

女性健康科学専攻——女性健康障害学コース

(辻下守弘・服部耕治・松谷綾子・伊藤浩充・瀬藤乃理子・竹内さをり)

理学療法学専攻——高齢者理学療法学コース

(八木範彦・神沢信行・川村博文・鈴木順一・川勝那浩・西川仁史・西上智彦・永田昌美)

理学療法学専攻——内部障害理学療法学コース

(間瀬教史・芝 寿実子・高嶋幸恵)

5. 大学院課程および修得可能な学位

	<p>大学院過程は、修士課程とする。 修得可能な学位は、女性健康科学専攻では修士（健康科学）、理学療法学専攻では、修士（理学療法学）とする。</p> <p>6. 大学院開設時期 平成 28 年 4 月（平成 27 年 4～8 月申請開始）</p> <p>7. 教員定数 ・○合教員：6 名以上 ・合教員：数名以上</p> <p>8. ○合教員・合教員条件 (学位) ・○合教員：博士号 ・合教員：博士号あるいは修士号 (担当科目のための論文業績) ・○合教員：担当科目に対して過去 5 年間で査読付き論文 5 本以上（筆頭論文 5 本以上が望ましいが、共同著者の論文が数本含まれていても良い。） ・合教員：担当科目に対して過去 5 年間で査読付き論文 5 本未満</p>
--	---

【評価】

1) 平成 23 年度

新たなる研究科設置準備委員会を設置するための人材を発掘するために検討が行われ、今までの委員から新たなる委員の増員配置を検討した。それには、大学院設置の経験と実績のある委員を外部から誘致することが重要である点に注目して委員の増員の検討を行った。

2) 平成 24 年度

大学院を設置するためには、構成教員の学位と業績が不足しているために、大学院の申請時期を平成 26 年にして平成 27 年 4 月開学を目指すために共同研究システムを提案することとした。

3) 平成 25 年度

平成 24 年度の状況から判断して平成 27 年度開学は困難である可能性があるために、平成 28 年 4 月開学を目指す構想を立案した。さらには、大学院の形態は当初、1 専攻 3 コース、修正案として 2 専攻 3 コースも立案した。今後は、学位の獲得と業績の集積を倍増していくことが重要である。

【課題】

1) 平成 23 年度

大学院の設置申請を取り下げた後の今後の取り組み計画立案には難渋したが、再度、大学院設置のための申請を行うためには、より適切な人材の育成が不可欠であることが再認識された。

2) 平成 24 年度

再度、設置目標年度には、平成 27 年度を掲げることにしたが、そのためには急速な学位取得を目指す教員の倍増と業績を確保するためには共同研究等を行いつつ集積することが重要であるとの合意が得られ、そのための実践が課題として挙げられた。

3) 平成 25 年度

現実的な設置計画に基づく計画の修正案が提案され、平成 28 年度の設置案が出された。そのためには平成 26 年度の学位取得者の増員と業績の倍増が余技なくされ、平成 27 年 3 月には設置申請書を文部科学省に提出する必要があるために、一学科の上に大学院ができるのかの切実な課題の検討および具体的な学位取得・業績集積の大きな課題への取り組みが最重要課題となる。

4.5 その他、教育・研究に関する支援

4.5.1 施設設備

4.5.1.1 看護学実習室

【現状】

1) 実習室使用のしおりと心構え

1 号館に配置する看護学実習室は、より臨床に近い環境で学生が演習や実習を行うような指導を必要としている。そのためには、実習室の使用の方法と心構えを学生に示す必要がある。看護学実習室（基礎、基礎・成人・老年）で、「基礎看護学実習室使用のしおりと心構え手引き」を作成し、学生が、自己学習で使用する利用時間および利用手続き、また講義・演習で実習室を使用する場合の注意点や心構え、身だしなみ、使用後の整備・清掃など具体的に示している。また、そのしおりに基に他の 3 つの実習室（成人・老年）、（小児・母性・助産）、（地域・精神・在宅）においても、使用の手引きを作成している。

2) 物品および管理

各実習室にはその領域管理の機器・器具が収納されている。その内容や管理については、初年度から各領域別に物品管理係を設置し、各実習室の配置図および物品一覧表を作成し、学生数の増加に合わせて物品数も確保している。表には物品、メーカー名、数量、収納場所、管理領域を明記してある。また、物品貸借の手続きを作成しサイボウズのファイル管理にアップして、円滑な管理と物品の使用ができる。取扱説明書についてはファイルを事務室に保管し、常に閲覧できる。また、完成年度を迎えて年数を重ねてきており、使用頻度も多くなっているため、常に安全に使用できるように物品のメンテナンスを行っている。

人体解剖模型等の共通標本については、まとめて一室（230 教室準備室）に保管し、実習室同様に物品一覧表を作成している。配置に変更があった場合には、随時修正し、必要時に迅速に使用できるよう管理している。管理に関しては、共通標本管理担当者を設置し、学生の教育に有効な使用方法を

検討し提供を心がけている。

【評価】

学生数の増加により、学内演習のための自己学習機会の確保のため、基礎・成人・老年実習室を設けたことで自己学習のために実習室を使用する学生が増えている。ロッカー室の移動および演習時の教室の移動時に実習靴のまま屋外を歩行し実習室の使用ルールに違反したり、瞬間式頭髪塗料の使用による実習室のリネン等の汚染があったり一部の学生にあった。学生の実習室専用靴の使用時の経路および頭髪塗料の全面使用禁止を学生に周知した。実習委員会は看護を学ぶものとしての態度や技術を養うためには、学内においても心構えや身だしなみの指導を徹底させることが重要と考えている。

【課題】

自己学習で使用している学生は、1・2年生が圧倒的に多い。3・4年の臨床実習に向けての自己学習および就職に向けての卒業前の使用についても学生に働きかける必要がある。

4.5.1.2 理学療法学実習室

【現状】

理学療法学の専門基礎科目や専門科目のうち、主に学内実習で教授する必要がある科目のための施設・設備は、1号館の1階に日常生活活動実習室、運動生理学実習室、義肢装具学実習室兼工作室、運動学実習室、2階には物理療法実習室、水治療実習室、運動療法実習室、基礎医学実習室が設置されている。各室には、講義と実習との目的に併用が可能となるように、ビジュアルエイドや音響設備なども装備されている。個々の学生がもれなく体験学習できるように機器・備品・消耗品が整えられている。高価な機器に関しては、実習だけでなく研究のためにも整備されており、特に4年次の卒業研究課題に取り組むことができるように準備されている。

【評価】

専門基礎科目や専門科目の授業では、ほぼ全般的に利用している。しかも、授業時間外には学生の自己学習(実技実習)にも利用することが多くなってきている。このような中で入学者数を定員の120%近く受けるようになってきており、各室の収容可能人数に限りがあるため、1学年全員が各実習室を一度に利用するには限界になりつつある。

高価な機器に関しては、4年次の卒業研究課題にほとんどの学生が利用している。さらに、学外の臨床実習協力施設の理学療法士も共同研究の実践に利用し、その成果も毎年公表されている。その一方、機器備品は耐用年数を越えつつ老朽化傾向にある。

【課題】

入学者の定員超過に対して、十分な設備を整えていく必要がある。消耗品関係は毎年の予算に計上

して対応しているが、実習室の空間に関しては対応困難なので、今後、学舎拡充に向け、学園への要求をしていく必要がある。

老朽化しつつある機器備品に関しては、順次、新規購入・補充をしていく必要があるが、毎年の予算計上限度額を考慮し、授業に支障を来さないように購入計画をしていく必要がある。

4.5.2 図書

【現状】

1) 施設・設備

(1) 図書館の蔵書数

図書館は学部・大学院の教育および研究活動を支える基盤として重要な役割を果たしている。蔵書数は看護学・理学療法学等の医学図書をはじめ、文学・社会学の専門書や新書・文庫本など47万冊を蔵書している。その中には貴重図書や特殊文庫なども含まれ、雑誌等は研究紀要を含めると5,300タイトルの所蔵となる。平成23年度からの看護リハビリテーション学部の図書および雑誌の購入額を表4-14に示す。年度を重ねるごとに図書の充実が図られている。また、蔵書以外の電子媒体の充実も図られ、複数の電子ジャーナルやオンライン・データベースが学内で利用が可能となっている。医学系のデータベースとしては医学中央雑誌やCINAHAL、メディカルオンラインが利用可能である。図書館内に統合されたメディアセンターでは多様な分野に対応する10,000点を超える視聴覚資料が配置され、その中で医療系のメディアは、481タイトルが収蔵されている。

表4-14 看護リハビリテーション学部の図書費決算額 (単位：円)

	平成23年度	平成24年度
看護学科	3,226,399	*3,641,692
理学療法学科	1,196,081	1,600,000
データベース購入費	4,007,700	4,217,700
合計	8,430,180	9,459,392

(*看護学研究科を含む。年度の決算は次年度の集計報告となるため2年間の報告とする)

(2) 図書館開館時間

平成23年度看護学研究科の開設に伴い延長された、平日の開館時間と土曜日の開館は更に時間が延長された。授業期間及び試験期間は平日9:00~21:00、土曜日9:00~17:00、授業期間及び試験期間を除く休業期間は平日9:10~16:50に拡大され、利便性が高まった。一方、メディアコーナーの利用時間は、平日9:00~19:00までの利用に制限されている。

(3) 図書館利用状況

図書館の全入館者数・開館日数・1日平均利用者数を表4-15に示す。前回集計時の平成22年度の

全入館者数 86,191 名（1 日平均 348 名）に比較し、平成 23 年度は全入館者数 92,683 名（1 日平均 343 名）、平成 24 年度はでは全入館者数 95,871 名（1 日平均 368 名）と年度ごとに増加傾向が認められている。また開館時間延長における利用状況を調査した平成 24 年 4 月 5 月 2 ヶ月間の利用状況では、17 時以降の図書館入館者が 1,460 名で 1 日平均 35.6 名であった。この結果は 21 時のタクシー利用にも反映され、平成 24 年度 1 年間ではタクシー利用者 1,670 名（配車 492 台）のうち、86% が看護リハビリテーション学部の学生であった。（表 4-16）

(4) 図書館内学習室の設置

平成 23 年度、図書館内で複数グループの学習が可能となる学習室設置のための要望を提出、平成 24 年度予算要求を行い、平成 25 年度には図書館 1 階に 54 席程度の複数グループでの学習が可能であるラーニングコモンズ（騒音防止の整備）が設置された。学生には好評でよく利用されている。

2) 図書館を利用した授業活動

図書館の効果的な活用を目指す目的で、新入生を対象にライブラリーツアーを企画、OPAC を利用した検索練習や、百科事典や新聞のデータベースを利用した検索方法を学習する機会を設けた。また 3 年生を対象に卒業研究やレポート作成に図書館を有効に利用する目的で、館内の資料から他の資料情報まで、国内外のデータベース・電子ジャーナルにアクセスし検索する文献検索講座を企画・実施した。

3) 貴重書展の開催

例年、図書館所蔵の貴重書を展示した貴重書展を開催している。平成 22 年度は甲南女子学園創立 90 周年記念行事として、755 名の参加が得られた。平成 23 年度はヘミングウェイと上方役者絵の貴重書展に 144 名の参加、平成 24 年度はディケンズ・英語児童文学 平家物語の貴重書展に 420 名の参加、平成 25 年度は詩（ワーズワスを中心に）・万葉集と神戸の貴重書展に 333 名の参加があり、学内関係者だけでなく近隣の人たちに対する公益的な活動も行われている。

4) 実習指導者への図書館利用の解放

現在、実習指導者への図書館利用サービスとして、本学図書館の図書・雑誌の閲覧、コピーが可能となっている。但し Web を活用しての検索ができないことや、図書・雑誌は禁帯出となっているため、利用を促進するための更なる検討が必要と考えられる。

表 4-15 図書館の全入館者数・開館日数・1 日平均（人数）

	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度
入館者数	86,191	92,685	95,871
開館日数	248	270	252
1 日平均入館者数	348	343	368

(* 年度集計は次年度の報告となるため 3 年間の報告とする)

表 4-16 平成 24 年度タクシー利用者一覧 (人数)

学部	文学部	人間科学部	看護学科				理学療法学科			
	1~4	1~4	1	2	3	4	1	2	3	4
計			65	301	477	60	110	124	135	167
合計	85	144	903				536			

5) 研究紀要

平成 23 年度に看護リハビリテーション学部研究紀要第 6 号を発刊し、平成 24 年度に第 7 号、平成 25 年度に第 8 号を発刊した。第 6 号は 11 編、第 7 号は 7 編、第 8 号は 10 編の投稿があった。紀要の編集は各学科図書委員が兼務し、査読者の決定やなど編集に関わる作業を企画・実施している。紀要の編集も 8 回目を経験し、投稿募集から最終校正・英文校正証明の提出など、特筆すべき問題もなく発刊が可能となってきている。但し、看護学研究会が設置されるまでの投稿数と比較した場合、明らかに投稿数が減少している。今後は図書委員が積極的に関与して、紀要の投稿を促す必要がある。

【評価】

図書館における施設面に関しては、図書・雑誌・メディアの収蔵数は毎年増加し、電子媒体に関しても、利用に関する講義などを併せ充実化が図られてきている。また図書館の開館時間延長や開館日の増加、夜間利用者へのタクシー配車等、利用者に対するサービスの向上により、利用者数も増加している。看護リハビリテーション学部の学生に利用状況が高いことは、学習させるための授業展開が効果的に作用している表れともいえる。

研究紀要は第 6 号、7 号、8 号を発刊した。投稿募集から査読・校正を経て発刊までのプロセスには特段問題は認めず、概ねスケジュール通りで発刊が可能であった。但し倫理的な配慮に関する投稿論文の取り下げや、執筆者と査読者間における投稿分野の認識の違いなど、図書委員が調整に入る場面が数件認められた。

【課題】

(1) 図書館蔵書数と図書の選書に関して

蔵書数の増加など、学生の学びをサポートする環境は整備されてきている。但し常に進歩する医療を学ぶために必要な書籍やメディアに関しては、最新の医学的情報を得ながら図書の選書を行う必要がある。

(2) 図書館利用率の向上について

夕方 17 時以降の利用状況からも、看護学科と理学療法学科では学年により利用状況が異なる結果が示されている。原因分析をするとともに、利用状況の少ない学年には利用を促進する働きかけを、利用状況が良好な学年には更に利用を高めるように働きかけを行い、学習に対する学生の自主性や積極性を高める取り組みが必要と考える。

(3) 研究紀要について

研究紀要の創刊当時に比較して明らかに投稿数の減少が認められている。一般的に研究業績の投稿は、各教員が所属する関係学会が第一選択といえる。しかし学部の紀要を充実させることが、結果的には学部教員の研究者としての資質向上つながると考えられる。そのため紀要の投稿数を増やすだけでなく、原著論文の投稿が増えるような働きかけが必要と考えている。

文責：看護学科	教務委員会	玉木敦子
	教職課程委員会	森 圭子
	臨地実習委員会	森 圭子
	図書委員会	池内佳子
理学療法学科	教務委員会	伊藤浩充
	臨床実習委員会	間瀬教史
	理学療法学科研究科設置準備委員会	川村博文
	図書委員会	鈴木順一

第5章 教育・研究・社会（地域貢献）活動

5.1 教育・研究・社会（地域貢献）活動

5.1.1 看護学科

氏名	吾妻 知美	職名	教授
専門分野	基礎看護学		
担当授業科目	<p>【学部】看護学概論Ⅰ，看護過程，看護理論，総合看護（看護研究），看護学概説，基礎看護学実習（Ⅰ，Ⅱ），総合実習</p> <p>【大学院】看護実践学特講，看護実践学演習Ⅱ，看護実践学特別研究</p>		
主な所属学会	日本看護科学学会，日本看護研究学会，日本看護学教育学会，日本看護管理学会，北日本看護学会，日本口腔ケア学会，日本教育学会，日本カリキュラム学会，医学哲学倫理学会，北海道教育学会，日本精神保健学会		
研究のキーワード	看護技術，看護教育，基礎看護学，教育方法		
平成23・24・25年度研究業績			
論文	<p>〈筆頭〉</p> <p>【研究報告】</p> <p>1) 吾妻知美，岡崎美晴，神谷美紀子，遠藤圭子(2013)．チーム医療を実践している看護師が感じる連携・協働の困難．甲南女子大学紀要 看護学・リハビリテーション学編，第7号：23-33.</p> <p>【実践・症例・活動報告】</p> <p>1) 吾妻知美（2012）．基礎看護学実習において学生が経験した「口腔ケア」の現状－「基礎看護技術経験録」の分析から．日本口腔ケア学会，6(1)：46-50.</p> <p>〈筆頭以外〉</p> <p>【原著】</p> <p>1) 遠藤圭子，岡崎美晴，神谷美紀子，吾妻知美（2012）．チーム医療を推進する看護師に必要とされる能力の検討－他職種と連携する看護師への調査から．甲南女子大学研究紀要 看護学・リハビリテーション学編，第6号：17-29.</p> <p>2) 青木香保里，浅井祐子，荒井眞一，吾妻知美，高野良子（2012）．“甘み”に関する教育内容の再構成と指導．愛知教育大学研究報告（芸術・保健体育・家政・技術科学・創作編），第61輯：75-84.</p> <p>3) 青木香保里，鷺住美里，荒井眞一，吾妻知美，高野良子（2013）．“排泄”に関する教育内容の再構成と指導．愛知教育大学研究報告 第62輯（芸術・保健体育・家政・技術科学・創作編）：93-101.</p> <p>4) 岡崎美晴，江口秀子，吾妻知美，神谷美紀子，遠藤圭子，服部兼敏（2014）．チーム医</p>		

	<p>療を実践している看護師が多職種と連携・協働する上で大切にしている行為—テキストマイニングによる自由記述の分析. 甲南女子大学研究紀要 看護学・リハビリテーション学編 第8号 : 1-11.</p> <p>【実践・症例・活動報告】</p> <p>1) 大森裕子, 江島仁子, 西村美登里, 原田江梨子, 吾妻知美 (2013). 看護学科における学生生活支援に対する学生評価-アドバイザー制度に関する調査票の分析から-. 甲南女子大学研究紀要 看護学・リハビリテーション学編, 第6号 : 57-64.</p> <p>2) 齋藤深雪, 鈴木英子, 吾妻知美. 精神科デイケア通所者の生活機能の実態. 日本保健福祉学会誌, 20 (1) 35-45.</p>
<p>著書</p>	<p>【教科書】</p> <p>(共著)</p> <p>1) Tomomi Azuma (2011). I Basic Knowledge. (p42-44) Nagato Natsume, MANUAL FOR ORAL CARE The Japanese Society of Oral Care. (348). Quintessence Publishing CO., Ltd</p>
<p>研究発表</p>	<p>【一般講演 (口演・ポスター)】</p> <p>1) 吾妻知美 (2011). 看護実践能力を育成するための基礎看護技術教育—基礎看護技術の教育内容構成—, 日本カリキュラム学会第22回大会. 2011年7月 : 北海道大学</p> <p>2) 齋藤深雪, 馬場薫, 吾妻知美, 真木智 (2011) デイケア通所者の通所目的の有無による生活機能の比較—精神障害者生活機能評価尺度を基準にして—, 第37回日本看護研究学会学術集会. 2011年8月 : 横浜市</p> <p>3) 鈴木英子, 吾妻知美, 有賀美恵子, 森野貴輝, 丸山昭子, 井上善久, 榎平一隆, 多賀谷昭 (2011). 新卒看護師のアサーティブになれない状況, 第31回日本看護科学学会学術集会. 2011年12月 : 高知市</p> <p>4) 青木香保里, 荒井眞一, 吾妻知美. (2012). 節水を意識した食の学習の検討, 北海道教育学会第65回研究発表大会. 2012年3月 : 札幌市</p> <p>5) 神谷美紀子, 岡崎美晴, 吾妻知美, 遠藤圭子, 服部兼敏 (2012). Abilities needed by nurses who participating in Multi-Disciplinary team(1) A Pilot Study to Develop Survey Form, The 9th International Conference with the Global Network of WHO Collaborating Centers for Nursing and Midwifery . 2012年7月 : 神戸市</p> <p>6) 岡崎美晴, 神谷美紀子, 吾妻知美, 遠藤圭子, 服部兼敏 (2012). Abilities needed by nurses who participating in Multi-Disciplinary team(2) Influences of Years of Multi-Disciplinary team Experiences and leadership Roles over Participating Skills. The 9th International Conference with the Global Network of WHO Collaborating Centers for Nursing and Midwifery . 2012年7月 : 神戸市</p> <p>7) 鈴木英子, 小田和美, 井上善久, 吾妻知美, 齋藤深雪, 丸山昭子 (2012). 新卒看護師の</p>

- アサーティブになれない状況, 第 38 回日本看護研究学会学術集会. 2012 年 7 月: 宜野湾市
- 8) 吾妻知美, 鈴木英子, 齋藤深雪 (2012). 基礎看護実習において看護学生がアサーティブになれなかった状況, 第 38 回日本看護研究学会学術集会. 2012 年 7 月: 宜野湾市
- 9) 齋藤深雪, 馬場薫, 吾妻知美, 鈴木英子 (2012). デイケア通所者の生活背景による生活機能の実態, 第 38 回日本看護研究学会学術集会. 2012 年 7 月: 宜野湾市
- 10) 鈴木英子, 吾妻知美, 平山喜美子, 川村晴美, 高野美香, 井上善久, 丸山昭子 (2012). 先輩看護師に対し新卒看護師がアサーティブになれない状況と理由, 第 16 回日本看護管理学会年次大会. 2012 年 8 月: 札幌市
- 11) 岡崎美晴, 神谷美紀子, 吾妻知美, 遠藤圭子 (2012). チーム医療を推進する看護師に必要とされる能力の検討-経験年数による発揮していると感じる能力の違い, 第 16 回日本看護管理学会年次大会. 2012 年 8 月: 札幌市
- 12) 池川清子, 吾妻知美 (2012) 看護における実践知-他者理解のプロセス, 第 31 回日本医学哲学・倫理学会大会. 2012 年 11 月: 金沢市
- 13) 神谷美紀子, 遠藤圭子, 岡崎美晴, 吾妻知美, 服部兼敏 (2012). チーム医療を実践している看護師が重視すること-テキストマイニングツールを用いた分析-, 第 32 回日本看護科学学会学術集会. 2012 年 11 月: 東京都
- 14) 齋藤深雪, 馬場薫, 鈴木英子, 吾妻知美 (2012). デイケア通所者の生活機能とコミュニケーション能力の実態, 第 32 回日本看護科学学会学術集会. 2012 年 11 月: 東京都
- 15) Tomomi Azuma, Eiko Suzuki, Miyuki Saito, Akiko Maruyama (2013). Nursing students' inability to become assertive and Why they weren't able to achieve it in basic nursing study practice, The 21st IUHPE International Conference on Health Promotion. 2013 年 8 月: Thailand.
- 16) Eiko Suzuki, Makidaira Kazutaka, Tomomi Azuma, Akiko Maruyama, Miyuki Saito, Sato Mayumi, Ohtani Kimie (2013). The relative factor of violence toward nurse from inpatients, The 21st IUHPE International Conference on Health Promotion. 2013 年 8 月: Thailand.
- 17) Akiko Maruyama, Eiko Suzuki, Miyuki Saito, Tomomi Azuma, Sato Factors affecting burnout of nurses who are mother of pre-school-age children The 21st IUHPE International Conference on Health Promotion. 2013 年 8 月: Thailand.
- 18) 齋藤深雪, 馬場薫, 吾妻知美 (2013). 精神障害者小規模作業所通所者の通所目的による生活機能の比較. 第 39 回日本看護研究学会学術集会. 2013 年 8 月: 秋田市
- 19) Tomomi Azuma, Miyuki Saito, Eiko Suzuki, Jeremiah Mock, Kaneoshi Hattori (2013). Validity and Reliability of Self Report Evaluation Scale of Daily Living Skills of Nurse Students. 9th International Nursing Conference & 3rd World Academy

	<p>Nursing Science . 2013 年 10 月 : Korea.</p> <p>20) 齋藤深雪, 鈴木英子, <u>吾妻知美</u> (2013) . 精神科デイケア通所者のアサーティブネスと関連する背景. 第 33 回日本看護科学学会学術集会. 2013 年 12 月 : 大阪市</p> <p>21) 鈴木英子, <u>吾妻知美</u>, 齋藤深雪, 丸山昭子, 小檜山敦子, 丸山陽子, 國井亨奈, 高山裕子 (2013) プリセプターが新卒看護師に対しアサーティブになれない状況. 第 33 回日本看護科学学会学術集会. 2013 年 12 月 : 大阪市</p> <p>22) 岡崎美晴, <u>吾妻知美</u>, 神谷美紀子, 江口秀子, 遠藤圭子, 服部兼敏 (2013) . チーム医療を行う看護師が多職種連携で大切にしている行為－テキストマイニングを用いて－. 第 33 回日本看護科学学会学術集会. 2013 年 12 月 : 大阪市</p>
研究費取得状況	<p>【科学研究費】</p> <p>1) 青木香保里 (代表), 荒井眞一, <u>吾妻知美</u>, 高野良子, 家庭科教諭・栄養教諭・看護教諭の連携を目指した授業プログラムの開発. 平成 23 年度文部科学省研究補助金 (基盤研究 C). 平成 23 年度-25 年度</p> <p>2) 鈴木英子 (代表), 丸山昭子, <u>吾妻知美</u>, 新卒看護師の先輩看護師, 指導者看護師及び看護管理職のアサーティブになれない状況. 平成 24 年度文部科学省研究補助金 (基盤研究 C). 平成 24 年度-26 年度</p> <p>3) <u>吾妻知美</u> (代表) 青木香保里, 榊田聖子, 鈴木英子, 齋藤深雪, 荒井眞一, 看護基礎教育における看護実践の基盤となる能力育成のための支援プログラム. 平成 24 年度文部科学省研究補助金 (基盤研究 C). 平成 24 年度-26 年度</p> <p>【学内の助成金】</p> <p>1) 平成 23 年度 科研費申請奨励金</p>
学会・協会における活動	1) 日本口腔ケア学会評議員
臨地保健実践活動	<p>1) 大阪府看護教員養成講習会講師, 大阪府城東区, 平成 23 年～</p> <p>2) 兵庫県音楽療法講座 専門講座講師, 兵庫県神戸市, 平成 25 年～</p>

氏名	荒賀 直子	職名	教授
専門分野	公衆衛生看護学		
担当授業科目	<p>【学部】公衆衛生看護学概論, 公衆衛生看護学方法論 I, II, III, 公衆衛生看護学実習 II, 地域看護学特講, 地域看護学援助特講, 地域看護学演習 II</p> <p>【大学院】地域看護学特講, 地域看護学援助特講, 地域看護学演習 I, 地域看護学演習 II, 地域看護学特別研究</p>		
主な所属学会	日本公衆衛生学会, 小児保健学会, 日本民族衛生学会, 健康教育学会 他		
研究のキーワード	母子保健, 産業保健, 保健師教育		

平成 23 年度～平成 25 年度研究業績	
論文	<p>〈筆頭以外〉</p> <p>【原著】</p> <p>1) 三好智美, <u>荒賀直子</u> (2013). 在宅ケアにおける市保健師と訪問看護師との連携促進のあり方の検討. 医療看護研究, 10 (1) : 11-19.</p>
著書	<p>【教科書】</p> <p>(共著)</p> <p>1) <u>荒賀直子</u>, 後閑容子, 新井信之, 石原多佳子, 梶田悦子他 23 名 (2011). 公衆衛生看護学第 3 版 第 1 章 I (P3-13) II (p 78-89) 第 4 章 II (p 252-275) X (p 403-414) 第 5 章 II (p 433-451) 第 6 章 (p 478-489) 総頁数 512 頁 編者 <u>荒賀直子</u>, 後閑容子, インターメディカル社</p>
研究発表	<p>【招待講演・特別講演】</p> <p>1) 荒賀直子 (2011). 保健師教育の現状と課題 全国保健師教育機関協議会ブロック総会, 2011 年 8 月.</p> <p>2) 荒賀直子 (2011). 看護師教育の動向 聖路加看護大学同窓会, 2011 年 10 月.</p> <p>【一般講演 (口演・ポスター)】</p> <p>1) 三好知美, <u>荒賀直子</u>, 山口忍 (2011). 在宅ケアにおける市保健師の役割—訪問看護師からの役割期待との比較から—, 日本公衆衛生学会, 2011 年 10 月 : 秋田市.</p> <p>2) 柴田滋子, <u>荒賀直子</u>, 山口忍 (2011). 訪問看護師の離職予防と継続への支援—訪問看護師のストレスと離職を考える理由—, 日本公衆衛生学会, 2011 年 10 月 : 秋田市.</p> <p>3) 三好智美, <u>荒賀直子</u> (2011). 市保健師と訪問看護師との連携促進の要因の検討—在宅ケアでの連携を中心に—, 日本民族衛生学会, 2011 年 11 月.</p> <p>4) 柴田滋子, <u>荒賀直子</u>, 山口忍 (2011). 訪問看護師の離職予防と継続への支援 2—職場内・職場外のサポート体制の視点から—日本民族衛生学会, 2011 年 11 月.</p> <p>5) 三好智美, <u>荒賀直子</u> (2012). 在宅ケアにおける市保健師と訪問看護師の役割認識と役割期待—連携の視点から—, 日本民族衛生学会, 2012 年 11 月 : 東京都.</p>
学会・協会における活動	<p>1) 日本健康教育学会誌編集委員</p> <p>2) 日本民族衛生学会評議員</p> <p>3) 全国保健師長会調査研究委員会委員</p> <p>4) 平成 23 年度筑波大学学位論文審査委員会委員</p> <p>5) 平成 23 年度 24 年度 25 年度明石市健康づくり推進協議会会長</p> <p>6) 平成 25 年度日本私立看護系大学協議会理事</p> <p>7) 平成 25 年度兵庫県看護協会国際交流委員会委員</p>

臨地保健 実践活動	1) 平成 23 年度地域ケア総合調整研修会講師 2) 明石市保健師研究会講師 3) 日本子ども家庭総合研究所嘱研究員
--------------	---

氏名	有馬 志津子	職名	講師
専門分野	公衆衛生看護学		
担当授業科目	公衆衛生看護学方法論 I, II, III、公衆衛生看護学実習 I, II、看護研究の基礎		
主な所属学会	日本看護科学学会 日本公衆衛生学会 日本民族衛生学会		
研究のキーワード	地域看護学 公衆衛生看護学 学校看護 公衆衛生学・健康科学		
平成 23 年度～25 年度研究業績			
著書	<p>〈筆頭〉</p> <p>【原著】</p> <p>1) <u>Shizuko Arima</u>, Hiroshi Mikami. (2011). A study of the effects of the tobacco educational program for smoking cessation support in baccalaureate nursing students over 18 months, The Japanese Society of Health and Human ecology 2011, 77 (5) : 187-197</p>		
研究発表	<p>【学術書】</p> <p>(共著)</p> <p>1) 総編集 (見藤隆子、児玉香津子、菱沼典子). (2011). 看護学辞典第 2 版, 日本看護協会 出版会, 総頁 1200 頁, 分担 P718</p> <p>【一般図書・その他】</p> <p>(単著)</p> <p>1) 有馬志津子. (2011). 第 96 回保健師国家試験問題解答解説, メディカ出版, 分担 8 問</p> <p>2) 有馬志津子. (2012). 第 98 回保健師国家試験問題解答解説, 分担 10 問</p> <p>(共著)</p> <p>1) 綾部明江、糸嶺一郎、<u>有馬志津子</u>、白井文恵、徳留修身、臼井香苗、中山直子、米澤純子、勅使河原薫、星旦二、長谷川卓志、尾ノ井美由紀、櫻井尚子、杉下由行. (2011). 2012 年受験者対象 保健師国家試験対策テスト, メディカ出版, 総 64 頁, 分担 8 頁</p> <p>2) 綾部明江、糸嶺一郎、白井文恵、徳留修身、臼井香苗、<u>有馬志津子</u>、荒木田美香子、勅使河原薫、星旦二、中山直子、長谷川卓志、尾ノ井美由紀、櫻井尚子、杉下由行. (2012). 2013 年受験者対象 第 1 回保健師国家試験対策テスト, メディカ出版, 総 64 頁, 分担 10 頁</p> <p>3) 綾部明江、糸嶺一郎、白井文恵、徳留修身、臼井香苗、<u>有馬志津子</u>、荒木田美香子、勅使河原薫、星旦二、尾ノ井美由紀、櫻井尚子、杉下由行. (2012). 2013 年受験者対象 第</p>		

	2回保健師国家試験対策テスト, メディカ出版, 総64頁, 分担11頁 4) 綾部明江、糸嶺一郎、白井文恵、徳留修身、臼井香苗、有馬志津子、荒木田美香子、勅使河原薫、星旦二、尾ノ井美由紀、櫻井尚子、杉下由行。(2013). 2014年受験者対象 第2回保健師国家試験対策テスト, メディカ出版, 総64頁, 分担9頁
学会・協会における活動	1) 第9回日本高齢者虐待防止学会 企画・実行委員 (平成24年7月まで) 2) 第33回日本看護科学学会学術集会 査読委員 (平成25年7月まで)
臨地保健実践活動	1) 平成23年度大阪大学まちなか祭にて大阪府豊中保健所、大阪大学安全衛生委員会、看護学専攻ボランティアとの共催で「セアカゴケグモと生活害虫対策」・「薬物乱用防止／たばこ対策」・「HIV／エイズ」啓発活動大阪府豊中市, 2011年11月

氏名	安藤 布紀子	職名	助教
専門分野	母性看護学		
担当授業科目	【学部】母性看護学方法論, 母性看護学実習, 女性健康デザイン論		
主な所属学会	日本助産学会, 日本母性衛生学会		
研究のキーワード	妊婦, 腰痛, 骨盤痛, 日常生活活動		
平成23～25年度研究業績			
論文	〈筆頭〉 【資料】 1) 安藤布紀子. (2012) 妊娠に関連した腰痛と骨盤痛への介入方法における国外文献の検討, 甲南女子大学研究紀要 看護リハビリテーション学編 2012, 5 : 77-83		
研究発表	【一般講演 (口演・ポスター)】 1) 安藤布紀子, 大橋一友. (2011) 妊娠末期の骨盤痛客観的評価に関するパイロットスタディ, 日本助産学会学術集会. 2011年3月: 名古屋 2) 安藤布紀子, 大橋一友. (2012) 妊娠末期の骨盤痛客観的評価に関するパイロットスタディ 第2報 日本助産学会学術集会. 2012年5月: 札幌 3) 江島仁子, 安藤布紀子, 森圭子. (2012) 非医療系女子大生を対象とした健康教育の効果 コンドームスキルを導入して, 日本母性衛生学会学術集会. 平成24年10月: 福岡 4) 安藤布紀子. (2013) 妊娠に関連した腰骨盤痛に対する骨盤ベルトの効果, 日本助産学会学術集会. 2013年5月: 金沢 5) 江島仁子, 安藤布紀子, 森圭子. (2013) 非医療系女子大学生の月経に対する認識の実態と健康教育の有用性, 日本思春期学会学術集会. 平成25年9月: 軽井沢		
研究費取得状況	【科学研究費】 1) 安藤布紀子. 妊婦の腰骨盤痛における日常生活活動障害度の尺度開発および介入に対する評価. 平成21年度文部科学省研究補助金(若手研究B). 平成21～23年度		

氏名	池内 佳子	職名	教授
専門分野	助産学 女性健康看護学		
担当授業科目	基礎助産学, 助産診断技術学Ⅰ, 助産診断技術学Ⅱ, 助産管理, 助産学実習, 総合実習, 総合看護(看護研究), 基礎看護学実習Ⅰ, 女性健康看護学特講, 女性健康看護学援助特講, 女性健康看護学演習, 女性健康看護学特別研究		
主な所属学会	日本母性衛生学会, 日本看護科学学会, 日本看護学会, 日本医学看護学教育学学会, 和歌山県立医科大学保健看護学会		
研究のキーワード	助産学, 母性・女性看護学		
平成 23～25 年度研究業績			
論文	<p>〈筆頭以外〉</p> <p>【原著】</p> <p>1) 角 真理, 辻久美子, 大東千晃, 松本厚美, 芝峰利美, 梅本恵麗, 池内佳子. (2011). 産褥早期の褥婦に継続して行ったスチーム式足浴の効果—下肢皮膚表面温度・自律神経機能・主観的指標の変化—, 和歌山県立医科大学保健看護学部紀要 2011, 7: 17-27</p> <p>2) 辻久美子, 角 真理, 池内佳子, 大東千晃, 梅本恵麗. (2012). 産褥早期の女性における冷えの自覚と下肢皮膚表面温度の実態, 母性衛生, 53・2: 219-226.</p> <p>3) 田中静枝, 池内佳子. (2013). Hands-off テクニックによる母乳育児支援の効果, 母性衛生, 54・2: 275 - 285.</p> <p>【研究報告】</p> <p>1) 黒田裕子, 池内佳子, 辻久美子, 宮下ルリ子, 有馬美保, 角 真理. (2011). 助産学専攻科 1 期生の就職後の技術修得状況と助産学教育の評価, 和歌山県立医科大学保健看護学部紀要, 7: 41-50</p>		
研究発表	<p>【一般講演(口演・ポスター)】</p> <p>1) 田中静枝, 池内佳子. (2011). Hand-off テクニックによる母乳育児支援の効果, 日本母性衛生学会. 2011 年 9 月: 京都市</p> <p>2) 木村文香, 宮下ルリ子, 池内佳子. (2011). 不妊治療後妊娠した妊婦の母親役割獲得に向けての援助, 日本母性衛生学会. 2011 年 9 月: 京都市</p> <p>3) 井戸真理奈, 黒田裕子, 池内佳子. (2011). サポート体制が不十分な妊娠先行婚妊婦に対する支援, 和歌山県母性衛生学会. 2011 年 9 月: 橋本市</p>		
学会・協会における活動	<p>1) 和歌山県母性衛生学会副会長 (2011 まで)</p> <p>2) 日本母性衛生学会評議員 (2011 まで)</p> <p>3) 和歌山県立医科大学保健看護学会理事</p> <p>4) 公益社団法人全国助産師教育協議会広報委員会委員長 (2013 まで)</p> <p>5) 日本医学看護学教育学学会評議員 (2012 まで)</p>		

	6) 日本助産学会学術集会査読 (2012) 7) 日本看護科学学会学術集会査読 (2013) 8) 日本助産学会学術集会査読 (2013)
臨地保健 実践活動	1) 和歌山県保健師助産師看護師実習指導者講習会「助産師教育課程」講師, 和歌山市, 2011年7月 2) 妊婦専門相談事業協力活動, 神戸市東灘区保健福祉部主催, 神戸市, 2011年11月 3) 妊婦専門相談事業協力活動, 神戸市東灘区保健福祉部主催, 神戸市, 2012年5月, 10月 4) 妊婦専門相談事業協力活動, 神戸市東灘区保健福祉部主催, 神戸市, 2014年1月, 2月

氏名	岩瀬 貴美子	職名	講師
専門分野	小児看護学		
担当授業科目	【学部】小児看護学方法論, 小児看護学実習, 看護研究の基礎 (卒業研究)		
主な所属学会	日本小児看護学会, 日本小児がん看護学会, 日本看護科学学会, 小児在宅ケア研究会		
研究のキーワード	長期療養児, 小児がん, 日常生活, 家族		
平成 23 年度～平成 25 年度研究業績			
論文	〈筆頭〉 【実践・症例・活動報告】 1) 岩瀬貴美子, 大見サキエ (2013) : 小児看護学実習の再実習において学生が患児との関係構築困難を乗り越えていくプロセス ―学生の気持ちの変化に焦点をあてて―, 甲南女子大学紀要―看護リハビリテーション学編一, 第7号 : 35-43.		
研究発表	【一般講演 (口演・ポスター)】 1) 岩瀬貴美子, 大見サキエ (2012) : 小児看護学実習の再実習において学生が課題を達成していくプロセス―学生の気持ちの変化に焦点をあてて―, 第32回日本看護科学学会学術集会, 2012年12月, 東京都千代田区. 2) 岩瀬貴美子 (2013) : 患者家族滞在施設を利用する家族の付添い生活の実際―施設スタッフの視点から―, 第23回日本小児看護学会学術集会, 2013年7月, 高知県高知市. 3) 岩瀬貴美子 (2013) : ファミリーハウスの役割～スタッフの対応と役割意識から～, 第11回日本小児がん看護学会, 2013年12月, 福岡県福岡市. 【パネル】 1) 岩瀬貴美子 (2013) : 家族がファミリーハウスを利用することの意義について, ファミリーハウス・フォーラム, 2013年7月, 東京都千代田区.		
学会・協会における活動	1) 日本看護科学学会第33回学術集会演題査読委員 (2013年6月)		

臨地保健 実践活動	1) 認定 NPO 法人ファミリーハウス理事（継続中） JHH ネットワーク会議、分科会ファシリテーター（2011年9月, 2013年11月） 2) JHH ネットワーク検討委員会（2012年6月） 3) 認定 NPO 法人ファミリーハウス・フォーラム検討委員会（2013年6月, 9月） 4) 甲南保育園子育て支援プログラム「わいわいおしゃべり広場」講師（2012年9月, 11月, 2013年3月, 2014年1月, 3月）
--------------	--

氏名	臼井 キミカ	職名	教授
専門分野	老年看護学		
担当授業科目	老年看護学概論、老年看護学方法論、老年看護学実習、総合実習、看護研究の基礎、看護学概論Ⅱ、看護研究方法論、老年看護学特講、老年看護学援助特講、老年看護学演習Ⅰ、老年看護学演習Ⅱ、老年看護学実習Ⅰ、老年看護学実習Ⅱ、老年看護学特別研究、老年看護学課題研究		
主な所属学会	日本老年看護学会、日本看護科学学会、日本高齢者虐待防止学会、日本老年社会科学学会、日本在宅ケア学会、日本認知症ケア学会、日本公衆衛生学会、日本社会医学研究学会、日本生命倫理学会、日本保健医療社会学会、 The Gerontological Society of America		
研究のキーワード	老年看護学、在宅看護学、認知症高齢者ケア、高齢者虐待		
平成 23-25 年度研究業績			
論文	〈筆頭〉 【原著】 1) 臼井キミカ（2011）. 認知症高齢者の人権～最期までその人らしさを支えるために～, 大阪市立大学看護学雑誌, Vol. 5(1), pp-. 2) 臼井キミカ. (2013). 医療依存度の高い高齢者の虐待予防高齢者虐待防止研究 2013, Vol. 9(1), pp. 38~43 3) 臼井キミカ、津村智恵子、榎田聖子. (2014). 都市型自治体における高齢者虐待防止・早期発見のための行政サービスの実態と課題／行政調査, 高齢者虐待防止研究 2014, 10(1) : 41-49 〈筆頭以外〉 【原著】 1) 深堀浩樹、石垣和子、伊藤隆子、池崎澄江、臼井キミカ他（2011）. 高齢者ケア施設の看護職による医療処置を安全・確実に行うための工夫と経験した危険な場面の特徴、日本老年看護学会誌 Vol. 15(1). pp. 44~53 2) 北村有香、佐々木八千代、臼井キミカ. (2012) 日常的なケアにいかす椅子・車いすの選		

	<p>扱と調整方法, コミュニティケア, Vol. 14(13), pp. 20~23</p> <p>3) 津村智恵子, 河野あゆみ, 和泉京子, 臼井キミカ, 大井美紀, 榊田聖子, 鍛冶葉子, 上村聡子, 前原なおみ, 金谷志子, 川井太加子, 山本美輪. (2012). 高齢者のセルフ・ネグレクトを防ぐ地域見守り組織のあり方と見守り基準に関する研究, 大阪高齢者虐待防止研究会/100 回記念誌 2012, 7 : 69-80</p> <p>4) 津村智恵子, 榊田聖子, 臼井キミカ. (2014). 事例からみた養護者支援の実態と課題／高齢者虐待の全国調査からみた養護者支援の実態調査, 高齢者虐待防止研究 2014, 10(1) : 33-40</p> <p>5) 榊田聖子, 津村智恵子, 臼井キミカ. (2014). 都市部における高齢者虐待の被虐待者と養護者の実態と課題, 高齢者虐待防止研究 2014, 10(1) : 24-32</p> <p>【研究報告】</p> <p>1) 白井みどり, 臼井キミカ, 廣瀬秀行, 北倉有香, 杉本吉恵子, 佐々木八千代. 平成 20 年度～25 年度科学研究費補助金研究成果報告書(基盤研究(B))障害高齢者の日常生活自立度の維持・向上を目的とする「看護・介護のシーティング・ガイドライン」(研究代表:白井みどり)</p> <p>【その他】</p> <p>1) 津村智恵子, 臼井キミカ, 榊田聖子 (2013). 養護者の高齢者虐待に至る背景要因と専門職支援の実態・課題～平成 24 年都市型市区自治体活動と専門職の取組み事例調査より～平成 25 年度日本高齢者虐待防止学会・朝日新聞大阪本社共同調査事業報告書(総頁数 63 頁). http://www.japea.jp/?cat=7 日本高齢者虐待防止学会研究推進委員会. (分担執筆 : PP3～5, PP14～29) . 25 年 9 月</p> <p>2) 長田区地域と進める認知症早期発見システム構築検討会座長臼井キミカ他. 脳のすこやか健康手帳～いきいきはつらつ長寿のまち長田～. 長田区地域と進める認知症早期発見システム構築検討会、長田区ネットワーク連絡会、神戸市長田区保健福祉部健康福祉課. 26 年 3 月</p>
著書	<p>【教科書】</p> <p>(単著)</p> <p>1) 津村智恵子, 上野昌江, 臼井キミカ, 河野あゆみ, 和泉京子, 池田直樹, 一居誠, 入江安子, 白坂琢磨, 大野かおり, 金谷志子, 中原俊隆, 榊田聖子, 牧野裕子, 森岡幸子, 千代豪昭. (2012). 2. 高齢者保健活動 (324-351), 「公衆衛生看護学」(総頁 498) 中央法規出版、平成 24 年 3 月</p> <p>【一般図書・その他】</p> <p>1) 津村智恵子, 河野あゆみ, 和泉京子, 金谷志子, 臼井キミカ, 大國美智子, 柴尾慶次, 池田直樹・(2012). 大阪高齢者虐待防止研究会/100 回記念誌 2012, 7 : 総頁 90</p>

研究発表	<p>【一般講演（口演・ポスター）】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 上西洋子, 菊池あゆむ, 白井みどり, <u>臼井キミカ</u>. (2011) : 特別養護における終末期認知症高齢者の看取りに関する研究—家族が意思決定するうえで困難な要因について—. 第16回日本老年看護学会学術集会(東京)抄録集 p. 202 2) <u>臼井キミカ</u>, 正田美紀, 才木千恵, 浅田さゆり, 上西洋子, シュバシ・ホーザ. (2011). 女性高齢者が認知しているマンモグラフィー検診受診・未受診の実態—ブラジル・サンパウロ市内の調査との比較—, 第16回日本老年看護学会学術集会(東京)抄録集. p. 227 3) 北村隆子, <u>臼井キミカ</u>, 畑野相子, 安田千津. (2011) : Efficacy of health care program adapting strengths of the elderly attending community center activities – Focusing on the strengths of the elderly willing to prevent themselves from becoming bedridden and to provide help for others –, 第3回日中韓看護学会(韓国・ソウル市) 23年10月 4) 上西洋子, 白井みどり, <u>臼井キミカ</u> (2011) : Research of crisis and support to families of elders with terminal dementia during palliative care process. 9th Asia /Oceania Regional Congress of Geriatrics and Gerontology, (Melbourne) 第9回アジア／オセアニア老年学会オーストラリア(メルボルン), 23年10月 5) 浅田さゆり, <u>臼井キミカ</u>. (2012) : 主介護者から虐待を受けて介護保険サービス利用中の高齢者が求めているニーズ, 第9回日本高齢者虐待防止学会神戸大会神戸市, 抄録集 p96、24年7月 6) 森本美菜, 梶原紗絵子, 辻亜耶, <u>臼井キミカ</u>. (2012) : 「人生紙芝居」作成過程が看護学生の認知症高齢者イメージに与えた影響～エイジズム改善の方略としての一試案～, 第9回日本高齢者虐待防止学会神戸大会神戸市, 抄録集 p89、24年7月 7) 大西洋子, <u>臼井キミカ</u>. (2012) : 特別養護老人ホームにおける終末期認知症高齢者に関する研究—看護・介護職者が重要と考える援助とスピリチュアルケアについて看取りの有無による差異—, 第17回日本老年看護学会学術集会金沢市 p179 24年7月 8) 岸恵美子, 野村祥平, 吉岡幸子. 野尻由香, 斎藤雅茂, <u>臼井キミカ</u>. (2012) . セルフネグレクトと孤立死との関連～高齢者の孤立死事例の分析から～, 第71回日本公衆衛生学会山口市. 24年11月 9) 岸恵美子, 野村祥平, 吉岡幸子. 野尻由香, 斎藤雅茂, <u>臼井キミカ</u>. (2013) . he relationship between solitary death and self-neglect of the aged in Japan(1)日本における高齢者のセルフ・ネグレクトの実態と孤立死との関係—孤立死事例にみられるセルフ・ネグレクトの実態から—, The International Collaboration for community Health Nursing Reseach (ICCHNR) Conference 2013 国際地域看護学会 2013 エジンバラ大学. 25年3月 10) 野村祥平, 岸恵美子, 吉岡幸子. 野尻由香, 斎藤雅茂, <u>臼井キミカ</u>. (2013) The relationship between solitary death and self-neglect of the aged in Japan(2)日本における高
------	--

齢者のと孤立死とセルフ・ネグレクトの関連に関する研究②～死後の経過日数からみた孤立死の関連要因～、The International Collaboration for community Health Nursing Reseach (ICCHNR) Conference 2013 国際地域看護学会 2013 エジンバラ大学. 25年3月

- 11) 室谷牧子、金森純子、田村浩恵、臼井キミカ. (2013). 看護学生が展開した認知症高齢者のパーソン・センタード・ケアからの学び. 第14回日本認知症ケア学会(福岡). 25年6月
- 12) 臼井キミカ. 速水裕子、山本恵、兼田美代、三宅眞理、白井みどり (2013). A study of comparing care workers working at elderly care facilities in Australia and Japan. The 20th World Congress of Gerontology and Geriatrics, Seoul 2013 第20回国際老年学会 韓国ソウル. 25年6月
- 13) 白井みどり、外村昌子、臼井キミカ. (2013)、車いすを使用する虚弱高齢者の座位姿勢の支援～看護・介護職員のためのガイドライン～. The 20th World Congress of Gerontology and Geriatrics, Seoul 2013 第20回国際老年学会 韓国ソウル. 25年6月
- 14) 佐々木八千代、白井みどり、北村有香、杉本吉恵、臼井キミカ、廣瀬秀行 (2013). 介護保険施設におけるシーティングの効果と課題. 第18回日本老年看護学会学術集会 p218 大阪市. 25年6月
- 15) 垣尾美帆、中西麻利子、富田貴和子、臼井キミカ、速水裕子、矢澤久子 (2013). 認知症対応型デイサービス利用中の高齢者にとって居心地の良い環境の要素①. 第54回日本社会医学学会総会 2013年7月: 東京都八王子市
- 16) 中西麻利子、垣尾美帆、富田貴和子、臼井キミカ、速水裕子、矢澤久子. (2013). 認知症対応型デイサービス利用中の高齢者にとって居心地の良い環境の要素②. 第54回日本社会医学学会総会 2013年7月: 東京都八王子市
- 17) 富田貴和子、垣尾美帆、中西麻利子、臼井キミカ、速水裕子、矢澤久子 (2013). 認知症対応型デイサービス利用中の高齢者にとって居心地の良い環境の要素③. 第54回日本社会医学学会総会 2013年7月: 東京都八王子市
- 18) 白井みどり、佐々木八千代、廣瀬秀行、北村有香、杉本吉恵、臼井キミカ (2013). 看護師と介護職員のためのシーティング・ガイドラインー車いすを使用する虚弱高齢者のためにー. 第8回応用工学シンポジウム大阪市. 25年7月
- 19) 臼井キミカ、津村智恵子、榎田聖子. (2013). 都市部における高齢者虐待の被虐待者と養護者の実態・課題(その1), 第10回日本高齢者虐待防止学会. 2013年9月: 松山
- 20) 榎田聖子、津村智恵子、臼井キミカ. (2013). 都市部における高齢者虐待の被虐待者と養護者の実態・課題(その2), 第10回日本高齢者虐待防止学会. 2013年9月: 松山
- 21) 津村智恵子、榎田聖子、臼井キミカ. (2013). 都市部における高齢者虐待の被虐待者と養護者の実態・課題(その3), 第10回日本高齢者虐待防止学会. 2013年9月: 松山

	22) 岸恵美子、野村祥平、吉岡幸子、野尻由香、臼井キミカ. (2013) .セルフ・ネグレクトと孤立との関連～高齢者の孤立死事例の分析から～第 71 回日本公衆衛生学会総会山口 25 年 10 月.
研究費取得 状況	【科学研究費】 1) 平成 20 年度～25 年度科学研究費補助金研究(基盤研究(B))障害高齢者の日常生活自立度の維持・向上を目的とする「看護・介護のシーティング・ガイドライン」(研究代表:白井みどり、分担研究:臼井キミカ)
学会・協会における活動	日本高齢者虐待防止学会理事, 日本公衆衛生学会評議員, 日本在宅ケア学会評議員・査読委員, 日本看護科学学会評議員, 日本老年看護学会評議員・査読委員, 第 9 回日本高齢者虐待防止学会神戸大会大会長、第 11 回日本高齢者虐待防止学会横浜大会自由研究発表(3) 座長、高齢者虐待防止研究会事務局、日本看護科学学会評議員、日本老年看護学会評議員・学会誌査読者、日本老年社会科学学会評議員、日本認知症ケア学会評議員・学会誌査読委員、日本在宅ケア学会誌査読委員
臨地保険 実践活動	1) 大阪府国民健康保険団体連合会看護サービス苦情処理委員会委員、 2) 長田区地域と進める認知症早期発見システム構築検討会議座長 3) 神戸市高齢者虐待防止連絡会代表・認知症サポーターフォロー研修会講師を担当 4) 大阪府民間社会福祉事業者等資質向上研修講師 5) 国有財産近畿地方審議会委員 6) 平成 23・24・25 年度大阪府高齢者虐待防止対応アドバイザー会議委員 7) 平成 25 年度福山市高齢者虐待防止啓発講演会講師他

氏名	江島 仁子	職名	講師
専門分野	母性看護学		
担当授業科目	【学部】母性看護学方法論, 母性看護学実習, 総合看護(看護研究), 総合実習, 女性健康デザイン論		
主な所属学会	日本母性看護学会, 日本思春期学会, 日本母性衛生学会, 日本看護科学学会, 日本助産学会		
研究のキーワード	周産期, 母性, 思春期		
平成 23 年度～平成 25 年度研究業績			
論文	<筆頭以外> 【実践・症例・活動報告】 1) 大森裕子, 江島仁子, 西村美登里, 原田江梨子, 吾妻知美(2013). 看護学科における学生生活支援に対する学生評価-アドバイザー制度に関する調査票の分析から-. 甲南女子大学紀要 看護学・リハビリテーション学編, 第 6 号: 57-64.		

研究発表	<p>【一般講演（口演・ポスター）】</p> <p>1) <u>江島仁子</u>, 安藤布紀子, 森圭子 (2012). 非医療系女子大生が抱く出産についてのイメージ, 第14回日本母性看護学会. 2012年6月: 神戸市</p> <p>2) <u>江島仁子</u>, 安藤布紀子, 森圭子 (2012). 非医療系女子大学生の月経に対する認識の実態と健康教育の有用性, 第31回日本思春期学会. 2012年9月: 軽井沢市</p> <p>3) <u>江島仁子</u>, 安藤布紀子, 森圭子 (2012). 非医療系女子大生を対象とした健康教育の効果ー Condomスキルを導入してー, 第53回日本母性衛生学会. 2012年11月: 福岡市</p>
臨地保健 実践活動	「妊婦のおしゃべりひろば 妊婦専門相談」(東灘区) 事業協力 (継続中)

氏名	大森 裕子	職名	助教
専門分野	小児看護学		
担当授業科目	【学部】小児看護学方法論, 小児看護学実習		
主な所属学会	日本小児看護学会, 日本小児保健協会, 日本タッチケア学会, 日本保育園保健協議会		
研究のキーワード	小児看護, タッチケア		
平成 23～25 年度研究業績			
論文	<p>〈筆頭〉</p> <p>【その他】</p> <p>1) <u>大森裕子</u>, 松田利恵. (2011). 看護師のユニフォーム変更による幼児期の子どもの反応, 甲南女子大学研究紀要(看護学・リハビリテーション学編) 第6号: 85-91</p> <p>2) <u>大森裕子</u>, 江島仁子, 西村美登里, 原田江梨子, 吾妻知美. (2012). 看護学科における学生生活支援に対する学生評価, 甲南女子大学研究紀要(看護学・リハビリテーション学編) 第7号: 57-64</p>		
研究発表	<p>【一般公演（口頭）】</p> <p>1) <u>大森裕子</u> (2012). 障害児へのタッチケアにより母親の変化が見られた実践報告, 第1回日本タッチケア学会. 2012年6月: 東京都渋谷区</p>		
地域保健実践 活動	<p>1) 平成24年度甲南保育園ふれあいひろば講師. 2012年10月</p> <p>2) 平成24年度甲南保育園ふれあいひろば講師. 2013年1月</p>		

氏名	乙津 絵里佳	職名	助手
専門分野	在宅看護学		
担当授業科目	【学部】在宅看護学方法論Ⅰ, 在宅看護学方法論Ⅱ, 在宅看護学実習		
主な所属学会	日本腎不全看護学会, 日本透析医学会, 日本公衆衛生学会, 日本看護科学学会		
研究のキーワード	在宅看護		

平成 23 年度～平成 25 年度研究業績	
研究発表	<p>【一般講演（口演・ポスター）】</p> <p>1) 牧野裕子, 新井香奈子, 太田暁子, 塚本陽子, <u>乙津絵里佳</u>, 榊原一恵 (2013) 東日本大震災被災地における居宅サービス事業所の活動状況とその支援に関する研究, 日本公衆衛生学会. 2013 年 10 月 : 津市</p> <p>2) 牧野裕子, 太田暁子, 新井香奈子, 塚本陽子, <u>乙津絵里佳</u>, 榊原一恵 (2013) 居宅介護サービス事業所における緊急時地域内支援の現状と、包括的支援体制構築を困難とさせる要因, 日本看護科学学会. 2013 年 12 月 : 大阪市</p>

氏名	兼田 美代	職名	講師
専門分野	老年看護学		
担当授業科目	<p>【学部】 老年看護学方法論, 老年看護学実習, 総合看護(看護研究), 総合実習, 基礎看護学実習 I・II</p> <p>【大学院】 老年看護学演習 I, 老年看護学演習 II, 老年看護学実習 I, 老年看護学実習 II,</p>		
主な所属学会	日本老年看護学会, 日本専門看護師協議会, 日本看護科学学会, 日本認知症ケア学会, 日本老年社会科学会,		
研究のキーワード	老年看護学, 認知症看護, 終末期看護		

平成 23 年度～25 年度研究業績	
著書	<p>【一般図書・その他】</p> <p>(共著)</p> <p>1) 厚生労働省医政局看護課 保健師助産師看護師国家試験出題基準 平成 26 年度版 医学書院 2013 年 7 月 分担 老年看護学 高山成子, 兼田美代, 坪井桂子 総頁 150 分担頁看-39~看-43</p>
研究発表	<p>【一般講演(口演・ポスター)】</p> <p>1) Kimika Usui, Mari Miyake, <u>Miyo Kaneda</u>, Midori Shira, Yuko Hayami. (2013) A study of comparing care workers working at care facilities in Australia and Japan. International Association of Gerontology and Geriatrics June 2013/6 : Korea Seoul</p> <p>2) 垣尾美帆, 中西麻梨子, 富田貴和子, 臼井キミカ, 速水裕子, <u>兼田美代</u>, 矢澤久子 (2013) 認知症対応型デイサービス利用中の高齢者にとって居心地の良い環境の要素①第 54 回日本社会医学会総会 2013 年 7 月 : 東京都八王子市</p> <p>3) 中西麻梨子, 垣尾美帆, 富田貴和子, 臼井キミカ, 速水裕子, <u>兼田美代</u>, 矢澤久子 (2013) 認知症対応型デイサービス利用中の高齢者にとって居心地の良い環境の要素②第 54 回日本社会医学会総会 2013 年 7 月 : 東京都八王子市</p>

	<p>4) 富田貴和子, 垣尾美帆, 中西麻梨子, 臼井キミカ, 速水裕子, 兼田美代, 矢澤久子 (2013) 認知症対応型デイサービス利用中の高齢者にとって居心地の良い環境の要素③第 54 回日本社会医学会総会 2013 年 7 月 : 東京都八王子市</p> <p>【パネル・シンポ・ワーク】</p> <p>1) 1) 第 28 回日本眼科看護研究会 シンポジウム 3【地域で支える眼科患者の QOL】 シンポジスト「高齢者・認知症高齢者が入院するという事～高齢者の特徴を理解する～」2012 年 6 月 : 大阪府大阪市</p>
学会・協会における活動	<p>1) シルバーボランティア研究会世話役 年間 5 回の研究会を開催 (2011 年・2012 年・2013 年)</p> <p>2) シルバーボランティア研究会拡大版 世話役 2014 年 3 月高知県高知市</p> <p>3) 京都府看護協会 2013 年度高齢者介護福祉施設・在宅領域で働く看護職研修 講師 「認知症高齢者のケアのあり方～虐待防止と権利擁護について～」2013 年 8 月 : 京都府京都市</p> <p>4) 第 4 回コウノトリ Eye Watching 講習会講師「高齢者・認知症高齢者が通院・入院ということ」2013 年 7 月 : 兵庫県豊岡市</p> <p>5) 京都府看護協会 2012 年度高齢者介護施設で働く看護職リーダー研修講師 「認知症高齢者のケアのあり方～虐待防止と権利擁護について～」2013 年 1 月 : 京都府京都市</p> <p>6) 第 9 回日本高齢者虐待防止学会神戸大会 事務局(書記) 2012 年 7 月</p> <p>7) 医道審議会専門委員(保健師助産師看護師分科会員 2012 年 6 月～2014 年 6 月)</p> <p>8) 大阪府看護協会 2011 年度研修会 講師 No32「老年看護 1 高齢者への看護・支援」2011 年 9 月 : 大阪府大阪市</p>
臨地保健実践活動	<p>1) 彩都友誼会病院研修会 新入社への講義や看護補助者研修などを通して老年看護教育 (2011 年・2012 年・2013 年)</p> <p>2) 四天王寺病院研修会 講師 「老年看護 : 事例を通して」2012 年 11 月 : 大阪府大阪市</p>

氏名	川村 千恵子	職名	教授
専門分野	助産学		
担当授業科目	<p>【学部】助産診断技術学Ⅰ、助産診断技術学Ⅱ、助産管理、助産学実習、看護研究の基礎、総合実習、現実をみる G</p> <p>【大学院】女性健康看護学特講、女性健康看護学援助特講、女性健康看護学演習</p>		
主な所属学会	日本母性衛生学会、日本看護科学学会、日本助産学会、日本母性看護学会、日本保健医療行動科学会		
研究のキーワード	助産学、母性・女性看護学、家族看護学		
平成 23 年度研究業績			

論文	<p>〈筆頭〉</p> <p>【原著】</p> <p>1) <u>川村千恵子</u>、森圭子. (2011). 乳幼児をもつ母親への助産師によるナラティブ・アプローチの効果研究, 日本保健医療行動科学学会年報 2011, 26 : 104-117</p> <p>【研究報告】</p> <p>1) 川村千恵子. (2012). 子育て支援について—助産師による子育て支援実践活動から考える—, 日本保健医療行動科学学会年報 2012, 27 : 89-96</p> <p>〈筆頭以外〉</p> <p>【原著】</p> <p>1) Hiroko Sakai, <u>Chieko Kawamura</u>, Xiaodong Cardenas, Kazutomo Ohashi. (2011). Premenstrual and menstrual symptomatology in young adult females who smoke tobacco, The Journal Obstetrics and Gynecology Research 2011, 37(4) : 325-330</p> <p>2) 田辺昌吾、<u>川村千恵子</u>、畠中宗一. (2011). 乳幼児をもつ父親の育児・家事行動が父親自身のウェルビーイングに及ぼす影響, 家族関係学 2011, 30 : 153-166</p> <p>3) カルディナス暁東、酒井ひろ子、<u>川村千恵子</u>. (2011). 青年期にある女性の喫煙行動と首尾一貫感覚(SOC)の関連性に関する研究, 母性衛生 2011, 52(4), 508-515</p> <p>【その他】</p> <p>1) 川村千恵子. (2011). 乳幼児をもつ母親のウェルビーイング向上に関する実証的研究, 大阪市立大学大学院生活科学研究科生活科学専攻博士論文 2011, (全 172 頁)</p> <p>2) 川村千恵子監修. (2011). めざせ!げんきにんじゃ, 月刊がくしゅうひかりのくに4~3月号, ひかりのくに</p> <p>3) 川村千恵子監修. (2011). きらきらせいかつ, 月刊がくしゅうひかりのくに4・6・7・11月号, ひかりのくに</p> <p>4) 川村千恵子監修. (2011). 「びっくり!なるほど!」コーナー「ねるこは そだつ!!」, 月刊こともしぜん11月号, ひかりのくに</p> <p>5) 市村真希、伊原玲子、<u>川村千恵子</u>、橋本富子、三輪寿江. (2012). 思春期健康教育ガイドライン, 社団法人大阪府助産師会子育て・女性の健康支援センター, 全 15 頁</p>
著書	<p>(単著)</p> <p>1) 川村千恵子(2013). 乳幼児をもつ母親のウェルビーイング, 大阪公立大学共同出版会、(全 145 頁)</p>
研究発表	<p>【パネル・シンポ・ワーク】</p> <p>1) <u>川村千恵子</u>, 真継和子. (2011). 子育て支援について, 日本保健医療行動科学学会学術大会. 2011年6月:高槻市</p>
研究費取得	<p>【学内の助成金】</p>

状況	2012年度 甲南女子学園学術研究および教育振興奨励基金「乳幼児をもつ母親のウェルビーイング」出版助成
学会・協会における活動	1) 大阪府助産師会性教育プロジェクト委員 2) 第26回日本保健医療行動科学会学術大会実行委員 3) 日本保健医療行動科学会評議員
臨地保健実践活動	1) 奈良県実習指導者講習会「母性看護学実習」講師, 橿原市, 2011~2013年9月 2) 妊婦専門相談事業協力活動, 神戸市東灘区保健福祉部主催, 神戸市, 2011~2013年 3) 大阪信愛女学院人権研修「あなたのいのちが輝くために」講師, 大阪市, 2011年7月 4) 大阪市ティーンズヘルスセミナー「性感染症及び避妊と命の大切さについて」講師, 大阪市, 2011年10月 5) 大阪信愛女学院人権研修「いのちの誕生」講師, 大阪市, 2011年12月 6) 大阪信愛女学院人権研修「女性のからだと健康」講師, 大阪市, 2012年1月 7) 大阪市ティーンズヘルスセミナー「男女交際」講師, 大阪市, 2013年11月 8) 大阪市ティーンズヘルスセミナー「生命誕生・命の大切さを中心に」講師, 大阪市, 2013年11月 9) 大阪市子ども青少年局児童入所施設基幹的職員研修「性教育のよりよい方法・支援」講師, 大阪市, 2013年11月 10) 大阪信愛女学院人権研修「あなたのいのちが輝くために」講師, 大阪市, 2013年7月 11) 大阪市浪速区社会福祉協議会子育て支援ボランティア養成講座「乳幼児期の心とからだ」講師, 大阪市, 2013年10月 12) 大阪市浪速区社会福祉協議会子育て支援ボランティア養成講座「小児看護の基礎知識の向上」講師, 大阪市, 2013年10月 13) 大阪市民共済会子育て支援事業スタッフ研修「乳幼児期の子どもの発達と保護者の想い」講師, 大阪市, 2013年11月

氏名	小林 妙子	職名	助教
専門分野	成人看護学		
担当授業科目	【学部】フジカルアセスメント, 方法論Ⅱ		
主な所属学会	日本看護科学学会, 日本看護研究学会		
研究のキーワード	周手術期看護, 心身健康		
平成23年度~平成25年度研究業績			
研究発表	【一般講演(口演)】 1) 小林妙子, 小岩信義, 久住武. 社会的役割の捉え方が主観的幸福感に与える影響, 日本心身健康科学学会, 2011年9月: 東京		

	2) 小林妙子, 小岩信義. 主観的幸福感が BIS/BAS に与える影響, 日本心身健康科学学会. 2012 年 9 月 : 東京
受賞・表彰	1) 日本心身健康科学学会 学会奨励賞 (2011 年)

氏名	城宝 環	職名	助教
専門分野	基礎看護学		
担当授業科目	【学部】看護学概論 I・III, 基礎看護援助論 I～IV, 特別講義 (看護倫理), 基礎看護学実習 I・II, 自分の探求, 総合実習		
主な所属学会	日本看護科学学会, 日本看護学教育学会		
研究のキーワード	看護教育, 基礎看護技術, 国際看護		
平成 23 年度～平成 25 年度研究業績			
論文	<p>〈筆頭〉</p> <p>【その他】</p> <p>1) 城宝 環 (2012). 英国で就業経験をもつ日本人看護師の内発的動機づけと自己効力感が織り成すキャリア志向のプロセス, H24 年度順天堂大学大学院医療看護学研究科修士論文〈筆頭以外〉</p> <p>【原著】</p> <p>1) 服部容子, 前川幸子, 脇坂豊美, 城宝環 (2013). 基礎実践能力を高める看護技術教育内容の検討 (その 3). 甲南女子大学研究紀要 看護学・リハビリテーション学編 7 : 9-22</p>		
研究発表	<p>【一般講演 (口演・ポスター)】</p> <p>1) 城宝環 (2012). 英国で看護師経験のある日本人看護師の内発的動機づけと自己効力感が織り成す変化のプロセス, 第 22 回日本看護学教育学会. 2012 年 8 月 : 熊本市</p> <p>2) 中越利佳, 森久美子, 田中祐子, 野村亜由美, 城宝環 (2013). 国際性を備えた助産師教育の現状と課題, 国際看護研究会第 16 回学術集会. 2013 年 9 月 : 横浜市</p> <p>3) 服部容子, 城宝環, 前川幸子, 野村亜由美, 阿部朋子, 原田千鶴, 宮崎伊久子, 永松いずみ, 吉良いずみ, 佐藤祐貴子 (2013). 看護実践能力を高める基礎看護技術教育モデルの検証—異なるカリキュラムにおける教育活動の評価より—, 第 33 回日本看護科学学会学術集会. 2013 年 12 月 : 大阪市</p>		
研究費取得状況	<p>【科学研究費】</p> <p>1) 前川幸子 (代表), 脇坂豊美, 服部容子, 城宝環, 阿部朋子. 基礎看護技術教育モデルの開発と検証—他大学との連携と協働—. 平成 24 年度科学研究費補助金 (基盤研究 C) 平成 23～25 年度</p>		

学会・協会における活動	1) 日本看護科学学会 第33回日本看護科学学会学術集会実行委員 2) 日本看護学教育学会 医療安全をどう教えるか—チームステップスを中心に—研修会ボランティアとして参加
臨地保健実践活動	1) 英国看護学研修打合せ (英国カンタベリー)

氏名	白田 久美子	職名	教授
専門分野	がん看護学、成人看護学 (急性)		
担当授業科目	<p>【学部】</p> <p>成人看護学概論、成人看護学方法論Ⅱ (急性)、成人看護学実習Ⅱ、フィジカルアセスメント、総合看護 (看護研究)、総合実習</p> <p>【大学院】</p> <p>がん看護学特講、がん病理看護学特講、がん疾病看護学特講、がん看護学援助特講、がん看護学演習Ⅰ、がん看護学演習Ⅱ、がん看護学実習、がん看護学課題研究、がん看護学特別研究</p>		
主な所属学会	日本がん看護学会、日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本看護学教育学会、クリティカルケア看護学会、女性心身医学会		
研究のキーワード	がん看護学、周手術期看護学、がんリハビリテーション看護		
平成23年度～平成25年度研究業績			
論文	<p>〈筆頭〉</p> <p>【資料】</p> <p>1) 白田久美子, 吉村弥須子, 前田勇子, 別宮直子, 岡本双美子, 花房陽子 (2013). 手術後の消化器がん患者に対する多職種チームのサポートによる QOL の変化. 日本がん看護学会誌, 27(3):71-76.</p> <p>〈筆頭以外〉</p> <p>【研究報告】</p> <p>1) 梅林かおる, 白田久美子 (2012), 急性期病棟の看護師長の職務満足度, 日本クリティカルケア看護学会誌, 8(3):26-35.</p>		
研究発表	<p>【一般講演 (口演・ポスター)】</p> <p>1) 吉村弥須子, 白田久美子, 前田勇子, 鈴木けい子, 花房陽子, 駒田良子, 別宮直子 (2011). 膵頭十二指腸切除術を受けた高齢癌患者の配偶者が抱える退院後の生活管理の困難と対処法. 第37回日本看護研究学会, パシフィコ横浜会議センター. 2011年8月:横浜市</p> <p>2) 白田久美子, 大杉治司, 前田勇子, 西上智彦, 辻下守弘 (2014). 開胸・開腹下食道がん根治術を受けた患者の手術前後の筋力低下の状態や生活活動状況の実態. 第1回日本がんリハビ</p>		

	リレーション研究会, 兵庫医療大学, 2014年1月: 神戸市
研究費取得 状況	【科学研究費】 1) 白田久美子 (代表), 江口秀子 (平成23年度~24年度)、前田勇子、田中登美 (平成25年度)、辻下守弘、西上智彦、大杉治司 (平成24年度~平成25年度), 23年度文部科学省科学研究費補助金 (基盤研究C) 平成23年度~平成25年度
学会・協会における活動	日本がん看護学会誌査読委員、日本手術看護学会査読委員、第33回日本看護科学学会学術集会査読委員
臨地保健 実践活動	1) 日々の看護実践から 看護研究に結びつけるコツ、六甲アイランド病院講演会六甲アイランド病院、2011.7月 2) 六甲アイランド病院看護研究指導 3) 大阪市立弘済院倫理委員会委員 4) 大阪市立大学はばたけ夢基金理事

氏名	田中 登美	職名	准教授
専門分野	成人看護学・がん看護学		
担当授業科目	【学部】成人看護学方法論Ⅰ (慢性), 成人看護学方法論Ⅱ (急性), フィジカルアセスメント, 成人看護学実習Ⅰ (慢性), 成人看護学実習Ⅱ (急性), 総合実習, 看護研究の基礎, 基礎看護学実習Ⅰ 【大学院】がん看護学援助特論, がん看護学演習Ⅰ, がん看護学演習Ⅱ, がん看護学実習		
主な所属学会	がん看護学会, 日本看護科学学会, 日本緩和医療学会, 日本臨床腫瘍学会, 日本乳癌学会, 日本癌治療学会, 日本在宅医療学会, 日本乳がん看護研究会, ホスピスケア研究会.		
研究のキーワード	がん看護, 終末期看護, がん化学療法看護.		
平成23年度~平成25年度研究業績			
論文	<筆頭> 【研究報告】 1) 田中登美, 田中京子 (2012). 初めて化学療法を受ける就労がん患者の役割遂行上の困難と対処. 日本がん看護学会誌. 26 (2) : 62-75. 2) 田中登美, 梶村郁子, 林田裕美, 田中京子, 高辻功一 (2012). 一般市民のがん医療と看護に対する認知およびがん医療従事者への期待. 大阪府立大学看護学部紀要. 18 (1) : 85~95. <筆頭以外> 【その他・資料】 1) 林田裕美, 田中登美, 竹下裕子, 田中京子, 高辻功一 (2012). 医療職者のがん看護専門看護師に対する認知と期待. 大阪府立大学看護学部紀要. 18 (1) : 107-112.		

<p>著書</p>	<p>【一般図書・その他】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 田中登美. 田中登美他編 (2012). ケアの疑問解決 Q&A, 化学療法. 「学研MOOK69 看護技術」(総頁 160 頁): 94-96, 学研メディカ秀潤社. 2) 田中登美 (2012). 患者と家族に対する情報提供と心理的サポート, 「がん化学療法ケアガイド改訂版」中山書店. 3) 田中登美 (2012). セルフケアのための教育的アプローチ, 「がん化学療法ケアガイド改訂版」中山書店. 4) 田中登美 (2012) 実習ポケットカード: 第 5 回 成人看護学【血液・造血器】クリニカルスタディ, メジカルフレンド社 5) 日本がん看護学会翻訳ワーキンググループ訳 (2013) がん看護 P E P リソース 患者アウトカムを高めるケアのエビデンス, 医学書院, (翻訳協力) 6) 田中登美 (2014) がん化学療法看護のいま. 外来化学療法を受ける患者の就労支援「化学療法を受ける患者の就労上の困難」. がん看護 1・2 月増刊号. 19 (2): 198-200. 南江堂
<p>研究発表</p>	<p>【一般講演 (口演・ポスター)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 田中登美, 幸阪貴子, 濱也智子, 大和田庸子, 廣瀬瑞穂 (2011). 外来化学療法室における痛みのスクリーニング. 第 48 回日本癌治療学会総会. 2011 年 10 月: 名古屋市 2) 幸阪貴子, 濱也智子, 田中登美, 大和田庸子, 廣瀬瑞穂 (2011). 外来化学療法中の患者における痛みとしびれの実態調査. 第 48 回日本癌治療学会総会. 2011 年 10 月: 名古屋市 3) 幸阪貴子, 濱也智子, 田中登美, 大和田庸子, 廣瀬瑞穂 (2012). 外来で化学療法を受けるがん患者の痛みとしびれの実態調査—痛みとしびれが日常生活に及ぼす影響—. 第 26 回日本がん看護学会学術学会. 2012 年 2 月: 松江市 4) 川口いずみ, 田中登美, 佃博, 大塚正友, 福岡正博 (2013). がん治療の早期から関わる緩和ケア病棟をめざして—患者の認識調査の結果による多職種合同カンファレンスの改善の評価—. 第 10 回日本臨床腫瘍学会学術総会. 2013 年 8 月: 仙台市 <p>【パネル・シンポ・ワーク】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 田中登美 (2012). シンポジウム「緩和ケアチームが精神心理的ケアを提供する工夫」, がん看護専門看護師の立場から. 第 17 回日本緩和医療学会学術学会. 2012 年 6 月: 神戸市 2) 田中登美 (2012). ワークショップ「肺がん患者の呼吸ケアに関わるチーム医療」, 肺がん患者の呼吸ケアにおけるがん看護専門看護師の役割. 2012 年 11 月: 福井市 <p>【その他】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) NHO キャンサーリボンズプレスセミナー「外来化学療法室における痛みのスクリーニング」2011 年 11 月: 東京都千代田区

<p>学会・協会における活動</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 日本がん看護学会評議員（平成 23・24 年度） 2) 日本がん看護学会専任査読者（平成 23・24・25 年度） 3) 日本在宅医療学会評議員（平成 23・24・25 年度） 4) 第 26 回日本がん看護学会学術集会査読委員（平成 23 年度） 5) 日本看護協会がん性疼痛看護認定看護師認定実行委員（平成 23 年度） 6) 大阪府看護協会がん性疼痛看護認定コース試験委員（平成 23・24 年度） 7) 第 33 回日本看護科学学会学術集会査読委員（平成 25 年度） 8) 大阪府看護協会, がん性疼痛看護認定看護師教育課程「患者・家族への教育的アプローチ」講師, 平成 23・24・25 年度 9) 広島県看護協会がん看護研修「がん化学療法中の看護」講師, 平成 23・24・25 年度 10) 香川県看護協会がん看護研修「がん化学療法中の看護」講師, 平成 24 年度 11) 第 24 回日本在宅医療学会学術学会, 「褥瘡・フットケア・在宅リハビリテーション」座長, 平成 25 年度, 大阪市, 2013 年 5 月.
<p>臨地保健実践活動</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 大阪府立大学がんプロフェッショナル養成プラン, 平成 23 年度がん看護インテンシブコース「化学療法看護」講師, 大阪市, 2011 年 8 月 2) NHO キャンサーリボンズ支えあい第 3 回「がん支えあいの日」記念フォーラムーがんと「暮らす」「働く」ー講師, 東京都港区, 2011 年 6 月. 3) NHO キャンサーリボンズ, 北野病院リボンズハウス開設セミナー「がん患者の就労支援」講師, 大阪市, 2011 年 11 月 4) 長崎オンコロジーセミナー「化学療法における看護師の役割」講師, 長崎市, 2011 年 12 月 5) 四天王寺病院がん看護研修「がん化学療法中の看護」講師, 大阪市, 2012 年 6 月 6) NHO キャンサーリボンズ, リボンズハウスネットワーク会議「初めて化学療法を受ける就労がん患者の役割遂行上の困難と対処」講師, 東京都港区, 2013 年 3 月 7) 国立がん研究センター東病院精神腫瘍科セミナー「外来マネジメントー継続ケアー」講師, 柏市, 2013 年 4・10 月 8) 放送大学高知学習センター「エビデンスに基づく看護技術の実践」講師, 高知市, 2013 年 12 月 9) NPO 法人近畿がん診療推進ネットワーク理事（平成 23・24・25 年度） 10) 静岡県静岡がんセンター認定教育教務委員（平成 24・25 年度） 11) NPO 泉州がんネットワーク委員（平成 24・年 25 年度） 12) 和泉市立病院がん患者コンサルテーション（平成 24・25 年度）

氏名	谷口 清弥	職名	講師
専門分野	精神看護学		
担当授業科目	【学部】医療コミュニケーション論、精神看護学方法論、総合看護（看護研究）、 基礎看護学実習・精神看護学実習、総合実習		
主な所属学会	日本精神保健看護学会、日本保健医療行動科学会、日本精神保健社会学会 看護教育研究学会、ヘルスカウンセリング学会		
研究のキーワード	メンタルヘルス・精神看護・看護教育		
平成 23 年度～平成 25 年度研究業績			
論文	<p>〈筆頭〉</p> <p>【原著】</p> <p>1) 谷口清弥, 武田文, 宗像恒次. (2011). 看護師の困難からの立ち直りのプロセスと困難体験が看護に与えた影響, 日本保健医療行動科学会年報, (26) : 2011, 89-103</p> <p>2) 谷口清弥. (2012) 看護師のメンタルヘルスとレジリエンス支援プログラムによる介入の有効性—アサーションプログラムとの比較から—, メンタルヘルスの社会学, (18) : 2012, 41-49</p> <p>【招待論文】</p> <p>1) 谷口清弥. (2012). 看護師のメンタルヘルスとレジリエンスに関する集団介入支援, ヘルスカウンセリング学会年報, (18) : 2012, 19-26.</p> <p>【研究報告】</p> <p>1) 谷口清弥: (2013). 看護師のレジリエンスの現状と支援の検討—精神的回復力の高さによる因果モデルの比較から—, 看護教育研究学会誌 5(1) : 2013, 3-11</p> <p>2) 谷口清弥: (2013). 看護師へのイメージ法を用いた自己イメージ再構築によるメンタルヘルスの中期効果, 日本保健医療行動科学会雑誌, 28(1) : 2013, 71-81</p> <p>3) KiyomiTaniguchi, FumiTakeda, TunetsuguMunaka : (2013).</p> <p>4) Development of Causal Model to Increase the Resilience of Nurses, 6th International Conference of Health Behavioral Science Sustainable Health Promotion Dialogue on Well-being & Human Security in Environmental Health, 232-235</p> <p>【博士論文】</p> <p>1) 谷口清弥: 看護師のメンタルヘルスとレジリエンス支援に関する介入研究, 筑波大学大学院人間総合科学研究科ヒューマン・ケア科学専攻 平成 23 年度 博士論文, 1-190</p> <p>〈筆頭以外〉</p> <p>【実践報告】</p> <p>1) 西村美登里, 谷口清弥. (2012). 精神看護学実習における看護学生の SST 体験の教育効果, 看護教育研究学会誌, 4(1) : 2012, 57-63</p>		

研究発表	<p>【一般講演（口演・ポスター）】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 谷口清弥. (2011). 看護師のレジリエンス向上をめざしたアサーションプログラムの効果. 第 26 回日本保健医療行動科学会, 2011 年 6 月 : 大阪市 2) 谷口清弥. (2011). 看護師のレジリエンス向上をめざした PIR プログラムの効果. 第 26 回日本保健医療行動科学会, 2011 年 6 月 : 大阪市 3) 谷口清弥. (2011). 看護師の困難からの立ち直りのプロセスと困難体験が看護に与えた影響. 第 21 回日本精神保健看護学会学術集会, 2011 年 6 月 : 名古屋市 4) 西村美登里, 谷口清弥, 矢野優子, 南香織. (2011). 精神看護学実習における看護学生の SST 体験. 2011 年 9 月 : 札幌市 5) 谷口清弥. (2012). 看護師を対象としたレジリエンスプログラムの縦断的研究. 第 27 回日本保健医療行動科学会, 2012 年 6 月 : 岐阜市 6) 谷口清弥. (2012). 看護師のレジリエンスと臨床実践力の構成概念による関連の検討. 第 22 回日本精神保健看護学会学術集会, 2012 年 6 月 : 熊本市 7) 谷口清弥. (2012). 看護師の精神的回復力の高さによるレジリエンス因果モデルの比較. (2012). 日本看護学会—看護総合—, 2012 年 8 月 : 静岡市 8) 谷口清弥. (2013). 看護師のライフストーリーから見たナラティブ変容. 第 20 回ヘルスカウンセリング学会学術大会, 2013 年 9 月 : 浦安市 9) 塩谷育子, 谷口清弥. (2013). 潰瘍性大腸炎を発症した子の母親への SAT 療法による介入の一事例. 第 20 回ヘルスカウンセリング学会学術大会, 2013 年 9 月 : 浦安市
学会・協会における活動	<ol style="list-style-type: none"> 1) 日本保健医療行動課学会評議員 2) ヘルスカウンセリング学会研究論文査読委員 3) ヘルスカウンセリング学会 : 「見通しの立たないストレス状況を支援する」シンポジスト. 2013 年 9 月. 浦安市
臨地保健実践活動	<ol style="list-style-type: none"> 1) 看護師研修. 「看護師のレジリエンストレーニング」講師. 2011 年 1 月・2 月, 神戸市 2) 精神障害者の包括支援を考える会研修 : 「精神科訪問看護師が抱えるストレスとコーピング」講師. 2011 年 3 月, 神戸市 3) 新大阪歯科衛生士専門学校主催卒後教育セミナー : 「行動変容のためのコミュニケーションスキル」講師. 2011 年 5 月, 大阪市 4) 西宮市立小松幼稚園父母会研修 : 「子どものこころを育むコミュニケーション法」講師. 2011 年 9 月. 西宮市 5) 兵庫県栄養士会研修 : 「コミュニケーション能力について」講師. 2011 年 10 月. 神戸市 6) 石川県メンタルヘルス助成研修会 : 「レジリエンスを高めて幸せになる」講師. 2012 年 7 月. 金沢市 7) 石川県メンタルヘルス助成研修会 : 「援助職者として知っておきたい精神疾患の知識」講

<p>師. 2013 年 7 月. 金沢市</p> <p>8) 滋賀県立総合保健専門学校教員研修会：「学生-教員関係に生かす気質理論」講師. 2013 年 8 月. 守山市</p> <p>9) 済生会中津病院看護部講演会「臨床看護師だからできる看護研究」講師：2014 年 2 月. 大阪市</p> <p>10) 滋賀県立総合保健専門学校看護学科臨床指導者研修会：「臨地実習をデザインするために-学生理解に生かす気質理論」講師. 2014 年 3 月. 守山市</p> <p>11) 11) 滋賀県立総合保健専門学校歯科衛生学科臨床指導者研修会：「実習指導に生かす気質理論」講師. 2014 年 3 月. 守山市</p>
--

氏名	玉木 敦子	職名	教授
専門分野	精神看護学		
担当授業科目	<p>【学部】精神保健概論, 精神看護学方法論, 精神看護学実習, 医療コミュニケーション論, 看護学概論Ⅱ, 看護研究の基礎, 総合実習</p> <p>【大学院】女性健康看護学特講, 女性健康看護学援助特講, 女性健康看護学演習</p>		
主な所属学会	日本看護科学会, 日本精神保健看護学会, 日本保健医療行動科学学会, その他		
研究のキーワード	看護学, 精神看護, メンタルヘルス, 産後うつ病, ストレスマネジメント		
平成 23 年度～平成 25 年度研究業績			
論文	<p>〈筆頭〉</p> <p>【原著】</p> <p>1) 玉木敦子, 片山貴文. (2012). インターネットを利用した周産期メンタルヘルスサポートプログラムの開発, 甲南女子大学研究紀要 看護学・リハビリテーション学編, 第 6 号, 31-42.</p> <p>【研究報告】</p> <p>1) 玉木敦子, 北村俊則, 小澤千恵, 片山貴文, 岡野禎治 (2013). 看護職を対象とした周産期メンタルヘルスに関する教育研修の効果, 日本周産期メンタルヘルス研究会会報, 第 8 号, 31-33.</p> <p>2) 玉木敦子, 松岡純子 (2014). 学齢期にある広汎性発達障害児と看護師との関係構築—家庭訪問を 1 年 5 か月継続した時点での事例研究—, 甲南女子大学研究紀要 看護学・リハビリテーション学編, 第 8 号, 33-41.</p> <p>【報告書】</p> <p>1) 玉木敦子 (2012). インターネットを利用した周産期メンタルヘルスサポートプログラムの開発, 平成 19 年度～平成 22 年度科学研究費補助金基盤研究 (C) 研究成果報告書.</p> <p>〈筆頭以外〉</p>		

	<p>【研究報告】</p> <p>1) 松岡純子, <u>玉木敦子</u>, 初田真人, 西池絵衣子 (2013) 広汎性発達障害児をもつ母親が体験している困難と心理的支援, 日本看護科学会誌, 33(2), 12-20</p> <p>2) 松岡純子, <u>玉木敦子</u> (2014). 学齢期にある広汎性発達障害児およびその母親と看護師との訪問を通じた関係構築過程, 甲南女子大学研究紀要 看護学・リハビリテーション学編, 第8号, 43-51.</p> <p>【報告書】</p> <p>1) 松岡純子, <u>玉木敦子</u>, 初田真人, 西池絵衣子 (2013). 学齢期にある広汎性発達障害児とその母親への心理的支援モデルの開発, 平成21年度～平成24年度科学研究費補助金基盤研究 (C) 研究成果報告書.</p>
著書	<p>【教科書】</p> <p>(共著)</p> <p>1) <u>玉木敦子</u>. (2011). 第3部 第3章C. 地域精神保健・障がい者保健活動, (P362-383) 津村智恵子, 上野昌江「公衆衛生看護学」(全498頁) 中央法規</p>
研究発表	<p>【一般講演(口演・ポスター)】</p> <p>1) Sumiko Matsuoka, <u>Atsuko Tamaki</u>, Eiko Nishiike, Masato Hatsuda. (2011). Difficulties experienced by mothers of children with pervasive developmental disorders (PDD) and their psychological support needs. 第10回国際家族看護学会. 2011年6月: 京都市</p> <p>2) <u>玉木敦子</u>, 片山貴文. 看護職を対象とした周産期メンタルヘルスに関する教育研修の効果. 第31回日本看護科学会学術集会. 2011年12月: 高知市</p> <p>3) 初田真人, <u>玉木敦子</u>. 精神科訪問看護の推進に関する要因: 精神科を専門とする訪問看護師への聞き取り調査結果. 第31回日本看護科学会学術集会. 2011年12月: 高知市</p> <p>4) 西池絵衣子, 松岡純子, <u>玉木敦子</u>, 初田真人. 広汎性発達障害児の体験する困難に関する母親の認知. 第31回日本看護科学会学術集会. 2011年12月: 高知市</p> <p>5) <u>玉木敦子</u>, 北村俊則, 小澤千恵, 片山貴文, 岡野禎治. 看護職を対象とした周産期メンタルヘルスに関する教育研修の効果. 第9回周産期メンタルヘルス研究会学術集会, 2012年11月, 東京都千代田区</p> <p>6) 松岡純子, <u>玉木敦子</u>, 西池絵衣子, 初田真人. 学齢期にある広汎性発達障害児とその母親のストレングスに焦点を当てた看護援助モデルの開発. 第32回日本看護科学会学術集会. 2012年12月: 東京都千代田区</p> <p>7) Sumiko Matsuoka, <u>Atsuko Tamaki</u>, Eiko Nishiike (2013). Development of a strength-based nursing care model for school-age children with pervasive developmental disorders (PDD) and their mothers, International Network for Psychiatric Research Conference 2013. 2013年9月: Warwick, England</p>

	8) 玉木敦子, 北村敏則, 小澤千恵, 宮崎弘美. 看護職を対象とした周産期メンタルヘルスに関する教育研修の効果: 心理援助態度向上に焦点を当てて. 第10回周産期メンタルヘルス研究会学術集会. 東京都
研究費取得 状況	【科学研究費】 1) 玉木敦子 (代表). 周産期メンタルヘルスのための包括的教育プログラムに関する研究. 平成23~平成26年度科学研究費補助金 (基盤研究C) 2) 松岡純子 (代表), 玉木敦子, 初田真人, 西池絵衣子. 学齢期にある広汎性発達障害児とその母親への心理的支援モデルの開発. 平成21~平成24年度科学研究費補助金 (基盤研究C)
学会・協会における活動	1) 日本精神保健看護学会 査読委員 2) 日本保健医療行動科学学会 評議員 査読委員 3) 日本看護科学学会 評議員 4) 日本周産期メンタルヘルス研究会 理事 5) 第33回日本看護科学学会学術集会一般口演座長
臨地保健 実践活動	1) 兵庫県看護協会研修会平成23年度ミドルマネジャー研修「ストレスマネジメント」講師, 兵庫県看護協会 (平成23~24年度) 2) 産後うつを持つ母親への地域支援体制づくり研修講師, 洲本健康福祉事務所, 2011年8月 3) 平成23年度産後メンタルヘルス支援従事者研修会講師, 甲賀健康福祉事務所, 2011年8月 4) 兵庫県看護協会研修会平成23年度一般研修会「看護職のストレスマネジメント」講師, 兵庫県看護協会 (平成23~24年度) 5) 「産後うつの早期発見, 早期支援事業」スキルアップ研修会講師, 加古川健康福祉事務所, 2011年9月 6) 兵庫県男女共同参画センター「女性のための心身の相談」特別相談員, 神戸市 (~平成25年3月) 7) 平成24年度産後メンタルヘルス支援従業者研修会講師, 甲賀保健所, 2012年5月 8) 「周産期メンタルヘルス: 妊産褥婦のうつ病」, 2012年度兵庫県看護協会一般研修講師, 兵庫県看護協会, 2012年7月 9) 「周産期のメンタルヘルス支援について」, 西播地区周産期連絡会・姫路市保健所職員研修講師, 姫路南保健センター, 2012年8月 10) 養育支援ネット推進検討会講師, 洲本保健福祉事務所, 2012年9月 11) 「こころを温める」, ゆうゆうお産塾講師, 明石アスパア, 2012年9月 12) 平成24年度但馬圏域母子スキルアップ研修会講師, 朝来健康福祉事務所, 2012年11月 13) 「産後うつと支援 産後うつとは, 発見, 対応, 支援など」, 大阪府助産師会研修講師,

	<p>大阪府助産師会, 2012年12月</p> <p>14) 周産期メンタルヘルス研修会主催・講師, 神戸国際会館, 2012年12月</p> <p>15) 平成24年度母子保健従事者研修会講師, 湖東健康福祉事務所, 2013年1月</p> <p>16) 周産期メンタルヘルス研修会講師, 加東健康福祉事務所, 2013年2月</p> <p>17) 平成24年度母子保健従事者研修会講師, 湖北健康福祉事務所, 2013年2月</p> <p>18) 平成24年度第2回母子保健従事者研修会講師, 湖東健康福祉事務所, 2012年3月</p> <p>19) 甲賀市産後メンタルヘルスフォローアップ研修講師, 甲賀市水口保健センター, 2013年3月</p> <p>20) 明石市育児支援家庭訪問事業関係者研修会講師, 明石市民会館, 2013年3月</p> <p>21) 周産期メンタルヘルス勉強会主催・講師, 甲南女子大学, 2013年3月～</p> <p>22) 平成25年周産期メンタルヘルス研修会(神戸市)講師, 神戸市勤労会館, 2013年5月～6月</p> <p>23) 訪問指導員研修会講師, 加古川市役所, 2013年7月</p> <p>24) 兵庫県看護協会研修会平成24年度一般研修会(妊産褥婦のうつ病)講師, 兵庫県看護協会, 2013年8月</p> <p>25) 平成25年度虐待予防ネットワーク連絡会議講演会講師, 神戸市北区役所, 2013年9月</p> <p>26) 平成25年度研修会(産後うつ病のスクリーニングについて)講師, 兵庫県中播磨健康福祉事務所, 2013年9月</p> <p>27) 平成25年度「ハイリスク家庭への虐待予防ネットワークの推進」事業におけるスキルアップ研修会講師, 兵庫県加古川総合庁舎, 2013年9月</p> <p>28) 甲賀市産後メンタルヘルスフォローアップ研修講師, 甲賀市水口保健センター, 2013年10月</p> <p>29) 産後うつ等精神疾患を持つ妊産婦支援者研修会講師, 兵庫県芦屋健康福祉事務所, 2014年1月</p> <p>30) 周産期メンタルヘルス研修会講師, 三木市総合保健福祉センター, 2014年3月</p> <p>31) 母子保健事例検討会(保健師現任教育体制整備事業)助言者, 兵庫県社総合庁舎, 2014年3月</p> <p>32) 平成25年度母子保健従事者研修会, 滋賀県湖東健康福祉事務所, 2014年3月</p> <p>33) 平成25年度母子対応困難事例検討会助言者, 兵庫県宝塚健康福祉事務所, 2014年3月</p>
--	---

氏名	友田 尋子	職名	教授
専門分野	【学部】小児看護学 【大学院】女性健康看護学		
担当授業科目	【学部】小児看護学概論, 小児看護学方法論, 小児看護学実習, 人権擁護論, 看護学概論Ⅱ,		

	看護学概説, 卒業研究, 総合実習 【大学院】女性健康看護学特講, 女性健康看護学援助特講, 女性健康看護学演習, 女性健康看護学特別研究, 司法看護論
主な所属学会	日本小児看護学会, 日本子どもの虐待防止学会, 日本母性衛生学会, 日本小児保健学会, 日本看護科学学会, 日本看護研究学会, 日本看護教育学会, ほか
研究のキーワード	小児看護学, 家族看護学, 女性健康看護学, 司法看護学
平成 23 年度～平成 25 年度研究業績	
論文	<p>〈筆頭〉</p> <p>【原著】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 友田尋子(2012). 子どもの虐待ホットライン. 保健の科学. 54(2). 107-110 2) 友田尋子(2012). 児童の病気. 精神療法. 388(4). 31-40 3) 友田尋子, 問本広美, 森口裕加, 日根埜谷美里(2012). 終末期にある子どものボランティアでの在宅訪問を通して得た, 学生の学びと成長. 看護教育. 53(10). 876-880 4) 友田尋子(2012). 文化と DV: 医療者は DV をどのようにとらえているのか. 日本看護研究学会雑誌. 36(1). 16-18 5) 友田尋子(2013). 児童虐待と看護倫理. 子どもケア. 8(3). 28-32 6) 友田尋子(2014). DV の家庭環境で育つ子どもの問題. 保健の科学. 56(1). 27-30 7) 友田尋子(2014). DV の現状と対応. 周産期医学. 44(1). 13-20 <p>【実践, 症例, 活動報告】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 友田尋子, 森口裕加, 問本広美, 日根埜谷美里(2012). 訪問看護と協働で終末期を支えた小児訪問ボランティア. 訪問看護と介護. 17(11). 974-980 2) 友田尋子, 岸利江, 長江美代子(2012). DV ドゥーラに関する研究. 科学研究費補助金挑戦的萌芽研究報告 <p>【その他】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 友田尋子(2011). 家族間の暴力—DV, 児童虐待—をなくすために. 茨木市人権啓発冊子. 1-2 2) 友田尋子(2011). abuse と看護. 日本看護科学学会雑誌. 31(2). 106-108 3) 友田尋子(2012). 学会集会印象記. 日本看護研究学会雑誌. 35(5). 1
著書	<p>【学術書】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 平木典子, 中釜洋子, 友田尋子(2011). 親密な人間関係のための臨床心理学. 金子書房. 総頁 180 頁. 分担 119-134 2) 松下年子, 日下修一, 力根洋子, 米山奈奈子, 日下和代, 松村仁, 高田昌代, 友田尋子, 堤千鶴子, 吉岡隆, 五十嵐愛子, 岡本隆寛(2011). アデイクション看護学. メデカルフレンド社. 総頁 329 頁. 分担 265-278 <p>【調査報告書】</p>

	<p>1) 友田尋子, 片山三喜子, 川喜田好恵, 川畑真理子, 神原文子, 長谷川京子, 藤田景子(2011). 別居親と子どもの面会交流に関する調査報告書—面会交流が子どもに及ぼす影響—. 総頁 123 頁. 分担 1-123</p>
<p>研究発表</p>	<p>【招待講演, 特別講演】</p> <p>1) 大阪市民政局, 講演「DV 被害と子どもへの影響」2011/4/26</p> <p>2) 大阪市教育センター, 講演「家庭内の暴力が子どもに及ぼす影響」2011/6/21</p> <p>3) 大阪市住吉区役所, 講演「DV と子どもの虐待」2011/8/23</p> <p>4) 堺自由の泉大学, 講演「DV 被害と医療の役割」2011/10/15</p> <p>5) 滋賀県, 講演「別居親と子の面会交流～求められるサポートとは～」2012/3/6</p> <p>6) 福井県看護協会, 講演「クレーム, 暴言, 暴力の予防と対処法」2012/7/21</p> <p>7) 徳島県こども女性相談センター, 講演「DV と子どもの虐待」2012/8/24</p> <p>8) 堺自由の泉大学, 講演「DV とその環境で育つ子ども」2012/9/4</p> <p>9) 滋賀県看護協会, 講演「私たちの暴力にどう対応するか」2012/9/27</p> <p>10) 京都家庭裁判所, 講演「DV と子の福祉」2012/10/16</p> <p>11) 大阪成蹊女子高等学校, 講演「デート DV」2012/11/2</p> <p>12) 北海道看護協会, 講演「看護師への暴力にどう対応するか」2013/1/26</p> <p>13) 福井県看護協会, 講演「ふり返ろう。小児看護～子どもの理解と子どもが納得のいくケアができるために～」2013/6/29</p> <p>14) 堺自由の泉大学, 講演「DV と子どもの虐待など暴力被害者への医療の役割」2013/8/24</p> <p>15) 大阪市教育委員会, 講演「DV や暴力環境下で育った子どもたち」2013/8/29</p> <p>16) 北海道看護協会, 講演「働き続けられる職場環境づくり～職員間の暴言, 暴力と離職予防～」2013/9/25</p> <p>17) 北海道看護協会, 講演「看護職が受ける患者からの暴力～予防と対策～」2013/11/16</p> <p>18) 西宮市, 講演「DV 家庭で育つということ」2013/11/30</p> <p>【一般講演 (口演, ポスター)】</p> <p>1) 友田尋子, 長江美代子, 岸利江子, 妊産婦と産後1ヶ月健診におけるDVスクリーニングの実態: DV ドウラ, プロジェクト中間報告. 第8回子ども学会議. 2012年10月. 大阪</p> <p>2) 岸利江子, 吉田穂波, 友田尋子, 日本の母親の添い寝の志向と実施状況. 第8回子ども学会議. 2012年10月. 大阪</p> <p>3) 長江美代子, 友田尋子, 岸利江子, Development of a Community-based Intimate Partner Violence (IPV) Doula program in Japan. 14th International Society of Psychiatric-Mental Health Nurses Annual Conference Atlanta. 2012年3月. Georgia, USA</p> <p>4) 長江美代子, 友田尋子, 岸利江子, DV サバイバー周産期のトラウマ経験と母子の健康. 第11回日本トラウマ学会. 2012年6月. 東京</p> <p>5) 山田典子, 友田尋子, 中村恵子, フォレンジック看護教育の活用の課題. 第6回日本ヒュー</p>

	<p>マンケア科学学術集会. 2013 年 12 月. 青森</p> <p>6) 山田典子, <u>友田尋子</u>, 吉池信男, 中村恵子. シュミレーション教育を用いたフォレンジック, ナース育成の課題. 日本公衆衛生看護学会. 2014 年 1 月. 小田原</p> <p>【パネル, シンポ, ワーク】</p> <p>1) 第 42 回日本看護学会学術集会シンポジウム「周産期からできる虐待予防」シンポジスト. 2011 年 8 月. 東京</p> <p>2) 第 38 回日本看護研究学会学術集会シンポジウム「日本文化におけるドメスティック, バイオレンス」シンポジスト. 2012 年 7 月. 沖縄</p> <p>3) 神奈川県 DV 防止シンポジウム「DV と子どもたち～暴力を見て育つということ」のパネリスト. 2012 年 9 月. 神奈川</p> <p>【報道関連 (新聞, 雑誌)】</p> <p>1) 2011 年 6 月 30 日, 毎日新聞に「面会交流と子どもの影響研究結果」の報道</p> <p>2) 2011 年 11 月～大阪市人権ホームページ上の動画出演</p>
研究費取得 状況	<p>【科学研究費】</p> <p>1) <u>友田尋子</u> (代表). 岸利江子, 長江美代子. 科学研究費補助金挑戦的萌芽研究 (課題番号 22659420). テーマ「DV ドゥーラに関する研究」. 平成 22 年度～4 年度</p> <p>2) 日下修一 (代表). 三木明子, <u>友田尋子</u>. 科学研究費補助金挑戦的萌芽研究 (課題番号 25670924). テーマ「日本の学部, 大学院教育における新たな司法看護教育体制の創造」. 平成 25 年度～平成 27 年度</p> <p>【その他の公的研究費】</p> <p>1) <u>友田尋子</u> (代表). 片山三喜子, 川喜田好恵, 川畑真理子, 神原文子, 長谷川京子, 藤田景子, 神戸市助成研究. テーマ「別居親と子どもの面会交流に関する調査」. 平成 24 年度</p>
学会, 協会にお ける活動	<p>【学会における活動】</p> <p>1) 平成 24 年～日本小児看護学会評議員</p> <p>2) 平成 24 年～日本子どもの虐待防止学会評議員</p> <p>【協会における活動】</p> <p>1) 平成 10 年～日本 DV 防止情報センター運営委員</p> <p>2) 平成 18 年～大阪市女性協会評議員 (平成 24 年 3 月まで)</p> <p>3) 平成 24 年～大阪市男女共同参画のまち創生協会評議員</p> <p>4) 平成 24 年～大阪市男女共同参画審議会</p>
臨地保健 実践活動	<p>1) 小児看護学における認定看護師育成の講義, 平成 22 年～看護研修学校の小児救急認定看護師コース. 「子どもの虐待と DV」および「司法看護」講義及び演習を毎年 10 コマ担当</p> <p>2) 研究会の開催</p>

氏名	外山 未希子	職名	助手
専門分野	助産学		
担当授業科目	【学部】助産診断技術学Ⅰ，助産診断技術学Ⅱ，総合実習，助産学実習		
主な所属学会	日本看護学会，日本母性看護学会，日本子ども虐待防止学会		
研究のキーワード			
平成 23 年度～平成 25 年度研究業績			
研究発表	<p>【一般講演（口演・ポスター）】</p> <p>1) 森山浩子，江口奈美，外山未希子，田仲淑子（2013）. 虐待危険要因と支援状況との関連性—虐待予防のためにアセスメントシートの活用を試みて—，日本虐待防止学会. 2013 年 12 月：松本市</p>		
臨地保健 実践活動	1) 平成 25 年度東灘区こども保健係 プレママ講座 助産師相談・交流会，神戸市東灘区，2013 年 11 月，12 月		

氏名	野村 亜由美	職名	准教授
専門分野	基礎看護学，国際看護，国際保健		
担当授業科目	【学部】基礎看護援助論Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ，基礎看護実習Ⅰ，Ⅱ，看護研究の基礎，国際保健，国際看護，総合実習		
主な所属学会	日本文化人類学会，日本保健医療社会学会，九州人類学研究会		
研究のキーワード	医療人類学，国際保健学，地域間比較研究，災害看護，看護教育学		
平成 23 年度～平成 24 年度研究業績			
論文	<p>〈筆頭以外〉</p> <p>【実践・症例・活動報告】</p> <p>1) 山口智美，浦田秀子，入山茂美，井上晶代，中尾優子，佐々木規子，野村亜由美，田中悟郎，鶴崎俊哉，中島久義（2011）. ハワイ，カウアイ・コミュニティ・カレッジ教員・看護学生受け入れ報告 2007-2008，保健学研究，21（2）：85-92.</p> <p>2) 松成裕子，横尾誠一，花田裕子，野村亜由美，宮原春美，楠葉洋子，河村靖子，濱野香苗（2011）. IBL 学習法の看護学概論への適用，保健学研究，23（1）：17-24.</p> <p>3) 森下路子，アラセリ パラバグノ，ジョセフィーナ ツーザン，入山茂美，濱野香苗，野村亜由美，山崎真紀子.（2011）. フィリピン大学看護学部との看護教育コラボレーション 第 1 報 看護教育コラボレーション講演会の報告，保健学研究，23（2）：51-59.</p> <p>4) 中尾優子，川崎涼子，楠葉洋子，野村亜由美，山口智美（2013）. 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科保健学専攻看護学講座における助教キャリアアップ支援システムの構築と運用，保健学研究，25（1）：47-52.</p>		

	<p>【その他】</p> <p>1) 鈴木和代, 鮫島輝美, 嶋澤恭子, <u>野村亜由美</u>. (2011). 看護の役割についての現状と未来—病院, 在宅, 教育の現場より—保健医療社会学論集第 22 巻 特別号(臨時), 22 巻, 81.</p> <p>2) <u>野村亜由美</u> (2013). 国際看護教材の開発に向けて一歩を踏み出す, 国際看護交流協会, No. 475, 5-7.</p> <p>3) <u>野村亜由美</u> (2013). 変動する生老病死, フィールドプラス—東京外語大学アジア・アフリカ言語文化研究所—, No. 9, 6.</p>
著書	<p>【図書】</p> <p>(共著)</p> <p>1) 法橋尚宏編著 (2011). ラ・スパ 保健師 2012 — 保健師国試対策, 医学評論社, 総頁 448 頁, 分担 P172-175, 300-319</p> <p>【災害と保健活動】災害の定義と災害時の保健活動の目的, 災害支援の関係, 法規</p> <p>【介護保険制度】介護保険法, 要介護認定, 居宅サービス, 介護予防サービス, 施設サービス, 地域密着型サービス, 地域包括支援センター</p> <p>1) 法橋尚宏編著 (2011). 看護師国家試験ラピッドスタディ 2012, EDITEX 出版, 総頁 320, 分担 P88-138.</p> <p>【基礎看護学】看護理論, 看護管理, 看護倫理, 看護過程・看護診断, バイタルサイン, 生活・療養環境, 移動と移送, 片麻痺患者の援助, 清潔操作, 日常生活援助, 与薬, 医薬品の取り扱い, 良肢位, 関節可動域訓練, リハビリテーション, 救急救命時の看護, 心電図, 検査, 災害看護</p>
研究発表	<p>【パネル・シンポ・ワーク】</p> <p>1) 鈴木和代, 鮫島輝美, 嶋澤恭子, <u>野村亜由美</u> (2011). 看護の役割についての現状と未来—病院, 在宅, 教育の現場より—, 第 37 回日本保健医療社会学学会大会, 2011 年 5 月: 大阪市.</p>
研究費取得状況	<p>【科学研究費】</p> <p>1) <u>野村亜由美</u> (代表). 津波被災後のスリランカにおける高齢者の心的外傷と認知症に関する医療人類学的研究. 平成 21 年度日本学術振興会 (基盤研究 C). 平成 21~平成 23 年度</p> <p>2) 本田純久 (代表), <u>野村亜由美</u>. ソーシャル・キャピタルと心的外傷後ストレス障害の回復に関するマルチレベル分析. 平成 21 年度日本学術振興会 (基盤研究 C). 平成 21~平成 23 年度</p> <p>【その他の外部資金】</p> <p>1) 増田研 (代表), 椎野若菜 (副代表), 共同研究員: 石森大知, 小國和子, 亀井伸孝, 佐藤廉也, 白石壮一郎, 白川千尋, 杉田映理, 孫曉剛, <u>野村亜由美</u>, 波佐間逸博, 古澤拓郎, 宮地歌織, 宮本真二. 社会開発分野におけるフィールドワークの技術的融合を目指して.</p>

	平成 22 年度東京外国語大学 AA 研共同利用・共同研究課題. 平成 22 年 4 月～平成 25 年 3 月
臨地保健 実践活動	1) アジア・アフリカ言語文化研究所 共同研究員 2) 大阪大学コミュニケーションデザイン・センター 招聘教員 (准教授) 3) 医療法人敬天会 グループホーム「野の実」理事

氏名	服部 容子	職名	准教授
専門分野	基礎看護学		
担当授業科目	【学部】基礎看護援助論Ⅰ, 基礎看護援助論Ⅱ, 基礎看護援助論Ⅲ, 基礎看護援助論Ⅳ, 研究方法論, 特別講義 (看護倫理 GW), 基礎看護学実習Ⅰ, 基礎看護学実習Ⅱ, 総合実習, 看護研究		
主な所属学会	日本看護科学学会, 日本看護学教育学会, 日本循環器看護学会 他		
研究のキーワード	基礎看護技術, 看護技術教育, 慢性心不全, セルフケア, セルフモニタリング		

平成 23 年度～平成 25 年度研究業績

論文	<p>〈筆頭〉</p> <p>【原著】</p> <p>1) Yoko HATTORI (2011). Development of an Evaluation Scales for Self-Monitoring by Patients with Heart Failure, Kobe Journal of Medical Sciences, 57(2) : 63-74.</p> <p>2) 服部容子 (2011). 心不全患者のセルフモニタリングに関する評価尺度の開発, 神戸大学大学院保健学研究科学位論文, 神戸大学大学院保健学研究科</p> <p>3) 服部容子, 前川幸子, 他 (2013). 基礎実践能力を高める看護技術教育内容の検討 (その 3). 甲南女子大学研究紀要 看護学・リハビリテーション学編 7 : 9-22.</p> <p>【総説】</p> <p>1) 服部容子 (2011). 循環器疾患における運動を考える-セルフモニタリングを活用した安全な運動の継続-, 月刊 HEART, 1(1) : 156-171.</p> <p>【実践・症例・活動報告】</p> <p>1) 服部容子, 前川幸子他 (2011). 魅力ある授業を作る-甲南女子大学教育実践事例集-甲南女子大学 FD 支援部学習支援チーム編</p>
研究発表	<p>【一般講演 (口演・ポスター)】</p> <p>1) 阿部朋子, 重松豊美, 服部容子, 前川幸子 (2011). 看護学生の看護職への志向の特徴 (その 2) -入学後 2 年間に辿る看護職への志向のプロセス-, 第 31 回日本看護科学学会学術集会, 2011 年 12 月 : 高知県</p> <p>2) 服部容子, 城宝環, 前川幸子, 野村亜由美, 阿部朋子, 原田千鶴, 宮崎伊久子, 永松いずみ, 吉良いずみ, 佐藤祐貴子 (2013) 看護実践能力を高める基礎看護技術教育モデルの検</p>

	証一「基礎看護技術学習の道しるべモデル」の異なるカリキュラムにおける教育活動の評価より一、第33回日本看護科学学会学術集会、2013年12月、大阪市
研究費取得状況	【科学研究費】 1) 服部容子（研究分担者）. 基礎看護技術教育モデルの開発と検証-他大学との連携と協働—（2011～2013年度科学研究費 基盤研究(C), 日本学術振興会 2) 服部容子（研究分担者）. リフレクションを基盤とした看護技術学習における「教え-学ぶ」の深化の様相（2011～2013年度科学研究費 基盤研究(c), 日本学術振興会 3) 服部容子（研究分担者）. 慢性心不全患者の退院早期の在宅療養支援プログラムの開発とその有効性の検討（2011～2013年度科学研究費 基盤研究(c), 日本学術振興会
学会・協会における活動	1) 日本看護協会, 認定看護師慢性心不全看護コース講師, 2011年9月 2) 日本精神科看護技術協会「看護論研修会」講師, 2013年8月 3) 日本看護科学学会第33回日本看護科学学会学術集会実行委員, 2013年12月
臨地保健実践活動	1) 兵庫県看護協会東部支部看護研究講師, 神戸市, 2011年7月 2) 神戸赤十字病院看護研究講師, 神戸市, 2011年5月～2012年3月 3) 兵庫県看護協会東部支部看護研究発表会講師, 神戸市, 2012年1月 4) 実習指導をデザインする臨床実習指導者育成コース (D-PEC) 講師, 2011, 2012年 5) 松下記念病院「看護理論研修会」講師, 2013年8月

氏名	速水 裕子	職名	助教
専門分野	老年看護学, 地域看護学, 産業看護学		
担当授業科目	【学部】老年看護学方法論, 老年看護学概論, 総合看護(看護研究), 基礎看護学実習 I		
主な所属学会	日本公衆衛生学会, 日本女性学会, 日本地域看護学会, 日本温泉地域学会		
研究のキーワード	老年看護学, 地域看護学, 女性学, 産業看護, 労働		
平成23年度～平成25年度研究業績			
著書	【一般図書・その他】 1) 速水裕子 (2012) 「派遣OLにパワーをもたらす30の鉄則」 幻冬舎ルネッサンス		
研究発表	【一般講演(口演)(ポスター)】 1) 金子仁子, 林友紗, 標美奈子, 江口晶子, 小川真美, 田中育代, 速水裕子, 岩清水伴美, 加藤敦子, 松坂由香里, 須藤恭子, 中島健太郎, 三輪 眞知子 (2011) 乳幼児の虐待予防のためのソーシャルキャピタル創出に関する基礎調査 きずな 第70回日本公衆衛生学会総会 2011年10月: 秋田 2) 林友紗, 標美奈子, 江口晶子, 三輪眞知子, 小川真美, 田中育代, 速水裕子, 岩清水伴美, 加藤敦子, 松坂由香里, 須藤恭子, 中島健一朗, 金子仁子 (2011) 乳幼児の虐待予防のためのソーシャルキャピタル創出に関する基礎調査 虐待認識 第70回日本公衆衛生学会総会 2011		

年10月：秋田

- 3) 標美奈子, 林友紗, 江口晶子, 三輪眞知子, 小川眞美, 田中育代, 速水裕子, 岩清水伴美, 加藤敦子, 松坂由香里, 須藤恭子, 中島健一朗, 金子仁子 (2011), 乳幼児の虐待予防のためのソーシャルキャピタル創出に関する基礎調査 活動実態, 第70回日本公衆衛生学会総会 2011年10月：秋田
- 4) 林友紗, 標美奈子, 江口晶子, 三輪眞知子, 小川眞美, 田中育代, 速水裕子, 岩清水伴美, 加藤敦子, 松坂由香里, 須藤恭子, 中島健一朗, 金子仁子 (2011) 乳幼児の虐待予防のためのソーシャルキャピタル創出に関する基礎調査, SFC Open Research Forum 2011, 2011年11月：東京都港区
- 5) 速水裕子 (2012) 登録型派遣社員女性のストレスと健康管理体制, 2012年度日本女性学会大会 2012年6月：東京都豊島区
- 6) 田中育代, 金子仁子, 標美奈子, 林友紗, 速水裕子 (2012) コミュニティ・ミーティングによる住民組織に組織エンパワメントをもたらすための支援, 第71回日本公衆衛生学会総会 2012年10月：山口
- 7) 林友紗, 江口晶子, 三輪眞知子, 小川眞美, 田中育代, 標美奈子, 速水裕子, 石川英里, 岩清水伴美, 加藤敦子, 松坂由香里, 須藤恭子, 中島健一朗, 金子仁子 (2012) 子ども虐待予防のためのソーシャルキャピタル創出に関する調査 虐待認識の因子, 第71回日本公衆衛生学会総会 2012年10月：山口
- 8) 金子仁子, 林友紗, 標美奈子, 江口晶子, 三輪眞知子, 小川眞美, 田中育代, 速水裕子, 岩清水伴美, 加藤敦子, 松坂由香里, 須藤恭子, 中島健一朗 (2012) 子ども虐待予防のためのソーシャルキャピタル創出に関する調査 地域活動との関連, 第71回日本公衆衛生学会総会 2012年10月：山口
- 9) Kimika Usui, Mari Miyake, Miyo Kaneda, Midori Shira, Yuko Hayami. (2013) A study of comparing care workers working at care facilities in Australia and Japan. International Association of Gerontology and Geriatrics June 2013.
- 10) 垣尾美帆, 中西麻梨子, 富田貴和子, 臼井キミカ, 速水裕子, 兼田美代, 矢澤久子 (2013) 認知症対応型デイサービス利用中の高齢者にとって居心地の良い環境の要素①第54回日本社会医学会総会 2013年7月：東京都八王子市
- 11) 中西麻梨子, 垣尾美帆, 富田貴和子, 臼井キミカ, 速水裕子, 兼田美代, 矢澤久子 (2013) 認知症対応型デイサービス利用中の高齢者にとって居心地の良い環境の要素②第54回日本社会医学会総会 2013年7月：東京都八王子市
- 12) 富田貴和子, 垣尾美帆, 中西麻梨子, 臼井キミカ, 速水裕子, 兼田美代, 矢澤久子 (2013) 認知症対応型デイサービス利用中の高齢者にとって居心地の良い環境の要素③第54回日本社会医学会総会 2013年7月：東京都八王子市

【報道関連 (新聞・雑誌)】

	1) 速水裕子 (2012) 女性と派遣労働～一選択肢として評価を, 産経新聞, 2012年10月2日
研究費取得 状況	<p>【学内の助成金】</p> <p>1) 速水裕子. 登録型派遣社員女性の労働環境と保健状況についての研究. 平成23年度慶應義塾大学学事振興資金 個人研究 A[研究費]. 平成23年4月～平成24年3月</p> <p>【科学研究費】</p> <p>1) 速水裕子 (研究協力者) 文部科学省科学研究費「子ども虐待予防に資するソーシャル・キャピタル醸成方法に関する研究」(平成23年～)</p>
臨地保健 実践活動	<p>1) セッション「子どもの虐待は地域の絆で予防できるか～子ども虐待予防活動の真価とは? 保健師活動における乳幼児の虐待発生予防のための方策に関する 研究会主催～SFC Open Research Forum 2011, 東京都港区, 2011年11月</p> <p>2) 湘南産産学交流テクニカルフォーラム出展, 乳幼児の虐待予防のためのソーシャルキャピタル創出に関する基礎調査, 慶應義塾大学 保健師活動における乳幼児の虐待発生予防のための方策に関する研究会, 藤沢市 2011年12月</p> <p>3) 子育て支援についての研修会, 保健師活動における乳幼児の虐待発生予防のための方策に関する研究会主催, 小田原市, 2012年3月</p>

氏名	原田 江梨子	職名	講師
専門分野	成人看護学(慢性期看護・終末期看護)		
担当授業科目	【学部】フィジカルアセスメント, 成人看護学方法論 I, 成人看護学実習 I, 総合看護(卒業研究), 総合実習		
主な所属学会	日本看護研究学会, 日本看護科学学会, 日本がん看護学会, 日本呼吸器学会, 日本心理学会, 日本慢性看護学会, 日本糖尿病教育・看護学会		
研究のキーワード	易感染宿主, 終末期看護, 食行動と栄養		
平成23年度～平成25年度研究業績			
論文	<p>〈筆頭〉</p> <p>【原著】</p> <p>1) 原田江梨子, 安森由美, 藤永新子, 田墨慶子 (2012). 終末期患者を受持った実習体験が看護学生の意識におよぼす影響. 日本看護学会論文集-看護教育-, 42-45.</p> <p>〈筆頭以外〉</p> <p>【研究報告】</p> <p>1) 藤永新子, 原田江梨子, 安森由美 (2011). 看護大学生の健康の意識と対処行動の実態(第2報). 甲南女子大学研究紀要-看護学・リハビリテーション学編-, 6: 69-76.</p> <p>2) 藤永新子, 原田江梨子, 安森由美 (2013). 2型糖尿病患者が初回教育入院を決意した「きっかけ」-自己管理継続のための動機づけ支援の検討のために- 日本慢性看護学会誌 第</p>		

	<p>7巻 第1号,日本慢性看護学会誌</p> <p>【研究報告】</p> <p>1) 藤永新子, <u>原田江梨子</u>, 安森由美, 片岡千明 (2011). 1年6ヶ月以上セルフケアを継続している糖尿病患者の体験プロセス, 看護教育研究学会誌 5巻2号: 33-41.</p> <p>【その他】</p> <p>1) 大森裕子, 江島仁子, 西村美登里, <u>原田江梨子</u>, 吾妻知美 (2012). 看護学科における学生生活支援に対する学生評価-アドバイザー制度に関する調査票の分析から-. 甲南女子大学研究紀要-看護学・リハビリテーション学編-, 7: 57-64.</p> <p>2) <u>原田江梨子</u>, 藤永新子, 安森由美 (2013). 成人看護学方法論(慢性期)におけるロールプレイを活用した教育方法に関する検討-文献調査から-. 甲南女子大学研究紀要-看護学・リハビリテーション学編-, 8: 87-93.</p>
研究発表	<p>【一般講演(口演・ポスター)】</p> <p>1) 藤永新子, <u>原田江梨子</u>, 安森由美. 成人期にある看護学生の健康意識と対処行動(第2報)-年代別による比較-, 第26回保健医療行動科学学会学術集会. 2011年6月: 高槻市</p> <p>2) <u>原田江梨子</u>, 藤永新子, 安森由美, 片岡千明. 糖尿病教育入院患者のセルフケア継続に向けた療育行動の検討-自己管理を認識できなかった患者の振り返りから-, 第4回日本慢性看護学会学術集会. 2011年6月: 岐阜市</p> <p>3) 藤永新子, <u>原田江梨子</u>, 安森由美, 片岡千明. 糖尿病教育入院を経験した患者のセルフケア継続にむけた療育指導のあり方-体験過程と心理的变化から-, 第4回日本慢性看護学会学術集会. 2011年6月: 岐阜市</p> <p>4) <u>原田江梨子</u>, 藤永新子, 安森由美. 終末期看護の教育方法に関する検討-終末期患者を受持った看護学生の学習過程の振り返りから-, 第37回日本看護研究学会学術集会. 2011年8月: 横浜市</p> <p>5) 藤永新子, <u>原田江梨子</u>, 安森由美. 重症患者の「病室に行くことを躊躇する」学生の体験を通じた教育的介入の検討, 第37回日本看護研究学会学術集会. 2011年8月: 横浜市</p> <p>6) 藤永新子, <u>原田江梨子</u>, 安森由美, 片岡千明. 糖尿病教育入院患者のセルフケアマネジメントにむけた療育指導のあり方-患者の体験過程と感情負担を中心に-. 第16回日本糖尿病教育・看護学会学術集会. 2011年9月: 東京都江東区</p> <p>7) 藤永新子, <u>原田江梨子</u>, 安森由美, 片岡千明. 糖尿病を持つ人のセルフケア継続のための療養支援の在り方-初めての教育入院に至る動機に焦点をあてて-, 第6回日本慢性看護学会学術集会. 2012年6月: 浜松市</p> <p>8) 藤永新子, <u>原田江梨子</u>, 安森由美, 片岡千明. 糖尿病教育入院が退院後のセルフケア継続に及ぼす影響-1年6ヶ月を経た患者の体験から-, 第17回日本糖尿病教育・看護学会学術集会. 2012年9月: 東京都江東区</p> <p>9) <u>原田江梨子</u>, 藤永新子, 田墨慶子, 安森由美. 終末期患者を受持った看護学生の意識に実</p>

	<p>習体験がおよぼす影響, 第 43 回日本看護学会学術集会-看護教育-, 2012 年 9 月:盛岡市</p> <p>10) 藤永新子, 原田江梨子, 安森由美, 片岡千明. 糖尿病教育入院のきっかけが患者の生活背景と負担感情に及ぼす影響, 第 7 回日本慢性看護学会学術集会, 2013 年 6 月:兵庫県神戸市</p> <p>11) 原田江梨子, 藤永新子, 安森由美. 血液疾患患者を受持った看護学生の臨地実習指導に関する検討—全領域実習終了後に行った振り返りから—, 第 39 回日本看護研究学会 学術集会, 2013 年 8 月:秋田市</p>
研究費取得状況	<p>【科学研究費】</p> <p>1) 藤永新子 (代表), 東ますみ, 原田江梨子, 安森由美「糖尿病を持つ患者のセルフマネジメント継続のための療養支援のあり方に関する研究」. 平成 24 年度文部科学省研究補助金 (基盤 C). 平成 24 年から 26 年</p>
学会・協会における活動	1) 第 33 回日本看護科学学会学術集会 発表演題の査読および実行委員
臨地保健実践活動	1) 大阪病院協会看護専門学校 非常勤講師 (基礎看護学) 2009 年 4 月～現在に至る

氏名	藤永 新子	職名	講師
専門分野	成人看護学		
担当授業科目	【学部】成人看護学方法論 I, フィジカルアセスメント, 成人看護学実習 I		
主な所属学会	日本看護科学学会, 日本慢性看護学会, 日本糖尿病教育・看護学会, 日本看護教育学会, 看護研究教育学会		
研究のキーワード	糖尿病, 継続看護, ソーシャル・サポート		
平成 23 年度～平成 25 年度研究業績			
論文	<p>〈筆頭〉</p> <p>【研究報告】</p> <p>1) 藤永新子, 原田江梨子, 安森由美 (2011). 看護大学生の健康の意識と対処行動の実態(第 2 報). 甲南女子大学研究紀要-看護学・リハビリテーション学編, 6: 69-76.</p> <p>〈筆頭以外〉</p> <p>【研究報告】</p> <p>1) 原田江梨子, 田墨恵子, 藤永新子, 安森由美 (2011). 看護学生の終末期看護学習に関する知識の形成過程—講義後のレポート記載内容の分析—. 甲南女子大学研究紀要看護学・リハビリテーション学編, 5(1): 157-163.</p> <p>2) 原田江梨子, 藤永新子, 安森由美 (2012). 看護大学生の健康の意識と対処行動の実態(第 2 報), 甲南女子大学紀要看護学, リハビリテーション学編第 6 号: 69-76.</p> <p>3) 原田江梨子, 藤永新子, 安森由美 (2013). 終末期患者を受け持った実習体験が学生の意</p>		

	識に及ぼす影響. 日本看護学会論文集—看護教育—, 42—45
研究発表	<p>【一般講演（口演・ポスター）】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 藤永新子, 原田江梨子, 安森由美 (2011). 成人期にある看護学生の健康意識と対処行動 (第2報) 一年度による比較—. 第26回保健医療行動科学学会学術集会. 2011年6月: 高槻市 2) 原田江梨子, 藤永新子, 安森由美, 片岡千明 (2011). 糖尿病教育入院患者のセルフケア継続に向けた療育行動の検討—自己管理を認識できなかった患者の振り返りから—, 第5回日本慢性看護学会学術集会. 2011年6月: 岐阜市 3) 藤永新子, 原田江梨子, 安森由美, 片岡千明 (2011). 糖尿病教育入院を経験した患者のセルフケア継続にむけた療育指導のあり方—体験過程と心理的变化から—, 第5回日本慢性看護学会学術集会. 2011年6月: 岐阜市 4) 上村聡子・藤永新子, 松浦尊磨 (2011). 地域包括支援センターの円滑な支援に向けたネットワークのあり方 [口頭発表] 第52回社会医学研究学会学術集会発表. 2011年7月: 富山 5) 藤永新子, 原田江梨子, 安森由美 (2011). 重症患者の「病室に行くことを躊躇する」学生体験を通じた教育的介入の検討, 第37回日本看護研究学会学術集会. 2011年8月: 横浜市 6) 原田江梨子, 藤永新子, 安森由美 (2011). 終末期看護の教育方法に関する検討—終末期患者を受持った看護学生の学習過程の振り返りから—, 第37回日本看護研究学会学術集会. 2011年8月: 横浜市 7) 藤永新子, 原田江梨子, 安森由美, 片岡千明 (2011). 糖尿病教育入院患者のセルフマネジメントにむけた療育指導のあり方—患者の体験過程と感情負担を中心に—, 第16回日本糖尿病教育・看護学会学術集会. 2011年9月: 東京 8) 藤永新子, 原田江梨子, 安森由美, 片岡千明 (2012). 糖尿病を持つ人のセルフケア継続のための療養支の在り方—初めて教育入院に至る動機に焦点をあてて—, 第6回日本慢性看護学会学術集会. 2012年6月: 浜松市 9) 藤永新子, 原田江梨子, 安森由美, 片岡千明 (2012). 糖尿病教育入院が退院後のセルフケア継続に及ぼす影響—1年6か月を経た患者の体験—, 第17回日本糖尿病教育・看護学会学術集会. 2012年9月: 東京 10) 原田江梨子, 藤永新子, 安森由美 (2013). 終末期患者を受け持った看護学生の意識に実習体験が及ぼす影響, 第43回日本看護学会学術集会—看護教育—. 2012年9月: 盛岡市
研究費取得 状況	<p>【科学研究費】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 藤永新子 (代表), 東ますみ, 力宗幸男, 安森由美, 原田江梨子. 糖尿病を持つ患者のセルフマネジメント継続のための療養支援のあり方に関する研究. 平成24年度科学技術研

	<p>究補助金（基盤研究C）．平成24～平成26年度</p> <p>2) 東ますみ（代表）, 石垣恭子, 神崎初美, 力宗幸男, 藤永新子, 石橋信江・遠隔看護による早期糖尿病患者に対する継続した自己管理支援に関する研究．平成24年度科学技術研究補助金（基盤研究C）．平成24～平成26年度</p>
学会・協会における活動	1) 兵庫県医師会 地域ケア研究会班員 2010年11月～2013年3月

氏名	俵 志江	職名	准教授
専門分野	公衆衛生看護学		
担当授業科目	【学部】公衆衛生看護学方法論Ⅰ, 公衆衛生看護学方法論Ⅱ, 地域看護学方法論Ⅲ, 地域看護学実習Ⅰ, 地域看護学実習Ⅱ		
主な所属学会	日本公衆衛生学会, 看護科学学会, 地域看護学会, 在宅ケア学会		
研究のキーワード	保健師活動		
平成23年度～平成25年度研究業績			
論文	<p><筆頭></p> <p>【原著】</p> <p>1) 俵志江：地域包括支援センターの個別支援における連携の特徴-運営形態及び3専門職の比較から-, 近大姫路大学看護学部紀要, 4, 23-30, 2012.3</p> <p>2) 俵志江, 李錦純, 小坂裕佳子, 李洋子：地域包括支援センター看護職がとらえる二次予防事業対象者の特徴と支援の現状, 近大姫路大学看護学部紀要5, 11-19, 2013.3</p> <p>【その他】</p> <p>1) 俵志江：地域包括支援センターの専門職による社会資源の創出に関連する要因の検討, 日本地域看護学会誌, 14(1), 62-70, 2011.9</p> <p><筆頭以外></p> <p>【研究報告】</p> <p>1) 岡本玲子, 谷垣静子, 岩本里織, 草野恵美子, 小出恵子, 鳩野洋子, 岡田麻里, 塩見美抄, 小寺さやか, 俵志江, 星田ゆかり, 福川京子, 茅野裕美, 尾ノ井美由紀：保健師等のコンピテンシーを高める学習成果創出型プログラムの開発, 日本公衆衛生学会誌, 58(9), 778-792, 2011.9</p> <p>2) 李錦純, 小坂裕佳子, 檜原理恵, 俵志江, 藤原史博, 神原咲子, 岡谷恵子：病院で働く看護職の大学院への進学ニーズに関する調査研究(第1報)兵庫県西部地域における実態調査, 近大姫路大学看護学部紀要, 4, 67-72, 2012.3</p> <p>3) 藤原史博, 俵志江, 小坂裕佳子, 檜原理恵, 李錦純, 神原咲子, 岡谷恵子：病院で働く看護職の大学院への進学ニーズに関する調査研究(第2報)看護系大学院教育に対する希望</p>		

	<p>と要望, 近大姫路大学看護学部紀要, 4, 51-59, 2012. 3</p> <p>4) 神原咲子, 檜原理恵, 俵志江, 小坂裕佳子, 藤原史博, 李錦純, 岡谷恵子: 病院で働く看護職の大学院への進学ニーズに関する調査研究(第3報) A大学の大学病院における希望と要望, 近大姫路大学看護学部紀要, 4, 73-78, 2012. 3</p> <p>5) 谷垣静子, 岡本玲子, 小寺さやか, 俵志江, 岩本里織, 草野恵美子, 鳩野洋子: 大学院における保健師等のコンピテンシーを高める学習成果創出型プログラムの検討, 保健の科学, 54(9), 641-646, 2012. 9</p> <p>6) 太田暁子, 俵志江, 新田紀枝, 奥村歳子: 新任期保健師の職業的アイデンティティに関連する要因-縦断的研究に基づく検討-, 佛教大学保健医療技術学部論集, 7, 41-49, 2013. 3</p>
著書	<p>【調査報告書】</p> <p>1) 兵庫県看護協会保健師職能小委員会: 職域, 医療, 福祉, 介護分野に所属する保健師の活動に関する実態調査, 2012. 3</p>
研究発表	<p>【一般講演(口演・ポスター)】</p> <p>1) Evaluation of the Competency of Nursing Professionals Working at Community Comprehensive Support Centers to Create Social Resources, The 2nd Japan-Korea Joint Conference on Community Health Nursing, p 109, 2011. 7</p> <p>2) 小坂裕佳子, 松本たか子, 俵志江, 李錦純: 介護認定審査未申請で医療処置を要する初期認知症高齢者へのケア - 在宅支援の実態 -, 日本公衆衛生雑誌, 58(10), p324, 2011. 10</p> <p>3) 俵志江, 李錦純, 小坂裕佳子: 地域包括支援センターに所属する専門職の連携頻度と業務実践内容との関連, 日本公衆衛生雑誌, 58(10), p 280, 2011. 10</p> <p>4) 小坂裕佳子, 李錦純, 俵志江: 介護認定審査未申請で医療処置を要する初期認知症高齢者へのケアに関する調査 - 看護師が介入しない理由 -, 日本看護科学学会学術集会講演集 31 回, p220, 2011. 12</p> <p>5) 俵志江, 阿曾諭生子, 渋谷光代, 出口純子, 西岡美和子, 榊田聖子, 山田寿実子: 地域包括支援センターの保健師と他機関に所属する保健師との連携状況とその目的, 日本公衆衛生雑誌, 59(10), p 509, 2012. 10</p> <p>6) 俵志江, 李錦純, 奥平尚子: 兵庫県の医療機関に所属する保健師の実態に関する研究-看護管理責任者の調査から-, 日本公衆衛生雑誌, 60(10) p547, 2013. 10</p>
研究費取得状況	<p>【科学研究費】</p> <p>1) 俵志江(研究代表者) 平成24年度科学研究費補助金(基盤研究(C))「行政以外の分野に所属する保健師の活動とコア能力に関する研究」平成24~26年度(研究期間3年)</p> <p>【その他の公的研究費】</p> <p>1) 俵志江(研究分担者) 近大姫路大学共同研究助成「地域包括支援センター看護職がとらえる特定高齢者の特徴と支援の現状-A県における実態調査」, 平成23年度(研究期間1年)</p>

	2) 依志江 (研究分担者) 近大姫路大学共同研究助成「医療処置を要する初期認知症高齢者への地域ケア支援」, 平成 23 年度 (研究期間 1 年) 3) 依志江 (研究代表者) 近大姫路大学共同研究助成「職域・医療の分野に所属する保健師の現状と役割に関する研究」, 平成 24 年度 (研究期間 1 年)
学会・協会における活動	1) 日本看護科学学会第 33 回日本看護科学学会学術集会実行委員, 2013 年 12 月

氏名	前川 幸子	職名	教授
専門分野	基礎看護学		
担当授業科目	【看護学科】看護学概論Ⅰ, 看護学概論Ⅲ, 基礎看護援助論Ⅰ, 基礎看護援助論Ⅱ, 基礎看護援助論Ⅲ, 基礎看護援助論Ⅳ, 基礎看護学実習Ⅰ, 基礎看護学実習Ⅱ, 特別講義 (看護倫理), 看護教育学, 看護研究の基礎, 総合実習, 自分の探求 【看護学研究科】看護実践学特講, 看護実践学演習Ⅰ, 看護実践学特別研究, 看護教育学		
主な所属学会	日本看護科学学会, 日本看護学教育学会, 日本看護研究学会, 日本看護倫理学会, 日本教師学学会, 教育哲学学会, 教育思想学会		
研究のキーワード	看護実践・省察的実践に関する研究, 成人学習を基盤にした教育方法		
平成 23 年度～平成 25 年度研究業績			
論文	<筆頭> 【原著】 1) 前川幸子 (2012). 看護学生の「患者理解」という経験に関する記述—ガダマーの解釈学を手がかりに, 看護研究 45 (4) : 356-367 <筆頭以外> 【原著】 1) 服部容子, 前川幸子, 脇坂豊美, 城宝環 (2013). 基礎実践能力を高める看護技術教育内容の検討 (その 3). 甲南女子大学研究紀要 看護学・リハビリテーション学編 7 : 9-22		
著書	【教科書】 1) 深谷智恵子, 藤野彰子, 岩永智恵子編集, 深谷智恵子, 藤野彰子, 岩永智恵子, 前川幸子 他 17 名共著 (2011). ナーシング グラフィカ 10 健康の回復と看護 呼吸循環機能障害, 62-64, 76-82, メディカ出版 2) 深谷智恵子, 藤野彰子, 岩永智恵子編集, 深谷智恵子, 藤野彰子, 岩永智恵子, 前川幸子 他 17 名共著 (2012). ナーシング グラフィカ 10 健康の回復と看護 呼吸循環機能障害, 62-64, 76-82, メディカ出版 3) 前川幸子, 佐々木菜名代, 松浦正子, 江尻昌子, 溝口美枝子, 高木仁美, 竹内麻純, 庄子由美, 樋口春美, 新田和子, 田和尚久 (2013). 看護師長の「超」指導力アップ術—スタ		

	<p>ップを「自ら学ぶ看護師」に育てる, 8-49 メディカ出版</p>
<p>研究発表</p>	<p>【招待講演・特別講演】</p> <p>1) 前川幸子 (2011). 愛媛大学医学部ファカルティ・ディベロップメント講演「臨床実習指導者として育てる・育つ—看護学生の経験に寄り添う実習指導—」, 2011年3月:松山市</p> <p>2) 前川幸子 (2011). 日本発達心理学会分科会サマーカンファレンス 2011 講演「看護師になるということ:出会い、かかわり、つながりの視点から」, 2011年8月:京都市</p> <p>3) 前川幸子 (2012). 大分大学医学部ファカルティ・ディベロップメント講演「教員の成長に活かすための教育評価」, 2012年11月:由布市</p> <p>4) 前川幸子 (2013) 亀田医療大学看護学部ファカルティ・ディベロップメント講演「臨床実習をととした成人学習者としての学び- 教員と実習指導者との協働」, 2013年9月:鴨川市</p> <p>5) 前川幸子 (2013). 全国保育士養成協議会「平成 25 年度全国保育士セミナー・第 52 回研究大会」ワークショップ講演「ケアリングの萌芽を育む対人援助職教育に向けて」, 2013年9月:高松市</p> <p>【一般講演 (口演・ポスター)】</p> <p>1) 西村ユミ, 前川幸子, 荻あや子, 安林奈緒美, 福田俊子, 牧野美幸 (2011). ケアにかかわる実践家の臨床教育—現象学的視点からの検討, 第 37 回日本保健医療社会学会, 2011年5月:豊中市</p> <p>2) 阿部朋子, 重松豊美, 服部容子, 前川幸子 (2011). 看護学生の看護職への志向の特徴 (その 2) - 入学後 2 年間に辿る看護職への志向のプロセス, 第 31 回日本看護科学学会学術集会, 2011年12月:高知市</p> <p>3) 服部容子, 城宝環, 前川幸子, 野村亜由美, 阿部朋子, 原田千鶴, 宮崎伊久子, 永松いずみ, 吉良いずみ, 佐藤祐貴子 (2013). 看護実践能力を高める基礎看護技術教育モデルの検証—異なるカリキュラムにおける教育活動の評価より—, 第 33 回日本看護科学学会学術集会, 2013年12月:大阪市</p> <p>【パネル・シンポ・ワーク】</p> <p>1) 大島弓子, 安酸史子, 雑賀美智子, 前川幸子, 村中陽子 (2011). 日本看護学教育学会特別企画 交流セッション「教育の質向上を目指した能力の育成」, 第 21 回日本看護学教育学会学術集会, 2011年8月:さいたま市</p> <p>2) 大島弓子, 安酸史子, 雑賀美智子, 前川幸子, 村中陽子 (2012). 日本看護学教育学会理事会企画 I ワークショップ 「ポートフォリオを用いたプロジェクト学習」の“成果物”から看護学教育の課題と対策について考える, 第 22 回日本看護学教育学会学術集会, 2012年8月:熊本市</p>

研究費取得 状況	<p>【科学研究費】</p> <p>1) 前川幸子（代表），脇坂豊美，服部容子，城宝環，阿部朋子. 基礎看護技術教育モデルの開発と検証—他大学との連携と協働—. 平成 24 年度科学研究費補助金（基盤研究 C）平成 23～25 年度</p>
学会・協会における活動	<p>1) 日本看護学教育学会 教育活動委員（2010 年 8 月～2012 年 8 月）</p> <p>2) 日本看護協会神戸研修センター 認定看護管理者教育運営委員会委員（2012 年 4 月～現在に至る）</p> <p>3) 日本看護科学学会 第 33 回学術集会企画委員（2012 年 7 月～2014 年 3 月）</p> <p>4) 日本看護学教育学会 第 24 回学術集会企画委員（2012 年 11 月～現在に至る）</p> <p>5) 日本教師学学会理事（2013 年 12 月～現在に至る）</p> <p>6) 日本看護倫理学会 第 8 回年次大会企画委員（2014 年 2 月～現在に至る）</p>
臨地保健 実践活動	<p>1) 松下記念病院看護部研修講師「看護実践を捉え直す（事例検討）」（2010 年 7 月～現在に至る）</p> <p>2) 大分赤十字病院看護部研修講師，「看護実践能力と看護診断」（2010 年 12 月～2012 年 12 月）</p> <p>3) 神戸大学医学部付属病院教育指導者育成コース講師，「看護学教育論—看護学教育のカリキュラム・現状」「看護学教育における教育方法」「看護学教育の評価の視点」「看護継続教育論—看護職者の生涯学習・継続教育の必要性と意義」「看護継続教育の現状と課題」「継続教育の支援の方法」（2010 年 12 月～現在に至る）</p> <p>4) 八尾徳洲会総合病院看護部研修講師「看護実践における看護倫理」（2011 年 3 月）</p> <p>5) 社団法人日本看護協会神戸研修センター 認定看護管理者制度セカンドレベル教育課程講師，「人的資源活用論—施設内教育・施設外教育」「看護人的資源開発論—看護教育と継続教育」（2011 年 9 月～現在に至る）</p> <p>6) 愛媛県看護連盟研修会講師，「臨地実習者として育つ・育てる—学生の経験に寄り添う実習指導」（2012 年 7 月）</p> <p>7) 大阪府看護協会認定看護師教育課程（救急看護分野，脳卒中リハビリテーション看護分野，がん性疼痛看護分野）講師「組織内外の看護者に対して実践を通して知識・技術を共有し，相手の能力を高めるための指導能力を養う」（2012 年 7 月～現在に至る）</p>

氏名	前田 勇子	職名	准教授
専門分野	成人看護学		
担当授業科目	【学部】成人看護学概論，フィジカルアセスメント，成人看護学方法論Ⅱ（急性），看護研究の基礎，成人看護学実習Ⅱ（急性），総合実習，現実をみる G（H. 24 年度）		
主な所属学会	日本看護科学学会，日本看護研究学会，日本看護教育学会，		

	日本がん看護学会, 日本保健医療行動科学会
研究のキーワード	周術期看護, 術後痛
平成 23 年度～平成 25 年度研究業績	
論文	<p>〈筆頭以外〉</p> <p>【実践・症例・活動報告】</p> <p>1) 白田久美子, 吉村弥須子, 前田勇子, 花房陽子, 別宮直子 (2013). 多職種チームによる術後がん患者に対するサポートプログラムの心理面への効果, がん看護学会誌, 27 (3) : 71-76</p>
研究発表	<p>【一般講演 (口演・ポスター)】</p> <p>1) 吉村弥須子, 白田久美子, 前田勇子, 花房陽子, 駒田良子, 別宮直子 (2011) 膣頭十二指腸切除術を受けた高齢がん患者の配偶者が抱える退院後の生活管理の困難と対処法. 第 37 回日本看護研究学会学術集会, 2011 年 8 月 : 横浜市.</p> <p>2) 前田勇子, 安森由美, 中岡亜希子 (2011) 臨床看護師の認識する効果的な気管吸引のための工夫. 第 37 回日本看護研究学会学術集会, 2011 年 8 月 : 横浜市.</p> <p>3) 中岡亜希子, 安森由美, 前田勇子 (2011) 気管吸引における基礎教育の実態と就職後の実践とのギャップ. 第 37 回日本看護研究学会学術集会, 2011 年 8 月 : 横浜市.</p> <p>4) 白田久美子, 吉村弥須子, 前田勇子, 他 (2014) 詳細は白田教授記載内容と同様</p>
研究費取得状況	<p>【科学研究費】</p> <p>1) 白田久美子 (代表), 前田勇子, 江口秀子, 辻下守弘, 西上智彦 手術を受け通院中の消化器系がん患者のリハビリテーション看護モデルの開発, 平成 23 年度文部科学省研究補助金 (基盤研究 C 一般)</p>
学会・協会における活動	1) 第 33 回日本看護科学学会学術集会演題査読

氏名	牧野 裕子	職名	准教授
専門分野	在宅看護学		
担当授業科目	【学部】在宅看護学概論, 在宅看護学方法論 I, 在宅看護学方法論 II, 在宅看護学実習 II		
主な所属学会	日本看護科学学会, 日本公衆衛生学会, 日本老年社会科学会		
研究のキーワード	在宅看護 災害時地域支援ネットワーク 高齢者 QOL		
平成 23 年度～平成 25 年度研究業績			
著書	<p>【教科書】</p> <p>1) 津村智恵子, 上野昌江, 牧野裕子他 (2012). 公衆衛生看護学, 中央法規出版, 総頁 498 頁</p>		

	2) 波川京子, 三徳和子, 牧野裕子他(2012). 在宅看護学, クオリティケア, 総頁 357 頁
研究発表	<p>【一般講演(口演・ポスター)】</p> <p>1) 牧野裕子, 深山華織, 太田暁子, 平松瑞子, 中村裕美子(2011.10)「認知機能低下予防教室参加者の日常活動における予防行動の定着状況」第 70 回日本公衆衛生学会総会(開催地: 秋田)</p> <p>2) 深山華織, 中村裕美子, 牧野裕子(2011.12)「日中独居で過ごす要介護高齢者の抱えている不安とその対処」第 31 回日本看護科学学会学術集会(開催地: 高知)</p> <p>3) 淡海貴子, 増本紀子, 牧野裕子他(2012.9)「在宅療養患者の呼吸管理にアロマセラピーを取り入れた効果の検討」第 1 回アロマセラピー学会国際会議 第 15 回日本アロマセラピー学会学術総会(開催地: 京都)</p> <p>4) 中村裕美子, 深山華織, 牧野裕子(2012.12)「地域高齢者の認知機能低下予防のための集団プログラム参加による効果」第 32 回日本看護科学学会学術大会(開催地: 東京)</p>
研究費取得状況	<p>【科学研究費】</p> <p>1) 牧野裕子(代表), 平成 22 年度~平成 24 年度 科学研究費補助金挑戦的萌芽研究「訪問看護・在宅ケアサービスにおける包括的危機管理体制の構築」</p> <p>2) 新井香奈子, 牧野裕子 平成 23 年度~平成 25 年度学術研究助成基金補助金挑戦的萌芽研究「都市部地域プライマリ・ケアにおける高度実践看護師による家庭看護活動モデルの開発」</p>
学会・協会における活動	1) 平成 23 年度 第 70 回日本公衆衛生学会総会(秋田)分科会座長
臨地保健実践活動	<p>1) 平成 24 年 8 月 奈良県看護実習指導者講習会</p> <p>2) 平成 24 年度高齢者虐待防止ネットワーク運営委員会市民向け講座発言者</p>

氏名	榎田 聖子	職名	講 師
専門分野	公衆衛生看護学		
担当授業科目	地域看護学概論(1 コマ)、地域看護学方法論Ⅰ、地域看護学方法論Ⅱ、地域看護学方法論Ⅲ、保健情報学、地域看護学実習Ⅰ、地域看護学実習Ⅱ		
主な所属学会	日本地域看護学会、日本産業衛生学会、日本高齢者虐待防止学会、日本医療情報学会、日本社会医学会、日本健康教育学会、日本医学教育学会、公衆衛生学会		
研究のキーワード	地域看護学、e-ラーニング		
平成 23 年度~25 年度研究業績			
論文	<p>〈筆頭〉</p> <p>【原著】</p> <p>1) 榎田聖子, 津村智恵子, 臼井キミカ(2013). 都市部における高齢者虐待の被虐待者と養護</p>		

	<p>者の実態と課題；個別事例調査，高齢者虐待防止研究，10(1)，24-32.</p> <p><筆頭以外></p> <p>【原著】</p> <p>1) 津村智恵子，<u>榎田聖子</u>，<u>臼井キミカ</u>(2013). 事例からみた養護者支援の実態と課題；個別養護者支援の実態調査，高齢者虐待防止研究，10(1)，33-40</p> <p>2) 臼井キミカ，津村智恵子，<u>榎田聖子</u>(2013). 都市型自治体における高齢者虐待防止・早期発見のための行政サービスの実態と課題；行政調査(2013)，高齢者虐待防止研究，10(1)，41-49</p>
著書	<p>【教科書】</p> <p>(共著)</p> <p>1) 津村智恵子，上野昌江，<u>榎田聖子</u>他(2012). 公衆衛生看護学，中央法規出版，総頁498頁，分担P236-243，第3部第2章B. 健康診査・健康相談</p>
研究発表	<p>【一般講演(口演・ポスター)】</p> <p>1) <u>榎田聖子</u>，津村智恵子.(2011). 「地域高齢者見守り組織で活用できる見守りチェックシート作り」～見守りチェックシートの有効性について～，第8回日本高齢者虐待防止学会. 2011年7月：水戸市</p> <p>2) <u>榎田聖子</u>，津村智恵子，<u>臼井キミカ</u>.(2013). (その2)高齢者虐待の全国都市部調査からみた被虐待者と養護者の実態・課題，第10回高齢者虐待防止学会. 2013年9月：松前町(ポスター)</p> <p>1) Seiko Masuda, Chieko Tsumura.(2011). Consideration of a Training Program for Developing a Community Watch-over Organization for Elderly People. The 2nd JAPAN-KOREA JOINT CONFERENCE ON COMMUNITY HEALTH NURSING. 2011年7月：KOBE</p> <p>2) <u>榎田聖子</u>，津村智恵子.(2012). 「都市部における高齢者等の地域見守りネットワーク活動」，第9回日本高齢者虐待防止学会. 2012年7月：神戸</p> <p>3) Seiko Masuda, Chieko Tsumura.(2013). Effects of a Watch Organization Training Program. The 20th IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics. 2013年6月：Seoul</p>
研究費取得状況	<p>【その他の公的研究費】</p> <p>1) <u>榎田聖子</u>，Webを用いたコンテンツの高齢者住民見守り組織活動の活動支援および地域看護学教材としての効果. 平成23年度財団法人電気通信普及財団助成金. 平成23～25年度</p> <p>2) <u>榎田聖子</u>，津村智恵子，高齢者虐待予防リーダー育成研修プログラムの作成. 2012年度「高齢者への暴力防止プロジェクト助成」助成金. 平成25年度</p>
学会・協会における活動	<p>1) 兵庫県看護協会保健師職能小委員 2012-2013</p>

<p>臨地保健 実践活動</p>	<p>1) 第10回友愛訪問グループ定例会「高齢者等のセルフ・ネグレクト(自己放任)を防ぐ地域見守り組織のあり方と見守り基準に関する研究 H20~22年度調査報告」講師, 神戸市東灘区, 2011年9月</p> <p>2) 認知症ステップアップ研修「~認知症になっても、安心して暮らせることができる地域について考える~」講師, 神戸市東灘区, 2012年3月</p> <p>3) 「高齢者・障害者虐待防止セミナー」講師, 兵庫県民会館, 2012年10月</p> <p>4) 「高齢者虐待防止~ヒヤリハットから検証する~認知症介護実践研修(実践リーダー研修)修了者フォローアップ研修~」講師, 神戸市西区, 2012年12月</p> <p>5) 「高齢者虐待予防~現場で活かそう」講師, ~認知症介護実践研修(実践リーダー研修)フォローアップ研修~」講師, 神戸市西区, 2013年</p>
----------------------	---

氏名	松岡 純子	職名	講師
専門分野	精神看護学		
担当授業科目	【学部】精神看護学方法論, 精神看護学実習, 医療コミュニケーション論		
主な所属学会	日本看護科学学会, 千葉看護学会, 日本病院地域精神医学会		
研究のキーワード	地域精神看護, 精神科訪問看護, 広汎性発達障害		
平成23年度~平成25年度研究業績			
論文	<p><筆頭></p> <p>【原著】</p> <p>1) 松岡純子, 西池絵衣子 (2012). 電動車椅子サッカーに取り組む競技者が体験する困難と希望, 千葉看護学会会誌, 18(2): 37-44.</p> <p>【研究報告】</p> <p>1) 松岡純子 (2011). デンマークのA市の地域精神科看護師が認識する精神障害者の主体的な生活を支える地域精神看護援助, 近大姫路大学看護学部紀要, 第4号: 41-49.</p> <p>2) 松岡純子, 玉木敦子, 初田真人, 西池絵衣子 (2013). 広汎性発達障害児をもつ母親が体験している困難と心理的支援, 日本看護科学学会誌, 33(2): 12-20.</p> <p>3) 松岡純子, 玉木敦子 (2014). 学齢期にある広汎性発達障害児およびその母親と看護師との訪問を通じた関係構築過程, 甲南女子大学研究紀要 看護学・リハビリテーション学編, 第8号, 43-51.</p> <p><筆頭以外></p> <p>【研究報告】</p> <p>1) 玉木敦子, 松岡純子 (2014). 学齢期にある広汎性発達障害児と看護師との関係構築—家庭訪問を1年5か月継続した時点での事例研究—, 甲南女子大学研究紀要 看護学・リハビリテーション学編, 第8号, 33-41.</p>		

<p>研究発表</p>	<p>【一般講演（口演・ポスター）】</p> <p>1) <u>Sumiko Matsuoka</u>, Atsuko Tamaki, Masato Hatsuda, Eiko Nishiike (2011). Difficulties experienced by mothers of children with pervasive developmental disorders (PDD) and their psychological supports needs, 10th International Family Nursing Conference. 2011年6月：京都市</p> <p>2) <u>松岡純子</u>, 西池絵衣子 (2011). 電動車椅子サッカーに取り組む重度障害者が体験する困難と希望, 第31回看護科学学会学術集会. 2011年12月：高知市</p> <p>3) 西池絵衣子, 玉木敦子, <u>松岡純子</u>, 初田真人 (2011). 広汎性発達障害児の体験する困難に関する母親の認知, 第31回看護科学学会学術集会. 2011年12月：高知市</p> <p>4) <u>松岡純子</u>, 玉木敦子, 初田真人, 西池絵衣子 (2012). 学齢期にある広汎性発達障害児とその母親のストレスに焦点を当てた看護援助モデルの開発, 第32回日本看護科学学会学術集会. 2012年12月：東京都中央区</p> <p>5) 西池絵衣子, <u>松岡純子</u> (2012). 地域で暮らす障がい者が通う就労継続支援B型事業所に勤務するスタッフの看護職へのニーズ, 第32回日本看護科学学会学術集会. 2012年12月：東京都千代田区</p> <p>6) <u>Sumiko Matsuoka</u>, Atsuko Tamaki, Eiko Nishiike (2013). Development of a strength-based nursing care model for school-age children with pervasive developmental disorders (PDD) and their mothers, International Network for Psychiatric Research Conference 2013. 2013年9月：Warwick, England</p> <p>7) <u>松岡純子</u> (2013). 精神障害をもちながら地域で暮らす人が求める地域精神看護援助, 第33回日本看護科学学会学術集会. 2013年12月：大阪市</p>
<p>研究費取得 状況</p>	<p>【科学研究費】</p> <p>1) <u>松岡純子</u>（代表）, 玉木敦子, 初田真人, 西池絵衣子. 学齢期にある広汎性発達障害児とその母親への心理的支援モデルの開発. 平成21年度～24年度 文部科学省研究補助金(基盤研究C). 平成21年度～24年度</p> <p>【その他の公的研究費】</p> <p>1) <u>松岡純子</u>（代表）, 西池絵衣子. 電動車椅子サッカーに取り組む競技者が体験する困難と希望. H23年度近大姫路大学共同研究費助成金.</p> <p>2) 西池絵衣子（代表）, <u>松岡純子</u>. 地域で暮らす障がい者が通う就労継続支援B型事業所に勤務するスタッフの看護職へのニーズ. H23年度近大姫路大学共同研究費助成金.</p>

氏名	丸尾 智実	職名	講師
専門分野	老年看護学		
担当授業科目	【学部】老年看護学方法論, 老年看護学実習, 総合看護(看護研究), 総合実習		
主な所属学会	日本老年看護学会, 日本老年科学学会, 日本認知症ケア学会, 日本地域看護学会, 日本看護科学学会, 日本看護研究学会, 日本公衆衛生学会, The Gerontological society of America		
研究のキーワード	老年看護学, 家族看護学, 在宅看護学, 地域看護学		
平成 23 年度～平成 25 年度研究業績			
論文	<p>〈筆頭〉</p> <p>【研究報告】</p> <p>1) 丸尾智実(2012). 地域住民の認知症の知識とケアに対する自己効力感を評価するための指標の確立. 平成 22 年度ジェロントロジー研究報告, 10 : 144-158.</p> <p>2) 丸尾智実, 河野あゆみ(2012). 地域住民を対象とした認知症の理解促進プログラムの試みープログラム実施前後の質問紙調査による評価. 日本地域看護学会誌, 15(1) : 52-60.</p> <p>3) 丸尾智実, 奥田益弘, 畑八重子, 桑田直弥, 河野あゆみ(2011). 認知機能が低下した高齢者に対応する家族介護者への自己効力感向上プログラムの開発と評価. 平成 23 年度厚生労働科学研究費補助金(認知症対策総合研究事業)報告書, 48-49.</p> <p>〈筆頭以外〉</p> <p>【研究報告】</p> <p>1) 田高悦子, 河野あゆみ, 国井由生子, 藤田俱子, 丸尾智実(2012). 大都市における一人暮らし男性高齢者の地域を基盤とした自立支援プログラムの開発と有効性の評価. 日本地域看護学会誌, 14(2) : 45-50.</p> <p>【実践・症例・活動報告】</p> <p>1) 藤田俱子, 河野あゆみ, 丸尾智実, 田高悦子, 国井由生子(2011). 独居男性高齢者を対象とした食事バランスガイドを用いた健康教育の試み. 日本地域看護学会誌, 14(1) : 49-54.</p>		
著書	<p>【一般図書・その他】</p> <p>1) 永井良三, 田村やよひ監, 丸尾智実(2013). 看護学大辞典 第6版, メヂカルフレンド社, 東京, 総頁 2453, 分担 262, 521, 1808.</p>		
研究発表	<p>【一般講演(口演・ポスター)】</p> <p>1) 丸尾智実, 河野あゆみ(2014). 家族介護者を対象とした認知症の症状に対応する自己効力感向上プログラムの効果; 実施前と2か月後の質問紙調査による評価, 第18回在宅ケア学会学術集会. 2014年3月: 東京都千代田区</p> <p>2) 丸尾智実, 河野あゆみ(2013). 家族介護者を対象としたBPSDに対応する自己効力感向上プログラムの効果; 実施前後の質問紙調査による評価, 第33回日本看護科学学会学術集</p>		

	<p>会. 2013年12月:大阪府大阪市</p> <p>3) 藤田俱子, 濱吉美穂, <u>丸尾智実</u>, 三井昌美(2012). 生活の高齢者を理解するための理論とアセスメント教育のためのDVD作成と有用性の検討, 第32回日本看護科学学会学術集会. 2012年11月:東京都千代田区</p> <p>4) <u>Satomi Maruo</u>, Ayumi Kono(2011). The revised scale for caregiver self-efficacy in Japanese version: reliability and validity studies, The 2nd Japan-Korea Joint Conference on Community Health Nursing. 2011/7, Kobe</p> <p>5) <u>丸尾智実</u>, 河野あゆみ(2011). 地域住民に対する認知症啓発活動の長期効果の検討, 日本老年看護学会第16回学術集会. 2011年6月. 東京都新宿区</p>
研究費取得状況	<p>【その他の公的研究費】</p> <p>1) <u>丸尾智実</u> (代表), 奥田益弘, 畑八重子, 桑田直弥. 家族に対する認知症介護自己効力感向上プログラムの長期効果評価. 公益財団法人平成23年度ファイザーヘルスリサーチ振興財団研究助成 国内共同研究(39歳以下). 平成23年11月1日~平成24年10月31日</p>
学会・協会における活動	<p>1) 日本看護学会 地域看護 論文選考委員</p> <p>2) 第33回日本看護科学学会学術集会 実行委員</p>
臨地保健実践活動	<p>1) 平成25年度 大阪市立大学医学部看護学科 非常勤講師, 大阪市, 2014年1月</p> <p>2) 平成23年度 大阪市立大学医学部看護学科 ティーチングアシスト, 大阪市, 2011年10月~2012年1月</p> <p>3) 平成24年度 大阪市立大学医学部看護学科 ティーチングアシスト, 大阪市, 2012年12月~2013年1月</p>

氏名	森 圭子	職名	教授
専門分野	母性看護学		
担当授業科目	自分の探求, 看護学概論Ⅱ, 母性看護学概論, 母性看護学方法論, 母性看護学実習, 看護研究の基礎, セクシュアリティ論, 看護学概説, 現実をみる, 女性健康デザイン論		
主な所属学会	日本母性衛生学会, 日本女性医学学会, 日本看護研究学会, 日本看護科学学会, 日本思春期学会, 日本母性看護学会		
研究のキーワード	女子大生, 乳房マッサージ		
平成23年度~平成24年度			
論文	<p><筆頭></p> <p>【その他】</p> <p>1) <u>森圭子</u>, 三井明美 (2011). 初めての国家試験を体験して—国家試験支援室の活用—, 看護教育 2011, 52 (11) : 901-905</p> <p><筆頭以外></p>		

	<p>【原著】</p> <p>1) 川村千恵子, <u>森圭子</u> (2011). 乳幼児をもつ母親への助産師によるナラティブ・アプローチの効果研究, 日本保健医療行動科学学会年報 2011, 26 : 104-117</p> <p>2) 三崎直子, 武尾照子, 高梨一彦, <u>森圭子</u> (2012). 乳房マッサージによる「心地よさ」の測定, 保健科学研究 2012, 2 : 4107-113</p>
研究発表	<p>【一般講演 (口演・ポスター)】</p> <p>1) 江島仁子, 安藤布紀子, <u>森圭子</u> (2012). 非医療系女子大生が抱く出産についてのイメージ, 第 14 回日本母性看護学会, 2012 年 6 月 : 神戸市</p> <p>2) 江島仁子, 安藤布紀子, <u>森圭子</u> (2012). 非医療系女子大生の月経に対する認識の実態と健康教育の有用性, 第 31 回日本思春期学会, 2012 年 9 月 : 軽井沢</p> <p>3) 江島仁子, 安藤布紀子, <u>森圭子</u> (2012). 非医療系女子大生を対象とした健康教育の効果—コンドームスキルを導入して—, 第 53 回日本母性衛生学会, 2012 年 11 月 : 博多市</p>
臨地保健 実践活動	<p>1) 神戸市東灘区保健福祉部主催 妊婦専門相談事業</p>

氏名	安森 由美	職名	教授
専門分野	成人看護学		
担当授業科目	【学部】看護学概論Ⅱ, 研究方法論, フィジカルアセスメント, 成人看護学方法論Ⅰ (慢性), 成人看護学実習Ⅰ (慢性), 総合実習, 看護研究の基礎		
主な所属学会	日本慢性看護学会, 日本糖尿病教育・看護学会, 日本看護研究学会, 日本看護科学学会, 日本看護学教育学会		
研究のキーワード	糖尿病, セルフマネジメント, 終末期		
平成 23 年度～平成 25 年度			
論文	<p><筆頭以外></p> <p>【原著】</p> <p>1) 前田勇子, <u>安森由美</u>, 中岡亜希子 (2011). 気管支挿管患者に対する気管吸引に関する研究—ICUと病棟看護師との実践の比較—. 甲南女子大学研究紀要看護学・リハビリテーション学編, 5(1) : 89-97.</p> <p>【研究報告】</p> <p>1) 原田江梨子, 田墨恵子, 藤永新子, <u>安森由美</u> (2011). 看護学生の終末期看護学習に関する知識の形成過程—講義後のレポート記載内容の分析—. 甲南女子大学研究紀要看護学・リハビリテーション学編, 5(1) : 157-163.</p> <p>2) 藤永新子・原田江梨子・<u>安森由美</u> (2012) 看護大学生の健康の意識と対処行動の実態 (第 2 報), 甲南女子大学紀要看護学・リハビリテーション学編第 6 号 : 69-76.</p>		

	<p>3) 乾さおり, 森本美鶴, 江口秀子, <u>安森由美</u> (2012). 在宅で終末期を過ごすための退院支援とその課題—2 事例を振り返って—. 第 42 回日本看護学会論文集 (成人看護Ⅱ) : 150-152.</p> <p>4) 藤永新子・原田江梨子・<u>安森由美</u> (2013) 糖尿病を持つ人のセルフケア継続のための療養支援の在り方—初めて教育入院にいたる動機に焦点をあてて—, 日本慢性看護学会誌 7 (1) : 9-16.</p> <p>5) 原田江梨子, 藤永新子, <u>安森由美</u> (2013). 終末期患者を受け持った看護学生の意識に実習体験が及ぼす影響. 日本看護学会論文集 (看護教育) : 42-45.</p> <p>【実践・症例・活動報告】</p> <p>1) 藤永新子・原田江梨子・片岡千明・<u>安森由美</u> (2013) 1年6か月以上セルフケアを継続している糖尿病患者の体験プロセス, 看護教育研究会看護教育研究学会誌 5 (2) : 33-41.</p>
研究発表	<p>【一般講演 (口演・ポスター)】</p> <p>1) 藤永新子・原田江梨子・<u>安森由美</u> (2011) 成人期にある看護学生の健康意識と対処行動(第2報)—年度による比較—, 第26回保健医療行動科学学会学術集会, 2011年6月:大阪市.</p> <p>2) 藤永新子・原田江梨子・<u>安森由美</u> (2011) 糖尿病教育入院を経験した患者のセルフケア継続に向けた療養指導のあり方—体験過程と心理的变化から—, 第5回慢性看護学会学術集会, 2011年6月:羽鳥市.</p> <p>3) 原田江梨子, 藤永新子, <u>安森由美</u>, 片岡千明 (2011). 糖尿病教育入院患者のセルフケア継続に向けた療育行動の検討—自己管理を認識できなかった患者の振り返りから—, 第5回日本慢性看護学会学術集会. 2011年6月:岐阜市.</p> <p>4) 藤永新子・原田江梨子・<u>安森由美</u> (2011) 重症患者の「病室に行くことを躊躇する」学生の体験を通じた教育的介入の検討, 第37回日本看護研究学会学術集会, 2011年8月:横浜市.</p> <p>5) 原田江梨子・藤永新子・<u>安森由美</u> (2011) 終末期看護の教育方に関する検討—終末期患者を受け持った看護学生の学習過程の振り返りから—, 第37回日本看護研究会学術集会, 2011年8月:横浜市.</p> <p>6) 中岡亜希子, <u>安森由美</u>, 前田勇子 (2011). 気管支吸引における基礎教育の実態と就職後の実践とのギャップ, 第37回日本看護研究学会学術集会. 2011年8月:横浜市.</p> <p>7) 前田勇子, <u>安森由美</u>, 中岡亜希子 (2011). 臨床看護師の認識する効果的な気管吸引のための工夫, 第37回日本看護研究学会学術集会. 2011年8月:横浜市.</p> <p>8) 藤永新子・原田江梨子・<u>安森由美</u> (2011) 糖尿病教育入院患者のセルフマネジメントに向けた療養指導のあり方—患者の体験過程と感情負担を中心に—, 第16回日本糖尿病教育・看護学会学術集会, 2011年9月:東京都.</p> <p>9) 乾さおり, 森本美鶴, 江口秀子, <u>安森由美</u> (2011). 終末期における在宅医療への移行の実際と課題—2 事例を振り返って—, 第42回日本看護学会成人Ⅰ・Ⅱ (合同). 2011年</p>

	<p>9月：大阪市.</p> <p>10) 藤永新子・原田江梨子・<u>安森由美</u> (2012) 糖尿病を持つ人のセルフケア継続のための療養支援の在り方—初めての教育入院に至る動機に焦点をあてて—, 第6回日本慢性看護学会学術集会, 2012年6月：浜松市.</p> <p>11) 原田江梨子・藤永新子・<u>安森由美</u> (2012) 終末期患者を受け持った看護学生の意識に実習体験が及ぼす影響, 第43回日本看護学会学術集会—看護教育—, 2012年9月：盛岡市.</p> <p>12) 藤永新子・原田江梨子・<u>安森由美</u> (2013) 糖尿病教育入院のきっかけが患者の生活背景と負担感情に及ぼす影響, 第7回日本慢性看護学会学術集会, 2013年6月：神戸市.</p> <p>13) 原田江梨子・藤永新子・<u>安森由美</u> (2013) 血液疾患患者を受け持った看護学生の臨地実習指導の関する検討—全領域実習終了後に行った振り返りから—日本看護研究学会第39回学術集会, 2013年8月：秋田市.</p> <p>14) 鈿持知恵・松原昌美・鎮守義幸・<u>安森由美</u>・江口秀子 (2013) 外来看護師の仕事に対するモチベーションの向上に影響する因子—インタビューを用いて—第44回日本看護学会総合看護学術集会, 平成25年9月, 大分市.</p> <p>15) 増田裕香・辻佳那子・梅元薫・<u>安森由美</u>・江口秀子 (2013) 全身麻酔手術後患者の口渇感軽減に対するケアについて—水噴霧とレモン水噴霧を比較して—, 第45回日本看護学会成人看護I学術集会, 平成25年10月, 和歌山市.</p>
研究費取得状況	<p>【科学研究費】</p> <p>1) 藤永新子 (代表), 東ますみ, 力宗幸男, <u>安森由美</u>, 原田江梨子. 糖尿病を持つ患者のセルフマネジメント継続のための療養支援のあり方に関する研究. 平成24年度科学技術研究補助金 (基盤研究C). 平成24～平成26年度</p>
学会・協会における活動	1) 第33回看護科学学会学術大会 運営委員
臨地保健実践活動	1) 済生会千里病院看護研究指導 講師 平成22年4月～平成26年3月

氏名	脇坂 豊美 (重松 豊美)	職名	講師
専門分野	基礎看護学		
担当授業科目	基礎看護援助論Ⅰ、基礎看護援助論Ⅱ、基礎看護援助論Ⅲ、基礎看護援助論Ⅳ 基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ、特別講義、総合実習、看護研究		
主な所属学会	日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本看護学教育学会 他		
研究のキーワード	看護技術、看護技術教育、卒後教育		
平成23年度～25年度研究業績			

著書	<p>(共著)</p> <p>1) 脇坂豊美, 川西千恵美: 第10章 与薬の技術, 119 - 145, 村中陽子, 玉木ミヨ子, 川西千恵美 編著, 学ぶ・試す・調べる 看護ケアの根拠と技術 第2版, 医歯薬出版, 東京, 2013, 3</p>
論文	<p><筆頭></p> <p>【その他】</p> <p>1) 重松豊美: 「教え方」の本を読む!・4 教師たるもの五者たれ 『みんなが分かる! できる人の教え方』, 看護教育, 52(4), 318-323, 2011</p> <p>2) 重松豊美: 「教え方」の本を読む!・7 学生に考えさせるための「仕掛け」の重要性『頭のいい教え方 すごいコツ! 仕事の成果が10倍変わる』, 看護教育, 25(7), 568-571, 2011</p> <p>3) 重松豊美: 「教え方」の本を読む!・10 学生たちの「学びマインド」を磨いて, 「学び上手」に『教え上手は, 学ばせ上手』, 看護教育, 52(10), 882-885, 2011</p> <p>4) 脇坂豊美: 【あのこと習ったこと、今はもう違うんです! 看護手技の「ここが変わった」】注射 筋注射時に「腕をつまんで」穿刺してはいけない, Expert Nurse, 26(2), 32, 2013</p> <p><筆頭以外></p> <p>【原著】</p> <p>1) 服部容子, 前川幸子, 脇坂豊美, 城宝環: 看護実践能力を高める看護技術教育内容の検討(その3) 「基礎看護技術学習の道しるべモデル」を活用した教育の効果と課題, 甲南女子大学紀要(看護学・リハビリテーション学編)7, 9-22, 2013</p> <p>2) Misuzu F. Gregg, Toyomi Wakisaka, Chifuyu Hayashi: Nurse Managers' Strategies for the Integration of Newly Graduated Nurses into Clinical Units in Japan: A Qualitative Exploratory Study, The Open Nursing Journal, 7, 157-164, 2013</p> <p>【実践・症例・活動報告】</p> <p>1) グレッグ美鈴, 林千冬, 脇坂豊美: 状況的アプローチを用いた新卒看護師の病棟社会化を促すストラテジーの開発, 平成22~25年度科学研究費助成金(基盤研究(C))成果報告書, 2014</p> <p>2) グレッグ美鈴, 池田清子, 池西悦子, 内正子, 草野恵美子, 佐々木綾子, 坪井桂子, 森恵子, 山岡由実, 脇坂豊美(分担研究班), 小山真理子(研究代表者): チーム医療時代の看護基礎教育の内容と方法の充実に関する研究, 平成24~25年度厚生労働科学研究費補助金(地域医療基盤開発推進研究事業), 研究成果報告書, 2014</p> <p>【総説】</p> <p>1) グレッグ美鈴, 林千冬, 重松豊美: 新人教育 米国における新卒看護師の卒後研修プログラムの現状, 看護管理, 22(2), 125-130, 2012</p>

研究発表	<p>【一般講演（口演・ポスター）】</p> <p>1) 阿部朋子, 重松豊美, 服部容子, 前川幸子: 看護学生の看護職への志向の特徴(その 2) - 入学後 2 年間に辿る看護職への志向のプロセス, 日本看護科学学会 第 31 回学術集会</p> <p>2) グレッグ美鈴, 重松豊美, 林千冬: 新卒看護師の病棟社会化を促すストラテジー, 日本看護科学学会第 31 回学術集会</p> <p>3) 河野美香, 三村彩果, 重松豊美: 終末期の患者を介護する家族の体験 レスパイトケアの意味. 第 16 回日本緩和医療学会学術大会: 札幌市</p> <p>4) グレッグ美鈴, 林千冬, 脇坂豊美: 病院における「健全で魅力的な労働環境」調査—米国マグネットホスピタルのデータと比較して, 日本看護科学学会 第 31 回学術集会: 東京</p>
研究費取得状況	<p>【科学研究費】</p> <p>1) 脇坂 (重松) 豊美 (代表), 前川幸子, 阿部朋子, 服部容子. リフレクションを基盤とした看護技術学習における「教え - 学ぶ」の深化の様相, 平成 23 年度科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金) (基盤研究 C), 平成 23~25 年度</p> <p>2) グレッグ美鈴 (代表), 重松豊美, 林千冬. 状況論的アプローチを用いた新卒看護師の病棟社会化を促すストラテジーの開発, 平成 22 年度科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金) (基盤研究 C), 平成 22 年度~23 年度</p> <p>3) 前川幸子 (代表), 服部容子, 重松豊美, 阿部朋子. 基礎看護技術教育モデルの開発と検証—他大学との連携と協働—, 平成 23 年度科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金) (基盤研究 C), 平成 23~25 年度</p> <p>4) 小山真理子 (研究代表者), グレッグ美鈴, 池田清子, 池西悦子, 内正子, 草野恵美子, 佐々木綾子, 坪井桂子, 森恵子, 山岡由実, 脇坂豊美: チーム医療時代の看護基礎教育の内容と方法の充実に関する研究, 厚生労働科学研究費補助金 (地域医療基盤開発推進研究事業), 平成 24~25 年度</p>
学会・協会における活動	<p>1) 兵庫県看護協会東部支部 看護研究発表会 講師 (講評) 2012 年 2 月</p>
臨地保健実践活動	<p>1) 看護研究指導 神戸赤十字病院 2011 年~2012 年</p> <p>2) 看護研究指導 神戸徳洲会病院 2011 年~現在に至る</p> <p>3) 看護研究指導 六甲アイランド病院 2011 年~2013 年</p> <p>4) 実習指導をデザインする臨床実習指導者育成コース (D-PEC) 講師, 2011 年~2012 年</p>

5.1.2 理学療法学科

氏名	青田 絵里	職名	助教
専門分野	理学療法学		
担当授業科目	基礎ゼミⅠ、基礎ゼミⅡ、人体の生理機能演習Ⅱ、運動機能障害診断学Ⅰ、理学療法計画論、臨床実習Ⅰ、地域理学療法実習、総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ、卒業研究、健康に生きる		
主な所属学会	公益社団法人日本理学療法士協会、日本呼吸ケア・リハビリテーション学会、日本公衆衛生学会、ウィメンズヘルス理学療法研究会、産後リハビリテーション研究会、日本女性骨盤底医学会、日本理学療法男女医学会		
研究のキーワード	女性リハビリテーション、ウィメンズヘルス、慢性呼吸器疾患、身体活動量		
平成23年度～平成25年度研究業績			
研究発表	<p>【一般講演（口演・ポスター）】</p> <p>1) 弓田真梨子, 久川舞, 眞伏美和, 浅田史成, 青田絵里, 伊藤健一. (2011). 改良版座位有酸素運動プログラムの運動テンポ別にみた強度、ならびにエネルギー消費に関する研究, 第23回大阪府理学療法学会大会. 2011年7月: 大阪市</p> <p>2) 松谷綾子, 青田絵里, 西上智彦, 辻下守弘, 服部耕治, 木村俊夫. (2013). 骨盤内臓器脱術後の便秘禁症状に骨盤底筋の筋電図バイオフィードバック療法が奏効した症例, 第41回日本バイオフィードバック学会大会. 2013年6月: 鎌倉市</p> <p>【報道関連（新聞・雑誌）】</p> <p>1) 藤森恵一郎 (2013). 骨盤底筋正しく鍛えて, 神戸新聞, 2013年10月7日</p>		
学会・協会における活動	兵庫県理学療法士会総務部員 (2007～)		

氏名	伊藤 浩充	職名	教授
専門分野	理学療法学、運動学、スポーツ医学		
担当授業科目	運動学Ⅰ、運動学Ⅱ、運動学演習、基礎ゼミⅠ、基礎ゼミⅡ、運動機能障害診断学Ⅰ、理学療法計画論、スポーツ障害理学療法学、理学療法技術特論、卒業研究、臨床実習Ⅰ、地域理学療法実習、臨床実習Ⅱ、総合臨床実習Ⅰ、総合臨床実習Ⅱ		
主な所属学会	日本理学療法士協会、スポーツ選手のためのリハビリテーション研究会、日本体力医学会、臨床歩行分析研究会、日本臨床バイオメカニクス学会、日本靴医学会		
研究のキーワード	リハビリテーション科学・福祉工学、スポーツ科学、整形外科学		
平成23年度～平成25年度研究業績			
論文	<p>〈筆頭〉</p> <p>【原著】</p> <p>1) 伊藤浩充, 沖田祐介, 鈴木郁, 村上美貴子 (2011). 足部アーチ高率と下肢アライメント</p>		

	から片脚着地時の下肢筋活動量の推定, 甲南女子大学研究紀要看護学・リハビリテーション学編 2011, 6:9-16
著書	<p>【教科書】</p> <p>(共著)</p> <p>1) 福林徹, 小林寛和, 伊藤浩充, 他 (2012) アスリートのリハビリテーションとリコンディショニング(下巻) 福林徹, 小林寛和編集, 文光堂. 総頁 350. 分担 267-273.</p> <p>2) 平田総一郎, 村上雅仁, 有馬慶美, 米田稔彦, 安川達哉, 嶋田智明, 乳千知岩伸匡, 後藤誠, 盛田寛明, 松原貴子, 日高政巳, 小野玲, 伊藤浩充, 武政誠一, 篠原英記 (2011). 筋骨格系キネシオロジー 原著第2版 嶋田智明, 有馬慶美監訳, 医歯薬出版株式会社. 総頁 780. 分担 569-628.</p> <p>3) 中島喜代彦, 森田正治, 伊藤浩充, 他 (2013) 理学療法概論テキスト 細田多穂監修, 南江堂. 総頁 182. 分担 67-74.</p>
研究発表	<p>【一般講演(口演・ポスター)】</p> <p>1) 伊藤浩充, 沖田祐介, 鈴木郁, 村上美貴子 (2011). 片脚着地時の下肢筋活動の推定—toe-out 接地の場合—第 46 回日本理学療法学会大会. 2011 年 5 月: 宮崎県宮崎市</p> <p>2) 伊藤浩充, 登有紀, 瀧口耕平, 木田晃弘, 柴田洋平, 小野くみ子, 黒田良祐, 黒坂昌弘. (2011). 片脚立位保持時間と質問紙評価から前十字靭帯再建術後の片脚運動能力の推定が可能か—スポーツ復帰活動度による違い—, 第 46 回日本理学療法学会大会. 2011 年 5 月: 宮崎県宮崎市</p> <p>3) 伊藤浩充, 瀧口耕平, 小野くみ子, 坂口風花, 中村佳奈, 平井結佳, 三浦昌美. (2011). 高校サッカー選手の身体柔軟性と腰痛との関係, スポーツ選手のためのリハビリテーション研究会第 29 回研修会. 2011 年 11 月: 熊本市</p> <p>4) 伊藤浩充, 瀧口耕平, 小野くみ子, 松本慶吾. (2012). サッカー選手の足関節捻挫の発生要因, 第 47 回日本理学療法学会大会. 2012 年 5 月: 神戸市</p> <p>5) 長谷川貴之, 高田明則, 河村達也, 大塚昌賢, 高橋洋介, 前川慎太郎, 伊藤浩充, 田辺誠. (2012). 「高校柔道で起こりやすい傷害及び障害の特性」—成長期の高校生を対象に検討—, 第 52 回近畿理学療法学会大会. 2012 年 11 月: 奈良市</p> <p>6) 瀧口耕平, 伊藤浩充, 松本慶吾. (2013). サッカーにおける足関節捻挫の特徴とその発生要因に関する考察, スポーツ選手のためのリハビリテーション研究会第 31 回研修会. 2013 年 12 月: 神戸市</p> <p>7) 松本慶吾, 伊藤浩充, 瀧口耕平. (2013). サッカー選手のジャンプ着地姿勢からみた足関節内反捻挫の発生機序の考察, スポーツ選手のためのリハビリテーション研究会第 31 回研修会. 2013 年 12 月: 神戸市</p>

【パネル・シンポ・ワーク】

- 1) 伊藤浩充. (2011). 「足部・足関節の運動学」—下肢の運動学と理学療法 B—, 日本理学療法士協会第 10143 回理学療法士講習会. 2011 年 1 月: 京都府
- 2) 伊藤浩充. (2011). 「足部・足関節の評価」—下肢の運動学と理学療法 B—, 日本理学療法士協会第 10143 回理学療法士講習会. 2011 年 1 月: 京都府
- 3) 伊藤浩充. (2011). 「足部・足関節の触診と下肢アライメントの計測」—下肢の運動学と理学療法 B—, 日本理学療法士協会第 10143 回理学療法士講習会. 2011 年 1 月: 京都府
- 4) 伊藤浩充. (2011). 「足底板の理論と実際」—下肢の運動学と理学療法 B—, 日本理学療法士協会第 10143 回理学療法士講習会. 2011 年 1 月: 京都府
- 5) 伊藤浩充. (2011). 教育講座: 前十字靭帯再建術後の理学療法, 兵庫県理学療法士会第 24 回兵庫県理学療法士学会. 2011 年 7 月: 姫路市
- 6) 伊藤浩充. (2011). スポーツ現場におけるトレーナー活動の実際 —高校サッカーの場合—, 神戸市サッカー協会平成 23 年度第 2 回の医科学講習会. 2011 年 9 月: 神戸市
- 7) 伊藤浩充. (2011). 「足部・足関節の運動学」—下肢の運動学と理学療法 A—, 日本理学療法士協会第 10162 回理学療法士講習会. 2011 年 9 月: 京都府
- 8) 伊藤浩充. (2011). 「足部・足関節の評価」—下肢の運動学と理学療法 A—, 日本理学療法士協会第 10162 回理学療法士講習会. 2011 年 9 月: 京都府
- 9) 伊藤浩充. (2011). 「足部・足関節の触診と下肢アライメントの計測」—下肢の運動学と理学療法 A—, 日本理学療法士協会第 10162 回理学療法士講習会. 2011 年 9 月: 京都府
- 10) 伊藤浩充. (2011). 「足底板の理論と実際」—下肢の運動学と理学療法 A—, 日本理学療法士協会第 10162 回理学療法士講習会. 2011 年 9 月: 京都府
- 11) 伊藤浩充. (2011). 歩行観察から 身体の機能異常を考える, 京都府理学療法士会新人研修会. 2011 年 10 月: 京都府
- 12) 伊藤浩充. (2011). 歩行観察から 身体の機能異常を考える, 第 11 回 T A F. 2011 年 12 月: 姫路市
- 13) 伊藤浩充. (2012). 平成 23 年度兵庫県サッカー協会医科学委員会の活動報告. 2012 年 1 月: 神戸市
- 14) 伊藤浩充. (2012). 足関節・足部の運動学と機能評価, 京都大学運動機能セミナー. 2012 年 8 月: 京都府
- 15) 伊藤浩充. (2012). 腰部の評価と治療, 兵庫県理学療法士会阪神ブロック研修会. 2012 年 11 月: 尼崎市
- 16) 伊藤浩充. (2012). 足部の診かた—バランス能力と歩行能力に着目して—, 神戸大学医学部保健学科理学療法学専攻・神戸大学医療技術短期大学部理学療法学科「就進会～理学療法分科会～」第 6 回実技講習会. 2013 年 2 月: 神戸市
- 17) 伊藤浩充. (2012). 変形性膝関節症の機能障害とその診方, 石川病院勉強会. 2012 年 3

	<p>月：姫路市</p> <p>18) 伊藤浩充. (2013). 足部・足関節の運動学と足底板適応の考え方, 鹿児島県理学療法士会研修会. 2013年3月:鹿児島市</p> <p>19) 伊藤浩充. (2013). 動作観察から肢節の運動を捉える, 神戸リハビリテーション病院勉強会. 2012年6月:神戸市</p>
学会・協会における活動	<p>1) 兵庫県理学療法士会 理学療法啓発部 部長(平成23年度まで)</p> <p>2) スポーツ選手のためのリハビリテーション研究会 理事</p> <p>3) 財団法人日本体育協会 公認アスレティック トレーナー関西連絡会 監事</p> <p>4) 財団法人日本体育協会 公認アスレティック トレーナー兵庫県協議会 理事</p> <p>5) 理学療法学編集協力</p> <p>6) Journal of Athletic Rehabilitation 編集協力</p> <p>7) 財団法人日本体育協会 公認アスレティック トレーナー養成専門科目検定員</p> <p>8) 兵庫県サッカー協会 医科学委員</p>
臨地保健実践活動	<p>1) 滝川第二高校サッカー部にてトレーナー活動</p> <p>2) 藤田整形外科・スポーツクリニックにて理学療法の実践指導(平成24年度まで)</p> <p>3) 西宮渡辺病院にて臨床理学療法の実践指導</p>

氏名	川勝 邦浩	職名	准教授
専門分野	理学療法学		
担当授業科目	理学療法評価学、物理療法学、地域理学療法学、脊髄障害理学療法学、理学療法評価学演習、基礎ゼミⅠ、基礎ゼミⅡ、卒業研究、理学療法総合演習、チームケア論、理学療法技術特論、フィジカルアセスメント(運動器)、臨床実習Ⅰ、地域理学療法実習、臨床実習Ⅱ、総合臨床実習Ⅰ、総合臨床実習Ⅱ		
主な所属学会	日本理学療法学会、兵庫県理学療法学会、日本関節運動学的アプローチ医学会、理学療法士会、日本運動療法学会、日本ホスピス・在宅ケア研究会、兵庫県総合リハビリテーションケア研究大会、関節ファシリテーション研究会		
研究のキーワード	運動器リハビリテーション学		
平成23年度～平成25年度研究業績			
論文	<p>〈筆頭〉</p> <p>【総説】</p> <p>1) 川勝邦浩. (2012). 理学療法とリハビリテーション —その用語の持つ意味—, 甲南女子大学 研究紀要 看護学・リハビリテーション学編2011, 6:1-7</p> <p>【実践・症例・活動報告】</p> <p>1) 川勝邦浩. (2013). 病院幹部との協調によるリハビリテーション部門の拡大 —公立病院</p>		

	<p>における部門管理経験から—, 甲南女子大学 研究紀要 看護学・リハビリテーション学 編 2012, 7 : 45-48</p> <p><筆頭以外></p> <p>【原著】</p> <p>1) 岩佐太一, 成瀬由季子, 和田真明, 小林啓美, 尾倉朝美, 山瀬薫, 北島宏和, 川勝邦浩. (2013). 急性期における施行単位数の増加が大腿骨頸部・転子部骨折術後患者の身体機能と歩行能力に与える影響, 三田市民病院誌 2013, 24 : 128-133</p>
著書	<p>【教科書】</p> <p>(共著)</p> <p>1) 川村博文, 辻下守弘, 西上智彦, 川勝邦浩 (2013). 第6章第5節症例報告から何を学ぶべきか!, (175-181) 齊藤秀之「PT 卒後ハンドブック」(全190頁) 三輪書店.</p>
研究発表	<p>【招待講演・特別講演】</p> <p>1) 川勝邦浩. (2011). 骨運動学・関節運動学に基づく関節治療理論と技術, 兵庫県柔道整復師会研修会. 2011年7月: 神戸市</p> <p>2) 川勝邦浩. (2011). 骨運動学・関節運動学に基づく関節治療技術 ～仙腸関節の評価と治療技術～, 行岡整復専門学校同窓会研修会. 2011年8月: 神戸市</p> <p>3) 川勝邦浩. (2011). 骨運動学・関節運動学に基づく関節治療技術 ～上肢・体幹の治療技術～, 兵庫県柔道整復師会研修会. 2011年9月: 神戸市</p> <p>4) 川勝邦浩. (2011). 頭部・頸部の徒手療法～姿勢と動作への影響～, 社団法人兵庫県理学療法士会神戸東ブロック研修会. 2011年9月: 神戸市</p> <p>5) 川勝邦浩. (2011). 骨運動学・関節運動学に基づく関節治療技術 ～下肢・仙腸関節の治療技術～, 兵庫県柔道整復師会研修会. 2011年10月: 神戸市</p> <p>6) 川勝邦浩. (2012). 骨運動学・関節運動学に基づく関節治療技術 ～フォローアップコース～, 兵庫県柔道整復師会研修会. 2012年3月: 神戸市</p> <p>7) 川勝邦浩. (2012). 骨運動学・関節運動学に基づく関節治療技術 ～頸部・肩関節の治療技術～, 行岡整復専門学校同窓会研修会. 2012年8月: 神戸市</p> <p>8) 川勝邦浩. (2012). 骨運動学・関節運動学に基づく関節可動域運動技術, 甲南女子大学理学療法学科同窓会. 2012年9月: 神戸市</p> <p>9) 川勝邦浩. (2012). 骨運動学・関節運動学に基づく関節治療技術 ～上肢・体幹の治療技術～, 兵庫県柔道整復師会研修会. 2012年10月: 神戸市</p> <p>10) 川勝邦浩. (2012). 骨運動学・関節運動学に基づく関節治療技術 ～下肢・仙腸関節の治療技術～, 兵庫県柔道整復師会研修会. 2012年11月: 神戸市</p> <p>11) 川勝邦浩. (2013). 骨運動学・関節運動学に基づく関節治療技術 ～上肢・体幹の治療技術～, 兵庫県柔道整復師会研修会. 2013年9月: 神戸市</p>

	<p>12) 川勝邦浩. (2013). 骨運動学・関節運動学に基づく関節治療技術 ～下肢・仙腸関節の治療技術～, 兵庫県柔道整復師会研修会. 2013年10月:神戸市</p> <p>13) 川勝邦浩. (2013) 運動学に基づく関節治療技術 ～フォローアップコース～, 兵庫県柔道整復師会研修会. 2014年3月:神戸市</p> <p>【一般講演(口演・ポスター)】</p> <p>1) 尾倉朝美, 和田真明, 北島宏和, 川勝邦浩. (2011). 阪神北圏域における理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の施設連携の現状について ～アンケート調査より～, リハビリテーション・ケア合同研究大会くまもと2011. 2011年10月:熊本市</p> <p>2) 岩佐太一, 成瀬由季子, 和田真明, 小林啓美, 尾倉朝美, 山瀬薫, 北島宏和, 川勝邦浩. (2013). 急性期における施行単位数の増加が大腿骨頸部・転子部骨折術後患者の身体機能と歩行能力に与える影響, 第48回日本理学療法学会大会. 2013年5月:名古屋市</p> <p>【パネル・シンポ・ワーク】</p> <p>1) 川勝邦浩. (2012). 公立病院におけるリハビリテーション部門の拡大～経営者との協調による部門拡大～, 社団法人日本理学療法士協会提案型管理者育成を目指したワークショップ. 2012年2月:府中市</p>
<p>学会・協会における活動</p>	<p>日本理学療法学会大会査読委員, 兵庫県理学療法学会大会査読委員, 社団法人日本理学療法士協会管理者ネットワーク構築委員会委員, 兵庫県理学療法士会表彰委員会委員</p>
<p>臨地保健実践活動</p>	<p>1) 阪神北リハビリテーション支援センター活動方針作成担当, 連絡協議会(年2回), 研修会(年4回)の計画, 2011年度:三田市民病院, 三田市</p> <p>2) 2) 社会福祉法人風 三田わくわく村の介助員への実地指導(年12回), 通所障害者の身体機能維持について指導, 2011年度:三田市</p> <p>3) 三田市民病院で臨床技術指導およびマネジメント指導(月2～3回), 2011年度:三田市</p> <p>4) 神戸医療福祉専門学校三田校非常勤講師, 運動学30時間, 運動生理学15時間, 2011年9月～12月:三田市</p> <p>5) 訪問理学療法(36件), 2012年4月～12月:神戸市</p> <p>6) 阪神北リハビリテーション支援センター活動方針作成担当, 連絡協議会(年2回), 研修会(年4回)の計画, 2012年度:三田市民病院, 三田市</p> <p>7) 社会福祉法人風 三田わくわく村の介助員への実地指導(年6回), 通所障害者の身体機能維持について指導, 2012年度:三田市</p> <p>8) 三田市民病院で臨床技術指導およびマネジメント指導(月2回), 2012年度:三田市</p> <p>9) 神戸医療福祉専門学校三田校非常勤講師, 運動学30時間, 運動生理学15時間, 2012年9月～12月:三田市</p> <p>10) 阪神北リハビリテーション支援センター活動方針作成担当, 連絡協議会(年2回), 研修会(年4回)の計画, 2013年度:三田市民病院, 三田市</p>

<p>11) 社会福祉法人風 三田わくわく村の介助員への実地指導(年 5 回), 通所障害者の身体機能維持について指導, 2013 年度: 三田市</p> <p>12) 三田市民病院で臨床技術指導およびマネジメント指導(月 2 回), 2013 年度: 三田市</p> <p>13) 訪問理学療法(16 件), 2013 年 8 月~11 月: 神戸市</p> <p>14) 甲南女子大学公開講座 2013 「姿勢と腰痛」, 2013 年 9 月: 神戸市</p> <p>15) 神戸医療福祉専門学校三田校非常勤講師, 運動学 30 時間, 2013 年 9 月~11 月: 三田市</p>

氏名	川村 博文	職名	教授
専門分野	理学療法学, 物理療法学		
担当授業科目	物理療法学Ⅱ, 筋骨格障害理学療法学Ⅱ, 神経筋障害理学療法学, 基礎ゼミⅠ・Ⅱ, 卒業研究, 理学療法技術特論, 理学療法総合演習など		
主な所属学会	日本理学療法士学会, 日本物理療法学会, 日本リハビリテーション医学会		
研究のキーワード	物理療法, 疼痛評価, 疼痛治療		
平成 23 年度~平成 25 年度研究業績			
論文	<p>〈筆頭〉</p> <p>【総説】</p> <p>1) <u>川村博文</u>, 高木峰子, 鶴見隆正, 内田賢一, 鈴木智高, 菅原憲一, 大矢暢久. (2012. 1) 関節可動域制限の予防・治療を目的とした物理療法, 理学療法 29:35-42</p> <p>2) <u>川村博文</u>, 辻下守弘, 西上智彦, 大矢暢久, 鈴木智高. (2012. 8) エビデンスにつなげるための臨床場面で身近に使える測定法—末梢循環の測定法—理学療法 29: 919-928</p> <p>【その他】</p> <p>1) <u>川村博文</u>, 高木峰子, 鶴見隆正, 内田賢一. (2011. 6) 物理療法の最近の動向, 理学療法学 38:323-325</p> <p>2) <u>川村博文</u>, (2012. 6) 先見性と臨床能力, 理学療法ジャーナル 46: 473</p> <p>3) 鶴見隆正, 杉元雅晴, <u>川村博文</u>, 生野公貴, 我孫子幸子. (2013. 8) 物理療法の再興を語る, 理学療法ジャーナル 47: 705-714</p> <p>〈筆頭以外〉</p> <p>【研究報告】</p> <p>1) 高木峰子, <u>川村博文</u>, 鶴見隆正, 内田賢一. (2011. 7) 極超短波治療器による電磁場環境が理学療法に関わる医療機器に及ぼす影響, 日本物理療法学会会誌 18: 46-49</p> <p>2) 大矢暢久, 太田裕敏, <u>川村博文</u>. (2012. 2) 理学療法分野における超音波評価装置を用いた評価の有用性—急性期肩関節周囲炎患者に対するパルス超音波療法の効果判定を通して—, 技術と研究 40: 47-58</p> <p>3) 大矢暢久, 太田裕敏, <u>川村博文</u>. (2012. 7) 急性期肩関節周囲炎患者の肩関節痛に対する</p>		

	<p>パルス超音波療法の非温熱効果の検討, 日本物理療法学会会誌 19 : 59-67</p> <p>4) 大矢暢久, 富田知也, 太田裕敏, <u>川村博文</u>. (2012. 10) 変形性膝関節症の膝の疼痛に対するパルス超音波療法を実施した一症例の検討 ～超音波評価装置を用いた病態評価に基づいて～, 理学療法科学 27 : 603-608</p> <p>5) 大矢暢久, 富田知也, 太田裕敏, <u>川村博文</u>. (2013. 4) 急性期肩関節周囲炎患者に対するパルス超音波療法の非温熱効果の検討 平成 23 年度日本理学療法士協会研究助成報告書, 理学療法学 40 : 114-115</p> <p>6) 大矢暢久, 富田知也, 太田裕敏, <u>川村博文</u>. 急性期肩関節周囲炎の肩の疼痛に対するパルス超音波療法の非温熱効果の検討—超音波検査を用いて—, 理学療法学 40 : 176-183</p>
著書	<p>【教科書】 (共著)</p> <p>1) <u>川村博文</u> (2012) . 第 2 章 VI. 下肢切断. (168-177) 鶴見隆正, 隆島研吾「標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学 (第 4 版)」 (全 358 頁) 医学書院</p> <p>2) <u>川村博文</u> (2013) . 第 2 章 I (18-19) II (20-27) III (28-32) IV (33-36) VI (49-57). 第 10 章 IV (266-268) 網本 和, 菅原憲一「標準理学療法学 物理療法学 (第 4 版)」 (全 303 頁) 医学書院</p> <p>3) <u>川村博文</u> (2013) . 9 章. 極超短波療法. (95-104) 12 章. エネルギー変換療法 実習 : 生理学的効果実験. (125-126) 細田多穂, 木村貞治, 沖田 実, Goh Ah Cheng 「物理療法学テキスト (改訂第 2 版)」 (全 398 頁) 南江堂</p>
研究発表	<p>【招待講演・特別講演】</p> <p>1) <u>川村博文</u>: 最近の物理療法の現状 (EBM を踏まえて), 石川県理学療法士会学術研修会 講師, 平成 24 年 1 月 : 金沢市</p> <p>2) <u>川村博文</u>: 現行診療報酬請求システム下での物理療法の実情, 第 47 回日本理学療法学会学術大会 シンポジスト, 平成 24 年 5 月 : 神戸市</p> <p>3) <u>川村博文</u>: 物理療法と運動療法の複合効果を活用することの意義, 神奈川県理学療法士会研修会 講師, 平成 24 年 9 月 : 横浜市</p> <p>【一般講演 (口演・ポスター)】</p> <p>1) 鶴見隆正, <u>川村博文</u>, 菅原憲一, 鈴木智高, 高木峰子, 畠中泰司, 島津 尚子. 下肢の支持性とトウクリアランスの確保が乏しい片麻痺患者に対する歩行指導について (ポスター発表), 第 46 回日本理学療法学会学術大会. 2011 年 5 月 : 宮崎県宮崎市</p> <p>2) 大矢暢久, 富田知也, 太田裕敏, <u>川村博文</u>. 急性期肩関節周囲炎の肩関節痛に対するパルス超音波療法の非温熱効果の検討 (口述発表), 第 19 回日本物理療法学会学術大会. 2011 年 10 月 : 徳島県徳島市</p> <p>3) 高木峰子, <u>川村博文</u>, 鶴見隆正, 菅原憲一, 内田賢一. 極長短波治療器から照射される</p>

	<p>電磁波が隣接された物理療法機器に及ぼす影響(口述発表), 第19回日本物理療法学会学術大会. 2011年10月:徳島県徳島市</p> <p>4) 鶴見隆正, <u>川村博文</u>, 菅原憲一, 辻下守弘, 特別支援学校における自立活動教員の研修支援について(ポスター発表), 第49回日本リハビリテーション医学会学術集会. 2012年6月:福岡県福岡市</p> <p>5) 高木峰子, <u>川村博文</u>, 鶴見隆正, ホットパックと極超短波療法が局所と全身に及ぼす影響について(口述発表), 第20回日本物理療法学会学術大会. 2012年10月:京都府京都市</p> <p>6) 大矢暢久, 富田知也, 太田裕敏, <u>川村博文</u>, 変形性膝関節症の膝の疼痛に対するパルス超音波療法を実施した一症例の検討~超音波評価装置を用いた病態評価に基づいて~(口述発表), 第20回日本物理療法学会学術大会. 2012年10月:京都府京都市</p> <p>7) 辻下守弘, <u>川村博文</u>, 他, 高齢者に対するキネクトセンサーを用いたインタラクティブ・リハビリテーションの効果(口述発表), 第41回日本バイオフィードバック学会, 2013年6月:神奈川県鎌倉市</p> <p>8) Kenichi Ito, <u>Hirobumi Kawamura</u>, et al, Effects of phasic electrical stimulation during expiration in elderly patients with chronic obstructive pulmonary disease: a randomised control trial (ポスター発表), European Respiratory Society Annual Congress 2013 Barcelona. 2013年9月:スペイン, バルセロナ</p> <p>9) 西上智彦, <u>川村博文</u>, 他, アイシングの部位及び感じ方で痛みの軽減効果は異なるか?—人工膝関節全置換術後における検討—(口述発表), 第21回日本物理療法学会学術大会. 2013年10月:神奈川県横須賀市</p>
<p>研究費取得 状況</p>	<p>【その他の公的研究費】</p> <p>1) 伊藤健一(代表), 太田正哉, <u>川村博文</u>, 堀江 淳, 我々が開発した高齢慢性呼吸器患者に対する簡易携帯型呼吸運動支援装置の臨床効果に関する研究, 平成23年度大坂ガスグループ福祉財団研究・調査助成</p> <p>2) 大矢暢久(代表), 富田知也, 太田裕敏, <u>川村博文</u> 担)「急性期肩関節周囲炎患者に対するパルス超音波療法の非温熱効果の検討, 平成23年度日本理学療法士協会研究助成</p>
<p>学会・協会における活動</p>	<p>1) 日本物理療法学会副会長</p> <p>2) 日本物理療法学会研究助成選考委員会委員</p> <p>3) 日本理学療法士協会学術誌理学療法学査読委員</p> <p>4) 日本物理療法学会学術誌査読委員</p> <p>5) 日本理学療法士協会物理療法研究部会学会担当運営幹事</p> <p>6) 日本理学療法士協会分科学会移行特別委員会委員</p> <p>7) 日本理学療法士協会物理療法部門代表運営幹事</p>

	8) 日本理学療法士協会学術大会演題査読審査委員 9) 次世代リハビリテーション研究所理事
臨地保健 実践活動	1) 日本理学療法士協会第2回認定理学療法士協会指定研修会「理学療法機器の安全管理」講師, 東京都荒川区, 2011年8月 2) 日本理学療法士協会認定理学療法士必須研修会「疼痛管理に必要な基礎知識」講師, 東京都大田区, 2011年9月 3) 日本理学療法士協会認定理学療法士必須研修会「疼痛の評価と物理療法の実際」, 講師, 東京都大田区, 2011年9月 4) 日本理学療法士協会認定理学療法士必須研修会「物理療法における臨床・教育・研究の問題点」, 講師, 東京都大田区, 2011年11月 5) 日本理学療法士協会認定理学療法士必須研修会「疼痛管理に必要な基礎知識」, 講師, 北海道札幌市, 2012年10月 6) 日本理学療法士協会認定理学療法士必須研修会「疼痛の評価と物理療法の実際」, 講師, 北海道札幌市, 2012年10月 7) 日本理学療法士協会認定理学療法士必須研修会「物理療法における臨床・教育・研究の問題点」, 講師, 兵庫県神戸市, 2012年11月 8) 日本理学療法士協会認定理学療法士必須研修会「疼痛管理に必要な基礎知識」, 講師, 広島県広島市, 2013年10月 9) 日本理学療法士協会認定理学療法士必須研修会「疼痛の評価と物理療法の実際」, 講師, 広島県広島市, 2013年10月 10) 日本理学療法士協会認定理学療法士必須研修会「物理療法における臨床・教育・研究の問題点」, 講師, 東京都大田区, 2013年11月 11) 平成25年度理学療法士講習会「痛みの基礎知識と物理療法 痛みに対する物理療法の実際」, 講師, 兵庫県神戸市, 2013年12月

氏名	神沢 信行	職名	教授
専門分野	脊髄障害理学療法学 脳血管障害理学療法学		
担当授業科目	自分の探究, 基礎ゼミⅠ・Ⅱ, 理学療法評価学演習, リハビリテーション工学, 地域理学療法学, 義肢装具学, 脳血管障害理学療法学, 脊髄障害理学療法学, 福祉用具・生活環境論(各論), 理学療法総合演習, 卒業研究, 臨床実習Ⅰ・Ⅱ, 地域理学療法実習, 総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ		
主な所属学会	日本理学療法士協会, 日本義肢装具学会, 日本リハビリテーション工学協会, 日本身体障害者補助犬学会, 兵庫県リハビリテーション研究会, 他		
研究のキーワード	脊髄損傷, 脳卒中, 身体障害者補助犬		

平成 23・24・25 年度研究業績	
論文	<p>【総説】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 神沢信行：障害のある方・要介護高齢者を災害時に支える—身体障害のある方への対応，地域リハビリテーション，7(2)：109-112，三輪書店 2) 石川智昭・神沢信行・他：介助犬使用者の生活の質と心の健康に関する調査，日本補助犬科学研究，6(1)：49-52，日本身体障害者補助犬学会 3) 神沢信行・北澤光大・他：理学療法士としての介助犬合同訓練の経験，甲南女子大学研究紀要第，8：53-60，甲南女子大学図書委員会
著書	<ol style="list-style-type: none"> 1) 地域における連携：入院・入所から在宅への準備，牧田光代・他編，標準理学療法学「地域理学療法学第3版」，P.126-P.131，医学書院，2012 2) 生活を支える福祉・リハビリテーション関連用具，鶴見隆正・他編，標準理学療法学「日常生活活動学・生活環境学第4版」，P.291-P.300，医学書院，2012
研究発表	<p>【講演】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 神沢信行：日本理学療法士協会の活動，兵庫県理学療法士会研修会，2011年6月26日，神戸市 2) 神沢信行：脊髄障害の基礎と臨床，日本理学療法士協会認定理学療法士必須研修会，2011年12月11日，神戸市 3) 神沢信行：介助犬と理学療法，平成23年度介助犬・聴導犬訓練者研修会，2012年2月17日，所沢市 4) 神沢信行：理学療法士の関わる組織と活動，兵庫県理学療法士会新人研修会，2012年9月9日，神戸市 5) 神沢信行：介助犬と理学療法，平成24年度介助犬・聴導犬訓練者研修会，2013年2月22日，所沢市 6) 神沢信行：理学療法士の関わる組織と活動，兵庫県理学療法士会新人研修会，2012年6月16日，神戸市 7) 神沢信行：脊髄障害の評価，日本理学療法士協会認定理学療法士必須研修会，2013年11月10日，岡山市 8) 神沢信行：理学療法士の関わる組織，兵庫県理学療法士会但馬ブロック研修会，2014年1月23日，養父市 9) 神沢信行：介助犬と理学療法，平成25年度介助犬・聴導犬訓練者研修会，2014年2月22日，所沢市 <p>【一般講演（口演・ポスター）】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 石川智昭・神沢信行・三浦靖史・高柳友子：介助犬使用が肢体障害者に及ぼす影響の検討，第46回日本理学療法学会大会，2011年5月，宮崎市

	<p>2) 神沢信行・石川智昭・三浦靖史：ギランバレー症候群にてアロディニア症状を呈する症例への介助犬合同訓練の経験，第4回兵庫補助犬研究会，2012年6月30日，神戸市</p> <p>3) 中野恭一・神沢信行：補助犬審査に携わって，第4回兵庫補助犬研究会，2012年6月30日，神戸市</p> <p>4) 神沢信行・北澤光大・井土希・他：介助犬合同訓練への理学療法士としての介入の経験，第5回日本身体障害者補助犬学会，2012年10月28日，宝塚市</p> <p>5) 石川智昭・神沢信行・三浦靖史：介助犬使用が肢体障害者に及ぼす効果の検討，第5回日本身体障害者補助犬学会，2012年10月28日，宝塚市</p> <p>6) 石川智昭・神沢信行・三浦靖史・他：介助犬使用が肢体障害者に及ぼす効果の検討，第48回日本理学療法学会大会，2013年5月25日，名古屋市</p> <p>7) 神沢信行・石川智昭・三浦靖史・他：身体障害者補助犬訓練士育成について，第5回兵庫補助犬研究会，2013年7月6日，神戸市</p>
研究費取得状況	1) 平成23年度学術研究及び教育振興奨励基金「日本における身体障害者補助犬（特に介助犬）の普及に関する研究」
学会・協会における活動	<p>1) 日本理学療法士協会神経理学療法研究部会研修担当委員</p> <p>2) 日本理学療法士協会診療ガイドライン委員会（脊髄障害）委員</p> <p>3) 日本理学療法士協会必須・専門研修助言グループ委員</p> <p>4) 第47回日本理学療法学会本部役員</p> <p>5) 第47回日本理学療法学会演題査読委員</p> <p>6) 第48回日本理学療法学会演題査読委員</p> <p>7) 第5回アジア義肢装具学術大会プログラム委員</p> <p>8) 第5回日本身体障害者補助犬学会プログラム委員</p> <p>9) 兵庫県理学療法士会監事</p> <p>10) 兵庫補助犬研究会代表幹事</p> <p>11) 全国大学理学療法学校教育学会理事</p> <p>12) 一般社団法人リハビリテーション教育評価機構評価員</p>
臨地保健実践活動	<p>1) 神戸市介護予防プログラム参加（1回/2月）</p> <p>2) 兵庫県看護協会主催まちの保健室参加（3回/年）</p> <p>3) 日本理学療法士協会東日本大震災災害ボランティア参加（2011年9月3日～9月10日）</p> <p>4) 介助犬使用希望者の合同訓練支援（2名/年）</p>
受賞・表彰	<p>1) 日本理学療法士協会専門理学療法士（神経）登録番号01-2-4（2001年4月1日）</p> <p>2) 日本理学療法士協会専門理学療法士（生活環境支援）登録番号01-5-4（2001年4月1日）</p> <p>3) 日本理学療法士協会専門理学療法士（物理療法）登録番号01-6-3（2001年4月1日）</p> <p>4) 日本理学療法士協会認定理学療法士（脊髄損傷）登録番号5-4（2011年4月1日）</p>

氏名	清水 ミシェル・アイズマン	職名	教授
専門分野	PNF、発達障害		
担当授業科目	日常生活動作学、福祉用具・生活環境論総論、原書購読		
主な所属学会	日本理学療法士協会、PNF協会、日本ボバース研究会		
研究のキーワード	リハビリテーション科学・福祉工学、小児科学		
平成 23 年度～平成 25 年度研究業績			
論文	<p>〈筆頭以外〉</p> <p>【原著】</p> <p>1) 柳澤真純, 白谷智子, 新井光男, 柳澤健, 清水ミシェル・アイズマン (2011). 脳卒中後片麻痺患者に対する骨盤運動パターン中間域での静止性収縮方向が歩行時間に及ぼす効果の差異, PNF サーチ, 1号・11巻: 9-14.</p> <p>2) 新井光男, 白谷智子, 原田恭宏, 川崎卓也, 柳澤健, 清水ミシェル・アイズマン (2011). 脳卒中後片麻痺患者に対する固有受容性神経筋促通法の骨盤運動パターンの中間域での抵抗運動による静止性収縮が歩行時間に及ぼす効果, PNF サーチ, 1号・11巻: 15-20.</p> <p>3) 吉国貴子, 新井光男, 原田恭宏, 清水ミシェル・アイズマン (2011). 脳卒中後片麻痺患者に対する PNF パターン中間域での骨盤・肩甲帯静止性収縮促通運動が歩行速度に及ぼす影響, PNF サーチ, 1号・11巻: 21-26.</p> <p>4) 原田恭宏, 新井光男, 福島豊, 高橋奈央, 柳澤健, 清水ミシェル・アイズマン (2011). ホールドリラックスおよび PNF 運動パターンの中間域での静止性収縮促通手技が膝関節伸展自動可動域に及ぼす影響, PNF サーチ, 1号・11巻: 27-34.</p> <p>5) 白谷智子, 新田収, 新井光男, 清水ミシェル・アイズマン, 柳澤健 (2011). 健常者におけるホールド・リラックス手技と下部体幹の静止性収縮手技の施行時間の違いが膝関節可動域に及ぼす影響, PNF サーチ, 1号・12巻: ページ.</p> <p>6) Arai Mitsuo, Shiratani Tomoko, Michele Eisemann Shimizu, Tanaka Yoshimi, Yanagisawa Ken (2012). Reproducibility of the neurophysiological remote rebound effects of a resistive static contraction using a Proprioceptive Neuro-muscular Facilitation pattern in the mid-range of pelvic motion of posterior depression on the flexor carpi radialis H-reflex, PNF サーチ, 1号・12巻: 13-20.</p> <p>7) 新井光男, 白谷智子, 清水ミシェル・アイズマン, 柳澤健 (2012). 下肢に整形外科的疾患を有する患者に対する固有受容性神経筋促通法の骨盤のパターンの中間域での抵抗運動による静止性収縮が歩行時間に及ぼす効果, PNF サーチ, 1号・12巻: 21-25.</p> <p>8) 道祖悟史, 新井光男, 福島卓矢, 水野博彰, 鐘井光明, 林輝真, 清水ミシェル・アイズマン (2012). 肩甲骨と骨盤の抵抗運動が肩関節内旋可動域に及ぼす影響, PNF サーチ, 1号・12巻: 33-38.</p>		

- 9) 白谷智子, 新田收, 新井光男, 松田雅弘, 多田裕一, 妹尾淳史, 清水ミシェル・アイズマン (2012). 固有受容性神経筋促通法の骨盤パターンの中間域での抵抗運動による静止性収縮が手運動野の脳活動に及ぼす影響—機能的MRIにおける検討—, PNFサーチ, 1号・12巻: 39—45.
- 10) 榊本一枝, 新井光男, 赤木聡子, 清水歩, 柳澤健, 清水ミシェル・アイズマン (2012). ホールドリリースおよび下肢運動パターン中間域での静止性収縮促通手技が膝関節伸展他動可動域に及ぼす効果の検証, PNFサーチ, 1号・12巻: 46—51.
- 11) 原田恭宏, 新井光男, 福島豊, 柳澤健, 清水ミシェル・アイズマン (2012). 上肢PNF運動パターンの静止性収縮が膝関節伸展自動可動域に及ぼす効果—ハムストリングスの伸展性改善における持続的ストレッチ手技とPNF手技の効果の比較—, PNFサーチ, 1号・12巻: 52—57.
- 12) Mitsuo Arai, Tomoko Shiratani, Michele Eisemann Shimizu, Hajime Shimizu, Yoshimi Tanaka, Ken Yanagisawa (2012). Neurophysiological study of remote rebound-effect of resistive static contraction of lower trunk on the flexor carpi radialis H-reflex, Current Neurobiology, 1号・3巻: 25—29.
- 13) Tomohiko Nishigami, Hiroyuki Okuno, Hideki Nakano, Yutaka Omura, Michihiro Osumi, Michele Eisemann Shimizu, Motohiro tsujishita, Akira Mibu, Takahiro Ushida (2012). Effects of a Hardness Discrimination Task in Failed Back Surgery Syndrome with Severe Low Back Pain and Disturbed Body Image:Case study, Novel Physiotherapies, S1.
- 14) Wakako Tsumiyama, Sadaaki Oki, Masao Tamaru, Takeya Ono, Michele Eisemann Shimizu (2012). Evaluation of the Lactate Threshold of Rats Using External Jugular Vein Catheterization, J.Phys. Ther. Sci, 24号: 1107—1109.
- 15) Masumoto Kazue, Arai Mitsuo, Shiratani Tomoko, Akagi Satoko, Shimizu Ayumi, Tsuboi Akio, Yanagisawa Ken, Michele Eisemann Shimizu (2013). Effect of static contraction facilitation technique without stretching in the middle range of motion of the PNF pattern on the active range of motion of the knee joint in orthopedic patients, PNFサーチ, 1号・13巻: 1—7.
- 16) Shiratani Tomoko, Arai Mitsuo, Masumoto Kazue, Akagi Satoko, Shimizu Ayumi, Tsuboi Akio, Nitta Osamu, Yanagisawa Ken, Michele Eisemann Shimizu (2013). Effects of resistive static contraction of the pelvic depressors technique on the passive range of motion of the knee joints in patients with lower-extremity orthopedic conditions, PNFサーチ, 1号・13巻: 8—17.
- 17) 原田恭宏, 新井光男, 新田收, 柳澤健, 清水ミシェル・アイズマン (2013). 上肢の抵抗運動による静止性収縮促通が膝関節伸展自動可動域に及ぼす遠隔刺激後の効果, PNFサーチ, 1号・13巻: 30—37.

	<p>18) 道祖悟史, 新井光男, 福島卓矢, 水野博彰, 鐘井光明, 林輝真, 清水ミシェル・アイズマン, 柳澤健 (2013). 骨盤の静止性収縮促進が遠隔の肩関節内旋可動域に及ぼす効果, PNFサーチ, 1号・13巻: 38-43.</p> <p>19) 重田有希, 白谷智子, 新井光男, 柳澤真純, 清水ミシェル・アイズマン, 柳澤健 (2013). 骨盤パターンにおける静止性収縮が脳卒中後片麻痺患者の歩行速度に及ぼす影響～用手接触による比較～, PNFサーチ, 1号・13巻: 44-49.</p> <p>20) 竹澤美穂, 白谷智子, 新井光男, 田中良美, 清水ミシェル・アイズマン, 柳澤健 (2013). 脳卒中後片麻痺患者に対する骨盤後方下制のアプローチが座位前方リーチテストに及ぼす経時的影響, PNFサーチ, 1号・13巻: 56-62.</p>
著書	<p>【一般図書・その他】 (共著)</p> <p>1) 監訳 山口三重子, 清水ミシェル・アイズマン 齋藤信也 (2012). 「統合化」倫理 医療ケアにおける倫理の質を改善する 倫理コンサルテーション -医療ケアにおける倫理的な懸念に対処する- (全56頁) ヤマキデザイン事務所.</p> <p>2) 監訳 山口三重子, 清水ミシェル・アイズマン 齋藤信也 (2012). 「統合化」倫理 医療ケアにおける倫理の質を改善する 倫理コンサルテーション -医療ケアにおける倫理的な懸念に対処する-DVD用テキスト (全48頁) ヤマキデザイン事務所.</p>
研究発表	<p>【一般講演 (口演・ポスター)】</p> <p>1) 山口三重子, 清水ミシェル・アイズマン, 齋藤信也 (2011). 倫理コンサルテーションのプロセス—退役軍人健康庁 (米国) 作成による統合倫理の紹介—公募ワークショップ, 日本生命倫理学会. 2011年10月: 東京都新宿区</p>
研究費取得状況	<p>【科学研究費】</p> <p>1) 山口三重子 (代表), 清水ミシェル・アイズマン. 重症障害新生児の治療選択における医学的・倫理的・法的問題の解決システムの開発. 文部科学省研究補助金 (基盤研究 B) . 平成22～平成24年度</p>
学会・協会における活動	<p>1) 日本理学療法士協会学会誌 理学療法学編集委員学術誌部員</p> <p>2) 日本 PNF 学会理事</p> <p>3) 日本 PNF 学会主催 PNF 講習会講師, 広島市, 2011年3月</p> <p>4) 日本 PNF 学会主催 PNF 講習会講師, 広島市, 2011年4月</p> <p>5) 日本 PNF 学会主催 PNF 講習会講師, 広島市, 2011年9月</p> <p>6) 日本 PNF 学会主催 PNF 講習会講師, 大阪市, 2011年9月</p> <p>7) 日本 PNF 学会主催 PNF 講習会講師, 大阪市, 2012年8月</p> <p>8) 日本 PNF 学会主催 PNF 講習会講師, 広島市, 2012年9月</p>

臨地保健 実践活動	1) 福山市保健所健康推進課 健康相談 2) 社会福祉法人尾道さつき会子ども発達支援センターあいあい 発達障害児童の相談 3) 障害者支援施設ときわ台ホーム、地域福祉支援センターときわ 生活指導 4) 広島県立大学附属診療所における理学療法
--------------	---

氏名	鈴木 順一	職名	教授
専門分野	物理療法学、義肢装具学、靴医学		
担当授業科目	基礎ゼミⅠ・Ⅱ、理学療法評価学、理学療法評価学演習、物理療法学、義肢装具学、理学療法総合演習、理学療法特論、卒業研究、臨床実習Ⅰ・Ⅱ、地域理学療法実習、総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ		
主な所属学会	日本理学療法士協会、日本抗加齢医学会、日本靴医学会、日本医学写真学会、日本物理療法学会他		
研究のキーワード	物理療法と生理作用、義足と異常歩行、足部と靴の適合性、理学療法評価器機		
平成 23 年度～平成 25 年度研究業績			
論文	〈筆頭〉 【原著】 1) 鈴木 順一、河村 廣幸、武岡 健次、小柰 武陸：熱画像による靴の適合性評価の試み。日本医学写真学会雑誌, 49(2) : 1-6, 2011. 【総説】 1) 鈴木 順一、小柰 武陸：足部内側縦アーチの評価に関する文献検討。日本医学写真学会雑誌, 51(2) : 1-9, 2013.		
著書	【学術書】 (共著) 1. 鈴木 順一、井上 悟：義足歩行 歩行を診る 観察から始める理学療法実践。松尾 善美編, 義足歩行, 文光堂, 東京, 2011, 頁 356-370.		
研究発表	1) 理学療法士国家試験対策問題集 (基礎・応用) の紹介。医学写真学会大阪部会。2012 年 12 月年大阪市 2) 振動刺激が生体に及ぼす影響。医学写真学会大阪部会。2013. 5 月大阪市		
学会・協会における活動	1) 日本理学療法学会大会演題査読審査委員 2) レッドコードサイエンス査読委員・編集協力委員 3) Advanced Biomedical Engineering 論文査読 4) 足と靴と健康協議会、シューフィッター講習指導員		
臨地保健 実践活動	1) 足と靴と健康協議会シューフィッタープライマリーコース実技指導		

氏名	瀬藤 乃理子	職名	准教授
専門分野	医療心理学、小児理学療法		
担当授業科目	医療心理、医療リスクマネジメント、医療遺伝学、小児期障害理学療法学、運動機能障害診断学、理学療法評価学、理学療法評価学演習、基礎ゼミⅠ・Ⅱ、理学療法総合演習、理学療法技術特論、臨床実習Ⅰ、Ⅱ、総合臨床実習Ⅰ、Ⅱ、地域理学療法実習		
主な所属学会	日本心身医学会、日本臨床死生学会、日本トラウマティックストレス学会、日本産業ストレス学会、日本家族心理学会、日本遺伝カウンセリング学会、日本小児科学会、日本理学療法学会、日本家族研究・家族療法学会、日本家族心理学会		
研究のキーワード	喪失（死別）・悲嘆・トラウマ、対人援助職のセルフケア、小児理学療法		
平成 23～25 年度研究業績			
論文	<p>〈筆頭〉</p> <p>【原著】</p> <p>1) 瀬藤乃理子、坂口幸弘、黒川雅代子、高田哲：小児科医が行う子どもを亡くした遺族への支援～新生児医療に携わる医師への調査～. 甲南女子大学研究紀要看護リハビリテーション編 7 : 1-7. 2013.</p> <p>2) Setou Noriko, Takada Satoshi: Associated factors of psychological distress among Japanese pediatricians in supporting the bereaved family who has lost a child. Kobe Journal of Medical Sciences. 58(4): 119-127. 2013.</p> <p>3) 瀬藤乃理子、坂口幸弘、黒川雅代子、丸山総一郎：東日本大震災における支援者のストレス. 産業ストレス研究(印刷中)</p> <p>4) Setou Noriko, Sakaguchi Yukihiro, Kurokawa Kayoko, Takada Satoshi:</p> <p>5) Effectiveness of professional training for bereavement care ~ A Survey of the Japanese Pediatricians supporting families who have lost a child~. Pediatric International (under submission)</p> <p>【総説】</p> <p>1) 瀬藤乃理子、黒川雅代子、石井千賀子 (2011)：死別を体験した子どもたちへの援助-悲嘆の複雑化を防ぐために-. 腫瘍内科. 8 (1) : 51-56. 2011.</p> <p>2) 瀬藤乃理子、村上典子 (2011)：外傷的な死別後の遺族のケア-喪失とトラウマの理解-. 最新医学. 別冊 70 (心的外傷後ストレス障害) : 169-178. 2011.</p> <p>3) 瀬藤乃理子、中島聡美、丸山総一郎：自然災害における被災者遺族・行方不明者家族への精神的影響. 産業精神医学. 20 巻特別号 : 80-92. 2012.</p> <p>4) 瀬藤乃理子、石井千賀子：災害医療における家族サポート～行方不明者家族への支援～. JIM. 22 (11) : 824. 2012.</p>		

	<p>5) <u>瀬藤乃理子</u>、丸山総一郎：バーンアウトと共感性疲労。～対人援助スキルトレーニングの必要性～。産業ストレス研究（印刷中）</p> <p>6) 石井千賀子・<u>瀬藤乃理子</u>：家族療法に基づく「あいまいな喪失」への支援～福島における支援者支援の経験から～。家族療法研究（印刷中）。</p> <p>【実践・症例・活動報告】</p> <p>1) <u>瀬藤乃理子</u>：視察報告 被災地の支援者支援の課題～被災地での遺族支援活動の中でみえてきたもの～。甲南女子大学研究紀要看護リハビリテーション編7：49-55. 2013.</p> <p>2) <u>瀬藤乃理子</u>：スマトラ沖地震の知見を日本の震災支援に生かす取り組み～「Help the Hospices Tsunami Project」報告書の提言を受けて～。甲南女子大学研究紀要看護リハビリテーション編8：61-70. 2014.</p> <p>【その他】</p> <p>1) <u>瀬藤乃理子</u>：災害グリーフサポートプロジェクト（JDGS）ウェブサイト。緩和ケア。22（2）：184. 2012.</p> <p>2) <u>瀬藤乃理子</u>：被災地を守る支援者の元気のために。緩和ケア。23（3）：249. 2013.</p> <p>〈筆頭以外〉</p> <p>【原著】</p> <p>1) 片桐祥雅、坊垣友美、<u>瀬藤乃理子</u>：脳波による深部脳活動評価法と快適性制御への応用。電子通信情報学会誌（投稿中）</p> <p>【総説】</p> <p>1) 中島聡美、<u>瀬藤乃理子</u>、村上典子、黒川雅代子、伊藤正哉：災害グリーフサポートプロジェクト（JDGS）。日本医事新報。4592：46-47. 2012.</p> <p>2) 2) 黒川雅代子、<u>瀬藤乃理子</u>、村上典子、中島聡美、伊藤正哉：災害グリーフサポートプロジェクト。Emergency Care。25（9）：73-78. 2012.</p>
著書	<p>【学術書】</p> <p>（共著）</p> <p>1) 高橋聡美（監訳）<u>瀬藤乃理子</u>ら（2012）。グリーフケア 死別による悲嘆の援助。メヂカルフレンド社。総頁264頁、分担22-48p.</p> <p>2) 丸山総一郎（編）<u>瀬藤乃理子</u>ら（2014 春刊行予定）。第IV-12 終末期および死別の支援とストレス～援助者の共感性疲労・バーンアウトとその対策～。創元社。</p> <p>【翻訳書】</p> <p>1) 中島聡美、石井千賀子（監訳）<u>瀬藤乃理子</u>ら（翻訳）（2014 発刊予定）。Pauline Boss： Loss, Trauma, and Resilience - Therapeutic Work with Ambiguous Loss. 誠信書房。</p>
研究発表	<p>【一般講演（口演・ポスター）】</p> <p>1) <u>瀬藤乃理子</u>：視察報告：イギリスの子どものホスピス～重い障害をもつ子どもたちの生と</p>

	<p>死を支える取り組み～. 第 59 回のじぎく発達勉強会. 2012 年 6 月 : 神戸市</p> <p>2) 瀬藤乃理子 : 不確実な (あいまいな) 喪失 ワークショップ報告. 第 4 回複雑性悲嘆研修会. 2012 年 3 月 : 大阪</p> <p>3) 瀬藤乃理子、坂口幸弘、黒川雅代子、高田哲 : 小児科医が行う子どもを亡くしたご遺族への支援～新生児医療に携わる医師への調査～. 第 115 回小児科学会学術集会. 2012 年 4 月 : 福岡市</p> <p>4) 瀬藤乃理子、高田哲 : 子どもを亡くしたご遺族の支援に関する新生児医療に携わる医師への意識調査. 第 29 回ハイリスク児フォローアップ研究会. 2012 年 6 月 : 松本市</p> <p>5) 瀬藤乃理子、今井絵美子、片桐祥雅 : ストレス不可下の脳波変容に関する一考察. HCG シンポジウム 2012. 2012 年 12 月 : 熊本市.</p> <p>6) 瀬藤乃理子 : 被災地の遺族支援の課題. 第 1 回神戸大学都市安全研究センター災害弱者支援研究会. 2012 年 8 月 : 仙台市</p> <p>7) 瀬藤乃理子 : 被災地における被災者および支援者のストレス～発災 1 年半後の現状. 第 2 回神戸大学都市安全研究センター災害弱者支援研究会. 2013 年 2 月 : 神戸市</p> <p>8) 瀬藤乃理子、村上典子、坂口幸弘 : 東日本大震災 2 年半後の被災地支援者の疲労に関連する要因. 第 41 回日本心身医学会近畿地方会. 2014 年 3 月 : 神戸市.</p> <p>9) 瀬藤乃理子 : 喪失をかかえる家族への支援～家族のレジリエンスを支える～. 第 3 回神戸大学都市安全研究センター災害弱者支援研究会. 2014 年 3 月. 神戸市.</p> <p>【パネル・シンポ・ワーク】</p> <p>1) 瀬藤乃理子、石井千賀子、小笠原知子 : あいまいな喪失体験とともに生きる～行方不明者家族への支援～. 第 29 回家族心理学会. 2012 年 7 月 : 東京</p> <p>2) 瀬藤乃理子、中島聡美、村上典子、黒川雅代子 : 被災地における支援者の</p> <p>3) ストレス～現地支援者への調査結果から～. 第 12 回日本トラウマティックストレス学会. 2013 年 5 月 : 東京</p> <p>4) 瀬藤乃理子、石井千賀子 : あいまいな喪失への支援～JDGS プロジェクトの支援者支援活動を通して～. 第 30 回日本家族研究・家族療法学会. 2013 年 5 月 : 東京.</p> <p>【報道関連 (新聞・雑誌)】</p> <p>1) 瀬藤乃理子 : 喪失と向き合う 行方不明者の家族. 朝日新聞 25 年 3 月 7 日朝刊.</p>
<p>研究費取得 状況</p>	<p>【科学研究費】</p> <p>1) 瀬藤乃理子 (代表)、坂口幸弘、黒川雅代子 (分担). 日本における複雑性悲嘆のケア・治療システム構築化に向けた課題の検証. 科学研究費補助金 (基盤 C) 平成 22～24 年度.</p> <p>2) 黒川雅代子 (代表)、瀬藤乃理子、中島聡美、高橋聡美、坂口幸弘、白井明美 (分担). 東日本大震災における遺族への心理社会的支援プログラムの開発と検証に関する研究. 科学研究費補助金 (基盤 B) 平成 24～26 年度.</p> <p>3) 瀬藤乃理子 (代表)、坂口幸弘、黒川雅代子 (分担). 遺族支援における共感性疲労の予防</p>

	プログラムの開発. 科学研究費補助金 (基盤 C) 平成 25~27 年度.
学会・協会における活動	<p>1) 日本産業ストレス学会 評議員 平成 23、24、25 年度継続</p> <p>2) 日本グリーフサポート (JDGS) プロジェクト 世話人 平成 23 年 7 月~現在継続</p>
臨地保健 実践活動	<p>1) 神戸大学医学部附属病院小児科にて、小児のリハビリテーションおよび療育相談 (週 1 回)</p> <p>2) 震災支援ウェブサイトの作成・運営・管理 「震災で大切な人を亡くされた方を支援するためのウェブサイト」 JDGS プロジェクト http://jdgs.jp 「あいまいな喪失情報ウェブサイト」 JDGS プロジェクト http://al.jdgs.jp/</p> <p>3) カンファレンスや研修会の主催・企画・運営</p> <p>(1) グリーフ&ビリーブメント研究会 運営 第 3 回グリーフ&ビリーブメントカンファレンス：平成 24 年 1 月 7 日 第 4 回グリーフ&ビリーブメントカンファレンス：平成 25 年 1 月 26 日 第 5 回グリーフ&ビリーブメントカンファレンス：平成 26 年 2 月 8 日</p> <p>(2) 複雑性悲嘆研修会 主催 第 3 回：平成 23 年 9 月 19 日 (場所：関西学院大梅田キャンパス) 第 4 回：平成 24 年 3 月 18 日 (場所：龍谷大梅田キャンパス) 第 5 回：平成 25 年 3 月 23 日 (場所：関西学院大梅田キャンパス)</p> <p>(3) 日本グリーフサポート (JDGS) プロジェクト主催の研修会の企画・運営</p> <p>① 第 1 回悲嘆講座 企画・運営 平成 24 年 9 月 25 日、10 月 5 日、10 月 26 日、11 月 9 日、12 月 14 日 場所：仙台市市民活動サポートセンター</p> <p>② Pauline Boss 博士あいまいな喪失講演会およびワークショップ 企画・運営 講演会 平成 24 年 12 月 1 日 場所：コラッセ福島 (福島市) ワークショップ 平成 24 年 12 月 3 日 場所：東京エレクトロンホール宮城</p> <p>③ 第 2 回悲嘆講座 企画・運営 平成 25 年 8 月 30 日 31 日 場所：仙台市市民活動サポートセンター</p> <p>④ 東日本大震災における喪失への支援~コミュニティの再生をめざして ~平成 25 年 12 月 8 日 場所：仙台市市民活動サポートセンター</p> <p>4) 研修会講師</p> <p>(1) 平成 23 年度甲南女子大学子育て広場「お母さんのためのリフレッシュヨガ」講師, 神戸市, 2011 年 7 月</p> <p>(2) 平成 23 年度にこにこハウス療育センター職員研修会「死別の悲しみの理解とその援助」</p>

	<p>講師, 神戸市, 2011年7月</p> <p>(3) 平成23年度兵庫県産業保健推進センター研修セミナー「医療従事者の共感性疲労とその予防のためのスキルトレーニング法(全2回)」講師, 神戸市, 2011年8月</p> <p>(4) 平成23年度宝塚市立療育センター職員研修会「死別の悲しみの理解と家族・遺族の援助」講師, 宝塚市, 2011年8月</p> <p>(5) 神戸親和女子大学大学院主催特別講演会「悲嘆やトラウマ援助者のコンパッション疲労への対処～マインドフルネス心理療法の応用～」講師, 神戸市, 2011年10月</p> <p>(6) 平成23年度理学療法協会主催教員研修会「精神・心理面に問題のある学生への援助」講師, 神戸市, 2011年11月</p> <p>(7) 仙台グリーンケア研究会FT研修「ご遺族に寄り添う支援～喪失と悲嘆への援助」講師, 仙台市, 2012年7月</p> <p>(8) 仙台市荒浜地区地域包括ケア会議「心の健康を考える～支援者自身のメンタルヘルスについて～」講師, 仙台市, 2012年9月</p> <p>(9) 気仙沼市主催研修会「大切な人を亡くされた方の悲しみに寄り添う支援～悲嘆(グリーンフ)の支援と注意点～」講師, 宮城県気仙沼市, 2012年10月</p> <p>(10) 釜石市沿岸地区ひとり親家庭支援担当者研修会「家族が行方不明になっている方の支援～あいまいな喪失をかかえる家族を支える～」講師, 岩手県釜石市, 2012年10月</p> <p>(11) 福島県いわき市舞子浜病院主催研修会「喪失と悲嘆(死別の悲しみ)への援助」講師, 福島県いわき市, 2012年10月</p> <p>(12) 仙台市荒浜地区ケアマネージャー研修会「支援者の共感性疲労への対処～その予防のためのスキルトレーニング法」講師, 仙台市, 2012年11月</p> <p>(13) 岩沼市主催支援者向け講演会「被災者の長期支援を見据えた支援者自身のセルフケア～現在・そしてこれから～」講師, 宮城県岩沼市, 2012年11月</p> <p>(14) 仙台市宮城野鶴巻仮設住宅健康応援団「効果的な呼吸法を身につけましょう～東洋医学の応用～」講師, 仙台市, 2012年11月</p> <p>(15) 岩手県宮古保健所主催支援者向け講演会(計4か所)「支援者自身のメンタルヘルス対策～共感性疲労の予防とそのためスキル～」講師, 岩手県宮古市, 2012年11月</p> <p>(16) 仙台市荒浜地区地域包括会議「心の健康を考える～支援者自身のメンタルヘルスについて～」講師, 仙台市, 2012年11月</p> <p>(17) 仙台市若林地区仮設住宅講演会「リフレッシュ&リラックス～東洋医学の応用」講師, 仙台市, 2012年12月</p> <p>(18) 岩沼市主催一般市民向け講演会「震災 かけがえのない記憶と共に生きる～寄り添い支え合うために私たちができること」講師, 岩沼市, 2012年12月</p> <p>(19) 東北大学実践宗教学講座「対人援助者のメンタルヘルス～セルフケアの考え方とそのためスキル～」講師, 仙台市, 2012年12月</p>
--	--

	<p>(20) 南三陸町 HUG ハウス主催支援者向け研修会「グリーフケア～悲しみに寄り添う支援～」講師, 仙台市, 2012 年 12 月</p> <p>(21) 仙台市特別養護老人ホームせんじゅ主催職員研修会「末期の利用者様とご家族に寄り添う支援」講師, 仙台市, 2012 年 12 月</p> <p>(22) 東北大学実践宗教学主催臨床宗教師研修「あいまいな喪失 (ambiguous loss) ～家族が行方不明となっている方の支援～」講師, 仙台市, 2012 年 12 月</p> <p>(23) 淀川キリスト教病院ホスピス・子どもホスピス病院職員研修会「死別の悲しみに寄り添う支援」講師, 大阪府, 2013 年 4 月</p> <p>(24) 淀川キリスト教病院ホスピス・子どもホスピス病院職員研修会「支援者のストレスケア～共感性疲労への対応 講義編～」講師, 大阪府, 2013 年 7 月</p> <p>(25) 第 2 回悲嘆講座「セルフケア・リフレッシュ！～共感性疲労への対応～」講師, 仙台, 2013 年 8 月</p> <p>(26) 宮古グリーフケアセミナー「ストレスがこころとからだに及ぼす影響～寄り添い支えあうために私たちができること～」講師, 岩手県宮古市, 2013 年 9 月</p> <p>(27) 岩沼市こころに健康づくり講演会「心と体を癒すリラクゼーション法～毎日の快眠のために～」講師, 宮城県岩沼市, 2013 年 9 月</p> <p>(28) 仙台市若林区主催衛生講話「ストレスケア・リフレッシュ！～日々のストレスに対処するために～」講師, 仙台市, 2013 年 9 月</p> <p>(29) 兵庫県こころのケアセンター主催こころのケア研修「遺族対応の基本」講師, 神戸市, 2013 年 9 月</p> <p>(30) JDGS プロジェクト主催あいまいな喪失研修会「事例のみかた」講師, 福島県福島市, 2013 年 10 月</p> <p>(31) 宮古薬剤師・ケアマネージャー合同研修会「支援者のストレスケア」講師, 岩手県宮古市, 2013 年 10 月</p> <p>(32) 兵庫県こころのケアセンター主催ヒューマンカレッジ「悲嘆を学ぶ」講座「喪失の悲しみ、そこからの一歩～阪神淡路大震災・東日本大震災の被災地での経験から～」講師, 神戸市, 2013 年 10 月</p> <p>(33) 大阪小児緩和研究会「子どもを亡くした両親へのグリーフケア」講師, 大阪府, 2013 年 12 月</p> <p>(34) 岩泉町相談支援関係者研修会「うつ病の心理・社会的背景と当事者に勧めるセルフケアの実際～ストレス対処のポイント～」岩手県宮古市, 2014 年 3 月.</p>
受賞・表彰	平成 23 年度甲南女子大学ベストティーチャー賞受賞

氏名	高嶋 幸恵	職名	講師
専門分野	理学療法学		
担当授業科目	基礎ゼミⅠ、基礎ゼミⅡ、人体の構造演習、筋骨格障害理学療法学、理学療法計画論、脳血管障害理学療法学Ⅰ、運動機能障害診断学Ⅱ、臨床実習Ⅰ、地域理学療法実習、総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ		
主な所属学会	社団法人日本理学療法士協会、日本私立医科大学理学療法研究会、全国大学理学療法教育研究会、日本呼吸ケアリハビリテーション学会、一般社団法人理学療法科学学会		
研究のキーワード	リハビリテーション科学、理学療法学、呼吸器内科学		
平成 23 年～平成 25 年度研究業績			
論文	<p>〈筆頭〉</p> <p>【原著】</p> <p>1) 高嶋幸恵, 間瀬教史, 野添匡史, 松下和弘, 高山雄介, 橋詰裕美. (2012) 歯磨き動作中の肺気量位・呼吸様式の変化と上肢位との関係—3次元動作解析システムを用いて—, 甲南女子大学研究紀要看護学・リハビリテーション学編 2012, 5 : 43—50</p> <p>2) 高嶋幸恵, 野添匡史, 松下和弘, 石井真知子, 笹沼里味, 間瀬教史. (2012)</p> <p>3) 健常成人男性の歯磨き動作時における肺気量位・呼吸様式の変化について, 呼吸ケア・リハビリテーション学会誌, 第 22 巻第 1 号 : 115—119</p> <p>〈筆頭以外〉</p> <p>1) 高山雄介, 野添匡史, 松下和弘, 橋詰裕美, 間瀬教史, 高嶋幸恵, 和田智弘, 眞淵敏, 寺山修史, 福田能啓, 道免和久. (2011) 3次元動作解析装置を用いた背臥位における胸郭体積測定精度について, 臨床理学療法研究, 28 : 5—9</p> <p>2) 橋詰裕美, 野添匡史, 高山雄介, 間瀬教史, 高嶋幸恵, 和田智弘, 眞淵敏, 寺山修史, 福田能啓, 道免和久. (2011) 3次元動作解析装置を用いて測定した背臥位と側臥位における胸郭形状の違いについて, 臨床理学療法研究, 28 : 67—72</p> <p>3) 金居督之, 間瀬教史, 高嶋幸恵. (2012) 体幹前傾立位における上肢支持の有無が胸腹部の形状及び体積に与える影響, 臨床理学療法研究 vol. 29 : 55—59</p> <p>4) Masafumi Nozoe, Kyoshi Mase, Sachie Takashima, Kazuhiro Matsushita, Machiko Ishii, Tatsuyuki Fukuoka, Tomohiro Wada, Kenji Shimada, Noriyasu Yamamoto, Yoshihiro Fukuda, Kazuhisa Domen. (2012) Chest wall volume changes during mastication in normal men, Deglutition, Vol.1 No.2 : 421—428</p> <p>5) 野添匡史, 間瀬教史, 高嶋幸恵, 松下和弘, 石井真知子, 福岡達之, 和田智弘, 島田憲二, 福田能啓, 道免和久. (2012) 健常男性における咀嚼中の Chest wall 体積変化, 嚥下医学 1 巻 2 号 : 421—428</p> <p>6) 石井真知子, 間瀬教史, 野添匡史, 高嶋幸恵, 松下和弘, 笹沼里味, 山下妙子, 島田憲二,</p>		

	<p>福田能啓, 道免和久. (2012) 歯磨き動作が健康男性の chest wall 体積変化に与える影響, 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌, Vol. 22 No. 3 : 405-409</p> <p>7) Masafumi Nozoe, Kyoshi Mase, Shigefumi Murakami, Makoto Okada, Tomoyuki Ogino, Kazuhiro Matsushita, Sachie Takashima, Noriyasu Yamamoto, Yoshihiro Fukuda, Kazuhisa Domen. (2013) The relationship between spontaneous expiratory flow-volume curve configuration and airflow obstruction in elderly COPD patients, Respiratory Care, Vol. 58 No. 10 : 1643-1648</p>
<p>著書</p>	<p>【教科書】</p> <p>(単著)</p> <p>1) 高嶋幸恵. (2012) . 第3章2. 呼吸機能を診る, (P172-182) 嶋田智明, 天満和人「理論的背景をおさえてよくわかる理学療法評価・診断のしかた—エビデンスから考える—」(全287頁) 文光堂</p>
<p>研究発表</p>	<p>【一般講演(口演・ポスター)】</p> <p>1) 高嶋幸恵, 野添匡史, 橋詰裕美, 高山雄介, 松下和弘, 間瀬教史. (2011). 上肢挙上角度の違いが chest wall の体積・形状に与える影響(口述発表), 第29回日本私立医科大学理学療法学会学術集会. 2011年10月: 石川県河北郡</p> <p>2) 金居督之, 間瀬教史, 高嶋幸恵. (2011). 立位体幹前傾姿勢での上肢支持の有無が chest wall の形状及び体積に与える影響(口述発表), 第29回日本私立医科大学理学療法学会学術集会. 2011年10月: 石川県河北郡</p> <p>3) 高山雄介, 野添匡史, 橋詰裕美, 松下和弘, 間瀬教史, 高嶋幸恵, 和田智弘, 眞淵敏, 島田憲二, 福田能啓, 道免和久. (2011). 座位と背臥位における深呼吸中の胸郭運動の違いについて(口述発表), 第29回日本私立医科大学理学療法学会学術集会. 2011年10月: 石川県河北郡</p> <p>4) 橋詰裕美, 野添匡史, 高山雄介, 間瀬教史, 高嶋幸恵, 和田智弘, 島田憲二, 福田能啓, 眞淵敏, 道免和久. (2011). 背臥位・側臥位・座位における胸郭形状と胸郭運動の特徴(口述発表), 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会. 2011年11月: 長野県松本市</p> <p>5) 高嶋幸恵, 野添匡史, 高山雄介, 橋詰裕美, 松下和弘, 間瀬教史. (2012). 上肢挙上角度の違いが chest wall 体積に及ぼす影響(ポスター発表), 第47回全国理学療法学会学術大会. 2012年5月: 兵庫県神戸市</p> <p>6) 金居 督之, 間瀬教史, 高嶋幸恵. (2012). 体幹前傾位で上肢を支持させた姿勢は chest wall 形状や体積を変化させる(口述発表), 第47回全国理学療法学会学術大会. 2012年5月: 兵庫県神戸市</p> <p>7) 高嶋幸恵, 野添匡史, 高山雄介, 橋詰裕美, 松下和弘, 間瀬教史. (2012). 上肢挙上角度</p>

	<p>の違いが最大吸気時の Chest wall 体積変化に与える影響(ポスター発表), 第 22 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会. 2012 年 10 月: 福井県福井市</p> <p>8) 野添匡史, 間瀬教史, <u>高嶋幸恵</u>, 松下和弘, 和田智弘, 眞淵敏, 島田憲二, 山本憲康, 福田能啓, 道免和久. (2012). 健常男性における各種 ADL 動作中の呼吸パターンの特徴について(口述発表), 第 22 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会. 2012 年 10 月: 福井県福井市</p> <p>9) 松下和弘, 野添匡史, 間瀬教史, <u>高嶋幸恵</u>, 和田智弘, 眞淵敏, 島田憲二, 山本憲康, 福田能啓, 道免和久. (2012). CPAP 併用運動中の chest wall 体積変化について(ポスター発表), 第 22 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会. 2012 年 10 月: 福井県福井市</p> <p>10) 高山雄介, 野添匡史, 間瀬教史, <u>高嶋幸恵</u>, 和田智弘, 眞淵敏, 島田憲二, 山本憲康, 福田能啓, 道免和久. (2012). 背臥位および側臥位における呼気中の chest wall 運動について(ポスター発表), 第 22 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会. 2012 年 10 月: 福井県福井市</p> <p>11) <u>高嶋幸恵</u>. (2012). 健常成人における洗髪動作中の呼吸様式の特徴について(口述発表), 第 30 回日本私立医科大学理学療法学会学術集会. 2012 年 10 月: 兵庫県神戸市</p> <p>12) 野添匡史, 間瀬教史, <u>高嶋幸恵</u>, 松下和弘, 高山雄介, 橋詰裕美, 川崎友里菜, 和田智弘, 眞淵敏, 島田憲二, 山本憲康, 福田能啓, 道免和久. (2013). 姿勢と呼吸手技の違いが胸腹部呼吸運動パターンに与える影響 Konno-Mead diagram を用いた検討(口述発表), 第 48 回日本理学療法学会学術大会. 2013 年 5 月: 名古屋市</p> <p>13) 高山雄介, 野添匡史, 松下和弘, 間瀬教史, <u>高嶋幸恵</u>, 和田智弘, 眞淵敏, 島田憲二, 山本憲康, 福田能啓, 道免和久. (2013). 姿勢の違いが胸部と腹部の肺気量分画に与える影響 特に側臥位の特徴について(口述発表), 第 48 回日本理学療法学会学術大会. 2013 年 5 月: 名古屋市</p> <p>14) 野添匡史, 間瀬教史, <u>高嶋幸恵</u>, 松下和弘, 高山雄介, 橋詰裕美, 川崎友里菜, 和田智弘, 眞淵敏, 島田憲二, 山本憲康, 福田能啓, 道免和久. (2013). 脊柱後彎姿勢における chest wall 形状・運動の特徴(ポスター発表), 第 48 回日本理学療法学会学術大会. 2013 年 5 月: 名古屋市</p> <p>15) 高山雄介, 野添匡史, 松下和弘, 間瀬教史, <u>高嶋幸恵</u>, 和田智弘, 眞淵敏, 島田憲二, 山本憲康, 福田能啓, 道免和久. (2013). 姿勢と性の違いが Chest Wall 運動に与える影響, 第 23 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会. 2013 年 10 月: 東京都文京区</p>
<p>学会・協会における活動</p>	<p>1) 社団法人兵庫県理学療法士会厚生部部长</p> <p>2) 第 47 回日本理学療法学会学術大会 会計部員</p>

臨地保健 実践活動	1) 訪問リハビリテーションを通じた在宅介護支援活動及び福祉機器・住環境に関する指導
--------------	--

氏名	竹内 さをり	職名	講師
専門分野	作業療法学、地域リハビリテーション学		
担当授業科目	医療コミュニケーション論、作業療法概論、基礎ゼミⅠ、基礎ゼミⅡ、日常生活動作学、福祉用具・環境整備論（総論）、福祉用具・環境整備論（各論）、高次脳機能障害学、卒業研究、チームケア論、臨床実習Ⅰ、地域理学療法実習、臨床実習Ⅱ、総合臨床実習Ⅰ、総合臨床実習Ⅱ、福祉用具・環境整備論（総論：看護学科）		
主な所属学会	日本作業療法士協会、日本公衆衛生学会、日本認知症ケア学会、日本保健医療社会学会		
研究のキーワード	作業療法学、生活支援技術、介護支援技術、介護保険		
平成 23 年度～平成 25 年度研究業績			
論文	<p>〈筆頭〉</p> <p>【研究報告】</p> <p>1) 竹内さをり (2012). 通所リハビリテーションおよび通所介護サービスを利用する高齢者が実施したいと望む作業について. 甲南女子大学研究紀要看護学・リハビリテーション学編. 6 : 61-67.</p> <p>2) 竹内さをり (2014). スウェーデンにおける認知症ケア. 甲南女子大学研究紀要看護学・リハビリテーション学編. 8 : 71-78.</p> <p>【その他】</p> <p>1) 竹内さをり (2012). IADL と作業療法. 作業療法ジャーナル, 46 (1) : 40-43.</p> <p>2) 竹内さをり (2012). 北欧と日本の認知症ケア. 地域リハビリテーション. 7(10) : 863-866.</p> <p>3) 竹内さをり (2012). 福祉用具と ICF-使いたい身近な道具であることを伝える大切さ. 作業療法ジャーナル, 46(7) : 713-716.</p> <p>4) 竹内さをり (2013). 実践生活! 行為向上マネジメント 通所事業所・老人保健施設における実践. 作業療法ジャーナル, 47(5) : 400-403.</p> <p>〈筆頭以外〉</p> <p>【総説】</p> <p>1) 村井千賀, <u>竹内さをり</u>, 能登真一, 長谷川敬一, 渡邊基子, 渡邊忠義 (2011). 地域包括ケアを支える作業療法モデル. 作業療法ジャーナル, 45(6) : 535-541.</p>		
著書	<p>【学術書】</p> <p>1) 岩瀬義昭, 大庭潤平, 村井千賀, 吉川ひろみ, 竹内さをり (2011). “作業” の捉え方と評価・支援技術 生活行為の自律に向けたマネジメント, 医歯薬出版株式会社, 総頁 142 頁, 分担 46-64.</p>		

	<p>【教科書】</p> <p>1) 細田多恵, 備酒伸彦, 樋口由美, 対馬栄輝, 竹内さをり(2012). 地域リハビリテーション学テキスト(改訂第2版). 南江堂, 総頁312, 分担265-269.</p> <p>2) 作業療法ジャーナル編集委員会, 内田正剛, 竹内さをり(2014). テクニカルエイド 生活の視点で役立つ選び方・使い方, 三輪書店, 総頁356頁, 分担51-54.</p> <p>【調査報告書】</p> <p>1) 竹内さをり, 沖田裕子, 中西亜紀, 塩見美抄(2011). 若年認知症の社会参加を支援するアセスメント手法およびコーディネート手法の開発平成23年度総括・分担研究報告書. 厚生労働省科学研究費補助金認知症対策総合研究事業. 総頁71.</p> <p>2) 岩瀬義昭, 村井千賀, 竹内さをり, 長谷川敬一, 渡邊基子, 宮永敬一, 大庭潤平, 渡邊忠義, 庄司志保(2011). 生活行為向上マネジメントの普及啓発と成果測定研究事業報告書. 平成23年度老人保健健康増進等事業. 総頁203.</p> <p>3) 川越雅弘, 備酒伸彦, 篠田道子, 白瀬由美香, 竹内さをり(2012), 孔相権, 泉田信行. 要介護高齢者の生活機能向上に資する医療・介護連携システムの構築に関する研究平成22~24年度総合研究報告書. 厚生労働省科学研究費補助金政策科学総合研究事業. 総頁274.</p> <p>4) 浜渦辰二, 竹之内裕文, 高橋照子, 中河豊, 備酒伸彦, 中村剛, 福井栄二郎, 竹内さをり, 前野竜太郎, 山本大誠(2012). いま, 北欧ケアを考える. 平成22-24年度科学研究費補助金基盤研究(B)北欧ケアの実地調査に基づく理論的基礎と哲学的背景の研究研究成果報告書. 総頁237.</p> <p>5) 土井勝幸, 村井千賀, 小林隆司, 谷川良博, 石井利幸, 竹内さをり, 渡邊忠義, 大庭潤平, 庄司志保(2013). 生活行為向上支援としての居宅療養管理指導事業のあり方検討事業報告書. 平成24年度老人保健健康増進等事業. 総頁98.</p> <p>【一般図書・その他】</p> <p>1) 村井千賀, 竹内さをり, 榎森智絵(2012). 作業療法マニュアル 通所型作業療法, (社)日本作業療法士協会, 総頁49, 分担9-21, 44-45.</p>
研究発表	<p>【招待講演・特別講演】</p> <p>1) 生活行為向上マネジメントについて. 第21回兵庫県作業療法学会教育セミナー. 2012年9月, 明石市</p> <p>2) ひとは作業することで元気になれる~自立支援としての生活行為向上マネジメント~. 平成24年度第2回南勢地区脳卒中フォーラム, 松阪市 2013年2月</p> <p>3) 環境整備について. 第3回和歌山県3士会合同訪問リハビリテーション実務者研修会. 2013年3月. 和歌山市</p> <p>4) 第53回作業療法全国研修会講師, 松山市, 2013年10月</p> <p>【一般講演(口演・ポスター)】</p> <p>1) 竹内さをり, 沖田裕子, 中西亜紀, 塩見美抄, 杉原久仁子, 平井美穂, 住田淳子(2012).</p>

	<p>若年認知症の社会参加を支援するアセスメントおよびコーディネート手法の開発, 第 13 回日本認知症ケア学会大会, 2012 年 5 月, 浜松市</p> <p>2) 山本大誠, 奈良勲, 竹内さをり, 加賀井聖二(2012), 睡眠障害に対する Basic Body Awareness Therapy の効果, 第 47 回日本理学療法学会大会, 2012 年 5 月, 神戸市</p> <p>3) 竹内さをり, 生活行為向上マネジメントによる介入 1 年後の通所リハビリテーションの変化～平成 22 年度厚生労働省老人保健健康増進等事業による研究成果から～(2012), 第 46 回日本作業療法学会, 2012 年 6 月, 宮崎市</p> <p>4) 竹内さをり, 備酒伸彦(2013), スウェーデンにおけるケアに関する意識について-市民に対する意識調査結果から-, 第 39 回日本保健医療社会学会大会, 2013 年 5 月, 埼玉県朝霞市</p> <p>【パネル・シンポ・ワーク】</p> <p>1) 岩瀬義昭, 村井千賀, 能登真一, 長谷川敬一, 渡邊基子, 竹内さをり, 渡邊忠義, 大庭潤平(2011), 平成 22 年度老人保健健康増進等事業「意味のある作業に焦点を当てた作業療法の効果」, 第 45 回日本作業療法学会, 2011 年 6 月, 大宮市</p> <p>2) 竹内さをり, 谷川良博, 石井利幸, 生駒英長(2012), 生活行為向上マネジメントを活用した通所事業所における実践効果, 第 46 回日本作業療法学会, 2012 年 6 月, 宮崎市</p> <p>3) 浜渦辰二, 竹之内裕文, 高橋照子, 中河豊, 備酒伸彦, 中村剛, 福井栄二郎, 竹内さをり(2013), 前野竜太郎, 山本大誠, シンポジウム「今北欧ケアを考える」, 大阪大学中之島センター, 2013 年 3 月, 大阪市</p>
<p>研究費取得 状況</p>	<p>【科学研究費】</p> <p>1) 竹内さをり(代表), 沖田裕子, 中西亜紀, 若年認知症の社会参加を支援するアセスメント手法およびコーディネート手法の開発, 平成 22 年度厚生労働科学研究費補助金(認知症総合研究事業), 平成 22～23 年度</p> <p>2) 浜渦辰二(代表), 竹之内裕文, 高橋照子, 中河豊, 備酒伸彦, 中村剛, 福井栄二郎, 竹内さをり, 前野竜太郎, 山本大誠, 北欧ケアの現地調査に基づく理論的基礎と哲学的背景の研究, 平成 22 年度文部科学研究費補助金(基盤研究 B), 平成 22～24 年度</p> <p>3) 川越雅弘(代表), 備酒伸彦, 篠田道子, 白瀬由美香, 竹内さをり, 孔相権, 泉田信行, 要介護高齢者の生活機能向上に資する医療・介護連携システムの構築に関する研究, 平成 22 年度厚生労働科学研究費補助金(政策科学総合研究事業), 平成 22～24 年度</p> <p>4) 備酒伸彦(代表), 川越雅弘, 山本大誠, 村尾浩, 浜渦辰二, 竹之内裕文, 竹内さをり, 高齢者介護に関わる人材の資質向上プログラムの作成と効果測定にかかる研究, 平成 24 年度文部科学研究費補助金(基盤 C), 平成 24～26 年度</p> <p>【その他の公的研究費】</p> <p>1) 岩瀬義昭(代表), 村井千賀, 竹内さをり, 長谷川敬一, 渡邊基子, 宮永敬一, 大庭潤平, 渡邊忠義, 庄司志保, 生活行為向上マネジメントの普及啓発と成果測定事業, 平成 23 年度老人健康増進等事業,</p>

	<p>2) 土井勝幸(代表), 村井千賀, 小林隆司, 谷川良博, 石井利幸, 竹内さをり, 渡邊忠義, 大庭潤平, 庄司志保. 生活行為向上支援としての居宅療養管理指導事業あり方検討事業. 平成 24 年度老人健康増進等事業.</p> <p>3) 中村春基(代表), 村井千賀, 小林隆司, 竹内さをり, 石井利幸, 庄司志保. 医療から介護保険まで一貫した生活行為の自立支援に向けたリハビリテーションの効果と質に関する評価研究事業. 平成 25 年度老人健康増進等事業.</p>
<p>学会・協会における活動</p>	<p>兵庫県作業療法士会理事, 日本作業療法士協会生活行為向上マネジメント推進プロジェクト普及班班員, 一般社団法人日本作業療法士協会学会演題査読委員, 一般社団法人日本認知症ケア学会機関誌査読委員</p>
<p>臨地保健 実践活動</p>	<p>1) 兵庫県自治研修新任職員研修講師, 神戸市, 2011 年 4 月, 2012 年 4 月</p> <p>2) 脳卒中リハビリテーション看護認定看護師教育課程講師, 大阪市, 2011 年 6 月, 2012 年 9 月, 2013 年 8 月</p> <p>3) 一般社団法人兵庫県作業療法士会神戸ブロック研修講師, 神戸市, 2011 年 9 月</p> <p>4) 被災地支援 仮設住宅における介護予防教室の実施協力, 福島県郡山市, 福島県川内村, 2011 年 9 月, 2012 年 12 月</p> <p>5) 一般社団法人兵庫県作業療法士会東播磨ブロック研修講師, 明石市, 2011 年 10 月</p> <p>6) 社団法人兵庫県理学療法士会淡路ブロック研修講師, 洲本市, 2011 年 11 月</p> <p>7) 一般社団法人日本作業療法士協会教育部研修会講師, 静岡市, 2012 年 1 月</p> <p>8) 第 2 回兵庫県 3 士会訪問リハビリテーション実務者研修会実行委員長, 明石市, 2012 年 2 月</p> <p>9) 神戸市兵庫区介護予防講演会講師, 神戸市, 2012 年 2 月</p> <p>10) 一般社団法人日本作業療法士協会教育部研修会講師, 神戸市, 2012 年 7 月</p> <p>11) 小学校児童に対する福祉教育検討会アドバイザー, 川西市, 2012 年 10 月</p> <p>12) 神戸市立須佐野中学校特別支援学級におけるアートワーク講師, 神戸市, 2013 年 2 月</p> <p>13) 神戸市認知症初期相談支援事業研究員, 神戸市, 2013 年 9 月~2014 年 3 月</p> <p>14) 一般社団法人兵庫県老人福祉事業協会デイ部会研修講師, 神戸市, 2013 年 7 月</p> <p>15) 平成 25 年主任介護支援専門員フォローアップ研修事例検討, 神戸市, 2013 年 7 月</p> <p>16) 長崎県作業療法士会生活行為向上マネジメント研修会講師, 長崎市, 2013 年 11 月</p> <p>17) 非営利活動法人認知症の人とサポートセンターにて若年認知症に対するアートワークの実践, 大阪市, 2007 年~</p> <p>18) 作業療法ジャーナル編集委員, 2011 年~</p> <p>19) いかり共同作業所での活動支援実践, 神戸市, 2012 年 9 月~</p>

氏名	辻下 守弘	職名	教授
専門分野	理学療法学、健康心理学、保健医療行動科学、疫学		
担当授業科目	基礎ゼミ、理学療法概論、臨床運動学、脳血管障害理学療法学、内部障害理学療法学、老年期障害理学療法学、理学療法行動科学、理学療法研究法、理学療法技術論、卒業研究		
主な所属学会	日本理学療法士協会、日本リハビリテーション医学会、日本医療福祉情報行動科学会、日本健康心理学会、日本心理学会、日本バイオフィードバック学会		
研究のキーワード	神経筋疾患に対するバイオフィードバック療法、リハビリテーション医療への統合医療応用、筋骨格系疼痛障害に対する行動科学的アプローチ		
平成 23 年度～平成 25 年度研究業績			
論文	<p>〈筆頭〉</p> <p>【原著】</p> <p>1) 辻下守弘, 永田昌美, 甲田宗嗣. (2010). 女性公共遊技場従事員の腰痛発症における心理・社会的要因および生活習慣に関する縦断的研究, 甲南女子大学研究紀要 2009, 4 : 59-67</p> <p>2) 辻下守弘, 甲田宗嗣, 岡崎大資, 小林和彦. (2010). 高齢者を主体とした地域住民の健康支援に関する研究, 医療福祉情報行動科学研究 2010, 1 (1) : 53-58</p> <p>【総説】</p> <p>1) 辻下守弘. (2009). リハビリテーション医療現場における BF の応用について, バイオフィードバック研究 2009, 36 (2) : 173-177</p> <p>2) 辻下守弘. (2009). モチベーションを高める行動分析的アプローチ, 理学療法兵庫 2009, 15 : 18-24</p>		
	<p>〈筆頭以外〉</p> <p>【原著】</p> <p>1) 永田昌美, 辻下守弘, 甲田宗嗣. (2010). 効果的な介護予防システムの開発にむけての基礎研究, 甲南女子大学研究紀要 2009, 4 : 87-94</p> <p>2) 永田昌美, 辻下守弘, 吉田正樹. (2011). 高齢者の車いす座位姿勢と床面圧力分布の関係, 甲南女子大学研究紀要 2010, 5 : 133-140</p> <p>3) 小林和彦, 辻下守弘, 岡崎大資, 甲田宗嗣. (2010). 介護老人保健施設に勤務する介護職員による日常生活介助の実態調査 ベッドから車椅子への移乗介助に対する学習理論からの検討, 理学療法科学 2010, 25 (5) : 825-830</p> <p>【総説】</p> <p>1) 甲田宗嗣, 工藤弘行, 平山秀和, 井川英明, 平本恵子, 辻下守弘. (2010). 表面筋電図の臨床応用～表面筋電図バイオフィードバックの臨床応用, 理学療法ジャーナル 2010, 44 (8) : 693-699</p>		
著書	【学術書】		

	<p>(編集)</p> <p>1) 辻下守弘(共著) 辻下守弘. (2010). 筋電図バイオフィードバック療法, 金芳堂, 総頁 146 頁, 分担 P1-8</p> <p>【教科書】</p> <p>(編集)</p> <p>1) 鶴見隆正, 辻下守弘. (2011). 標準理学療法学「臨床実習とケーススタディ」, (全 313 頁) 医学書院</p> <p>(共著)</p> <p>1) 辻下守弘. (2009). 第Ⅱ部第4章. 意欲・理解, (P68-78) 奈良勲「図解理学療法検査・測定ガイド第2版」(全 952 頁) 文光堂</p> <p>2) 鶴見隆正, 辻下守弘. (2011). 臨床実習編第1章「臨床実習とは」, 鶴見隆正, 辻下守弘(編) 標準理学療法学「臨床実習とケーススタディ」, 医学書院, 総頁 146 頁, 分担 P4-11</p> <p>3) 鶴見隆正, 辻下守弘. (2011). ケーススタディ編第6章第1節「脳血管障害(急性期)」, 鶴見隆正, 辻下守弘(編) 標準理学療法学「臨床実習とケーススタディ」, 医学書院, 総頁 146 頁, 分担 P76-87</p>
研究発表	<p>【招待講演・特別講演】</p> <p>1) 辻下守弘. (2009). 自分でできる健康づくり～メタボリックシンドローム解消～, 福山市 駅家公民館社会教育活動. 2009年6月: 福山市</p> <p>2) 辻下守弘. (2009). 健康づくりと運動, 福山市健康普及推進員養成講座. 2009年7月: 福山市</p> <p>3) 辻下守弘. (2009). リハビリテーション医療現場におけるBFの応用, バイオフィードバック技能師資格認定講習会. 2009年6月: 大阪市</p> <p>4) 辻下守弘. (2009). 生活習慣病患者の行動継続を目的とした行動変容技法, 平成21年度日本理学療法士協会糖尿病研修会. 2009年9月: 堺市</p> <p>5) 辻下守弘. (2009). 糖尿病合併患者への理学療法～行動変容アプローチ～, 平成21年度岡山県理学療法士会第2回特別研修会. 2009年10月: 岡山市</p> <p>6) 辻下守弘. (2009). ケアに必要な行動分析学入門 ～患者さん・利用者さんの問題行動が変わる!～, 平成21年兵庫県理学療法士会阪神南ブロック講演会. 2009年11月: 西宮市</p> <p>7) 辻下守弘. (2010). 自分でできる健康づくり～メタボリックシンドローム解消～, 福山市 駅家公民館社会教育活動. 2010年6月: 福山市</p> <p>8) 辻下守弘. (2010). 健康づくりと運動, 福山市健康普及推進員養成講座. 2010年7月: 福山市</p> <p>9) 辻下守弘. (2010). 生活習慣病患者の行動継続を目的とした行動変容技法, 平成22年度日本理学療法士協会糖尿病研修会. 2010年9月: 堺市</p>

	<p>10) 辻下守弘. (2011). 骨盤底筋障害に対するリハビリテーション, 日本医療福祉情報行動科学会第6回大会教育講演. 2011年3月: 岐阜市</p> <p>【一般講演(口演・ポスター)】</p> <p>1) 鶴見隆正, 川村博文, 菅原憲一, 辻下守弘, 田辺暁人. (2009). 脳性麻痺児らの母子を主体とした地域支援活動の展開, 第46回日本リハビリテーション医学会. 2009年5月: 静岡市</p> <p>2) 鶴見隆正, 川村博文, 菅原憲一, 辻下守弘. (2010). 下肢不全麻痺者の下肢の振り出しに対する歩行指導の工夫, 第47回日本リハビリテーション医学会. 2010年5月: 鹿児島市</p> <p>【パネル・シンポ・ワーク】</p> <p>1) 辻下守弘. (2009). 今からできる認知症予防の生活術～効果的な運動習慣について～, ひょうごオープンカレッジ. 2009年9月: 神戸市</p> <p>2) 辻下守弘. (2009). 老年看護コンサルテーション, 平成21年度近畿地区看護研究学会. 2009年12月: 奈良市</p> <p>3) 辻下守弘. (2010). バイオフィードバック療法の最新技術と理学療法への応用, 第38回日本理学療法学会大会自由枠セミナー. 2010年5月: 長野市</p>
研究費取得状況	<p>【事業創生関連助成など】</p> <p>1) 辻下守弘(代表), 辻下守弘. 繊維部品の実用的評価に関する研究. 平成21年度受託研究(倉敷紡績株式会社). 平成21年度</p> <p>2) 辻下守弘(代表), 辻下守弘. 繊維部品の実用的評価に関する研究. 平成21年度受託研究(倉敷紡績株式会社). 平成22年度</p>
学会・協会における活動	厚生労働省理学療法士・作業療法士国家試験委員会委員, 日本医療福祉情報行動科学会理事・副会長, 日本理学療法士協会学術雑誌査読委員, 日本バイオフィードバック学会理事
臨地保健実践活動	<p>1) 甲南女子大学業務提携施設「ケアセンター甲南」リハビリテーションアドバイザー, 神戸市東灘区, 平成22年度</p> <p>2) バイオフィードバック療法国内普及・米国サンフランシスコ州立大学統合医療研究所連携「日本バイオフィードバックセンター」センター長, 神戸市東灘区, 平成21年度・平成22年度</p>

氏名	永田 昌美	職名	講師
専門分野	高齢者理学療法		
担当授業科目	基礎ゼミⅠ・Ⅱ、人体の生理機能演習Ⅰ・Ⅱ、地域理学療法学、老年期理学療法学、臨床実習Ⅰ、地域理学療法実習、臨床実習Ⅱ、総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ、理学療法総合演習、卒業研究		
主な所属学会	日本理学療法士協会、生活支援工学会		

研究のキーワード	高齢者、車いす、姿勢
平成 23 年度～平成 25 年度研究業績	
論文	
著書	<p>【教科書】</p> <p>(共著)</p> <p>1) 永田昌美, 2011 年. 第 9 章 I 訪問リハビリテーションにおけるケーススタディ (脳血管障害) (284-291), 鶴見隆正、辻下守弘編「標準理学療法学専門分野 理学療法 臨床実習とケーススタディ第 2 版」医学書院</p> <p>2) 永田昌美, 2012 年. 第 7 章 サービスを提供する場面ごとの理学療法②介護老人福祉施設 (特別養護老人ホーム) (71-79), 備酒伸彦、樋口由美、対馬栄輝編「シンプル理学療法士シリーズ地域リハビリテーション学テキスト改訂第 2 版」南江堂</p>
研究発表	<p>【一般講演 (ポスター)】</p> <p>1) 森石優, 永田昌美, 吉田正樹, 南角茂樹 (2013). 車椅子座位姿勢における臀部前滑りの転落事故防止対策方法の提案, 電気関係学会連合大会, 2013 年 11 月: 寝屋川市</p>
学会・協会における活動	<p>兵庫県理学療法士会表彰委員会</p> <p>第 47 回日本理学療法学術大会実行委員 (財務部長)</p>
臨地保健実践活動	<p>1) 兵庫県介護保険審査会委員</p> <p>2) 平成 24 年総合健康推進財団主催介護技術研修会「突然おとずれる震災に向けた介護の備え・心構え」講師, 京都府京都市, 2012 年 9 月</p> <p>3) 平成 24 年神戸女学院 S D 研修会「障がいを抱える学生への対応について」講師, 兵庫県西宮市, 2013 年 8 月</p> <p>4) ニッケあすも一宮介護職員研修会「車いすのシーティングについて」講師, 愛知県一宮市, 2013 年 9 月</p>

氏名	西上 智彦	職名	准教授
専門分野	理学療法学		
担当授業科目	基礎ゼミ I, II、人体の構造演習 II, 原著講読, 運動学演習, 臨床運動学, 理学療法総合演習, 卒業研究, 臨床実習 I・II, 地域理学療法実習, 総合臨床実習 I・II		
主な所属学会	日本理学療法士協会, 日本ペインリハビリテーション学会, 日本疼痛学会, 日本運動器疼痛学会, 日本慢性疼痛学会		
研究のキーワード	理学療法, 痛み, 脳活動		
平成 23 年度～平成 25 年度研究業績			
論文	(筆頭) 【原著】		

	<p>1) <u>Nishigami T</u>, Ikeuchi M, Okanoue Y, Wakamatsu S, Matsuya A, Ishida K, Tani T, Ushida T. A pilot feasibility study for immediate relief of referred knee pain by hip traction in hip osteoarthritis. J Orthop Sci. 17(3):328-30, 2012.</p> <p>2) <u>Nishigami T</u>, Okuno H, Nakano H, Omura Y, Osumi M, Shimizu ME, Tsujishita M, Mibu A, Ushida T. Effects of a Hardness Discrimination Task in Failed Back Surgery Syndrome with Severe Low Back Pain and Disturbed Body Image: Case study. J Nov Physiother. S1-008, 2012.</p> <p>3) <u>Nishigami T</u>, Osako Y, Ikeuchi M, Yuri K, Ushida T. Development of heat hyperalgesia and changes of TRPV1 and NGF expression in rat dorsal root ganglion following joint immobilization. Physiol Res. 62(2):215-9, 2013.</p> <p>【総説】</p> <p>1) <u>西上智彦</u>, 渡邊晃久: 慢性痛の中樞機構. 日本基礎理学療法学雑誌 14(2): 15-19, 2011.</p> <p>2) <u>西上智彦</u>: 下行性疼痛調節系とリハビリテーション, Pain Rehabilitation, 1 巻 1号, pp21-24, 2011.</p> <p>3) <u>西上智彦</u>, 末富勝敏, 牛田享宏: 手術後の痛み: 癒痕性の痛み. MB Orthopaedics 24(5): 168 -172 2011</p> <p>4) <u>西上智彦</u>: 皮膚の痛みに対する理学療法. 理学療法 30(4): 411-416 2013.</p> <p>5) <u>西上智彦</u> (分担執筆): 神経筋理学療法, 痛み, 171-181, 医学書院, 2013.</p>
研究発表	<p>【招待講演・特別講演】</p> <p>1) Pain Rehabilitation. 埼玉作業療法士会 (2012. 7. 岩槻)</p> <p>2) 臨床に活かそう! 疼痛の理解. TAF (2012. 9. 神戸)</p> <p>3) 難治性疼痛に対する次世代リハビリテーション. 次世代リハビリテーション研究所 (2012. 11. 大阪)</p>
研究費取得状況	<p>【科学研究費】</p> <p>1) 牛田享宏 (代表) 病的疼痛行動を示す関節拘縮モデル動物の疼痛情報処理神経ネットワークの解析. 平成 22 年度文部科学省研究補助金 (基盤研究 B) 平成 22~平成 24 年度</p> <p>2) 肥田朋子 (代表) . 関節不動化によって生じる筋性疼痛のメカニズムの解析と疼痛発生の予防. 平成 23 年度文部科学省研究補助金 (基盤研究 C) 平成 23~平成 25 年度</p> <p>3) 西上智彦 (代表) . 異なる変形性関節症もでる動物に対する歩行エクササイズの効果. 平成 24 年度文部科学省研究補助金 (若手研究 B) . 平成 24~平成 25 年度</p> <p>4) 西上智彦 (代表) . 難治性疼痛症例に対するニューロフィードバックの効果について. 平成 24 年度日本理学療法士協会助成研究.</p>
学会・協会における活動	<p>1) 日本ペインリハビリテーション学会理事</p> <p>2) 日本運動器疼痛学会評議委員</p>

氏名	西川 仁史	職名	准教授
専門分野	外科系臨床医学		
担当授業科目	人体の構造演習, 理学療法評価学, 理学療法評価学演習, 運動機能障害診断学, 理学療法計画論, 基礎ゼミ I・II, 臨床実習 (臨床実習 I, 地域理学療法実習, 臨床実習 II, 総合臨床実習 I・II), 理学療法技術特論, 理学療法総合演習, 卒業研究		
主な所属学会	(公益社団) 日本理学療法士協会, (一般社団) 兵庫県理学療法士会, (一般社団) 全国大学理学療法教育学会, 日本肩関節理学療法研究会		
研究のキーワード	理学療法学、運動器リハビリテーション学		
平成 23 年度～平成 25 年度研究業績			
論文	<p>【その他】</p> <p>1) (分担執筆) 西川仁史 (2011). 理学療法 Vol. 28 No. 1, 肩関節周囲炎に対する的確・迅速な臨床推論のポイント, メディカルプレス, 分担 P115-121.</p> <p>2) (分担執筆) 西川仁史 (2013). 理学療法 Vol. 30 No. 6, 肩関節周囲炎の機能解剖学的病態把握と理学療法, メディカルプレス, 分担 P650-663.</p>		
研究発表	<p>【一般講演 (口演・ポスター)】</p> <p>1) 日高 瞳, 相良優太, 河野孝則, 池田 均, 小川 孝, 西川仁史 (2011). 肩甲骨位置の計測方法-拘縮肩における肩甲骨の位置-. 第 8 回肩の運動機能研究会抄録集: 41.</p> <p>2) 相良優太, 日高 瞳, 河野孝則, 池田 均, 小川 孝, 西川仁史 (2011). 肩甲骨の位置が肩甲上腕関節に与える影響. 第 8 回肩の運動機能研究会抄録集: 80.</p> <p>3) 相良優太, 日高 瞳, 河野孝則, 八木卓馬, 池田 均, 小川 孝, 和田哲宏, 西川仁史 (2012). 野球選手の肩甲骨の位置. 第 9 回肩の運動機能研究会抄録集: 89.</p> <p>4) 相良優太, 河野孝則, 八木卓馬, 藤岡 咲, 小川 孝, 西川仁史, 池田 均 (2013). 投球障害肩における肩甲骨位置異常と肩甲上腕関節可動域の関連性. 第 10 回肩の運動機能研究会抄録集: 118.</p> <p>5) 藤井祐樹, 段 秀和, 西川仁史, 藤本智久, 藤原俊輔, 他 (2013). 播磨地域の少年野球組織に対する大規模メディカル・チェック実施への取り組み. 第 25 回兵庫県理学療法学会大会抄録集: 60.</p>		
学会・協会における活動	<p>【公益社団 日本理学療法士協会関連】</p> <p>1) 日本理学療法士協会 骨・関節系理学療法研究部会会員 1997. ~現在.</p> <p>2) 日本理学療法士協会主催理学療法士講習会講師, 1992. ~現在.</p> <p>3) 日本理学療法士協会骨・関節系理学療法研究部会専門理学療法士 2009. ~現在.</p> <p>4) 第 47 回日本理学療法学会大会運営局長 2009. ~2012.</p> <p>5) 日本理学療法士協会代議員 2012. ~現在.</p> <p>6) 第 47 回日本理学療法学会大会演題査読, 2011. 11.</p>		

	<p>7) 第 48 回日本理学療法学会大会演題査読, 2012. 12.</p> <p>8) 第 49 回日本理学療法学会大会演題査読, 2013. 12.</p> <p>【一般社団 兵庫県理学療法士会関連】</p> <p>1) 兵庫県理学療法士会理事 (ブロック担当理事) 2004. ~現在.</p> <p>2) 第 24 回兵庫県理学療法士学会準備委員会補佐 (理事として) 2011.</p> <p>3) 第 51 回近畿理学療法学会大会演題査読, 2011. 08.</p> <p>4) 兵庫県理学療法士会淡路ブロック研修会講師, 2012. 02. 25. 洲本市</p> <p>5) 兵庫県理学療法士会北播磨・丹波ブロック研修会講師, 2012. 02. 26. 西脇市</p> <p>6) 兵庫県理学療法士会淡路ブロック研修会講師, 2013. 12. 15. 淡路市</p> <p>【全国大学理学療法教育学会】</p> <p>1) 全国大学理学療法教育学会会員 2010. ~現在.</p> <p>【日本肩関節理学療法研究会】</p> <p>1) 日本肩関節理学療法研究会幹事役員 2010. ~現在.</p> <p>2) 第 6 回日本肩関節理学療法研究会研修会座長兼講師, 2012. 01. 28. (宮城)</p> <p>3) 第 7 回日本肩関節理学療法研究会主催研修会講師, 2012. 07. 28. (千葉)</p> <p>4) 第 8 回日本肩関節理学療法研究会主催研修会講師, 2013. 07. 27. (千葉)</p> <p>【日本肩関節学会・肩の運動機能研究会関連】</p> <p>1) 第 1 回アジア肩・肘セラピスト学会準備委員 2010. 07. ~2011. 08.</p> <p>2) 第 1 回アジア肩・肘セラピスト学会一般演題査読 2011. 02.</p> <p>3) 第 1 回アジア肩・肘セラピスト学会座長 2011. 07. 08. (沖縄)</p> <p>4) 第 8 回肩の運動機能研究会座長, 2011. 10. 08. (福岡)</p> <p>5) 第 9 回肩の運動機能研究会座長, 2012. 10. 06. (東京)</p> <p>6) 第 4 回世界肩・肘セラピスト学会準備委員 2012. 07. ~2013. 05.</p> <p>7) 第 4 回世界肩・肘セラピスト学会一般演題査読, 2012. 11.</p> <p>8) 第 4 回世界肩・肘セラピスト学会座長 2013. 04. 10. (愛知)</p> <p>9) 第 10 回肩の運動機能研究会座長, 2013. 09. 27. (京都)</p>
<p>臨地保健 実践活動</p>	<p>【外部委員会等】</p> <p>1) 兵庫医科大学病院臨床研究審査委員会委員, 2010~現在</p> <p>【その他の講師等の依頼】</p> <p>1) 臨床実習施設の中間訪問時に、職員教育のための勉強会の講師依頼あり。入江病院 (2012、2013)、長崎原爆病院 (2013)、長崎記念病院 (2012)、諫早記念病院 (2013)</p> <p>2) 石川病院リハスタッフ研修会講師, 2011. 08. 20. 姫路市</p> <p>3) (社) 兵庫県柔道整復師会西播支部学術研修会講師, 2011. 09. 11. 相生市</p> <p>4) NPO スマイルチェーン講習会講師, 2011. 10. 30. (東京), 11. 06. (大阪)</p> <p>5) 広島運動器疾患リハビリテーション研究会主催研修会講師, 2012. 01. 22.</p>

	<p>6) 保健医療科学研究会主催研修会講師, 2012. 02. 19. (大阪)</p> <p>7) 第 58 回理学療法科学学会学術大会特別講演講師, 2012. 07. 01. (大阪)</p> <p>8) (社) 兵庫県柔道整復師会西播支部学術研修会講師, 2012. 09. 09. 相生市</p> <p>9) NPO スマイルチェーン講習会講師, 2012. 10. 28. (大阪), 11. 25. (東京)</p> <p>10) NPO スマイルチェーン講習会講師</p> <p style="padding-left: 40px;">東京会場セミナー①2013. 05. 19. ②2013. 06. 23.</p> <p style="padding-left: 40px;">大阪会場セミナー①2013. 06. 30. ②2013. 07. 07.</p> <p>11) 長崎県理学療法士連盟主催研修会講師, 2013. 06. 28. (長崎)</p> <p>12) Epoch 研修会講師, 2013. 08. 04. (大阪)</p> <p>13) (社) 兵庫県柔道整復師会スポーツ科学講習会講師, 2013. 09. 08. 神戸市</p> <p>14) 甲南女子大学社会貢献室主催 公開講座講師, 2013. 9. 20. 神戸市</p> <p>15) TAF (Think About the Future) 主催研修会講師, 2013. 10. 20. 神戸市</p> <p>16) 野村海浜病院褥瘡対策委員会研修会講師, 2013. 10. 28. 神戸市</p> <p>17) 明石運動器リハビリテーション研究会講師, 2014. 1. 25. 明石市</p> <p>【その他】</p> <p>1) 姫路スポーツメディカルチェック研究会研修会講師, 2011. 06. 姫路市</p> <p>2) 姫路スポーツメディカルチェック研究会, 少年野球のメディカルチェック</p> <p>3) (2011, 1 回実施), (2012, 2 回実施), (2013, 3 回実施)</p> <p>4) 外部医療、福祉系進学相談会への参加, 天王寺 MIO, 2012. 05. 12.</p> <p>5) 高校内ガイダンスの講師, 県立須磨友が丘高等学校, 2013. 07. 12. 神戸市</p> <p>6) 「総合健康類型 (第 3 学年)」授業講師, 県立宝塚東高等学校 2013. 11. 15. 宝塚市</p> <p>7) 臨床実習施設確保のため 2 施設訪問し実習地を確保, 2013.</p> <p>8) 求人票のお願いや就職依頼で、2011, 2012, 2013 とともにのべ 20 施設を訪問.</p>
--	--

氏名	服部 耕治	職名	教授
専門分野	整形外科		
担当授業科目	人体の構造 I、人体の構造 III、人体の生理機能 II、整形外科 I、整形外科 II、健康に生きる C、リハビリテーション概論、医学概論、総合臨床実習 I・II、卒業研究		
主な所属学会	日本整形外科学会、日本骨折治療学会、日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会、		
研究のキーワード	整形外科、再生医療、再生軟骨、軟骨評価、超音波、靭帯評価、可聴音		
平成 23 年度～平成 25 年度研究業績			
論文	<p>(筆頭)</p> <p>【原著】</p> <p>1) 服部耕治. (2011). 関節軟骨評価としての超音波. 整形外科. 2011, 62(5) : 462.</p>		

〈筆頭以外〉

【原著】

- 1) Matsumoto T, Hattori K, Matsushima A, Tadokoro M, Yagyuu T, Kodama M, Sato J, Ohgushi H. (2011). Osteogenic potential of mesenchymal stem cells on expanded polytetrafluoroethylene coated with both a poly-amino-Acid urethane copolymer and collagen. *Tissue Eng Part A*. 2011, 17(1-2) : 171-80.
- 2) Wakitani S, Okabe T, Horibe S, Mitsuoka T, Saito M, Koyama T, Nawata M, Tensho K, Kato H, Uematsu K, Kuroda R, Kurosaka M, Yoshiya S, Hattori K, Ohgushi H. (2011). Safety of autologous bone marrow-derived mesenchymal stem cell transplantation for cartilage repair in 41 patients with 45 joints followed for up to 11 years and 5 months. *J Tissue Eng Regen Med*. 2011, 5(2) : 146-50.
- 3) Hagiwara Y, Hattori K, Aoki T, Ohgushi H, Ito H. (2011). Autofluorescence assessment of extracellular matrices of a cartilage-like tissue construct using a fluorescent image analyser. *J Tissue Eng Regen Med*. 2011, 5(2) : 163-8.
- 4) Kato T, Hattori K, Deguchi T, Katsube Y, Matsumoto T, Ohgushi H, Numabe Y. (2011). Osteogenic potential of rat stromal cells derived from periodontal ligament. *J Tissue Eng Regen Med*. 2011, 5(10) : 798-805.
- 5) Tadokoro M, Matsushima A, Kotobuki N, Hirose M, Kimura Y, Tabata Y, Hattori K, Ohgushi H. (2012). Bone morphogenetic protein-2 in biodegradable gelatin and β -tricalcium phosphate sponges enhances the in vivo bone-forming capability of bone marrow mesenchymal stem cells. *J Tissue Eng Regen Med*. 2012, 6(4) : 253-60.
- 6) Ohnishi H, Oda Y, Aoki T, Tadokoro M, Katsube Y, Ohgushi H, Hattori K, Yuba S. (2012). A comparative study of induced pluripotent stem cells generated from frozen, stocked bone marrow- and adipose tissue-derived mesenchymal stem cells. *J Tissue Eng Regen Med*. 2012, 6(4) : 261-71.
- 7) Yokoi M, Hattori K, Narikawa K, Ohgushi H, Tadokoro M, Hoshi K, Takato T, Myoui A, Nanno K, Kato Y, Kanawa M, Sugawara K, Kobo T, Ushida T. (2012). Feasibility and limitations of the round robin test for assessment of in vitro chondrogenesis evaluation protocol in a tissue-engineered medical product. *J Tissue Eng Regen Med*. 2012, 6(7) : 550-8.
- 8) Mizuta N, Hattori K, Suzawa Y, Iwai S, Matsumoto T, Tadokoro M, Nakano T, Akashi M, Ohgushi H, Yura Y. (2013). Mesenchymal stromal cells improve the osteogenic capabilities of mineralized agarose gels in a rat full-thickness cranial defect model. *J Tissue Eng Regen Med*. 2013, 7(1) : 51-60.
- 9) Yagyuu T, Kirita T, Hattori K, Tadokoro M, Ohgushi H. (2013). Unique and reliable

	<p>rat model for the assessment of cell therapy: bone union in the rat mandibular symphysis using bone marrow stromal cells. J Tissue Eng Regen Med. Epub ahead of print.</p> <p>10) Teraoka K, Kato T, <u>Hattori K</u>, Ohgushi H. (2013). Evaluation of the capacity of mosaic-like porous ceramics with designed pores to support osteoconduction. J Biomed Mater Res A. Epub ahead of print.</p>
研究発表	<p>【招待講演・特別講演】</p> <p>1) 服部耕治. (2012). 日進月歩の関節軟骨評価技術開発, 第27回日本整形外科基礎学術集会. 2012年10月:名古屋市</p> <p>2) 服部耕治. (2012). 高齢者の転倒と骨折-転倒予防のための要因・住環境調査について-, 奈良県「整形外科」市民公開講座. 2012年10月:奈良市</p> <p>【一般講演(口演・ポスター)】</p> <p>1) 服部耕治, 西上智彦, 西川仁史, 小川宗宏, 上松耕太, 稲垣有佐, 仲西康顕, 田中康仁. (2013). Lachman test の定量評価は可能か? Contact microphone を用いた関節音定量評価の試み, 第5回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会. 2013年6月:札幌市</p>
研究費取得状況	<p>【科学研究費】</p> <p>1) 服部耕治(代表). 造影剤を用いた関節軟骨超音波評価法の開発. 平成23年度文部科学省研究補助金(研究活動スタート支援). 平成23~平成24年度</p>
学会・協会における活動	<p>1) 日本整形外科学会英文雑誌 Journal of Orthopaedic Science Editorial Board Member</p> <p>2) The Open Orthopaedics Journal, Bentham の Editorial board member</p> <p>3) The Open Rheumatology Journal, Bentham の Editorial board member</p> <p>4) Department of Applied Physics, University of Eastern Finland の国際的博士論文審査委員として Tuomas Viren の博士論文 Arthroscopic Ultrasound Imaging of Articular Cartilage の審査</p> <p>5) 厚生労働省科学研究費(再生医療実用化研究事業)「重症低ホスファターゼ症に対する骨髄移植併用同種間葉系幹細胞移植」の外部委員</p> <p>6) 経済産業省委託事業 医療機器開発ガイドライン策定事業 再生医療分野, 組織(軟骨)再生における有効性評価技術開発WG 委員</p>

氏名	間瀬 教史	職名	教授
専門分野	理学療法学		
担当授業科目	人体の生理機能演習、基礎ゼミⅠ、基礎ゼミⅡ、卒業研究、理学療法総合演習、運動機能障害診断学、内部障害理学療法学、神経筋障害理学療法学、理学療法技術特論、臨床実習Ⅰ、地域理学療法実習、臨床実習Ⅱ、総合臨床実習Ⅰ、総合臨床実習Ⅱ		
主な所属学会	公益社団法人日本理学療法士協会、日本私立医科大学理学療法研究会、全国大学理学療法学		

	教育研究会、日本呼吸ケアリハビリテーション学会、一般社団法人理学療法科学学会、日本体力医学会、日本臨床生理学学会
研究のキーワード	呼吸リハビリテーション、理学療法学、換気力学
平成 23 から 25 年度研究業績	
論文	<p>【原著】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 野添匡史, 間瀬教史, 傳秋光. Regional chest wall volume changes during various breathing maneuvers in normal men. (英語) Journal of the Japanese Physical Therapy Association, 14 : 12-18, 2011. 2) 高嶋幸恵, 間瀬教史, 野添匡史, 松下和弘, 高山雄介, 橋詰裕美. (2012) 歯磨き動作中の肺気量位・呼吸様式の変化と上肢肢位の関係—3次元動作解析システムを用いて—, 甲南女子大学研究紀要看護学・リハビリテーション学編 2012, 5 : 43-50 3) 湯口聡, 松尾知洋, 斎藤和也, 金光寛之, 小野晋也, 氏川拓也, 石田敦久, 喜多利正, 森沢知之, 間瀬教史, 丸山仁司. PAD に対する下肢血行再建術後の最大歩行距離に関わる要因、理学療法科学 26 : 587-591, 2011. 4) 間瀬教史. Q&A で見える呼吸管理機器と体位、呼吸器ケア 2 : 47-53, 2012 5) 野添匡史, 間瀬教史, 村上茂史, 荻野智之, 和田智弘, 眞淵敏, 寺山修史, 福田能啓, 道免和久. 慢性閉塞性肺疾患患者における動的肺過膨張の程度と呼吸機能・換気様式との関係. 理学療法学 38 : 74-83. 2011 6) 間瀬教史, 野添匡史, 岡田 誠, 村上茂史, 荻野智之, 松下和弘 加治佐望, 木原一晃, 笹沼里美. 慢性閉塞性肺疾患の在宅生活 : 重症例を中心に、Health and Behavior Sciences 10 : 7-11. 2011 7) 高山雄介, 野添匡史, 松下和弘, 橋詰裕美, 間瀬教史, 高嶋幸恵, 和田智弘, 眞淵敏, 寺山修史, 福田能啓, 道免和久. 3次元動作解析装置を用いた背臥位における胸郭体積測定の精度について. 臨床理学療法研究 28 : 5-9. 2011 8) 村岸亜伊子, 村上茂史, 木原一晃, 間瀬教史, 和田智弘, 眞淵敏, 寺山修史, 福田能啓, 道免和久. 側臥位における安静呼吸時の肺気量位および呼気流量制限の特徴. 臨床理学療法研究. 28 : 11-15. 2011 9) 橋詰裕美, 野添匡史, 高山雄介, 間瀬教史, 高嶋幸恵, 和田智弘, 眞淵敏, 寺山修史, 福田能啓, 道免和久. 3次元動作解析装置を用いて測定した背臥位と側臥位における胸郭形状の違いについて. 臨床理学療法研. 28 : 67-72. 2011 10) 高嶋 幸恵, 野添 匡史, 松下 和弘, 石井 真知子, 笹沼 里味, 間瀬教史. 健常男性における歯磨き動作中の肺気量位・呼吸様式の変化. 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌 22 : 115-119. 2012. 11) 野添 匡史, 間瀬教史, 高嶋 幸恵, 松下 和弘, 石井 真知子, 福岡 達之, 和田 智弘,

	<p>島田 憲二, 山本 憲康, 福田 能啓, 道免 和久 Chest wall volume changes during mastication in normal men. <i>Deglutition</i> 1(2) : 421–426. 2012.</p> <p>12) 野添 匡史(兵庫医科大学ささやま医療センター リハビリテーション室), 間瀬教史, 村上 茂史, 岡田 誠, 荻野 智之, 松下 和弘, 和田 智弘, 眞淵 敏, 島田 憲二, 福田 能啓, 道免 和久. 慢性閉塞性肺疾患患者と間質性肺炎患者における安静時・運動時呼気 Flow-Volume 曲線の形状. <i>理学療法科学</i> 27 : 379–383. 2012.</p> <p>13) 荻野 智之, 間瀬教史, 野添 匡史, 村上 茂史. COPD 患者の運動中の肺気量位、換気様式の経年的変化を観察した一症例. <i>日本臨床生理学会雑誌</i> 42 : 41–46. 2012.</p> <p>14) 金居 督之, 間瀬教史, 高嶋 幸恵. 体幹前傾立位における上肢支持の有無が胸腹部の形状及び体積に与える影響. <i>臨床理学療法研究</i> 29 : 55–59. 2012.</p> <p>15) 高嶋 幸恵, 間瀬教史, 野添 匡史, 松下 和弘, 高山 雄介, 橋詰 裕美歯磨き動作中の呼吸様式・肺気量位の変化と上肢位との関係 3次元動作解析システムを用いて. <i>甲南女子大学研究紀要(看護学・リハビリテーション学編)</i> 6 : 43–50. 2012.</p> <p>16) 石井 真知子, 間瀬教史, 野添 匡史, 高嶋 幸恵, 松下 和弘, 笹沼 里味, 山下 妙子, 島田 憲二, 福田 能啓, 道免 和久. 歯磨き動作が健康男性の chest wall 体積変化に与える影響. <i>日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌</i> 22 : 405–409. 2012.</p> <p>17) 間瀬教史. Q&A で見える呼吸管理機器と体位. <i>呼吸器ケア</i> 10 : 47–53. 2012.</p> <p>18) Nozoe M, <u>Mase K</u>, Murakami S, Okada M, Ogino T, Matsushita K, Takashima S, Yamamoto N, Fukuda Y, Domen K. The relationship between spontaneous expiratory flow-volume curve configuration and airflow obstruction in elderly COPD patients. <i>58(10) : 1643–1648. 2013.</i></p> <p>19) 田上 未来, 居村 茂幸, 富田 和秀, 門間 正彦, 大瀬 寛高, 間瀬教史呼吸介助手技中の局所肺換気について dMRI を用いた二次元画像解析の有用性. <i>理学療法科学</i> 28 : 351–356. 2013.</p> <p>20) 湯口 聡, 松尾 知洋, 斎藤 和也, 中島 真治, 氏川 拓也, 住友 泉, 森沢 知之, 間瀬教史, 丸山 仁司, 喜多 利正, 石田 敦久. 末梢動脈疾患に対する血行再建術前後における最大歩行距離と身体機能との関連. <i>脈管学</i> 53 : 135–142. 2013.</p>
著書	<p>【教科書】</p> <p>(共著)</p> <p>1) 潮見泰蔵、分担執筆者：潮見泰蔵、臼田 滋、高見彰淑、<u>間瀬教史</u>、他。(2012). 脳・神経リハビリテーション, 羊土社, 総頁 364 頁, 担当部分：進行性筋ジストロフィー pp217–224、多発筋炎・皮膚筋炎 pp225–232、重症筋無力症 pp233–239 を担当</p> <p>2) 編集者 吉尾雅春、高橋哲也、分担執筆者：上月正博、高橋哲也、森沢知之、内山 覚、<u>間瀬教史</u>、他。(2012). 内部障害理学療法学, 医歯薬出版, (全 372 頁)、担当部分：呼吸器系の解剖学 pp143–156、を担当</p>

	<p>3) 編集者 星文彦、新小田幸一、臼田滋 分担執筆者：星文彦、新小田幸一、臼田滋、高橋真、関川清一、高橋哲也、間瀬教史、他(2014). 病態運動学, 医歯薬出版, (全 438 頁)、担当部分：腕神経叢麻痺 (pp325-331)、感染後の末梢神経障害 (pp337-345) を担当</p>
<p>研究発表</p>	<p>【一般講演 (口演・ポスター)】</p> <p>1) 高嶋幸恵, 野添匡史, 橋詰裕美, 高山雄介, 松下和弘, 間瀬教史, (2011). 上肢挙上角度の違いが chest wall の体積・形状に与える影響(口述発表), 第 29 回日本私立医科大学理学療法学会学術集会, 2011 年 10 月：石川県河北郡</p> <p>2) 金居督之, 間瀬教史, 高嶋幸恵, (2011). 立位体幹前傾姿勢での上肢支持の有無が chest wall の形状及び体積に与える影響(口述発表), 第 29 回日本私立医科大学理学療法学会学術集会, 2011 年 10 月：石川県河北郡</p> <p>3) 高山雄介, 野添匡史, 橋詰裕美, 松下和弘, 間瀬教史, 高嶋幸恵, 和田智弘, 眞淵敏, 島田憲二, 福田能啓, 道免和久, (2011). 座位と背臥位における深呼吸中の胸郭運動の違いについて(口述発表), 第 29 回日本私立医科大学理学療法学会学術集会, 2011 年 10 月：石川県河北郡</p> <p>4) 橋詰裕美, 野添匡史, 高山雄介, 間瀬教史, 高嶋幸恵, 和田智弘, 島田憲二, 福田能啓, 眞淵敏, 道免和久, (2011). 背臥位・側臥位・座位における胸郭形状と胸郭運動の特徴(口述発表), 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会, 2011 年 11 月：長野県松本市</p> <p>5) 田上未来, 居村茂幸, 富田和秀, 門間正彦, 大瀬寛高, 間瀬教史 (2011). 呼吸介助手技中の局所肺換気について dMRI を用いた二次元画像解析の有用性, 第 21 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会 (長野)</p> <p>6) 野添匡史、間瀬教史、村上茂史、荻野智之、和田智弘、眞淵 敏、島田憲二、福田能啓、道免 和久 (2011) 慢性閉塞性肺疾患と間質性肺炎患者における安静時・運動時 Flow-volume loop 形状の違い, 第 21 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会 (長野)</p> <p>7) 横井佑樹、間瀬教史、山本健太 (2011) 体位変換による呼吸機能への影響, 第 29 回日本私立医科大学理学療法学会 (金沢)</p> <p>8) 間瀬教史 (2011) 慢性呼吸不全患者の換気の特徴と呼吸理学療法 (2011) 第 24 回兵庫県理学療法士学会 (姫路)</p> <p>9) 笹沼里味, 和田智弘, 間瀬教史 (2011). ワゴン椅子の使用により、食事の準備と後片付けが可能となった慢性閉塞性肺疾患患者について</p> <p>10) 橋詰裕美, 野添匡史, 高山雄介, 松下和弘, 間瀬教史, 高嶋幸恵, 和田智弘, 寺山修史, 福田能啓, 眞淵敏, 道免和久 (2011) 背臥位と側臥位における胸郭運動の違いについて, 第 46 回日本理学療法学会学術大会 (宮崎)</p> <p>11) 野添匡史、間瀬教史、村上茂史、荻野智之、和田智弘、眞淵 敏、島田憲二、福田能啓、</p>

- 道免 和久. COPD 患者と IP 患者における運動時 Flow-Volume Loop の形状について. 第 52 回日本呼吸器学会学術講演会 (神戸)
- 12) 高嶋幸恵, 野添匡史, 高山雄介, 橋詰裕美, 松下和弘, 間瀬教史. 上肢挙上角度の違いが chest wall 体積に及ぼす影響. 第 47 回日本理学療法学会学術大会 (神戸)
- 13) 野添匡史, 間瀬教史, 村上茂史, 岡田誠, 荻野智之, 和田智弘, 眞淵敏, 島田憲二, 福田能啓, 道免和久. 安静呼吸中の Flow-Volume Loop 形状から呼気流量制限の評価は可能か?. 第 47 回日本理学療法学会学術大会 (神戸)
- 14) 木原一晃, 間瀬教史, 村上茂史, 荻野智之, 松浦尊磨, 和田智弘, 眞淵敏, 島田憲二, 福田能啓, 道免和久. 呼吸介助法における手掌面圧と食道内圧. 第 47 回日本理学療法学会学術大会 (神戸)
- 15) 金居督之, 間瀬教史, 高嶋幸恵. 体幹前傾位で上肢を支持させた姿勢は chest wall 形状や体積を変化させる. 第 47 回日本理学療法学会学術大会 (神戸)
- 16) 山本健太, 間瀬教史, 久保宏樹, 横井祐樹, 川崎友里菜, 眞淵敏, 松浦尊磨. 呼吸介助法における胸腔内圧の変化について. 第 47 回日本理学療法学会学術大会 (神戸)
- 17) 村上茂史, 間瀬教史, 木原一晃, 荻野智之, 松浦尊磨, 眞淵敏, 島田憲二, 福田能啓, 道免和久. 呼吸介助法施行時の腹腔内圧変化の特徴. 第 47 回日本理学療法学会学術大会 (神戸)
- 18) 高嶋 幸恵(甲南女子大学), 野添 匡史, 橋詰 裕美, 高山 雄介, 松下 和弘, 間瀬教史. 上肢挙上角度の違いが最大吸気時の Chest wall 体積変化に与える影響. 第 22 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会 (福井)
- 19) 松下 和弘, 野添 匡史, 間瀬教史, 高嶋 幸恵, 和田 智弘, 眞淵 敏, 島田 憲二, 山本 憲康, 福田 能啓, 道免 和久. CPAP 併用運動中の chest wall 体積変化について. 第 22 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会 (福井)
- 20) 山本 健太, 間瀬教史, 木原 一晃, 眞淵 敏, 松浦 尊磨. 上部胸郭呼吸介助法における胸腔内圧の変化について. 第 22 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会 (福井)
- 21) 木原 一晃, 間瀬教史, 山本 健太, 松浦 尊磨, 安藤 啓司. 呼吸介助時の手掌面圧と食道内圧. 第 22 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会 (福井).
- 22) 高山 雄介, 野添 匡史, 間瀬教史, 高嶋 幸恵, 和田 智弘, 眞淵 敏, 島田 憲二, 山本 憲康, 福田 能啓, 道免 和久. 背臥位および側臥位における呼気中の chest wall 運動について. 第 22 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会 (福井).
- 23) 野添 匡史, 間瀬教史, 高嶋 幸恵, 松下 和弘, 和田 智弘, 眞淵 敏, 島田 憲二, 山本 憲康, 福田 能啓, 道免 和久. 脊柱後弯姿勢における chest wall 形状、運動の特徴. 第 30 回日本私立医科大学理学療法学会 (神戸)
- 24) 高嶋 幸恵, 野添 匡史, 橋詰 裕美, 高山 雄介, 松下 和弘, 間瀬教史. 健常成人におけ

- る洗髪動作中の呼吸様式の特徴について. 第30回日本私立医科大学理学療法学会(神戸)
- 25) 湯口 聡, 森沢 知之, 齊藤 和也, 松尾 知洋, 中島 真治, 氏川 拓也, 石原 広大, 河内 友美, 石口 祥夫, 住友 泉, 間瀬教史, 丸山 仁司, 手島 英一, 石田 敦久. ASO の下肢血行再建術後における最大歩行距離と下肢血行動態および身体機能との関連. 第53回日本脈管学会(東京)
- 26) 加治佐 望, 間瀬教史, 和田 智弘, 島田 憲二, 山本 憲康, 福田 能啓, 傳秋光, 道免 和久. 筋積評価としての筋線維伝導速度の有用性. 第48回日本理学療法学会(名古屋)
- 27) 荻野 智之, 間瀬教史, 野添 匡史, 和田 智弘, 玉木 彰, 島田 憲二, 山本 憲康, 福田 能啓, 道免 和久. 呼吸循環器疾患患者における上肢支持姿勢が呼気流量制限と肺気量位に与える影響. 第48回日本理学療法学会(名古屋)
- 28) 高山 雄介, 野添匡史, 松下 和弘, 間瀬教史, 高嶋 幸恵, 和田 智弘, 眞淵敏, 島田 憲二, 山本 憲康, 福田能啓, 道免和久. 姿勢の違いが胸部と腹部の肺気量分画に与える影響特に側臥位の特徴について. 第48回日本理学療法学会(名古屋)
- 29) 山本 健太, 間瀬教史, 木原 一晃, 野口 知紗, 松浦 尊磨. 呼吸介助法の違いが胸腔内圧に与える影響について. 第48回日本理学療法学会(名古屋)
- 30) 木原 一晃, 間瀬教史, 山本 健太, 野口 知紗, 松浦 尊磨. 呼吸介助法の体位による違いについての検討. 第48回日本理学療法学会(名古屋)
- 31) 野添 匡史, 間瀬教史, 高嶋 幸恵, 松下 和弘, 高山 雄介, 橋詰 裕美, 川崎友里菜, 和田 智弘, 眞淵 敏, 島田 憲二, 山本 憲康, 福田 能啓, 道免 和久. 姿勢と呼吸手技の違いが胸腹部呼吸運動パターンに与える影響 Konno-Mead diagram を用いた検討. 第48回日本理学療法学会(名古屋)
- 32) 野口知紗, 間瀬 教史, 山本健太, 田上未来, 富田和秀, 門間正彦, 居村茂幸. 体位変換による心圧迫を受ける肺容積の変化. 第25回 兵庫県理学療法学会(神戸)
- 33) 石原 広大, 湯口 聡, 齊藤 和也, 中島 真治, 松尾 知洋, 氏川 拓也, 大塚 翔太, 河内 友美, 森沢 知之, 間瀬 教史. 右開胸低侵襲心臓手術後に再膨張性肺水腫を発症し重症化した症例の理学療法経験. 第23回 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会(東京)
- 34) 野添 匡史, 間瀬 教史, 村上 茂史, 荻野 智之, 和田 智弘, 眞淵 敏, 内山 侑紀, 山本 憲康, 福田 能啓, 道免 和久. 呼吸介助法が COPD 患者の呼気量・呼気流速・肺気量位に与える影響. 第23回 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会(東京)
- 35) 川崎 友里菜, 野添 匡史, 高山 雄介, 松下 和弘, 高嶋 幸恵, 間瀬 教史. 姿勢と性の違いが Chest Wall 運動に与える影響. 第23回 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会(東京)

	<p>36) 金居督之, <u>間瀬教史</u>, 久保宏紀, 山本浩隆, 島田真一. 人工呼吸器からの離脱が困難であった脳幹梗塞の1症例. 日本プライマリケア連合学会 第27回 近畿地方会 (神戸)</p> <p>37) 野添 匡史, <u>間瀬 教史</u>, 村上 茂史, 岡田 誠, 荻野 智之, 松下 和弘, 和田 智弘, 内山 侑紀, 山本 憲康, 福田 能啓, 道免 和久. 高齢 COPD 患者における動的肺過膨張と呼吸パターン・呼気 Flow-volume loop 形状との関係 . 第31回 日本私立医科大学理学療法学会 (徳島)</p> <p>38) 荻野 智之, <u>間瀬 教史</u>, 村上 茂史, 和田 智弘, 内山 侑紀, 山本 憲康, 福田 能啓, 道免 和久. 上肢支持前傾姿勢の特徴—換気力学的観点から—. 第31回 日本私立医科大学理学療法学会 (徳島)</p> <p>39) Masafumi Nozoe, <u>Kyoshi Mase</u>, Shigefumi Murakami, Tomoyuki Ogino, Kazuhiro Matusita, Noriyasu Yamamoto, Yoshihiro hukuda, Kazuhisa Domen. Flow-volume loop during chest wall compression in COPD patients. WCPT-AWP and ACPT congress 2013 (Taiwan)</p> <p>40) Tomohiro Matsuo, Satoshi Yuguchi, Kazuya Saito, Masaharu Nakajima, Takura Ujikawa, Shota Otsuka, Kodai Ishihara, Yumi Kouchi, Tomoyuki morisawa, <u>Kyoshi Mase</u>, Ytetuya Takanashi, Atsuhisa Ishida. Factors influencing physical activity in patients with arteriosclerosis obliterans. WCPT-AWP and ACPT congress 2013 (Taiwan)</p> <p>41) Kenta yamamoto, <u>kyoshi Mase</u>, Kazuaki Kihara, Chisa Nogushi. Effects of Different positions on intrapleural pressure during manual Breathing assist. WCPT-AWP and ACPT congress 2013 (Taiwan)</p>
<p>学会・協会における活動</p>	<p>一般社団法人兵庫県理学療法士会 副会長および理事 社団法人日本理学療法士協会 代議員 臨床理学療法研究 編集委員 第47回日本理学療法学会大会 広報・渉外副局長 社団法人日本理学療法士協会 臨床実習ガイドラインワーキンググループ委員 公益社団法人日本理学療法士協会 理学療法基本評価検討委員会メンバー 公益社団法人日本理学療法士協会 教育制度委員会委員 日本私立医科大学理学療法研究会 理事 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会代議員</p>
<p>臨地保健 実践活動</p>	<p>1) 日本理学療法士協会第2013理学療法士講習会(基礎編) 内部障害に対する理学療法の進め方の基本 講師 神戸25年12月</p> <p>2) 日本理学療法士協会第2012理学療法士講習会(基礎編) 内部障害に対する理学療法の進め方の基本 講師 奈良24年12月</p> <p>3) 兵庫県理学療法士会新人対象研修会 PTに必要な胸郭運動の触診、視診 講師 神戸</p>

	<p>平成 25 年 12 月</p> <p>4) 兵庫県理学療法士会新人対象研修会 PT に必要な胸郭運動の触診、視診 講師 神戸</p> <p>平成 24 年 12 月</p> <p>5) 第 9 回呼吸ケアカンファレンス 理学療法実習 側臥位下部胸郭の呼吸介助 講師 神戸 24 年 4 月</p> <p>6) 日本理学療法士協会第 2011 理学療法士講習会（基礎編） 内部障害に対する理学療法の進め方の基本 講師 神戸 23 年 12 月</p> <p>7) 呼吸フィジカルアセスメント実技セミナー 気道事故防止と人工呼吸離脱に必要なアセスメント能力を身につけよう 第 9 回日本クリティカルケア看護学会学術集会 講師 神戸 25 年 6 月</p> <p>8) 呼吸リハビリテーションに必要な検査データの読み方・活用の仕方. 兵庫県病院局講演会 講師 神戸 23 年 6 月</p> <p>9) 佐用共立病院、心臓病センター榊原病院、伊丹恒性脳神経外科病院での臨床指導</p>
受賞・表彰	第 31 回日本私立医科大学理学療法学会学会長受賞、

氏名	松谷 綾子	職名	講師
専門分野	理学療法学		
担当授業科目	基礎ゼミⅠ・Ⅱ、運動学Ⅰ、運動学演習、人体の構造演習Ⅰ臨床実習Ⅰ、地域理学療法実習、総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ、卒業研究		
主な所属学会	日本理学療法士協会、日本体力医学会、認知運動療法学会、母性衛生学会		
研究のキーワード	理学療法学、リハビリテーション医学、バイオメカニクス、運動器リハビリテーション学		
平成 23 年度研究業績			
論文	<p>〈筆頭〉</p> <p>【研究報告】</p> <p>1) Ayako Matsuya, Souda Hiroo, Keiko Seki. (2011). Does asymmetric pelvic movement during pregnancy lead to sacroiliac pain?, Abstract of 16th World Confederation of Physical Therapy: http://www.abstractstosubmit.com/wpt2011/abstracts/</p>		
研究発表	<p>【招待講演・特別講演】</p> <p>1) 松谷綾子. (2011). 根拠ある理学療法のために～脳卒中理学療法診療ガイドラインの活用～ 日本理学療法士協合理学療法士講習会基本編. 2011 年 10 月：神戸市</p> <p>【一般講演（口演・ポスター）】</p> <p>1) Ayako Matsuya, Souda Hiroo, Keiko Seki. (2011). Does asymmetric pelvic movement during pregnancy lead to sacroiliac pain?. The 16th World Confederation of Physical</p>		

	Therapy. 2011年6月：アムステルダム、オランダ
学会・協会における活動	1) 兵庫県理学療法士会 講習部 部員 2) 第47回日本理学療法学会大会演題抄録査読
臨地保健実践活動	リハビリテーションクリニックにおける治療及び患者指導活動、スタッフ指導

氏名	八木 範彦	職名	教授
専門分野	理学療法学		
担当授業科目	基礎理学療法学, 筋骨格障害理学療法学, 理学療法計画論, 基礎ゼミⅠ・Ⅱ 卒業研究, 臨床実習Ⅰ・Ⅱ, 総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ		
主な所属学会	日本理学療法士協会, 日本RAのリハビリ研究会		
研究のキーワード	関節リウマチ, 理学療法		
平成23年度～平成25年度研究業績			
著書	【学術書】 1) 八木範彦 (2013). 共著「心理・精神領域の理学療法 はじめの一歩」4. 関節リウマチ患者の理学療法における「心理・精神的対応. 医歯薬出版, p75-79, 2013.		
研究発表	【招待講演・特別講演】 1) 八木範彦 (2012). 第47回日本理学療法学会大会・大会長基調講演. 2012年5月. 2) 八木範彦 (2012). 平成24年度兵庫県理学療法士会新人研修セミナー「(公社)日本理学療法士協会の活動について」. 2012年9月. 3) 八木範彦 (2012). 第26回加古川・神戸大学連携リウマチカンファレンス「関節リウマチに対する理学療法—早期リウマチ患者へのアプローチ—」. 2012年10月. 4) 八木範彦 (2013). 第20回名古屋学院大学リハビリテーション研究会「関節リウマチ患者に対する運動療法のエビデンスについて」. 2013年1月. 【パネル・シンポ・ワーク】 1) 八木範彦 (2011) 第19回東灘区地域医療シンポジウム「変形性膝関節症の予防」. 2011年10月.		
学会・協会における活動	1) (公社)日本理学療法士協会監事 2) 第47回日本理学療法学会大会開催 (大会長) 3) 日本RAのリハビリ研究会監事		

5.2 研究倫理審査

【現状】

1) 運営体制

本委員会の目的は、研究倫理委員会規程第1条にあるが甲南女子大学（以下大学という）における人を対象とする研究について（以下研究という）、「ヘルシンキ宣言」及び「疫学研究に関する倫理指針（厚生労働省）」の趣旨に沿った倫理的配慮を図ることである。

委員会の委員は研究倫理委員会規程第4条に基づき学部のいずれかの学部長1名、看護リハビリテーション学部教員（医師資格を有する教員を含む）2名、文学部、人間科学部教員各1名、学外有識者2名、事務局長1名をもって構成した。平成23年10月に「大学院生要覧」に大学研究倫理審査細則の改正版、大学院生の研究活動に関する倫理的指針を掲載し、活用した。その中に記載したが倫理委員会の開催は年2回（5月と10月）に加え、平成24年度からは大学院看護学研究科が開設されることから3月にも開催することとした。また書類審査で条件付き承認に関しては面接審査すべきではないかとの意見もあり、平成24年度の第2回目から申請者全員を面接審査した。

2) 倫理審査の実績

平成23年度は前期15件・後期19件、合計34件、平成24年度の第2回目から申請者全員の面接を行ない、さらに3回開催した。1回目11件、2回目12件、3回目15件、合計で38件、平成24年度は、申請者全員の面接を行ない、年3回開催し、1回目20件、2回目10件、3回目19件、合計で49件の申請があった。申請者の内訳は図5-1に示す。

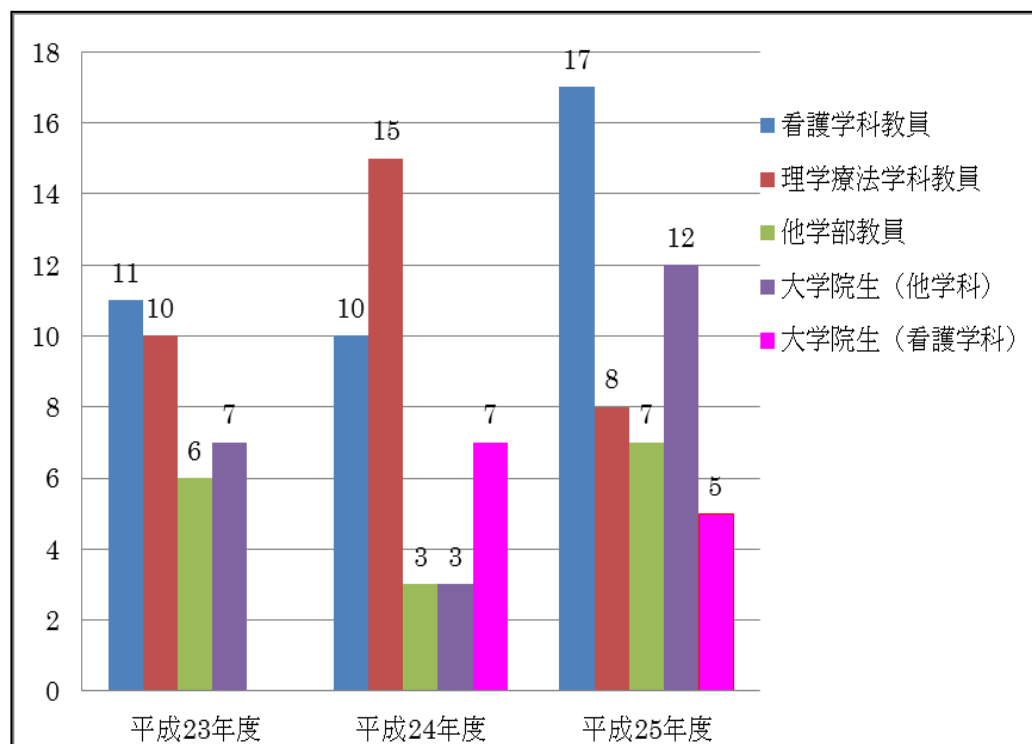


図5-1 申請者の内訳

【評価】

研究倫理審査委員会への申請数は着実に増加している。それは平成 24 年度から大学院看護学研究科の大学院生達の申請があったことも増加した要因の一つであろう。申請数が今後も増加していけば倫理委員会の開催回数も増やしていくことが必要である。大学院看護学研究科では倫理審査前に看護学研究科で研究計画書の検討会を実施していることや他の大学院の学生においても指導教員の指導が行われるようになり倫理委員会での審査がスムーズに行われ、審査時間の短縮にもつながっている。大学内で学生に調査する場合においても、倫理的な視点が必要ということで意見も求められてくる場合も多くなってきたことは倫理的配慮に対する意識が高まってきており、より良い傾向になっているのではないかと思う。

文部科学省における研究費獲得のために申請した研究では、3 年間～5 年間など年数をかけて行う申請が見られてきた。しかし対象者や研究方法が異なる場合には再度倫理審査が必要であると考え。このような内容に関する周知が今後必要であろう。

平成 23 年度の「大学院生要覧」に倫理審査に申請時に必要な書類や手続き記載要領などについて記載した。また倫理申請前には教員全員のメールに申請時における必要な書類なども提示している。しかし、尚、研究計画書の添付をしないで申請する人など書類上の不備が目立った。

【課題】

申請時に必要な事項の記載が不十分な申請者や揃えるべき書類や手続き記載要領等については、「大学院学生要覧」に掲載しているが、周知の方法をさらに検討していくことが必要である。

また今後申請数が多くなれば倫理委員会の開催を増やすことも必要である。

5.3 FD について

5.3.1 看護リハビリテーション学部

【現状】

建学の精神と教学の理念を踏まえ、学部学科が挙げる教育目的を実現し、教育・学習効果を最大限に高めるための組織的な取り組みを行う目的で全学 FD 委員会が組織されている。全学の FD 委員会は各学科 1 名の代表者により構成され、平成 21 年度から全学的な FD 活動に取り組んでいる。

学部の FD 委員会は、教育目的やカリキュラム・ポリシーにあった学部の教育システムの整備・改革、学部のカリキュラム改善、教員の教育・研究能力の向上を目的に構成されている。平成 23 年度は計 16 回、平成 24 年度は計 16 回、平成 25 年度は計 11 回の学部 FD 委員会を開催し、年間計画立案、合同開催事業の事前打ち合わせ、事業実施後の総括などを行った。

学部 FD 活動では、以下の活動目標を達成するために、両学科教員を対象とした合同事業を企画、運営した(表 5-1～表 5-4)。

表 5-1 学部 FD の活動目標

年度	活動目標
平成 23 年度	モデル・コアカリキュラムについて理解を深めること
平成 24 年度	学生の知的関心を高める教授方法について学ぶこと
平成 25 年度	1. 「学生・教員相互の能動的学習の開発に向けて～テクニックから本質へ～」というテーマのもと、学生が能動的な学習姿勢を獲得するための現状と課題を明確にすること 2. 学生・教員・環境の強みを基盤とした学習開発を検討すること

表 5-2 平成 23 年度 学部 FD 実施内容および状況

回数	月日	内容
第 1 回	平成 23 年 10 月 11 日 (火) 17:00~19:00 場所：1 号館大会議室	【講演】 「モデル・コアカリキュラムについて」 講師：大西弘高先生 所属：東京大学医学部教育国際協力研究センター
第 2 回	平成 24 年 3 月 14 日 (水) 16:00~17:00 場所：1 号館大会議室	【最終講義】 「私の履歴と甲南女子大学」 講師：加藤信行教授 所属：甲南女子大学看護リハビリテーション学部

表 5-3 平成 24 年度 学部 FD 実施内容および状況

回数	月日	内容
第 1 回	平成 24 年 10 月 29 日 (月) 9:00~14:30 場所：1 号館 132 教室	【公開授業】 平成 24 年度 第 1 回看護リハビリテーション学部 FD 研修会① テーマ：「学生の知的関心を高める教授方法とは」 講師：山内豊明 教授 所属：名古屋大学大学院 医学系研究科 臨床アセスメント学分野
第 2 回	平成 24 年 11 月 5 日 (月) 9:00~16:10 場所：1 号館 130 教室	【公開授業】 平成 24 年度 第 1 回看護リハビリテーション学部 FD 研修会② テーマ：「学生の知的関心を高める教授方法とは」 講師：山内豊明 教授 所属：名古屋大学大学院 医学系研究科 臨床アセスメント学分野
第 3 回	平成 24 年 11 月 9 日 (金) 9:00~14:30 場所：1 号館 130 教室	【公開授業】 平成 24 年度 第 1 回看護リハビリテーション学部 FD 研修会③ テーマ：「学生の知的関心を高める教授方法とは」 講師：山内豊明 教授 所属：名古屋大学大学院 医学系研究科 臨床アセスメント学分野

第4回	平成25年3月13日(水) 16:30~18:00 場所:1号館大会議室	【最終講義】 私の歩んできた道と甲南女子大学—教育と研究を ととして— 講師:山本和正 教授 甲南女子大学看護リハビリテーション学部看護学 科
-----	--	--

表5-4 平成25年度 学部FD実施内容および状況

回数	月日	内容
第1回	平成25年7月24日(水) 13:30~15:00 場所:1号館大会議室	【プレゼンテーション・ワークショップ】 平成25年度 第1回学部FD研修会 テーマ:「学生・教員相互の能動的学習の開発に向 けて~テクニックから本質へ~」 発表者:川勝 邦浩 先生(理学療法学科) 高嶋 幸恵 先生(理学療法学科) 谷口 清弥 先生(看護学科) 野村 亜由美 先生(看護学科)
第2回	平成25年11月18日(月) 17:00~19:00 場所:1号館大会議室	【講義】 平成25年度 FD研修会 テーマ:「看護教育と人間観~現象学・解釈学が教 えてくれること~」 講師:永見 勇 先生 所属:名古屋柳城短期大学
第3回	平成26年3月17日(月) 13:00~15:00 場所:1号館大会議室	【ワークショップ】 平成25年度 第2回学部FD研修会 テーマ:「学生・教員相互の能動的学習の開発に向 けて~テクニックから本質へ~」 卒業生及び教員のアンケート結果から得られた本 学学生・教員・環境の強みと弱みを基盤とした能動 的な学習の開発に向けて取り組む

平成23年度は、モデル・コアカリキュラムについての研修会を実施し、「今後、担当する授業に活用したい」「カリキュラムだけでなく、教育全般についても考えさせられた」などの感想が得られた。平成24年度の公開授業については、学生の知的関心を高める教授法の具体的な工夫を学ぶことができたとの感想が得られた。平成25年度は、両学科合同のワークショップを2回の学部FD研修会で取り入れた。第1回研修会では、両学科から各2名の先生に、学生・教員相互の能動的学習の開発に向けて実践している教育方法について発表いただき、ディスカッションを行った。第2回研修会では、教員だけでなく卒業生にも「学生・教員・環境の強み」を問うアンケートを実施し、このアンケート結果に基づいて能動的な学習の開発に向けてグループワークを行った。卒業生のアンケート結果からは、学生が考える強みと弱みと教員が考えるそれらは共通する点が多かった。そして、教員の手厚い

指導を受けたという意見や、それ故に就職後にとまどいがあること、また本学卒業生としての誇りと品格を持って仕事をしていることが記載されていた。グループワークを通して、学生だけでなく教員が変わることの必要性が確認された。実施後のアンケートでは、他学科の教員と意見を交わし一緒に考える機会を持てたことへの肯定的な意見や今後の継続を希望する意見が多かった。さらに、永見勇先生を招き「看護教育と人間観」をテーマとした講演会を実施し、いのちや人間の捉え方について考えを深め、専門職教育について再考する機会をもった。

研修会の参加状況は、平均して約7割の参加率であった。台風で延期になった研修会（平成23年度第2回、平成25年度第2回）は、参加できる教員が限られた。また、平成24年度の公開授業（第1～3回研修会）は、大学院の授業として行われた授業の参観であり、臨地実習期間中の実施であったため、看護学科の教員の参加が限られた。研修会のテーマ設定や研修会の進め方について、研修会後のアンケートによると、すべての年度において概ね良好という評価であった。

【評価】

平成22年に完成年度を終えた本学部では、平成23年度より、教員の研究活動に関するFDから、教育の評価をもとにした教育改善へと向かうためのFD運営へと方向性を転換した。平成23年度は、コアカリキュラムの理解を深め、教員間で共有する目標を達成することができた。平成24年度は、公開授業への参加を通して、学生の知的関心を高める教授方法について学ぶことができたと評価できる。平成25年度は、「学生・教員相互の能動的な学習の開発に向けて～テクニックから本質へ～」というテーマに基づき、看護学科と理学療法学科合同で研修を行い、能動的な学習の開発に向けて課題や具体策を再確認し、両学科の教員間で共有することができた。特に、教員及び卒業生へのアンケートをもとに、学生・教員・環境の強みを基盤とした学習開発について考えることができた。以上のことから、全学FDおよび学科FDと連携しながら、学部FDの各年度の目標を達成することができたと評価する。

【課題】

教育力の向上に関する取り組みは、これまでの成果を基盤として継続して取り組んでいく必要がある。平成25年度に、両学科合同で議論することを新たに取り入れたが、これに対して肯定的な意見が多かったことから、今後も両学科が協力して本学部の教育力の向上について取り組むことが重要であると考えられる。

全学的に取り組んでいる教員間の授業評価及び公開授業は、これまでの後期の実施から、来年度は前期に変更される。後期は、大半の看護学科教員が実習指導にでているため、参加できる教員が限られていたが、来年度は学部として効果的に取り組むことができると考える。

また、学生による授業評価の有効活用及び教育倫理の徹底は、各教員による意識的な取り組みを支持しているが、学部として強化していくことは今後の課題である。

5.3.2 看護学科

【現状】

学科 FD 活動では、以下の活動目標を達成するために、学科独自の事業および、両学科教員を対象とする合同事業として学部FDと連携した事業（学部FD事業として記載）を企画、運営した（表5-5～表5-8）。

表 5-5 看護学科FDの活動目標

年度	活動目標
平成 23 年度	<p>完成年度を迎え、看護学教育の評価をもとに、教育改善へと向かうFD運営を目指す。そのために、学部・学科における3つのポリシー（“Admission Policy” “Diploma Policy” “Curriculum Policy”）を明らかにし、さらにそれに沿った教育評価を行うための準備をする。そのために、教育評価の意義、評価項目・内容・方法などの基本的理解を深め、評価を基盤にした看護学科の教育について検討する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 本学科における学士課程の教育の質保障について、“Admission Policy” “Diploma Policy” “Curriculum Policy”を明確にし、教員間で共有することで教育の指針とする。 2) 上記に基づく看護学教育において、鍵概念となる“Core Curriculum”について教員間で共有し、教育実践に役立てる。 3) 評価の手立てとなる“Curriculum Map”を用いることで、教育の現状についての評価・修正を行う。
平成 24 年度	<p>昨年度に引き続き、看護学教育の評価を基盤にした、教育の改善及び教育力の向上を目指したFD運営を目指す。そのために、学部・学科における3つのポリシー（“Admission Policy” “Diploma Policy” “Curriculum Policy”）とカリキュラムマップを活用した教育評価を試みる。</p> <p>さらに教務委員会と協働し、本学科の教育の現状および評価を行うことで、教育力の課題および改善点を明確化する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 本学科における教育の指針であり、学士課程教育の質保証である“Admission Policy” “Diploma Policy” “Curriculum Policy”の内容を教員間で共有する。 2) 1)を踏まえ、評価の手立てとなる“Curriculum Map”を用いることで、教育の現状についての評価を試みる。 3) 2)の評価結果に加え、教務委員会との共同的な評価を行うことで、本学科の教育的課題を明確にし、教育力向上のための改善策を見出す。
平成 25 年度	<p>昨年度までに明らかになった3つのポリシー（“Admission Policy” “Diploma Policy” “Curriculum Policy”）およびカリキュラムマップを活用した教育評価をもとにした教育改善を視野に、学生とともに創る教員の教育力の向上に向けて活動することを目的とした。カリキュラムの改善は、カリキュラムワーキンググループに引き継ぐことができた。委員会では、学生とともに創る教員の教育力の向上に向けて、学生の学習効果を高め、教員の教育力の評価にも有用である「ポートフォリオ」の活用について検討する。</p>

表 5-6 平成 23 年度 看護学科 FD 実施内容および状況

回数	月日	内容
第 1 回	平成 23 年 6 月 1 日 (水)	【プレゼンテーション】 「“Admission Policy” “Diploma Policy” “Curriculum Policy” について」 「FD の位置づけについて」 FD 委員：前川幸子、川村千恵子、前久保恵、 上村聡子、西村美登里

表 5-7 平成 24 年度 看護学科 FD 実施内容および状況

回数	月日	内容
第 1 回	平成 24 年 7 月 28 日 (土) 10:00~16:00 場所：1 号館大会議室	【ワークショップ】(終日研修) 平成 24 年度 第 1 回看護学科 FD 研修会 テーマ：「私たちが目指す看護学教育」
第 2 回	平成 24 年 8 月 25 日 (土) 9:30~16:15 場所：1 号館大会議室	【プレゼンテーション・ワークショップ】(終日研修) 平成 24 年度 第 2 回看護学科 FD 研修会 テーマ：「私たちが目指す卒業時の実践能力」 —臨地実習の目標と成果を踏まえ、卒業時の 実践能力をどのように捉え、どのように育て ていきたいか—
第 3 回	平成 25 年 3 月 26 日 (火)	【プレゼンテーション】 「本学科における教育評価結果」 (FD 委員会・教務委員会協働)

表 5-8 平成 25 年度 看護学科 FD 実施内容および状況

回数	月日	内容
第 1 回	平成 25 年 7 月 10 日 (水) 16:00~17:00 場所：1 号館大会議室	【プレゼンテーション・ディスカッション】 平成 25 年度 第 1 回学科 FD 研修会 「成人看護学Ⅱ領域のポートフォリオを基盤 にした取り組みの報告」 発表者：藤永 新子 先生 (看護学科)

学科 FD 研修の参加状況は、平均して 7~8 割の参加率であった。各年度の研修会のテーマ設定や研修会の進め方について、研修会後のアンケートにおいて、概ね良好な評価が得られた。平成 23 年度は、3 つのポリシー (“Admission Policy” “Diploma Policy” “Curriculum Policy” と FD の位置づけについての研修会を通して、教員間で共通認識をもつことができた。平成 24 年度は二日間の終日研修を通して、本学科教員が目指す看護学教育や卒業時の看護実践能力について共有した。研修会について、「これまでの授業や教育について振り返り、評価する機会となったか」、「これからの看護教育を

考えるうえで役立ったか」という問いに、ほとんどの参加者が肯定的に回答した。また、研修会と並行して、本学科のカリキュラムポリシー、ディプロマポリシーを達成するために各科目がどのように関与しているかを明らかにするため、今年度進行している専門基礎科目、専門科目（選択科目も含む）を対象とし、以下の手順でカリキュラムマップを作成した。まずは学科FD委員会で、文部科学省が提示している「各専攻分野を通じて培う学士力ー学士課程共通の学習成果に関する参考指針ー」を参考にしながら、FD委員会で昨年度検討した本学看護学科で培う「4つの力」をもとに、ディプロマポリシーの見直しを行った。各科目の到達目標をもとにして、本学看護学科のカリキュラムポリシー、ディプロマポリシーを達成するにあたっての重要性を【知識・理解】【汎用性技能】【態度・志向性】【総合的な学習経験と創造的思考力】の視点でそれぞれに3段階で評価した（◎：特に重要な項目、○：重要な項目、△：望ましい項目）。作成したカリキュラムマップの分析により、各科目の到達目標とディプロマポリシーとの関係、その特徴を明らかにした。これらの分析結果をふまえて、本学看護学科の教育の現状について評価し、教務委員会と協働で開催した第3回研修会において学科全体で共有した。平成25年度のポートフォリオの活用に関する研修会後のアンケートでは、「具体的な活用方法を知ることができた」、「領域を超えた連携が必要と感じた」などの感想があった。

【評価】

平成23年度は、学科FDおよび学部FDと連携して進めた学部FDを通して、目標として挙げた3つのポリシー（“Admission Policy” “Diploma Policy” “Curriculum Policy”）およびコアカリキュラムについての理解を深め、教員間で共有するという目標を達成することができた。平成24年度は、2回の終日研修によって、3つのポリシーについて教員間で検討・共有し、それらに基づいた看護実践能力の捉え方や看護学教育の方向性について共通認識を得ることができた。そして、カリキュラムマップの作成・分析を通して、各科目の到達目標とディプロマポリシーとの関係およびその特徴を明らかにし、本学科の教育の現状について評価し、第3回研修会において学科全体で共有することができた。平成24年度の目標達成については学科のみの取り組みは一部達成としか評価できないと考えられ、両学科の連携の重要性が課題となった。この課題に対して、平成25年度の学部FDにおいて、両学部合同のワークショップ形式の研修会を取り入れることに繋げることができた。平成23～24年度の活動成果を基盤としたカリキュラムの改善は、カリキュラムワーキンググループに引き継がれることとなった。平成25年度は、学生の学習効果を高め、教員の教育力の評価にも有用である「ポートフォリオ」の活用について検討した。以上のことから、学部FDと連携しながら各年度の目標を達成することができたと評価する。

【課題】

今後も学科の教育評価に基づいた教育改善へと向かう取り組みを継続していくことが重要である。その方法の一つとして平成25年度から検討を始めたポートフォリオについて、さらに理解を深め、有効な活用方法について学習できる機会が必要であると考えられる。

5.3.3 理学療法学科

【現状】

学科 FD 活動では、以下の活動目標を達成するために、学科独自の事業および、両学科教員を対象とする合同事業として学部 FD と連携した事業（学部 FD 事業として記載）を企画、運営した（表 5-9～表 5-12）。

表 5-9 理学療法学科 FD の活動目標

年度	活動目標
平成 23 年度	<p>完成年度を終えた今年度は、理学療法学科における教育の評価をもとに、教育的改善へと向かう FD 運営を目指した。そのために、学部・学科における 3 つのポリシー（“Admission Policy” “Diploma Policy” “Curriculum Policy”）を明らかにした。特に授業科目のシラバスを記載する際に、到達目標と学生評価について学科のポリシーとの整合性をよりいっそう考慮された表現であるように各教員の意識改革にあたった。</p>
平成 24 年度	<p>全学 FD 委員会と協調しながら “Core Curriculum” について教員間で共有し教育実践に役立てることを促した。学生評価の手立てとなる “Curriculum Map” を作成し、教育の現状について把握し、各教員の意識をさらに高めた。</p> <p>教育評価の理論・方法に関する理解を深めるためにまず教育の実践現場から学ぶことから始めた、具体的には教育方法の実践に長けている講師の授業参観を実施した。また、学内での他学部・他学科の授業参観も行った。</p> <p>一方、教員の研究活動に関する FD は、上記のような教育改善に時間を費やすことが多かったため昨年度のままの状況維持となった。</p>
平成 25 年度	<p>本年度は看護リハビリテーション学部 FD 委員会と協議しつつ、「学生・教員相互の能動的学習の開発に向けて～テクニックから本質へ～」というテーマのもと、学生が能動的な学習姿勢を獲得するために現状と課題を明確にすることと、学生・教員・環境の強みを基盤とした学習開発を検討することについて教員間で共有し教育実践に役立てることを促した。</p> <p>理学療法学科の FD では、各教員の教育力を向上させるためには、各教員の FD 活動の到達目標に対する達成度評価が重要であると考え、計 14 大学（公立大学 2、私立大学 12）から聞き取り調査を行い、FD 活動の行動目標に対する達成度評価方法を検討して、カリキュラムマップの自己評価記録方式の導入を行った。</p> <p>全学 FD 活動では、教育評価の理論・方法に関する理解を深めるために学内での授業公開を行った。</p>

表 5-10 平成 23 年度 理学療法学科 FD 活動(学部 FD と併催)

年月日	議題・内容
平成 23 年 5 月 30 日(月) 【第 1 回学部 FD 会議】	平成 23 年度各学科 FD 委員会の活動方針について
平成 23 年 6 月 1 日(水)	「Admission Policy, Diploma Policy, Curriculum Policy について」資料作成

平成23年7月6日(水)	コアカリキュラム研修会(学部FD研修会)についての検討
平成23年7月22日(金)	コアカリキュラム研修会(学部FD研修会)についての検討—学部FD研修会にむけてのアンケート結果について (コアカリキュラム研修会に対する要望)
平成23年10月4日(火)	① コアカリキュラム研修会(学部FD研修会)についての検討—台風による開催日時の変更とアンケート準備について ② 全学FD委員会の報告
平成23年10月5日(水)	コアカリキュラム研修会(学部FD研修会) 準備・運営・役割に関する内容確認
平成23年10月11日(火) 17:00~19:00 場所:1号館大会議室	学部FD研修会 講演:「モデル・コアカリキュラムについて」 講師:大西弘高先生(東京大学医学部教育国際協力研究センター)
平成23年10月21日(金)	全学FD委員会 看護リハビリテーション学部3つのポリシーについて
平成23年10月25日(火)	コアカリキュラム研修会(学部FD研修会) アンケート結果について
平成23年10月27日(木) 【第2回学部FD会議】	全学FD委員会 看護リハビリテーション学部3つのポリシーについて

表5-11 平成24年度 理学療法学科FD活動(学部FDと併催)

年月日	議題・内容
平成24年6月8日(金) 15:10~16:10 【第1回学部FD会議】	1. 全学FD、学科FD部会、学科FDの役割について 2. 平成24年度の全学FDの流れについて 3. 学科として目指すこと
平成24年6月8日(金) 16:10~17:30 【第1回学科FD会議】	1. 学科FDの役割について 2. 学科として目指すこと 3. 学科カリキュラムマップの作成準備
平成24年6月27日(水) 18:30~19:00 【第2回学科FD会議】	1. 理学療法学科カリキュラムマップの整理
平成24年6月28日(木) 11:00~ 【第2回学部FD会議】	1. 各学科FDの目的・目標の共有について 2. 理学療法学科カリキュラムマップについて 3. 学部FD研修会について
平成24年10月24日(水) 13:00~14:00 【第3回学部FD会議】	1. 学部FD研修会開催に向けての事前準備の件
平成24年10月29日(月) 1~3限目	第1回 学部FD研修会(授業参観) テーマ:「学生の知的関心を高める教授方法とは」 講師:山内豊明 教授(名古屋大学大学院 医学系研究科 臨床アセスメント学分野)

平成24年11月5日(月) 1~4限目	第2回 学部FD研修会(授業参観) テーマ:「学生の知的関心を高める教授方法とは」 講師:山内豊明 教授(名古屋大学大学院 医学系研究科 臨床アセスメント学分野)
平成24年11月9日(金) 1~3限目	第3回 学部FD研修会(授業参観) テーマ:「学生の知的関心を高める教授方法とは」 講師:山内豊明 教授(名古屋大学大学院 医学系研究科 臨床アセスメント学分野)
平成24年12月7日(金) 16:10~17:00 【第4回学部FD会議】	1.平成24年度 第1回看護リハビリテーション学部FD研修会の評価 2.カリキュラムマップ:学部の評価についての検討
平成24年12月19日(水) 18:10~18:30 【第3回学科FD会議】	1.平成24年度のカリキュラムマップの見直し・修正

表5-12 平成25年度 理学療法学科FD活動(学部FDと併催)

会議・活動・月日	議題・内容
第1回学科FD会議 平成25年5月7日(火) 16:00~17:50 場所:1号館川村研究室	1.過去のFD委員会(全学・学部・学科)の取り組みの確認 2.学科のFD活動方針→カリキュラムマップの評価 3.今後の活動予定 ・学科会議にカリキュラムマップに基づく自己評価提案 ・学部FD委員会への提案・報告
第1回学部FD会議 平成25年5月22日(水) 13:30~14:45 場所:1号館小会議室	1.全学FD、学科FD部会、学科FDの役割について 2.平成25年度的全学FDの流れについて 3.学科として目指すこと
全学FD会議 平成25年5月29日(水) 15:00~16:30 場所:管理棟3階第6会議室	1.前年度のFD活動報告 2.本年度のFD活動報告 3.授業公開案
学科FD活動 平成25年5月7日(火) ~5月21日(火) 場所:1号館川村研究室	1.カリキュラムマップの自己評価記録方式の策定 各教員のFD活動の到達目標に対する達成度評価が重要であると考え、計14大学(公立大学2、私立大学12)から聞き取り調査を行い、FD活動の行動目標に対する達成度評価方法を検討してカリキュラムマップの自己評価記録方式を策定した。
学科FD活動 平成25年6月5日(水) 16:20~17:50 場所:1号館小会議室	FD活動の行動目標に対する達成度評価方法を検討して、カリキュラムマップの自己評価記録方式の採用を学科会議にて合意し、学科内でのカリキュラムマップの自己評価記録を開始した。

<p>第2回学部FD会議 平成25年6月17日(月) 10:00~11:45 場所:1号館小会議室</p>	<p>H25年度学部FD研修会について 1. テーマ 学生・教員相互の能動的学習の開発に向けて ～テクニックから教育の本質へ～ 2. 研修会内容 ・各学科2名の教員より1名10-15分の発表の後、全体での意見交換を行うシンポジウム形式。 ・アンケート実施</p>
<p>第1回学部FD研修会 平成25年7月24日(水) 13:30~15:00 場所:1号館大会議室</p>	<p>プレゼンテーション・ワークショップ 平成25年度 第1回学部FD研修会 テーマ:「学生・教員相互の能動的学習の開発に向けて ～テクニックから本質へ～」 発表者:(理学療法学科)川勝 邦浩 先生、高嶋 幸恵 先生(看護学科)谷口 清弥 先生、野村 亜由美 先生</p>
<p>第3回学部FD会議 平成25年8月6日(火) 13:00~14:30 場所:1号館小会議室</p>	<p>1. H25年度 第1回学部FD研修会についての検討 2. H25年度 第2回学部FD研修会についての計画 テーマ:「医療者を育てるうえで大事にしたいこと」 平成26年3月17日(月)13:30~15:00 大会議室 進め方:13:30-14:15 グループワーク、グループ毎発表</p>
<p>第4回学部FD会議 平成25年10月4日(金) 11:00~12:10 場所:1号館小会議室</p>	<p>1. H25年度学部FD予算について 2. 大学院FD研修について 3. H25年度第2回学部FD研修会に向けて 日時:3月17日(月)13:30~15:00 場所:大会議室 内容:第1回FD研修で教員から得られた意見と卒業生からのアンケートをもとにグループワークを実施する。</p>
<p>全学FD研修会 授業公開 平成25年11月18日(月) 14:40~16:10 場所:物理療法実習室</p>	<p>筋骨格障害理学療法Ⅱ(演習) 学生:理学療法学科学生 35名 担当:理学療法学科 川村博文 授業参観者:4名</p>
<p>第2回学部FD研修会 平成25年11月18日(月) 17:00~19:00 場所:1号館大会議室</p>	<p>平成25年度学部FD企画 テーマ:「看護教育と人間観～現象学・解釈学が教えてくれること～」 講師:永見 勇 先生 所属:名古屋柳城短期大学</p>
<p>第5回学部FD会議 平成26年3月10日(月) 14:00~14:40 場所:1号館小会議室</p>	<p>1. 平成25年度第2回学部FD研修会について ・参加予定者は看護学科と理学療法学科とでシャッフルして5~6名のグループに編成した。 ・第2回学部FD研修会当日進行について確認が行われた。 2. 次回FD委員会議事について ・第2回学部FD研修会のアンケート結果報告 ・次年度事業の計画を検討し、次期担当者に申し送りをする事ならびに委員会活動報告書を作成することが確認された。</p>

<p>第3回学部FD研修会 平成26年3月17日(月) 13:00～15:00 場所：1号館小会議室</p>	<p>ワークショップ 平成25年度 第2回学部FD研修会 テーマ：「学生・教員相互の能動的学習の開発に向けて～テクニックから本質へ～」 第一部:教育への課題について(30分間) 全体会(15分間) 第二部:今後の展望について(30分間) まとめ(35分間) 参加者：31名、 アンケート回収：26枚</p>
<p>第6回学部FD会議 平成26年3月19日(水) 13:00～15:00 場所：1号館小会議室</p>	<p>1. 第3回学部FD研修会のアンケート結果報告 2. 次年度事業の計画を検討し、次期担当者に申し送りをする事ならびに委員会活動報告書を作成する。</p>

平成23年度では、学部FD研修会で参加者数が理学療法学科6名、看護学科16名と少なかった。これはFDを開催する時期が台風と重なり、2度の延期に渡る実施となったため教員が参加できる日程調整が不十分となり、臨床実習指導等によって出席できない教員が多くなってしまったことが原因であった。学部FD研修会のテーマと内容としては、参加者からのアンケート結果によると「非常に良い～良い」との回答が多く得られた。意見としては、「今後、自分が担当する授業に活用していきたい」「カリキュラムだけでなく、教育全般についても考えさせられた」「医学教育に関する内容でも大学病院に関係することを例にしていたのでわかりやすかった。もう少し自分が成長してから(学んでから)研修を受けていたら違う学びもあったと思う」「評価の難しい面をもう少し聞きたかった」など、各教員が自己の課題に照合しながらFD研修会の内容を解決策として生かしていこうとする姿勢が伺えた。

平成24年度では、学部FD研修会で参加者数が理学療法学科9名、看護学科16名と昨年度を上回った。これはわずかではあるが教員の意識改善の影響ととらえている。学部FD研修会のテーマと内容としては、参加者からのアンケート結果によると授業の進め方などに対して非常に参考になったとの感想が多く得られた。意見も多く、「資料の提示や話し方はもちろんですが、その前に先生ご自身が正確な知識を持っていて、深く理解されていることがわかりました。」「まず教員自身が伝えたい知識・技術をしっかり身につけていることの重要性も改めて認識しました」など各教員様々な視点で得ることが多かったようである。

平成25年度では、学部FD研修会で第1回目が参加者数では理学療法学科・看護学科(参加者計32名/看護リハ学部教員67名=48%)、第2回目では理学療法学科・看護学科(参加者計31名/看護リハ学部教員)68名=46%)と実習関係で多忙な折にも関わらず約半数の教員が参加していた。これは、教員のFDに対する前向きな意識の高まりの現われと考えられる。

学部FD研修会のテーマである「学生・教員相互の能動的学習の開発に向けて～テクニックから本質へ～」は、参加者からのアンケート結果によると、H25年度第1回学部FD研修会については、研修会の感想から、参加者が共通して関心を持っているテーマであったと考えられた。具体的には、「テーマについて両学科で共有できてよかった。ワークショップ形式が良かった。一方では、ディスカッショ

ンの時間が15分では不十分で30分くらい必要という意見があった。率直な感想が書かれているが、ディスカッションでは意見が出にくかった。実践例や取り組みを挙げてもらうなど具体的な質問を投げかけることが必要である。90分で発表者4人は多かった。2人にしてみんなで考える時間にしても良かった。発表者の前に時計を用意すれば良かった。強み・弱みに関する意見が出たので、次の研修会で活かせると良い。」などの反省点・展望に相当する意見がみられた。

【評価】

平成23年度では、完成年度を終えた理学療法学科では、理学療法学に関する教育の評価をもとにした教育改善へと向かうためのFD運営の必要性があった。学士力の質的・量的向上を見越した学科教育の充実を図るため、看護学科FD委員からのアドバイスを参考にしながら①アドミッションポリシー・カリキュラムポリシー・ディプロマポリシーの検討、②コアカリキュラムの理解・再検討を中心に行ってきた。また、全学FD委員会の進捗状況と協調しながら学科FDを進めていかなければならないため、“Core Curriculum”について教員間で共有し教育実践に役立てること、学生評価の手立てとなる“Curriculum Map”の作成準備と教育の現状についての評価・修正を行うことについては、これからの課題である。今後も全学FDとの連携を踏まえながら、学科・学部FDで教員の教育力の向上のための教育・評価の実践を行っていく必要がある。

一方、教員の研究活動に関するFDは、上記のような教育改善に時間を費やすことが多かったため昨年度のままの状況維持となった。

平成24年度では、一方、教員の研究活動に関しては、中期目標・計画の中に定めたワーキンググループが設置されたのでそこに役割を移行した。

平成25年度では、第2回学部FD研修会については、今回の研修会のテーマ設定は興味を持てた80.7%(21人) ②まあまあ持てた19.2%(5人) ③あまり持てなかった0%(0人) ④持てない0%(0人)であった。具体的には、興味を持てた内容では、「自分自身でも問題視しているところだったから。教育を振り返り、後の教育のことも考えられた。実際に悩んでいることであるので、大事なテーマであった。理学の先生方との教育について話ができただけは良かった。深い意見が出たところです。」まあまあ持てた内容では、「共通のテーマでディスカッションしやすかった。」であり、今後の参考となる反省点に相当する意見がみられた。

【課題】

平成23年度では、教員の教育力の向上のためには、今年度明確になった教育の指針となる3つのポリシーに根差した教育の実践と評価・修正をしていく必要がある。次年度は、教育評価の理論・方法に関する理解を深めるためのFDを開催し、“Curriculum Map”を作成していくこととした。

平成24年度では、平成25年度も学士力の質的・量的向上を見越した学科教育の充実を図るため、アドミッションポリシー・カリキュラムポリシー・ディプロマポリシーに基づいた各授業科目の到達目標とその評価方法について検討していくこととした。また、全学FD委員会の進捗状況と協調しながら

“Curriculum Map” の評価・修正を繰り返し、その都度課題を見出し解決していく必要があった。

平成 25 年度では、理学療法学科がさらに教育力を向上するために、学部 FD 委員会と協調しながら教育学を原点から見つめなおすことが重要であると捉えているが、学科及び学部で議論する一方では外部の教育学を専門とする講師を招聘して研修会を開催し議論を高めていくことも今後の重要課題であると考えている。

文責：看護学科	自己点検・自己評価委員会	吾妻知美
	研究倫理委員会	白田久美子
	FD 委員会	前川幸子
理学療法学科	自己点検・自己評価委員会	伊藤浩充
	FD 委員会	川村博文

第6章 学生生活の支援

6.1 学生生活に関して

6.1.1 アドバイザー制度

アドバイザー教員の役割基準を作成し明確化されたこと、制度そのものが一応定着したことで、混乱なく活動できた。担当教員は出来るだけ固定化し、継続して学生に関わることで、学生の背景や経過を知ったうえで課題に対するサポートを行っている。勉学や実習など様々な場面で生じるトラブルへの対処、保証人への対応などアドバイザー教員の負担は大きいですが、教員間で連携をとりつつ役割を遂行することができた。

6.1.2 奨学金制度

【現状】

現在、本学学部生が対象となる奨学金を表 6-1 に示す。No. 1～3 の奨学金は学生生活課が窓口となり、各選考会議等を経て、人物・学業ともに優れ、健康ではあるが経済的理由により修学困難な学生を対象に給付されている。その他、交通遺児育英会奨学金、災害遺児奨学金、各市町村団体などの学生生活課が把握している各種奨学金は同課にて資料により広報されている。

表 6-1 本学学生生活課で取り扱っている奨学金と看護リハビリテーション学部の給付数

No	奨学金種類	貸与 給付	対 象	2011年 給付数 (のべ)	2012年 給付数 (のべ)	2013年 給付数 (のべ)
1	日本学生生活支援機構 奨学金	貸与	学部1～4年生	299	295	293
2	甲南女子大学奨学金	給付	学部2年生以上	11	9	7
3	甲南女子大学遠隔地出身 学生援助奨学金	給付	学部1～4年生	2	3	6

看護学科においては、外部病院奨学金制度を設けて、開学時から入学時に新入生に向けて説明会を開いている。平成23年9施設、平成24年8施設、平成25年8施設が説明を行った。奨学金を借入した学生は、平成23年11名、平成24年8名、平成25年10名である。しかし、年々、説明会に参加する人数が減少しており、入学時では学生の進路が明確でないまま奨学金借入になり、途中で変更や返還する事例が多く存在している。この状況を鑑み、平成26年度を最後に、外部病院の奨学金説明会を廃止することにした。

【評価】

奨学金説明会は入学のしおり、および教務部・学生生活部ニュースで日時を広報し、4月のオリエンテーション期間に全学年希望者を対象に実施されている。申請時期および締め切り等の奨学金に関わる伝達事項は学生生活課掲示板で随時広報され、奨学金希望者に適切な情報提供が行われている。

看護学科においては、看護学科の病院奨学金受給者が他病院に就職を希望することが起らないように、病院奨学金受給制度について学生が正しく認識するよう指導している。平成25年度は1年間かけて、奨学金関係部署の根回しを行い、施設に事前に説明を行った。また、3月に平成27年度より外部病院説明会を廃止することを通知した。今後はより一層、時期にあった個別のサポート、実績に合わせた対応が可能となると考える。

【課題】

奨学金の支給対象となる学生は経済的な理由で著しく修学が困難で、かつ人物・学業共に優れた者と規定されている。各奨学金の募集人員は制限があり、昨今の経済不況に伴い、授業料納入が困難な学生が全学的にも増加傾向にあり、奨学金を希望する学生は多い。

経済的な問題は個人のプライバシーと深く関わるため慎重な対応を求められるが、アドバイザー教員による個人面談などを通じて、経済的問題を抱えた学生を把握することが引き続き重要である。

6.1.3 感染症対策

【現状】

臨地・臨床実習が必修科目となる看護リハビリテーション学部では、感染症に関する検査として、入学前に小児期感染症抗体検査(麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎)、B型肝炎・C型肝炎検査を個人で実施し、入学時に提出させている。入学後、各学科の入学生全員に感染症予防に関する講義を行い、抗体価の低い学生に対して、臨床実習開始までにワクチン接種を義務付けている。また実習先での結核の罹患予防として、毎年6月にツベルクリン検査を実施し、陰性者には大学負担でBCG接種を実施している。また毎年1回、全学年の学生全員に健康診断が施行され、胸部X-P間接撮影結果をもとに結核感染予防を行っている。各学科の指導の取り組みは、表6-2(看護学科)、表6-3(理学療法学科)の通りである。

表6-2 看護学科：感染予防対策についての指導 2013年度版

時期		指導内容	担当
入学前	入学前	感染症に関する血液検査実施(入学のしおりに記載)	学生生活委員会
1年次	4月オリ	血液検査データの提出の確認・記載漏れのチェック 免疫状態を知ることの意味についての説明 自分の健康状態に関する情報管理についての指導	学生生活委員会

	6~7月	看護学概論Ⅱ 感染症と予防接種についての講義（高島先生）	実習委員会／ 学生生活委員会
	6~7月	ツベルクリン反応検査、BCG 接種	学生生活委員会
	9月オリ	感染症予防と公認欠席の手続きについて	学生生活委員会
	基礎実習Ⅰ	健康管理カードについての説明 記載方法の説明 免疫状態の把握に関する指導 小児感染症、B型肝炎の予防接種を受けるよう指導 ツ反（-）の場合、BCG接種が済んでいることの確認	実習委員会 担当教員
2年次	在宅実習Ⅰ	健康管理カードの確認 記載内容の確認 免疫状態の把握 小児感染症の予防接種が済んでいることの確認	担当教員
	9月オリ	感染症予防と公認欠席の手続きについて	学生生活委員会
	9月オリ	インフルエンザ予防接種の指導	実習委員会
	基礎実習Ⅱ	健康管理カードの確認 記載内容の確認 免疫状態の把握 小児感染症の予防接種が済んでいることの確認 インフルエンザ予防接種が済んでいることの確認	担当教員
3年次	領域実習オ リ	健康管理カードの確認 記載内容の確認 免疫状態の把握 小児感染症の予防接種が済んでいることの確認 インフルエンザ予防接種が済んでいることの確認	実習委員会 担当教員
	9月オリ	感染症予防と公認欠席の手続きについて	学生生活委員会
	9月オリ	インフルエンザ予防接種の指導	実習委員会
4年次	9月オリ	感染症予防と公認欠席の手続きについて インフルエンザ予防接種の指導	学生生活委員会

表 6-3 理学療法学科：感染予防対策についての指導 2013 年度版

時期		指導内容
入学前	入学前	感染症に関する血液検査の実施（入学のしおりに記載）
1 年次	4 月入学時	感染症対策の説明
		血液検査データの提出 確認・記載漏れのチェック
		自賠責保険加入の説明
	前期	感染症と予防接種についての講義 (授業 1 コマ：自分の探求)
		ツベルクリン反応検査、陰性者は BCG 接種 臨床実習 I までに、血液抗体検査の項目の陰性者はワクチン接種の指導、 接種のチェック
8 月上旬	臨床実習 I（臨地先：全 4 日間）	
2 年次	地域実習前	必要に応じて実習先に健康診断結果、インフルエンザの予防接種の指導
	1 月下旬～2 月上旬	地域実習（臨地先：全 4 日間）
3 年次	長期実習前	必要に応じて実習先に健康診断結果、血液抗体検査結果、ワクチン接種記録、 検便検査結果の提出
	2 月下旬	臨床実習 II（臨地先：全 2 週間半）
4 年次	4～5 月	総合臨床実習 I（臨地先：全 7 週間半）
	6～7 月	総合臨床実習（臨地先：全 7 週間半）

【評価】

毎年実施される定期健康診断、血液抗体検査の抗体価に応じてワクチン接種の指導、ツベルクリン反応検査などを実施することで、学生の健康維持・管理および臨地実習先での感染症を予防に対して有効に機能している。臨地・臨床実習で感染が発生した場合の連絡体制および対処方法も学生要覧、実習要項で示されており、安全確保および迅速な対応を可能にしている。また、学部生全員に自賠責保険を義務付け、不測の事態に備えている。学生の健康管理・感染症対策に関して、保健センターとも十分に連絡をとりつつ進めている。

【課題】

感染症対策は、臨地実習先からも年々、要請が高くなっており、実習先への提出書類も多くなって

いる。肝炎に対する検査・ワクチン接種に関しても、義務づける実習先が増えている。しかし、学生自身は抗体検査やワクチン接種に関する認識がまだまだ低く、今後も結果の解釈や正しい対応方法等について十分に指導していくための対策が必要と考えられる。

また、入学前の血液抗体検査は平成 25 年度まで自己負担であったため、抗体価が低い場合のワクチン接種を含めると、個人の費用負担が非常に高くなっていた。そのため、平成 25 年度には大学に対し、新入生全員に入学後に血液抗体検査を実施することを要望した。平成 26 年度は現行のままであるが、平成 27 年度からは大学負担で実施される予定である。

6.1.4 コモンルームの使用

【現状】

看護学科のコモンルームは、学生が主体的に運営できるよう、各学生で組織化し、前期 2 年生、後期 1 年生を主に担当教員と活動している。コモンルームの環境や備品等が管理、チェックリストを作成し、運営上の問題点を学生間で改善していくよう支援する体制をとっている。

理学療法学科のコモンルームは、各学年から委員長、副委員長、美化委員などをコモンルーム委員として配置し、コモンルームを学生が主体となって運営している。また、学期ごとに委員を集めた運営会議を開催し、運営状況の振り返りや発展的な活用に向けた検討の場を設定している。係担当教員はこれら学生による円滑な運営を行うための意識づけや支援を行っており、全学生が学習や交流できる場としての運営が維持できている。

【評価】

看護学科のコモンルームは、学生が主体的に運営できている。各学生で組織化し、前期 2 年生、後期 1 年生を主に担当教員と活動できている。コモンルームの環境や備品等が管理、運営も問題なくできている。10 台の PC は配置した場所と、休憩や空時間で活用できるスペースに分けて、有効利用できている。

理学療法学科のコモンルームは、学生が主体となって運営できている。また、教員の支援も必要であるが学生による円滑な運営ができるようになっており、全学生が学習や交流できる場としての運営が維持できている。

【課題】

学生自らが主体的にすべてを運営できるようになることが望まれる。

6.2 学生の福祉・厚生

【現状】

学生生活課は学生への福祉厚生として、奨学金・学生寮・傷害保険等を扱っており、看護リハビリテーション学部事務室も関与してきた。

1) 奨学金

(1) 全学生対象

本学の学部生・大学院生を対象に学生生活課が扱っている主な奨学金には、日本学生支援機構奨学金(貸与)、甲南女子大学奨学金(後期授業料相当額給付、2年生以上対象)、甲南女子大学遠隔地出身学生援助奨学金(給付)、甲南女子大学大学院奨学金(給付)などがある。

いずれも、人物・学業ともに優れ、健康だが経済的理由により修学困難な学生で各奨学金選考基準を満たした学生を対象に、貸与もしくは給付される。

(2) 甲南女子大学スカラシップ入学者対象

甲南女子大学スカラシップ入学者には、入学後2年間または1年間、学費が半額に免除される。

スカラシップ入学者とは、次のいずれかの入学試験を経てスカラシップの権利を得たものをいう。

「入学試験 AI(スカラシップ判定付き)・AII (スカラシップ判定付き)」、「大学入試センター試験利用入試 S (スカラシップセンター)」、「指定校推薦入学選考 S(遠隔地スカラシップ)」、「内部進学選考(併願可)」、「看護リハビリテーション学部看護学科2年次編入学試験」、「看護リハビリテーション学部看護学科3年次編入学試験」。

(3) 看護学科学生対象

看護学科学生を対象に、病院奨学金(貸与)がある。学生生活課が近隣の奨学金を申し出た病院と調整を行い、4月初めのオリエンテーション期間に学内で説明会を開催した。各病院が実施する面接や小論文で受給者が選考される。9件の病院から奨学金の申し出があり、受給額は月額4万円から6万円で、受給期間と同期間あるいはそれ以上の期間をその病院に勤務することで、返済義務は免除される。

平成23年度は4施設13名、平成24年度は5施設8名、平成25年度は6施設14名の学生が、奨学生となった。

昨今の社会情勢から、病院の都合で産科が閉鎖されたため助産師希望の奨学金受給生の就職がかなわない場合も含め、受給病院に就職しない(できない)場合には、可能な限り早い段階で病院側に連絡することで、トラブルを回避している。

2) 学生寮

本学には「Konan Clover House」(コーナンクローバーハウス)と名付けられた学生寮があり、収容定員は155名である。

入寮費150,000円(入寮時のみ)、寮費44,000円又は47,000円(月額)、食材費480円(1日朝夕2食)、食堂運営費120,000円(年額)となっている。

入寮者数は平成23年度看護10名・理学13名、平成24年度看護9名・理学17名、平成25年度看護12名・理学14名となっている。(各年4月1日現在)

寮生活についてアンケートを実施しており、全般を通じて普通と答えている学生が最も多く、満足・やや満足と不満・やや不満がほぼ2分している。(平成24年度調査) 学生にとっては、門限が

あることやさまざまな場面で手続きが必要であるなどが 不満につながっているようである。食事に関しては、生協や役員と相談しながら、その他の事項についてはその都度、役員、寮管理人と大学で話し合い改善していくようにしている。また、4月に入寮パーティー、12月に忘年会をパーティー形式で開催し親睦を深めている。寮内で留学生を囲む会も開催している。

下宿の紹介・斡旋は甲南女子大学生協が取り扱っている。

3) 傷害保険

全学生は、学生教育研究災害傷害保険に加入している。これは本学の教育後援会が保険料を全額負担している。学生の正課中や大学行事中等に、通院・入院を必要とする傷害や事故が発生した場合、医療保険金や後遺障害保険金、死亡保険金等が支払われる。

看護リハビリテーション学部は臨地・臨床実習中の事故への対応として、上記の保険とは別に全国大学生生活協同組合連合会共済センターの「学生総合共済」に全員加入している。

【評価】

1) 奨学金

全学対象の奨学金希望者は毎年増加傾向にある。本学では家庭の経済状況の急激な変化にも対応できるよう、可能な限り学生の就学を援助している。病院奨学金を受けることで、経済的に安定し、勉学に集中できる学生が多い。受給している学生が受給先病院に就職しない場合も、連絡をできる限り早く行うことにより、トラブルは発生していない。

2) 学生寮

女子学生が安全・快適に生活できるように配慮されており、学生の声を常に聴きながら運営されている。

3) 傷害保険

臨地・臨床実習には、教育後援会が加入している保険だけでは不十分な点があるため、甲南女子大学の生協が窓口となっている「学生総合共済」に加入するよう新入生オリエンテーションで説明、指導した。学生にとって保険利用時の相談及び手続きが大学内で随時出来るため、安心で効率的である。

【課題】

1) 奨学金

病院奨学金受給制度について、学生が4年間の学びを通した中で、就職先を決めることが大切である。本学で1年生に対し説明会を開催している現行の病院奨学金制度の在り方を検討する時期に来ている。

2) 学生寮

学生寮で、学生が敬愛と協調の精神を養い、明るく規則正しい寮生活を送れるようさらに学生の声を聴き支援する。

3) 傷害保険

「学生総合共済」の窓口である甲南女子大学生協と学部事務室が連携を密に取り、加入漏れの学生がないよう、また事故発生時などに迅速的確に対応できるようにする。保険内容や金額の変更に注意し、本学部生に必要な保障が得られる保険の案内が行えるようにする。

6.3 国際交流

【現状】

本学部の教育目的は、豊かな人間性を培い、高い意ヒューマンケアの視点を持ち、地域社会および国際社会において活躍できる人材を育成することである。また、教育目標は、「国際交流の場において、様々な国の人・文化を理解し、看護および理学療法の専門職者として国際的な視野を持って活躍できる人材の育成」が謳われている。そこで、本学部では以下のような国際感覚を備えた専門職者育成のためのプログラムが準備されている。

1) オーストラリア海外研修 (3月) 対象：1年次・2年次の看護および理学療法学科

研修の目的は、医療者に必要な英語コミュニケーション能力を養うこと、異文化体験をとおして視野を広げること、海外の看護や理学療法の現状に触れることで国際性を育み、さらに自身の医療者観を深めることである。研修期間は1週間である。ただし、現時点では単位の読み替ええない。平成25年度は参加人数が少なかったことにより、本海外研修は中止となった。

2) 国際保健海外研修 (10月) 対象：4年次 看護および理学療法学科

世界の保健・医療では様々な格差がある。これらの格差について考えるためには、日本の保健・医療制度および現状について知る必要がある。この問題については、発展途上国のみならず先進国においても同様である。これらについて授業をとおして知ることで、この格差を縮小する手段を考察することが目的である。研修期間は1週間である。本海外研修は、専門基礎選択科目である「国際保健」の1単位として読み替え可能である。

3) 理学療法学科海外研修 対象：3年次・4年次 理学療法学科

本研修では、日本のものとは異なるアメリカの理学療法教育や臨床現場に触れることで、「理学療法」を捉える視野を広げ、さらに英語によるコミュニケーション能力を向上させることを目的としている。研修地はアメリカのサンフランシスコ州立大学であり、研修内容は研修大学の教員によるアメリカの医療制度に関する講義と、理学療法士に必要なバイオフィードバックの基礎理論と基本技術の

研修、および理学療法士の勤務する施設および臨床現場の見学である。

【評価】

1) 学生が選択可能なプログラムの準備について

本学では、全学部共通の海外研修プログラムが用意されているが、本学部では研修時期が臨地臨床実習期間と重複するために参加は困難である。そこで本学部独自の海外研修プログラムがあり、看護および理学療法学科ともに参加可能となっている。また、4年次には専門基礎選択科目である「国際保健」の単位読み替えも可能な国際保健海外研修プログラムがあり、これも看護および理学療法学科ともに参加可能となっている。しかし、この海外研修プログラムは主に発展途上国における保健医療問題に対する視察が中心であり、主に看護学科に用意されたプログラムとなっている。そこで理学療法学科では独自にアメリカのサンフランシスコ州立大学への海外研修プログラムが用意されている。本研修は2週間にわたり、サンフランシスコ州立大学での医療における英語コミュニケーション能力の養成と、バイオフィードバックを中心とした理学療法技術の習得を目的とした内容となっている。本学部では、1年次から4年次にわたって臨地臨床実習があるため、長期間の海外研修は不可能である。現在用意している3つの海外研修プログラムを設定することが限界である。

2) 渡航上の危機管理体制について

本学では、国際交流室が中心となって、独自の国際交流危機管理マニュアルが作成されており、本学部国際交流委員会もこのマニュアルを遵守した危機管理体制をとっている。

【課題】

1) 海外研修への参加者の確保

学生に対する広報は、前期および後期オリエンテーション時に実施している。参加者の確保については大きな課題であり、本学の海外研修は参加者が最低5名は必要である。本学部での海外研修は、これまでも参加者が少ないために中止となったことがある。また、人数が少ないことは1名あたりの研修費用が増えるために、参加する学生の負担が大きくなる。今後は、研修先を日本近隣のアジア内に設定するなどの研修費用を安価にするとともに、研修費用の分割納入なども検討する必要がある。

2) 学生の英語コミュニケーション能力の向上

これまでに実施した海外研修での反省点は、学生の英語コミュニケーション能力が低いため、研修先でのネイティブの教員や学生との十分なコミュニケーションをとることができないことである。研修の最大の目的は国際交流であり、現地の様々な人との交流を持つことが必要であるが、大部分は引率教員や現地での通訳者をとおしたコミュニケーションとなっていることが課題である。本学の教育課程では、語学科目として英語と英会話を通年で120時間を行っているが、語学力の向上が乏しいのが現状である。今後は、英語の科目担当者と相談して、英語コミュニケーション能力向上に徹した実

践的な教育プログラムの検討が必要である。また、本学部に属するネイティブ教員を主体とする実践的な医療英語コミュニケーションの特別講座も設定するなど、学部の教育目標にも謳われている「国際交流の場において、様々な国の人・文化を理解し、看護および理学療法の専門職者として国際的な視野を持って活躍できる人材の育成」に努めなければならない。

3) 国際交流危機管理マニュアルの検討

平成 23 年 3 月に発生した東日本大震災や近年の豪雨による被害など、日本でも大きな災害が発生しているが、これは日本だけでなく世界中のどこにでも起こりうる天災であり事故である。本学の国際交流マニュアルは国際的にも標準以上の内容ではあるが、様々な問題や状況に応じた迅速な対応、処置ができるように今後も検討を加え、想定外という事態を防ぐような努力を続けていく必要がある。

6. 4. 国家試験対策

6. 4. 1 看護学科

【現状】

国家試験委員会は、平成 22 年度に新設された「看護リハビリテーション学部国家試験支援室」との連携のもと、下記のことを年間計画立案(計画案は平成 25 年度参照)し実施した。(表 6-4)

- ① 国家試験合格に向けた学習支援環境の整備と運営。
- ② 国家試験支援室及びアドバイザー教員との連携による個別・小集団指導体制の整備。
- ③ 国家試験対策に関する情報提供等。

具体的には、以下の各種事業の企画運営及び評価することを役割としていた。

- ① 国家試験対策に関する企画運営及び評価 (模擬試験・各種講座・補講等の計画立案)
- ② 国家試験対策に関する効果的な学生指導の検討及び実施 (成績分析・個別面談等含む)
- ③ WEB 学習の利用促進と運営管理
- ④ 国家試験に関する諸手続きについて (看護学科事務室との連携)
- ⑤ その他国家試験に関すること

国家試験対策方針としての国家試験対策 3 本柱は、学内集中講義、模擬試験、小規模ゼミである。学内集中講義は、4 年生全員を対象に看護師および保健師の集中セミナーを夏季・冬季に行ない、模試の結果分析を、内容へ反映させた。模擬試験は、学内・学外において模擬試験を、看護師：東京アカデミー 3 回、テコム 2 回、(株) 武田看護 1 回、医教 1 回、保健師：東京アカデミー 1 回、(株) 武田看護 1 回、インターメディカル 1 回を実施し、成績結果が返却されたら解説セミナーを行い知識の定着化を図った。助産師の模擬試験は、インターメディカル 2 回、クオリス 2 回実施した。模擬試験は自己学習の力試しという位置づけであり、個人で国試問題集の過去問を 3 回は行なうことを前提として行った。小規模ゼミとしては、「キャッチ&リリース 三井ゼミ」と銘打って、成績不良者の引き上げを目的とし、模擬試験順位下位 30%および必修弱者を対象にゼミを行ない、次回の模擬試験で成績が上げれば、ゼミ対象から外れるという方式をとることで、対象に悲そう感を持たせると共に、やれ

ば結果につながることを実感させることを目的に行ったが、平成22年度・平成23年度は12月にはほぼ対象者はいなくなったが、平成24年度は成績不良者の人数が多すぎるため選抜をすることとなった。教員による専門科目ゼミは、これまで実施していないが、模試の結果状況によっては「教員による補講」を依頼し平成23年度・平成24年度は実施した。

表 6-4 平成 25 年度 国家試験対策年間計画

	3 年生	4 年生
6 月	24 日専門基礎力確認再テスト実施(3 月末のテストの結果が 60 点未満の者)	2 日(日) 東京アカデミー模試
8 月	21 日(水) 再テスト結果返却・指導	24 日(土) 医教 学内模試
9 月		9 月 2 日(月)～3 日(火) 看護師夏季セミナー 9 月 4 日(水)～5 日(木) 保健師夏季セミナー(疫学保健統計学行政論) 21 日(土) テコム第 1 回 学内模試
10 月		三井ゼミ開始(下位 30%) 1 回/週 8 日(土) メディカ出版学内模試 11 日(金) テコム模試解説 20 日(日) 東京アカデミー模試
11 月		10 日(日) アカデミー保健師模試 16 日(土) 武田看護保健師模試 28 日(金) アカデミー看護師模試解説
12 月		5 日(水) アカデミー保健師模試解説 14 日(土) 武田看護保健師模試解説 24 日(木) テコム第 3 回模試
1 月		6 日(月) 7 日(火) 10 日(金) 看護師冬季集中セミナー 11 日(土) 保健師模試受験 27 日(月) 28 日(火) 看護師追加セミナー
2 月		3 日(月) 看護師追加セミナー 13 日(木) テコム第 3 回模試解説 19 日(水) 自己採点会

*1・2 年生には専門基礎力確認テストを夏季に実施予定である。

*2・3 年生には WEB システムを活用した学習を広報する

アドバイザーとの連携は、メンタル面・学習面で要フォロー学生についてアドバイザーとの情報共有とともに個人指導を依頼した。国試受験科目の決定するにあたって模擬試験の結果不良者と、何を優先すべきか話し合い11月末までに受験科目を決定するため、アドバイザーとの情報共有とともに個人指導を依頼し必要に応じて保証人を加えての面談を行ない、最終的に受験科目における「同意書」をとった。

インフルエンザ予防接種については、実習委員会で学生に周知される場所であるが、4年生後期になると4学年の実習等が少なく、そのため国試対策の一環として、インフルエンザ予防接種および体調管理について指導を行なった。

【評価】

平成22年度は、1. 学内集中講義、模擬試験およびその後のフォローアップ、小規模ゼミを国家試験対策の3本柱とした系統的な国家試験対策の実施。2. 看護リハビリテーション学部事務室の国家試験担当者との連携による諸手続きの円滑な運営等、一定の成果を出した。平成23年度は、1. 学内集中講義、模擬試験およびその後のフォローアップ、小規模ゼミを国家試験対策の3本柱とした系統的な国家試験対策の実施。2. 看護リハビリテーション学部事務室の国家試験担当者との連携による諸手続きの円滑な運営等。3. 既卒者への国家試験支援に関して理学療法学科と協議し、「既卒者国家試験支援に関する申し合わせ」を作成し、卒業後の連絡システムを整備し、これらについて一定の成果を出した。平成24年度は、1. 学内集中講義、模擬試験およびその後のフォローアップ、小規模ゼミを国家試験対策の3本柱とした系統的な国家試験対策の実施。2. 看護リハビリテーション学部事務室の国家試験担当者との連携による諸手続きの円滑な運営等。3. 既卒者への国家試験支援「既卒者国家試験支援に関する申し合わせ」に基づき、卒業後の連絡システム運営。一連の国家試験対策を再考した後、国家試験委員の役割や年間スケジュール等をマニュアル化する作業に取り組んだ。

1) 学年別取り組み

4年次生に対して、業者による学外模試2回、学内模試6回に増やし、成績返却後に毎回解説セミナーを実施することで知識の定着を図った。また、模擬試験の成績を分析し、学生個々へのフィードバックとともに、その後の国試対策の内容へと反映させた。また、8月に解剖生理を中心とした3日間の夏季セミナーを実施した。しかし、その後の模擬試験成績の伸び悩みがあったため、1月末に予定していた冬季セミナーを繰り上げ12月末に実施したことで、学生の学習動機を高めた。さらに1月中旬に学外で行なった2日間のグループ学習会が効果的だったと多数の学生から聞かれた。ボーダーゾーン学生への対応として、支援室教員による定期的な小規模ゼミを実施し指導を行なった。模擬試験の結果をアドバイザー教員に配布し、グループ全体の状況を把握してもらい、個別対応等の依頼をした。国家試験対策の一環としてインフルエンザ予防接種について学生に指導し、費用は個人負担であったが全員の接種を確認した。国家試験前および当日にインフルエンザを発症したものはなかった。

3年次生に対して、年間2回業者主催の模擬試験を受験し、成績をアドバイザーと学生に返却し、サポートを依頼した。

2年時生に対して3月に支援室教員による、基礎医学セミナーを実施し、基礎知識の強化を図った。

既卒者に対して、平成23年度、既卒者(保健師未受験者・再受験者・前期卒業生)への受験希望を確認し、受験希望者2名に受験諸手続き、模試および解説セミナーの案内を行なった。平成24年度は既卒者(保健師未受験者・再受験者・前期卒業生)への受験希望を確認し、受験希望者8名に受験諸手続き、模試および解説セミナーの案内を行なった。在学者数の増加および既卒者への対応のため、必要な予算を学科ごとに毎年計上している。

2) 種別取り組み

看護師対策に対して4年次生には全学生を対象に、本年5月から翌年2月にかけて、計10回の業者主催の模擬試験を実施している。なお、助産学専攻・総合実習および養護教諭志望のため臨地実習中で受験できない学生については、後日各自で取組み、自己判定させ、国師対策室専任教員による解説講義を実施した。国家試験直前の1月には、3日間の集中講義を対策室との連携により企画し実施した。ボーダーゾーン学生への対応は国家試験対策室専任教員を中心とした定期的な指導を行った。国家試験委員は、適宜、専任教員やアドバイザー教員との連携もと個々の学生の学習進度に応じた助言を行なった。3年次生には年間2回業者主催の模擬試験を受験し、各自の成績をアドバイザーと学生自身に後日配布し、サポートを依頼している。

保健師国家試験対策に対して看護師国家試験対策の進捗状況を個別的に把握した上で、模擬試験弱点部分の補習講義(8月:支援室専任教員による保健福祉行政論等実施。1月:公衆衛生看護学領域教員による保健医療福祉行政論および疫学)を実施した。模擬試験は3回実施し、支援室専任教員による解説講義を実施した。上記の他、地域看護学教員及び国家試験支援室教員による個別指導(弱点補強・勉強方法等の学習アドバイス)を実施した。

助産師国家試験対策に対して助産実習が9月中旬まであり、夏休み期間中の看護師国家試験模擬試験や対策セミナーに出席できない状況であった。そこで実習終了後、国家試験対策室と調整し、助産学生を対象として、10月に保健師対策を半日、看護師対策を1日行った。助産師模擬試験は学生自己負担のもと、クオリステストセンターの試験を1月に実施予定である。また、国家試験対策のワーキングノート(マリア出版部)を学生に紹介し、購入し、学習の一助としている。模擬試験結果をもとに、弱点補強を助産教員が行った。また、助産学教員より、1月に模擬試験(クオリス)を行い、その後勉強会を開催し、弱点補強を行った。数少ないが助産師国家試験対策の資料や講座の紹介を行った。

3) その他

学内で行う模擬試験の開催について、臨場感が希薄な状況を改善すべく学生が主体的に取り組めるようにサポートした(試験監督業務含む)。適宜アドバイザー教員との連携をはかり、個別学習支援を

行った。国家試験支援室との連携により、各種の学内外模擬試験・集中講義等の日程や教室確保・学生への周知等の事務作業を行った。国家試験出願～本試験及び事後対応、受験科目の決定と願書作成出願手続き等に関しての、看護学科事務室や就職委員会との役割分担が円滑に実施できるよう業務マニュアルの作成や、業務の見直しを行なった。

4) Web 学習システムの活用促進

21 年度より導入した、医学書院の国家試験問題 Web 版（看護師、保健師）の活用の促進と管理を行った。新入学生にはオリエンテーション時に利用を勧めている。特に実習前の 3 年生及び、4 年生においては、グループ学習や個別学習における利用勧奨した。

平成 23 年度の利用状況は、看護師版の利用が 1062 件、特に 6～7 月が多い状況であった。これは模擬試験対策として初期に活用されていることが考えられる。保健師版は 125 件であるが、保健師模試の前には対策として利用されていることが件数の増加から窺える。学年による利用状況は不明であるが、Web 学習システムは本格的な国家試験の対策前の低学年（1～3 年生）や 4 年生の早い時期に、実習等と平行しながら学習できるシステムとして活用され、実績となっている。

平成 24 年度の利用状況は、看護師 723 件、保健師 204 件であった。利用件数が多かった月は、看護師では、平成 24 年 2 月（196 件）、平成 23 年 7 月（131 件）、6 月（121 件）、保健師では、平成 23 年 11 月（124 件）で利用件数が多かった。Web 学習システムは模擬試験前および国家試験前に有効活用されている。

平成 25 年度の利用状況は、昨年と比べて看護師版の利用が 1121 件（昨年 1062 件）と増加しており、特に 11～12 月が多い状況であった。これは模擬試験対策として初期に活用されていることが考えられる。保健師版は 259 件（昨年度 125 件）であり、保健師模試の前には対策として利用されていることが窺える。学年による利用状況は不明であるが、Web 学習システムは本格的な国家試験の対策前の低学年（1～3 年生）や 4 年生の早い時期に、実習等と平行しながら学習できるシステムとして活用され、実績となっている。

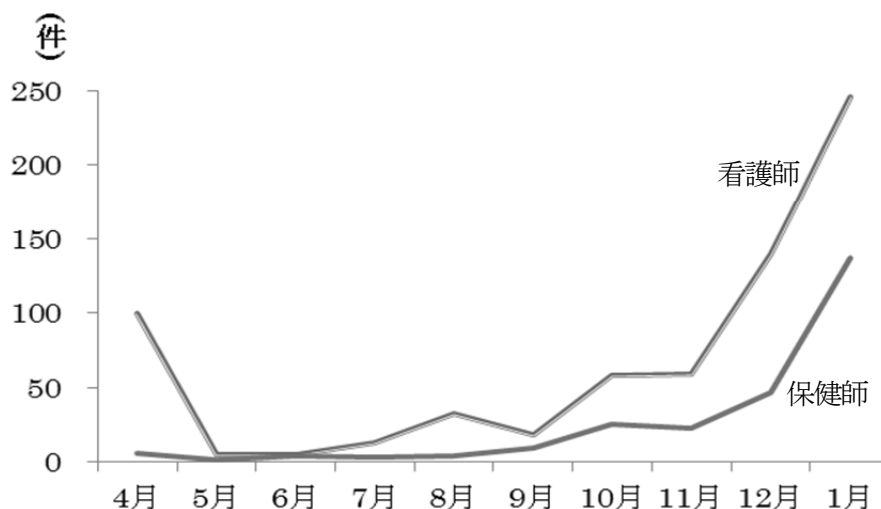


図 6-1 医学書院国家試験問題 Web 版利用状況 (2013 年度)

利用件数が多かった月は、看護師は、4月(100件)、12月(140件)、平成26年1月(246件)、保健師では、12月(47件)平成26年1月(137件)が多かった。次年度は学生数の増加により、さらなる利用が見込まれる。WEB学習システムの活用を促進するために、学生へのアナウンスを行った。

【課題】

平成22年度の課題としてあげられたのは、①学生の国家試験委員の活性化をはかり、学生が主体的に国家試験対策に取り組む体制作りへの指導を行なうこと、②平成22年度より新設された「国家試験支援室」と連携を図りながら、総合的な対応を進めていく(個別指導・集中講座は必須)こと、③事務室と連携を取りながら、国家試験に関する事務手続きをシステム化すること、④国家試験出願・試験当日、合格発表当日等の学内体制と対応に関する事項を検討すること、⑤学内講座及び学外模擬試験を学生委員とともに実施する。の5点であった。これらの課題から、平成23年度の目標は、①年間スケジュールを立てて学生に定期的に掲示する工夫を検討する。(国家試験後に必要な取組みに関するアナウンス(自己採点日や合格発表前後の対処等)②国家試験対策委員会の学生委員選出および国家試験対策に関する保証人や新入生等に説明会時の内容をより充実させる。(年1~2回の情報提供の機会を設ける等検討する)③国家試験委員としての役割(国家試験事務室・看護学科事務室との連携含む)に関するマニュアルの整備と運営を行なうこととなった。

平成23年度は、国家試験種別に教員が担当したことで役割が明確となり、集中セミナーや模擬試験等の国試対策の実施および受験までの流れを円滑に運営することができた。また、特に複数受験をする学生について各受験科目の学習進度について情報を共有し、支援方法を協議しながら進めることができた。さらに、既卒者への国家試験支援に関して、理学療法学科と協議し、「既卒者国家試験支援に関する申し合わせ」を作成し、卒業後の連絡システムを整備したことは今後の支援を円滑に進めるうえで一定の評価ができる。

平成24年度の課題としては、支援室教員、事務室、委員との定期的な合同委員会を持つことで、より学生支援の充実を図ることがあげられる。具体的な目標は①成績不良者への支援の充実、②不合格者への支援の充実、③学生増加に伴う支援方法の検討、④Web学習システムの活用促進、⑤国家試験委員役割のマニュアル整備を行うこととなった。

平成25年度の課題としては、支援室教員、事務室、委員との定期的な合同委員会を持つことで、より学生支援の充実を図ることがあげられる。具体的な目標は①成績不良者への支援の充実、②不合格者への支援の充実、③学生増加に伴う支援方法の検討、④Web学習システムの活用促進、⑤国家試験委員役割のマニュアル整備を行うこととなった。支援室教員と委員との定期的な合同委員会を持つことでより学生支援の充実を図ることができたが、事務室との合同委員会を開催することができなかつたため、次年度は目的を明確にし、実施することが課題である。また、書類の内容の再考、保管方法等を事務室と検討する課題も残った。平成25年度は、12月ごろまで成績不良者が多くその支援の検討が急務であった。成績不良者だけでなく多くの学生が指導を希望していることから、全体を減らし個別対応を増やす計画が平成26年度に必要である。

6.4.2 理学療法学科

【現状】

平成23年から25年度までの3年間における国家試験支援は、支援対象を4年生に限定し実施した。1年生から3年生までは支援の対象から除外したが(3年時三輪書店主催全国統一模擬試験受験は除く)、各専門科目・専門基礎科目の授業で国家試験を意識した授業展開を図るように、国家試験委員より各教員へ働きかけを行った。

平成25年度より国家試験支援を主に担当する、第三種特任助教が1名配置されたため、平成23年度から24年度までの2年間と平成25年度では、支援に関する内容と人的配置で若干異なる対応となった。平成23年度・24年度の家試験支援では、グループを基本とした学習方法の指導および実施、国家試験対策校による特別補習授業の実施、学科教員による各専門科目の補習授業、成績不振者に対する集中的補習授業を企画実施した。国家試験合格に必要なとされる項目の理解や知識の定着は、定期的な試験(学内模擬試験・業者主催による統一模擬試験)により成績の推移や得点状況より把握した。その他スマートフォンや携帯電話によるWebを利用した学習教材を導入することで、通学等の移動中や学外等の隙間時間を活用し、国家試験勉強ができる環境を整えて積極的な活用を促した。

平成25年度からは第三種特任助教による週3日の国家試験支援を中心に支援を実施したため、従来依頼してきた国家試験対策校による特別講義は24年をもって終了となった。これまで本学科の家試験支援では、外部の人的協力を得ながらの実施であったが、平成25年度より学内教員のみによる国家試験支援の体制が整備された。その他、学内・学外の模擬試験、学科教員による補習授業、Webによる個人学習は平成23年度・24年度と同様の内容を企画・実施した。

特任助教が採用される前の成績不振者への個別支援は、卒業研究を担当するアドバイザー教員が、それぞれのゼミ生を支援していたが、特任助教が就任したことにより、アドバイザー教員に加え特任助教の複数教員が関与することで、内容の充実した支援が実現できた。更に特任助教の就任は、成績不振者に対する集中的な支援を可能とし、平成25年12月時点では20名、平成26年1月時点で10名、2月時点で5名の学生がその対象となった。

既卒者に対しては、各既卒者の就業状況に応じ、特任助教と卒業時アドバイザー教員が成績管理と学習支援を行った。既卒者の多くは医療機関に入職しているため、秋から年末を目処に一時業務から離職する指導を行い国家試験対策の学習に専念させた。

【評価】

国家試験の支援は後期セメスターより本格的に開始し、11月下旬まではグループ学習により、知識の獲得および定着を図った。グループ学習の利点としては、膨大な試験範囲を分割することで各個人の分担量を減らしつつ広範囲の知識の共有が図れる点にある。しかしグループ内の人間関係、進捗速度などの影響で得られる成果に大きな違いの発生する危険を含んでいる。そのため、グループにおける学習の状況を常に把握し、問題解決のために早期介入が不可欠であった。12月以降もグループ学習の体制は崩さず、成績不振者への集中的な介入はグループ学習と並行しての実施となった。

平成 25 年度で 4 期生までが卒業し国家試験を受験したことになる。過去 1 期生より 4 期生までの国家試験の合格率を表 6-5 に示すが、卒業を重ねる毎に国家試験合格率の向上が認められている。平成 25 年度は現役生 1 名が不合格となったが、前年度不合格であった既卒者 1 名が合格したことで、25 年度までで卒業後に国家試験支援を受けた既卒不合格者の全員が合格の運びとなっている（支援を希望しない個人受験の既卒者は除く）。

表 6-5 理学療法士国家試験合格率の推移（単位：％）

	1 期生 (2010 年)	2 期生 (2011 年)	3 期生 (2012 年)	4 期生 (2013 年)
全国平均	74.3	82.4	88.7	83.7
校内平均	80.0	92.2	94.9	98.2

【課題】

過去 4 年間の国家試験合格率、3 年時全国統一模試の結果、4 年時の模擬試験成績推移等のデータより、国家試験支援で積極的介入を要する学生の特徴が明らかになりつつある。国家試験受験に際し、成績が向上しない学生を早期に抽出し介入することは、国家試験の合格率を高めるだけでなく、教員が積極的に介入を必要とする学生の減少につながり、自ら学び国家試験に合格するという大学としてあるべき姿が実現できると考えられる。今後継続してデータを蓄積・分析し、入試委員や教務委員とも情報を共有しつつ、効果的な国家試験支援のあり方を検討していきたい。

成績が伸びず国家試験合格の危険性が高い学生の特徴として、学習習慣が身につけていないことや、学習に取り組むための意欲が希薄であること、学習に対しての成功体験が少ないことによる本試験でのストレスを受けやすい等の特徴が明らかになってきた。これらの問題点は、早期より改善を図るための教員の関わりが必要不可欠といえる。その他、勉強に時間を費やしているものの、効率の悪い学習を行っている学生も多数認められ、対象学生の不得意分野の確認や、学習方法の具体的な指導も早期より行う必要があると考えられた。

平成 22 年度から 25 年度までは、国家試験支援で実施する統一模擬試験の経費は基本的に大学負担であった。当初は、新規開設の学科であることや、学生負担を軽減する意味も含めての企画・実施であったが、模擬試験の費用が自己負担で無いこと等で、取り組む姿勢に真剣さを欠く者の存在も一部では認められている。今後は国家試験受験を自らの問題として意識させ、真剣に取り組ませる目的で、統一模擬試験費用の自己負担率の引き上げも視野に入れ検討していきたい。

6.5 就職活動

6.5.1 看護学科

【現状】

就職委員会は、就職課との連携のもと、3 つの視点で年間計画を立て、それに沿って学生にとっての充実した就職活動の支援を実施した。

① 生涯学習者としての看護師の基盤を培うために、看護学生のキャリアデザインおよびキャリアプランの支援。

② 学生が主体的に就職活動できる支援。

③ 就職課、関係委員およびアドバイザー教員との連携。

各種事業の企画運営は、以下の7項目である。

① 学生が適切に就職活動できるように支援する（キャリアデザイン・キャリアプランシートを用いた説明、マナー講座の開催等）（図6-2, 6-3, 6-4, 6-5）。

② 卒業年次生の就職希望、就職状況の把握および就職課や関係委員会等への報告。

③ 大学の就職課と連携して職員募集施設を把握し、学生が希望施設にアクセスできるよう、学生に周知する（看護師、保健師、助産師、養護教諭および大学院や助産専攻科への進学）。

④ 職員募集のため大学を訪問する施設担当者への対応。

⑤ 国家試験対策委員との連携。

⑥ 就職試験について就職課との連携（模擬面接の案内等）。

⑦ 就職説明会における保証人への説明、個別相談。

学生の就職活動の支援は、キャリアデザイン・キャリアプランシート（図6-2, 6-3, 6-4, 6-5）の説明や記入回収、就職活動報告書作成、マナー講座の開催、オリエンテーション時に活用し行っている。卒業年次生の就職希望、就職状況および就職課や関係委員等へ報告は、進路調査を4年次前期に実施し、就職が内定したのちには決定届け（就職課管理）を学生により教員へ提出し就職委員は収集し集計し、毎年3月末には就職課へデータとして提出している。職員募集施設を就職課と連携し把握し学生への周知については、コモンルーム委員と連携し、就職資料パンフレットの有効な活用方法を考え、就職課およびコモンルームに閲覧できるよう実施している。職員募集のため大学を訪問する施設担当者への対応は、実習施設先や卒業生が就職している施設先の訪問には教員が可能な限り対応できるよう調整をはかり、事務との連携を図り対応を行った。国家試験対策委員との連携は不合格者への就職内定先都の連絡対応（アドバイザー教員との連携）について確認をしつつ、平成24年度までは不合格者がなかった。就職試験についての就職課との連携は、希望する学生について模擬面接の案内など資格サポートセンターと連携し実施しているが、年間に数名の学生が利用している。教員採用試験を受験予定の学生については教員採用試験対策講座への参加の推進、養護教諭希望学生への案内を行っているが、参加した学生はいなかった。奨学金を受けている学生の把握（就職先状況と併せての把握）については、基本的には学生と施設との契約であるため全てを把握することはできないが、相談があった場合にアドバイザーと連携し対応している。学校推薦の依頼があった場合、推薦状の検討（アドバイザー教員が記載）（複数の推薦希望のエントリーがあった際の選別方法については、該当時に検討）を行い、学生に周知してきたが、年間に1～数件の問い合わせがあるが平成25年度まで申し出てきた学生は0名である。入試課と連携し、本学卒業生の就職先のPRは、就職先の掲載やパンフレットへの原稿やインタビュー依頼に応じてきた。保証人の教育懇談会が毎年9月～10月に本学で実施されるが、就職委員から保証人への就職支援内容の報告を実施している。マナー講座は、就職に関する内

容の講座 2 つを計画し実施し、卒業生対象の社会人としてのマナー講座（2 月の国家試験自己評価日の午後に調整）および新 4 年生対象の就職活動に関するマナー講座（3 月のオリエンテーション日の午後に調整）を具体的に実施している。新 4 年生対象の就職活動に向けたマナー講座について、平成 23 年度は 9 月に 3 年生を対象に開催したが、就職活動を行うのは後期の実習後であるため、平成 24 年度より 3 年時の 3 月下旬と時期を変更し、対象者も新 4 年生と変更した。

<年間行動計画>

4 月：目標・年間計画

5 月：学校推薦等の対応

7 月：後期オリエンテーションおよび教育懇談会準備

9 月：後期学生オリエンテーション（就職活動心得、就職活動報告書配付など）

4 年生に就職内定調査用紙、就職活動報告書の配付・回収・集計

（教育懇親会開催前に国試の模試の時などを活用し配付する。）

2・3 年生にキャリア支援のためのワークシート

教育懇親会

11 月：内定状況の把握

12 月：内定が未定の学生への対応等

2 月：卒業生対象の社会人としてのマナー講座（国家試験自己評価日の午後に調整）

進路決定届けの配布・回収・集計

国家試験不合格の場合の説明

3 月：新 4 年生対象の就職活動に関するマナー講座（3 月のオリエンテーション日の午後に調整）

前期学生オリエンテーション

新 4 年生へのオリエンテーション（キャリアワークシート・進路調査票・内定時の手紙・

就職活動報告書・キャリアワークシート書類配付、就職内定時の注意事項など）

教員への就職決定先の配付（国試の可否も踏まえて）

新 2, 3, 4 年次生へキャリアワークシートの配布

【評価】

1) 就職状況

平成 23 年度卒業予定者の就職内定率は 100%であった。その内訳は、看護師 55 名 (90.1%)、助産師 4 名 (6.6%)、養護教諭 2 名 (3.3%)、保健師 0 名であった。300 床以上の大規模病院への就職は 53 名 (89.8%) であった。

平成 24 年度卒業予定者の就職内定率は 100%であった。内訳は、看護師 65 名 (93%)、保健師 2 名 (3%)、助産師 1 名 (1%)、養護教諭 2 名 (3%)。公私別では公立 28 名、私立 42 名。300 床以上の病院は 61 名 (87%)。県内 34 名 (49%)、県外 36 名 (51%) であった。

平成 25 年度卒業予定者 84 名の就職内定者（進学者含む）は、82 名（97.6%）で、就職希望者の内定率は 100%であった。内訳は、看護師 72 名（87.8%）、保健師 2 名（2.4%）、助産師 5 名（6.1%）、進学（助産科）1 名（1.2%）、留学 1 名（1.2%）、自営業 1 名（1.2%）であった。看護師、保健師、助産師の計 79 名（100%）の就職先は、公私別では公立 45 名（57.0%）、私立 34 名（43.0%）であり、県内 37 名（46.8%）、県外 42 名（53.2%）であった。看護師、助産師の計 77 名（100%）のうち 73 名（94.8%）が 300 床以上の病院に就職した。

2) 活動

平成 23 年度から平成 25 年度の就職委員会としては、就職先から学生の就職内定を得るというだけでなく、主体的かつ積極的に看護専門職としての自らのキャリアをデザインし、目的を持って進路・就職先を決めることが大切であると考え、前述した目的に沿って委員会活動を行った。

- (1) 生涯学習者としての看護師の基盤を培うために、看護学生のキャリアデザイン及びキャリアプランの支援を行う。

1 年次に「自分の探求」でキャリアデザインの必要性や目指す専門職者像が見いだせることを目的として、「キャリアデザイン・キャリアプランシート」（図 6-2, 6-3, 6-4, 6-5）を用いながら授業（「自分の探求」）を行っている。就職委員会では、その後も継続した支援が必要と考え、「キャリアプランワークシート」を作成し、各学年のオリエンテーション時にそれらを活用して就職活動できるよう支援した。取り組みから卒業生が出ていないことから評価はまだ行えていない。

- (2) 各学生が自主的に就職活動できるよう支援する。

「キャリアプランワークシート」は自分の長所や希望をまず記入するようになっている。それらを確認しながら学生が自主的に就職活動を行えるように工夫している。またワークシートは学年ごとにその項目を変えており、年次を追うごとに就職活動の実際に沿った項目を設け、徐々に目標や課題を明確化できるような工夫も行っている。

就職活動や社会人に必要なマナーを身につけることを目的にマナー講座も継続して開催している。その内容は日頃の挨拶や内定を得た際の手紙の書き方など、実際に役立つ内容であり、学生はまじめに講義に臨んでおり、就職活動の際にも、また社会人となってからも役だつものと期待できる。ただし、3 年次対象の講座が実習前に行われたため、学生は十分就職活動のイメージができないようであった。今後は開催時期を工夫する必要があると思われる。

毎年求人に関するパンフレットが多数送られてきたが、それらはコモンルームに置き学生がいつでも閲覧できるようにしたが、資料の種類や数が膨大なため、平成 25 年度はコモンルームのケースを増やしより見やすいように工夫したが、平成 26 年度以降は、就職課での閲覧お一本化を図ることにした。

- (3) 卒業年次生の就職がスムーズに行われるように、就職課・関係委員会及びアドバイザー教員との連携を図る。

就職活動状況を正確に把握するため、平成 24 年度より作成した「進路調査用紙」、「就職活動調査

用紙」、また「進路決定届」を用いながら、就職課と速やかに情報共有するなど連携に努めた。就職課からは、求人に関する情報が随時送られ、必要に応じて学科教員に情報提供、学生に向けて掲示した。就職に関する学校推薦の募集が平成24年度は2件、25年度は3件あり、学生に提示したが病院が遠方だったためか応募者はいなかった。資格サポートセンターとも連携し、養護教諭志望者に対して、学内で行われる教員採用試験対策講座の紹介を行った。平成23年度は1名が受講希望した。平成24年度と平成25年度は0名であった。

就職課に求人のために来学した病院等施設は毎年70以上の訪問があった。主に就職課、学部事務長が対応しながら、実習病院や卒業生が就職した病院などいくつかの施設の担当者には就職委員や学科教員が対応し、その中で施設が求める人材に関する情報を得たり、学科の希望を伝えることができた。

ワークシートはオリエンテーション後にアドバイザー教員に提出することとし、アドバイザー教員が学生の状況を把握しながら学生支援できるよう工夫した。また、就職に関してアドバイザー教員の指導が必要な時などに適宜連絡し、連携しながら学生を指導することができた。

就職委員が教育フェアにおいて、就職委員による学生保証人に就職内定状況など説明する機会を得た。それによって学内だけでなく、家族内においても支援してもらうことが期待できると考える。

図 6-2 キャリアデザイン・キャリアプランシート

		キャリアデザイン・キャリアプランシート(看護師コース) 甲南女子大学 看護学科 就職委員会											
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年	1. 専門職者を目指すための資料づくりの意義がわかる 2. キャリアデザインの必要性がわかる 3. 情報収集を行い、目指す専門職者像が見出せる	大学 オリエンテーション				自分の探求 (キャリアデザイン/ポートフォリオについて) ◎基礎実習 I							オリエンテーション *就職課より就職支援プログラムの紹介
	就職活動												情報収集・公務員(一般教養・論文等)対策
2年	1. 目指す専門職者像が明確化している 2. キャリアデザインがイメージできる 3. 自分なりのキャリアプランが描ける	大学 ポートフォリオ/キャリアデザインの確認 (アドバイザー/個人面談)						◎在宅実習 I				◎基礎実習 II	オリエンテーション *就職課より職種別対策・就職支援プログラムについて
	就職活動												情報収集・公務員対策
3年	1. キャリアデザインにおいて、自分なりの譲れないキーワードを見出すことができる 2. 自分なりのキャリアプランが明確化する	大学 ポートフォリオ/キャリアデザインの確認 (アドバイザー/個人面談)							◎成人・老年・精神・小児・母性看護学実習				就職希望 *就職課より公務員試験・就職支援について
	就職活動												就職説明会に
4年	1. 自分が描いたキャリアプランのもとに就職活動ができる 2. 専門職となるための条件がクリアできる。	大学 キャリアプランの確認、就職に関する個別相談 (アドバイザー/個人面談)							卒業研究				就職活動報告書
	就職活動												卒業

図 6-3 キャリアデザイン・キャリアプランシート

キャリアデザイン・キャリアプランシート(保健師コース)

甲南女子大学 看護学科 就職委員会

目標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年 1.専門課程を履修するための履修計画を作成する。 2.キャリアセンターの相談を受け、就職活動の準備を進める。 3.就職活動の準備を進め、就職活動の準備を進める。	オリエンテーション			自分の志望(キャリアセンターにて)	就職ガイダンス							オリエンテーション *就職活動の相談・就職ガイダンスの開催
2年 1.自分の専門課程を履修し、就職活動の準備を進める。 2.キャリアセンターの相談を受け、就職活動の準備を進める。												就職ガイダンス オリエンテーション *就職活動の相談・就職ガイダンスの開催
3年 1.キャリアセンターにおいて、自分の志望の職種について就職活動の準備を進める。 2.キャリアセンターの相談を受け、就職活動の準備を進める。												就職ガイダンス オリエンテーション *就職活動の相談・就職ガイダンスの開催
4年 1.自分の志望の職種について就職活動の準備を進める。 2.キャリアセンターの相談を受け、就職活動の準備を進める。												就職ガイダンス オリエンテーション *就職活動の相談・就職ガイダンスの開催

就職活動の準備を進めるためのスケジュール表。各年次ごとの目標と、それに沿った行事・活動が示されています。就職ガイダンスやオリエンテーションは、就職活動の準備を進めるための重要な機会です。

図 6-4 キャリアデザイン・キャリアプランシート

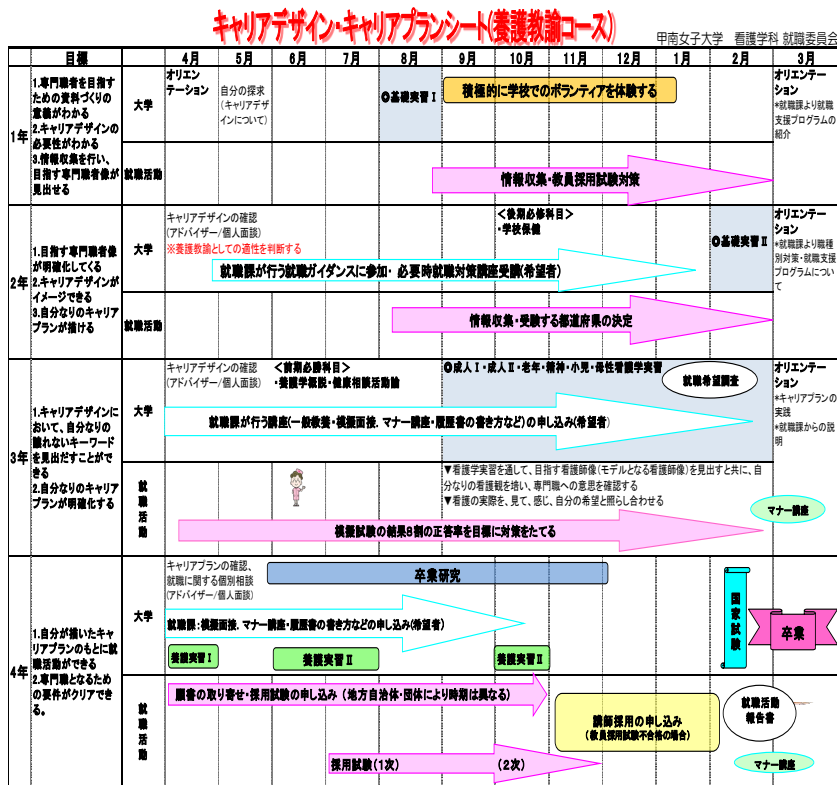
キャリアデザイン・キャリアプランシート(助産師コース)

甲南女子大学 看護学科 就職委員会

目標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年 1.専門課程を履修するための履修計画を作成する。 2.キャリアセンターの相談を受け、就職活動の準備を進める。 3.就職活動の準備を進め、就職活動の準備を進める。	オリエンテーション				就職ガイダンス							オリエンテーション *就職活動の相談・就職ガイダンスの開催
2年 1.自分の専門課程を履修し、就職活動の準備を進める。 2.キャリアセンターの相談を受け、就職活動の準備を進める。												就職ガイダンス オリエンテーション *就職活動の相談・就職ガイダンスの開催
3年 1.キャリアセンターにおいて、自分の志望の職種について就職活動の準備を進める。 2.キャリアセンターの相談を受け、就職活動の準備を進める。												就職ガイダンス オリエンテーション *就職活動の相談・就職ガイダンスの開催
4年 1.自分の志望の職種について就職活動の準備を進める。 2.キャリアセンターの相談を受け、就職活動の準備を進める。												就職ガイダンス オリエンテーション *就職活動の相談・就職ガイダンスの開催

就職活動の準備を進めるためのスケジュール表。各年次ごとの目標と、それに沿った行事・活動が示されています。就職ガイダンスやオリエンテーションは、就職活動の準備を進めるための重要な機会です。

図 6-5 キャリアデザイン・キャリアプランシート



【課題】

「キャリアデザイン・キャリアプランシート」、「キャリアプランワークシート」を作成し、2年間実施したが、学生にどのように活用されているのかを調査し、その評価をふまえてさらに有効なキャリアデザイン・プランの支援方法を検討する必要がある。

また、卒業生をこれまで4期出した。卒業後のキャリアプランにどのように変容し学生生活と現在のキャリアとどのように関係しているのか、卒業後のニーズなどを調査実施の計画を立てた。平成26年にはその調査を実施し、卒業生たちへの支援、および卒業後を見据えた学生たちへの就職支援のあり方を検討する必要がある。

6.5.2 理学療法学科

【現状】

学生の就職活動の基となる求人票を、いつでも、何処からでも閲覧できるように提示している。大学へ届いた求人票は、就職課でホームページにアップロードされ確認可能となる。また、理学療法学科コモンルームに求人票専用の掲示板を設置しており、順次掲示していくようにしている。掲示期間が終了した求人票は、地区別にファイリングし掲示板横に置いており、学生がいつでも閲覧できるようにしている。

学科に届いた求人票は、平成23年度663件、平成24年度813件、平成25年度915件であった。求

人票の送付を依頼するためにパンフレットを作成している。毎年、約5,500部を印刷し、在校生の出身都道府県を中心に、各病院・施設へ送付しているほか、教員が実習等の訪問時に部門責任者等に手渡している。その効果もあり、学科へ届く求人票は年々増加している。

就職活動のために準備しておくべきことを、1年生から3年生の前期オリエンテーション時に学生へ伝えている。4年生前期オリエンテーションでは、就職活動の手順を示し、7月下旬には就職活動マニュアルを提示し本格的な就職活動へ繋げている。相談窓口を卒業研究ゼミ担当教員とし、個別に対応しきめ細やかな活動支援を行っている。学生の就職活動の状況については、書面で報告するように義務付けており、担当教員、就職委員が把握しやすいようにしている。

保証人への説明は、入学式後の学科会、就職説明会、教育懇談会で行っており、就職説明会は学科単独で開催し、就職活動および国家試験の状況につき詳細に説明している。希望される保証人には、担当教員が個別相談を受けている。

【評価】

平成23・24・25年度において、就職希望者は国家試験不合格者を除き全員就職できている。年々求人票が増えていることもあり、多くの学生は自ら希望する病院へ就職できている。求人票が増えてきた背景には、回復期病院の増加等の要因もあるが、パンフレットの病院・施設への送付および教員が訪問時に持参しお願いしていることが挙げられる。就職委員を始めとし各教員の日々の活動による効果であると考えている。

【課題】

前述のように求人票は、年々増加しているが、平成25年度は神戸市内、阪神間の病院・施設からの求人が前年より少ない傾向にあった。2025年に向けて地域包括ケアの整備が求められており、今後は急性期医療の充実と在宅医療の充実の方向へ進むと予測される。急性期・回復期だけでなく、訪問理学療法に対応できる幅広い人材を養成する必要がある。

6.6 ハラスメントに関する保護

【現状】

本学園では人権侵害の防止に対して、「甲南女子学園ハラスメント等人権侵害防止規定運用指針」を示しており、指針に基づき具体的な対策と手続きを定めている。規定に基づき設置されたハラスメント等人権問題委員会には、本学部からは教職員3名が委員となり、委員会へ出席し申し立て案件について公正で迅速・適正な対応を協議している。委員はハラスメント等人権問題相談窓口の相談員として学生への相談に応じる役割を担っている。

学部・学科においては、委員会の周知を促すために、学部委員を含む全学の相談員を学生オリエンテーションで紹介している。また、学部内の会議において報告を行うなど教員間の啓蒙活動にも努めている。

【評価】

委員会で開催される会議の出席に努めた。委員会では、相談者の意向を十分に聴きとり、丁寧に対応することで調停に至らずに済んだケースや長期に渡り協議・対応してきた案件についても調査委員会の介入により一定の解決を図ることができた。

委員会へ毎年数件の申し立て案件があるが、本来のハラスメントとは性質上異なる要素が含まれることがあり、2013年度からリスクマネジメント委員会が設置されたことで、役割が区分され明確となった。

【課題】

学園内でのハラスメント等の人権侵害に関する理解を深め、啓蒙活動を行うことで、すべての教職員及び学生・生徒が個人として尊重され、ハラスメント等の人権侵害のない公正で安全な環境で就労・修学できることを目指す。

(1) 学生に対して

委員が相談しやすい窓口となることを意識し、学園内でのハラスメントに関する啓蒙や、学生相談窓口・学部内のハラスメント等人権問題委員会委員の存在を周知する。

(2) 学部教員への対応として

臨床では検査・治療に伴い問題となりにくい行為も、教育の段階では学生にハラスメントとして意識される危険性があることを教員間で共通認識するためのさらなる啓蒙活動を実施する。

文責：学部事務室	事務長	吉井貴子
看護学科	学生生活委員	安森由美
	コモンルーム委員	原田江梨子
	就職委員会	友田尋子
	国際交流委員会	安森由美
	国家試験対策委員	友田尋子
	ハラスメント等人権問題委員会	谷口清弥
理学療法学科	学生生活委員	瀬藤乃理子
	コモンルーム委員	竹内さをり
	就職委員会	川勝邦浩
	国際交流委員会	神沢信行
	国家試験対策委員	鈴木順一

第7章 学生による授業評価

7.1 講義・演習に関する評価

学生が授業目標を達成し、満足度の高い授業を展開するためには、様々な方法と角度から授業評価を行う必要がある。その1つとして、学生による授業評価は、実際に学生が日々行われている授業をどのように受け止めているかを把握し、授業改善のための資料とすることを目的としている。個々の授業における学生の認識を把握し、課題を明確にしたうえで学生に充実した教育を提供することは、大学の大きな責務であり、教育の質を確保するための評価として、その役割は大きい。

甲南女子大学においては、平成10年後期より全学部において実施され、その結果は各教員にフィードバックされている。看護リハビリテーション学部においても、開設年度である平成19年度から実施している。

7.1.1 評価方法

1) 調査時期および手続き

学生による授業評価は、受講者5名以上の開講科目を対象に実施している。調査時期は前期、後期ともに授業期間の最終週を目処として受講者数分の調査票がまとめて教務課から担当教員に配布され、授業時間内に配布を担当教員が実施する。対象学生には調査の趣旨と協力依頼を、口頭および書面にて提示し、無記名で実施する。調査票の回収は、対象学生に依頼し、回収した調査票は封入して、教務課に届けられる。調査は中立性を保つために、独立した部門である教務課が担当し、マークシート方式を採用し、全てのデータ入力は外部委託されている。

集計されたデータは数量化され、学部平均、全学平均とともに、担当教員にフィードバックされる。また、学内の教職員は希望すれば、担当科目以外の科目の結果を閲覧することが可能である。

2) 調査項目

調査項目は15項目あり、それぞれについて5件法で回答を得た。調査項目を表7-1に示す。

3) 授業評価科目

本学部教員が担当する各学科の専門基礎科目、専門科目について報告する。中でも複数年にわたる授業評価が得られ、経時的評価が可能な科目とし、具体的には表7-2のとおりである。

7.1.2 結果および考察

調査の集計結果とその評価について学科別、設問別に記載する（表7-3～表7-17）。

表 7-1 学生による授業評価調査用紙

質問項目	判定				
	全く そう 思わない	あまり そう 思わない	ふつ う	やや そう 思う	強く そう 思う
	1	2	3	4	5
問1・・・あなたはこの授業に遅刻や欠席をせずに受講しましたか？					
問2・・・あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか？					
問3・・・あなたは授業内容を理解できましたか？					
問4・・・あなたは授業内容に興味をもてましたか？					
問5・・・この授業科目はシラバスの内容に沿った授業内容でしたか？					
問6・・・この授業科目は授業のねらいや評価の方法が明確に示されていましたか？					
問7・・・教員は開始・終了時間を守っていましたか？					
問8・・・教員は学生の理解度を考慮しながら授業していましたか？					
問9・・・教員の板書・視聴覚教材による資料掲示・デモンストレーション等は良かったですか？					
問10・・・教員は学生に対して誠実に対応していましたか？					
問11・・・教員は私語に対して適切に対応していましたか？					
問12・・・教員の言動に不快な点はなく気持ちよく受講できましたか？					
問13・・・教員の授業に対する熱意が感じられましたか？					
問14・・・この科目を本学の後輩に勧めたいですか？					
問15・・・この科目を受講して総合的に満足していますか？					

表 7-2 平成 23 年度・平成 24 年度・平成 25 年度授業評価科目

区分	科目名	区分名	学年	前期・後期別
専門基礎科目	解剖生理学I	看護学科専攻科目	1	通年
	解剖生理学II	看護学科専攻科目	1	通年
	微生物学	看護学科専攻科目	1	後期
	医療と家族社会学	看護学科専攻科目	1	後期
	病理学	看護学科専攻科目	2	前期
	疾病・治療論I	看護学科専攻科目	2	前期
	薬理学	看護学科専攻科目	2	後期
	栄養学総論	看護学科専攻科目	2	前期
	健康と社会・環境	看護学科専攻科目	1	前期
	疫学	看護学科専攻科目	2	後期
	保健情報学	看護学科専攻科目	2	後期
	リハビリテーション概論	看護学科・理学療法学科共同	1	前期
	医療コミュニケーション論	看護学科・理学療法学科共同	1	前期
	リハビリテーション概論	理学療法学科専攻科目	1	前期
	医療コミュニケーション論	理学療法学科専攻科目	1	前期
	医療リスクマネジメント論	理学療法学科専攻科目	3	前期
	医療倫理	理学療法学科専攻科目	3	前期
	チームケア論	理学療法学科専攻科目	4	後期
	作業療法概論	理学療法学科専攻科目	1	後期
	地域ケア論(総論)	理学療法学科専攻科目	1	後期
	臨床運動学	理学療法学科専攻科目	2	後期
	人体の構造I	理学療法学科専攻科目	1	前期
	人体の構造II	理学療法学科専攻科目	1	前期
	人体の構造III	理学療法学科専攻科目	1	後期
	人体の生理機能I	理学療法学科専攻科目	1	前期
	人体の生理機能II	理学療法学科専攻科目	1	後期
	運動学入門	理学療法学科専攻科目	1	前期
	運動学I	理学療法学科専攻科目	1	後期
	運動学II	理学療法学科専攻科目	2	前期
	運動生理学	理学療法学科専攻科目	1	後期
	整形外科学	理学療法学科専攻科目	2 ^{※2}	前期
	内部障害学	理学療法学科専攻科目	2 ^{※2}	前期
	神経内科学	理学療法学科専攻科目	2	前期
	救急医学	理学療法学科専攻科目	2	後期
	精神医学	理学療法学科専攻科目	1	後期
	医学概論	理学療法学科専攻科目	1	前期
	リハビリテーション医学	理学療法学科専攻科目	1	後期
	地域ケア論(各論)	理学療法学科専攻科目	2	前期
	医療心理	理学療法学科専攻科目	3	前期
	高次脳機能障害学	理学療法学科専攻科目	3	後期

表 7-2 平成 23 年度・平成 24 年度・平成 25 年度授業評価科目(続き)

区分	科目名	区分名	学年	前期・後期別
専門科目	基礎看護援助論I	看護学科専攻科目	1	前期
	基礎看護援助論II	看護学科専攻科目	1	後期
	看護過程	看護学科専攻科目	2	後期
	看護理論	看護学科専攻科目	2	後期
	老年看護学概論	看護学科専攻科目	2	前期
	老年看護学方法論	看護学科専攻科目	3	前期
	在宅看護学概論	看護学科専攻科目	2	前期
	在宅看護学方法論I	看護学科専攻科目	2	後期
	地域看護学概論	看護学科専攻科目	2 ^{※1}	前期
	地域看護学方法論I	看護学科専攻科目	2 ^{※1}	後期
	看護学概論I	看護学科専攻科目	1	前期
	看護学概論II	看護学科専攻科目	1	前期
	精神看護学方法論	看護学科専攻科目	3	前期
	成人看護学方法論I(慢性)	看護学科専攻科目	3	前期
	成人看護学方法論II(急性)	看護学科専攻科目	3	前期
	フィジカルアセスメント	看護学科専攻科目	2	前期
	小児看護学概論	看護学科専攻科目	2	前期
	小児看護学方法論	看護学科専攻科目	3	前期
	母性看護学概論	看護学科専攻科目	2	前期
	母性看護学方法論	看護学科専攻科目	3	前期
	精神保健概論	看護学科専攻科目	2	前期
	成人看護学概論	看護学科専攻科目	2	前期
	研究方法論	看護学科専攻科目	3	前期
	基礎助産学	看護学科専攻科目	2	後期
	助産診断技術学I	看護学科専攻科目	3	前期
	学校保健	看護学科専攻科目・養護教諭選択科目	2	後期
	養護学概説	看護学科専攻科目・養護教諭選択科目	3	前期
	公衆衛生看護学概論	看護学科専攻科目	2 ^{※1}	前期
	公衆衛生看護学方法論I	看護学科専攻科目	2 ^{※1}	後期
	福祉用具・生活環境論(総論)	理学療法学科専攻科目	3	前期
	理学療法概論	理学療法学科専攻科目	1	前期
	理学療法評価学	理学療法学科専攻科目	2	前期
	運動機能障害診断学	理学療法学科専攻科目	2 ^{※2}	後期
	筋骨格障害理学療法学	理学療法学科専攻科目	2 ^{※2}	後期
	物理療法学	理学療法学科専攻科目	3 ^{※2}	前期
	脳血管障害理学療法学	理学療法学科専攻科目	2 ^{※2※3}	後期
	小児期障害理学療法学	理学療法学科専攻科目	3	後期
	スポーツ障害理学療法学	理学療法学科専攻科目	3	前期
	義肢装具学	理学療法学科専攻科目	3 ^{※2}	前期
	内部障害理学療法学	理学療法学科専攻科目	3 ^{※2}	前期
老年期障害理学療法学	理学療法学科専攻科目	3	後期	

表 7-2 平成 23 年度・平成 24 年度・平成 25 年度授業評価科目(続き)

区分	科目名	区分名	学年	前期・後期別
専門科目	神経筋障害理学療法学	理学療法学科専攻科目	3	後期
	脊髄障害理学療法学	理学療法学科専攻科目	3	後期
	理学療法行動科学	理学療法学科専攻科目	3	後期
	原書講読	理学療法学科専攻科目	3	前期
	日常生活動作学	理学療法学科専攻科目	3	前期
	理学療法技術特論	理学療法学科専攻科目	4	後期
	基礎運動療法学	理学療法学科専攻科目	2	前期
	地域理学療法学	理学療法学科専攻科目	2	後期
	福祉用具・生活環境論(各論)	理学療法学科専攻科目	3	後期

- ※1 地域看護学概論、地域看護学方法論Ⅱは、平成 25 年度は公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学方法論Ⅰと名称変更した。
- ※2 整形外科学、内部障害学、運動機能障害診断学、筋骨格障害理学療法学、物理療法学、脳血管障害理学療法学、義肢装具学、内部障害理学療法学は、平成 24 年度以降は、各科目ⅠとⅡに分かれて開講している。本評価では、平成 24 年度評価には各科目Ⅰを用いた。
- ※3 平成 24 年度以降は、脳血管障害理学療法学Ⅰが 2 年次後期、脳血管障害理学療法学Ⅱが 3 年次前期にそれぞれ開講となっている。

7.1.2.1 看護学科

表 7-3～表 7-17 のとおりである。

【現状】

(1) 学生の出席状況 (表 7-3)

授業に遅刻や欠席をせずに受講しましたか?の設問に対して、平成 23 年度、24 年度、平成 25 年度ともにすべての科目において 90%以上の学生から「ふつう」～肯定的評価(「ややそう思う」「強くそう思う」という評価が得られており、学生は概ね真面目に授業に出席したと認識している。平成 23 年度の科目平均点が 3 点代のものが 2 科目あった。しかし、その後、平成 24 年度、平成 25 年度と年度ごとに科目平均点 3 点代が減少しており、平成 24 年度・平成 25 年度はすべての科目平均点が 4.0 以上であった。

(2) 学生の授業への取り組み (表 7-4)

あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか?の設問に対して、いずれの年度においても 80%以上の学生から「ふつう」～肯定的評価が得られている。平成 24 年度は 1 科目を除くと 90%以上、平成 25 年度は 2 科目を除くと 90%以上の学生から「ふつう」～肯定的評価が得られている。平成 23 年度の科目平均点が 3 点代のものが 12 科目あった。しかし、平成 24 年度は 2 科目、平成 25 年度 7 科目となっている。

(3) 授業内容の理解 (表 7-5)

あなたは授業内容を理解できましたか?という設問に対して、平成 23 年度は 70%以上の学生から「ふつう」～肯定的評価が得られており、「全くそう思わない」「あまりそう思わない」という否定的評価をした者が数%～30%程度見られる。平成 24 年度、平成 25 年度は否定的評価をした者は数%～20%以内に減少している。学生が理解困難と回答している科目は専門基礎科目に多い傾向がある。ま

た、科目平均点についても、3点代の科目が平成23年度は21科目あったのに対して、平成24年度12科目、平成25年度15科目となっている。

(4) 授業内容への興味 (表7-6)

あなたは授業内容に興味がありましたか？という設問に対して、平成23年度は70%以上の学生から「ふつう」～肯定的評価が得られており、「全くそう思わない」「あまりそう思わない」という否定的評価をした者が数%～30%程度見られる。そのうち10%以上の者が否定的評価をした科目が12科目あった。平成24年度は、否定的評価をした者は数%～15%程度で、10%以上の者が否定的評価をした科目は5科目あった。平成25年度は、否定的評価をした者は数%～20%程度で、10%以上の者が否定的評価をした科目は5科目であった。

(5) シラバスの内容に沿った授業内容か (表7-7)

この授業科目はシラバスの内容に沿った授業内容でしたか？という設問に対して、平成23年度、平成24年度は1科目を除いて90%以上の学生から「ふつう」～肯定的評価が得られた。平成25年度は、すべての科目において90%以上の学生から「ふつう」～肯定的評価が得られた。また、平成23年度は科目平均得点3点代の科目が11科目あったが、平成24年度は2科目、平成25年度はすべての科目が4点以上であった。

(6) 授業のねらいや評価方法の明確性 (表7-8)

この授業科目は授業のねらいや評価の方法が明確に示されていましたか？という設問に対して、平成23年度は「全くそう思わない」、「あまりそう思わない」という否定的評価が数%から17%程度あり、10%を超える科目が3科目あった。平成24年度は、否定的評価が数%から15%程度あり、10%を超える科目が2科目あった。平成25年度は、否定的評価が数%から16%程度あり、10%を超える科目が4科目あった。科目平均点が3点代の科目は、平成23年度13科目、平成24年度4科目、平成25年度11科目であった。

(7) 授業の開始・終了時間 (表7-9)

教員は開始・終了時間を守っていましたか？という設問に対して、平成23年度は2科目を除いて、平成24年度はすべての科目で、平成25年度は1科目を除いて「全くそう思わない」、「あまりそう思わない」という否定的評価が10%以下であり、概ね教員は開始・終了時間を守って授業を行っている。科目平均点については、平成23年度3点代・2点代の科目が6科目あったが、平成24年度はすべての科目が4点以上に上昇した。しかし、平成25年度には3科目が3点代と下降している。科目平均点が3点代、2点代の科目は概ね専門科目である。

(8) 学生の理解度への考慮 (表7-10)

教員は学生の理解度を考慮しながら授業をしていましたか？という設問に対して、平成23年度は「全くそう思わない」、「あまりそう思わない」という否定的評価が数%から25%程度あり、10%を超える科目が9科目あった。平成24年度は、否定的評価が数%から20%程度あり、10%を超える科目が4科目あった。平成25年度は、否定的評価が数%から16%程度あり、10%を超える科目が3科目あった。科目平均点が3点代、2点代の科目は、平成23年度20科目、平成24年度9科目、平成25

年度 12 科目であった。

(9) 教材の適切な使用 (表 7-11)

教員の板書・視聴覚教材による資料掲示・デモンストレーション等は良かったですか?という設問に対して、平成 23 年度は 5 科目を除き、「ふつう」～肯定的評価が 80%以上を占めている。平成 24 年度はこの 5 科目すべてに改善傾向が見られた。また平成 25 年度専門科目においては 2 科目を除き、「ふつう」～肯定的評価が 80%以上を占めた。

(10) 教員の誠実な対応 (表 7-12)

教員は学生に対して誠実に対応していましたか?という設問に対して、すべての年度において「ふつう」～肯定的評価が 80%以上を占めた。平成 23 年度は「全くそう思わない」、「あまりそう思わない」という否定的評価が 10%以上の科目は 5 科目あり、そのいずれの科目も次年度評価は改善傾向が見られた。平成 24 年度の否定的評価が 10%以上の科目は 2 科目、平成 25 年度は 4 科目であった。10%以上の否定的評価を受けた科目は、概ね専門科目であった。

(11) 私語への対応(表 7-13)

教員は私語に対して適切に対応していましたか?という設問に対して、すべての年度において「ふつう」～肯定的評価が 80%以上を占めた。そのいずれの科目も次年度評価は改善傾向が見られた。平成 25 年度は、1 科目を除き「ふつう」～肯定的評価が 90%以上を占めた。

(12) 教員の言動 (表 7-14)

教員の言動に不快な点はなく気持ちよく受講できましたか?という設問に対して、平成 23 年度は「ふつう」～肯定的評価が 70%以上を占めた。平成 24 年度、平成 25 年度は「ふつう」～肯定的評価が 80%以上を占めた。「思わない」、「あまりそう思わない」という否定的評価が平成 23 年度は 43 科目中 31 科目に、平成 24 年度は 37 科目にあった。平成 25 年度は、45 科目中 33 科目に否定的評価があった。3 年間評価の改善が見られない科目もあり、教員全てが周知して改善する必要がある。

(13) 教員の熱意 (表 7-15)

教員の授業に対する熱意が感じられましたか?という設問に対して、平成 23 年度は「ふつう」～肯定的評価が 80%以上を占めた。平成 24 年度は 1 科目を除いて 90%以上を占めており、平成 25 年度はすべての科目において 90%以上を占めた。さらに、科目平均点でも、平成 23 年度は 3 点代科目が 10 科目あったが、平成 24 年度、平成 25 年度にはすべての科目が 4 点代であった。

(14) 本学の後輩に勧めたいか (表 7-16)

この科目を本学の後輩に勧めたいですか?という設問に対して、平成 23 年度は「ふつう」～肯定的評価が 2 科目を除いて 80%以上を占めた。平成 24 年度、平成 25 年度はすべての科目で 80%以上であった。

(15) 総合的満足度 (表 7-17)

この科目を受講して総合的に満足していますか?という設問に対して、平成 23 年度は「ふつう」～肯定的評価が 1 科目を除いて 80%以上を占めた。80%に満たなかった 1 科目は、次年度以降評価の改善が見られ、平成 24 年度、平成 25 年度はすべての科目で 80%以上であった。

【評価】

(1) 評価方法の妥当性

授業評価の目的・方法については、教務課から渡された紙面に基づき、各授業担当教員がクラスで説明し、実施している。また調査票の冒頭にその目的も示されている。調査は無記名であり、調査直後の回収は学生自身で行うことから、匿名性が確保され、強制的でないという点では配慮されている。

マークシート方式、15項目、5件法での回答は学生にとって負担感も少なく、授業時に回答を得ているので、回収率も比較的高く、ほぼ妥当であると考えられる。しかし、結果は調査に協力した学生のみでの回答であるため、学生全体の評価を反映しているものではない。また、調査当日欠席の学生に対して、回答する機会が与えられないことは平等性に欠ける面もある。教科科目によっては、授業評価が回収されていない科目がいくつかあり、すべての科目評価になっていない。方法を検討し、取りこぼしのないよう考慮する必要がある。

(2) 結果の反映

集計した結果は教員に個別に返却されている。その結果を次年度の授業に反映すべく各教員は取り組んでいるが、内容は定かでない。また他の教員の授業評価については、希望すれば閲覧できるが、積極的に公開されているわけではない。そして評価活動全般における検討は全学規模では行われていない。本報告書では3年分の結果の比較から、教員側の評価（質問5～13）においては授業改善がなされた傾向を読み取れた。学生を尊重した授業運営は基より、特に教員の授業に対する熱意では高い評価を得ている。学生側の評価（質問1～4）についても、学生の授業への意欲・興味・理解といった面で良い変化も見受けられるが、科目によって意欲や理解の差がある。特に低学年の学生が「理解できない」「興味が持てない」と数多く回答した科目も複数見られたことは、今後さらに専門科目を積み上げる上では見過ごすことのできない事実であることを各教員が認識し、学生の視点に立ち、当該科目だけでなく関連する多くの科目において、専門職者になるための基礎教育のあり方についての議論と教授方法の工夫を共有するなどの改善に向けた取り組みをしなければならない。

【課題】

(1) 評価方法についての課題

平成23年度から質問項目が15項目に増えている。しかし、教室や学習環境についての設問が含まれていないこともあり、項目の見直しも必要と考えられる。具体的な改善に活かせるような設問かについて各教員からの意見も聴取すると良いと考える。

調査方法については、他大学の例をみると、ウェブによる回答を得る大学も増えてきているようで、入力作業、配布回収等の労力を考えると今後はその検討も必要である。また、調査結果については学生に示されておらず、大学によっては、学生評価で得られた結果に対する教員からのコメントを公示しているところもあり、今後はそのようなシステムも考慮する必要がある。

(2) 授業に対する教員の課題

3年間の評価結果から、授業に対する教員の意識の変化が窺えた。しかし、一部の教科においては

改善傾向の見られない科目もあった。各教員の担当科目をそれぞれの教員が個人的努力によって教育改善するだけでなく、学科および全学をあげての評価活動への取り組みが必要である。

大学全体、あるいは学部・学科での教育改善に活かせるようなシステム作りと同時に各教員が自律的に授業改善に取り組むべく、授業評価の意義の再確認を徹底し、全学部的に認知する努力が必要である。

看護

表-7-3 問1 あなたはこの授業に遅刻や欠席をせずに受講しましたか？

A: 強く思う B: やや思う C: ぶつ D: あまり思わない E: 全く思わない (単位: %)

科目 コード	平成23年度							平成24年度							平成25年度						
	平均 得点	回答率					平均 得点	回答率					平均 得点	回答率							
		A	B	C	D	E		A	B	C	D	E		A	B	C	D	E			
D0001	4.66	79.0	10.0	9.0	2.0	0.0	4.33	55.4	29.3	8.7	5.4	1.1	4.77	78.9	18.9	2.1	0.0	0.0			
D0002	4.56	71.3	18.5	5.6	3.7	0.9	4.40	57.1	26.4	15.4	1.1	0.0	4.83	83.3	16.7	0.0	0.0	0.0			
D0003	4.35	61.9	17.1	17.1	1.9	1.9	4.36	62.2	16.7	15.6	5.6	0.0	4.56	66.3	23.2	10.5	0.0	0.0			
D0004	4.77	84.7	11.3	1.7	1.1	1.1	4.64	80.5	10.4	3.9	3.2	1.9	4.90	94.4	2.2	2.2	1.1	0.0			
D0005	4.67	80.4	7.6	10.9	1.1	0.0	4.65	76.3	13.8	8.8	1.3	0.0	4.84	86.8	9.9	3.3	0.0	0.0			
D0005-2	4.79	87.6	7.9	1.1	2.2	1.1	4.60	67.9	25.0	6.0	1.2	0.0	4.83	85.1	12.6	2.3	0.0	0.0			
D0006	4.41	61.1	20.4	16.7	1.9	0.0	4.68	77.4	15.1	5.7	1.9	0.0	4.49	65.6	18.8	14.9	0.6	0.0			
D0007	4.81	83.1	14.3	2.6	0.0	0.0	4.71	76.1	18.5	5.4	0.0	0.0	4.62	75.0	13.1	10.7	1.2	0.0			
D0008	4.81	84.8	11.4	3.8	0.0	0.0	4.80	86.9	6.5	6.5	0.0	0.0	4.76	81.6	12.6	5.7	0.0	0.0			
D0012	4.59	71.9	15.6	12.5	0.0	0.0	4.62	71.7	18.2	10.1	0.0	0.0	4.69	77.6	14.1	8.2	0.0	0.0			
D0013	4.71	80.3	12.0	7.0	0.0	0.7	4.78	85.1	10.4	3.0	0.7	0.7	4.71	83.9	6.5	7.1	1.9	0.6			
D0014	4.63	74.8	15.5	8.7	0.0	1.0	4.57	70.5	19.3	8.0	1.1	1.1	4.52	64.3	24.5	10.2	1.0	0.0			
D0015	4.57	68.9	20.3	9.5	1.4	0.0	4.70	79.0	14.3	4.8	1.9	0.0	4.59	77.5	5.0	16.3	1.3	0.0			
D0017	4.83	87.5	8.3	4.2	0.0	0.0	4.56	68.3	19.2	12.5	0.0	0.0	4.64	76.2	11.9	11.9	0.0	0.0			
D0032	4.44	63.9	19.4	13.9	2.8	0.0	4.53	66.7	22.2	8.6	2.5	0.0	4.66	71.4	22.9	5.7	0.0	0.0			
D0032-2	4.53	69.9	15.1	13.7	1.4	0.0	4.51	63.3	26.5	8.2	2.0	0.0	4.64	72.2	19.4	8.3	0.0	0.0			
D0102	4.86	88.0	10.2	1.9	0.0	0.0	4.87	91.3	4.3	4.3	0.0	0.0	4.82	89.6	5.7	2.8	0.9	0.9			
D0103	4.85	88.6	7.6	3.8	0.0	0.0	4.75	83.1	11.2	3.4	2.2	0.0	4.87	89.6	9.4	0.0	0.0	0.9			
D0105	4.67	77.4	13.1	8.3	1.2	0.0	4.53	68.0	21.4	7.8	1.9	1.0	4.69	77.1	14.5	8.4	0.0	0.0			
D0107	4.58	71.8	18.8	5.9	2.4	1.2	4.77	84.5	8.7	5.8	1.0	0.0	4.55	69.5	17.1	12.2	1.2	0.0			
D0110	4.69	78.8	11.3	10.0	0.0	0.0	4.57	72.0	13.0	15.0	0.0	0.0	4.48	68.6	11.6	18.6	1.2	0.0			
D0111	4.16	45.5	28.3	23.2	3.0	0.0	4.45	62.1	22.7	13.6	1.5	0.0	4.39	56.3	26.6	17.2	0.0	0.0			
D0113	4.76	84.9	7.0	7.0	1.2	0.0	4.60	72.3	16.0	10.6	1.1	0.0	4.15	51.9	22.2	14.8	11.1	0.0			
D0114	4.68	75.0	17.5	7.5	0.0	0.0	4.58	71.8	16.5	9.7	1.9	0.0	4.59	70.9	17.7	11.4	0.0	0.0			
D0118	4.57	68.8	19.5	11.7	0.0	0.0	4.74	79.4	16.8	2.8	0.0	0.9									
D0119	4.47	68.4	17.1	10.5	1.3	2.6	4.74	79.4	15.5	5.2	0.0	0.0									
D0123	4.92	93.2	5.8	1.0	0.0	0.0	4.82	87.4	9.5	2.1	0.0	1.1	4.90	91.3	7.7	1.0	0.0	0.0			
D0124	4.70	78.3	13.2	8.5	0.0	0.0	4.65	75.0	18.5	3.3	3.3	0.0	4.74	77.1	20.0	2.9	0.0	0.0			
D0202	4.52	60.9	30.4	8.7	0.0	0.0	4.65	74.6	15.9	9.5	0.0	0.0	4.75	82.1	10.5	7.4	0.0	0.0			
D0205	4.37	55.0	26.6	18.3	0.0	0.0	4.47	61.4	24.3	14.3	0.0	0.0	4.62	73.9	14.1	12.0	0.0	0.0			
D0206	4.43	59.0	25.0	16.0	0.0	0.0	4.55	67.5	22.1	9.1	0.0	1.3	4.71	78.2	14.9	6.9	0.0	0.0			
D0207	4.80	83.8	12.5	3.8	0.0	0.0	4.71	80.4	12.1	5.6	1.9	0.0									
D0210	4.65	75.0	15.0	10.0	0.0	0.0	4.72	82.2	11.2	4.7	0.0	1.9	4.64	76.7	12.8	8.1	2.3	0.0			
D0211	4.31	53.1	25.5	20.4	1.0	0.0	4.81	90.3	0.0	9.7	0.0	0.0	4.67	77.0	13.0	10.0	0.0	0.0			
D0213	4.65	76.9	12.8	9.0	1.3	0.0	4.68	77.8	14.1	6.1	2.0	0.0	4.81	87.6	6.7	4.5	1.1	0.0			
D0214	4.54	66.7	20.7	12.6	0.0	0.0	4.69	76.3	17.5	5.0	1.3	0.0	4.76	81.7	12.5	5.8	0.0	0.0			
D0216	4.83	85.4	12.2	2.4	0.0	0.0	4.71	77.2	16.8	5.9	0.0	0.0	4.80	87.4	5.7	6.9	0.0	0.0			
D0217	4.65	79.0	7.4	13.6	0.0	0.0	4.63	75.0	15.4	7.7	1.9	0.0	4.55	72.7	11.4	13.6	2.3	0.0			
D0301	4.28	54.1	23.5	18.4	4.1	0.0	4.21	56.3	15.0	23.8	3.8	1.3	4.37	62.9	14.3	20.0	2.9	0.0			
D0401	4.81	82.7	15.4	1.9	0.0	0.0	4.71	81.0	11.9	4.8	2.4	0.0	4.88	87.5	12.5	0.0	0.0	0.0			
D0402	4.77	87.1	6.5	3.2	3.2	0.0	4.64	76.0	12.0	12.0	0.0	0.0	4.74	78.3	17.4	4.3	0.0	0.0			
D0501	3.83	31.0	37.9	17.2	10.3	3.4	4.56	72.0	12.0	16.0	0.0	0.0	4.82	88.2	5.9	5.9	0.0	0.0			
D0502	3.93	28.6	35.7	35.7	0.0	0.0	4.19	42.9	33.3	23.8	0.0	0.0	4.62	71.4	19.0	9.5	0.0	0.0			
D0134													4.41	60.2	22.9	15.7	0.0	1.2			
D0135													4.67	75.9	15.7	8.4	0.0	0.0			

看護

表-7-4 問2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか？

A: 強く思う

B: やや思う

C: ぶつ

D: あまり思わない

E: 全く思わない

(単位: %)

科目 コード	平成23年度						平成24年度						平成25年度					
	平均 得点	回答率					平均 得点	回答率					平均 得点	回答率				
		A	B	C	D	E		A	B	C	D	E		A	B	C	D	E
D0001	4.54	62.0	30.0	8.0	0.0	0.0	4.21	44.6	32.6	21.7	1.1	0.0	4.65	70.5	25.3	3.2	1.1	0.0
D0002	4.10	39.8	36.1	19.4	3.7	0.9	4.48	62.2	24.4	12.2	1.1	0.0	4.69	72.6	23.8	3.6	0.0	0.0
D0003	3.72	27.6	27.6	35.2	8.6	1.0	4.50	63.3	23.3	13.3	0.0	0.0	4.25	46.3	36.8	12.6	4.2	0.0
D0004	3.63	14.8	37.5	43.2	4.5	0.0	4.25	42.2	40.3	17.5	0.0	0.0	3.41	10.6	34.4	42.2	10.6	2.2
D0005	4.41	53.3	34.8	12.0	0.0	0.0	4.63	71.3	20.0	8.8	0.0	0.0	4.72	77.2	17.4	5.4	0.0	0.0
D0005-2	4.55	64.0	27.0	9.0	0.0	0.0	4.68	75.0	17.9	7.1	0.0	0.0	4.70	75.0	20.5	4.5	0.0	0.0
D0006	3.56	24.1	24.1	38.9	10.2	2.8	3.77	34.0	24.5	26.4	15.1	0.0	3.63	22.7	30.5	36.4	7.8	2.6
D0007	4.64	71.4	20.8	7.8	0.0	0.0	4.37	53.3	34.8	9.8	0.0	2.2	4.50	70.2	11.9	15.5	2.4	0.0
D0008	4.62	70.9	20.3	8.9	0.0	0.0	4.50	63.6	22.4	14.0	0.0	0.0	4.55	69.0	18.4	11.5	1.1	0.0
D0012	4.11	48.4	15.6	34.4	1.6	0.0	4.36	58.6	20.2	20.2	1.0	0.0	4.12	45.9	27.1	20.0	7.1	0.0
D0013	3.77	28.9	28.2	36.6	4.2	2.1	4.41	53.0	35.1	11.9	0.0	0.0	4.06	39.4	31.6	25.8	2.6	0.6
D0014	3.70	33.0	22.3	30.1	10.7	3.9	4.16	53.4	17.0	23.9	3.4	2.3	3.87	30.6	30.6	33.7	5.1	0.0
D0015	4.12	37.8	39.2	20.3	2.7	0.0	4.31	53.3	29.5	13.3	2.9	1.0	4.24	57.0	16.5	21.5	3.8	1.3
D0017	4.50	66.7	20.8	8.3	4.2	0.0	4.58	63.5	30.8	5.8	0.0	0.0	4.36	56.0	25.0	17.9	1.2	0.0
D0032	4.27	49.1	29.6	20.4	0.9	0.0	4.63	70.0	22.5	7.5	0.0	0.0	4.54	61.9	30.5	7.6	0.0	0.0
D0032-2	4.32	52.1	28.8	17.8	1.4	0.0	4.31	44.9	40.8	14.3	0.0	0.0	4.32	51.4	29.2	19.4	0.0	0.0
D0102	4.75	75.9	23.1	0.9	0.0	0.0	4.78	83.7	10.9	5.4	0.0	0.0	4.77	84.9	10.4	2.8	0.9	0.9
D0103	4.59	64.8	30.5	3.8	1.0	0.0	4.68	75.0	18.2	6.8	0.0	0.0	4.76	82.1	15.1	0.9	0.9	0.9
D0105	4.57	66.7	23.8	9.5	0.0	0.0	4.63	69.9	23.3	6.8	0.0	0.0	4.46	59.0	27.7	13.3	0.0	0.0
D0107	4.36	48.2	40.0	11.8	0.0	0.0	4.57	64.1	29.1	6.8	0.0	0.0	4.24	42.7	40.2	15.9	1.2	0.0
D0110	3.85	30.0	28.8	37.5	3.8	0.0	4.11	40.0	32.0	27.0	1.0	0.0	3.92	39.5	22.1	29.1	9.3	0.0
D0111	3.75	21.2	35.4	40.4	3.0	0.0	4.38	53.0	31.8	15.2	0.0	0.0	4.16	39.1	37.5	23.4	0.0	0.0
D0113	3.62	20.9	32.6	36.0	8.1	2.3	4.14	42.6	30.9	24.5	2.1	0.0	3.99	40.7	23.5	29.6	6.2	0.0
D0114	4.38	51.3	35.0	13.8	0.0	0.0	4.47	59.2	29.1	10.7	1.0	0.0	4.20	46.8	29.1	21.5	2.5	0.0
D0118	4.09	40.3	33.8	22.1	2.6	1.3	4.20	42.1	37.4	19.6	0.0	0.9						
D0119	4.09	39.5	35.5	22.4	0.0	2.6	4.43	54.2	34.4	11.5	0.0	0.0						
D0123	4.55	57.3	40.8	1.9	0.0	0.0	4.75	81.1	13.7	4.2	1.1	0.0	4.63	69.2	26.0	3.8	1.0	0.0
D0124	4.24	47.2	31.1	20.8	0.0	0.9	4.60	68.5	22.8	8.7	0.0	0.0	4.60	66.7	26.7	6.7	0.0	0.0
D0202	4.14	35.9	42.4	21.7	0.0	0.0	4.29	44.4	41.3	12.7	1.6	0.0	4.44	57.9	29.5	11.6	1.1	0.0
D0205	4.09	34.9	39.4	25.7	0.0	0.0	4.21	45.7	31.4	21.4	1.4	0.0	4.32	47.8	35.9	16.3	0.0	0.0
D0206	4.26	41.0	44.0	15.0	0.0	0.0	4.52	63.6	27.3	7.8	0.0	1.3	4.41	53.5	34.7	10.9	1.0	0.0
D0207	4.59	63.8	31.3	5.0	0.0	0.0	4.45	59.0	27.6	12.4	1.0	0.0						
D0210	4.40	58.8	25.0	15.0	0.0	1.3	4.38	55.1	31.8	11.2	0.0	1.9	4.21	51.2	25.6	17.4	4.7	1.2
D0211	3.85	22.4	41.8	33.7	2.0	0.0	4.13	54.8	16.1	19.4	6.5	3.2	4.45	56.0	33.0	11.0	0.0	0.0
D0213	4.56	66.7	23.1	10.3	0.0	0.0	4.70	77.8	16.2	4.0	2.0	0.0	4.65	70.8	23.6	5.6	0.0	0.0
D0214	4.29	49.4	29.9	20.7	0.0	0.0	4.56	68.8	18.8	12.5	0.0	0.0	4.51	60.6	29.8	9.6	0.0	0.0
D0216	4.44	54.9	34.1	11.0	0.0	0.0	4.63	71.3	20.8	7.9	0.0	0.0	4.60	70.1	19.5	10.3	0.0	0.0
D0217	4.36	58.0	19.8	22.2	0.0	0.0	4.47	58.7	29.8	11.5	0.0	0.0	3.99	36.4	31.8	26.1	5.7	0.0
D0301	3.56	15.3	31.6	46.9	6.1	0.0	4.09	40.0	28.8	31.3	0.0	0.0	3.95	34.3	31.4	29.5	4.8	0.0
D0401	4.33	48.1	38.5	11.5	1.9	0.0	4.76	78.6	19.0	2.4	0.0	0.0	4.58	70.8	16.7	12.5	0.0	0.0
D0402	4.16	41.9	35.5	19.4	3.2	0.0	4.48	60.0	28.0	12.0	0.0	0.0	4.65	65.2	34.8	0.0	0.0	0.0
D0501	3.45	20.7	20.7	44.8	10.3	3.4	4.52	68.0	16.0	16.0	0.0	0.0	4.76	82.4	11.8	5.9	0.0	0.0
D0502	3.36	7.1	28.6	57.1	7.1	0.0	3.86	38.1	19.0	33.3	9.5	0.0	4.05	38.1	33.3	23.8	4.8	0.0
D0134													4.22	51.8	22.9	21.7	2.4	1.2
D0135													4.47	57.8	31.3	10.8	0.0	0.0

看護

表-7-5 問3 あなたは授業内容を理解できましたか？

A:強く思う B:ややそう思う C:ふつう D:あまり思わない E:全く思わない (単位:%)

科目 コード	平成23年度						平成24年度						平成25年度						
	平均 得点	回答率					平均 得点	回答率					平均 得点	回答率					
		A	B	C	D	E		A	B	C	D	E		A	B	C	D	E	
専門 基礎 科目	D0001	4.03	36.0	35.0	25.0	4.0	0.0	3.93	31.5	38.0	25.0	3.3	2.2	4.43	55.8	33.7	8.4	2.1	0.0
	D0002	4.08	36.4	38.3	23.4	0.9	0.9	4.19	49.5	27.5	16.5	5.5	1.1	4.58	64.3	29.8	6.0	0.0	0.0
	D0003	3.59	21.0	32.4	31.4	15.2	0.0	4.06	41.1	27.8	26.7	4.4	0.0	4.11	38.9	35.8	23.2	1.1	1.1
	D0004	3.39	5.1	39.0	46.9	7.9	1.1	3.58	12.4	39.9	41.2	6.5	0.0	3.28	8.3	30.0	45.6	13.9	2.2
	D0005	4.48	60.9	26.1	13.0	0.0	0.0	4.54	60.0	33.8	6.3	0.0	0.0	4.68	73.9	20.7	5.4	0.0	0.0
	D0005-2	4.43	52.8	37.1	10.1	0.0	0.0	4.62	66.7	28.6	4.8	0.0	0.0	4.65	71.6	21.6	6.8	0.0	0.0
	D0006	3.47	19.4	27.8	36.1	13.9	2.8	3.77	30.2	30.2	26.4	13.2	0.0	3.52	21.4	26.6	38.3	9.7	3.9
	D0007	4.51	61.0	28.6	10.4	0.0	0.0	4.32	46.7	40.2	12.0	0.0	1.1	4.46	66.7	15.5	15.5	2.4	0.0
	D0008	4.33	55.7	22.8	20.3	1.3	0.0	4.22	43.9	34.6	21.5	0.0	0.0	4.38	58.1	24.4	15.1	2.3	0.0
	D0012	3.83	37.5	18.8	34.4	7.8	1.6	4.04	34.3	38.8	23.9	2.2	0.7	3.81	36.5	25.9	23.5	10.6	3.5
	D0013	3.79	24.6	37.3	31.0	6.3	0.7	3.68	33.0	20.5	31.8	11.4	3.4	3.96	32.3	36.1	27.7	3.2	0.6
	D0014	3.31	22.3	20.4	31.1	18.4	7.8	4.15	43.8	32.4	19.0	4.8	0.0	3.93	42.5	25.0	18.8	10.0	3.8
	D0015	3.74	27.0	32.4	29.7	9.5	1.4	4.46	55.8	34.6	9.6	0.0	0.0	3.92	38.7	26.9	25.8	5.4	3.2
	D0017	4.42	58.3	25.0	16.7	0.0	0.0	3.93	33.3	35.4	23.2	7.1	1.0	4.33	54.8	23.8	21.4	0.0	0.0
	D0032	3.99	36.1	32.4	25.9	5.6	0.0	4.48	58.0	33.3	7.4	1.2	0.0	4.40	58.1	28.6	9.5	2.9	1.0
	D0032-2	4.08	39.7	34.2	21.9	2.7	1.4	4.06	32.7	40.8	26.5	0.0	0.0	4.18	45.8	31.9	18.1	2.8	1.4
専門 科目	D0102	4.56	59.3	38.0	2.8	0.0	0.0	4.42	52.7	37.6	8.6	1.1	0.0	4.64	73.6	18.9	6.6	0.0	0.9
	D0103	4.34	48.6	38.1	12.4	1.0	0.0	4.38	50.6	38.2	10.1	1.1	0.0	4.63	68.9	28.3	0.9	0.9	0.9
	D0105	4.27	47.6	32.1	20.2	0.0	0.0	4.29	45.6	37.9	16.5	0.0	0.0	4.19	41.0	38.6	19.3	1.2	0.0
	D0107	4.05	32.9	40.0	25.9	1.2	0.0	3.83	25.2	41.7	24.3	7.8	1.0	4.07	37.8	34.1	25.6	2.4	0.0
	D0110	3.65	18.8	35.0	38.8	7.5	0.0	3.81	29.0	30.0	35.0	5.0	1.0	3.80	37.2	19.8	31.4	9.3	2.3
	D0111	3.45	16.2	23.2	51.5	8.1	1.0	4.02	34.8	34.8	27.3	3.0	0.0	3.98	28.1	43.8	26.6	1.6	0.0
	D0113	3.16	16.3	14.0	46.5	16.3	7.0	3.80	25.5	33.0	37.2	4.3	0.0	3.99	38.3	28.4	28.4	3.7	1.2
	D0114	4.21	40.0	41.3	18.8	0.0	0.0	4.04	39.8	28.2	28.2	3.9	0.0	3.99	31.6	36.7	30.4	1.3	0.0
	D0118	3.87	33.8	27.3	32.5	5.2	1.3	3.86	30.8	31.8	31.8	3.7	1.9						
	D0119	3.96	30.3	40.8	25.0	2.6	1.3	3.98	32.0	37.1	27.8	3.1	0.0						
	D0123	4.36	45.6	44.7	9.7	0.0	0.0	4.26	41.1	48.4	7.4	2.1	1.1	4.32	39.4	53.8	5.8	1.0	0.0
	D0124	4.12	34.9	44.3	18.9	1.9	0.0	4.31	50.5	30.8	17.6	1.1	0.0	4.57	61.0	35.2	3.8	0.0	0.0
	D0202	4.02	27.2	47.8	25.0	0.0	0.0	4.10	39.7	33.3	23.8	3.2	0.0	4.44	56.8	30.5	12.6	0.0	0.0
	D0205	3.77	21.1	37.6	38.5	2.8	0.0	4.04	35.7	32.9	31.4	0.0	0.0	3.98	34.8	32.6	28.3	4.3	0.0
	D0206	3.96	24.0	48.0	28.0	0.0	0.0	4.29	49.4	32.5	16.9	0.0	1.3	4.04	38.6	33.7	22.8	3.0	2.0
	D0207	4.10	37.5	37.5	23.8	0.0	1.3	4.13	36.4	43.9	15.9	3.7	0.0						
	D0210	3.99	40.0	22.5	35.0	1.3	1.3	4.12	38.3	42.1	15.0	2.8	1.9	3.84	36.5	27.1	23.5	9.4	3.5
	D0211	3.42	9.2	34.7	45.9	9.2	1.0	4.23	61.3	12.9	12.9	12.9	0.0	4.29	44.0	41.0	15.0	0.0	0.0
	D0213	4.19	47.4	26.9	24.4	0.0	1.3	4.42	57.6	30.3	9.1	3.0	0.0	4.29	50.6	29.2	19.1	1.1	0.0
	D0214	3.82	32.2	21.8	41.4	4.6	0.0	4.19	48.8	28.8	16.3	5.0	1.3	4.31	45.2	40.4	14.4	0.0	0.0
	D0216	4.44	51.2	41.5	7.3	0.0	0.0	4.54	63.4	27.7	8.9	0.0	0.0	4.53	65.5	21.8	12.6	0.0	0.0
	D0217	4.30	53.1	24.7	21.0	1.2	0.0	4.24	41.3	43.3	13.5	1.9	0.0	3.94	30.7	35.2	31.8	2.3	0.0
	D0301	3.10	9.2	15.3	52.0	23.5	0.0	3.59	21.3	25.0	45.0	8.8	0.0	3.84	27.6	33.3	34.3	4.8	0.0
D0401	4.02	34.6	36.5	25.0	3.8	0.0	4.43	52.4	38.1	9.5	0.0	0.0	4.50	58.3	33.3	8.3	0.0	0.0	
D0402	4.16	35.5	45.2	19.4	0.0	0.0	4.36	56.0	24.0	20.0	0.0	0.0	4.48	52.2	43.5	4.3	0.0	0.0	
D0501	3.00	3.4	24.1	41.4	31.0	0.0	4.00	40.0	32.0	16.0	12.0	0.0	4.71	76.5	17.6	5.9	0.0	0.0	
D0502	3.36	7.1	21.4	71.4	0.0	0.0	3.76	19.0	38.1	42.9	0.0	0.0	3.86	23.8	38.1	38.1	0.0	0.0	
D0134													4.11	48.2	19.3	28.9	2.4	1.2	
D0135													4.36	50.6	34.9	14.5	0.0	0.0	

看護

表-7-6 問4 あなたは授業内容に興味をもてましたか？

A:強く思う B:ややそう思う C:ふつう D:あまり思わない E:全く思わない

(単位:%)

科目 コード	平成23年度						平成24年度						平成25年度					
	平均 得点	回答率					平均 得点	回答率					平均 得点	回答率				
		A	B	C	D	E		A	B	C	D	E		A	B	C	D	E
D0001	4.53	62.0	29.0	9.0	0.0	0.0	4.33	46.7	41.3	10.9	0.0	1.1	4.59	63.2	32.6	4.2	0.0	0.0
D0002	4.08	38.0	37.0	21.3	2.8	0.9	4.26	50.5	29.7	15.4	4.4	0.0	4.67	70.2	26.2	3.6	0.0	0.0
D0003	3.57	23.8	26.7	33.3	15.2	1.0	4.08	40.0	33.3	22.2	3.3	1.1	4.13	42.1	33.7	20.0	3.2	1.1
D0004	3.38	11.4	28.4	48.3	10.2	1.7	3.56	13.1	38.6	39.2	9.2	0.0	3.23	8.9	28.3	43.9	15.0	3.9
D0005	4.43	57.6	28.3	14.1	0.0	0.0	4.58	66.3	26.3	6.3	1.3	0.0	4.68	72.8	22.8	4.3	0.0	0.0
D0005-2	4.49	58.4	34.8	5.6	0.0	1.1	4.65	71.4	22.6	6.0	0.0	0.0	4.59	69.3	21.6	8.0	1.1	0.0
D0006	3.44	21.3	20.4	43.5	11.1	3.7	3.79	34.0	26.4	24.5	15.1	0.0	3.45	18.3	29.4	35.9	11.8	4.6
D0007	4.52	63.6	26.0	9.1	1.3	0.0	4.34	46.7	42.4	9.8	0.0	1.1	4.54	69.0	17.9	10.7	2.4	0.0
D0008	4.58	67.1	24.1	8.9	0.0	0.0	4.42	54.2	33.6	12.1	0.0	0.0	4.46	62.4	22.4	14.1	1.2	0.0
D0012	3.95	40.6	21.9	29.7	7.8	0.0	4.01	38.4	31.3	24.2	5.1	1.0	3.70	34.9	22.1	29.1	5.8	8.1
D0013	3.80	31.0	28.9	32.4	4.9	2.8	4.23	47.8	32.8	15.7	2.2	1.5	3.92	37.6	27.1	25.9	8.2	1.2
D0014	3.49	23.3	28.2	28.2	14.6	5.8	3.77	31.8	28.4	27.3	10.2	2.3	3.98	35.5	31.0	30.3	2.6	0.6
D0015	3.80	31.1	31.1	27.0	8.1	2.7	4.03	40.0	34.3	16.2	7.6	1.9	3.86	30.6	33.7	27.6	7.1	1.0
D0017	4.33	54.2	29.2	12.5	4.2	0.0	4.38	52.9	32.7	14.4	0.0	0.0	3.92	35.5	30.1	28.0	4.3	2.2
D0032	3.88	33.3	29.6	28.7	8.3	0.0	4.38	52.9	32.7	14.4	0.0	0.0	4.30	54.8	22.6	21.4	0.0	1.2
D0032-2	4.01	37.0	31.5	27.4	4.1	0.0	3.83	31.3	32.8	26.7	6.1	3.1	4.00	35.7	31.6	29.8	2.9	0.0
D0102	4.58	65.7	29.6	2.8	0.9	0.9	4.68	75.8	19.8	2.2	1.1	1.1	4.70	80.2	12.3	5.7	0.9	0.9
D0103	4.42	57.1	30.5	9.5	2.9	0.0	4.46	62.9	23.6	11.2	1.1	1.1	4.70	77.4	17.9	2.8	0.9	0.9
D0105	4.40	52.4	35.7	11.9	0.0	0.0	4.38	50.5	36.9	12.6	0.0	0.0	4.35	50.6	33.7	15.7	0.0	0.0
D0107	4.19	42.4	36.5	18.8	2.4	0.0	3.72	22.3	39.8	26.2	10.7	1.0	4.16	45.1	30.5	20.7	2.4	1.2
D0110	3.62	20.3	31.6	38.0	10.1	0.0	3.86	30.0	31.0	34.0	5.0	0.0	3.86	40.7	17.4	31.4	8.1	2.3
D0111	3.35	13.3	23.5	50.0	11.2	2.0	4.03	37.9	33.3	24.2	3.0	1.5	3.98	28.1	43.8	26.6	1.6	0.0
D0113	3.27	17.4	22.1	37.2	16.3	7.0	3.83	26.6	36.2	30.9	6.4	0.0	4.02	38.3	32.1	24.7	3.7	1.2
D0114	4.08	36.3	38.8	21.3	3.8	0.0	4.05	40.8	32.0	19.4	6.8	1.0	3.94	36.7	24.1	35.4	3.8	0.0
D0118	3.89	35.5	30.3	25.0	6.6	2.6	4.18	41.2	39.7	14.7	4.4	0.0						
D0119	3.89	36.8	27.6	25.0	9.2	1.3	4.03	35.1	36.1	25.8	3.1	0.0						
D0123	4.49	57.3	35.0	6.8	1.0	0.0	4.54	64.2	30.5	2.1	1.1	2.1	4.52	61.5	31.7	4.8	1.0	1.0
D0124	4.18	40.6	39.6	17.0	2.8	0.0	4.45	59.3	28.6	11.0	0.0	1.1	4.62	64.8	32.4	2.9	0.0	0.0
D0202	4.03	30.4	43.5	25.0	1.1	0.0	4.11	36.5	42.9	15.9	4.8	0.0	4.47	61.1	26.3	11.6	1.1	0.0
D0205	3.76	20.2	38.5	38.5	2.8	0.0	4.10	36.2	39.1	23.2	1.4	0.0	3.95	31.5	38.0	26.1	2.2	2.2
D0206	3.99	26.0	48.0	25.0	1.0	0.0	4.35	55.8	26.0	16.9	0.0	1.3	4.09	42.6	32.7	17.8	5.0	2.0
D0207	4.30	51.3	27.5	21.3	0.0	0.0	4.23	43.9	37.4	16.8	1.9	0.0						
D0210	4.14	50.0	23.8	18.8	5.0	2.5	4.30	51.4	31.8	14.0	0.9	1.9	3.93	44.7	17.6	27.1	7.1	3.5
D0211	3.49	13.4	36.1	39.2	9.3	2.1	4.26	58.1	16.1	19.4	6.5	0.0	4.30	51.0	30.0	17.0	2.0	0.0
D0213	4.47	61.5	24.4	14.1	0.0	0.0	4.61	70.7	21.2	6.1	2.0	0.0	4.64	74.2	15.7	10.1	0.0	0.0
D0214	4.15	44.2	31.4	20.9	2.3	1.2	4.36	56.3	26.3	16.3	0.0	1.3	4.56	66.3	23.1	10.6	0.0	0.0
D0216	4.54	63.4	26.8	9.8	0.0	0.0	4.59	69.3	21.8	7.9	1.0	0.0	4.70	77.0	16.1	6.9	0.0	0.0
D0217	4.20	50.6	19.8	28.4	1.2	0.0	4.22	43.3	36.5	19.2	1.0	0.0	3.81	29.5	28.4	36.4	4.5	1.1
D0301	2.99	9.3	13.4	49.5	22.7	5.2	3.53	25.0	20.0	40.0	12.5	2.5	3.79	26.7	32.4	34.3	6.7	0.0
D0401	4.16	41.2	37.3	17.6	3.9	0.0	4.67	71.4	23.8	4.8	0.0	0.0	4.71	75.0	20.8	4.2	0.0	0.0
D0402	4.26	38.7	48.4	12.9	0.0	0.0	4.44	60.0	24.0	16.0	0.0	0.0	4.65	69.6	26.1	4.3	0.0	0.0
D0501	3.03	6.9	24.1	44.8	13.8	10.3	4.24	56.0	24.0	8.0	12.0	0.0	4.71	76.5	17.6	5.9	0.0	0.0
D0502	3.57	21.4	14.3	64.3	0.0	0.0	4.00	28.6	42.9	28.6	0.0	0.0	4.00	38.1	28.6	28.6	4.8	0.0
D0134													4.23	53.0	22.9	20.5	1.2	2.4
D0135													4.42	54.3	33.3	12.3	0.0	0.0

看護

表-7-7 問5 この授業科目はシラバスの内容に沿った授業内容でしたか？

A: 強く思う B: やや思う C: ふつ D: あまり思わない E: 全く思わない (単位: %)

科目 コード	平成23年度						平成24年度						平成25年度					
	平均 得点	回答率					平均 得点	回答率					平均 得点	回答率				
		A	B	C	D	E		A	B	C	D	E		A	B	C	D	E
D0001	4.55	66.0	23.0	11.0	0.0	0.0	4.21	44.6	32.6	21.7	1.1	0.0	4.76	77.9	20.0	2.1	0.0	0.0
D0002	4.38	54.6	31.5	12.0	0.9	0.9	4.48	62.2	24.4	12.2	1.1	0.0	4.77	79.8	17.9	2.4	0.0	0.0
D0003	3.96	35.2	27.6	35.2	1.9	0.0	4.50	63.3	23.3	13.3	0.0	0.0	4.63	71.6	20.0	8.4	0.0	0.0
D0004	4.01	29.4	41.8	28.8	0.0	0.0	4.25	42.2	40.3	17.5	0.0	0.0	4.23	42.8	37.8	19.4	0.0	0.0
D0005	4.57	70.3	16.5	13.2	0.0	0.0	4.63	71.3	20.0	8.8	0.0	0.0	4.76	80.4	15.2	4.3	0.0	0.0
D0005-2	4.51	65.2	20.2	14.6	0.0	0.0	4.68	75.0	17.9	7.1	0.0	0.0	4.72	77.3	17.0	5.7	0.0	0.0
D0006	3.57	23.1	22.2	45.4	7.4	1.9	3.77	34.0	24.5	26.4	15.1	0.0	3.97	33.1	34.4	29.9	1.9	0.6
D0007	4.65	70.1	24.7	5.2	0.0	0.0	4.37	53.3	34.8	9.8	0.0	2.2	4.62	72.6	17.9	8.3	1.2	0.0
D0008	4.54	64.6	25.3	10.1	0.0	0.0	4.50	63.6	22.4	14.0	0.0	0.0	4.57	70.1	18.4	10.3	1.1	0.0
D0012	4.42	60.9	20.3	18.8	0.0	0.0	4.36	58.6	20.2	20.2	1.0	0.0	4.32	54.1	23.5	22.4	0.0	0.0
D0013	4.11	41.8	27.0	31.2	0.0	0.0	4.41	53.0	35.1	11.9	0.0	0.0	4.35	54.2	27.7	17.4	0.0	0.6
D0014	3.94	36.9	28.2	29.1	3.9	1.9	4.16	53.4	17.0	23.9	3.4	2.3	4.54	65.3	24.5	9.2	1.0	0.0
D0015	4.21	42.5	38.4	16.4	2.7	0.0	4.31	53.3	29.5	13.3	2.9	1.0	4.32	55.7	24.1	17.7	1.3	1.3
D0017	4.46	54.2	37.5	8.3	0.0	0.0	4.58	63.5	30.8	5.8	0.0	0.0	4.52	66.7	19.0	14.3	0.0	0.0
D0032	4.34	49.1	36.1	14.8	0.0	0.0	4.63	70.0	22.5	7.5	0.0	0.0	4.70	75.2	20.0	4.8	0.0	0.0
D0032-2	4.33	53.4	26.0	20.5	0.0	0.0	4.31	44.9	40.8	14.3	0.0	0.0	4.36	48.6	38.9	12.5	0.0	0.0
D0102	4.77	81.3	14.0	4.7	0.0	0.0	4.78	83.7	10.9	5.4	0.0	0.0	4.80	85.7	10.5	2.9	0.0	1.0
D0103	4.62	70.5	21.9	6.7	1.0	0.0	4.68	75.0	18.2	6.8	0.0	0.0	4.82	85.8	12.3	0.9	0.0	0.9
D0105	4.56	65.5	25.0	9.5	0.0	0.0	4.63	69.9	23.3	6.8	0.0	0.0	4.61	69.9	21.7	8.4	0.0	0.0
D0107	4.39	51.8	36.5	10.6	1.2	0.0	4.57	64.1	29.1	6.8	0.0	0.0	4.52	63.4	25.6	11.0	0.0	0.0
D0110	3.86	31.3	28.8	36.3	2.5	1.3	4.11	40.0	32.0	27.0	1.0	0.0	4.06	44.7	20.0	32.9	1.2	1.2
D0111	3.73	22.2	30.3	45.5	2.0	0.0	4.38	53.0	31.8	15.2	0.0	0.0	4.03	32.8	40.6	25.0	0.0	1.6
D0113	3.93	38.4	24.4	31.4	3.5	2.3	4.14	42.6	30.9	24.5	2.1	0.0	4.25	48.1	30.9	18.5	2.5	0.0
D0114	4.48	60.0	27.5	12.5	0.0	0.0	4.47	59.2	29.1	10.7	1.0	0.0	4.04	41.8	27.8	25.3	2.5	2.5
D0118	4.05	40.3	28.6	27.3	3.9	0.0	4.20	42.1	37.4	19.6	0.0	0.9						
D0119	4.17	44.7	32.9	19.7	0.0	2.6	4.43	54.2	34.4	11.5	0.0	0.0						
D0123	4.66	70.9	24.3	4.9	0.0	0.0	4.75	81.1	13.7	4.2	1.1	0.0	4.79	80.8	17.3	1.9	0.0	0.0
D0124	4.49	59.4	30.2	10.4	0.0	0.0	4.60	68.5	22.8	8.7	0.0	0.0	4.76	78.1	20.0	1.9	0.0	0.0
D0202	4.22	39.1	43.5	17.4	0.0	0.0	4.29	44.4	41.3	12.7	1.6	0.0	4.56	63.2	29.5	7.4	0.0	0.0
D0205	3.87	26.6	35.8	35.8	1.8	0.0	4.21	45.7	31.4	21.4	1.4	0.0	4.10	39.1	32.6	27.2	1.1	0.0
D0206	4.11	37.0	37.0	26.0	0.0	0.0	4.52	63.6	27.3	7.8	0.0	1.3	4.22	45.5	32.7	20.8	0.0	1.0
D0207	4.59	68.8	21.3	10.0	0.0	0.0	4.45	59.0	27.6	12.4	1.0	0.0						
D0210	4.35	58.8	20.0	18.8	2.5	0.0	4.38	55.1	31.8	11.2	0.0	1.9	4.00	45.3	22.1	25.6	1.2	5.8
D0211	3.82	19.4	44.9	34.7	0.0	1.0	4.13	54.8	16.1	19.4	6.5	3.2	4.38	52.0	34.0	14.0	0.0	0.0
D0213	4.56	67.9	20.5	11.5	0.0	0.0	4.70	77.8	16.2	4.0	2.0	0.0	4.80	83.1	13.5	3.4	0.0	0.0
D0214	4.17	40.2	36.8	23.0	0.0	0.0	4.56	68.8	18.8	12.5	0.0	0.0	4.60	69.2	21.2	9.6	0.0	0.0
D0216	4.63	68.3	26.8	4.9	0.0	0.0	4.63	71.3	20.8	7.9	0.0	0.0	4.74	83.9	5.7	10.3	0.0	0.0
D0217	4.27	58.0	13.6	25.9	2.5	0.0	4.47	58.7	29.8	11.5	0.0	0.0	4.19	47.7	23.9	28.4	0.0	0.0
D0301	3.62	15.3	34.7	46.9	3.1	0.0	4.09	40.0	28.8	31.3	0.0	0.0	4.30	51.4	26.7	21.9	0.0	0.0
D0401	4.50	55.8	38.5	5.8	0.0	0.0	4.76	78.6	19.0	2.4	0.0	0.0	4.67	75.0	16.7	8.3	0.0	0.0
D0402	4.10	41.9	25.8	32.3	0.0	0.0	4.48	60.0	28.0	12.0	0.0	0.0	4.65	73.9	17.4	8.7	0.0	0.0
D0501	3.52	13.8	37.9	34.5	13.8	0.0	4.52	68.0	16.0	16.0	0.0	0.0	4.71	76.5	17.6	5.9	0.0	0.0
D0502	3.71	28.6	14.3	57.1	0.0	0.0	3.86	38.1	19.0	33.3	9.5	0.0	4.19	42.9	33.3	23.8	0.0	0.0
D0134													4.46	61	23	16	0	0
D0135													4.59	69	22	10	0	0

看護

表-7-8 問6 この授業科目は授業のねらいや評価の方法が明確に示されていましたか？

A: 強く思う B: やや思う C: ぶつう D: あまり思わない E: 全く思わない (単位: %)

科目 コード	平成23年度						平成24年度						平成25年度					
	平均 得点	回答率					平均 得点	回答率					平均 得点	回答率				
		A	B	C	D	E		A	B	C	D	E		A	B	C	D	E
D0001	4.53	63.0	27.0	10.0	0.0	0.0	4.35	51.1	32.6	16.3	0.0	0.0	4.63	71.3	21.3	6.4	1.1	0.0
D0002	4.29	48.1	37.0	12.0	0.9	1.9	4.49	63.3	23.3	12.2	1.1	0.0	4.80	81.0	17.9	1.2	0.0	0.0
D0003	3.75	26.7	28.6	39.0	4.8	1.0	4.38	57.8	23.3	17.8	1.1	0.0	4.47	60.6	26.6	11.7	1.1	0.0
D0004	3.84	22.6	41.8	32.8	2.8	0.0	3.99	28.6	42.9	27.3	1.3	0.0	3.58	19.6	32.4	38.0	6.1	3.9
D0005	4.53	68.1	16.5	15.4	0.0	0.0	4.66	72.5	21.3	6.3	0.0	0.0	4.66	74.4	16.7	8.9	0.0	0.0
D0005-2	4.46	60.7	24.7	14.6	0.0	0.0	4.69	76.2	16.7	7.1	0.0	0.0	4.54	69.0	16.1	14.9	0.0	0.0
D0006	3.47	18.5	21.3	50.0	9.3	0.9	3.79	35.8	22.6	28.3	11.3	1.9	3.45	19.3	29.3	35.3	9.3	6.7
D0007	4.60	67.5	24.7	7.8	0.0	0.0	4.30	51.1	32.6	14.1	0.0	2.2	4.58	70.2	19.0	9.5	1.2	0.0
D0008	4.58	65.8	26.6	7.6	0.0	0.0	4.45	59.8	25.2	15.0	0.0	0.0	4.47	67.1	17.6	11.8	2.4	1.2
D0012	4.38	56.3	26.6	15.6	1.6	0.0	4.38	59.6	20.2	19.2	1.0	0.0	4.02	38.6	28.9	28.9	3.6	0.0
D0013	3.96	36.4	25.7	36.4	0.7	0.7	4.32	48.5	35.1	16.4	0.0	0.0	4.15	46.7	26.3	24.3	0.7	2.0
D0014	3.69	28.2	28.2	33.0	5.8	4.9	4.09	47.7	23.9	21.6	3.4	3.4	4.04	37.1	37.1	19.6	5.2	1.0
D0015	4.27	44.6	39.2	14.9	1.4	0.0	4.42	57.1	28.6	13.3	1.0	0.0	4.14	50.0	25.0	18.8	1.3	5.0
D0017	4.42	54.2	33.3	12.5	0.0	0.0	4.59	65.0	29.1	5.8	0.0	0.0	4.43	59.5	23.8	16.7	0.0	0.0
D0032	4.31	48.1	35.2	16.7	0.0	0.0	4.27	42.9	40.8	16.3	0.0	0.0	4.61	71.4	19.0	8.6	1.0	0.0
D0032-2	4.36	53.4	28.8	17.8	0.0	0.0	4.06	33.8	39.7	25.0	1.5	0.0	4.30	53.5	29.6	12.7	1.4	2.8
D0102	4.68	72.9	22.4	4.7	0.0	0.0	4.73	76.3	20.4	3.2	0.0	0.0	4.61	74.0	17.3	5.8	1.0	1.9
D0103	4.57	65.7	26.7	6.7	1.0	0.0	4.70	77.3	15.9	6.8	0.0	0.0	4.75	81.9	13.3	3.8	0.0	1.0
D0105	4.57	66.7	23.8	9.5	0.0	0.0	4.62	68.9	24.3	6.8	0.0	0.0	4.66	73.5	19.3	7.2	0.0	0.0
D0107	4.41	54.1	32.9	12.9	0.0	0.0	4.52	62.1	28.2	9.7	0.0	0.0	4.46	65.4	17.3	16.0	0.0	1.2
D0110	3.77	27.8	30.4	32.9	8.9	0.0	4.06	38.0	32.0	28.0	2.0	0.0	3.92	43.5	16.5	32.9	2.4	4.7
D0111	3.65	19.2	31.3	45.5	3.0	1.0	4.32	51.5	31.8	15.2	0.0	1.5	3.90	27.0	39.7	31.7	0.0	1.6
D0113	3.68	30.6	25.9	29.4	9.4	4.7	4.07	39.4	31.9	25.5	3.2	0.0	4.17	45.5	31.2	19.5	2.6	1.3
D0114	4.46	58.2	29.1	12.7	0.0	0.0	4.40	54.4	33.0	10.7	1.9	0.0	3.70	35.4	20.3	29.1	8.9	6.3
D0118	3.94	36.4	27.3	32.5	1.3	2.6	4.12	38.3	38.3	21.5	0.9	0.9						
D0119	4.09	40.8	34.2	21.1	1.3	2.6	4.35	52.1	31.3	16.7	0.0	0.0						
D0123	4.51	60.2	31.1	8.7	0.0	0.0	4.62	70.5	22.1	6.3	1.1	0.0	3.76	62.1	29.1	5.8	1.0	1.9
D0124	4.34	48.1	39.6	10.4	1.9	0.0	4.47	60.9	27.2	10.9	0.0	1.1	4.38	70.2	25.0	3.8	1.0	0.0
D0202	4.14	33.7	46.7	19.6	0.0	0.0	4.25	42.9	41.3	14.3	1.6	0.0		61.7	28.7	9.6	0.0	0.0
D0205	3.85	23.9	40.4	33.0	2.8	0.0	4.14	41.4	35.7	18.6	4.3	0.0	3.62	22.0	36.3	27.5	9.9	4.4
D0206	4.06	35.4	35.4	29.3	0.0	0.0	4.49	63.6	24.7	10.4	0.0	1.3	3.87	33.0	33.0	26.0	4.0	4.0
D0207	4.48	59.5	29.1	11.4	0.0	0.0	4.40	54.7	31.1	13.2	0.9	0.0						
D0210	4.34	60.0	20.0	16.3	1.3	2.5	4.36	53.3	33.6	11.2	0.0	1.9	3.96	45.8	21.7	21.7	4.8	6.0
D0211	3.67	18.4	35.7	41.8	3.1	1.0	3.94	51.6	12.9	22.6	3.2	9.7	4.26	46.5	35.4	16.2	2.0	0.0
D0213	4.55	67.9	19.2	12.8	0.0	0.0	4.67	76.8	15.2	6.1	2.0	0.0	4.74	81.1	12.2	6.7	0.0	0.0
D0214	4.10	36.8	36.8	26.4	0.0	0.0	4.59	67.5	23.8	8.8	0.0	0.0	4.53	62.5	28.8	7.7	1.0	0.0
D0216	4.69	75.3	19.8	3.7	1.2	0.0	4.63	70.3	22.8	6.9	0.0	0.0	4.84	90.7	2.3	7.0	0.0	0.0
D0217	4.38	63.0	12.3	24.7	0.0	0.0	4.41	52.9	36.5	9.6	1.0	0.0	4.13	45.5	25.0	27.3	1.1	1.1
D0301	3.55	14.3	29.6	53.1	3.1	0.0	4.00	37.5	27.5	32.5	2.5	0.0	3.99	29.8	41.3	26.9	1.9	0.0
D0401	4.42	57.7	28.8	11.5	1.9	0.0	4.64	69.0	26.2	4.8	0.0	0.0	4.79	79.2	20.8	0.0	0.0	0.0
D0402	4.13	41.9	29.0	29.0	0.0	0.0	4.48	60.0	28.0	12.0	0.0	0.0	4.65	65.2	34.8	0.0	0.0	0.0
D0501	3.52	20.7	27.6	34.5	17.2	0.0	4.40	56.0	28.0	16.0	0.0	0.0	4.71	76.5	17.6	5.9	0.0	0.0
D0502	3.71	28.6	14.3	57.1	0.0	0.0	3.85	35.0	30.0	20.0	15.0	0.0	3.81	23.8	38.1	33.3	4.8	0.0
D0134													4.40	59.3	23.5	16.0	0.0	1.2
D0135													4.49	60.5	28.4	11.1	0.0	0.0

看護

表-7-9 問7 教員は開始・終了時間を守っていましたか？

A:強く思う B:やや思う C:ふつう D:あまり思わない E:全く思わない (単位:%)

科目 コード	平成23年度						平成24年度						平成25年度					
	平均 得点	回答率					平均 得点	回答率					平均 得点	回答率				
		A	B	C	D	E		A	B	C	D	E		A	B	C	D	E
D0001	4.77	80.0	17.0	3.0	0.0	0.0	4.59	67.4	25.0	6.5	1.1	0.0	4.80	83.2	13.7	3.2	0.0	0.0
D0002	4.45	57.4	32.4	9.3	0.0	0.9	4.52	68.1	18.7	11.0	1.1	1.1	4.82	85.7	10.7	3.6	0.0	0.0
D0003	4.23	49.5	25.7	22.9	1.9	0.0	4.63	74.4	15.6	8.9	1.1	0.0	4.71	76.8	16.8	6.3	0.0	0.0
D0004	4.67	72.3	22.6	5.1	0.0	0.0	4.73	76.6	20.1	3.2	0.0	0.0	4.68	74.4	19.4	6.1	0.0	0.0
D0005	4.46	64.1	17.4	18.5	0.0	0.0	4.75	81.3	12.5	6.3	0.0	0.0	4.70	77.2	16.3	5.4	1.1	0.0
D0005-2	4.72	77.5	16.9	5.6	0.0	0.0	4.75	81.0	13.1	6.0	0.0	0.0	4.74	81.8	10.2	8.0	0.0	0.0
D0006	3.91	36.1	24.1	35.2	3.7	0.9	4.40	58.5	26.4	11.3	3.8	0.0	4.21	44.8	33.1	20.1	1.9	0.0
D0007	4.69	72.7	23.4	3.9	0.0	0.0	4.48	59.8	30.4	8.7	0.0	1.1	4.62	72.6	17.9	8.3	1.2	0.0
D0008	4.73	78.5	16.5	5.1	0.0	0.0	4.58	71.0	15.9	13.1	0.0	0.0	4.05	52.9	16.1	16.1	12.6	2.3
D0012	4.66	75.0	15.6	9.4	0.0	0.0	4.28	52.5	25.3	20.2	2.0	0.0	4.21	52.9	17.6	27.1	2.4	0.0
D0013	4.49	64.8	21.1	12.7	0.7	0.7	4.72	78.4	15.7	5.2	0.7	0.0	4.66	75.5	15.5	9.0	0.0	0.0
D0014	4.27	52.4	26.2	18.4	1.9	1.0	4.43	68.2	17.0	8.0	3.4	3.4	4.53	72.4	15.3	6.1	5.1	1.0
D0015	4.49	55.4	37.8	6.8	0.0	0.0	4.50	64.8	21.9	11.4	1.9	0.0	4.45	63.8	20.0	15.0	0.0	1.3
D0017	4.50	62.5	25.0	12.5	0.0	0.0	4.54	64.1	26.2	9.7	0.0	0.0	4.54	67.9	17.9	14.3	0.0	0.0
D0032	4.56	65.7	25.9	7.4	0.9	0.0	4.74	77.8	18.5	3.7	0.0	0.0	4.81	82.9	15.2	1.9	0.0	
D0032-2	4.53	65.8	21.9	12.3	0.0	0.0	4.49	57.1	34.7	8.2	0.0	0.0	4.50	59.7	30.6	9.7	0.0	
D0102	4.47	65.7	19.4	11.1	3.7	0.0	4.46	66.7	19.4	8.6	4.3	1.1	4.56	70.8	17.0	10.4	0.9	0.9
D0103	4.30	58.1	21.9	13.3	5.7	1.0	4.34	62.5	17.0	13.6	5.7	1.1	4.71	81.1	12.3	3.8	1.9	0.9
D0105	4.68	77.4	13.1	9.5	0.0	0.0	4.68	73.8	20.4	5.8	0.0	0.0	4.77	83.1	10.8	6.0	0.0	0.0
D0107	4.49	64.7	22.4	10.6	2.4	0.0	4.71	75.7	19.4	4.9	0.0	0.0	4.77	82.9	11.0	6.1	0.0	0.0
D0110	4.29	50.0	28.8	21.3	0.0	0.0	4.31	53.0	25.0	22.0	0.0	0.0	4.28	57.6	16.5	23.5	1.2	1.2
D0111	2.96	12.1	20.2	31.3	24.2	12.1	4.08	42.4	30.3	22.7	1.5	3.0	3.58	17.2	39.1	31.3	9.4	3.1
D0113	4.00	43.0	24.4	23.3	8.1	1.2	4.31	52.1	30.9	12.8	4.3	0.0	4.16	45.0	31.3	18.8	5.0	0.0
D0114	4.53	62.5	27.5	10.0	0.0	0.0	4.29	54.4	26.2	13.6	5.8	0.0	3.78	36.7	22.8	27.8	7.6	5.1
D0118	4.22	50.6	26.0	19.5	2.6	1.3	4.40	57.0	28.0	14.0	0.0	0.9						
D0119	4.00	44.7	22.4	26.3	1.3	5.3	4.46	59.8	27.8	11.3	1.0	0.0						
D0123	4.57	68.9	22.3	5.8	2.9	0.0	4.57	70.5	20.0	6.3	2.1	1.1	4.44	60.6	26.0	10.6	2.9	0.0
D0124	4.39	52.8	34.9	11.3	0.0	0.9	4.37	57.6	26.1	14.1	0.0	2.2	4.74	76.2	21.9	1.9	0.0	0.0
D0202	4.29	44.6	40.2	15.2	0.0	0.0	4.19	44.4	31.7	22.2	1.6	0.0	4.49	61.1	28.4	9.5	1.1	0.0
D0205	3.54	16.5	37.6	33.0	9.2	3.7	4.17	42.9	32.9	22.9	1.4	0.0	3.92	35.9	30.4	27.2	3.3	3.3
D0206	3.85	21.0	46.0	30.0	3.0	0.0	4.51	63.6	26.0	9.1	0.0	1.3	4.02	38.6	33.7	21.8	3.0	3.0
D0207	4.36	56.3	25.0	17.5	1.3	0.0	4.27	51.4	29.0	15.0	4.7	0.0						
D0210	4.56	73.4	12.7	10.1	3.8	0.0	4.45	62.6	23.4	12.1	0.0	1.9	4.23	54.7	20.9	20.9	0.0	3.5
D0211	3.68	17.3	38.8	39.8	3.1	1.0	4.03	48.4	19.4	22.6	6.5	3.2	4.40	56.0	30.0	12.0	2.0	0.0
D0213	4.55	67.9	19.2	12.8	0.0	0.0	4.73	82.8	9.1	6.1	2.0	0.0	4.81	83.1	14.6	2.2	0.0	0.0
D0214	4.09	40.2	29.9	28.7	1.1	0.0	4.54	66.3	23.8	8.8	0.0	1.3	4.57	67.3	22.1	10.6	0.0	0.0
D0216	3.96	42.7	28.0	14.6	12.2	2.4	4.54	67.3	20.8	10.9	1.0	0.0	4.80	85.1	10.3	4.6	0.0	0.0
D0217	4.40	62.5	15.0	22.5	0.0	0.0	4.59	65.4	27.9	6.7	0.0	0.0	4.39	61.4	15.9	22.7	0.0	0.0
D0301	4.13	33.7	45.9	20.4	0.0	0.0	4.29	51.3	26.3	22.5	0.0	0.0	4.24	49.5	29.5	18.1	1.0	1.9
D0401	4.50	65.4	23.1	7.7	3.8	0.0	4.60	73.8	16.7	7.1	0.0	2.4	4.79	79.2	20.8	0.0	0.0	0.0
D0402	4.29	51.6	25.8	22.6	0.0	0.0	4.60	72.0	16.0	12.0	0.0	0.0	4.78	78.3	21.7	0.0	0.0	0.0
D0501	4.10	37.9	34.5	27.6	0.0	0.0	4.60	64.0	32.0	4.0	0.0	0.0	4.76	82.4	11.8	5.9	0.0	0.0
D0502	4.07	42.9	21.4	35.7	0.0	0.0	4.19	42.9	33.3	23.8	0.0	0.0	4.29	42.9	42.9	14.3	0.0	0.0
D0134													4.54	68.7	16.9	14.5	0.0	0.0
D0135													4.55	68.7	18.1	13.3	0.0	0.0

看護

表-7-10 問8 教員は学生の理解度を考慮しながら授業していましたか？

A: 強くそう思う B: ややそう思う C: ぶつう D: あまり思わない E: 全くそう思わない (単位: %)

科目 コード	平成23年度						平成24年度						平成25年度					
	平均 得点	回答率					平均 得点	回答率					平均 得点	回答率				
		A	B	C	D	E		A	B	C	D	E		A	B	C	D	E
D0001	4.15	45.0	29.0	22.0	4.0	0.0	4.18	44.6	35.9	15.2	2.2	2.2	4.52	68.4	17.9	10.5	3.2	0.0
D0002	4.18	41.7	37.0	19.4	0.9	0.9	4.23	49.5	27.5	20.9	1.1	1.1	4.75	77.4	20.2	2.4	0.0	0.0
D0003	3.52	22.9	23.8	40.0	9.5	3.8	4.29	51.1	27.8	20.0	1.1	0.0	4.45	57.9	30.5	10.5	1.1	0.0
D0004	3.61	17.7	34.3	40.6	6.3	1.1	3.81	19.6	47.1	28.1	5.2	0.0	3.87	27.2	38.3	29.4	3.9	1.1
D0005	4.32	52.2	27.2	20.7	0.0	0.0	4.57	65.8	25.3	8.9	0.0	0.0	4.66	71.7	22.8	5.4	0.0	0.0
D0005-2	4.53	62.9	27.0	10.1	0.0	0.0	4.62	69.0	23.8	7.1	0.0	0.0	4.63	72.7	17.0	10.2	0.0	0.0
D0006	3.41	16.7	24.1	46.3	9.3	3.7	3.89	34.0	28.3	30.2	7.5	0.0	3.64	25.3	29.2	32.5	9.7	3.2
D0007	4.55	64.9	24.7	10.4	0.0	0.0	4.39	52.2	39.1	6.5	0.0	2.2	4.55	69.0	17.9	11.9	1.2	0.0
D0008	4.66	74.7	17.7	6.3	1.3	0.0	4.23	50.5	25.2	21.5	2.8	0.0	4.32	57.5	20.7	18.4	3.4	0.0
D0012	4.30	53.1	25.0	20.3	1.6	0.0	4.18	45.5	30.3	21.2	3.0	0.0	3.91	37.6	24.7	30.6	4.7	2.4
D0013	3.92	35.2	28.9	30.3	3.5	2.1	4.28	50.0	33.6	11.2	5.2	0.0	4.12	45.2	27.7	22.6	3.2	1.3
D0014	3.35	22.3	23.3	30.1	15.5	8.7	3.78	38.6	21.6	25.0	9.1	5.7	3.92	34.0	34.0	23.7	6.2	2.1
D0015	3.89	35.1	31.1	24.3	6.8	2.7	4.09	44.8	28.6	18.1	7.6	1.0	4.11	47.5	22.5	26.3	1.3	2.5
D0017	4.38	50.0	37.5	12.5	0.0	0.0	4.58	65.4	26.9	7.7	0.0	0.0	4.44	61.9	20.2	17.9	0.0	0.0
D0032	4.34	53.7	28.7	15.7	1.9	0.0	4.65	74.1	18.5	6.2	1.2	0.0	4.69	77.1	17.1	3.8	1.0	1.0
D0032-2	4.44	60.3	23.3	16.4	0.0	0.0	4.37	46.9	42.9	10.2	0.0	0.0	4.32	54.2	29.2	13.9	0.0	2.8
D0102	4.45	58.3	28.7	13.0	0.0	0.0	4.49	60.9	29.3	7.6	2.2	0.0	4.65	74.3	19.0	4.8	1.0	1.0
D0103	4.27	52.4	29.5	12.4	3.8	1.9	4.47	56.8	33.0	10.2	0.0	0.0	4.72	77.4	18.9	2.8	0.0	0.9
D0105	4.60	73.8	11.9	14.3	0.0	0.0	4.61	68.0	25.2	6.8	0.0	0.0	4.71	77.1	16.9	6.0	0.0	0.0
D0107	4.31	48.2	36.5	12.9	2.4	0.0	4.53	64.1	25.2	10.7	0.0	0.0	4.43	58.5	26.8	13.4	1.2	0.0
D0110	3.79	27.5	28.8	38.8	5.0	0.0	3.95	31.0	36.0	30.0	3.0	0.0	3.78	38.8	18.8	28.2	9.4	4.7
D0111	3.26	12.1	21.2	49.5	15.2	2.0	4.17	40.9	37.9	19.7	0.0	1.5	3.89	25.0	43.8	26.6	4.7	0.0
D0113	3.19	18.6	20.9	32.6	16.3	11.6	3.82	29.8	34.0	26.6	7.4	2.1	4.10	43.2	27.2	25.9	3.7	0.0
D0114	4.38	51.3	35.0	13.8	0.0	0.0	4.16	43.7	32.0	20.4	3.9	0.0	3.77	32.9	22.8	35.4	6.3	2.5
D0118	3.88	35.1	28.6	27.3	7.8	1.3	4.11	43.0	29.9	23.4	2.8	0.9	4.33	53.1	27.1	19.8	0.0	0.0
D0119	3.89	35.5	27.6	28.9	6.6	1.3	4.32	50.5	33.0	14.4	2.1	0.0						
D0123	4.53	61.2	31.1	7.8	0.0	0.0	4.49	63.2	26.3	8.4	1.1	1.1						
D0124	4.18	39.6	40.6	17.9	1.9	0.0	4.28	51.1	28.3	19.6	0.0	1.1	4.58	68.3	23.1	6.7	1.9	0.0
D0202	4.22	39.1	43.5	17.4	0.0	0.0	4.08	38.1	34.9	23.8	3.2	0.0	4.66	69.5	26.7	3.8	0.0	0.0
D0205	3.40	11.9	31.2	46.8	5.5	4.6	4.03	34.3	37.1	25.7	2.9	0.0	4.54	63.2	27.4	9.5	0.0	0.0
D0206	3.71	19.0	39.0	36.0	6.0	0.0	4.34	53.9	28.9	15.8	0.0	1.3	3.49	20.9	29.7	31.9	13.2	4.4
D0207	3.95	39.2	29.1	22.8	5.1	3.8	3.97	37.4	34.6	16.8	10.3	0.9	3.55	26.7	28.7	22.8	16.8	5.0
D0210	3.95	46.8	16.5	26.6	5.1	5.1	4.17	45.8	31.8	17.8	2.8	1.9						
D0211	2.97	6.1	20.4	45.9	19.4	8.2	3.84	48.4	12.9	19.4	12.9	6.5	3.77	37.2	27.9	18.6	7.0	9.3
D0213	4.42	61.5	21.8	15.4	0.0	1.3	4.51	66.7	19.2	12.1	2.0	0.0	4.22	44.0	35.0	20.0	1.0	0.0
D0214	3.59	19.5	34.5	32.2	12.6	1.1	4.29	53.8	26.3	16.3	2.5	1.3	4.49	62.9	25.8	9.0	2.2	0.0
D0216	4.55	65.9	23.2	11.0	0.0	0.0	4.57	66.3	24.8	8.9	0.0	0.0	4.41	56.7	28.8	13.5	1.0	0.0
D0217	4.32	58.0	16.0	25.9	0.0	0.0	4.38	51.0	36.5	12.5	0.0	0.0	4.77	83.9	9.2	6.9	0.0	0.0
D0301	3.29	7.2	32.0	46.4	11.3	3.1	3.91	31.3	32.5	33.8	1.3	1.3	4.10	45.5	25.0	25.0	3.4	1.1
D0401	4.17	42.3	38.5	15.4	1.9	1.9	4.52	64.3	26.2	7.1	2.4	0.0	4.63	66.7	29.2	4.2	0.0	0.0
D0402	3.84	25.8	32.3	41.9	0.0	0.0	4.56	68.0	20.0	12.0	0.0	0.0	4.65	65.2	34.8	0.0	0.0	0.0
D0501	3.41	17.2	31.0	27.6	24.1	0.0	4.36	44.0	48.0	8.0	0.0	0.0	3.90	28.6	38.1	28.6	4.8	0.0
D0502	3.86	35.7	14.3	50.0	0.0	0.0	3.95	40.0	25.0	25.0	10.0	0.0	4.87	87.0	13.0	0.0	0.0	0.0
D0134													4.35	55.4	25.3	18.1	1.2	0.0
D0135													4.43	56.6	30.1	13.3	0.0	0.0

看護

表-7-11 問9 教員の板書・視聴覚教材による資料揭示・デモンストレーション等は良かったですか？

A:強く思う B:ややそう思う C:ふつう D:あまり思わない E:全く思わない (単位:%)

科目 コード	平成23年度						平成24年度						平成25年度					
	平均 得点	回答率					平均 得点	回答率					平均 得点	回答率				
		A	B	C	D	E		A	B	C	D	E		A	B	C	D	E
D0001	4.18	45.0	32.0	19.0	4.0	0.0	4.19	46.2	35.2	11.0	6.6	1.1	4.45	65.3	21.1	9.5	2.1	2.1
D0002	4.14	44.4	32.4	17.6	3.7	1.9	4.23	50.5	24.2	24.2	0.0	1.1	4.68	72.6	22.6	4.8	0.0	0.0
D0003	4.19	47.5	27.5	21.3	3.8	0.0	4.34	54.4	28.9	14.4	1.1	1.1	4.51	62.1	26.3	11.6	0.0	0.0
D0004	3.47	19.3	28.4	35.8	13.1	3.4	4.02	29.2	46.1	22.1	2.6	0.0	3.98	33.3	34.4	29.4	2.2	0.6
D0005	4.34	53.3	27.2	19.6	0.0	0.0	4.57	65.8	26.6	6.3	1.3	0.0	4.67	73.9	19.6	6.5	0.0	0.0
D0005-2	4.52	59.6	33.7	5.6	1.1	0.0	4.63	71.4	20.2	8.3	0.0	0.0	4.66	75.0	15.9	9.1	0.0	0.0
D0006	3.24	14.8	24.1	39.8	13.0	8.3	3.79	32.1	24.5	34.0	9.4	0.0	3.58	26.0	24.7	34.4	11.0	3.9
D0007	4.68	74.0	19.5	6.5	0.0	0.0	4.34	52.2	33.7	12.0	0.0	2.2	4.58	70.2	19.0	9.5	1.2	0.0
D0008	4.67	75.9	16.5	6.3	1.3	0.0	4.21	49.5	24.3	23.4	2.8	0.0	4.24	54.0	21.8	19.5	3.4	1.1
D0012	4.22	54.7	18.8	20.3	6.3	0.0	4.16	46.5	24.2	28.3	1.0	0.0	3.96	38.8	27.1	27.1	5.9	1.2
D0013	3.82	32.4	26.8	33.1	6.3	1.4	4.19	50.7	26.9	15.7	4.5	2.2	4.25	50.3	27.7	18.7	2.6	0.6
D0014	3.44	22.3	29.1	27.2	12.6	8.7	4.00	42.0	28.4	20.5	5.7	3.4	4.23	50.5	29.9	12.4	6.2	1.0
D0015	4.16	45.9	32.4	13.5	8.1	0.0	4.17	50.5	23.8	18.1	7.6	0.0	4.01	43.8	21.3	30.0	2.5	2.5
D0017	4.48	60.9	30.4	4.3	4.3	0.0	4.57	64.4	27.9	7.7	0.0	0.0	4.43	60.7	21.4	17.9	0.0	0.0
D0032	4.29	50.9	29.6	16.7	2.8	0.0	4.22	42.9	36.7	20.4	0.0	0.0	4.73	80.0	16.2	1.9	1.0	1.0
D0032-2	4.44	56.2	31.5	12.3	0.0	0.0	3.66	22.1	30.9	38.2	8.8	0.0	4.32	50.0	37.5	9.7	0.0	2.8
D0102	4.54	63.0	28.7	7.4	0.9	0.0	4.56	63.4	29.0	7.5	0.0	0.0	4.65	75.5	17.9	3.8	1.9	0.9
D0103	4.27	52.4	27.6	15.2	3.8	1.0	4.51	62.5	27.3	9.1	1.1	0.0	4.74	80.2	16.0	1.9	0.9	0.9
D0105	4.56	69.0	17.9	13.1	0.0	0.0	4.54	63.1	28.2	8.7	0.0	0.0	4.55	63.9	27.7	8.4	0.0	0.0
D0107	4.16	47.1	25.9	23.5	3.5	0.0	4.45	59.2	28.2	10.7	1.9	0.0	4.35	56.1	24.4	18.3	1.2	0.0
D0110	3.85	33.8	23.8	36.3	6.3	0.0	4.00	36.0	31.0	30.0	3.0	0.0	3.66	36.5	14.1	32.9	11.8	4.7
D0111	3.31	11.1	22.2	56.6	7.1	3.0	4.17	45.5	30.3	21.2	1.5	1.5	3.91	28.1	37.5	31.3	3.1	0.0
D0113	3.38	24.4	18.6	34.9	15.1	7.0	3.78	30.9	24.5	37.2	6.4	1.1	4.13	42.5	30.0	25.0	2.5	0.0
D0114	4.38	55.0	27.5	17.5	0.0	0.0	4.12	43.7	28.2	24.3	3.9	0.0	3.67	30.4	21.5	36.7	7.6	3.8
D0118	3.68	31.6	23.7	30.3	10.5	3.9	3.93	34.6	32.7	25.2	6.5	0.9						
D0119	3.95	35.5	31.6	27.6	2.6	2.6	4.29	46.4	36.1	17.5	0.0	0.0						
D0123	4.58	65.0	28.2	6.8	0.0	0.0	4.71	77.9	16.8	4.2	0.0	1.1	4.58	67.3	26.0	4.8	1.0	1.0
D0124	4.19	39.6	42.5	15.1	2.8	0.0	4.48	57.6	32.6	9.8	0.0	0.0	4.68	70.5	26.7	2.9	0.0	0.0
D0202	4.21	40.2	40.2	19.6	0.0	0.0	4.19	44.4	33.3	19.0	3.2	0.0	4.49	58.9	31.6	9.5	0.0	0.0
D0205	3.45	12.8	34.9	39.4	10.1	2.8	4.04	35.7	37.1	22.9	4.3	0.0	3.28	21.7	25.0	23.9	18.5	10.9
D0206	3.89	23.0	44.0	32.0	1.0	0.0	4.36	54.5	29.9	14.3	0.0	1.3	3.36	27.7	23.8	17.8	17.8	12.9
D0207	4.20	48.8	27.5	18.8	5.0	0.0	4.05	41.1	29.9	21.5	7.5	0.0						
D0210	3.90	46.3	13.8	28.8	6.3	5.0	4.06	43.0	29.0	20.6	5.6	1.9	3.57	33.7	22.1	24.4	7.0	12.8
D0211	2.85	6.1	23.5	35.7	18.4	16.3	3.77	45.2	12.9	25.8	6.5	9.7	3.98	39.0	30.0	23.0	6.0	2.0
D0213	4.45	64.1	20.5	12.8	1.3	1.3	4.48	63.6	23.2	11.1	2.0	0.0	4.46	60.7	27.0	11.2	0.0	1.1
D0214	3.78	24.1	35.6	34.5	5.7	0.0	4.49	65.0	20.0	13.8	1.3	0.0	4.47	59.6	28.8	10.6	1.0	0.0
D0216	4.60	65.9	28.0	6.1	0.0	0.0	4.58	66.3	25.7	7.9	0.0	0.0	4.83	89.7	3.4	6.9	0.0	0.0
D0217	4.25	55.6	13.6	30.9	0.0	0.0	4.41	52.9	35.6	11.5	0.0	0.0	4.16	44.3	27.3	28.4	0.0	0.0
D0301	3.38	12.2	27.6	48.0	10.2	2.0	3.96	32.5	32.5	33.8	1.3	0.0	4.05	31.4	42.9	24.8	1.0	0.0
D0401	4.02	38.5	34.6	19.2	5.8	1.9	4.40	61.9	26.2	2.4	9.5	0.0	4.54	58.3	37.5	4.2	0.0	0.0
D0402	3.84	29.0	29.0	38.7	3.2	0.0	4.48	68.0	12.0	20.0	0.0	0.0	4.57	65.2	30.4	0.0	4.3	0.0
D0501	3.17	13.8	27.6	34.5	10.3	13.8	4.04	40.0	32.0	20.0	8.0	0.0	4.59	70.6	23.5	0.0	5.9	0.0
D0502	3.86	35.7	14.3	50.0	0.0	0.0	3.62	33.3	23.8	19.0	19.0	4.8	3.76	23.8	33.3	38.1	4.8	0.0
D0134													4.29	54.2	24.1	18.1	3.6	0.0
D0135													4.42	54.2	33.7	12.0	0.0	0.0

看護

表-7-12 問10 教員は学生に対して誠実に対応していましたか？

A:強く思う B:やや思う C:ふつ C:ふつ D:あまり思わない E:全く思わない (単位:%)

科目 コード	平成23年度						平成24年度						平成25年度					
	平均 得点	回答率					平均 得点	回答率					平均 得点	回答率				
		A	B	C	D	E		A	B	C	D	E		A	B	C	D	E
D0001	4.46	62.0	23.0	14.0	1.0	0.0	4.29	48.9	33.7	16.3	0.0	1.1	4.65	72.6	20.0	7.4	0.0	0.0
D0002	4.24	47.2	32.4	18.5	0.9	0.9	4.35	57.1	24.2	16.5	1.1	1.1	4.79	81.0	16.7	2.4	0.0	0.0
D0003	3.66	22.9	29.5	38.1	9.5	0.0	4.36	53.3	28.9	17.8	0.0	0.0	4.54	67.4	21.1	10.5	0.0	1.1
D0004	3.92	32.2	30.5	34.5	2.3	0.6	4.14	39.6	38.3	19.5	1.9	0.6	4.13	39.4	36.7	22.8	0.0	1.1
D0005	4.36	57.6	22.8	17.4	2.2	0.0	4.62	67.9	25.6	6.4	0.0	0.0	4.66	75.0	18.5	5.4	0.0	1.1
D0005-2	4.57	64.0	29.2	6.7	0.0	0.0	4.65	73.8	17.9	8.3	0.0	0.0	4.61	73.9	14.8	10.2	1.1	0.0
D0006	3.43	17.6	24.1	47.2	5.6	5.6	3.83	30.2	34.0	26.4	7.5	1.9	3.69	24.7	31.8	35.1	4.5	3.9
D0007	4.62	71.4	19.5	9.1	0.0	0.0	4.30	52.2	32.6	12.0	0.0	3.3	4.60	72.6	15.5	10.7	1.2	0.0
D0008	4.72	78.5	15.2	6.3	0.0	0.0	4.41	57.0	27.1	15.9	0.0	0.0	4.43	62.1	20.7	14.9	2.3	0.0
D0012	4.41	59.4	21.9	18.8	0.0	0.0	4.30	51.5	28.3	19.2	1.0	0.0	4.04	41.2	25.9	29.4	2.4	1.2
D0013	3.98	35.2	32.4	29.6	0.7	2.1	4.45	59.0	29.1	9.7	2.2	0.0	4.30	50.6	31.2	16.2	1.3	0.6
D0014	3.63	23.3	32.0	32.0	9.7	2.9	4.08	46.6	23.9	23.9	2.3	3.4	4.15	49.5	27.8	14.4	5.2	3.1
D0015	4.18	44.6	33.8	16.2	5.4	0.0	4.17	50.5	23.8	19.0	5.7	1.0	4.21	52.5	21.3	23.8	0.0	2.5
D0017	4.46	62.5	25.0	8.3	4.2	0.0	4.61	68.9	23.3	7.8	0.0	0.0	4.51	65.5	20.2	14.3	0.0	0.0
D0032	4.43	59.3	25.0	14.8	0.9	0.0	4.65	76.3	13.8	8.8	1.3	0.0	4.73	79.0	16.2	3.8	1.0	0.0
D0032-2	4.45	57.5	30.1	12.3	0.0	0.0	4.31	44.9	40.8	14.3	0.0	0.0	4.26	50.0	31.9	15.3	0.0	2.8
D0102	4.41	59.3	25.9	12.0	1.9	0.9	4.60	68.5	23.9	6.5	1.1	0.0	4.69	77.4	17.9	2.8	0.0	1.9
D0103	4.28	52.4	30.5	11.4	3.8	1.9	4.51	61.4	29.5	8.0	1.1	0.0	4.80	84.9	12.3	1.9	0.0	0.9
D0105	4.63	73.8	15.5	10.7	0.0	0.0	4.67	71.8	23.3	4.9	0.0	0.0	4.67	73.5	20.5	6.0	0.0	0.0
D0107	4.39	54.1	31.8	12.9	1.2	0.0	4.59	68.9	21.4	9.7	0.0	0.0	4.49	63.4	22.0	14.6	0.0	0.0
D0110	3.93	32.5	30.0	35.0	2.5	0.0	4.07	38.0	32.0	29.0	1.0	0.0	3.88	41.2	21.2	25.9	8.2	3.5
D0111	3.27	10.1	23.2	52.5	12.1	2.0	4.33	48.5	36.4	15.2	0.0	0.0	3.95	32.8	34.4	29.7	1.6	1.6
D0113	3.50	25.6	19.8	38.4	11.6	4.7	3.83	33.0	25.5	35.1	4.3	2.1	4.15	45.0	31.3	18.8	3.8	1.3
D0114	4.39	58.8	23.8	16.3	0.0	1.3	4.18	46.6	32.0	15.5	4.9	1.0	3.87	36.7	24.1	31.6	5.1	2.5
D0118	3.94	35.1	32.5	26.0	3.9	2.6	4.19	43.9	33.6	20.6	0.9	0.9						
D0119	3.93	35.5	30.3	27.6	5.3	1.3	4.39	48.5	42.3	9.3	0.0	0.0						
D0123	4.62	68.9	24.3	6.8	0.0	0.0	4.71	76.8	17.9	4.2	1.1	0.0	4.63	72.1	22.1	3.8	1.0	1.0
D0124	4.22	39.6	42.5	17.9	0.0	0.0	4.48	60.4	27.5	12.1	0.0	0.0	4.70	73.3	22.9	3.8	0.0	0.0
D0202	4.24	42.4	39.1	18.5	0.0	0.0	4.08	39.7	34.9	20.6	3.2	1.6	4.53	63.2	26.3	10.5	0.0	0.0
D0205	3.55	13.8	38.5	40.4	3.7	3.7	4.01	37.1	31.4	28.6	1.4	1.4	3.48	22.8	29.3	30.4	7.6	9.8
D0206	3.80	22.2	39.4	34.3	4.0	0.0	4.39	58.4	24.7	15.6	0.0	1.3	3.81	34.7	28.7	23.8	8.9	4.0
D0207	4.20	48.8	26.3	22.5	1.3	1.3	3.97	39.3	30.8	20.6	6.5	2.8						
D0210	4.13	50.0	18.8	26.3	3.8	1.3	4.23	49.5	28.0	20.6	0.0	1.9	3.89	41.2	23.5	23.5	7.1	4.7
D0211	3.24	8.2	26.5	49.0	14.3	2.0	3.74	45.2	16.1	16.1	12.9	9.7	4.25	43.0	40.0	16.0	1.0	0.0
D0213	4.53	67.9	19.2	11.5	0.0	1.3	4.57	69.7	20.2	7.1	3.0	0.0	4.74	79.8	14.6	5.6	0.0	0.0
D0214	3.94	31.0	34.5	32.2	2.3	0.0	4.44	62.5	23.8	10.0	2.5	1.3	4.50	61.5	27.9	9.6	1.0	0.0
D0216	4.65	70.7	23.2	6.1	0.0	0.0	4.63	70.3	22.8	6.9	0.0	0.0	4.80	87.4	5.7	6.9	0.0	0.0
D0217	4.28	59.3	11.1	28.4	1.2	0.0	4.41	53.8	33.7	12.5	0.0	0.0	4.23	48.9	25.0	26.1	0.0	0.0
D0301	3.57	16.3	33.7	42.9	5.1	2.0	4.01	37.5	28.8	31.3	2.5	0.0	4.18	42.9	34.3	21.0	1.9	0.0
D0401	4.29	48.1	38.5	9.6	1.9	1.9	4.57	69.0	19.0	11.9	0.0	0.0	4.83	87.5	8.3	4.2	0.0	0.0
D0402	4.06	35.5	38.7	22.6	3.2	0.0	4.60	72.0	16.0	12.0	0.0	0.0	4.74	73.9	26.1	0.0	0.0	0.0
D0501	3.69	31.0	24.1	27.6	17.2	0.0	4.44	56.0	32.0	12.0	0.0	0.0	4.82	88.2	5.9	5.9	0.0	0.0
D0502	3.93	35.7	21.4	42.9	0.0	0.0	3.95	38.1	33.3	14.3	14.3	0.0	4.05	33.3	42.9	19.0	4.8	0.0
D0134													4.46	61.4	22.9	15.7	0.0	0.0
D0135													4.49	60.2	28.9	10.8	0.0	0.0

看護

表-7-13 問11 教員は私語に対して適切に対応していましたか？

A:強く思う B:やや思う C:ふつう D:あまり思わない E:全く思わない (単位:%)

科目 コード	平成23年度						平成24年度						平成25年度					
	平均 得点	回答率					平均 得点	回答率					平均 得点	回答率				
		A	B	C	D	E		A	B	C	D	E		A	B	C	D	E
D0001	4.49	60.0	29.0	11.0	0.0	0.0	4.24	44.6	34.8	20.7	0.0	0.0	4.64	72.6	18.9	8.4	0.0	0.0
D0002	4.07	40.7	32.4	22.2	2.8	1.9	4.37	54.9	29.7	14.3	0.0	1.1	4.75	78.6	17.9	3.6	0.0	0.0
D0003	3.84	30.5	30.5	31.4	7.6	0.0	4.42	58.9	25.6	14.4	1.1	0.0	4.59	73.7	15.8	8.4	0.0	2.1
D0004	3.73	32.6	26.9	24.6	13.1	2.9	4.37	50.0	37.0	13.0	0.0	0.0	4.37	55.0	29.4	13.9	0.6	1.1
D0005	4.41	58.7	23.9	17.4	0.0	0.0	4.57	65.8	25.3	8.9	0.0	0.0	4.65	75.0	17.4	6.5	0.0	1.1
D0005-2	4.58	67.4	24.7	6.7	1.1	0.0	4.67	75.0	16.7	8.3	0.0	0.0	4.64	75.9	13.8	9.2	1.1	0.0
D0006	3.34	15.7	22.2	47.2	10.2	4.6	3.55	28.3	26.4	24.5	13.2	7.5	3.94	32.5	35.7	26.0	4.5	1.3
D0007	4.53	68.8	16.9	13.0	1.3	0.0	4.33	52.2	32.6	13.0	0.0	2.2	4.58	71.4	16.7	10.7	1.2	0.0
D0008	4.61	70.9	19.0	10.1	0.0	0.0	4.42	57.9	26.2	15.9	0.0	0.0	4.41	64.4	16.1	16.1	3.4	0.0
D0012	4.38	60.9	17.2	20.3	1.6	0.0	4.33	52.5	28.3	19.2	0.0	0.0	4.12	43.5	30.6	22.4	1.2	2.4
D0013	3.98	38.3	29.1	26.2	5.0	1.4	4.37	54.5	29.9	13.4	2.2	0.0	4.19	45.8	29.0	24.5	0.0	0.6
D0014	3.71	27.2	28.2	35.0	7.8	1.9	4.03	45.5	22.7	25.0	3.4	3.4	3.79	37.1	25.8	20.6	12.4	4.1
D0015	4.30	43.2	43.2	13.5	0.0	0.0	4.30	54.3	24.8	18.1	1.9	1.0	4.30	57.0	21.5	19.0	0.0	2.5
D0017	4.38	54.2	33.3	8.3	4.2	0.0	4.58	66.3	25.0	8.7	0.0	0.0	4.45	59.5	26.2	14.3	0.0	0.0
D0032	4.40	57.4	25.9	15.7	0.9	0.0	4.67	74.1	18.5	7.4	0.0	0.0	4.70	76.2	19.0	3.8	0.0	1.0
D0032-2	4.47	57.5	31.5	11.0	0.0	0.0	4.31	46.9	36.7	16.3	0.0	0.0	4.28	52.8	27.8	16.7	0.0	2.8
D0102	4.59	68.5	22.2	9.3	0.0	0.0	4.62	68.8	24.7	6.5	0.0	0.0	4.75	83.0	12.3	2.8	0.9	0.9
D0103	4.36	58.1	23.8	15.2	1.9	1.0	4.56	65.9	25.0	8.0	1.1	0.0	4.79	84.9	11.3	2.8	0.0	0.9
D0105	4.62	71.4	19.0	9.5	0.0	0.0	4.64	70.9	22.3	6.8	0.0	0.0	4.60	68.7	22.9	8.4	0.0	0.0
D0107	4.39	55.3	28.2	16.5	0.0	0.0	4.53	65.0	23.3	11.7	0.0	0.0	4.44	62.2	19.5	18.3	0.0	0.0
D0110	3.93	32.5	28.8	37.5	1.3	0.0	4.07	36.0	35.0	29.0	0.0	0.0	3.96	43.5	20.0	28.2	5.9	2.4
D0111	3.36	12.1	26.3	47.5	14.1	0.0	4.36	51.5	33.3	15.2	0.0	0.0	4.08	34.4	39.1	26.6	0.0	0.0
D0113	3.77	31.4	24.4	36.0	5.8	2.3	4.03	39.4	28.7	28.7	2.1	1.1	4.11	42.5	33.8	17.5	5.0	1.3
D0114	4.45	56.3	32.5	11.3	0.0	0.0	4.24	45.6	35.0	17.5	1.9	0.0	3.92	38.0	22.8	34.2	3.8	1.3
D0118	4.03	37.7	31.2	28.6	1.3	1.3	4.16	44.9	31.8	18.7	3.7	0.9						
D0119	4.07	39.5	31.6	26.3	1.3	1.3	4.43	51.5	40.2	8.2	0.0	0.0						
D0123	4.69	73.8	21.4	4.9	0.0	0.0	4.67	72.6	23.2	3.2	1.1	0.0	4.59	71.2	19.2	7.7	1.0	1.0
D0124	4.19	39.6	43.4	13.2	3.8	0.0	4.48	59.8	28.3	12.0	0.0	0.0	4.69	73.3	21.9	4.8	0.0	0.0
D0202	4.18	39.1	40.2	20.7	0.0	0.0	4.18	40.3	38.7	19.4	1.6	0.0	4.52	62.1	27.4	10.5	0.0	0.0
D0205	3.80	22.0	39.4	35.8	1.8	0.9	4.11	41.4	30.0	27.1	1.4	0.0	3.83	26.1	40.2	26.1	5.4	2.2
D0206	3.88	23.0	44.0	31.0	2.0	0.0	4.44	59.7	27.3	11.7	0.0	1.3	4.03	38.6	37.6	15.8	4.0	4.0
D0207	4.36	53.8	30.0	15.0	1.3	0.0	4.14	43.9	33.6	16.8	3.7	1.9						
D0210	4.38	58.2	21.5	20.3	0.0	0.0	4.28	50.5	30.8	16.8	0.0	1.9	4.10	46.5	26.7	22.1	0.0	4.7
D0211	3.49	10.2	32.7	53.1	4.1	0.0	3.74	45.2	16.1	16.1	12.9	9.7	4.29	47.0	36.0	16.0	1.0	0.0
D0213	4.60	73.1	15.4	10.3	1.3	0.0	4.63	72.7	19.2	6.1	2.0	0.0	4.78	83.1	11.2	5.6	0.0	0.0
D0214	3.86	28.7	33.3	33.3	4.6	0.0	4.50	66.3	18.8	13.8	1.3	0.0	4.53	65.4	23.1	10.6	1.0	0.0
D0216	4.57	65.9	25.6	8.5	0.0	0.0	4.64	71.3	21.8	6.9	0.0	0.0	4.78	86.2	5.7	8.0	0.0	0.0
D0217	4.28	56.8	14.8	28.4	0.0	0.0	4.39	52.9	34.6	11.5	1.0	0.0	4.20	46.6	27.3	26.1	0.0	0.0
D0301	3.57	13.3	33.7	50.0	3.1	0.0	4.08	38.8	30.0	31.3	0.0	0.0	4.19	42.9	34.3	21.9	1.0	0.0
D0401	4.41	49.0	43.1	7.8	0.0	0.0	4.64	71.4	21.4	7.1	0.0	0.0	4.79	83.3	12.5	4.2	0.0	0.0
D0402	4.26	38.7	48.4	12.9	0.0	0.0	4.60	72.0	16.0	12.0	0.0	0.0	4.74	73.9	26.1	0.0	0.0	0.0
D0501	3.76	31.0	24.1	37.9	3.4	3.4	4.48	52.0	44.0	4.0	0.0	0.0	4.82	88.2	5.9	5.9	0.0	0.0
D0502	3.93	35.7	21.4	42.9	0.0	0.0	3.86	28.6	33.3	33.3	4.8	0.0	4.05	28.6	47.6	23.8	0.0	0.0
D0134													4.48	65.1	19.3	14.5	1.2	0.0
D0135													4.52	62.7	26.5	10.8	0.0	0.0

看護

表-7-14 問12 教員の言動に不快な点はなく気持ちよく受講できましたか？

A: 強く思う B: やや思う C: ぶつ D: あまり思わない E: 全く思わない (単位: %)

科目 コード	平成23年度							平成24年度							平成25年度						
	平均 得点	回答率					平均 得点	回答率					平均 得点	回答率							
		A	B	C	D	E		A	B	C	D	E		A	B	C	D	E			
専門 基礎 科目	D0001	4.52	63.0	27.0	9.0	1.0	0.0	4.22	47.8	30.4	18.5	2.2	1.1	4.59	71.6	17.9	8.4	2.1	0.0		
	D0002	4.23	48.1	30.6	18.5	1.9	0.9	4.36	55.6	27.8	14.4	1.1	1.1	4.82	84.5	13.1	2.4	0.0	0.0		
	D0003	3.67	24.8	26.7	40.0	7.6	1.0	4.43	60.0	24.4	14.4	1.1	0.0	4.56	68.1	21.3	9.6	1.1	0.0		
	D0004	4.11	43.5	26.6	27.7	1.7	0.6	4.36	55.2	27.9	14.9	1.3	0.6	4.19	45.6	32.8	17.8	3.3	0.6		
	D0005	4.28	50.0	29.3	19.6	1.1	0.0	4.56	68.4	21.5	8.9	0.0	1.3	4.67	75.0	19.6	4.3	0.0	1.1		
	D0005-2	4.56	62.9	30.3	6.7	0.0	0.0	4.65	75.0	15.5	9.5	0.0	0.0	4.60	70.5	19.3	10.2	0.0	0.0		
	D0006	3.31	16.7	19.4	49.1	8.3	6.5	3.68	30.2	26.4	26.4	15.1	1.9	3.65	24.2	33.3	29.4	9.8	3.3		
	D0007	4.61	70.1	20.8	9.1	0.0	0.0	4.32	52.2	34.8	8.7	1.1	3.3	4.63	75.0	14.3	9.5	1.2	0.0		
	D0008	4.73	79.7	13.9	6.3	0.0	0.0	4.42	57.9	27.1	14.0	0.9	0.0	4.43	66.7	16.1	12.6	2.3	2.3		
	D0012	4.45	62.5	20.3	17.2	0.0	0.0	4.35	55.6	25.3	18.2	1.0	0.0	4.01	40.0	28.2	28.2	0.0	3.5		
	D0013	4.04	42.3	26.1	26.1	4.9	0.7	4.51	61.9	29.9	6.0	2.2	0.0	4.24	51.0	27.1	18.1	2.6	1.3		
	D0014	3.63	28.2	24.3	34.0	9.7	3.9	4.15	51.1	25.0	14.8	5.7	3.4	4.41	61.5	22.9	11.5	3.1	1.0		
	D0015	4.08	40.5	37.8	12.2	8.1	1.4	4.02	44.8	23.8	21.9	7.6	1.9	4.24	55.0	21.3	18.8	2.5	2.5		
	D0017	4.58	66.7	25.0	8.3	0.0	0.0	4.60	67.3	25.0	7.7	0.0	0.0	4.46	60.7	25.0	14.3	0.0	0.0		
	D0032	4.44	62.0	22.2	13.0	2.8	0.0	4.64	72.8	19.8	6.2	1.2	0.0	4.74	80.0	16.2	2.9	0.0	1.0		
	D0032-2	4.44	57.5	28.8	13.7	0.0	0.0	4.24	42.9	38.8	18.4	0.0	0.0	4.28	51.4	31.9	12.5	1.4	2.8		
	専門 科目	D0102	4.37	60.2	21.3	14.8	2.8	0.9	4.52	65.2	23.9	8.7	2.2	0.0	4.66	77.1	16.2	3.8	1.0	1.9	
D0103		4.13	48.6	28.6	13.3	6.7	2.9	4.39	56.2	28.1	14.6	1.1	0.0	4.75	82.1	12.3	4.7	0.0	0.9		
D0105		4.64	75.0	14.3	10.7	0.0	0.0	4.64	68.9	26.2	4.9	0.0	0.0	4.71	77.1	16.9	6.0	0.0	0.0		
D0107		4.38	56.5	27.1	14.1	2.4	0.0	4.64	74.8	15.5	8.7	1.0	0.0	4.54	67.1	19.5	13.4	0.0	0.0		
D0110		3.94	33.8	30.0	32.5	3.8	0.0	3.99	37.0	29.0	30.0	4.0	0.0	3.96	42.4	22.4	28.2	3.5	3.5		
D0111		3.19	12.1	21.2	46.5	14.1	6.1	4.27	47.0	34.8	16.7	1.5	0.0	3.94	29.7	39.1	28.1	1.6	1.6		
D0113		3.31	20.9	20.9	34.9	15.1	8.1	3.77	34.0	23.4	31.9	6.4	4.3	4.15	46.3	30.0	18.8	2.5	2.5		
D0114		4.28	52.5	28.8	13.8	3.8	1.3	4.17	47.6	29.1	17.5	4.9	1.0	3.78	34.2	24.1	30.4	8.9	2.5		
D0118		3.92	32.5	36.4	24.7	3.9	2.6	4.18	46.7	29.0	20.6	2.8	0.9								
D0119		3.86	36.8	28.9	21.1	9.2	3.9	4.40	53.6	34.0	11.3	1.0	0.0								
D0123		4.53	61.2	31.1	7.8	0.0	0.0	4.60	68.4	24.2	6.3	1.1	0.0	4.65	72.8	22.3	2.9	1.0	1.0		
D0124		4.18	40.6	38.7	19.8	0.0	0.9	4.45	60.9	23.9	14.1	1.1	0.0	4.70	76.2	19.0	3.8	1.0	0.0		
D0202		4.20	39.1	41.3	19.6	0.0	0.0	4.08	39.7	33.3	23.8	1.6	1.6	4.51	62.1	27.4	9.5	1.1	0.0		
D0205		3.47	11.9	36.7	40.4	8.3	2.8	3.90	37.1	25.7	30.0	4.3	2.9	3.43	20.7	33.7	26.1	7.6	12.0		
D0206		3.71	19.0	37.0	40.0	4.0	0.0	4.35	54.5	28.6	15.6	0.0	1.3	3.71	33.7	27.7	20.8	11.9	5.9		
D0207		4.09	47.5	20.0	27.5	3.8	1.3	3.82	35.8	29.2	21.7	7.5	5.7								
D0210		4.23	55.0	20.0	20.0	2.5	2.5	4.24	47.7	33.6	15.9	0.9	1.9	3.93	44.2	23.3	20.9	4.7	7.0		
D0211		3.16	10.2	23.5	42.9	19.4	4.1	3.77	45.2	12.9	25.8	6.5	9.7	4.26	45.0	37.0	17.0	1.0	0.0		
D0213		4.41	62.8	20.5	12.8	2.6	1.3	4.52	67.7	18.2	12.1	2.0	0.0	4.71	80.9	11.2	6.7	0.0	1.1		
D0214		3.82	25.3	36.8	33.3	3.4	1.1	4.36	60.0	22.5	12.5	3.8	1.3	4.53	64.4	25.0	9.6	1.0	0.0		
D0216		4.68	74.4	19.5	6.1	0.0	0.0	4.61	70.3	21.8	6.9	1.0	0.0	4.82	88.5	4.6	6.9	0.0	0.0		
D0217		4.32	59.3	13.6	27.2	0.0	0.0	4.41	53.8	34.6	10.6	1.0	0.0	4.19	47.7	26.1	23.9	2.3	0.0		
D0301		3.38	12.2	28.6	46.9	9.2	3.1	3.99	40.0	23.8	33.8	0.0	2.5	4.10	42.9	28.6	25.7	1.9	1.0		
D0401		4.37	50.0	36.5	13.5	0.0	0.0	4.57	69.0	21.4	7.1	2.4	0.0	4.83	83.3	16.7	0.0	0.0	0.0		
D0402		4.03	25.8	51.6	22.6	0.0	0.0	4.60	72.0	16.0	12.0	0.0	0.0	4.70	69.6	30.4	0.0	0.0	0.0		
D0501		3.48	31.0	17.2	31.0	10.3	10.3	4.20	44.0	32.0	24.0	0.0	0.0	4.82	88.2	5.9	5.9	0.0	0.0		
D0502		4.00	35.7	28.6	35.7	0.0	0.0	3.95	38.1	28.6	23.8	9.5	0.0	4.14	38.1	38.1	23.8	0.0	0.0		
D0134														4.49	63.9	21.7	14.5	0.0	0.0		
D0135													4.51	61.4	27.7	10.8	0.0	0.0			

看護

表-7-15 問13 教員の授業に対する熱意が感じられましたか？

A: 強く思う B: ややそう思う C: ぶつ D: あまり思わない E: 全く思わない (単位: %)

科目 コード	平成23年度						平成24年度						平成25年度					
	平均 得点	回答率					平均 得点	回答率					平均 得点	回答率				
		A	B	C	D	E		A	B	C	D	E		A	B	C	D	E
D0001	4.63	71.0	21.0	8.0	0.0	0.0	4.37	53.3	31.5	14.1	1.1	0.0	4.72	77.9	15.8	6.3	0.0	0.0
D0002	4.37	50.9	37.0	11.1	0.0	0.9	4.43	61.1	23.3	14.4	0.0	1.1	4.82	84.5	13.1	2.4	0.0	0.0
D0003	3.43	18.1	25.7	40.0	13.3	2.9	4.43	60.0	25.6	13.3	0.0	1.1	4.55	66.3	22.1	11.6	0.0	0.0
D0004	3.87	27.4	36.0	33.7	2.3	0.6	4.17	42.2	35.1	20.8	1.3	0.6	4.13	40.2	35.8	21.8	1.7	0.6
D0005	4.39	58.7	22.8	17.4	1.1	0.0	4.65	73.4	17.7	8.9	0.0	0.0	4.73	78.3	16.3	5.4	0.0	0.0
D0005-2	4.57	65.2	27.0	7.9	0.0	0.0	4.62	72.6	16.7	10.7	0.0	0.0	4.64	74.7	14.9	10.3	0.0	0.0
D0006	3.44	17.6	23.1	50.0	4.6	4.6	3.87	34.0	26.4	32.1	7.5	0.0	3.87	28.1	37.9	28.1	4.6	1.3
D0007	4.61	71.4	18.2	10.4	0.0	0.0	4.35	51.6	36.3	9.9	0.0	2.2	4.57	71.4	16.7	9.5	2.4	0.0
D0008	4.70	75.9	17.7	6.3	0.0	0.0	4.48	58.9	29.9	11.2	0.0	0.0	4.49	67.8	17.2	12.6	1.1	1.1
D0012	4.39	60.9	17.2	21.9	0.0	0.0	4.32	51.5	29.3	19.2	0.0	0.0	4.09	40.0	30.6	28.2	1.2	0.0
D0013	4.08	40.8	29.6	27.5	1.4	0.7	4.54	64.2	27.6	6.7	1.5	0.0	4.39	58.6	23.7	16.4	0.7	0.7
D0014	3.71	27.2	30.1	31.1	9.7	1.9	4.08	45.5	29.5	15.9	5.7	3.4	4.12	43.2	32.6	16.8	7.4	0.0
D0015	4.26	45.9	37.8	12.2	4.1	0.0	4.25	53.3	23.8	18.1	3.8	1.0	4.24	52.5	23.8	21.3	0.0	2.5
D0017	4.46	54.2	37.5	8.3	0.0	0.0	4.61	67.3	26.0	6.7	0.0	0.0	4.48	61.9	23.8	14.3	0.0	0.0
D0032	4.29	50.9	29.6	16.7	2.8	0.0	4.60	70.4	21.0	7.4	1.2	0.0	4.69	75.2	19.0	4.8	1.0	0.0
D0032-2	4.42	54.8	32.9	12.3	0.0	0.0	4.18	40.8	36.7	22.4	0.0	0.0	4.22	50.0	30.6	13.9	2.8	2.8
D0102	4.61	69.4	22.2	8.3	0.0	0.0	4.74	76.3	21.5	2.2	0.0	0.0	4.75	82.1	13.2	2.8	0.9	0.9
D0103	4.43	60.0	27.6	8.6	2.9	1.0	4.61	68.5	23.6	7.9	0.0	0.0	4.84	87.7	10.4	0.9	0.0	0.9
D0105	4.65	75.0	15.5	9.5	0.0	0.0	4.64	69.9	24.3	5.8	0.0	0.0	4.70	75.9	18.1	6.0	0.0	0.0
D0107	4.48	60.0	28.2	11.8	0.0	0.0	4.64	70.9	22.3	6.8	0.0	0.0	4.57	68.3	20.7	11.0	0.0	0.0
D0110	4.01	37.5	30.0	28.8	3.8	0.0	4.06	38.0	32.0	28.0	2.0	0.0	4.05	42.9	23.8	29.8	2.4	1.2
D0111	3.39	14.1	27.3	45.5	10.1	3.0	4.42	57.6	27.3	15.2	0.0	0.0	4.05	32.8	39.1	28.1	0.0	0.0
D0113	3.77	37.2	17.4	34.9	5.8	4.7	4.03	40.9	26.9	28.0	3.2	1.1	4.20	46.3	30.0	21.3	2.5	0.0
D0114	4.37	53.2	30.4	16.5	0.0	0.0	4.22	45.6	34.0	18.4	1.0	1.0	3.95	36.7	27.8	30.4	3.8	1.3
D0118	4.06	36.4	36.4	26.0	0.0	1.3	4.26	50.5	28.0	19.6	0.9	0.9						
D0119	4.11	42.1	30.3	25.0	1.3	1.3	4.43	54.6	34.0	11.3	0.0	0.0						
D0123	4.70	72.8	24.3	2.9	0.0	0.0	4.83	85.3	12.6	2.1	0.0	0.0	4.75	79.4	17.6	2.0	0.0	1.0
D0124	4.24	41.5	42.5	14.2	1.9	0.0	4.47	59.8	29.3	9.8	0.0	1.1	4.69	72.4	23.8	3.8	0.0	0.0
D0202	4.33	47.8	37.0	15.2	0.0	0.0	4.27	44.4	39.7	14.3	1.6	0.0	4.52	61.1	29.5	9.5	0.0	0.0
D0205	3.66	15.6	40.4	40.4	1.8	1.8	4.13	39.1	34.8	26.1	0.0	0.0	3.75	24.2	38.5	28.6	5.5	3.3
D0206	3.91	27.0	40.0	30.0	3.0	0.0	4.45	61.0	26.0	11.7	0.0	1.3	4.03	41.6	31.7	17.8	5.9	3.0
D0207	4.34	56.3	22.5	20.0	1.3	0.0	4.09	42.1	30.8	23.4	1.9	1.9						
D0210	4.54	67.5	18.8	13.8	0.0	0.0	4.34	53.3	30.8	14.0	0.0	1.9	4.12	47.7	27.9	18.6	0.0	5.8
D0211	3.54	14.3	34.7	43.9	5.1	2.0	4.00	51.6	16.1	19.4	6.5	6.5	4.31	49.0	34.0	16.0	1.0	0.0
D0213	4.67	74.4	17.9	7.7	0.0	0.0	4.68	76.8	16.2	5.1	2.0	0.0	4.83	86.5	10.1	3.4	0.0	0.0
D0214	4.05	39.1	27.6	32.2	1.1	0.0	4.54	68.8	18.8	10.0	2.5	0.0	4.62	71.2	19.2	9.6	0.0	0.0
D0216	4.70	74.4	20.7	4.9	0.0	0.0	4.62	69.3	23.8	6.9	0.0	0.0	4.85	90.8	3.4	5.7	0.0	0.0
D0217	4.35	59.3	16.0	24.7	0.0	0.0	4.41	54.8	31.7	13.5	0.0	0.0	4.24	50.6	23.0	26.4	0.0	0.0
D0301	3.56	18.4	28.6	45.9	5.1	2.0	4.09	41.3	26.3	32.5	0.0	0.0	4.21	42.9	35.2	21.9	0.0	0.0
D0401	4.48	55.8	36.5	7.7	0.0	0.0	4.60	66.7	26.2	7.1	0.0	0.0	4.92	91.7	8.3	0.0	0.0	0.0
D0402	4.16	38.7	38.7	22.6	0.0	0.0	4.60	72.0	16.0	12.0	0.0	0.0	4.77	77.3	22.7	0.0	0.0	0.0
D0501	4.00	41.4	24.1	27.6	6.9	0.0	4.60	64.0	32.0	4.0	0.0	0.0	4.76	82.4	11.8	5.9	0.0	0.0
D0502	4.07	42.9	21.4	35.7	0.0	0.0	4.14	47.6	23.8	23.8	4.8	0.0	4.29	38.1	52.4	9.5	0.0	0.0
D0134													4.52	63.9	24.1	12.0	0.0	0.0
D0135													4.52	62.7	26.5	10.8	0.0	0.0

看護

表-7-16 問14 この科目を本学の後輩に勧めたいですか？

A: 強く思う B: ややそう思う C: ふつう D: あまり思わない E: 全く思わない (単位: %)

	科目 コード	平成23年度					平成24年度					平成25年度							
		平均 得点	回答率				平均 得点	回答率				平均 得点	回答率						
			A	B	C	D		E	A	B	C		D	E	A	B	C	D	E
専門 基礎 科目	D0001	4.67	71.7	23.2	5.1	0.0	0.0	4.45	59.3	28.6	11.0	0.0	1.1	4.61	71.3	20.2	7.4	0.0	1.1
	D0002	4.18	42.6	36.1	19.4	0.0	1.9	4.41	60.0	23.3	15.6	0.0	1.1	4.77	78.6	20.2	1.2	0.0	0.0
	D0003	3.47	21.0	26.7	36.2	10.5	5.7	4.40	58.4	24.7	15.7	1.1	0.0	4.46	58.5	28.7	12.8	0.0	0.0
	D0004	3.49	14.2	33.5	40.9	10.2	1.1	3.88	26.1	39.2	31.4	3.3	0.0	3.55	20.1	30.7	38.5	5.6	5.0
	D0005	4.34	54.4	27.8	15.6	2.2	0.0	4.60	69.3	22.7	6.7	1.3	0.0	4.63	73.3	18.9	6.7	0.0	1.1
	D0005-2	4.42	57.0	30.2	11.6	0.0	1.2	4.59	68.3	22.0	9.8	0.0	0.0	4.51	66.7	18.4	13.8	1.1	0.0
	D0006	3.28	15.7	18.5	50.0	9.3	6.5	3.72	30.2	24.5	34.0	9.4	1.9	3.40	18.7	28.7	33.3	12.7	6.7
	D0007	4.59	67.1	25.0	7.9	0.0	0.0	4.37	52.2	34.4	12.2	0.0	1.1	4.57	70.2	17.9	10.7	1.2	0.0
	D0008	4.76	79.5	16.7	3.8	0.0	0.0	4.50	63.8	22.9	12.4	1.0	0.0	4.48	67.4	17.4	11.6	2.3	1.2
	D0012	4.20	48.4	25.0	25.0	1.6	0.0	4.23	49.5	26.8	21.6	1.0	1.0	4.02	39.8	28.9	26.5	3.6	1.2
	D0013	3.83	34.5	23.0	36.7	2.9	2.9	4.30	51.1	29.8	16.8	2.3	0.0	4.15	46.4	26.8	23.5	2.0	1.3
	D0014	3.36	21.4	24.3	31.1	15.5	7.8	3.94	39.5	25.6	26.7	5.8	2.3	3.97	37.1	30.9	24.7	6.2	1.0
	D0015	4.10	37.0	41.1	17.8	2.7	1.4	4.00	38.8	32.0	21.4	5.8	1.9	4.10	50.0	22.5	18.8	5.0	3.8
	D0017	4.46	58.3	29.2	12.5	0.0	0.0	4.59	67.3	24.0	8.7	0.0	0.0	4.43	59.5	23.8	16.7	0.0	0.0
	D0032	4.29	50.0	28.7	21.3	0.0	0.0	4.68	75.6	16.7	7.7	0.0	0.0	4.62	72.4	17.1	10.5	0.0	0.0
	D0032-2	4.36	50.7	34.2	15.1	0.0	0.0	4.13	37.5	39.6	20.8	2.1	0.0	4.25	50.7	31.0	14.1	1.4	2.8
専門 科目	D0102	4.49	63.0	25.9	9.3	0.9	0.9	4.72	73.9	23.9	2.2	0.0	0.0	4.63	75.0	17.3	5.8	0.0	1.9
	D0103	4.28	55.8	26.9	9.6	4.8	2.9	4.56	67.8	23.0	8.0	0.0	1.1	4.78	84.8	10.5	3.8	0.0	1.0
	D0105	4.69	77.8	13.6	8.6	0.0	0.0	4.57	63.7	29.4	6.9	0.0	0.0	4.70	75.9	18.1	6.0	0.0	0.0
	D0107	4.35	54.1	27.1	18.8	0.0	0.0	4.31	49.0	35.3	13.7	2.0	0.0	4.43	63.0	19.8	16.0	0.0	1.2
	D0110	3.81	30.4	26.6	36.7	6.3	0.0	3.94	35.0	27.0	36.0	1.0	1.0	3.94	41.7	20.2	32.1	2.4	3.6
	D0111	3.22	10.3	22.7	48.5	15.5	3.1	4.18	44.6	32.3	21.5	0.0	1.5	3.95	28.6	41.3	28.6	0.0	1.6
	D0113	3.31	21.2	22.4	35.3	8.2	12.9	3.84	31.9	27.7	34.0	5.3	1.1	4.14	43.6	32.1	20.5	2.6	1.3
	D0114	4.26	50.0	25.6	24.4	0.0	0.0	4.15	41.7	35.0	20.4	1.9	1.0	3.76	36.7	20.3	31.6	5.1	6.3
	D0118	3.89	32.0	34.7	28.0	1.3	4.0	4.11	44.8	25.7	26.7	1.9	1.0						
	D0119	3.91	38.7	28.0	24.0	4.0	5.3	4.18	42.3	35.1	20.6	2.1	0.0						
	D0123	4.50	63.3	25.5	10.2	0.0	1.0	4.56	67.0	24.2	7.7	0.0	1.1	4.50	68.0	22.3	4.9	1.9	2.9
	D0124	4.08	38.1	37.1	21.9	0.0	2.9	4.41	56.0	30.8	12.1	0.0	1.1	4.66	72.1	23.1	3.8	1.0	0.0
	D0202	4.24	41.8	40.7	17.6	0.0	0.0	4.17	39.7	41.3	15.9	3.2	0.0	4.50	59.6	30.9	9.6	0.0	0.0
	D0205	3.56	13.0	38.9	40.7	5.6	1.9	4.06	40.0	28.6	28.6	2.9	0.0	3.68	23.9	35.9	28.3	8.7	3.3
	D0206	3.80	18.8	43.8	36.5	1.0	0.0	4.38	56.6	27.6	14.5	0.0	1.3	3.91	35.0	32.0	25.0	5.0	3.0
	D0207	4.18	50.6	21.5	25.3	0.0	2.5	4.11	40.2	36.4	18.7	3.7	0.9						
	D0210	4.28	61.3	12.5	21.3	2.5	2.5	4.26	51.9	29.2	14.2	2.8	1.9	4.00	45.8	21.7	24.1	3.6	4.8
	D0211	3.15	6.3	26.0	47.9	15.6	4.2	3.90	48.4	16.1	19.4	9.7	6.5	4.29	48.5	33.3	17.2	1.0	0.0
	D0213	4.55	66.2	24.7	7.8	0.0	1.3	4.58	68.7	22.2	7.1	2.0	0.0	4.80	85.2	9.1	5.7	0.0	0.0
	D0214	3.94	32.6	32.6	32.6	1.2	1.2	4.44	62.5	23.8	11.3	0.0	2.5	4.52	62.5	28.8	7.7	0.0	1.0
	D0216	4.62	70.4	21.0	8.6	0.0	0.0	4.62	70.0	22.0	8.0	0.0	0.0	4.84	90.7	2.3	7.0	0.0	0.0
	D0217	4.33	60.0	12.5	27.5	0.0	0.0	4.30	51.5	29.1	17.5	1.9	0.0	4.14	46.6	23.9	27.3	1.1	1.1
	D0301	3.17	12.6	16.8	52.6	10.5	7.4	3.85	28.8	33.8	32.5	3.8	1.3	3.96	28.8	41.3	26.9	2.9	0.0
	D0401	4.25	48.1	36.5	11.5	0.0	3.8	4.60	69.0	21.4	9.5	0.0	0.0	4.88	87.5	12.5	0.0	0.0	0.0
	D0402	4.10	33.3	43.3	23.3	0.0	0.0	4.39	60.9	17.4	21.7	0.0	0.0	4.70	69.6	30.4	0.0	0.0	0.0
	D0501	3.24	13.8	31.0	31.0	13.8	10.3	4.00	44.0	24.0	20.0	12.0	0.0	4.71	76.5	17.6	5.9	0.0	0.0
D0502	3.54	15.4	23.1	61.5	0.0	0.0	3.85	35.0	25.0	30.0	10.0	0.0	3.67	19.0	38.1	33.3	9.5	0.0	
D0134													4.41	58.0	25.9	14.8	1.2	0.0	
D0135													4.46	58.0	29.6	12.3	0.0	0.0	

看護

表-7-17 問15 この科目を受講して総合的に満足していますか？

A:強く思う B:ややそう思う C:ふつう D:あまり思わない E:全く思わない (単位:%)

科目 コード	平成23年度						平成24年度						平成25年度					
	平均 得点	回答率					平均 得点	回答率					平均 得点	回答率				
		A	B	C	D	E		A	B	C	D	E		A	B	C	D	E
D0001	4.60	68.7	23.2	7.1	1.0	0.0	4.43	58.2	28.6	12.1	0.0	1.1	4.63	71.3	21.3	6.4	1.1	0.0
D0002	4.15	39.8	38.9	19.4	0.0	1.9	4.40	59.6	24.7	13.5	1.1	1.1	4.80	81.0	17.9	1.2	0.0	0.0
D0003	3.50	21.0	26.7	37.1	12.4	2.9	4.43	60.7	23.6	13.5	2.2	0.0	4.47	60.6	26.6	11.7	1.1	0.0
D0004	3.60	15.8	36.7	39.5	7.3	0.6	3.87	22.9	45.8	28.1	2.0	1.3	3.58	19.6	32.4	38.0	6.1	3.9
D0005	4.36	57.8	24.4	14.4	2.2	1.1	4.56	66.7	24.0	8.0	1.3	0.0	4.66	74.4	16.7	8.9	0.0	0.0
D0005-2	4.40	55.8	31.4	10.5	1.2	1.2	4.57	68.3	20.7	11.0	0.0	0.0	4.54	69.0	16.1	14.9	0.0	0.0
D0006	3.24	15.7	17.6	49.1	10.2	7.4	3.74	30.2	26.4	32.1	9.4	1.9	3.45	19.3	29.3	35.3	9.3	6.7
D0007	4.61	68.4	23.7	7.9	0.0	0.0	4.37	52.2	34.4	12.2	0.0	1.1	4.58	70.2	19.0	9.5	1.2	0.0
D0008	4.73	76.9	19.2	3.8	0.0	0.0	4.49	63.8	21.0	15.2	0.0	0.0	4.47	67.1	17.6	11.8	2.4	1.2
D0012	4.25	51.6	25.0	20.3	3.1	0.0	4.28	50.5	29.9	17.5	1.0	1.0	4.02	38.6	28.9	28.9	3.6	0.0
D0013	3.83	33.8	26.6	30.2	7.2	2.2	4.28	52.3	27.7	15.4	4.6	0.0	4.15	46.7	26.3	24.3	0.7	2.0
D0014	3.45	24.3	22.3	35.0	10.7	7.8	4.00	39.5	29.1	25.6	3.5	2.3	4.04	37.1	37.1	19.6	5.2	1.0
D0015	3.99	34.2	39.7	16.4	9.6	0.0	4.09	41.7	32.0	20.4	4.9	1.0	4.14	50.0	25.0	18.8	1.3	5.0
D0017	4.38	54.2	33.3	8.3	4.2	0.0	4.57	65.4	26.0	8.7	0.0	0.0	4.43	59.5	23.8	16.7	0.0	0.0
D0032	4.31	50.0	31.5	18.5	0.0	0.0	4.67	74.4	17.9	7.7	0.0	0.0	4.30	53.5	29.6	12.7	1.4	2.8
D0032-2	4.38	53.4	31.5	15.1	0.0	0.0	4.15	39.6	37.5	20.8	2.1	0.0	4.74	82.5	12.3	3.5	0.0	1.8
D0102	4.45	58.3	31.5	8.3	0.9	0.9	4.65	72.8	21.7	4.3	0.0	1.1	4.61	74.0	17.3	5.8	1.0	1.9
D0103	4.29	57.7	25.0	8.7	5.8	2.9	4.53	66.7	23.0	8.0	1.1	1.1	4.75	81.9	13.3	3.8	0.0	1.0
D0105	4.68	75.3	17.3	7.4	0.0	0.0	4.57	63.7	29.4	6.9	0.0	0.0	4.66	73.5	19.3	7.2	0.0	0.0
D0107	4.38	54.1	29.4	16.5	0.0	0.0	4.36	51.0	35.3	12.7	1.0	0.0	4.46	65.4	17.3	16.0	0.0	1.2
D0110	3.82	31.6	25.3	36.7	6.3	0.0	3.91	33.3	28.3	35.4	2.0	1.0	3.92	43.5	16.5	32.9	2.4	4.7
D0111	3.21	10.4	20.8	52.1	12.5	4.2	4.17	43.1	33.8	21.5	0.0	1.5	3.90	27.0	39.7	31.7	0.0	1.6
D0113	3.32	23.5	16.5	41.2	5.9	12.9	3.82	30.9	26.6	37.2	4.3	1.1	4.17	45.5	31.2	19.5	2.6	1.3
D0114	4.27	50.0	26.9	23.1	0.0	0.0	4.17	40.8	38.8	16.5	3.9	0.0	3.70	35.4	20.3	29.1	8.9	6.3
D0118	3.85	32.0	33.3	26.7	4.0	4.0	4.11	43.8	26.7	27.6	1.0	1.0						
D0119	3.89	37.3	26.7	26.7	6.7	2.7	4.15	39.2	38.1	21.6	1.0	0.0						
D0123	4.49	60.6	30.3	8.1	0.0	1.0	4.59	71.1	21.1	5.6	0.0	2.2	4.49	62.1	29.1	5.8	1.0	1.9
D0124	4.10	36.2	41.9	19.0	1.9	1.0	4.37	56.0	29.7	11.0	2.2	1.1	4.64	70.2	25.0	3.8	1.0	0.0
D0202	4.24	40.7	42.9	16.5	0.0	0.0	4.16	39.7	39.7	17.5	3.2	0.0	4.52	61.7	28.7	9.6	0.0	0.0
D0205	3.56	13.0	38.0	43.5	3.7	1.9	4.06	38.6	30.0	30.0	1.4	0.0	3.62	22.0	36.3	27.5	9.9	4.4
D0206	3.76	17.9	43.2	35.8	3.2	0.0	4.37	55.3	28.9	14.5	0.0	1.3	3.87	33.0	33.0	26.0	4.0	4.0
D0207	4.17	48.7	24.4	24.4	0.0	2.6	4.07	37.4	38.3	17.8	6.5	0.0						
D0210	4.18	53.8	20.0	20.0	2.5	3.8	4.25	49.1	32.1	16.0	0.9	1.9	3.96	45.8	21.7	21.7	4.8	6.0
D0211	3.05	4.2	26.0	47.9	14.6	7.3	3.84	45.2	19.4	16.1	12.9	6.5	4.26	46.5	35.4	16.2	2.0	0.0
D0213	4.51	66.2	20.8	11.7	0.0	1.3	4.56	66.7	24.2	7.1	2.0	0.0	4.74	81.1	12.2	6.7	0.0	0.0
D0214	3.86	29.1	31.4	37.2	1.2	1.2	4.46	63.8	21.3	13.8	0.0	1.3	4.53	62.5	28.8	7.7	1.0	0.0
D0216	4.65	70.0	25.0	5.0	0.0	0.0	4.60	69.0	22.0	9.0	0.0	0.0	4.84	90.7	2.3	7.0	0.0	0.0
D0217	4.33	58.8	15.0	26.3	0.0	0.0	4.34	50.5	35.0	12.6	1.9	0.0	4.13	45.5	25.0	27.3	1.1	1.1
D0301	3.11	6.3	21.1	55.8	10.5	6.3	3.85	30.0	31.3	33.8	3.8	1.3	3.99	29.8	41.3	26.9	1.9	0.0
D0401	4.27	50.0	32.7	13.5	1.9	1.9	4.57	66.7	23.8	9.5	0.0	0.0	4.79	79.2	20.8	0.0	0.0	0.0
D0402	4.07	33.3	43.3	20.0	3.3	0.0	4.39	60.9	17.4	21.7	0.0	0.0	4.65	65.2	34.8	0.0	0.0	0.0
D0501	3.21	13.8	27.6	34.5	13.8	10.3	4.12	48.0	24.0	20.0	8.0	0.0	4.71	76.5	17.6	5.9	0.0	0.0
D0502	3.62	15.4	30.8	53.8	0.0	0.0	3.75	35.0	25.0	25.0	10.0	5.0	3.81	23.8	38.1	33.3	4.8	0.0
D0134													4.40	59.3	23.5	16.0	0.0	1.2
D0135													4.49	60.5	28.4	11.1	0.0	0.0

7.1.2.2 理学療法学科

【現状】

(1) 学生の出席状況 (表 7-18)

“遅刻や欠席をせずに受講した”(「強くそう思う」「ややそう思う」「ふつう)」と全員が回答した科目は、専門基礎科目 28 科目において、平成 23 年度 6 科目、平成 24 年度 8 科目、平成 25 年度 13 科目であった。また、専門科目 22 科目において、平成 23 年度 15 科目、平成 24 年度 12 科目、平成 25 年度 3 科目であった。残りの科目の「あまりそう思わない」「全くそう思わない」への回答は 5～10% 以内であった。

(2) 学生の授業への取り組み (表 7-19)

“授業に意欲的に取り組んだ”(「強くそう思う」「ややそう思う」「ふつう)」と全員が回答した科目は、専門基礎科目 28 科目において、平成 23 年度 8 科目、平成 24 年度 11 科目、平成 25 年度 14 科目であった。また、専門科目 22 科目において、平成 23 年度 15 科目、平成 24 年度 8 科目、平成 25 年度 8 科目であった。残りの科目の「あまりそう思わない」「全くそう思わない」への回答は 5～10% 以内であった。

(3) 授業内容の理解 (表 7-20)

“授業内容を理解できた”(「強くそう思う」「ややそう思う」「ふつう)」と全員が回答した科目は、専門基礎科目 28 科目において、平成 23 年度 8 科目、平成 24 年度 8 科目、平成 25 年度 7 科目であった。また、専門科目 22 科目において、平成 23 年度 12 科目、平成 24 年度 5 科目、平成 25 年度 5 科目であった。残りの科目の「あまりそう思わない」「全くそう思わない」への回答は 5～10% 以内であった。

(4) 授業内容への興味 (表 7-21)

“授業内容に興味をもてた”(「強くそう思う」「ややそう思う」「ふつう)」と全員が回答した科目は、専門基礎科目 28 科目において、平成 23 年度 7 科目、平成 24 年度 9 科目、平成 25 年度 8 科目であった。また、専門科目 22 科目において、平成 23 年度 11 科目、平成 24 年度 2 科目、平成 25 年度 6 科目であった。残りの科目の「あまりそう思わない」「全くそう思わない」への回答は 5～10% 以内であった。

(5) シラバスの内容に沿った授業内容か (表 7-22)

“シラバスの内容に沿った授業内容だった”(「強くそう思う」「ややそう思う」「ふつう)」と全員が回答した科目は、専門基礎科目 28 科目において、平成 23 年度 18 科目、平成 24 年度 20 科目、平成 25 年度 14 科目であった。また、専門科目 22 科目において、平成 23 年度 18 科目、平成 24 年度 11 科目、平成 25 年度 8 科目であった。残りの科目の「あまりそう思わない」「全くそう思わない」への回答は 5～10% 以内であった。

(6) 授業のねらいや評価方法の明確性 (表 7-23)

“授業のねらいや評価の方法が明確だった”(「強くそう思う」「ややそう思う」「ふつう)」と全員が回答した科目は、専門基礎科目 28 科目において、平成 23 年度 16 科目、平成 24 年度 17 科目、平成

25年度8科目であった。また、専門科目22科目において、平成23年度15科目、平成24年度11科目、平成25年度8科目であった。残りの科目の「あまりそう思わない」「全くそう思わない」への回答は5～10%以内であった。

(7) 授業の開始・終了時間 (表 7-24)

“授業開始・終了時間を守っていた”（「強くそう思う」「ややそう思う」「ふつう」）と全員が回答した科目は、専門基礎科目28科目において、平成23年度13科目、平成24年度15科目、平成25年度12科目であった。また、専門科目22科目において、平成23年度12科目、平成24年度10科目、平成25年度5科目であった。残りの科目の「あまりそう思わない」「全くそう思わない」への回答は5～10%以内であった。

(8) 学生の理解度への考慮 (表 7-25)

“学生の理解度を考慮しながら授業していた”（「強くそう思う」「ややそう思う」「ふつう」）と全員が回答した科目は、専門基礎科目28科目において、平成23年度11科目、平成24年度8科目、平成25年度9科目であった。また、専門科目22科目において、平成23年度11科目、平成24年度5科目、平成25年度7科目であった。残りの科目の「あまりそう思わない」「全くそう思わない」への回答は5～10%以内であった。

(9) 教材の適切な使用 (表 7-26)

“板書・視聴覚教材による資料掲示・デモンストレーション等はよかった”（「強くそう思う」「ややそう思う」「ふつう」）と全員が回答した科目は、専門基礎科目28科目において、平成23年度12科目、平成24年度8科目、平成25年度9科目であった。また、専門科目22科目において、平成23年度12科目、平成24年度7科目、平成25年度4科目であった。残りの科目の「あまりそう思わない」「全くそう思わない」への回答は5～10%以内であった。

(10) 教員の誠実な対応 (表 7-27)

“学生に対して誠実だった”（「強くそう思う」「ややそう思う」「ふつう」）と全員が回答した科目は、専門基礎科目28科目において、平成23年度15科目、平成24年度13科目、平成25年度10科目であった。また、専門科目22科目において、平成23年度16科目、平成24年度14科目、平成25年度9科目であった。残りの科目の「あまりそう思わない」「全くそう思わない」への回答は5～10%以内であった。

(11) 私語への対応 (表 7-28)

“私語に対して適切に対応していた”（「強くそう思う」「ややそう思う」「ふつう」）と全員が回答した科目は、専門基礎科目28科目において、平成23年度10科目、平成24年度15科目、平成25年度13科目であった。また、専門科目22科目において、平成23年度16科目、平成24年度14科目、平成25年度8科目であった。残りの科目の「あまりそう思わない」「全くそう思わない」への回答は5～10%以内であった。

(12) 教員の言動 (表 7-29)

“教員の言動に不快な点はなく気持ちよく受講できた”（「強くそう思う」「ややそう思う」「ふつう」）

と全員が回答した科目は、専門基礎科目 28 科目において、平成 23 年度 15 科目、平成 24 年度 11 科目、平成 25 年度 11 科目であった。また、専門科目 22 科目において、平成 23 年度 11 科目、平成 24 年度 11 科目、平成 25 年度 7 科目であった。残りの科目の「あまりそう思わない」「全くそう思わない」への回答は 5～10%以内であった。

(13) 教員の熱意 (表 7-30)

“教員の授業に対する熱意が感じられた”(「強くそう思う」「ややそう思う」「ふつう」と全員が回答した科目は、専門基礎科目 28 科目において、平成 23 年度 12 科目、平成 24 年度 12 科目、平成 25 年度 13 科目であった。また、専門科目 22 科目において、平成 23 年度 16 科目、平成 24 年度 11 科目、平成 25 年度 8 科目であった。残りの科目の「あまりそう思わない」「全くそう思わない」への回答は 5～10%以内であった。

(14) 本学の後輩にすすめたいか (表 7-31)

“この科目を本学の後輩にすすめたい”(「強くそう思う」「ややそう思う」「ふつう」と全員が回答した科目は、専門基礎科目 28 科目において、平成 23 年度 12 科目、平成 24 年度 12 科目、平成 25 年度 9 科目であった。また、専門科目 22 科目において、平成 23 年度 14 科目、平成 24 年度 6 科目、平成 25 年度 5 科目であった。残りの科目の「あまりそう思わない」「全くそう思わない」への回答は 5～10%以内であった。

(15) 総合的満足度 (表 7-32)

“この科目を受講して総合的に満足している”(「強くそう思う」「ややそう思う」「ふつう」と全員が回答した科目は、専門基礎科目 28 科目において、平成 23 年度 11 科目、平成 24 年度 10 科目、平成 25 年度 12 科目であった。また、専門科目 22 科目において、平成 23 年度 16 科目、平成 24 年度 6 科目、平成 25 年度 6 科目であった。残りの科目の「あまりそう思わない」「全くそう思わない」への回答は 5～10%以内であった。

【評価】

学生の出席状況については、基礎専門科目においては平成 23 年度に否定的な回答のあった科目があったものの、平成 25 年には全ての科目において約 5%以内となり改善が見られている。一方で専門科目においては、年次を経て遅刻・欠席者が増加する傾向が見受けられる。

授業への意欲的な取り組みについては、専門基礎科目において肯定的な回答が増加し改善が見られている。しかし、専門科目においては平成 24 年度から徐々に否定的な回答が増加していることから、意欲的に取り組めなかったことが遅刻・欠席と関連しているのではないかと考えられる。

授業内容の理解では、専門基礎科目においては、大半の科目において授業内容を理解できたという回答を得た。しかしながら、いずれの年度も否定的な回答が多い科目が見受けられる。専門科目においては、年次を経て授業を理解できなかったと感じている学生が増加している傾向が見られる。授業の理解ができなかった理由として、科目自体の複雑さや知識の多さ、教員の知識の提供の方法など複数の要因があると考えられる。

授業内容へ興味については専門基礎科目および専門科目の大半の科目において、興味を持った学生が多かった。しかし、理解できなかった科目に対しては興味が低い傾向が見られることから、理解度の低さと興味とは関連があると思われる。

シラバスに沿った内容であったかについては、専門基礎科目においてはおおむねシラバスに沿った授業が提供されたことが伺える。しかしながら、専門科目においては年次を経て肯定的な回答が減少している。この原因として専門科目ではより実践的な内容となるため、シラバスで提示されている内容から発展的となることが考えられる。

授業のねらいや評価方法については、いずれの年度においても、否定的な回答の割合は低い値を示しており明確に示されていることが伺える。しかしながら、その割合は増加していることから、授業のねらいを明確に受け取れていないまま授業を受けている学生が増加していると考えられる。

授業の開始・終了時間については専門基礎科目では、年次を経ていずれの科目も需要時間は守られているという回答されており、年次間での大きな変化は見られなかった。しかしながら、専門科目では授業時間が守られていないと回答される科目が増加している。専門科目の内容は実技を含むことが多いため、学生の進度に応じて授業時間が超過することが考えられる。

専門基礎科目においてはいずれの年度も否定的な回答する学生の割合が高い科目があるものの、大半の科目においては理解度を考慮して行われていると感じていることが明らかとなっている。しかしながら、専門科目においては、考慮されていないと回答される科目が増加傾向を認め、その割合も高くなる傾向が見られる。

適切な教材の使用については、同様の科目において否定的な回答されていることから、学生の理解度が考慮されていないと感じる一因として、理解を促すための教材配布や映像提示やデモンストレーション等の不足を感じていることが考えられる。

学生への誠実さは、年次を経て否定的な回答の割合に増加傾向が見られるが、専門基礎科目、専門科目のいずれにおいてもおおむね誠実に対応していたと回答されていた。

私語に対する対応については、いずれの年次も肯定的な回答が多く適切に対応していることが伺える。

教員の言動について不快なく気持ちよく受講できた科目については、否定的な回答が多い年次もあるが、その後改善が見られている。

教員の熱意についても、専門基礎科目において熱意が感じられないと否定的な回答を得た科目があったが、年次を経て改善が見られた。年次間で大きな変化はなく、教員の熱意が学生に伝わっていると考えられる。このように、学生に対する教員の姿勢は肯定的に受け取られていると考えられる。

授業を後輩にすすめたいかは、専門科目においては否定的に考える学生が増加していることが見受けられる。後輩にすすめたいと思わない理由は明らかではないが、授業内容が専門的になり、内容が複雑になることに充実感を得にくいことが一因として考えられる。

授業の総合的満足については専門基礎科目については、年次を経て同様の結果が得られたものの、否定的な回答が多い数科目については、総合的満足度も低かった。専門科目においては、年次を経て

満足度を感じる学生が低くなる結果が得られた。

【課題】

(1) 授業に対する教員の課題

授業評価の結果から、学生が理解できなかったと感じる科目については、授業への意欲の低下や教員への姿勢に否定的になるといった負の連鎖が生じる可能性が示唆された。特に知識量を多く教授される専門基礎科目においてその傾向が見受けられた。したがって専門基礎学力の意欲向上と理解向上の双方へアプローチを行うことが必要ではないか考えられる。専門科目においては、年次を経て遅刻・欠席の増加といった参加姿勢の乱れが見受けられる。一方、授業時間の超過が増加している。超過の理由として丁寧な指導などが考えられるが、学生の時間厳守に対する意識向上のためには、教員の授業時間順守が必要ではないかと考えられる。また、シラバスの内容に即していないと感じる学生や授業のねらいをとらえ切れていない学生が増加している傾向もみられる。したがって、教員の一方的な授業進行ではなく、学生にも授業進行の過程を認識してもらう工夫をする必要があることが示唆された。

(2) 評価に対する課題

今回の結果では、専門基礎科目において否定的な回答が多い傾向にあった。基礎知識を教授する科目は、その教授量が多いため、学生の理解を得ながら授業を進めることが難しいという現状がある。しかしながら、本評価は学生からのアンケート回答のみから分析を行うため、提供される科目の性質が反映されないことが課題として挙げられる。また、担当教員の変更やカリキュラム構成の変更時には学生に提供される内容やそのスタイルが異なることから、科目としての年次比較は適切でないことも課題である。

理学療法

表-7-18 問1 あなたはこの授業に遅刻や欠席をせずに受講しましたか？

A: 強く思う B: やや思う C: ふつう D: あまり思わない E: まったく思わない

(単位: %)

科目 コード	平成23年度						平成24年度						平成25年度					
	平均 得点	回答率					平均 得点	回答率					平均 得点	回答率				
		A	B	C	D	E		A	B	C	D	E		A	B	C	D	E
D0004	4.77	84.7	11.3	1.7	1.1	1.1	4.64	80.5	10.4	3.9	3.2	1.9	4.90	94.4	2.2	2.2	1.1	0.0
D0005	4.73	84.0	7.7	6.0	1.7	0.6	4.62	72.1	19.4	7.4	1.2	0.0	4.83	85.9	11.3	2.8	0.0	0.0
D0018	4.38	59.0	21.8	17.9	1.3	0.0	4.57	71.0	16.0	12.2	0.8	0.0	4.46	67.1	14.1	17.1	1.8	0.0
D0019	4.64	74.4	15.0	10.6	0.0	0.0	4.64	77.5	9.2	13.4	0.0	0.0	4.64	75.6	14.5	8.7	0.6	0.6
D0020	4.24	57.7	14.1	23.1	5.1	0.0	4.55	72.7	14.5	7.3	5.5	0.0	4.62	76.7	13.3	5.0	5.0	0.0
D0021	4.63	76.3	11.3	11.3	1.3	0.0	4.68	75.0	19.4	4.2	1.4	0.0	4.76	81.5	13.0	5.4	0.0	0.0
D0022	4.80	88.6	5.7	2.9	2.9	0.0	4.81	90.5	4.1	2.7	1.4	1.4	4.73	77.6	17.9	4.5	0.0	0.0
D0027	4.24	58.1	18.9	12.2	10.8	0.0	4.46	64.1	20.5	12.8	2.6	0.0	4.66	69.0	27.6	3.4	0.0	0.0
D1008	4.52	67.2	17.2	15.5	0.0	0.0	4.53	71.1	13.2	13.2	2.6	0.0						
D1011	4.79	85.7	8.6	4.3	1.4	0.0	4.79	81.7	15.5	2.8	0.0	0.0	4.71	80.5	11.7	6.5	1.3	0.0
D1012	4.73	80.8	12.3	5.5	1.4	0.0	4.68	78.3	13.0	7.2	1.4	0.0	4.67	77.1	12.9	10.0	0.0	0.0
D1013	4.39	67.3	14.3	8.2	10.2	0.0	4.74	79.4	14.7	5.9	0.0	0.0	4.51	61.5	27.7	10.8	0.0	0.0
D1014	4.78	82.1	14.9	1.5	1.5	0.0	4.68	76.8	15.9	5.8	1.4	0.0	4.79	84.2	11.8	2.6	1.3	0.0
D1015	4.27	60.0	13.3	20.0	6.7	0.0	4.69	76.1	16.4	7.5	0.0	0.0	4.63	70.0	22.9	7.1	0.0	0.0
D1016							4.83	88.9	6.9	2.8	1.4	0.0	4.79	84.0	10.7	5.3	0.0	0.0
D1017	4.59	74.3	14.9	6.8	4.1	0.0	4.58	68.5	21.9	8.2	1.4	0.0	4.82	87.2	7.7	5.1	0.0	0.0
D1018							4.40	62.7	23.9	4.5	9.0	0.0	4.64	73.3	18.7	6.7	1.3	0.0
D1019	4.61	75.9	12.0	9.3	2.8	0.0	4.73	80.5	11.7	7.8	0.0	0.0	4.77	83.1	10.4	6.5	0.0	0.0
D1102	4.67	75.0	18.8	4.2	2.1	0.0	4.43	60.7	24.6	11.5	3.3	0.0	4.52	66.2	24.6	6.2	1.5	1.5
D1103	4.69	76.9	15.4	7.7	0.0	0.0							4.12	46.4	27.5	20.3	2.9	2.9
D1104	4.27	61.7	10.0	21.7	6.7	0.0	4.66	80.3	7.9	9.2	2.6	0.0	4.59	70.7	18.7	9.3	1.3	0.0
D1109	4.68	79.2	9.4	11.3	0.0	0.0	4.63	73.1	16.4	10.4	0.0	0.0	4.35	59.2	16.9	23.9	0.0	0.0
D1110							4.78	83.3	12.5	2.8	1.4	0.0	4.88	87.8	12.2	0.0	0.0	0.0
D1117	4.48	69.4	17.7	6.5	4.8	1.6	4.65	78.3	11.6	7.2	2.9	0.0	4.88	89.0	9.6	1.4	0.0	0.0
D1118	4.68	78.7	13.3	5.3	2.7	0.0	4.69	75.7	17.1	7.1	0.0	0.0	4.55	66.7	23.2	8.7	1.4	0.0
D1205	4.33	56.9	20.7	20.7	1.7	0.0	4.28	59.6	14.0	21.1	5.3	0.0	4.31	54.8	22.6	21.0	1.6	0.0
D1217	4.95	97.4	0.0	2.6	0.0	0.0	4.59	76.5	8.7	12.2	2.6	0.0	4.69	81.8	7.3	8.8	2.2	0.0
D1511	4.69	76.4	16.4	7.3	0.0	0.0	4.42	58.2	25.5	16.4	0.0	0.0	4.60	74.6	14.3	9.5	0.0	1.6
D0026	4.55	66.1	25.0	7.1	1.8	0.0	4.61	70.7	19.5	9.8	0.0	0.0	4.40	62.2	21.0	11.3	5.6	0.0
D1301	4.65	80.6	8.3	6.9	4.2	0.0	4.72	81.2	11.6	5.8	1.4	0.0	4.68	76.3	18.4	3.9	0.0	1.3
D1401	4.50	71.7	11.7	11.7	5.0	0.0	4.79	84.7	9.7	5.6	0.0	0.0	4.82	87.3	7.0	5.6	0.0	0.0
D1402	4.54	70.2	13.6	16.2	0.0	0.0	4.48	65.1	20.3	11.7	2.9	0.0						
D1404	4.47	69.3	14.6	10.1	6.0	0.0	4.44	62.2	19.9	17.9	0.0	0.0						
D1501	4.41	61.1	22.2	13.0	3.7	0.0							4.46	66.6	13.0	20.4	0.0	0.0
D1502	4.82	84.1	14.0	1.9	0.0	0.0	4.60	73.7	14.0	10.6	1.7	0.0	4.51	68.5	16.5	12.0	3.0	0.0
D1503	4.68	74.7	19.0	6.3	0.0	0.0	4.46	67.4	10.8	21.8	0.0	0.0	4.44	65.6	19.2	10.8	2.8	1.6
D1504	4.76	80.0	16.4	3.6	0.0	0.0	4.47	61.8	23.6	14.5	0.0	0.0	4.62	77.0	11.5	8.2	3.3	0.0
D1505	4.80	81.8	16.4	1.8	0.0	0.0	4.62	72.0	18.0	10.0	0.0	0.0	4.44	67.6	11.8	17.6	2.9	0.0
D1506	4.76	78.1	20.0	1.9	0.0	0.0	4.32	54.6	22.6	22.8	0.0	0.0	4.46	69.0	12.2	15.7	1.7	1.5
D1507	4.65	73.7	17.5	8.8	0.0	0.0	4.25	52.8	22.6	20.8	3.8	0.0						
D1508	4.64	72.7	18.2	9.1	0.0	0.0	4.36	60.0	16.4	23.6	0.0	0.0	4.40	56.9	27.7	13.8	1.5	0.0
D1509	4.80	81.6	16.5	1.9	0.0	0.0							4.34	62.5	17.9	10.7	8.9	0.0
D1510	4.73	78.9	15.4	5.8	0.0	0.0	4.27	53.6	23.5	19.6	3.3	0.0	4.37	58.4	26.2	9.2	6.2	0.0
D1512	4.60	69.1	21.8	9.1	0.0	0.0	4.31	56.4	18.2	25.5	0.0	0.0	4.42	58.5	26.2	13.8	1.5	0.0
D1513	4.70	73.2	23.2	3.6	0.0	0.0	4.54	64.8	24.1	11.1	0.0	0.0						
D1514	4.80	82.1	16.1	1.8	0.0	0.0	4.26	54.4	19.3	24.6	1.8	0.0	4.57	70.1	17.9	10.4	1.5	0.0
D1515	4.30	54.7	24.5	18.9	0.0	1.9	4.55	67.9	22.6	5.7	3.8	0.0						
D1516							4.31	54.3	24.3	20.0	1.4	0.0	4.39	58.2	26.9	11.9	1.5	1.5
D1601	4.73	78.6	16.1	5.4	0.0	0.0	4.36	57.1	21.4	21.4	0.0	0.0	4.39	60.6	18.2	21.2	0.0	0.0
D1603	4.74	83.5	7.3	9.2	0.0	0.0	4.47	63.5	20.2	16.3	0.0	0.0	4.37	58.8	20.8	19.0	1.4	0.0

理学療法

表-7-19 問2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか？

A: 強くそう思う B: ややそう思う C: ふつう D: あまり思わない E: まったくそう思わない

(単位: %)

科目 コード	平成23年度						平成24年度						平成25年度					
	平均 得点	回答率					平均 得点	回答率					平均 得点	回答率				
		A	B	C	D	E		A	B	C	D	E		A	B	C	D	E
D0004	4.77	84.7	11.3	1.7	1.1	1.1	4.64	80.5	10.4	3.9	3.2	1.9	4.90	94.4	2.2	2.2	1.1	0.0
D0005	4.73	84.0	7.7	6.0	1.7	0.6	4.62	72.1	19.4	7.4	1.2	0.0	4.83	85.9	11.3	2.8	0.0	0.0
D0018	4.38	59.0	21.8	17.9	1.3	0.0	4.57	71.0	16.0	12.2	0.8	0.0	4.46	67.1	14.1	17.1	1.8	0.0
D0019	4.64	74.4	15.0	10.6	0.0	0.0	4.64	77.5	9.2	13.4	0.0	0.0	4.64	75.6	14.5	8.7	0.6	0.6
D0020	4.24	57.7	14.1	23.1	5.1	0.0	4.55	72.7	14.5	7.3	5.5	0.0	4.62	76.7	13.3	5.0	5.0	0.0
D0021	4.63	76.3	11.3	11.3	1.3	0.0	4.68	75.0	19.4	4.2	1.4	0.0	4.76	81.5	13.0	5.4	0.0	0.0
D0022	4.80	88.6	5.7	2.9	2.9	0.0	4.81	90.5	4.1	2.7	1.4	1.4	4.73	77.6	17.9	4.5	0.0	0.0
D0027	4.24	58.1	18.9	12.2	10.8	0.0	4.46	64.1	20.5	12.8	2.6	0.0	4.66	69.0	27.6	3.4	0.0	0.0
D1008	4.52	67.2	17.2	15.5	0.0	0.0	4.53	71.1	13.2	13.2	2.6	0.0						
D1011	4.79	85.7	8.6	4.3	1.4	0.0	4.79	81.7	15.5	2.8	0.0	0.0	4.71	80.5	11.7	6.5	1.3	0.0
D1012	4.73	80.8	12.3	5.5	1.4	0.0	4.68	78.3	13.0	7.2	1.4	0.0	4.67	77.1	12.9	10.0	0.0	0.0
D1013	4.39	67.3	14.3	8.2	10.2	0.0	4.74	79.4	14.7	5.9	0.0	0.0	4.51	61.5	27.7	10.8	0.0	0.0
D1014	4.78	82.1	14.9	1.5	1.5	0.0	4.68	76.8	15.9	5.8	1.4	0.0	4.79	84.2	11.8	2.6	1.3	0.0
D1015	4.27	60.0	13.3	20.0	6.7	0.0	4.69	76.1	16.4	7.5	0.0	0.0	4.63	70.0	22.9	7.1	0.0	0.0
D1016							4.83	88.9	6.9	2.8	1.4	0.0	4.79	84.0	10.7	5.3	0.0	0.0
D1017	4.59	74.3	14.9	6.8	4.1	0.0	4.58	68.5	21.9	8.2	1.4	0.0	4.82	87.2	7.7	5.1	0.0	0.0
D1018							4.40	62.7	23.9	4.5	9.0	0.0	4.64	73.3	18.7	6.7	1.3	0.0
D1019	4.61	75.9	12.0	9.3	2.8	0.0	4.73	80.5	11.7	7.8	0.0	0.0	4.77	83.1	10.4	6.5	0.0	0.0
D1102	4.67	75.0	18.8	4.2	2.1	0.0	4.43	60.7	24.6	11.5	3.3	0.0	4.52	66.2	24.6	6.2	1.5	1.5
D1103	4.69	76.9	15.4	7.7	0.0	0.0							4.12	46.4	27.5	20.3	2.9	2.9
D1104	4.27	61.7	10.0	21.7	6.7	0.0	4.66	80.3	7.9	9.2	2.6	0.0	4.59	70.7	18.7	9.3	1.3	0.0
D1109	4.68	79.2	9.4	11.3	0.0	0.0	4.63	73.1	16.4	10.4	0.0	0.0	4.35	59.2	16.9	23.9	0.0	0.0
D1110							4.78	83.3	12.5	2.8	1.4	0.0	4.88	87.8	12.2	0.0	0.0	0.0
D1117	4.48	69.4	17.7	6.5	4.8	1.6	4.65	78.3	11.6	7.2	2.9	0.0	4.88	89.0	9.6	1.4	0.0	0.0
D1118	4.68	78.7	13.3	5.3	2.7	0.0	4.69	75.7	17.1	7.1	0.0	0.0	4.55	66.7	23.2	8.7	1.4	0.0
D1205	4.33	56.9	20.7	20.7	1.7	0.0	4.28	59.6	14.0	21.1	5.3	0.0	4.31	54.8	22.6	21.0	1.6	0.0
D1217	4.95	97.4	0.0	2.6	0.0	0.0	4.59	76.5	8.7	12.2	2.6	0.0	4.69	81.8	7.3	8.8	2.2	0.0
D1511	4.69	76.4	16.4	7.3	0.0	0.0	4.42	58.2	25.5	16.4	0.0	0.0	4.60	74.6	14.3	9.5	0.0	1.6
D0026	4.55	66.1	25.0	7.1	1.8	0.0	4.61	70.7	19.5	9.8	0.0	0.0	4.40	62.2	21.0	11.3	5.6	0.0
D1301	4.65	80.6	8.3	6.9	4.2	0.0	4.72	81.2	11.6	5.8	1.4	0.0	4.68	76.3	18.4	3.9	0.0	1.3
D1401	4.50	71.7	11.7	11.7	5.0	0.0	4.79	84.7	9.7	5.6	0.0	0.0	4.82	87.3	7.0	5.6	0.0	0.0
D1402	4.54	70.2	13.6	16.2	0.0	0.0	4.48	65.1	20.3	11.7	2.9	0.0						
D1404	4.47	69.3	14.6	10.1	6.0	0.0	4.44	62.2	19.9	17.9	0.0	0.0						
D1501	4.41	61.1	22.2	13.0	3.7	0.0							4.46	66.6	13.0	20.4	0.0	0.0
D1502	4.82	84.1	14.0	1.9	0.0	0.0	4.60	73.7	14.0	10.6	1.7	0.0	4.51	68.5	16.5	12.0	3.0	0.0
D1503	4.68	74.7	19.0	6.3	0.0	0.0	4.46	67.4	10.8	21.8	0.0	0.0	4.44	65.6	19.2	10.8	2.8	1.6
D1504	4.76	80.0	16.4	3.6	0.0	0.0	4.47	61.8	23.6	14.5	0.0	0.0	4.62	77.0	11.5	8.2	3.3	0.0
D1505	4.80	81.8	16.4	1.8	0.0	0.0	4.62	72.0	18.0	10.0	0.0	0.0	4.44	67.6	11.8	17.6	2.9	0.0
D1506	4.76	78.1	20.0	1.9	0.0	0.0	4.32	54.6	22.6	22.8	0.0	0.0	4.46	69.0	12.2	15.7	1.7	1.5
D1507	4.65	73.7	17.5	8.8	0.0	0.0	4.25	52.8	22.6	20.8	3.8	0.0						
D1508	4.64	72.7	18.2	9.1	0.0	0.0	4.36	60.0	16.4	23.6	0.0	0.0	4.40	56.9	27.7	13.8	1.5	0.0
D1509	4.80	81.6	16.5	1.9	0.0	0.0							4.34	62.5	17.9	10.7	8.9	0.0
D1510	4.73	78.9	15.4	5.8	0.0	0.0	4.27	53.6	23.5	19.6	3.3	0.0	4.37	58.4	26.2	9.2	6.2	0.0
D1512	4.60	69.1	21.8	9.1	0.0	0.0	4.31	56.4	18.2	25.5	0.0	0.0	4.42	58.5	26.2	13.8	1.5	0.0
D1513	4.70	73.2	23.2	3.6	0.0	0.0	4.54	64.8	24.1	11.1	0.0	0.0						
D1514	4.80	82.1	16.1	1.8	0.0	0.0	4.26	54.4	19.3	24.6	1.8	0.0	4.57	70.1	17.9	10.4	1.5	0.0
D1515	4.30	54.7	24.5	18.9	0.0	1.9	4.55	67.9	22.6	5.7	3.8	0.0						
D1516							4.31	54.3	24.3	20.0	1.4	0.0	4.39	58.2	26.9	11.9	1.5	1.5
D1601	4.73	78.6	16.1	5.4	0.0	0.0	4.36	57.1	21.4	21.4	0.0	0.0	4.39	60.6	18.2	21.2	0.0	0.0
D1603	4.74	83.5	7.3	9.2	0.0	0.0	4.47	63.5	20.2	16.3	0.0	0.0	4.37	58.8	20.8	19.0	1.4	0.0

理学療法

表-7-20 問3 あなたは授業内容を理解できましたか？

A: 強く思う B: ややそう思う C: ふつう D: あまり思わない E: まったく思わない

(単位: %)

科目 コード	平成23年度						平成24年度						平成25年度					
	平均 得点	回答率					平均 得点	回答率					平均 得点	回答率				
		A	B	C	D	E		A	B	C	D	E		A	B	C	D	E
D0004	3.39	5.1	39.0	46.9	7.9	1.1	3.58	12.4	39.9	41.2	6.5	0.0	3.28	8.3	30.0	45.6	13.9	2.2
D0005	4.45	56.8	31.6	11.6	0.0	0.0	4.58	63.3	31.2	5.5	0.0	0.0	4.67	72.8	21.1	6.1	0.0	0.0
D0018	3.94	28.2	37.8	33.3	0.6	0.0	4.03	35.9	33.6	28.2	2.3	0.0	4.02	35.1	33.9	28.7	2.3	0.0
D0019	3.89	23.8	45.0	28.1	3.1	0.0	3.95	33.8	28.9	35.9	1.4	0.0	4.09	42.4	29.7	23.8	2.3	1.7
D0020	4.13	32.1	48.7	19.2	0.0	0.0	4.47	54.5	40.0	3.6	1.8	0.0	4.68	71.7	25.0	3.3	0.0	0.0
D0021	4.01	32.5	40.0	25.0	1.3	1.3	4.13	33.3	45.8	20.8	0.0	0.0	4.34	50.0	33.7	16.3	0.0	0.0
D0022	4.44	49.5	44.8	5.7	0.0	0.0	4.38	43.2	51.4	5.4	0.0	0.0	4.54	59.7	34.3	6.0	0.0	0.0
D0027	4.11	41.9	28.4	28.4	1.4	0.0	3.72	20.5	35.9	38.5	5.1	0.0	4.59	65.5	27.6	6.9	0.0	0.0
D1008	3.53	24.1	19.0	46.6	6.9	3.4	3.97	39.5	21.1	36.8	2.6	0.0						
D1011	4.19	32.9	52.9	14.3	0.0	0.0	4.18	35.2	47.9	16.9	0.0	0.0	3.91	31.2	32.5	33.8	1.3	1.3
D1012	4.07	35.6	37.0	26.0	1.4	0.0	4.48	56.5	36.2	5.8	1.4	0.0	4.55	70.4	15.5	12.7	1.4	0.0
D1013	3.63	12.2	46.9	32.7	8.2	0.0	3.79	20.6	42.6	32.4	4.4	0.0	4.00	35.4	33.8	26.2	4.6	0.0
D1014	4.28	46.3	38.8	11.9	3.0	0.0	2.74	5.7	14.3	38.6	31.4	10.0	3.04	26.3	5.3	30.3	22.4	15.8
D1015	3.67	11.1	46.7	40.0	2.2	0.0	3.81	22.4	37.3	38.8	1.5	0.0	4.29	50.7	29.0	18.8	1.4	0.0
D1016							3.78	18.1	43.1	37.5	1.4	0.0	4.21	41.3	40.0	17.3	1.3	0.0
D1017	3.92	29.7	39.2	24.3	6.8	0.0	4.06	33.3	43.1	19.4	4.2	0.0	4.29	50.0	33.3	12.8	3.8	0.0
D1018							4.03	31.3	41.8	25.4	1.5	0.0	4.24	49.3	30.7	14.7	5.3	0.0
D1019	4.19	39.8	40.7	17.6	1.9	0.0	4.00	32.5	40.3	22.1	5.2	0.0	4.16	51.9	19.5	22.1	5.2	1.3
D1102	4.50	60.4	29.2	10.4	0.0	0.0	4.30	52.5	24.6	23.0	0.0	0.0	4.17	40.0	40.0	18.5	0.0	1.5
D1103	4.60	67.3	25.0	7.7	0.0	0.0							3.42	14.5	24.6	53.6	2.9	4.3
D1104	3.18	16.7	11.7	50.0	16.7	5.0	3.16	22.4	10.5	36.8	21.1	9.2	3.47	24.0	22.7	33.3	16.0	4.0
D1109	4.53	62.3	28.3	9.4	0.0	0.0	4.27	53.7	22.4	22.4	0.0	1.5	4.03	33.8	36.6	28.2	1.4	0.0
D1110							4.21	38.9	43.1	18.1	0.0	0.0	4.62	71.6	20.3	6.8	1.4	0.0
D1117	3.73	16.1	41.9	40.3	1.6	0.0	4.20	39.1	43.5	15.9	1.4	0.0	4.19	43.8	32.9	21.9	1.4	0.0
D1118	3.93	26.7	45.3	24.0	2.7	1.3	4.03	27.1	48.6	24.3	0.0	0.0	4.39	50.7	37.7	11.6	0.0	0.0
D1205	3.98	36.2	27.6	34.5	1.7	0.0	4.12	42.1	29.8	26.3	1.8	0.0	3.81	22.6	41.9	29.0	6.5	0.0
D1217	4.74	75.4	22.9	1.7	0.0	0.0	3.97	42.2	28.0	19.4	5.2	5.2	4.55	66.8	21.8	11.5	0.0	0.0
D1511	4.16	41.8	34.5	21.8	1.8	0.0	4.27	41.8	43.6	14.5	0.0	0.0	3.87	33.3	28.6	33.3	1.6	3.2
D0026	4.38	44.6	48.2	7.1	0.0	0.0	4.56	66.8	23.4	8.8	1.0	0.0	4.32	51.1	32.3	14.4	1.4	0.7
D1301	3.78	27.8	31.9	31.9	6.9	1.4	3.88	30.4	36.2	27.5	2.9	2.9	4.40	54.7	32.0	12.0	1.3	0.0
D1401	4.15	36.1	45.9	14.8	3.3	0.0	4.42	52.8	36.1	11.1	0.0	0.0	4.44	50.7	42.3	7.0	0.0	0.0
D1402	4.03	40.4	21.9	37.7	0.0	0.0	3.93	34.7	27.6	33.4	4.4	0.0						
D1404	3.93	37.8	27.4	25.3	9.5	0.0	3.97	34.9	29.2	34.2	1.7	0.0						
D1501	3.72	22.2	29.6	46.3	1.9	0.0							3.71	23.1	31.8	39.2	4.3	1.6
D1502	4.36	50.1	35.5	14.4	0.0	0.0	3.86	24.6	40.3	33.4	0.0	1.7	4.23	47.6	28.8	22.2	1.4	0.0
D1503	4.25	45.0	36.1	18.0	0.9	0.0	3.80	29.3	29.1	36.1	3.6	1.9	3.67	27.7	26.1	34.7	8.8	2.8
D1504	4.45	56.4	32.7	10.9	0.0	0.0	4.18	47.3	25.5	25.5	1.8	0.0	4.08	44.3	19.7	36.1	0.0	0.0
D1505	4.25	47.3	32.7	18.2	1.8	0.0	4.02	40.0	28.0	28.0	2.0	2.0	4.35	60.3	17.6	19.1	2.9	0.0
D1506	4.38	50.9	38.2	9.2	1.7	0.0	3.69	27.3	21.3	45.9	3.8	1.7	4.09	44.5	27.6	21.8	4.6	1.5
D1507	4.16	36.8	42.1	21.1	0.0	0.0	4.09	35.8	37.7	26.4	0.0	0.0						
D1508	4.40	50.9	38.2	10.9	0.0	0.0	4.05	36.4	34.5	27.3	1.8	0.0	4.23	44.6	33.8	21.5	0.0	0.0
D1509	4.24	40.8	42.4	16.8	0.0	0.0							4.09	41.8	25.5	32.7	0.0	0.0
D1510	4.41	50.6	39.6	9.8	0.0	0.0	3.88	23.7	42.6	32.1	1.7	0.0	3.80	29.3	27.7	37.0	6.1	0.0
D1512	4.11	38.2	34.5	27.3	0.0	0.0	3.84	30.9	25.5	41.8	0.0	1.8	3.83	29.2	30.8	33.8	6.2	0.0
D1513	3.68	21.4	37.5	30.4	8.9	1.8	3.46	22.2	16.7	48.1	11.1	1.9						
D1514	4.30	42.9	44.6	12.5	0.0	0.0	3.93	31.6	36.8	26.3	3.5	1.8	4.01	43.3	26.9	19.4	9.0	1.5
D1515	4.15	43.4	32.1	22.6	0.0	1.9	4.36	47.2	41.5	11.3	0.0	0.0						
D1516							3.94	35.7	24.3	38.6	1.4	0.0	3.78	26.9	32.8	34.3	3.0	3.0
D1601	4.29	42.9	42.9	14.3	0.0	0.0	3.93	30.4	32.1	37.5	0.0	0.0	3.98	31.8	36.4	30.3	1.5	0.0
D1603	4.43	50.3	42.2	7.6	0.0	0.0	4.31	46.8	37.1	16.1	0.0	0.0	4.37	51.6	33.6	14.7	0.0	0.0

理学療法

表-7-21 問4 あなたは授業内容に興味をもてましたか？

A: 強くそう思う B: ややそう思う C: ふつう D: あまり思わない E: まったくそう思わない

(単位: %)

科目 コード	平成23年度						平成24年度						平成25年度					
	平均 得点	回答率					平均 得点	回答率					平均 得点	回答率				
		A	B	C	D	E		A	B	C	D	E		A	B	C	D	E
D0004	3.38	11.4	28.4	48.3	10.2	1.7	3.56	13.1	38.6	39.2	9.2	0.0	3.23	8.9	28.3	43.9	15.0	3.9
D0005	4.46	58.0	31.5	9.9	0.0	0.6	4.61	68.8	24.4	6.1	0.6	0.0	4.64	71.1	22.2	6.2	0.6	0.0
D0018	3.94	31.4	32.1	35.9	0.6	0.0	3.83	31.3	32.8	26.7	6.1	3.1	4.00	35.7	31.6	29.8	2.9	0.0
D0019	3.98	30.6	38.8	28.1	2.5	0.0	3.96	37.3	26.1	33.1	2.1	1.4	4.15	45.3	31.4	18.6	2.3	2.3
D0020	4.12	34.6	42.3	23.1	0.0	0.0	4.55	63.6	29.1	5.5	1.8	0.0	4.70	75.0	20.0	5.0	0.0	0.0
D0021	4.05	36.3	36.3	25.0	1.3	1.3	4.23	38.0	46.5	15.5	0.0	0.0	4.45	53.3	38.0	8.7	0.0	0.0
D0022	4.73	75.2	22.9	1.9	0.0	0.0	4.80	82.4	14.9	2.7	0.0	0.0	4.60	64.2	31.3	4.5	0.0	0.0
D0027	4.16	40.5	36.5	21.6	1.4	0.0	3.77	17.9	46.2	30.8	5.1	0.0	4.55	62.1	31.0	6.9	0.0	0.0
D1008	3.72	29.3	24.1	39.7	3.4	3.4	4.09	43.4	23.7	31.6	1.3	0.0						
D1011	4.33	46.4	42.0	10.1	1.4	0.0	4.32	47.9	36.6	15.5	0.0	0.0	4.22	46.8	31.2	20.8	0.0	1.3
D1012	4.36	53.4	30.1	15.1	1.4	0.0	4.48	58.0	31.9	10.1	0.0	0.0	4.64	75.7	14.3	8.6	1.4	0.0
D1013	3.92	22.4	49.0	26.5	2.0	0.0	3.94	27.9	41.2	27.9	2.9	0.0	4.12	36.9	40.0	21.5	1.5	0.0
D1014	4.48	59.7	29.9	9.0	1.5	0.0	3.03	7.1	18.6	51.4	15.7	7.1	3.34	27.6	10.5	36.8	18.4	6.6
D1015	3.91	24.4	44.4	28.9	2.2	0.0	3.94	28.4	38.8	31.3	1.5	0.0	4.41	56.5	27.5	15.9	0.0	0.0
D1016							3.92	26.4	40.3	31.9	1.4	0.0	4.36	52.1	32.9	13.7	1.4	0.0
D1017	4.05	33.8	41.9	20.3	4.1	0.0	4.19	41.1	37.0	21.9	0.0	0.0	4.33	52.6	32.1	11.5	3.8	0.0
D1018							4.21	41.8	38.8	17.9	1.5	0.0	4.32	49.3	34.7	14.7	1.3	0.0
D1019	4.22	43.5	37.0	17.6	1.9	0.0	4.09	35.1	42.9	18.2	3.9	0.0	4.29	53.2	26.0	18.2	1.3	1.3
D1102	4.73	75.0	22.9	2.1	0.0	0.0	4.49	57.4	34.4	8.2	0.0	0.0	4.18	41.5	38.5	18.5	0.0	1.5
D1103	4.63	69.2	25.0	5.8	0.0	0.0							3.49	11.6	36.2	46.4	1.4	4.3
D1104	3.33	20.0	18.3	45.0	8.3	8.3	3.30	23.7	15.8	35.5	17.1	7.9	3.57	25.3	22.7	37.3	13.3	1.3
D1109	4.62	69.8	22.6	7.5	0.0	0.0	4.28	53.7	23.9	20.9	0.0	1.5	4.14	43.7	26.8	29.6	0.0	0.0
D1110							4.51	58.3	34.7	6.9	0.0	0.0	4.72	75.7	20.3	4.1	0.0	0.0
D1117	3.85	27.4	32.3	38.7	1.6	0.0	4.30	43.5	44.9	10.1	1.4	0.0	4.21	47.2	27.8	23.6	1.4	0.0
D1118	4.08	36.0	41.3	20.0	0.0	2.7	4.23	39.1	44.9	15.9	0.0	0.0	4.42	53.6	36.2	8.7	1.4	0.0
D1205	4.07	37.9	32.8	27.6	1.7	0.0	4.16	47.4	29.8	15.8	5.3	1.8	3.77	23.0	37.7	32.8	6.6	0.0
D1217	4.88	87.5	12.5	0.0	0.0	0.0	3.72	29.8	33.3	26.5	0.0	10.4	4.60	71.1	17.4	11.5	0.0	0.0
D1511	4.36	52.7	30.9	16.4	0.0	0.0	4.27	47.3	32.7	20.0	0.0	0.0	4.02	34.9	39.7	20.6	1.6	3.2
D0026	4.39	48.2	42.9	8.9	0.0	0.0	4.61	70.7	20.5	7.8	1.0	0.0	4.27	47.7	34.8	15.3	1.4	0.7
D1301	4.01	41.7	23.6	29.2	5.6	0.0	3.78	27.5	34.8	29.0	5.8	2.9	4.41	52.7	35.1	12.2	0.0	0.0
D1401	4.05	42.6	29.5	21.3	3.3	3.3	4.43	56.9	29.2	13.9	0.0	0.0	4.51	57.7	35.2	7.0	0.0	0.0
D1402	4.11	43.1	25.8	29.7	1.4	0.0	4.03	37.6	28.9	31.9	1.5	0.0						
D1404	4.16	42.0	32.4	25.6	0.0	0.0	3.99	40.4	22.1	35.9	0.0	1.7						
D1501	3.94	31.5	31.5	37.0	0.0	0.0							3.79	27.4	33.4	32.1	5.6	1.6
D1502	4.39	55.2	28.6	16.2	0.0	0.0	3.91	33.4	31.5	29.9	3.5	1.7	4.26	49.0	30.4	17.7	2.9	0.0
D1503	4.26	45.9	35.2	18.0	0.9	0.0	3.80	29.3	30.9	34.3	1.8	3.7	3.82	33.5	27.7	30.5	4.2	4.2
D1504	4.44	56.4	30.9	12.7	0.0	0.0	4.29	50.9	29.1	18.2	1.8	0.0	4.25	49.2	26.2	24.6	0.0	0.0
D1505	4.45	58.2	29.1	12.7	0.0	0.0	4.06	44.0	24.0	26.0	6.0	0.0	4.40	62.7	14.9	22.4	0.0	0.0
D1506	4.40	56.2	29.0	13.1	1.7	0.0	3.75	30.0	28.0	34.8	1.9	5.4	4.23	50.6	24.9	21.6	2.9	0.0
D1507	4.14	36.8	40.4	22.8	0.0	0.0	4.11	37.7	35.8	26.4	0.0	0.0						
D1508	4.36	52.7	32.7	12.7	1.8	0.0	4.07	41.8	27.3	29.1	0.0	1.8	4.29	49.2	30.8	20.0	0.0	0.0
D1509	4.39	48.1	42.6	9.3	0.0	0.0							4.25	47.3	30.9	21.8	0.0	0.0
D1510	4.46	52.9	40.5	6.7	0.0	0.0	3.95	29.7	38.4	29.4	2.5	0.0	3.92	31.0	32.6	33.4	3.0	0.0
D1512	4.20	45.5	29.1	25.5	0.0	0.0	3.85	30.9	27.3	40.0	0.0	1.8	3.85	29.2	32.3	32.3	6.2	0.0
D1513	3.80	23.2	37.5	35.7	3.6	0.0	3.59	20.4	31.5	38.9	5.6	3.7						
D1514	4.32	44.6	42.9	12.5	0.0	0.0	3.91	33.3	35.1	24.6	3.5	3.5	4.02	43.9	25.8	21.2	6.1	3.0
D1515	4.28	50.9	30.2	17.0	0.0	1.9	4.34	47.2	39.6	13.2	0.0	0.0						
D1516							3.90	32.9	28.6	34.3	4.3	0.0	3.76	26.9	32.8	32.8	4.5	3.0
D1601	4.27	44.6	39.3	14.3	1.8	0.0	3.88	26.8	35.7	35.7	1.8	0.0	3.97	33.3	33.3	31.8	0.0	1.5
D1603	4.35	50.0	38.5	7.7	3.8	0.0	4.26	52.4	27.7	14.8	3.4	1.7	4.44	56.0	32.2	11.8	0.0	0.0

理学療法

表-7-22 問5 この授業科目はシラバスの内容に沿った授業内容でしたか？

A: 強く思う B: やや思う C: ふつう D: あまり思わない E: まったく思わない

(単位: %)

科目 コード	平成23年度						平成24年度						平成25年度					
	平均 得点	回答率					平均 得点	回答率					平均 得点	回答率				
		A	B	C	D	E		A	B	C	D	E		A	B	C	D	E
D0004	4.01	29.4	41.8	28.8	0.0	0.0	4.25	42.2	40.3	17.5	0.0	0.0	4.23	42.8	37.8	19.4	0.0	0.0
D0005	4.54	67.7	18.4	13.9	0.0	0.0	4.65	73.1	18.9	7.9	0.0	0.0	4.74	78.9	16.1	5.0	0.0	0.0
D0018	4.12	39.1	33.3	27.6	0.0	0.0	4.24	45.8	32.1	22.1	0.0	0.0	4.05	38.0	32.2	27.5	1.8	0.6
D0019	4.27	43.8	39.4	16.9	0.0	0.0	4.35	56.3	21.8	21.8	0.0	0.0	4.30	52.9	29.7	14.5	0.0	2.9
D0020	4.35	52.6	29.5	17.9	0.0	0.0	4.65	72.7	20.0	7.3	0.0	0.0	4.77	80.0	16.7	3.3	0.0	0.0
D0021	4.20	45.0	31.3	22.5	1.3	0.0	4.44	54.2	38.9	5.6	0.0	1.4	4.58	60.9	35.9	3.3	0.0	0.0
D0022	4.53	60.0	33.3	6.7	0.0	0.0	4.23	40.5	44.6	12.2	2.7	0.0	4.67	73.1	20.9	6.0	0.0	0.0
D0027	4.38	51.4	35.1	13.5	0.0	0.0	3.85	25.6	35.9	35.9	2.6	0.0	4.38	48.3	41.4	10.3	0.0	0.0
D1008	3.97	37.9	25.9	32.8	1.7	1.7	4.25	52.6	19.7	27.6	0.0	0.0						
D1011	4.29	48.6	31.4	20.0	0.0	0.0	4.39	52.1	35.2	12.7	0.0	0.0	4.39	58.4	23.4	16.9	1.3	0.0
D1012	4.36	53.4	28.8	17.8	0.0	0.0	4.62	72.5	17.4	10.1	0.0	0.0	4.65	77.5	11.3	9.9	1.4	0.0
D1013	4.16	40.8	34.7	24.5	0.0	0.0	4.43	54.4	33.8	11.8	0.0	0.0	4.42	53.8	35.4	9.2	1.5	0.0
D1014	4.50	59.1	31.8	9.1	0.0	0.0	2.89	10.0	14.3	42.9	20.0	12.9	3.59	28.9	18.4	38.2	11.8	2.6
D1015	4.13	35.6	42.2	22.2	0.0	0.0	4.33	46.3	40.3	13.4	0.0	0.0	4.48	60.9	26.1	13.0	0.0	0.0
D1016							4.13	29.2	54.2	16.7	0.0	0.0	4.47	59.5	28.4	12.2	0.0	0.0
D1017	4.27	48.6	31.1	18.9	1.4	0.0	4.33	46.6	39.7	13.7	0.0	0.0	4.53	66.2	22.1	10.4	1.3	0.0
D1018							4.13	47.8	29.9	11.9	9.0	1.5	4.47	56.0	34.7	9.3	0.0	0.0
D1019	4.29	50.9	28.7	19.4	0.0	0.9	4.31	44.2	42.9	13.0	0.0	0.0	4.48	58.4	31.2	10.4	0.0	0.0
D1102	4.77	83.3	10.4	6.3	0.0	0.0	4.69	77.0	14.8	8.2	0.0	0.0	4.55	63.1	29.2	7.7	0.0	0.0
D1103	4.77	80.8	15.4	3.8	0.0	0.0							3.70	18.8	42.0	33.3	1.4	4.3
D1104	3.67	20.0	30.0	46.7	3.3	0.0	3.76	35.5	25.0	27.6	3.9	7.9	4.05	40.5	27.0	31.1	0.0	1.4
D1109	4.72	77.4	17.0	5.7	0.0	0.0	4.33	53.7	25.4	20.9	0.0	0.0	4.04	36.6	31.0	32.4	0.0	0.0
D1110							4.42	52.8	36.1	11.1	0.0	0.0	4.66	75.7	16.2	6.8	1.4	0.0
D1117	3.95	29.0	37.1	33.9	0.0	0.0	4.33	44.9	43.5	11.6	0.0	0.0	4.28	45.1	38.0	16.9	0.0	0.0
D1118	4.09	38.7	36.0	22.7	1.3	1.3	4.21	37.1	47.1	15.7	0.0	0.0	4.30	50.7	31.9	14.5	2.9	0.0
D1205	4.07	36.2	36.2	25.9	1.7	0.0	3.74	36.8	21.1	28.1	7.0	7.0	3.81	22.6	45.2	25.8	3.2	3.2
D1217	4.80	82.1	16.0	1.9	0.0	0.0	4.30	52.8	24.5	22.7	0.0	0.0	4.54	69.7	14.5	15.8	0.0	0.0
D1511	4.58	65.5	27.3	7.3	0.0	0.0	4.40	50.9	38.2	10.9	0.0	0.0	4.40	58.1	27.4	12.9	0.0	1.6
D0026	4.45	53.6	37.5	8.9	0.0	0.0	4.60	72.2	17.8	9.0	0.0	1.0	4.41	57.7	26.0	15.6	0.7	0.0
D1301	4.40	58.3	23.6	18.1	0.0	0.0	4.13	43.5	33.3	17.4	4.3	1.4	4.61	69.7	21.1	9.2	0.0	0.0
D1401	4.49	62.3	24.6	13.1	0.0	0.0	4.69	77.5	14.1	8.5	0.0	0.0	4.51	59.2	32.4	8.5	0.0	0.0
D1402	4.11	41.9	27.0	31.1	0.0	0.0	4.29	50.8	28.9	18.9	1.5	0.0						
D1404	4.42	51.8	38.4	9.8	0.0	0.0	4.27	46.2	34.2	19.6	0.0	0.0						
D1501	4.22	46.3	29.6	24.1	0.0	0.0							3.96	32.6	35.2	29.1	1.6	1.6
D1502	4.49	56.8	35.8	7.4	0.0	0.0	4.25	49.7	27.1	21.5	1.7	0.0	4.39	57.0	27.1	14.4	1.6	0.0
D1503	4.29	45.9	37.0	17.2	0.0	0.0	4.02	35.2	33.3	29.6	1.9	0.0	4.22	49.4	29.1	17.3	2.8	1.4
D1504	4.62	67.3	27.3	5.5	0.0	0.0	4.38	50.9	36.4	12.7	0.0	0.0	4.48	59.0	29.5	11.5	0.0	0.0
D1505	4.45	58.2	30.9	9.1	1.8	0.0	4.08	48.0	20.0	28.0	0.0	4.0	4.49	66.2	16.2	17.6	0.0	0.0
D1506	4.57	66.8	23.8	9.4	0.0	0.0	4.02	37.2	27.6	35.2	0.0	0.0	4.44	60.0	23.6	16.4	0.0	0.0
D1507	4.19	42.1	35.1	22.8	0.0	0.0	4.11	39.6	32.1	28.3	0.0	0.0						
D1508	4.49	60.0	29.1	10.9	0.0	0.0	4.18	47.3	23.6	29.1	0.0	0.0	4.29	49.2	32.3	16.9	1.5	0.0
D1509	4.59	62.8	33.4	3.8	0.0	0.0							4.54	66.1	21.4	12.5	0.0	0.0
D1510	4.56	63.3	28.9	7.8	0.0	0.0	4.25	42.8	39.5	17.7	0.0	0.0	4.08	38.5	32.4	27.6	1.5	0.0
D1512	4.36	50.9	34.5	14.5	0.0	0.0	4.00	34.5	30.9	34.5	0.0	0.0	3.98	36.9	30.8	27.7	3.1	1.5
D1513	4.32	51.8	28.6	19.6	0.0	0.0	4.15	46.3	22.2	31.5	0.0	0.0						
D1514	4.46	55.4	35.7	8.9	0.0	0.0	4.02	35.1	36.8	24.6	1.8	1.8	4.21	50.0	25.8	19.7	4.5	0.0
D1515	4.13	43.4	28.3	26.4	1.9	0.0	4.36	49.1	39.6	9.4	1.9	0.0						
D1516							4.27	51.4	25.7	21.4	1.4	0.0	3.87	29.9	37.3	26.9	1.5	4.5
D1601	4.39	53.6	32.1	14.3	0.0	0.0	4.05	35.7	33.9	30.4	0.0	0.0	4.23	43.9	34.8	21.2	0.0	0.0
D1603	4.55	64.3	28.0	5.8	1.9	0.0	4.38	56.2	25.7	18.0	0.0	0.0	4.54	63.2	28.0	8.8	0.0	0.0

理学療法

表-7-23 問6 この授業科目は授業のねらいや評価の方法が明確に示されていましたか？

A: 強くそう思う B: ややそう思う C: ふつう D: あまり思わない E: まったく思わない

(単位: %)

科目 コード	平成23年度						平成24年度						平成25年度					
	平均 得点	回答率					平均 得点	回答率					平均 得点	回答率				
		A	B	C	D	E		A	B	C	D	E		A	B	C	D	E
D0004	3.84	22.6	41.8	32.8	2.8	0.0	3.99	28.6	42.9	27.3	1.3	0.0	4.02	34.4	36.1	27.2	1.7	0.6
D0005	4.49	64.4	20.6	15.0	0.0	0.0	4.68	74.3	19.0	6.7	0.0	0.0	4.68	76.1	16.7	6.7	0.6	0.0
D0018	4.06	35.5	35.5	29.0	0.0	0.0	4.18	42.7	32.8	23.7	0.8	0.0	3.98	34.5	33.3	28.7	2.9	0.6
D0019	4.23	40.0	42.5	17.5	0.0	0.0	4.25	50.4	24.1	25.5	0.0	0.0	4.16	45.9	31.4	18.6	1.2	2.9
D0020	4.19	39.7	39.7	20.5	0.0	0.0	4.64	72.7	18.2	9.1	0.0	0.0	4.82	85.0	11.7	3.3	0.0	0.0
D0021	4.18	46.3	28.8	21.3	3.8	0.0	4.28	41.7	47.2	9.7	0.0	1.4	4.53	62.0	30.4	6.5	1.1	0.0
D0022	4.43	53.3	36.2	10.5	0.0	0.0	4.29	43.1	43.1	13.9	0.0	0.0	4.66	73.1	19.4	7.5	0.0	0.0
D0027	4.38	54.1	29.7	16.2	0.0	0.0	3.90	33.3	25.6	38.5	2.6	0.0	4.38	48.3	41.4	10.3	0.0	0.0
D1008	3.86	36.2	20.7	37.9	3.4	1.7	4.24	51.3	21.1	27.6	0.0	0.0						
D1011	4.32	47.8	36.2	15.9	0.0	0.0	4.35	46.5	42.3	11.3	0.0	0.0	4.31	50.6	32.5	15.6	0.0	1.3
D1012	4.36	54.8	27.4	16.4	1.4	0.0	4.55	66.7	21.7	11.6	0.0	0.0	4.57	72.9	12.9	12.9	1.4	0.0
D1013	4.14	36.7	40.8	22.4	0.0	0.0	4.37	51.5	33.8	14.7	0.0	0.0	4.42	53.8	35.4	9.2	1.5	0.0
D1014	4.55	63.6	27.3	9.1	0.0	0.0	2.99	8.6	17.1	47.1	18.6	8.6	3.47	25.7	17.6	39.2	13.5	4.1
D1015	4.07	33.3	40.0	26.7	0.0	0.0	4.31	46.3	38.8	14.9	0.0	0.0	4.50	62.9	24.3	12.9	0.0	0.0
D1016							3.99	26.4	50.0	19.4	4.2	0.0	4.45	60.0	26.7	12.0	1.3	0.0
D1017	4.30	50.0	31.1	17.6	1.4	0.0	4.30	43.8	42.5	13.7	0.0	0.0	4.51	64.9	22.1	11.7	1.3	0.0
D1018							4.35	50.0	34.8	15.2	0.0	0.0	4.41	54.7	33.3	10.7	1.3	0.0
D1019	4.31	50.9	29.6	18.5	0.9	0.0	4.25	40.3	44.2	15.6	0.0	0.0	4.47	61.0	26.0	11.7	1.3	0.0
D1102	4.69	77.1	14.6	8.3	0.0	0.0	4.62	70.5	21.3	8.2	0.0	0.0	4.55	63.1	29.2	7.7	0.0	0.0
D1103	4.75	78.8	17.3	3.8	0.0	0.0							3.64	15.9	42.0	36.2	1.4	4.3
D1104	3.42	13.3	20.0	61.7	5.0	0.0	3.72	36.0	18.7	30.7	10.7	4.0	3.92	36.0	26.7	32.0	4.0	1.3
D1109	4.77	81.1	15.1	3.8	0.0	0.0	4.31	55.2	23.9	19.4	0.0	1.5	4.04	36.6	31.0	32.4	0.0	0.0
D1110							4.39	50.0	38.9	11.1	0.0	0.0	4.66	75.7	16.2	6.8	1.4	0.0
D1117	4.00	33.9	32.3	33.9	0.0	0.0	4.22	34.8	52.2	13.0	0.0	0.0	4.26	46.6	32.9	20.5	0.0	0.0
D1118	4.17	41.3	37.3	20.0	0.0	1.3	4.13	31.4	50.0	18.6	0.0	0.0	4.38	53.6	31.9	13.0	1.4	0.0
D1205	4.10	37.9	34.5	27.6	0.0	0.0	4.04	38.6	31.6	24.6	5.3	0.0	3.82	21.0	46.8	27.4	3.2	1.6
D1217	4.86	85.8	14.2	0.0	0.0	0.0	4.14	44.0	28.0	26.2	1.7	0.0	4.47	63.9	18.8	17.2	0.0	0.0
D1511	4.47	56.4	36.4	5.5	1.8	0.0	4.40	50.9	38.2	10.9	0.0	0.0	4.29	51.6	30.6	14.5	1.6	1.6
D0026	4.49	56.4	36.4	7.3	0.0	0.0	4.59	71.2	18.8	9.0	0.0	1.0	4.35	54.5	26.9	17.9	0.7	0.0
D1301	4.38	58.3	20.8	20.8	0.0	0.0	4.10	40.6	37.7	15.9	2.9	2.9	4.67	75.0	17.1	7.9	0.0	0.0
D1401	4.34	55.7	24.6	18.0	1.6	0.0	4.70	78.9	12.7	8.5	0.0	0.0	4.54	60.6	32.4	7.0	0.0	0.0
D1402	4.04	36.3	31.2	32.5	0.0	0.0	4.29	49.2	30.4	20.3	0.0	0.0						
D1404	4.32	45.5	42.6	10.1	1.8	0.0	4.14	39.2	35.6	25.1	0.0	0.0						
D1501	4.20	46.3	27.8	25.9	0.0	0.0							3.94	31.2	36.3	29.3	1.6	1.6
D1502	4.55	62.1	30.5	7.4	0.0	0.0	4.09	37.4	36.0	24.9	1.7	0.0	4.40	57.0	25.6	17.4	0.0	0.0
D1503	4.29	45.9	36.9	17.2	0.0	0.0	3.91	34.7	25.5	36.2	3.6	0.0	4.04	38.3	36.0	20.1	2.8	2.8
D1504	4.58	63.6	30.9	5.5	0.0	0.0	4.38	50.9	36.4	12.7	0.0	0.0	4.44	57.4	29.5	13.1	0.0	0.0
D1505	4.55	63.6	27.3	9.1	0.0	0.0	4.10	46.0	26.0	24.0	0.0	4.0	4.37	60.3	19.1	17.6	2.9	0.0
D1506	4.54	63.1	27.5	9.4	0.0	0.0	4.00	35.4	29.4	35.2	0.0	0.0	4.36	56.9	23.6	18.0	1.5	0.0
D1507	4.16	40.4	36.8	21.1	1.8	0.0	4.15	39.6	35.8	24.5	0.0	0.0						
D1508	4.45	56.4	32.7	10.9	0.0	0.0	4.16	45.5	25.5	29.1	0.0	0.0	4.37	52.3	32.3	15.4	0.0	0.0
D1509	4.55	60.9	33.5	5.6	0.0	0.0							4.61	71.4	17.9	10.7	0.0	0.0
D1510	4.54	61.3	30.9	7.8	0.0	0.0	4.15	37.6	41.2	19.6	1.7	0.0	4.09	42.2	26.6	29.7	1.6	0.0
D1512	4.29	47.3	36.4	14.5	1.8	0.0	3.95	32.7	29.1	38.2	0.0	0.0	4.11	44.6	27.7	23.1	3.1	1.5
D1513	4.13	41.1	33.9	23.2	0.0	1.8	3.91	29.6	33.3	35.2	1.9	0.0						
D1514	4.43	53.6	35.7	10.7	0.0	0.0	4.02	36.8	36.8	21.1	1.8	3.5	4.21	48.5	27.3	21.2	3.0	0.0
D1515	4.21	45.3	30.2	24.5	0.0	0.0	4.42	54.7	32.1	13.2	0.0	0.0						
D1516							4.29	53.6	23.2	21.7	1.4	0.0	3.81	28.4	35.8	28.4	3.0	4.5
D1601	4.38	53.6	30.4	16.1	0.0	0.0	4.02	33.9	33.9	32.1	0.0	0.0	4.17	39.4	37.9	22.7	0.0	0.0
D1603	4.49	58.9	33.4	5.8	1.9	0.0	4.34	52.6	29.2	18.2	0.0	0.0	4.56	64.7	26.5	8.8	0.0	0.0

理学療法

表-7-24 問7 教員は開始・終了時間を守っていましたか？

A: 強くそう思う B: ややそう思う C: ふつう D: あまり思わない E: まったく思わない

(単位: %)

科目 コード	平成23年度						平成24年度						平成25年度					
	平均 得点	回答率					平均 得点	回答率					平均 得点	回答率				
		A	B	C	D	E		A	B	C	D	E		A	B	C	D	E
D0004	4.67	72.3	22.6	5.1	0.0	0.0	4.73	76.6	20.1	3.2	0.0	0.0	4.68	74.4	19.4	6.1	0.0	0.0
D0005	4.59	70.8	17.1	12.0	0.0	0.0	4.75	81.1	12.8	6.1	0.0	0.0	4.72	79.5	13.3	6.7	0.5	0.0
D0018	4.14	41.7	32.1	25.0	1.3	0.0	4.37	53.4	29.8	16.8	0.0	0.0	3.90	36.5	25.3	31.8	4.7	1.8
D0019	4.31	49.4	32.5	17.5	0.6	0.0	4.30	57.0	18.3	22.5	2.1	0.0	4.30	52.9	30.8	12.8	0.6	2.9
D0020	4.49	62.8	23.1	14.1	0.0	0.0	4.74	77.8	18.5	3.7	0.0	0.0	4.85	88.3	8.3	3.3	0.0	0.0
D0021	4.35	53.8	28.8	16.3	1.3	0.0	4.67	75.0	19.4	4.2	0.0	1.4	4.80	82.6	15.2	2.2	0.0	0.0
D0022	4.26	48.6	31.4	17.1	2.9	0.0	4.41	56.8	28.4	13.5	1.4	0.0	4.60	67.2	25.4	7.5	0.0	0.0
D0027	4.55	67.6	20.3	12.2	0.0	0.0	4.03	38.5	28.2	30.8	2.6	0.0	4.55	62.1	31.0	6.9	0.0	0.0
D1008	4.19	50.0	24.1	22.4	1.7	1.7	4.34	60.5	15.8	21.1	2.6	0.0						
D1011	4.57	65.2	26.1	8.7	0.0	0.0	4.38	54.9	28.2	16.9	0.0	0.0	3.75	33.8	31.2	18.2	10.4	6.5
D1012	4.75	79.5	16.4	4.1	0.0	0.0	4.78	84.1	10.1	5.8	0.0	0.0	4.66	77.5	12.7	8.5	1.4	0.0
D1013	4.47	59.2	30.6	8.2	2.0	0.0	4.57	66.2	25.0	8.8	0.0	0.0	4.46	61.5	26.2	9.2	3.1	0.0
D1014	4.78	79.1	19.4	1.5	0.0	0.0	3.56	18.6	31.4	38.6	10.0	1.4	4.05	44.7	23.7	25.0	5.3	1.3
D1015	4.44	60.0	26.7	11.1	2.2	0.0	4.51	61.2	28.4	10.4	0.0	0.0	4.60	71.4	17.1	11.4	0.0	0.0
D1016							4.29	54.2	23.6	19.4	2.8	0.0	4.17	52.0	20.0	22.7	4.0	1.3
D1017	4.32	55.4	24.3	17.6	2.7	0.0	4.49	60.3	28.8	11.0	0.0	0.0	4.57	66.2	24.7	9.1	0.0	0.0
D1018							3.49	31.3	22.4	19.4	17.9	9.0	4.49	60.0	29.3	10.7	0.0	0.0
D1019	4.53	65.7	21.3	13.0	0.0	0.0	4.45	55.8	33.8	10.4	0.0	0.0	4.64	72.7	18.2	9.1	0.0	0.0
D1102	4.77	85.4	6.3	8.3	0.0	0.0	4.82	85.2	11.5	3.3	0.0	0.0	4.65	70.8	23.1	6.2	0.0	0.0
D1103	4.77	82.7	11.5	5.8	0.0	0.0							3.88	31.9	31.9	31.9	1.4	2.9
D1104	3.67	25.0	25.0	43.3	5.0	1.7	3.97	44.0	20.0	26.7	8.0	1.3	4.24	52.0	22.7	24.0	0.0	1.3
D1109	4.79	84.9	9.4	5.7	0.0	0.0	4.16	53.7	14.9	26.9	3.0	1.5	4.30	50.7	28.2	21.1	0.0	0.0
D1110							4.47	59.7	27.8	12.5	0.0	0.0	4.74	78.4	17.6	4.1	0.0	0.0
D1117	4.69	79.0	11.3	9.7	0.0	0.0	4.78	84.1	10.1	5.8	0.0	0.0	4.56	68.5	20.5	9.6	1.4	0.0
D1118	4.33	53.3	30.7	13.3	1.3	1.3	4.51	58.6	34.3	7.1	0.0	0.0	4.52	62.3	29.0	7.2	1.4	0.0
D1205	4.09	39.7	31.0	27.6	1.7	0.0	3.98	42.1	26.3	22.8	5.3	3.5	4.06	35.5	38.7	22.6	3.2	0.0
D1217	4.63	73.5	17.8	7.0	1.7	0.0	4.18	52.8	19.3	22.8	3.4	1.7	4.35	64.0	14.5	15.8	4.3	1.4
D1511	4.62	69.1	23.6	7.3	0.0	0.0	4.53	63.6	25.5	10.9	0.0	0.0	4.63	73.0	20.6	4.8	0.0	1.6
D0026	4.55	64.3	26.8	8.9	0.0	0.0	4.59	71.6	18.6	7.8	1.0	1.0	4.43	60.9	22.8	14.8	1.4	0.0
D1301	4.61	72.2	18.1	8.3	1.4	0.0	4.57	71.0	18.8	7.2	1.4	1.4	4.66	76.3	13.2	10.5	0.0	0.0
D1401	4.25	60.0	15.0	16.7	6.7	1.7	4.58	72.2	13.9	13.9	0.0	0.0	4.48	59.2	31.0	8.5	1.4	0.0
D1402	3.99	40.5	20.2	36.6	2.6	0.0	4.16	49.3	21.7	26.1	1.4	1.4						
D1404	4.15	47.9	24.7	21.7	5.7	0.0	3.98	38.7	25.6	30.4	5.3	0.0						
D1501	4.17	40.7	35.2	24.1	0.0	0.0							3.99	39.9	27.4	28.0	1.6	3.1
D1502	4.62	69.0	23.6	7.4	0.0	0.0	4.09	36.9	38.5	21.1	3.5	0.0	4.49	62.9	22.6	14.4	0.0	0.0
D1503	4.37	55.8	26.2	17.1	0.9	0.0	4.26	52.8	19.9	27.2	0.0	0.0	4.32	53.6	29.1	14.6	1.4	1.4
D1504	4.49	60.0	30.9	7.3	1.8	0.0	4.49	58.2	32.7	9.1	0.0	0.0	4.44	60.7	23.0	16.4	0.0	0.0
D1505	4.40	58.2	25.5	14.5	1.8	0.0	4.20	50.0	28.0	18.0	0.0	4.0	4.33	61.2	16.4	16.4	6.0	0.0
D1506	4.53	60.8	31.2	8.0	0.0	0.0	4.02	35.8	30.3	33.9	0.0	0.0	4.50	66.1	18.8	13.6	1.5	0.0
D1507	4.33	45.6	42.1	12.3	0.0	0.0	4.28	47.2	34.0	18.9	0.0	0.0						
D1508	4.53	65.5	23.6	9.1	1.8	0.0	4.25	50.9	23.6	25.5	0.0	0.0	4.39	56.1	28.8	13.6	1.5	0.0
D1509	4.59	66.6	25.8	7.6	0.0	0.0							4.55	69.6	17.9	10.7	1.8	0.0
D1510	4.61	69.1	22.9	8.0	0.0	0.0	4.17	46.7	27.1	22.9	3.3	0.0	4.43	63.2	18.5	16.9	1.5	0.0
D1512	4.40	52.7	34.5	12.7	0.0	0.0	4.09	40.0	29.1	30.9	0.0	0.0	4.25	55.4	20.0	18.5	6.2	0.0
D1513	4.29	44.6	39.3	16.1	0.0	0.0	4.13	44.4	25.9	27.8	1.9	0.0						
D1514	4.43	57.1	30.4	10.7	1.8	0.0	3.77	28.1	29.8	36.8	1.8	3.5	4.21	49.3	29.9	13.4	7.5	0.0
D1515	4.28	50.9	26.4	22.6	0.0	0.0	4.47	62.3	24.5	11.3	1.9	0.0						
D1516							4.46	61.4	22.9	15.7	0.0	0.0	3.96	32.8	37.3	25.4	1.5	3.0
D1601	4.39	55.4	28.6	16.1	0.0	0.0	4.21	44.6	32.1	23.2	0.0	0.0	4.41	57.6	25.8	16.7	0.0	0.0
D1603	4.60	69.9	20.6	9.5	0.0	0.0	4.40	54.5	30.9	14.6	0.0	0.0	4.53	64.8	23.5	11.8	0.0	0.0

理学療法

表-7-25 問8 教員は学生の理解度を考慮しながら授業していましたか？

A: 強く思う B: やや思う C: ふつう D: あまり思わない E: まったく思わない

(単位: %)

科目 コード	平成23年度						平成24年度						平成25年度					
	平均 得点	回答率					平均 得点	回答率					平均 得点	回答率				
		A	B	C	D	E		A	B	C	D	E		A	B	C	D	E
D0004	3.61	17.7	34.3	40.6	6.3	1.1	3.81	19.6	47.1	28.1	5.2	0.0	3.87	27.2	38.3	29.4	3.9	1.1
D0005	4.42	57.5	27.1	15.4	0.0	0.0	4.59	67.4	24.6	8.0	0.0	0.0	4.64	72.2	19.9	7.8	0.0	0.0
D0018	3.95	27.1	41.3	31.0	0.6	0.0	4.02	39.7	28.2	29.0	0.8	2.3	3.81	29.2	29.8	35.1	4.1	1.8
D0019	4.02	31.3	40.6	26.9	1.3	0.0	4.10	43.7	24.6	29.6	2.1	0.0	4.02	37.4	38.0	17.5	2.9	4.1
D0020	4.29	47.4	34.6	17.9	0.0	0.0	4.71	74.5	21.8	3.6	0.0	0.0	4.77	80.0	16.7	3.3	0.0	0.0
D0021	4.04	37.5	35.0	22.5	3.8	1.3	4.22	38.9	48.6	9.7	1.4	1.4	4.52	60.9	31.5	6.5	1.1	0.0
D0022	4.52	60.0	32.4	7.6	0.0	0.0	4.55	63.5	28.4	8.1	0.0	0.0	4.64	68.7	26.9	4.5	0.0	0.0
D0027	4.46	56.8	32.4	10.8	0.0	0.0	3.82	30.8	23.1	43.6	2.6	0.0	4.41	55.2	31.0	13.8	0.0	0.0
D1008	3.84	31.0	29.3	34.5	3.4	1.7	4.20	51.3	21.1	25.0	1.3	1.3						
D1011	4.38	46.4	44.9	8.7	0.0	0.0	4.13	33.8	47.9	15.5	2.8	0.0	3.99	34.2	35.5	26.3	2.6	1.3
D1012	4.47	53.4	41.1	4.1	1.4	0.0	4.58	65.2	27.5	7.2	0.0	0.0	4.56	69.0	19.7	9.9	1.4	0.0
D1013	4.06	32.7	40.8	26.5	0.0	0.0	4.18	38.2	42.6	17.6	1.5	0.0	4.31	49.2	36.9	9.2	4.6	0.0
D1014	4.49	59.7	31.3	7.5	1.5	0.0	2.74	7.1	11.4	41.4	28.6	11.4	3.09	18.7	14.7	37.3	16.0	13.3
D1015	4.09	31.1	48.9	17.8	2.2	0.0	4.16	37.3	41.8	20.9	0.0	0.0	4.42	56.5	29.0	14.5	0.0	0.0
D1016							3.97	29.2	41.7	26.4	2.8	0.0	4.04	41.3	33.3	16.0	6.7	2.7
D1017	4.14	45.9	28.4	18.9	6.8	0.0	4.16	38.4	41.1	19.2	1.4	0.0	4.47	62.3	23.4	13.0	1.3	0.0
D1018							4.21	43.3	38.8	14.9	1.5	1.5	4.41	54.7	32.0	13.3	0.0	0.0
D1019	4.24	46.3	35.2	14.8	3.7	0.0	4.06	33.8	41.6	22.1	2.6	0.0	4.38	61.0	19.5	16.9	1.3	1.3
D1102	4.65	75.0	14.6	10.4	0.0	0.0	4.58	66.7	25.0	8.3	0.0	0.0	4.42	53.8	33.8	12.3	0.0	0.0
D1103	4.73	82.7	7.7	9.6	0.0	0.0							3.51	20.3	23.2	47.8	4.3	4.3
D1104	3.42	18.3	20.0	50.0	8.3	3.3	3.36	28.9	14.5	28.9	18.4	9.2	3.73	32.0	25.3	30.7	8.0	4.0
D1109	4.81	84.9	11.3	3.8	0.0	0.0	4.07	43.3	26.9	25.4	3.0	1.5	4.04	36.6	31.0	32.4	0.0	0.0
D1110							4.33	45.8	41.7	12.5	0.0	0.0	4.76	79.7	16.2	4.1	0.0	0.0
D1117	3.97	30.6	37.1	30.6	1.6	0.0	4.35	53.6	30.4	13.0	2.9	0.0	4.18	41.1	38.4	19.2	0.0	1.4
D1118	4.00	30.7	44.0	21.3	2.7	1.3	4.21	37.1	47.1	15.7	0.0	0.0	4.41	55.1	31.9	11.6	1.4	0.0
D1205	4.07	39.7	27.6	32.8	0.0	0.0	4.14	40.4	36.8	19.3	3.5	0.0	3.94	29.0	40.3	25.8	4.8	0.0
D1217	4.75	80.5	14.2	5.3	0.0	0.0	4.07	45.8	26.4	19.2	7.0	1.7	4.54	69.8	17.4	11.4	0.0	1.4
D1511	4.38	60.0	25.5	9.1	3.6	1.8	4.38	52.7	34.5	10.9	1.8	0.0	4.06	43.5	27.4	24.2	1.6	3.2
D0026	4.43	53.6	35.7	10.7	0.0	0.0	4.60	72.6	17.6	7.8	1.0	1.0	4.36	58.1	23.9	15.1	2.2	0.7
D1301	4.18	47.2	27.8	20.8	4.2	0.0	4.00	39.1	33.3	18.8	5.8	2.9	4.55	67.1	21.1	11.8	0.0	0.0
D1401	4.22	51.7	23.3	20.0	5.0	0.0	4.46	65.3	19.4	11.1	4.2	0.0	4.38	46.5	45.1	8.5	0.0	0.0
D1402	3.94	37.7	24.4	33.8	2.6	1.4	3.97	37.7	30.4	26.1	2.9	2.9						
D1404	4.09	42.0	28.9	25.3	3.9	0.0	3.89	32.1	30.1	32.8	5.0	0.0						
D1501	3.98	35.2	33.3	25.9	5.6	0.0							3.75	25.6	35.6	31.5	2.7	4.6
D1502	4.44	54.9	34.2	11.0	0.0	0.0	3.76	24.7	36.8	29.8	7.0	1.7	4.38	57.0	24.2	18.8	0.0	0.0
D1503	4.35	54.0	27.0	19.0	0.0	0.0	4.02	40.1	23.5	34.5	1.9	0.0	4.09	42.5	32.1	18.5	5.6	1.4
D1504	4.45	52.7	40.0	7.3	0.0	0.0	4.45	54.5	36.4	9.1	0.0	0.0	4.33	54.1	24.6	21.3	0.0	0.0
D1505	4.24	49.1	27.3	21.8	1.8	0.0	4.00	40.0	32.0	22.0	0.0	6.0	4.26	57.4	16.2	22.1	4.4	0.0
D1506	4.44	57.6	29.2	13.3	0.0	0.0	3.76	31.9	26.1	33.1	3.5	5.4	4.25	49.1	29.7	18.2	2.9	0.0
D1507	4.12	42.1	33.3	19.3	5.3	0.0	4.17	41.5	35.8	20.8	1.9	0.0						
D1508	4.42	54.5	34.5	9.1	1.8	0.0	4.18	43.6	30.9	25.5	0.0	0.0	4.32	50.0	34.8	12.1	3.0	0.0
D1509	4.48	59.3	29.4	11.3	0.0	0.0							4.38	58.9	19.6	21.4	0.0	0.0
D1510	4.52	61.7	28.5	9.8	0.0	0.0	4.07	39.7	30.6	26.3	3.3	0.0	4.29	54.0	23.1	21.4	1.6	0.0
D1512	4.31	47.3	36.4	16.4	0.0	0.0	3.89	30.9	30.9	36.4	0.0	1.8	4.02	40.0	27.7	27.7	3.1	1.5
D1513	4.02	38.2	32.7	23.6	3.6	1.8	3.78	31.5	18.5	48.1	0.0	1.9						
D1514	4.38	53.6	32.1	12.5	1.8	0.0	3.78	29.1	34.5	23.6	10.9	1.8	3.85	37.3	28.4	20.9	9.0	4.5
D1515	4.21	45.3	30.2	24.5	0.0	0.0	4.47	58.5	30.2	11.3	0.0	0.0						
D1516							4.19	42.9	32.9	24.3	0.0	0.0	3.58	19.4	38.8	28.4	7.5	6.0
D1601	4.30	50.0	30.4	19.6	0.0	0.0	3.91	32.1	28.6	37.5	1.8	0.0	4.24	43.9	36.4	19.7	0.0	0.0
D1603	4.53	62.6	28.0	9.3	0.0	0.0	4.27	47.0	33.0	20.0	0.0	0.0	4.54	64.8	24.9	10.3	0.0	0.0

理学療法

表-7-26 問9 教員の板書・視聴覚教材による資料揭示・デモンストレーション等は良かったですか？

A: 強く思う B: やや思う C: ふつう D: あまり思わない E: まったく思わない

(単位: %)

科目 コード	平成23年度						平成24年度						平成25年度					
	平均 得点	回答率					平均 得点	回答率					平均 得点	回答率				
		A	B	C	D	E		A	B	C	D	E		A	B	C	D	E
D0004	3.47	19.3	28.4	35.8	13.1	3.4	4.02	29.2	46.1	22.1	2.6	0.0	3.98	33.3	34.4	29.4	2.2	0.6
D0005	4.43	56.4	30.4	12.6	0.6	0.0	4.60	68.6	23.4	7.3	0.6	0.0	4.67	74.5	17.7	7.8	0.0	0.0
D0018	3.94	30.8	36.5	28.8	3.8	0.0	4.06	37.4	35.1	24.4	2.3	0.8	3.80	31.0	26.9	34.5	5.8	1.8
D0019	4.12	36.3	40.0	23.1	0.6	0.0	4.18	50.0	18.3	31.0	0.7	0.0	4.03	40.7	33.7	17.4	4.7	3.5
D0020	4.28	44.9	38.5	16.7	0.0	0.0	4.65	70.9	23.6	5.5	0.0	0.0	4.73	76.7	20.0	3.3	0.0	0.0
D0021	4.09	40.5	32.9	22.8	2.5	1.3	4.22	40.3	47.2	8.3	2.8	1.4	4.66	71.7	22.8	5.4	0.0	0.0
D0022	4.85	85.7	13.3	1.0	0.0	0.0	4.84	85.1	13.5	1.4	0.0	0.0	4.66	70.1	25.4	4.5	0.0	0.0
D0027	4.51	60.8	29.7	9.5	0.0	0.0	3.77	30.8	20.5	43.6	5.1	0.0	4.59	62.1	34.5	3.4	0.0	0.0
D1008	3.86	32.8	29.3	32.8	1.7	3.4	4.17	50.0	25.0	18.4	5.3	1.3						
D1011	4.36	52.2	33.3	13.0	1.4	0.0	4.21	40.8	39.4	19.7	0.0	0.0	4.13	37.7	42.9	15.6	2.6	1.3
D1012	4.60	65.3	30.6	2.8	1.4	0.0	4.62	69.6	23.2	7.2	0.0	0.0	4.63	78.9	7.0	12.7	1.4	0.0
D1013	4.29	42.9	42.9	14.3	0.0	0.0	4.19	39.7	42.6	14.7	2.9	0.0	4.45	56.9	33.8	6.2	3.1	0.0
D1014	4.66	68.7	28.4	3.0	0.0	0.0	2.50	5.7	10.0	27.1	42.9	14.3	2.96	19.7	10.5	30.3	25.0	14.5
D1015	4.29	44.4	40.0	15.6	0.0	0.0	4.12	37.3	38.8	22.4	1.5	0.0	4.51	62.3	26.1	11.6	0.0	0.0
D1016							3.86	25.0	40.3	30.6	4.2	0.0	4.10	39.7	35.6	20.5	2.7	1.4
D1017	4.01	39.2	29.7	24.3	6.8	0.0	4.07	35.6	41.1	17.8	5.5	0.0	4.36	57.1	26.0	14.3	1.3	1.3
D1018							4.18	41.8	35.8	20.9	1.5	0.0	4.33	52.0	32.0	13.3	2.7	0.0
D1019	4.32	53.7	27.8	15.7	2.8	0.0	3.99	33.8	35.1	28.6	1.3	1.3	4.39	59.7	23.4	13.0	3.9	0.0
D1102	4.69	79.2	10.4	10.4	0.0	0.0	4.66	72.1	21.3	6.6	0.0	0.0	4.51	61.5	27.7	10.8	0.0	0.0
D1103	4.75	82.7	9.6	7.7	0.0	0.0							3.35	17.4	20.3	47.8	8.7	5.8
D1104	3.28	20.0	16.7	41.7	15.0	6.7	3.47	26.3	23.7	26.3	18.4	5.3	3.56	26.7	21.3	37.3	10.7	4.0
D1109	4.75	81.1	13.2	5.7	0.0	0.0	4.10	47.8	23.9	20.9	6.0	1.5	3.90	32.4	29.6	33.8	4.2	0.0
D1110							4.43	59.7	23.6	16.7	0.0	0.0	4.77	79.7	17.6	2.7	0.0	0.0
D1117	4.35	45.2	45.2	9.7	0.0	0.0	4.58	66.7	26.1	5.8	1.4	0.0	4.37	52.1	35.6	11.0	0.0	1.4
D1118	4.23	45.3	34.7	18.7	0.0	1.3	4.31	42.9	45.7	11.4	0.0	0.0	4.51	60.3	30.9	8.8	0.0	0.0
D1205	4.19	48.3	22.4	29.3	0.0	0.0	4.19	49.1	26.3	21.1	1.8	1.8	3.89	29.0	38.7	27.4	1.6	3.2
D1217	4.82	85.7	10.7	3.6	0.0	0.0	4.04	44.0	26.4	21.1	6.9	1.7	4.53	69.7	15.9	12.9	0.0	1.4
D1511	4.38	56.4	27.3	14.5	1.8	0.0	4.44	52.7	38.2	9.1	0.0	0.0	3.78	36.5	27.0	19.0	12.7	4.8
D0026	4.43	51.8	39.3	8.9	0.0	0.0	4.56	68.2	22.8	7.0	1.0	1.0	4.35	56.1	26.6	14.4	2.2	0.7
D1301	4.13	43.7	31.0	19.7	5.6	0.0	4.16	49.3	27.5	15.9	4.3	2.9	4.58	68.4	21.1	10.5	0.0	0.0
D1401	4.25	59.0	16.4	16.4	6.6	1.6	4.38	56.9	27.8	11.1	4.2	0.0	4.39	49.3	40.8	9.9	0.0	0.0
D1402	3.98	37.7	25.8	35.1	0.0	1.4	3.91	33.4	28.9	33.2	4.4	0.0						
D1404	4.18	43.8	30.4	25.9	0.0	0.0	3.99	37.1	26.8	34.5	1.7	0.0						
D1501	4.04	33.3	38.9	25.9	1.9	0.0							3.73	19.8	42.4	32.1	2.7	3.1
D1502	4.51	58.3	34.3	7.4	0.0	0.0	3.88	21.1	49.1	26.4	3.4	0.0	4.43	61.5	21.1	16.0	1.4	0.0
D1503	4.35	53.1	28.8	18.1	0.0	0.0	3.96	36.5	25.3	36.3	1.9	0.0	3.93	36.2	36.7	15.5	7.4	4.2
D1504	4.62	65.5	30.9	3.6	0.0	0.0	4.47	54.5	38.2	7.3	0.0	0.0	4.13	44.3	26.2	27.9	1.6	0.0
D1505	4.40	60.0	23.6	12.7	3.6	0.0	4.12	46.0	28.0	22.0	0.0	4.0	4.39	58.2	23.9	16.4	1.5	0.0
D1506	4.49	57.0	35.2	7.7	0.0	0.0	3.80	30.5	28.6	35.5	1.7	3.7	4.01	43.0	25.1	22.8	7.5	1.5
D1507	4.11	38.6	36.8	22.8	0.0	1.8	4.21	41.5	37.7	20.8	0.0	0.0						
D1508	4.49	58.2	32.7	9.1	0.0	0.0	4.24	49.1	25.5	25.5	0.0	0.0	4.35	50.0	36.4	12.1	1.5	0.0
D1509	4.57	62.6	31.7	5.6	0.0	0.0							4.32	53.6	26.8	17.9	1.8	0.0
D1510	4.67	72.9	21.1	6.0	0.0	0.0	4.03	37.6	32.8	24.6	5.0	0.0	4.19	47.7	23.2	29.1	0.0	0.0
D1512	4.38	52.7	32.7	14.5	0.0	0.0	3.93	27.3	38.2	34.5	0.0	0.0	4.02	36.9	33.8	24.6	3.1	1.5
D1513	3.89	30.4	35.7	28.6	3.6	1.8	3.76	29.6	20.4	46.3	3.7	0.0						
D1514	4.50	62.5	26.8	8.9	1.8	0.0	3.84	30.4	35.7	26.8	1.8	5.4	3.85	37.3	29.9	19.4	7.5	6.0
D1515	4.25	47.2	32.1	18.9	1.9	0.0	4.43	54.7	34.0	11.3	0.0	0.0						
D1516							4.13	44.3	30.0	21.4	2.9	1.4	3.64	19.7	39.4	31.8	3.0	6.1
D1601	4.30	46.4	37.5	16.1	0.0	0.0	3.98	35.7	26.8	37.5	0.0	0.0	4.21	42.4	36.4	21.2	0.0	0.0
D1603	4.59	62.4	33.8	3.8	0.0	0.0	4.25	45.1	34.9	20.0	0.0	0.0	4.50	61.8	27.9	8.7	1.5	0.0

理学療法

表-7-27 問10 教員は学生に対して誠実に対応していましたか？

A: 強くそう思う B: ややそう思う C: ふつう D: あまり思わない E: まったくそう思わない

(単位: %)

科目 コード	平成23年度						平成24年度						平成25年度					
	平均 得点	回答率					平均 得点	回答率					平均 得点	回答率				
		A	B	C	D	E		A	B	C	D	E		A	B	C	D	E
D0004	3.92	32.2	30.5	34.5	2.3	0.6	4.14	39.6	38.3	19.5	1.9	0.6	4.13	39.4	36.7	22.8	0.0	1.1
D0005	4.47	60.8	26.0	12.1	1.1	0.0	4.64	70.9	21.7	7.4	0.0	0.0	4.64	74.4	16.6	7.8	0.6	0.5
D0018	3.90	27.6	39.1	30.1	1.9	1.3	4.04	42.0	24.4	30.5	1.5	1.5	3.85	32.7	26.9	33.3	6.4	0.6
D0019	4.11	36.3	38.8	24.4	0.6	0.0	4.19	48.6	21.8	29.6	0.0	0.0	4.06	43.0	31.4	18.0	3.5	4.1
D0020	4.35	48.7	37.2	14.1	0.0	0.0	4.75	78.2	18.2	3.6	0.0	0.0	4.75	78.3	18.3	3.3	0.0	0.0
D0021	4.03	37.5	33.8	23.8	3.8	1.3	4.24	43.1	40.3	15.3	0.0	1.4	4.57	64.8	27.5	7.7	0.0	0.0
D0022	4.71	73.3	24.8	1.9	0.0	0.0	4.76	79.7	16.2	4.1	0.0	0.0	4.64	68.7	26.9	4.5	0.0	0.0
D0027	4.42	56.8	28.4	14.9	0.0	0.0	3.87	28.2	33.3	35.9	2.6	0.0	4.41	51.7	37.9	10.3	0.0	0.0
D1008	3.86	36.2	24.1	32.8	3.4	3.4	4.14	48.7	23.7	22.4	3.9	1.3						
D1011	4.43	56.5	30.4	13.0	0.0	0.0	4.39	49.3	40.8	9.9	0.0	0.0	4.26	44.2	40.3	14.3	0.0	1.3
D1012	4.53	61.6	30.1	8.2	0.0	0.0	4.64	72.5	18.8	8.7	0.0	0.0	4.70	82.9	5.7	10.0	1.4	0.0
D1013	4.27	46.9	32.7	20.4	0.0	0.0	4.28	45.6	36.8	17.6	0.0	0.0	4.49	60.0	29.2	10.8	0.0	0.0
D1014	4.58	65.7	26.9	7.5	0.0	0.0	3.06	8.6	17.1	50.0	20.0	4.3	3.63	27.6	23.7	36.8	7.9	3.9
D1015	4.27	44.4	37.8	17.8	0.0	0.0	4.25	44.8	35.8	19.4	0.0	0.0	4.53	64.3	24.3	11.4	0.0	0.0
D1016							4.11	31.9	50.0	15.3	2.8	0.0	4.14	41.9	33.8	21.6	1.4	1.4
D1017	4.23	44.6	35.1	18.9	1.4	0.0	4.32	45.8	40.3	13.9	0.0	0.0	4.46	63.2	22.4	13.2	0.0	1.3
D1018							4.39	52.2	35.8	10.4	1.5	0.0	4.40	52.0	36.0	12.0	0.0	0.0
D1019	4.31	50.0	31.5	17.6	0.9	0.0	4.17	37.7	44.2	15.6	2.6	0.0	4.42	61.0	22.1	15.6	0.0	1.3
D1102	4.79	85.4	8.3	6.3	0.0	0.0	4.73	80.0	13.3	6.7	0.0	0.0	4.52	61.5	29.2	9.2	0.0	0.0
D1103	4.83	88.5	5.8	5.8	0.0	0.0							3.49	17.4	23.2	55.1	0.0	4.3
D1104	3.53	20.0	20.0	53.3	6.7	0.0	3.55	28.9	19.7	34.2	11.8	5.3	3.91	34.7	25.3	37.3	1.3	1.3
D1109	4.81	84.9	11.3	3.8	0.0	0.0	4.27	50.7	28.4	19.4	0.0	1.5	4.07	39.4	29.6	29.6	1.4	0.0
D1110							4.56	65.3	25.0	9.7	0.0	0.0	4.74	77.0	20.3	2.7	0.0	0.0
D1117	4.35	50.0	35.5	14.5	0.0	0.0	4.48	58.0	33.3	7.2	1.4	0.0	4.26	45.2	38.4	15.1	0.0	1.4
D1118	4.16	41.3	38.7	16.0	2.7	1.3	4.27	38.6	50.0	11.4	0.0	0.0	4.48	58.0	31.9	10.1	0.0	0.0
D1205	4.17	46.6	24.1	29.3	0.0	0.0	4.00	38.6	31.6	22.8	5.3	1.8	3.90	31.1	36.1	26.2	4.9	1.6
D1217	4.86	87.4	10.9	1.7	0.0	0.0	4.18	54.4	19.4	19.3	3.4	3.4	4.60	75.6	10.1	12.9	1.4	0.0
D1511	4.51	61.8	27.3	10.9	0.0	0.0	4.44	54.5	34.5	10.9	0.0	0.0	4.30	54.0	27.0	15.9	1.6	1.6
D0026	4.46	55.4	35.7	8.9	0.0	0.0	4.59	71.6	18.6	7.8	1.0	1.0	4.39	57.4	25.5	15.7	1.4	0.0
D1301	4.36	52.8	31.9	13.9	1.4	0.0	4.33	60.9	17.4	18.8	0.0	2.9	4.61	69.7	21.1	9.2	0.0	0.0
D1401	4.34	59.0	21.3	14.8	4.9	0.0	4.56	66.7	22.2	11.1	0.0	0.0	4.45	50.7	43.7	5.6	0.0	0.0
D1402	4.00	39.1	24.3	35.2	0.0	1.4	4.21	45.6	29.4	25.0	0.0	0.0						
D1404	4.33	52.7	27.4	19.9	0.0	0.0	4.01	37.1	26.8	36.2	0.0	0.0						
D1501	4.09	37.0	35.2	27.8	0.0	0.0							3.81	25.6	37.7	32.3	1.4	3.1
D1502	4.58	63.7	30.7	5.6	0.0	0.0	4.05	31.6	42.1	26.3	0.0	0.0	4.44	60.0	24.2	15.8	0.0	0.0
D1503	4.35	54.0	27.0	19.0	0.0	0.0	4.11	42.0	27.1	30.9	0.0	0.0	4.17	44.1	33.0	20.1	1.4	1.4
D1504	4.62	65.5	30.9	3.6	0.0	0.0	4.51	58.2	34.5	7.3	0.0	0.0	4.48	59.0	29.5	11.5	0.0	0.0
D1505	4.36	52.7	30.9	16.4	0.0	0.0	4.06	46.0	26.0	22.0	0.0	6.0	4.46	63.2	19.1	17.6	0.0	0.0
D1506	4.46	57.4	31.1	11.5	0.0	0.0	3.89	28.1	36.9	33.1	0.0	1.9	4.28	50.2	29.2	19.1	1.6	0.0
D1507	4.25	45.6	33.3	21.1	0.0	0.0	4.17	41.5	34.0	24.5	0.0	0.0						
D1508	4.53	63.6	27.3	7.3	1.8	0.0	4.20	47.3	25.5	27.3	0.0	0.0	4.36	51.5	34.8	12.1	1.5	0.0
D1509	4.59	64.6	29.8	5.6	0.0	0.0							4.50	64.3	21.4	14.3	0.0	0.0
D1510	4.63	69.3	24.7	6.0	0.0	0.0	4.17	41.2	34.2	24.6	0.0	0.0	4.39	58.6	21.6	19.8	0.0	0.0
D1512	4.42	54.5	32.7	12.7	0.0	0.0	3.95	32.7	29.1	38.2	0.0	0.0	4.31	50.8	30.8	16.9	1.5	0.0
D1513	3.95	33.9	33.9	26.8	3.6	1.8	3.89	31.5	27.8	38.9	1.9	0.0						
D1514	4.52	62.5	26.8	10.7	0.0	0.0	3.96	33.3	35.1	28.1	1.8	1.8	4.12	46.3	28.4	19.4	3.0	3.0
D1515	4.21	43.4	34.0	22.6	0.0	0.0	4.43	54.7	34.0	11.3	0.0	0.0						
D1516							4.30	52.9	24.3	22.9	0.0	0.0	3.65	22.7	36.4	30.3	4.5	6.1
D1601	4.38	51.8	33.9	14.3	0.0	0.0	3.95	32.1	30.4	37.5	0.0	0.0	4.24	47.0	30.3	22.7	0.0	0.0
D1603	4.59	62.6	33.5	3.8	0.0	0.0	4.27	47.0	33.0	20.0	0.0	0.0	4.62	69.1	23.5	7.4	0.0	0.0

理学療法

表-7-28 問11 教員は私語に対して適切に対応していましたか？

A: 強く思う B: やや思う C: ふつう D: あまり思わない E: まったく思わない

(単位: %)

科目 コード	平成23年度						平成24年度						平成25年度					
	平均 得点	回答率					平均 得点	回答率					平均 得点	回答率				
		A	B	C	D	E		A	B	C	D	E		A	B	C	D	E
D0004	3.73	32.6	26.9	24.6	13.1	2.9	4.37	50.0	37.0	13.0	0.0	0.0	4.37	55.0	29.4	13.9	0.6	1.1
D0005	4.50	63.1	24.3	12.1	0.6	0.0	4.62	70.4	21.0	8.6	0.0	0.0	4.65	75.4	15.6	7.9	0.6	0.5
D0018	3.95	30.8	35.9	31.4	1.3	0.6	4.12	42.3	28.5	28.5	0.8	0.0	3.88	33.9	26.9	33.3	5.3	0.6
D0019	3.96	30.0	40.6	25.6	3.1	0.6	4.19	50.7	19.0	28.9	1.4	0.0	4.10	43.6	31.4	19.8	1.7	3.5
D0020	4.23	46.2	30.8	23.1	0.0	0.0	4.73	76.4	20.0	3.6	0.0	0.0	4.75	78.3	18.3	3.3	0.0	0.0
D0021	4.11	42.5	30.0	25.0	1.3	1.3	4.35	48.6	41.7	6.9	1.4	1.4	4.64	69.6	25.0	5.4	0.0	0.0
D0022	4.50	61.9	26.7	11.4	0.0	0.0	4.47	58.1	31.1	10.8	0.0	0.0	4.60	68.7	22.4	9.0	0.0	0.0
D0027	4.28	47.3	36.5	14.9	0.0	1.4	3.95	33.3	30.8	33.3	2.6	0.0	4.41	51.7	37.9	10.3	0.0	0.0
D1008	3.91	37.9	20.7	37.9	1.7	1.7	4.25	55.3	18.4	23.7	1.3	1.3						
D1011	4.32	47.8	36.2	15.9	0.0	0.0	4.37	52.1	33.8	12.7	1.4	0.0	4.34	49.4	37.7	11.7	0.0	1.3
D1012	4.21	49.3	31.5	12.3	4.1	2.7	4.58	71.0	15.9	13.0	0.0	0.0	4.64	77.1	11.4	10.0	1.4	0.0
D1013	4.20	42.9	36.7	18.4	2.0	0.0	4.34	47.1	39.7	13.2	0.0	0.0	4.46	58.5	30.8	9.2	1.5	0.0
D1014	4.33	53.7	31.3	10.4	3.0	1.5	3.11	10.0	15.7	55.7	12.9	5.7	3.67	26.7	21.3	45.3	5.3	1.3
D1015	4.16	42.2	33.3	22.2	2.2	0.0	4.31	47.8	35.8	16.4	0.0	0.0	4.52	62.3	27.5	10.1	0.0	0.0
D1016							4.22	40.3	41.7	18.1	0.0	0.0	4.12	42.7	34.7	16.0	5.3	1.3
D1017	4.26	48.6	31.1	17.6	2.7	0.0	4.33	50.7	31.5	17.8	0.0	0.0	4.48	61.0	26.0	13.0	0.0	0.0
D1018							4.27	46.3	35.8	16.4	1.5	0.0	4.44	54.7	34.7	10.7	0.0	0.0
D1019	4.34	50.9	32.4	16.7	0.0	0.0	4.19	39.0	44.2	14.3	2.6	0.0	4.52	64.9	22.1	13.0	0.0	0.0
D1102	4.63	75.0	12.5	12.5	0.0	0.0	4.62	71.7	18.3	10.0	0.0	0.0	4.60	67.7	24.6	7.7	0.0	0.0
D1103	4.71	78.8	13.5	7.7	0.0	0.0							3.32	16.2	25.0	42.6	7.4	8.8
D1104	3.37	16.9	13.6	61.0	6.8	1.7	3.59	26.3	23.7	36.8	9.2	3.9	3.85	32.4	25.7	37.8	2.7	1.4
D1109	4.75	79.2	17.0	3.8	0.0	0.0	4.31	52.2	26.9	20.9	0.0	0.0	4.07	38.0	31.0	31.0	0.0	0.0
D1110							4.47	59.7	27.8	12.5	0.0	0.0	4.72	77.0	17.6	5.4	0.0	0.0
D1117	4.21	41.9	38.7	17.7	1.6	0.0	4.42	55.1	31.9	13.0	0.0	0.0	4.36	49.3	37.0	13.7	0.0	0.0
D1118	4.36	52.0	34.7	12.0	0.0	1.3	4.23	38.6	45.7	15.7	0.0	0.0	4.62	68.1	26.1	5.8	0.0	0.0
D1205	4.10	44.8	20.7	34.5	0.0	0.0	4.05	47.4	22.8	21.1	5.3	3.5	3.92	27.9	41.0	27.9	1.6	1.6
D1217	4.86	85.7	14.3	0.0	0.0	0.0	4.16	52.7	21.1	19.2	3.5	3.4	4.60	75.0	11.8	11.8	1.5	0.0
D1511	4.56	65.5	25.5	9.1	0.0	0.0	4.44	54.5	34.5	10.9	0.0	0.0	4.40	58.7	25.4	14.3	0.0	1.6
D0026	4.54	62.5	28.6	8.9	0.0	0.0	4.57	69.7	20.5	7.8	1.0	1.0	4.40	58.1	24.8	16.4	0.7	0.0
D1301	4.35	58.3	19.4	20.8	1.4	0.0	4.36	56.5	27.5	13.0	1.4	1.4	4.68	76.3	15.8	7.9	0.0	0.0
D1401	4.38	55.7	27.9	14.8	1.6	0.0	4.54	68.1	19.4	11.1	1.4	0.0	4.45	52.1	40.8	7.0	0.0	0.0
D1402	4.01	39.1	25.7	33.8	0.0	1.4	4.14	39.1	36.3	24.6	0.0	0.0						
D1404	4.29	51.2	27.1	21.7	0.0	0.0	4.01	36.8	27.1	36.2	0.0	0.0						
D1501	4.11	37.0	37.0	25.9	0.0	0.0							3.90	28.3	39.2	29.3	0.0	3.1
D1502	4.53	62.0	28.9	9.1	0.0	0.0	4.05	31.5	42.2	26.3	0.0	0.0	4.44	61.3	21.3	17.4	0.0	0.0
D1503	4.35	55.3	25.5	18.3	0.9	0.0	4.08	40.2	27.1	32.7	0.0	0.0	4.15	43.6	32.1	21.5	1.4	1.4
D1504	4.60	63.6	32.7	3.6	0.0	0.0	4.47	58.2	30.9	10.9	0.0	0.0	4.51	62.3	26.2	11.5	0.0	0.0
D1505	4.38	52.7	32.7	14.5	0.0	0.0	4.12	46.0	28.0	22.0	0.0	4.0	4.38	60.3	20.6	17.6	0.0	1.5
D1506	4.42	55.4	31.1	13.5	0.0	0.0	3.88	26.9	37.5	33.8	0.0	1.9	4.31	52.3	28.0	18.2	1.5	0.0
D1507	4.23	45.6	33.3	19.3	1.8	0.0	4.17	41.5	34.0	24.5	0.0	0.0						
D1508	4.49	58.2	32.7	9.1	0.0	0.0	4.24	49.1	25.5	25.5	0.0	0.0	4.35	50.0	36.4	12.1	1.5	0.0
D1509	4.55	62.6	29.9	7.4	0.0	0.0							4.43	62.5	17.9	19.6	0.0	0.0
D1510	4.55	63.1	29.1	7.8	0.0	0.0	4.18	40.9	36.2	22.9	0.0	0.0	4.32	55.4	23.2	19.8	1.6	0.0
D1512	4.35	50.9	32.7	16.4	0.0	0.0	3.95	30.9	32.7	36.4	0.0	0.0	4.28	47.7	32.3	20.0	0.0	0.0
D1513	4.18	41.1	35.7	23.2	0.0	0.0	3.98	33.3	31.5	35.2	0.0	0.0						
D1514	4.46	55.4	35.7	8.9	0.0	0.0	3.98	33.3	35.1	29.8	0.0	1.8	4.16	46.3	29.9	19.4	3.0	1.5
D1515	4.21	45.3	30.2	24.5	0.0	0.0	4.42	50.9	39.6	9.4	0.0	0.0						
D1516							4.27	50.0	27.1	22.9	0.0	0.0	3.64	22.4	37.3	28.4	6.0	6.0
D1601	4.39	51.8	35.7	12.5	0.0	0.0	4.00	33.9	32.1	33.9	0.0	0.0	4.23	45.5	31.8	22.7	0.0	0.0
D1603	4.64	68.1	28.0	3.8	0.0	0.0	4.29	48.9	31.1	20.0	0.0	0.0	4.54	64.6	25.1	10.3	0.0	0.0

理学療法

表-7-29 問12 教員の言動に不快な点はなく気持ちよく受講できましたか？

A: 強くそう思う B: ややそう思う C: ふつう D: あまり思わない E: まったくそう思わない

(単位: %)

科目 コード	平成23年度						平成24年度						平成25年度					
	平均 得点	回答率					平均 得点	回答率					平均 得点	回答率				
		A	B	C	D	E		A	B	C	D	E		A	B	C	D	E
D0004	4.11	43.5	26.6	27.7	1.7	0.6	4.36	55.2	27.9	14.9	1.3	0.6	4.19	45.6	32.8	17.8	3.3	0.6
D0005	4.42	56.5	29.8	13.2	0.5	0.0	4.61	71.7	18.5	9.2	0.0	0.6	4.64	72.7	19.4	7.3	0.0	0.5
D0018	3.87	28.8	35.3	29.5	6.4	0.0	3.97	38.2	26.7	29.8	4.6	0.8	3.80	31.6	28.1	32.2	5.3	2.9
D0019	4.08	37.7	35.2	25.2	1.3	0.6	4.25	51.4	22.5	25.4	0.7	0.0	4.05	43.0	30.8	18.6	3.5	4.1
D0020	4.33	50.0	33.3	16.7	0.0	0.0	4.75	78.2	18.2	3.6	0.0	0.0	4.78	81.7	15.0	3.3	0.0	0.0
D0021	4.01	36.3	36.3	21.3	5.0	1.3	4.28	45.8	38.9	13.9	0.0	1.4	4.62	69.6	22.8	7.6	0.0	0.0
D0022	4.84	85.7	12.4	1.9	0.0	0.0	4.85	86.5	12.2	1.4	0.0	0.0	4.60	68.7	22.4	9.0	0.0	0.0
D0027	4.54	66.2	21.6	12.2	0.0	0.0	3.90	33.3	28.2	33.3	5.1	0.0	4.34	48.3	37.9	13.8	0.0	0.0
D1008	3.93	39.7	20.7	34.5	3.4	1.7	4.18	53.9	18.4	21.1	5.3	1.3						
D1011	4.48	56.5	34.8	8.7	0.0	0.0	4.45	57.7	29.6	12.7	0.0	0.0	4.30	48.1	36.4	14.3	0.0	1.3
D1012	4.68	74.0	20.5	5.5	0.0	0.0	4.72	78.3	15.9	5.8	0.0	0.0	4.66	80.3	8.5	8.5	2.8	0.0
D1013	4.16	42.9	30.6	26.5	0.0	0.0	4.32	45.6	41.2	13.2	0.0	0.0	4.42	56.9	30.8	9.2	3.1	0.0
D1014	4.63	70.1	22.4	7.5	0.0	0.0	3.07	11.4	17.1	45.7	18.6	7.1	3.37	24.0	17.3	40.0	9.3	9.3
D1015	4.25	45.5	34.1	20.5	0.0	0.0	4.27	44.8	37.3	17.9	0.0	0.0	4.50	61.4	27.1	11.4	0.0	0.0
D1016							4.11	38.9	36.1	22.2	2.8	0.0	4.18	44.6	32.4	18.9	4.1	0.0
D1017	4.24	48.6	31.1	16.2	4.1	0.0	4.27	47.9	34.2	16.4	0.0	1.4	4.44	59.7	27.3	11.7	0.0	1.3
D1018							4.19	43.3	37.3	14.9	4.5	0.0	4.44	56.0	32.0	12.0	0.0	0.0
D1019	4.30	52.8	27.8	15.7	3.7	0.0	4.17	37.7	44.2	15.6	2.6	0.0	4.53	64.9	23.4	11.7	0.0	0.0
D1102	4.81	87.2	6.4	6.4	0.0	0.0	4.73	78.3	16.7	5.0	0.0	0.0	4.57	66.2	24.6	9.2	0.0	0.0
D1103	4.81	86.5	7.7	5.8	0.0	0.0							3.57	18.8	27.5	49.3	0.0	4.3
D1104	3.40	18.3	16.7	55.0	6.7	3.3	3.59	31.6	19.7	32.9	7.9	7.9	3.92	38.7	22.7	33.3	2.7	2.7
D1109	4.83	86.8	9.4	3.8	0.0	0.0	4.19	49.3	26.9	19.4	3.0	1.5	4.07	39.4	29.6	29.6	1.4	0.0
D1110							4.60	68.1	23.6	8.3	0.0	0.0	4.74	79.7	14.9	5.4	0.0	0.0
D1117	4.44	58.1	27.4	14.5	0.0	0.0	4.60	67.6	25.0	7.4	0.0	0.0	4.36	51.4	33.3	15.3	0.0	0.0
D1118	4.01	34.7	38.7	22.7	1.3	2.7	4.21	35.7	50.0	14.3	0.0	0.0	4.51	58.0	34.8	7.2	0.0	0.0
D1205	4.16	46.6	22.4	31.0	0.0	0.0	3.88	36.8	29.8	21.1	8.8	3.5	3.85	30.6	37.1	24.2	3.2	4.8
D1217	4.88	87.7	12.3	0.0	0.0	0.0	3.93	43.8	24.7	19.3	5.2	6.9	4.57	73.5	11.8	13.2	1.5	0.0
D1511	4.56	67.3	21.8	10.9	0.0	0.0	4.44	54.5	34.5	10.9	0.0	0.0	4.23	54.8	24.2	12.9	4.8	3.2
D0026	4.50	58.9	32.1	8.9	0.0	0.0	4.58	70.7	19.5	7.8	1.0	1.0	4.33	56.6	24.6	15.1	2.2	1.4
D1301	4.33	55.6	25.0	16.7	2.8	0.0	4.41	63.8	18.8	14.5	0.0	2.9	4.63	72.4	18.4	9.2	0.0	0.0
D1401	4.23	52.5	26.2	16.4	1.6	3.3	4.56	69.0	19.7	9.9	1.4	0.0	4.48	54.9	38.0	7.0	0.0	0.0
D1402	3.97	37.7	24.4	36.5	0.0	1.4	4.15	45.0	27.5	26.1	0.0	1.4						
D1404	4.23	50.9	23.2	24.1	1.8	0.0	3.92	35.1	24.9	36.4	3.6	0.0						
D1501	3.96	35.2	27.8	35.2	1.9	0.0							3.84	27.2	36.3	33.4	0.0	3.1
D1502	4.56	63.9	28.7	7.4	0.0	0.0	3.93	29.9	38.6	28.1	1.7	1.7	4.40	59.8	21.3	17.4	1.4	0.0
D1503	4.41	59.4	23.5	16.3	0.9	0.0	4.11	42.6	25.9	31.5	0.0	0.0	4.20	46.6	31.9	17.3	2.8	1.4
D1504	4.67	70.9	25.5	3.6	0.0	0.0	4.51	58.2	34.5	7.3	0.0	0.0	4.54	65.6	23.0	11.5	0.0	0.0
D1505	4.45	60.0	25.5	14.5	0.0	0.0	4.08	46.0	28.0	20.0	0.0	6.0	4.37	61.2	17.9	19.4	0.0	1.5
D1506	4.55	62.9	29.4	7.7	0.0	0.0	3.86	30.0	31.3	35.0	1.9	1.9	4.34	52.1	31.4	15.1	1.5	0.0
D1507	4.25	47.4	31.6	19.3	1.8	0.0	4.19	41.5	35.8	22.6	0.0	0.0						
D1508	4.49	60.0	30.9	7.3	1.8	0.0	4.24	47.3	29.1	23.6	0.0	0.0	4.36	51.5	34.8	12.1	1.5	0.0
D1509	4.52	57.3	37.1	5.6	0.0	0.0							4.55	66.1	23.2	10.7	0.0	0.0
D1510	4.61	69.1	23.1	7.8	0.0	0.0	4.15	40.9	32.8	26.3	0.0	0.0	4.39	57.0	24.7	18.3	0.0	0.0
D1512	4.42	56.4	30.9	10.9	1.8	0.0	3.98	32.7	32.7	34.5	0.0	0.0	4.31	52.3	29.2	15.4	3.1	0.0
D1513	4.07	37.5	37.5	19.6	5.4	0.0	3.85	29.6	25.9	44.4	0.0	0.0						
D1514	4.50	58.9	32.1	8.9	0.0	0.0	3.98	32.1	37.5	28.6	0.0	1.8	4.00	44.8	23.9	22.4	4.5	4.5
D1515	4.23	47.2	28.3	24.5	0.0	0.0	4.42	56.6	28.3	15.1	0.0	0.0						
D1516							4.29	51.4	25.7	22.9	0.0	0.0	3.64	22.7	37.9	25.8	7.6	6.1
D1601	4.43	51.8	39.3	8.9	0.0	0.0	3.96	33.9	28.6	37.5	0.0	0.0	4.32	51.5	28.8	19.7	0.0	0.0
D1603	4.66	70.1	26.1	3.8	0.0	0.0	4.29	48.9	30.9	20.2	0.0	0.0	4.57	66.1	25.0	8.9	0.0	0.0

理学療法

表-7-30 問13 教員の授業に対する熱意が感じられましたか？

A: 強くそう思う B: ややそう思う C: ふつう D: あまり思わない E: まったくそう思わない

(単位: %)

科目 コード	平成23年度						平成24年度						平成25年度					
	平均 得点	回答率					平均 得点	回答率					平均 得点	回答率				
		A	B	C	D	E		A	B	C	D	E		A	B	C	D	E
D0004	3.87	27.4	36.0	33.7	2.3	0.6	4.17	42.2	35.1	20.8	1.3	0.6	4.13	40.2	35.8	21.8	1.7	0.6
D0005	4.48	61.9	24.9	12.6	0.5	0.0	4.63	73.0	17.2	9.8	0.0	0.0	4.69	76.5	15.6	7.9	0.0	0.0
D0018	3.97	30.5	38.3	29.2	1.9	0.0	4.02	40.5	25.2	31.3	2.3	0.8	3.84	30.4	28.7	36.3	3.5	1.2
D0019	4.12	38.4	36.5	23.9	1.3	0.0	4.23	49.3	24.6	26.1	0.0	0.0	4.11	44.2	32.0	18.0	2.3	3.5
D0020	4.27	46.2	34.6	19.2	0.0	0.0	4.69	74.5	20.0	5.5	0.0	0.0	4.73	76.7	20.0	3.3	0.0	0.0
D0021	4.15	45.0	30.0	21.3	2.5	1.3	4.22	43.1	40.3	13.9	1.4	1.4	4.63	68.5	26.1	5.4	0.0	0.0
D0022	4.77	78.1	21.0	1.0	0.0	0.0	4.76	77.0	21.6	1.4	0.0	0.0	4.62	69.7	22.7	7.6	0.0	0.0
D0027	4.51	66.2	18.9	14.9	0.0	0.0	3.95	33.3	30.8	33.3	2.6	0.0	4.52	58.6	34.5	6.9	0.0	0.0
D1008	3.86	36.2	24.1	32.8	3.4	3.4	4.16	51.3	21.1	22.4	2.6	2.6						
D1011	4.51	59.4	33.3	5.8	1.4	0.0	4.41	52.1	36.6	11.3	0.0	0.0	4.40	51.9	36.4	11.7	0.0	0.0
D1012	4.62	69.9	21.9	8.2	0.0	0.0	4.65	73.9	17.4	8.7	0.0	0.0	4.65	78.9	9.9	8.5	2.8	0.0
D1013	4.14	40.8	34.7	22.4	2.0	0.0	4.25	44.1	36.8	19.1	0.0	0.0	4.49	61.5	27.7	9.2	1.5	0.0
D1014	4.67	73.1	20.9	6.0	0.0	0.0	3.14	10.0	18.6	54.3	10.0	7.1	3.54	28.9	18.4	36.8	9.2	6.6
D1015	4.36	52.3	31.8	15.9	0.0	0.0	4.24	43.3	37.3	19.4	0.0	0.0	4.51	62.9	25.7	11.4	0.0	0.0
D1016							4.18	41.7	36.1	20.8	1.4	0.0	4.19	44.4	31.9	22.2	1.4	0.0
D1017	4.30	48.6	33.8	16.2	1.4	0.0	4.32	45.2	41.1	13.7	0.0	0.0	4.45	60.5	26.3	11.8	0.0	1.3
D1018							4.33	51.5	31.8	15.2	1.5	0.0	4.43	54.7	33.3	12.0	0.0	0.0
D1019	4.30	50.9	30.6	16.7	0.9	0.9	4.17	36.4	45.5	16.9	1.3	0.0	4.52	64.9	22.1	13.0	0.0	0.0
D1102	4.77	85.4	6.3	8.3	0.0	0.0	4.72	78.3	15.0	6.7	0.0	0.0	4.54	63.1	27.7	9.2	0.0	0.0
D1103	4.77	84.6	7.7	7.7	0.0	0.0							3.46	17.4	26.1	46.4	5.8	4.3
D1104	3.35	18.3	15.0	50.0	16.7	0.0	3.57	28.9	21.1	34.2	9.2	6.6	3.85	32.4	25.7	37.8	2.7	1.4
D1109	4.81	86.8	7.5	5.7	0.0	0.0	4.31	53.7	26.9	17.9	0.0	1.5	4.07	40.0	28.6	30.0	1.4	0.0
D1110							4.49	61.1	27.8	9.7	1.4	0.0	4.73	78.1	16.4	5.5	0.0	0.0
D1117	4.35	50.0	35.5	14.5	0.0	0.0	4.47	58.8	32.4	7.4	0.0	1.5	4.27	47.9	31.5	20.5	0.0	0.0
D1118	4.36	50.7	37.3	10.7	0.0	1.3	4.31	47.1	37.1	15.7	0.0	0.0	4.62	69.6	23.2	7.2	0.0	0.0
D1205	4.17	46.6	24.1	29.3	0.0	0.0	3.91	40.4	24.6	21.1	14.0	0.0	3.93	31.1	37.7	27.9	0.0	3.3
D1217	4.95	94.6	5.4	0.0	0.0	0.0	4.35	57.9	21.1	19.2	1.7	0.0	4.66	79.4	8.8	10.3	1.5	0.0
D1511	4.53	63.6	27.3	7.3	1.8	0.0	4.45	54.5	36.4	9.1	0.0	0.0	4.24	47.6	31.7	19.0	0.0	1.6
D0026	4.49	58.2	32.7	9.1	0.0	0.0	4.56	68.7	21.5	7.8	1.0	1.0	4.36	58.1	23.9	15.1	2.2	0.7
D1301	4.43	59.7	25.0	13.9	1.4	0.0	4.45	65.2	20.3	11.6	0.0	2.9	4.66	72.4	21.1	6.6	0.0	0.0
D1401	4.39	54.1	31.1	14.8	0.0	0.0	4.56	68.1	22.2	8.3	0.0	1.4	4.48	53.5	40.8	5.6	0.0	0.0
D1402	4.01	39.1	25.7	33.8	0.0	1.4	4.23	47.8	27.5	24.7	0.0	0.0						
D1404	4.34	51.2	31.3	17.6	0.0	0.0	4.03	38.5	29.0	30.9	0.0	1.7						
D1501	4.07	35.8	35.9	28.3	0.0	0.0							3.91	31.2	35.0	30.7	0.0	3.1
D1502	4.51	60.3	30.6	9.1	0.0	0.0	3.97	29.8	38.7	29.8	1.7	0.0	4.47	64.5	18.1	17.4	0.0	0.0
D1503	4.42	58.9	25.5	14.6	0.9	0.0	4.06	38.4	28.9	32.7	0.0	0.0	4.21	44.1	36.0	17.1	2.8	0.0
D1504	4.67	72.7	21.8	5.5	0.0	0.0	4.53	60.0	32.7	7.3	0.0	0.0	4.51	62.3	26.2	11.5	0.0	0.0
D1505	4.50	59.3	31.5	9.3	0.0	0.0	4.08	46.0	28.0	20.0	0.0	6.0	4.41	64.7	14.7	19.1	0.0	1.5
D1506	4.55	63.1	29.2	7.7	0.0	0.0	3.84	28.3	33.0	35.0	1.9	1.9	4.35	51.6	32.9	14.0	1.5	0.0
D1507	4.19	42.1	38.6	15.8	3.5	0.0	4.19	43.4	32.1	24.5	0.0	0.0						
D1508	4.55	61.8	30.9	7.3	0.0	0.0	4.24	49.1	25.5	25.5	0.0	0.0	4.38	53.0	33.3	12.1	1.5	0.0
D1509	4.55	61.0	33.4	5.6	0.0	0.0							4.63	69.6	23.2	7.1	0.0	0.0
D1510	4.67	73.1	21.1	5.8	0.0	0.0	4.16	39.2	37.8	22.9	0.0	0.0	4.40	58.6	23.1	18.3	0.0	0.0
D1512	4.45	56.4	32.7	10.9	0.0	0.0	4.00	32.7	34.5	32.7	0.0	0.0	4.34	52.3	30.8	15.4	1.5	0.0
D1513	4.09	37.5	39.3	19.6	1.8	1.8	3.83	34.0	17.0	47.2	1.9	0.0						
D1514	4.54	62.5	28.6	8.9	0.0	0.0	4.05	32.1	44.6	21.4	0.0	1.8	4.06	46.3	23.9	22.4	4.5	3.0
D1515	4.23	45.3	32.1	22.6	0.0	0.0	4.45	56.6	32.1	11.3	0.0	0.0						
D1516							4.33	51.4	30.0	18.6	0.0	0.0	3.67	22.4	37.3	31.3	3.0	6.0
D1601	4.46	57.1	32.1	10.7	0.0	0.0	3.95	32.1	30.4	37.5	0.0	0.0	4.18	42.4	33.3	24.2	0.0	0.0
D1603	4.62	68.0	26.2	5.8	0.0	0.0	4.23	47.0	29.4	23.6	0.0	0.0	4.54	61.8	30.8	7.4	0.0	0.0

理学療法

表-7-31 問14 この科目を本学の後輩に勧めたいですか？

A: 強くそう思う B: ややそう思う C: ふつう D: あまり思わない E: まったくそう思わない

(単位: %)

科目 コード	平成23年度						平成24年度						平成25年度					
	平均 得点	回答率					平均 得点	回答率					平均 得点	回答率				
		A	B	C	D	E		A	B	C	D	E		A	B	C	D	E
D0004	3.49	14.2	33.5	40.9	10.2	1.1	3.88	26.1	39.2	31.4	3.3	0.0	3.55	20.1	30.7	38.5	5.6	5.0
D0005	4.38	55.7	29.0	13.6	1.1	0.6	4.59	68.8	22.3	8.2	0.7	0.0	4.57	70.0	18.6	10.2	0.6	0.6
D0018	3.84	27.3	32.0	38.0	2.7	0.0	3.86	33.3	24.8	38.0	2.3	1.6	3.76	28.8	27.1	38.2	3.5	2.4
D0019	3.93	31.2	34.4	31.2	2.5	0.6	4.07	44.3	22.1	31.4	0.7	1.4	3.94	38.0	30.4	23.4	4.1	4.1
D0020	4.05	37.2	34.6	25.6	1.3	1.3	4.58	64.2	30.2	5.7	0.0	0.0	4.73	76.7	20.0	3.3	0.0	0.0
D0021	3.96	33.8	35.1	27.3	1.3	2.6	4.13	40.3	36.1	20.8	1.4	1.4	4.43	59.3	28.6	8.8	2.2	1.1
D0022	4.86	85.6	14.4	0.0	0.0	0.0	4.77	79.7	17.6	2.7	0.0	0.0	4.51	62.7	28.4	7.5	0.0	1.5
D0027	4.41	60.0	21.4	18.6	0.0	0.0	3.85	28.2	30.8	38.5	2.6	0.0	4.45	58.6	27.6	13.8	0.0	0.0
D1008	3.84	31.6	28.1	35.1	3.5	1.8	4.27	55.4	20.3	21.6	1.4	1.4						
D1011	4.61	69.6	21.7	8.7	0.0	0.0	4.39	54.9	29.6	15.5	0.0	0.0	4.41	55.3	34.2	7.9	1.3	1.3
D1012	4.61	65.3	30.6	4.2	0.0	0.0	4.62	69.6	23.2	7.2	0.0	0.0	4.70	82.1	7.5	9.0	1.5	0.0
D1013	4.19	40.4	40.4	17.0	2.1	0.0	4.22	46.3	29.9	23.9	0.0	0.0	4.46	61.5	23.1	15.4	0.0	0.0
D1014	4.66	73.1	19.4	7.5	0.0	0.0	2.86	4.3	18.8	46.4	18.8	11.6	3.21	21.1	18.4	35.5	10.5	14.5
D1015	4.25	43.2	38.6	18.2	0.0	0.0	4.14	39.4	34.8	25.8	0.0	0.0	4.51	65.2	20.3	14.5	0.0	0.0
D1016							4.06	35.2	36.6	26.8	1.4	0.0	4.25	46.6	32.9	19.2	1.4	0.0
D1017	4.22	45.2	35.6	16.4	1.4	1.4	4.24	41.7	40.3	18.1	0.0	0.0	4.44	61.0	26.0	10.4	1.3	1.3
D1018							4.33	53.0	30.3	13.6	3.0	0.0	4.50	58.3	33.3	8.3	0.0	0.0
D1019	4.21	47.2	29.6	20.4	2.8	0.0	4.18	39.5	42.1	15.8	2.6	0.0	4.49	64.5	22.4	11.8	0.0	1.3
D1102	4.73	79.2	14.6	6.3	0.0	0.0	4.69	76.3	16.9	6.8	0.0	0.0	4.54	61.5	30.8	7.7	0.0	0.0
D1103	4.77	84.6	7.7	7.7	0.0	0.0							3.45	13.4	31.3	46.3	4.5	4.5
D1104	3.12	13.3	15.0	46.7	20.0	5.0	3.43	26.3	22.4	28.9	13.2	9.2	3.76	28.4	29.7	33.8	5.4	2.7
D1109	4.77	83.0	11.3	5.7	0.0	0.0	4.25	49.3	26.9	23.9	0.0	0.0	4.08	40.8	26.8	32.4	0.0	0.0
D1110							4.50	62.5	25.0	12.5	0.0	0.0	4.70	78.4	13.5	8.1	0.0	0.0
D1117	4.18	43.5	30.6	25.8	0.0	0.0	4.33	50.7	33.3	14.5	1.4	0.0	4.18	41.7	37.5	18.1	2.8	0.0
D1118	4.21	42.7	40.0	14.7	1.3	1.3	4.31	44.3	42.9	12.9	0.0	0.0	4.49	59.4	30.4	10.1	0.0	0.0
D1205	4.11	43.9	22.8	33.3	0.0	0.0	3.95	42.1	26.3	19.3	8.8	3.5	3.75	19.7	45.9	27.9	3.3	3.3
D1217	4.89	89.0	11.0	0.0	0.0	0.0	3.81	31.7	35.2	22.8	3.5	6.9	4.56	68.9	17.8	13.2	0.0	0.0
D1511	4.42	56.4	32.7	9.1	0.0	1.8	4.42	52.7	36.4	10.9	0.0	0.0	4.24	49.2	31.7	14.3	3.2	1.6
D0026	4.43	55.4	32.1	12.5	0.0	0.0	4.49	64.5	24.7	7.8	1.0	2.0	4.36	55.9	27.8	14.1	0.7	1.4
D1301	4.26	55.6	18.1	23.6	2.8	0.0	4.03	39.7	35.3	19.1	0.0	5.9	4.68	75.0	18.4	6.6	0.0	0.0
D1401	4.28	53.3	23.3	21.7	1.7	0.0	4.59	67.6	23.9	8.5	0.0	0.0	4.45	55.1	36.2	7.2	1.4	0.0
D1402	3.97	37.7	24.6	36.3	0.0	1.4	4.00	39.2	30.5	24.6	2.9	2.9						
D1404	4.44	62.9	18.4	18.8	0.0	0.0	4.09	40.6	30.6	27.1	0.0	1.7						
D1501	3.98	31.5	35.2	33.3	0.0	0.0							3.73	22.7	35.9	36.7	1.6	3.1
D1502	4.53	62.0	28.9	9.1	0.0	0.0	4.00	35.1	31.7	31.5	1.7	0.0	4.36	56.8	24.2	17.5	1.4	0.0
D1503	4.30	51.8	27.3	20.0	0.9	0.0	3.95	32.8	32.8	30.8	3.6	0.0	3.93	39.5	27.9	24.3	2.8	5.6
D1504	4.58	67.3	23.6	9.1	0.0	0.0	4.44	52.7	38.2	9.1	0.0	0.0	4.36	54.1	27.9	18.0	0.0	0.0
D1505	4.51	61.8	27.3	10.9	0.0	0.0	4.10	47.9	27.1	18.8	0.0	6.3	4.44	66.7	13.6	18.2	0.0	1.5
D1506	4.59	68.5	22.1	9.4	0.0	0.0	3.81	30.6	31.5	30.1	3.8	3.8	4.19	47.5	28.4	21.2	1.5	1.5
D1507	4.13	41.1	33.9	21.4	3.6	0.0	4.11	39.6	32.1	28.3	0.0	0.0						
D1508	4.51	60.0	30.9	9.1	0.0	0.0	4.18	43.6	30.9	25.5	0.0	0.0	4.27	48.5	31.8	18.2	1.5	0.0
D1509	4.50	57.7	34.6	7.7	0.0	0.0							4.45	58.9	28.6	10.7	1.8	0.0
D1510	4.69	73.3	22.7	4.0	0.0	0.0	4.05	37.6	31.2	29.6	1.7	0.0	4.13	45.5	21.9	32.6	0.0	0.0
D1512	4.31	47.3	38.2	12.7	1.8	0.0	3.87	29.1	32.7	36.4	0.0	1.8	4.03	40.0	29.2	26.2	3.1	1.5
D1513	3.95	28.6	41.1	26.8	3.6	0.0	3.72	24.5	28.3	41.5	5.7	0.0						
D1514	4.46	60.7	25.0	14.3	0.0	0.0	3.96	30.4	41.1	25.0	1.8	1.8	3.95	43.9	24.2	21.2	4.5	6.1
D1515	4.28	48.0	32.0	20.0	0.0	0.0	4.42	56.6	28.3	15.1	0.0	0.0						
D1516							4.14	45.7	25.7	25.7	2.9	0.0	3.58	21.2	36.4	27.3	9.1	6.1
D1601	4.39	53.6	32.1	14.3	0.0	0.0	3.95	32.7	29.1	38.2	0.0	0.0	4.18	43.9	30.3	25.8	0.0	0.0
D1603	4.51	58.3	34.0	7.7	0.0	0.0	4.22	45.3	34.5	18.4	0.0	1.7	4.52	64.3	23.8	11.9	0.0	0.0

理学療法

表-7-32 問15 この科目を受講して総合的に満足していますか？

A: 強くそう思う B: ややそう思う C: ふつう D: あまり思わない E: まったくそう思わない

(単位: %)

科目 コード	平成23年度						平成24年度						平成25年度					
	平均 得点	回答率					平均 得点	回答率					平均 得点	回答率				
		A	B	C	D	E		A	B	C	D	E		A	B	C	D	E
D0004	3.60	15.8	36.7	39.5	7.3	0.6	3.87	22.9	45.8	28.1	2.0	1.3	3.58	19.6	32.4	38.0	6.1	3.9
D0005	4.38	56.8	27.9	12.5	1.7	1.1	4.57	67.5	22.4	9.5	0.7	0.0	4.60	71.7	16.4	11.9	0.0	0.0
D0018	3.82	25.2	34.0	38.8	2.0	0.0	3.85	33.8	23.8	38.5	1.5	2.3	3.75	29.4	25.3	38.8	4.1	2.4
D0019	3.94	31.2	35.7	29.3	3.8	0.0	4.06	42.1	25.0	30.7	1.4	0.7	3.94	39.2	29.2	22.8	4.1	4.7
D0020	4.19	47.4	25.6	25.6	1.3	0.0	4.60	66.0	28.3	5.7	0.0	0.0	4.73	76.7	20.0	3.3	0.0	0.0
D0021	4.00	36.4	36.4	20.8	3.9	2.6	4.10	37.5	38.9	20.8	1.4	1.4	4.41	56.0	28.6	15.4	0.0	0.0
D0022	4.87	87.5	11.5	1.0	0.0	0.0	4.73	75.7	21.6	2.7	0.0	0.0	4.55	67.2	23.9	7.5	0.0	1.5
D0027	4.46	61.4	22.9	15.7	0.0	0.0	3.82	28.2	30.8	35.9	5.1	0.0	4.41	55.2	31.0	13.8	0.0	0.0
D1008	3.84	31.6	28.1	35.1	3.5	1.8	4.26	54.1	21.6	21.6	1.4	1.4						
D1011	4.43	53.6	37.7	7.2	1.4	0.0	4.37	49.3	38.0	12.7	0.0	0.0	4.36	51.3	36.8	9.2	1.3	1.3
D1012	4.51	58.3	34.7	6.9	0.0	0.0	4.65	71.0	23.2	5.8	0.0	0.0	4.70	82.1	7.5	9.0	1.5	0.0
D1013	4.13	34.0	46.8	17.0	2.1	0.0	4.21	43.9	33.3	22.7	0.0	0.0	4.43	60.0	23.1	16.9	0.0	0.0
D1014	4.61	70.1	20.9	9.0	0.0	0.0	2.81	5.8	17.4	40.6	24.6	11.6	3.18	21.1	15.8	38.2	10.5	14.5
D1015	4.11	31.8	50.0	15.9	2.3	0.0	4.14	39.4	34.8	25.8	0.0	0.0	4.50	64.7	20.6	14.7	0.0	0.0
D1016							4.01	29.6	43.7	25.4	1.4	0.0	4.11	39.4	33.8	25.4	1.4	0.0
D1017	4.21	42.5	38.4	16.4	2.7	0.0	4.18	41.7	36.1	20.8	1.4	0.0	4.39	58.4	27.3	11.7	0.0	2.6
D1018							4.29	53.0	25.8	18.2	3.0	0.0	4.51	59.7	31.9	8.3	0.0	0.0
D1019	4.28	49.1	29.6	21.3	0.0	0.0	4.13	39.5	38.2	18.4	3.9	0.0	4.49	64.5	22.4	11.8	0.0	1.3
D1102	4.73	79.2	14.6	6.3	0.0	0.0	4.64	74.6	15.3	10.2	0.0	0.0	4.54	60.0	33.8	6.2	0.0	0.0
D1103	4.78	84.3	9.8	5.9	0.0	0.0							3.49	14.9	32.8	43.3	4.5	4.5
D1104	3.15	13.6	15.3	47.5	20.3	3.4	3.45	27.6	18.4	32.9	13.2	7.9	3.69	25.0	31.9	33.3	6.9	2.8
D1109	4.83	86.8	9.4	3.8	0.0	0.0	4.24	48.5	28.8	21.2	1.5	0.0	4.08	38.0	32.4	29.6	0.0	0.0
D1110							4.53	63.9	25.0	11.1	0.0	0.0	4.70	78.4	13.5	8.1	0.0	0.0
D1117	4.19	41.9	35.5	22.6	0.0	0.0	4.32	49.3	34.8	14.5	1.4	0.0	4.22	44.4	34.7	19.4	1.4	0.0
D1118	4.13	38.7	40.0	18.7	1.3	1.3	4.29	38.6	51.4	10.0	0.0	0.0	4.52	60.9	30.4	8.7	0.0	0.0
D1205	4.12	45.6	21.1	33.3	0.0	0.0	3.77	38.6	24.6	19.3	10.5	7.0	3.72	19.7	45.9	26.2	3.3	4.9
D1217	4.91	90.9	9.1	0.0	0.0	0.0	3.83	33.4	33.3	22.8	3.5	6.9	4.54	68.9	16.4	14.7	0.0	0.0
D1511	4.45	58.2	32.7	7.3	0.0	1.8	4.42	52.7	36.4	10.9	0.0	0.0	4.13	46.0	28.6	20.6	1.6	3.2
D0026	4.43	57.1	28.6	14.3	0.0	0.0	4.49	64.5	24.7	7.8	1.0	2.0	4.38	57.5	26.2	14.1	0.7	1.4
D1301	4.18	50.0	20.8	26.4	2.8	0.0	4.03	39.7	32.4	23.5	0.0	4.4	4.66	72.4	21.1	6.6	0.0	0.0
D1401	4.18	50.8	24.6	18.0	4.9	1.6	4.55	63.4	28.2	8.5	0.0	0.0	4.41	52.2	36.2	11.6	0.0	0.0
D1402	3.99	38.2	25.0	35.3	0.0	1.4	4.07	43.5	27.6	24.6	1.5	2.9						
D1404	4.31	52.4	26.6	21.0	0.0	0.0	4.05	38.7	30.6	27.3	3.3	0.0						
D1501	3.98	31.5	35.2	33.3	0.0	0.0							3.71	21.3	36.1	38.1	1.4	3.1
D1502	4.55	63.9	27.0	9.1	0.0	0.0	3.95	28.6	39.3	30.4	1.8	0.0	4.41	60.0	21.2	18.8	0.0	0.0
D1503	4.32	52.7	26.4	20.9	0.0	0.0	3.89	29.7	33.7	33.0	3.7	0.0	3.89	35.8	30.0	25.8	4.2	4.2
D1504	4.56	65.5	25.5	9.1	0.0	0.0	4.44	52.7	38.2	9.1	0.0	0.0	4.34	57.4	23.0	18.0	0.0	1.6
D1505	4.45	58.2	29.1	12.7	0.0	0.0	4.04	43.8	29.2	20.8	0.0	6.3	4.46	67.7	13.8	16.9	0.0	1.5
D1506	4.54	62.9	27.7	9.4	0.0	0.0	3.77	26.8	33.5	32.1	5.8	1.9	4.22	50.8	25.1	21.2	1.5	1.5
D1507	4.20	42.9	33.9	23.2	0.0	0.0	4.11	39.6	32.1	28.3	0.0	0.0						
D1508	4.51	58.2	34.5	7.3	0.0	0.0	4.20	45.5	29.1	25.5	0.0	0.0	4.29	48.5	33.3	16.7	1.5	0.0
D1509	4.52	59.6	32.7	7.7	0.0	0.0							4.43	57.1	30.4	10.7	1.8	0.0
D1510	4.67	73.3	20.7	6.0	0.0	0.0	4.05	37.6	31.2	29.6	1.7	0.0	4.11	47.1	17.1	35.8	0.0	0.0
D1512	4.27	43.6	41.8	12.7	1.8	0.0	3.87	27.3	36.4	34.5	0.0	1.8	4.03	40.0	29.2	26.2	3.1	1.5
D1513	4.04	35.7	33.9	28.6	1.8	0.0	3.72	24.5	28.3	41.5	5.7	0.0						
D1514	4.39	55.4	28.6	16.1	0.0	0.0	3.89	27.3	40.0	29.1	1.8	1.8	3.88	43.1	24.6	16.9	7.7	7.7
D1515	4.33	49.0	34.7	16.3	0.0	0.0	4.48	61.5	25.0	13.5	0.0	0.0						
D1516							4.20	48.6	24.3	25.7	1.4	0.0	3.61	21.2	36.4	30.3	6.1	6.1
D1601	4.43	53.6	35.7	10.7	0.0	0.0	3.95	34.5	25.5	40.0	0.0	0.0	4.20	42.4	34.8	22.7	0.0	0.0
D1603	4.52	60.2	32.1	7.7	0.0	0.0	4.22	45.3	34.5	18.4	0.0	1.7	4.55	65.7	23.8	10.5	0.0	0.0

7.2 臨地実習に関する評価

7.2.1 看護学科

「第4章 教育課程」の「4.3 臨地臨床実習」を参照

7.2.2 理学療法学科

【現状】

理学療法学科では、臨床実習後、実習施設に対する評価を以下の学生の実習施設に対する評価という評価表を使用して行っている。これらの結果から各施設の評価を得点化し、臨床実習施設の授業評価としている(表7-33)。

【評価】

合計得点は、平均67点(28点から90点)となった。学生の評価は臨床実習施設により大きく異なることがわかった。今後、臨床実習施設の選択、教員が施設側と指導方法の検討、相談を行う上で参考資料となると考える。しかし、理学療法学科の臨床実習は、ほとんどが1施設1学生となる。そのため、施設の評価を1学生が行うことになり、単年度の評価では各施設の状況を十分に反映しにくい状況がある。今回現在までにアンケートを実施した臨床実習すべて平均を算出したが、少ない施設では1学生の評価により1つの臨床実習施設の評価が行われていた。

各項目については、以下のような傾向があった。臨床実習指導者の先生に感じたことや指導を受けたことがどれくらいあったかについては、全体的には、実習中の学生の精神的な緊張、学習面での大変さを反映し、指導者に対して親近感があまり持てなかったり、実習が楽しいと感じていない学生もいるが、指導に対する熱意、話を聞いてくれる、フィードバックをしてくれるといった技術、知識面での直接指導に関しては、概ね良好な結果が得られた。

施設全体として貴方が感じたことについては、臨床実習施設が急性期病院、回復期リハビリテーション病棟中心の病院、小児施設までさまざまであるため、回答にばらつきがあった。リハビリテーション部門の体制が整っているリハビリテーションサービスが適切に行われている、教育・研修の体制が整備されている、雰囲気が明るい、という質問については、概ね良好な結果であった。

【課題】

真にこの評価が臨床実習施設の質を評価できているか疑問もあり、今後さらに多くのアンケート結果を集計した上で判断すべき内容でもあったと考えられる。

文責：看護学科	自己点検・評価委員	谷口清弥
理学療法学科	自己点検・評価委員	松谷綾子
	臨床実習委員	間瀬教史

表 7-33 学生の実習施設に対する評価

設問 1 1～9の各項目に関して、貴方を指導して下さった実習指導者の先生に感じたことや指導を受けたことがどれくらいあったか1～5のどれか当てはまるところに○をつけて答えて下さい。

マークシート 番号		一度もなか った	時々あつ た	普通にあつ た	よくあつ た	常にあつ た	回答保留
1	親近感がある	1	2	3	4	5	未記入
2	熱意がある	1	2	3	4	5	未記入
3	話を聞いてくれる	1	2	3	4	5	未記入
4	質問に答えてくれる	1	2	3	4	5	未記入
5	時間の使い方を指導 してくれる	1	2	3	4	5	未記入
6	フィードバックをし てくれる	1	2	3	4	5	未記入
7	日々の目標を提案し てくれる	1	2	3	4	5	未記入
8	安心させてくれる	1	2	3	4	5	未記入
9	楽しいと感じさせて くれる	1	2	3	4	5	未記入

設問 2 10～18の各質問に関して、貴方が感じたことを1～5のどれか当てはまるところに○をつけて答えて下さい。

マークシート 番号		一度もそ う思わな かった	時々そ う思っ た	普通 に そ う 思 っ た	よ く そ う 思 っ た	常 に そ う 思 っ た	回答保留
10	リハビリテーション部門の 体制が整っている	1	2	3	4	5	未記入
11	リハビリテーションサービ スが適切に行われている	1	2	3	4	5	未記入
12	退院後の療養環境の調整が 行われている	1	2	3	4	5	未記入
13	在宅ケアが行われている	1	2	3	4	5	未記入
14	病院の理念・基本方針を知る ことができる	1	2	3	4	5	未記入
15	教育・研修の体制が整備され ている	1	2	3	4	5	未記入
16	医療に関する倫理について の教育が行われている	1	2	3	4	5	未記入
17	リハビリテーション部門の 雰囲気が明るい	1	2	3	4	5	未記入
18	個人情報保護の対策が行わ れている	1	2	3	4	5	未記入

設問 3 臨床実習における個人情報保護に関して、臨床実習指導者や他の職員の方々から指導を受けたことや実習生に求められた具体的な対策などについて述べなさい。

設問 4 臨床実習におけるリスク管理・安全対策に関して、臨床実習指導者や他の職員の方々から指導を受けたことや実習生に求められた具体的な対策などについて述べなさい。

第8章 大学院

8.1 大学院の教育理念・目的・目標

【現状】

平成24年度開設の看護学研究科の教育理念、教育目的・目標は下記に示す通りである。

8.1.1 看護学研究科の教育理念

医療の高度化、専門化、少子高齢社会に対応するため、生命の尊厳や人権の尊重について深く理解し、地域住民の生活の質を探究する豊かな人間性と高邁な倫理観を兼ね備えた質の高い、自立(自律)した教育・研究者ならびに高度な看護実践職者を養成することで、社会における保健・医療・福祉の向上に貢献する。

また、看護における高度専門職の特徴をヒューマン・ケアの観点から学究を深めるために、実践を基盤とした看護学の学問的確立に努めるとともに、看護学教育・研究・臨床看護の場において、看護実践を改革し得る柔軟な思考力と実践力を有する創造的で先駆的な指導者としての能力を培う。

8.1.2 看護学研究科の教育目的・目標

8.1.2.1 教育目的

前項の基本理念に基づき、臨床看護に根ざした教育・研究・実践における学究過程を通して、次の(1)、(2)を目的としている。

(1) 看護学を支える哲学的基盤を踏まえ、変化し続ける社会のニーズに対応できる力を培い、看護の教育・研究の進展に寄与する。

看護学の学問的確立を目指すためには、哲学的理解を踏まえながら看護実践に根ざした看護事象を解明するため、看護実践をヒューマン・ケアの観点から関係論的に捉え、了解する力が必要である。さらに、看護事象を解明し看護を探究する力を養うために、学問的追及力に加えて、複雑かつ多様化する実践の場で社会の中に生起する人々の健康問題に関するニーズを的確に捉え、柔軟に対応することができる力、看護を持続的に発展、改革する力を養う。

(2) 看護実践を通して、看護の質を拡充することができる専門看護師を育成し、地域住民の保健・医療・福祉の向上および推進に寄与する。

高い倫理観と豊かな人間性をもとに、特定の専門分野において高度な看護実践が遂行でき、将来、チーム医療で求められる優れた指導力やマネジメント力を発揮し、専門看護師として主体的に行動できる力を養う。

これらの力量を形成するには、専門的な知識・技術の教授のみならず、自ら学問的営為を推進する力を培うために、学習者の看護実践経験の省察を通して臨床現場における看護的関心を研究的関心へと明確化し、探究する力を養う。臨床看護の場における実践的課題を見出し、研究的視点で課題を解決していく自立した専門看護師に必要な能力を養うことで、地域住民の保健・医療・福祉の向上に寄

与する専門看護師を養成する。

8.1.2.2 人材養成の目標

1) 質の高い高度な看護実践を支える教育・研究者及び指導者の養成

医療の高度・多様化に伴い、人々が求める高度な看護サービスの提供や多様なニーズに応えるため、学部教育で蓄積された看護学に関する成果を進化・発展させ、看護理論及び、諸科学の理論を駆使し、実践との繋がりを重視し、研究成果を臨地に還元・協働して新たな研究課題に取り組むことができる教育・研究者を養成する。併せて博士課程への進学に必要な基礎的能力を養成します。同時にジェネラリストを再教育し、自己の能力開発と併せて臨地における指導者を養成する。

2) 特定の専門看護師分野で活躍できる専門看護師の養成

専門看護師教育課程を射程に入れたカリキュラムを編成し、専門看護師に求める「卓越した実践能力」「教育能力」「コンサルテーション能力」「コーディネーション能力」「研究能力」「高邁な倫理観」の6つの能力を有する人材を養成する。「がん看護学」「老年看護学」「地域看護学」の3分野において専門看護師を養成する。

【評価】

開設2年目の平成25年11月29日に文部科学省に出向き「設置計画履行状況面接調査」を受けている。その際に看護学研究科の教育理念、教育目的・目標と併せ、本学が求める学生、受け入れる学生像、アドミッションポリシーを「修士課程募集要項」、「入学宣誓式」資料、「大学院入学のしおり」、「学生要覧」、「大学ホームページ」などで受験生、入学生、2年次生及び保証人等にも資料を踏まえ紹介している。教員をはじめとする本学関係者には、浸透していると推測するが、文部科学省審査官の評価は概ね良好であった。

8.2 大学院の教員組織と運営

【現状】

8.2.1 組織体制と運営

看護学研究科は運営組織として、下図(次ページ)に示す看護学研究委員会が設置されており、大学院研究科委員会規程に添い運営している。

研究科委員会運営は当該看護学専任教授が委員長となり、原則毎月1回程度開催している。平成24年度は15回開催、平成25年度は14回開催しており、大学院研究科委員会規程に基づいて運営している。具体的には、大学全体の教育研究(学部及び大学院)、教学組織及び連絡調整等の基本事項を審議するための管理運営組織として大学評議会がある。カリキュラムや人事等について一部は研究科委員会で決定し、研究科委員会での議決を尊重して大学評議会でも審議する。大学院の運営に一定の独立性は確保されている。

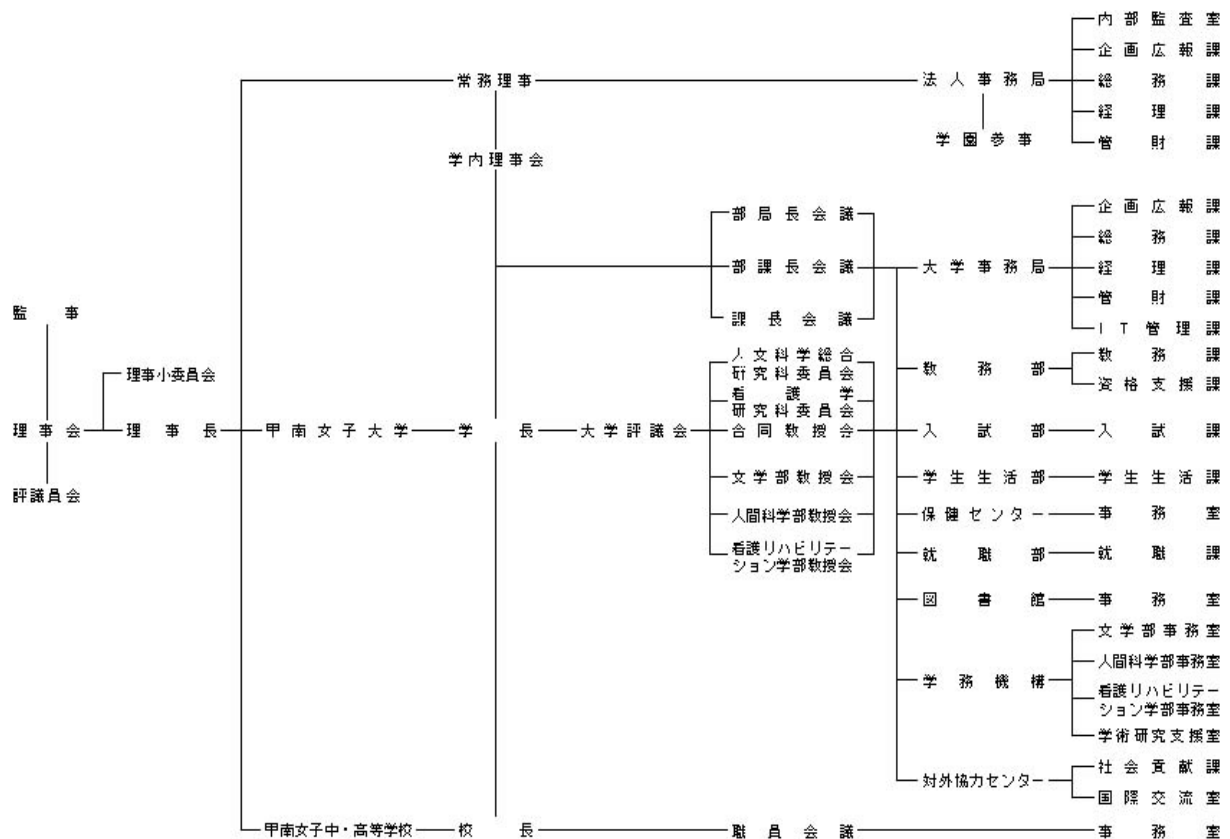


図 8-1 学園内組織図における看護学研究科の位置

8.2.2 教員体制と教員資格

研究科委員会構成員を次に示す。

- ・平成 24 年度 : 教授 12 名 准教授 2 名 計 14 名
- ・平成 25 年度 : 教授 13 名 准教授 2 名 計 15 名

教育課程の専門 5 分野の教員構成を次に示す。

- ・看護実践学 : 教授 3 名 准教授 1 名 計 3 名
- ・女性健康看護学 : 教授 3 名 准教授 1 名 計 4 名
- ・がん看護学 : 教授 2 名
- ・老年看護学 : 教授 2 名
- ・地域看護学 : 教授 3 名

8.2.3 教員の研究活動

【現状】

氏名	青山 ヒフミ	職名	教授
専門分野	看護管理学		
担当授業科目	【学部】 看護管理学 【大学院】 看護実践学特講、看護実践学演習Ⅰ、看護実践学演習Ⅱ、看護管理、看護倫理学、特別研究		
主な所属学会	日本看護管理学会、日本看護学教育学会、日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本看護学倫理学会、日本がん看護学会、聖路加学会、日本医療・病院学会、		
研究のキーワード	看護管理者教育、看護職のキャリア開発、中小規模病院		
平成 23 年度～平成 25 年度研究業績			
論文	<筆頭以外> 【原著】 1) 撫養真紀子、勝山貴美子、 <u>青山ヒフミ</u> 、小笠幸子、宮本ありさ、森迫京子、高橋恵子、田中睦子、川本彰子、今坂洋子、鳥居元純子、寺下久代(2011)、行政・病院・教育機関・看護協会が連携して行った中小規模病院ネットワーク構築事業の意義、東海病院管理学研究会年報平成 21 年度号、(21)、12-18 2) 東堤久恵、 <u>青山ヒフミ</u> 、勝山貴美子(2012)、就任初期の看護師長が役割移行において役割を取得するプロセス-困難の体験に関連した役割の取得からの検討、大阪府立大学看護学部紀要、18(1)、11-21 3) 撫養真紀子、勝山貴美子、尾崎フサ子、 <u>青山ヒフミ</u> (2012)、看護師の自尊感情・Burnout・仕事の満足感についての検討、第 42 回日本看護学会誌論文集「看護管理」、72-76 【研究報告】 1) 撫養真紀子、勝山貴美子、尾崎フサ子、 <u>青山ヒフミ</u> (2011)、一般病院に勤務する看護師の職務満足を構成する概念、日本看護管理学会誌、15(1)、57-65		
研究発表	【一般講演（口演・ポスター）】 1) 亀井葉子、 <u>青山ヒフミ</u> 、勝山貴美子、小笠幸子 (2011)、急性期病院における先輩看護師が認識する一人前看護師の臨床能力とその発達プロセス、第 15 回日本看護管理学会、2011 年 8 月、東京都千代田区 2) 撫養真紀子、 <u>青山ヒフミ</u> 、勝山貴美子、小笠幸子 (2011)、一般病院に勤務する看護師の職務満足を構成する概念、第 15 回日本看護管理学会、2011 年 8 月、東京都千代田区 3) 角野雅春、 <u>青山ヒフミ</u> 、勝山貴美子(2011)、ヘルスリテラシーの観点から捉えた臨床看護師の保健指導に関する検討、日本看護科学学会学術集会、2011 年 12 月、高知県高知市 4) 撫養 真紀子、勝山貴美子、尾崎フサ子、 <u>青山ヒフミ</u> (2011)、一般病院に勤務する看護師の		

	<p>職務満足測定尺度の開発、日本看護科学学会学術集会、2011年12月、高知県高知市</p> <p>5) 水田真由美、勝山貴美子、<u>青山ヒフミ</u> (2012)、新卒看護師のストレスマネジメントに関する研究—新卒看護師のストレスマネジメント認知の特徴と効果的な対処、日本医学看護学教育学会、2012年3月：鳥取県鳥取市</p> <p>6) 森迫京子、撫養真紀子、<u>青山ヒフミ</u> (2012)、中堅看護師が看護部組織の委員として役割を遂行する上での困難と対処の過程、第16回日本看護管理学会、2012年8月：北海道札幌市</p> <p>7) 小西由紀子、撫養真紀子、<u>青山ヒフミ</u> (2012)、看護職における再就職者の組織社会化に関連する要因、第16回日本看護管理学会、2012年8月：北海道札幌市</p> <p>8) 川北敏美、撫養真紀子、<u>青山ヒフミ</u> (2012)、子育て中のパートタイム看護師の働くことへの認識、第16回日本看護管理学会、2012年8月：北海道札幌市</p> <p>9) 撫養真紀子、勝山貴美子、尾崎フサコ、<u>青山ヒフミ</u> (2012)、一般病院に勤務する看護師の職務満足度尺度の信頼性・妥当性、第16回日本看護管理学会、2012年8月：北海道札幌市</p> <p>10) 撫養真紀子、勝山貴美子、尾崎フサ子、<u>青山ヒフミ</u> (2012)、一般病院に勤務する看護師の職業継続意思と自律性および自己効力感との関連、日本看護科学学会学術集会、2012年11月：東京千代田区</p> <p>11) 河村美枝子、清水厚子、<u>青山ヒフミ</u>、撫養真紀子、池亀みどり (2013)、統合した病院の看護管理体制と組織文化が看護職へ与える影響、第17回日本看護管理学会、2013年8月：東京都江東区</p> <p>12) 稲垣伊津穂、撫養真紀子、<u>青山ヒフミ</u> (2013)、民間中小病院の人的資源管理におけるリテンション・マネジメント、第17回日本看護管理学会、2013年8月：東京都江東区</p> <p>13) 池亀みどり、撫養真紀子、<u>青山ヒフミ</u> (2013)、病院の合併・再編成等における看護師長による病棟の組織化、第17回日本看護管理学会、2013年8月：東京都江東区</p> <p>14) 撫養真紀子、<u>青山ヒフミ</u>、河村美枝子、清水厚子 (2013)、病院の管理体制と看護職の組織コミットメント、バーンアウトとの関連、第17回日本看護管理学会、2013年8月：東京都江東区</p> <p>15) 撫養真紀子、勝山貴美子、尾崎フサ子、<u>青山ヒフミ</u> (2013)、病院に勤務する看護師の自律性に影響を及ぼす要因の検討、第33回日本看護科学学会 2013年12月：大阪府大阪市</p> <p>【パネル・シンポ・ワーク】</p> <p>1) 藤井徹也、グレッグ美鈴、山田聡子、<u>青山ヒフミ</u>、三上れつ (2011)、採択される質の高い論文を書くために、第21回日本看護学教育学会、2011年8月：埼玉県さいたま市</p>
<p>研究費取得 状況</p>	<p>【科学研究費】</p> <p>1) 坂田五月 (代表)、<u>青山ヒフミ</u>、勝山貴美子、新人看護師の看護専門職業人としてのキャリア</p>

	<p>ア発達を促す教育支援プログラムの開発、平成 23 年度文部科学省研究補助金（基盤研究 C）、平成 21～23 年度</p> <p>2) 撫養真紀子、勝山貴美子、<u>青山ヒフミ</u>、中小規模病院に勤務する中堅看護師の職務満足を促す看護管理者の支援プログラムの開発、平成 25 年度文部科学省研究補助金（基盤研究 C）、平成 25～27 年度</p> <p>【その他の公的研究費】</p> <p>1) 撫養真紀子、勝山貴美子、<u>青山ヒフミ</u>、急性期病院に勤務する中堅看護師の職務満足に関連する要因の分析、平成 23 年度日本看護協会出版会「看護実践の基礎となる研究助成」、平成 23 年度</p>
学会・協会における活動	日本看護学教育学会理事・査読委員、日本看護研究学会評議員・査読委員、日本がん看護学会評議員・査読委員、日本看護倫理学会評議員、日本看護科学学会代議員、大阪対がん協会評議員、日本看護学教育学会第 20 回学術集会会長
臨地保健 実践活動	<p>大阪府看護協会看護管理者研究セカンドレベル講師</p> <p>大阪府看護協会認定看護師教育課程講師</p> <p>兵庫県看護協会看護管理者研究サードレベル講師</p> <p>静岡県がんセンター認定看護師教育課程講師</p>
受賞・表彰	平成 24 年度日本看護管理学会 学会奨励賞 「一般病院に勤務する看護師の職務満足を構成する概念」（代表撫養真紀子）

氏名	池川 清子	職名	教授
専門分野	看護実践学		
担当授業科目	【学部】看護理論【大学院】実践哲学、看護理論、看護倫理、看護実践学特講Ⅰ、看護実践学特講Ⅱ、看護実践学演習Ⅱ、看護実践学演習Ⅱ		
主な所属学会	医学哲学倫理学会、日本看護学教育学会		
研究のキーワード	看護実践学、看護解釈学		
平成 23 年度～平成 25 年度研究業績			
研究発表	<p>【一般講演（口演）】</p> <p>1) 池川清子, <u>吾妻知美</u> (2012) 看護における実践知-他者理解のプロセス, 第 31 回日本医学哲学・倫理学会大会. 2012 年 11 月: 金沢市</p>		

氏名	川口 優子	職名	特任教授
専門分野	地域看護		
担当授業科目	大学院 地域看護特論 地域看護演習		
主な所属学会	精神保健看護学会		

研究のキーワード	地域精神 値域保健
平成 23 年度～平成 25 年度研究業績	
臨地保健 実践活動	福岡県立大学大学院公開講座講師 「精神科専門看護師の役割」 20013年9月

氏名	白田 久美子	職名	教授
専門分野	がん看護学		
担当授業科目	【大学院】 がん看護学特講、がん病理看護学特講、がん疾病看護学特講、がん看護学援助特講、がん看護学演習Ⅰ、がん看護学演習Ⅱ、がん看護学実習、がん看護学課題研究、がん看護学特別研究		
主な所属学会	日本がん看護学会、日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本看護学教育学会、クリティカルケア看護学会、女性心身医学会		
研究のキーワード	がん看護学、周手術期看護学、がんリハビリテーション看護、緩和ケア		
平成 23 年度～平成 25 年度研究業績			
論文	<p>〈筆頭〉</p> <p>【資料】</p> <p>1) 白田久美子, 吉村弥須子, 前田勇子, 別宮直子, 岡本双美子, 花房陽子 (2013). 手術後の消化器がん患者に対する多職種チームのサポートによる QOL の変化. 日本がん看護学会誌, 27(3):71-76.</p> <p>〈筆頭以外〉</p> <p>【研究報告】</p> <p>1) 梅林かおる, 白田久美子 (2012), 急性期病棟の看護師長の職務満足度, 日本クリティカルケア看護学会誌, 8(3):26-35.</p>		
研究発表	<p>【一般講演 (口演・ポスター)】</p> <p>1) 吉村弥須子, 白田久美子, 前田勇子, 鈴木けい子, 花房陽子, 駒田良子, 別宮直子 (2011). 臍頭十二指腸切除術を受けた高齢癌患者の配偶者が抱える退院後の生活管理の困難と対処法. 第 37 回日本看護研究学会, パシフィコ横浜会議センター. 2011 年 8 月: 横浜市</p> <p>2) 白田久美子, 大杉治司, 前田勇子, 西上智彦, 辻下守弘 (2014). 開胸・開腹下食道がん根治術を受けた患者の手術前後の筋力低下の状態や生活活動状況の実態, 第 1 回日本がんリハビリテーション研究会, 兵庫医療大学, 2014 年 1 月: 神戸市</p>		
研究費取得 状況	<p>【科学研究費】</p> <p>1) 白田久美子 (代表), 江口秀子 (平成 23 年度～24 年度)、前田勇子、田中登美 (平成 25 年度)、辻下守弘、西上智彦、大杉治司 (平成 24 年度～平成 25 年度), 23 年度文部科学省科</p>		

	学研究費補助金（基盤研究C）平成23年度～平成25年度
学会・協会における活動	日本がん看護学会誌査読委員、日本手術看護学会査読委員、第33回日本看護科学学会学術集会査読委員
臨地保健実践活動	1) 日々の看護実践から 看護研究に結びつけるコツ、六甲アイランド病院講演会六甲アイランド病院、2011.7月 2) 六甲アイランド病院看護研究指導 3) 大阪市立弘済院倫理委員会委員 4) 大阪市立大学はばたけ夢基金理事

氏名	津村 智恵子	職名	看護学研究科委員長
専門分野	地域看護学		
担当授業科目	地域看護学特講、地域看護学援助特講、地域看護学演習Ⅰ、地域看護学演習Ⅱ		
主な所属学会	日本老年社会科学学会、日本在宅ケア学会、日本地域看護学会、日本公衆衛生学会、日本社会医学研究学会、日本老年看護学会、日本ケアマネジメント学会、日本看護科学学会、日本高齢者虐待防止学会、日本家族看護学会、日本難病看護学会、日本健康教育学会		
研究のキーワード	地域看護学、公衆衛生看護学、老年看護学、在宅看護学、訪問看護		
平成23-25年度研究業績			
論文	<p>〈筆頭〉</p> <p>【原著】</p> <p>1) 津村智恵子. (2012). 大震災と高齢者の人権擁護, 高齢者虐待防止研究 2012, 8 (1) :8-13</p> <p>2) 津村智恵子, 河野あゆみ, 和泉京子, 臼井キミカ, 大井美紀, 榎田聖子, 鍛冶葉子, 上村聡子, 前原なおみ, 金谷志子, 川井太加子, 山本美輪. (2012). 高齢者のセルフ・ネグレクトを防ぐ地域見守り組織のあり方と見守り基準に関する研究, 大阪高齢者虐待防止研究会/100 回記念誌 2012, 7 : 69-80</p> <p>3) 津村智恵子, 榎田聖子, 臼井キミカ. (2014). 事例からみた養護者支援の実態と課題/高齢者虐待の全国調査からみた養護者支援の実態調査, 高齢者虐待防止研究 2014, 10(1) :33-40</p> <p>【研究報告】</p> <p>1) 津村智恵子, 河野あゆみ, 阿部栄子, 栄木教子, 川東絵里, 菅浜淳仁, 伊藤裕康, 豊田百合子, 中尾正俊, 濱田和則, 松谷之義. (2012). 患者と家族を支える体制づくりに向けて/大阪府訪問看護事業報告書(2010-2011), 大阪府訪問看護支援事業推進協議会/介護保険事業費補助金事業, 総頁 128</p> <p>【その他】</p> <p>1) 津村智恵子. (2011). 高齢者虐待防止とセルフ・ネグレクト, 日本高齢者虐待防止研究, 2011, 7(1) : 1-2</p>		

	<p>〈筆頭以外〉</p> <p>【原著】</p> <p>1) 入江安子, <u>津村智恵子</u>. (2011). 知的発達障害時を抱える家族のファミリーレジリエンスを育成するための家族介入モデルの開発, 日本看護科学会誌 2011, 31 (4) : 34-45</p> <p>2) 河野あゆみ, 金谷志子, <u>津村智恵子</u>. (2013). Effects of preventive home visits on health care costs for ambulatory frail elders: a randomized controlled trial, Aging Clinical Experimental Research 2013, 25 : 575-581</p> <p>3) 榎田聖子, <u>津村智恵子</u>, 臼井キミカ. (2014). 都市部における高齢者虐待の被虐待者と養護者の実態と課題, 高齢者虐待防止研究 2014, 10(1) : 24-32</p> <p>4) 臼井キミカ, <u>津村智恵子</u>, 榎田聖子. (2014). 都市型自治体における高齢者虐待防止・早期発見のための行政サービスの実態と課題/行政調査, 高齢者虐待防止研究 2014, 10(1) : 41-49</p>
著書	<p>【教科書】</p> <p>(単著)</p> <p>1) <u>津村智恵子</u>, 飯村富子, 阿部朱美, 剣物祐子, 川端摩紀枝, 永江尚美. (2012). 第 4 章成人保健の目的・動向, 生活特徴と保健指導, (287-295), 佐々木峰子, 井伊久美子, 金川克子, 平野かよ子, 斉藤恵美子「新版保健師業務要覧(第 2 版)」(589) 日本看護協会出版会</p> <p>2) <u>津村智恵子</u>, 上野昌江, 臼井キミカ, 河野あゆみ, 和泉京子, 池田直樹, 一居誠, 入江安子, 白坂琢磨, 大野かおり, 金谷志子, 中原俊隆, 榎田聖子, 牧野裕子, 森岡幸子, 千代豪昭. (2012). 第 1 部第 4 章グループづくり・組織育成(59-69), 第 5 章業務と法制度(89-93), 第 3 部第 2 章地区活動展開技術, 254-275, <u>津村智恵子</u>, 上野昌江「公衆衛生看護学」(498) 中央法規出版</p> <p>【一般図書・その他】</p> <p>1) <u>津村智恵子</u>, 河野あゆみ, 和泉京子, 金谷志子, 臼井キミカ, 大國美智子, 柴尾慶次, 池田直樹・(2012). 大阪高齢者虐待防止研究会/100 回記念誌 2012, 7 : 総頁 90</p>
研究発表	<p>【一般講演(口演・ポスター)】</p> <p>1) 河野あゆみ, 金谷志子, 藤田俱子, <u>津村智恵子</u>. (2011). 要支援高齢者における介護保険サービス利用と 2 年間の身体心理社会的変化, 第 15 回日本老年看護学会学術集会. 2011 年 6 月 : 群馬大学</p> <p>2) 藤田俱子, 河野あゆみ, 鍛冶葉子, 榎田聖子, 前原なおみ, 金谷志子, <u>津村智恵子</u>. (2011). Health Education Using Scenarios to Understand Self-neglect, 第 2 回日韓地域看護学会共同学術集会/第 15 回日本地域看護学会学術集会. 2011 年 6 月 : 神戸市</p> <p>3) 前原なおみ, <u>津村智恵子</u>. (2011). 高齢者見守り組織発展過程における専門職の役割, 第 52 回日本社会医学会総会. 2011 年 7 月 : 富山市</p> <p>4) 榎田聖子, <u>津村智恵子</u>. (2011). Consideration of a Training Program for Developing,</p>

	<p>第2回日韓地域看護学会共同学術集会/第15回日本地域看護学会学術集会. 2011年6月:神戸市</p> <p>5) 上村聡子, 村岡節, 寺内兼元, <u>津村智恵子</u>, 鍛冶葉子, 前原なおみ. (2011). Comparison of ICT Watch Programs for the Elderly Residents in Urban and Sparsely-populated, 第2回日韓地域看護学会共同学術集会/第15回日本地域看護学会学術集会. 2011年6月:神戸市</p> <p>6) 河野あゆみ, 金谷志子, 藤田俱子, <u>津村智恵子</u>, 近藤智子, 串山京, Laurence Z. Rubenstein. (2011). The Process of Preventive Home Visit Program in Ambulatory Frail Japanese Elders, 第2回日韓地域看護学会共同学術集会/第15回日本地域看護学会学術集会. 2011年6月:神戸市</p> <p>7) 榊田聖子, 鍛冶葉子, <u>津村智恵子</u>. (2011). 地域見守り組織で活用できるチェックシート作り, 第8回日本高齢者虐待防止学会. 2011年7月:水戸</p> <p>8) 榊田聖子, <u>津村智恵子</u>. (2012). 都市部における高齢者等の地域見守りネットワーク活動, 第9回日本高齢者虐待防止学会. 2012年7月:神戸市</p> <p>9) 河野あゆみ, 金谷志子, <u>津村智恵子</u>. (2012). 訪問看護師による病院滞在型相談プロセス評価/訪問看護師の地域連携への認識(第1報), 第32回日本看護科学学会. 2012年12月:東京</p> <p>10) 金谷志子, 河野あゆみ, <u>津村智恵子</u>. (2012). 訪問看護師による病院滞在型相談のアウトカム評価/病院スタッフの訪問看護連携の認識(第2報), 第32回日本看護科学学会. 2012年12月:東京</p> <p>11) 榊田聖子, <u>津村智恵子</u>. (2013). Effects of a Watch organization training program, 第8回国際老年学会. 2013年6月:ソウル</p> <p>12) 臼井キミカ, <u>津村智恵子</u>, 榊田聖子. (2013). 都市部における高齢者虐待の被虐待者と養護者の実態・課題(その1), 第10回日本高齢者虐待防止学会. 2013年9月:松山</p> <p>13) 榊田聖子, <u>津村智恵子</u>, 臼井キミカ. (2013). 都市部における高齢者虐待の被虐待者と養護者の実態・課題(その2), 第10回日本高齢者虐待防止学会. 2013年9月:松山</p> <p>14) <u>津村智恵子</u>, 榊田聖子, 臼井キミカ. (2013). 都市部における高齢者虐待の被虐待者と養護者の実態・課題(その3), 第10回日本高齢者虐待防止学会. 2013年9月:松山</p> <p>15) 魚崎須美, 曾我部ゆかり, <u>津村智恵子</u>, (2014). 独居高齢者の在宅終末期を支援する訪問看護の役割, 第18回日本在宅ケア学会, 2014年3月:東京</p>
<p>研究費取得 状況</p>	<p>【科学研究費】</p> <p>1) 河野あゆみ(代表), 金谷志子, 藤田俱子, <u>津村智恵子</u>. 地域高齢者見守りに対する住民意識向上のための教育啓発プログラムの効果評価. 平成23年度文部科学省研究補助金(基盤研究C). 平成23~平成24年度</p> <p>2) 郷良淳子, <u>津村智恵子</u>. 頻回な自傷行為を呈する思春期患者の感情統制ストラテジーに関する</p>

	る研究。平成 23 年度文部科学省研究補助金(基盤研究 C)。平成 21～平成 23 年度
学会・協会における活動	日本高齢者虐待防止学会理事, 日本公衆衛生学会評議員, 日本在宅ケア学会評議員・査読委員, 日本地域看護学会評議員・査読委員, 日本看護科学学会評議員, 日本社会医学会評議員, 日本老年看護学会評議員, 日本家族看護学会査読委員, 日本難病看護学会査読委員, 大阪府訪問看護支援事業推進協議会委員, 大阪府高齢者保健福祉計画推進委員会委員, 兵庫県阪神北圏域健康福祉推進協議会委員, 岬町保健福祉計画推進委員会委員, 大阪府社会福祉協議会評議員, 大阪府地域福祉振興助成金運営審査委員会委員, 厚生労働科学研究費補助金総合研究事業評価委員会委員, 日本看護協会認定看護師教育課程検討委員, 大阪公衆衛生協会成人部会幹事
臨地保健 実践活動	<ol style="list-style-type: none"> 1) 兵庫県保健師業務ガイドライン作成検討委員会委員(2年間), 座長, 2012年3月 2) 坂出市西讃保健師ブロック研修会「高齢者虐待を防ぐ、見守り組織づくりと活動」講演, 2011年5月 3) 城陽市地域包括支援センター「高齢者虐待の早期発見と見守り」講演, 2011年10月 4) 大阪府地域福祉推進財団研修会「高齢者虐待の防止、高齢者の擁護者支援に関わる法律」講演(2回), 2011年10月・11月 5) 和歌山県北部保健所及び市町村保健師研修会「高齢者虐待を防ぐ、見守り組織づくりと活動」講演, 2012年1月 6) 明石市保険・健康部後年介護室講演会「地域で支えあう高齢者の見守り支援」講演, 2012年3月 7) 泉大津市社会福祉協議会研修「高齢者の権利擁護/高齢者虐待防止法と事例を通して」講演, 2012年3月 8) 大阪府福祉部高齢介護室介護支援課研修「高齢者虐待問題と対処を考える/見守りネットワーク構築を通して」講演, 2012年6月 9) 福祉と人権の研修ネットワーク大阪、大阪府地域福祉推進財団, 「高齢者虐待防止法活用の基本的視点」について講演, 「高齢者虐待防止法活用の基本的視点」講演, 2012年7月 10) 第9回日本高齢者虐待防止学会(神戸大会)市民講座開催, 座長シンポジウム「認知症高齢者の虐待を防ぐまちづくり」を開催, 2012年7月 11) 兵庫区虐待防止ネットワーク委員会研修「高齢者虐待防止のためにできること～地域で支えるためには～」講演, 2012年12月 12) 三重県社会福祉士会によるサービス事業者へ的高齢者虐待防止研修「高齢者虐待にかかわる専門職者の支援とは」講演, 2013年1月 13) 大阪府在宅保健師の会記録集編集委員会委員長として助言・指導, 大阪府在宅保健師 30年間の活動事例記録集作成, 2013年2月～2013年3月 14) 北九州市介護サービス従事者研修「高齢者虐待防止と見守り組織づくり」講演, 2013年11月

15) 岐阜県美濃加茂市高齢者虐待問題と対処を考える専門職と市民ボランティア研修, 「地域の「わ」で助け合い支え合う高齢者支援」講演, 2014年1月

氏名	友田 尋子	職名	教授
専門分野	【学部】小児看護学 【大学院】女性健康看護学		
担当授業科目	【学部】小児看護学概論、小児看護学方法論、小児看護学実習、人権擁護論、看護学概論Ⅱ、看護学概説、卒業研究、総合実習 【大学院】女性健康看護学特講、女性健康看護学援助特講、女性健康看護学演習、女性健康看護学特別研究、司法看護論		
主な所属学会	日本小児看護学会、日本子どもの虐待防止学会、日本母性衛生学会、日本小児保健学会、日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本看護教育学会、ほか		
研究のキーワード	小児看護学、家族看護学、女性健康看護学、司法看護学		
平成 23 年度～平成 25 年度研究業績			
論文	<p>〈筆頭〉</p> <p>【原著】</p> <p>1) 友田尋子(2012). 子どもの虐待ホットライン. 保健の科学. 54(2). 107-110</p> <p>2) 友田尋子(2012). 児童の病気. 精神療法. 388(4). 31-40</p> <p>3) 友田尋子, 問本広美, 森口裕加, 日根埜谷美里(2012). 終末期にある子どものボランティアでの在宅訪問を通して得た, 学生の学びと成長. 看護教育. 53(10). 876-880</p> <p>4) 友田尋子(2012). 文化とDV; 医療者はDVをどのようにとらえているのか. 日本看護研究学会雑誌. 36(1). 16-18</p> <p>5) 友田尋子(2013). 児童虐待と看護倫理. 子どもケア. 8(3). 28-32</p> <p>6) 友田尋子(2014). DVの家庭環境で育つ子どもの問題. 保健の科学. 56(1). 27-30</p> <p>7) 友田尋子(2014). DVの現状と対応. 周産期医学. 44(1). 13-20</p> <p>【実践・症例・活動報告】</p> <p>1) 友田尋子, 森口裕加, 問本広美, 日根埜谷美里(2012). 訪問看護と協働で終末期を支えた小児訪問ボランティア. 訪問看護と介護. 17(11). 974-980</p> <p>2) 友田尋子, 岸利江, 長江美代子(2012). DVドゥーラに関する研究. 科学研究費補助金挑戦的萌芽研究報告</p> <p>【その他】</p> <p>1) 友田尋子(2011). 家族間の暴力—DV・児童虐待—をなくすために. 茨木市人権啓発冊子. 1-2</p> <p>2) 友田尋子(2011). abuseと看護. 日本看護科学学会雑誌. 31(2). 106-108</p> <p>3) 友田尋子(2012). 学会集会印象記. 日本看護研究学会雑誌. 35(5). 1</p>		

<p>著書</p>	<p>【学術書】</p> <p>1) 平木典子, 中釜洋子, 友田尋子(2011). 親密な人間関係のための臨床心理学. 金子書房. 総頁 180 頁. 分担 119-134</p> <p>2) 松下年子, 日下修一, 力根洋子, 米山奈奈子, 日下和代, 松村仁, 高田昌代, 友田尋子, 堤千鶴子, 吉岡隆, 五十嵐愛子, 岡本隆寛(2011). アデイクション看護学. メデカルフレンド社. 総頁 329 頁. 分担 265-278</p> <p>【調査報告書】</p> <p>1) 友田尋子, 片山三喜子, 川喜田好恵, 川畑真理子, 神原文子, 長谷川京子, 藤田景子(2011). 別居親と子どもの面会交流に関する調査報告書—面会交流が子どもに及ぼす影響—. 総頁 123 頁. 分担 1-123</p>
<p>研究発表</p>	<p>【招待講演・特別講演】</p> <p>1) 大阪市民政局・講演「DV 被害と子どもへの影響」2011/4/26</p> <p>2) 大阪市教育センター・講演「家庭内の暴力が子どもに及ぼす影響」2011/6/21</p> <p>3) 大阪市住吉区役所・講演「DV と子どもの虐待」2011/8/23</p> <p>4) 堺自由の泉大学・講演「DV 被害と医療の役割」2011/10/15</p> <p>5) 滋賀県・講演「別居親と子の面会交流～求められるサポートとは～」2012/3/6</p> <p>6) 福井県看護協会・講演「クレーム・暴言・暴力の予防と対処法」2012/7/21</p> <p>7) 徳島県子ども女性相談センター・講演「DV と子どもの虐待」2012/8/24</p> <p>8) 堺自由の泉大学・講演「DV とその環境で育つ子ども」2012/9/4</p> <p>9) 滋賀県看護協会・講演「私たちの暴力にどう対応するか」2012/9/27</p> <p>10) 京都家庭裁判所・講演「DV と子の福祉」2012/10/16</p> <p>11) 大阪成蹊女子高等学校・講演「デート DV」2012/11/2</p> <p>12) 北海道看護協会・講演「看護師への暴力にどう対応するか」2013/1/26</p> <p>13) 福井県看護協会・講演「ふり返ろう。小児看護～子どもの理解と子どもが納得のいくケアができるために～」2013/6/29</p> <p>14) 堺自由の泉大学・講演「DV と子どもの虐待など暴力被害者への医療の役割」2013/8/24</p> <p>15) 大阪市教育委員会・講演「DV や暴力環境下で育った子どもたち」2013/8/29</p> <p>16) 北海道看護協会・講演「働き続けられる職場環境づくり～職員間の暴言・暴力と離職予防～」2013/9/25</p> <p>17) 北海道看護協会・講演「看護職が受ける患者からの暴力～予防と対策～」2013/11/16</p> <p>18) 西宮市・講演「DV 家庭で育つということ」2013/11/30</p> <p>【一般講演（口演・ポスター）】</p> <p>1) 友田尋子, 長江美代子, 岸利江子, 妊産婦と産後 1 ヶ月健診における DV スクリーニングの実態: DV ドウーラ・プロジェクト中間報告. 第 8 回子ども学会議. 2012 年 10 月. 大阪</p> <p>2) 岸利江子, 吉田穂波, 友田尋子, 日本の母親の添い寝の志向と実施状況. 第 8 回子ども学会</p>

	<p>議. 2012年10月. 大阪</p> <p>3) 長江美代子. <u>友田尋子</u>. 岸利江子. Development of a Community-based Intimate Partner Violence (IPV) Doula program in Japan. 14th International Society of Psychiatric-Mental Health Nurses Annual Conference Atlanta. 2012年3月. Georgia. USA</p> <p>4) 長江美代子. <u>友田尋子</u>. 岸利江子. DV サバイバー周産期のトラウマ経験と母子の健康. 第11回日本トラウマ学会. 2012年6月. 東京</p> <p>5) 山田典子. <u>友田尋子</u>. 中村恵子. フォレンジック看護教育の活用の課題. 第6回日本ヒューマンケア科学学術集会. 2013年12月. 青森</p> <p>6) 山田典子. <u>友田尋子</u>. 吉池信男. 中村恵子. シュミレーション教育を用いたフォレンジック・ナース育成の課題. 日本公衆衛生看護学会. 2014年1月. 小田原</p> <p>【パネル・シンポ・ワーク】</p> <p>1) 第42回日本看護学会学術集会シンポジウム「周産期からできる虐待予防」シンポジスト. 2011年8月. 東京</p> <p>2) 第38回日本看護研究学会学術集会シンポジウム「日本文化におけるドメスティック・バイオレンス」シンポジスト. 2012年7月. 沖縄</p> <p>3) 神奈川県DV防止シンポジウム「DVと子どもたち～暴力を見て育つということ」のパネリスト. 2012年9月. 神奈川</p> <p>【報道関連（新聞・雑誌）】</p> <p>1) 2011年6月30日・毎日新聞に「面会交流と子どもの影響研究結果」の報道</p> <p>2) 2011年11月～大阪市人権ホームページ上の動画出演</p>
<p>研究費取得 状況</p>	<p>【科学研究費】</p> <p>1) <u>友田尋子</u> (代表). 岸利江子. 長江美代子. 科学研究費補助金挑戦的萌芽研究（課題番号22659420）. テーマ「DVドゥーラに関する研究」. 平成22年度～4年度</p> <p>2) 日下修一 (代表). 三木明子. <u>友田尋子</u>. 科学研究費補助金挑戦的萌芽研究（課題番号25670924）. テーマ「日本の学部・大学院教育における新たな司法看護教育体制の創造」. 平成25年度～平成27年度</p> <p>【その他の公的研究費】</p> <p>1) <u>友田尋子</u> (代表). 片山三喜子. 川喜田好恵. 川畑真理子. 神原文子. 長谷川京子. 藤田景子. 神戸市助成研究. テーマ「別居親と子どもの面会交流に関する調査」. 平成24年度</p>
<p>学会・協会における活動</p>	<p>【学会における活動】</p> <p>平成24年～日本小児看護学会評議員</p> <p>平成24年～日本子どもの虐待防止学会評議員</p> <p>【協会における活動】</p> <p>平成10年～日本DV防止情報センター運営委員</p>

	平成 18 年～大阪市女性協会評議員（平成 24 年 3 月まで） 平成 24 年～大阪市男女共同参画のまち創生協会評議員 平成 24 年～大阪市男女共同参画審議会議員
臨地保健 実践活動	1) 小児看護学における認定看護師育成の講義 ・平成 22 年～看護研修学校の小児救急認定看護師コース。「子どもの虐待と DV」および「司法看護」講義及び演習を毎年 10 コマ担当 2) 研究会の開催

氏名	水谷 信子	職名	教授
専門分野	老年看護学		
担当授業科目	老年看護学特講、老年看護学援助特講、老年看護学演習Ⅰ、老年看護学演習Ⅱ		
主な所属学会	日本老年看護学会、日本認知症ケア学会、日本看護科学学会		
研究のキーワード	地域・老年看護学（老年看護学）		
平成 23 年度～平成 25 年度研究業績			
論文	<p><筆頭></p> <p>【研究報告】</p> <p>1) 水谷信子 (2012). 家族ニーズをふまえた認知症介護指導の実際—“生活障害”との付き合い方を中心に. 臨床看護, 38 (11) : 1557-1562.</p> <p>2) 水谷信子 (2012). 認知症ケア研究の 25 年を振り返って—実践・研究・教育のトライアングルのなかで. 認知症ケア事例ジャーナル, 6(1) : 81-87.</p> <p><筆頭以外></p> <p>【研究報告】</p> <p>1) 高見美保, 水谷信子. (2011). 認知症高齢者と家族介護者が関わり合う際に生ずる困難に対する看護介入の開発—介入プログラムの作成と実践. 日本老年看護学会誌, 15 (2) : 36-43.</p>		
著書	<p>【教科書】</p> <p>1) 水谷信子 (2011). 第 1 章. 老年期を生きる人の理解, (2-23), 第 2 章. 老年看護の成り立ち, (26-46), 水谷信子, 水野敏子, 高山成子, 高崎絹子編「最新老年看護学 (改訂版)」(全 372 頁) 日本看護協会出版会.</p> <p>2) 水谷信子 (2012). 第 1 部第 28 章介入研究 ; 認知症高齢者とその家族介護者に対するグループケアを活用した相互支援プログラムの開発, (313-323), 小笠原知枝, 松木光子編「これからの看護研究 ; 基礎と応用 (第 3 版)」(全 482 頁) ニューヴェルヒロカワ.</p> <p>3) 水谷信子 (2013). 第 1 章. 認知症と看護, (1-13), 中島紀恵子責任編集, 太田喜久子, 奥野茂代, 水谷信子編集「新版認知症の人々の看護」(全 177 頁) 医歯薬出版.</p>		
研究発表	【基調講演】		

	<p>1) 水谷信子 (2012). 認知症の人と家族の持てる力を引き出すケアサポートー認知症高齢者・家族介護者支援プログラムを通して, 日本認知症ケア学会 2012 年度東海地域大会. 2012 年 12 月: 愛知県名古屋市</p> <p>【ポスター】</p> <p>1) 伊坪恵, <u>水谷信子</u>. (2011). 急性期病院に緊急入院した後期高齢者に対する看護師の臨床判断のプロセス-肺炎治療を受ける認知症をもつ高齢者の事例を通して, 第 16 回日本老年看護学会. 2011 年 6 月: 東京都新宿区</p> <p>2) 丸岡直子, 鈴木みずえ, <u>水谷信子</u>, 岡本恵理, 谷口好美, 小林小百合. (2012) 認知症高齢者に対する転倒予防ケアの臨床判断の構造とプロセス, 第 13 回日本認知症ケア学会大会. 2012 年 5 月: 静岡県浜松市</p> <p>【シンポ】</p> <p>1) 水谷信子, (2011). 老人看護 CNS の活動の広がりと将来展望, 第 16 回日本老年看護学会シンポジウム 1 (座長), 2011 年 6 月: 東京都新宿区</p>
研究費取得 状況	<p>【科学研究費】</p> <p>1) 鈴木みずえ (代表) 泉キヨコ, <u>水谷信子</u>, 丸岡直子, 加藤真由美, 岡本恵理, 谷口好美, 平松知子, 小林小百合. 臨床判断プロセスを基盤とした認知症高齢者のための転倒予防包括看護指標の開発, 平成 23 年度科学研究費補助金 (基盤研究 (B)). 平成 22~平成 25 年度</p> <p>2) 鈴木みずえ (代表) 泉キヨコ, <u>水谷信子</u>, 丸岡直子, 加藤真由美, 岡本恵理, 谷口好美, 平松知子, 小林小百合. 臨床判断プロセスを基盤とした認知症高齢者のための転倒予防包括看護指標の開発, 平成 24 年度研究費補助金 (基盤研究 (B)). 平成 22~平成 25 年度</p> <p>3) 鈴木みずえ (代表) 泉キヨコ, <u>水谷信子</u>, 丸岡直子, 加藤真由美, 岡本恵理, 谷口好美, 平松知子, 小林小百合. 臨床判断プロセスを基盤とした認知症高齢者のための転倒予防包括看護指標の開発, 平成 25 年度研究費補助金 (基盤研究 (B)). 平成 22~平成 25 年度</p>
学会・協会における活動	<p>兵庫県看護協会認定看護師教育課程認知症看護コース講師</p> <p>医療法人甲風会有馬温泉病院評議員</p>
臨地保健 実践活動	<p>1) 神戸大学大学院修士課程在宅看護学特講 I 非常勤講師, 2011 年 7 月</p> <p>2) 兵庫県看護協会認定看護師教育課程認知症看護原論非常勤講師, 2011 年 7 月</p> <p>3) 慶応義塾大学大学院修士課程認知症高齢者看護演習非常勤講師, 2011 年 10 月</p> <p>4) 石川県立看護大学学部老年看護方法論 I 特別講義, 2011 年 11 月</p> <p>5) 兵庫県立大学看護学部高齢者発達・生活看護論非常勤講師, 2012 年 4 月</p> <p>6) 久留米大学大学院医学研究科臨床看護学群老年看護学特論非常勤講師, 2012 年 6 月</p> <p>7) 神戸大学大学院修士課程在宅看護学特講 I 非常勤講師, 2012 年 7 月</p> <p>8) 兵庫県看護協会認定看護師教育課程認知症看護原論非常勤講師, 2012 年 7 月</p> <p>9) 兵庫県看護協会認定看護師教育課程認知症看護概論非常勤講師, 2013 年 7 月</p>
受賞・表彰	<p>平成 23 年度日本看護協会会長表彰受賞 (2011)</p>

【評価】

看護学研究科は、組織責任者の委員長は看護学教授であり、組織も運営も概ね独立性を担保できている。しかし、教員の勤務体制は昼夜開講制のため、学部、大学院の両方の授業担当の教員の負担の軽減策は不十分であり、対策はとれていない。

また、教員構成は大学院教育が初めての若い教員が1/3を占めており、不安感も大きく、学部教育及び学部運営の手一杯感からか、開学1年目は学生確保に偏りが出ており、教員4人とも確保学生0人の分野も見られた。また、年齢の高い教員は退職を前に遠慮もあって消極的な雰囲気となり、研究科の将来展望について殆ど議論は進められなかった。

8.2.4 FD 活動

8.2.4.1 看護学研究科 FD 委員会

<組織構成>

本学研究科開設の平成24年度4月より、FD委員会は設置された。FD委員は、看護学研究科委員会において任命された2名の教員（教授2名）である。本学では、大学院教育にかかわる教員は、学部教育を担当している教員でもあることから、看護学研究科におけるFDは、学部における教員の資質の維持向上にむけた取り組みとしてのFD活動と連繋しながら、大学院教育に携わる教員の資質向上に向けたFD活動も併せて実施していく。そのため、本項目の評価は、大学院FDに関する内容を中心に記載していく。その他、学部・学科と共有することについては、学部におけるFD（自己点検・自己評価）を参照して戴きたい。

【現状】

1) 目的・目標

《大学院FDの目的》

教育・研究者ならびに専門看護師養成のための、看護学専門分野の特徴、独自性を活かしたFD活動を実施し、評価・検討を行なう。以上から教育・研究的課題を明らかにし、具体的な改善策を立案することで教育・研究活動を充実させる。

《大学院FDの目標》

- (1) 看護学研究科の各分野に特徴的な研究方法論について交流する場を設け、学術的に議論を深める。
- (2) 上記の分野に長けた研究者、実践者の招聘などを通して、教員の教育・研究能力、ひいては教員の研究指導能力の維持・向上をはかる。

2) FD 活動・評価

平成24年度から25年度のFD活動の詳細、およびその評価については、学部における自己点検・自己評価項目を参照。

3) 大学院生に対する授業評価アンケートの実施

(1) 授業評価の目的：大学院の授業および学習・研究環境の改善、また大学院教育を担う教員の資質向上のための資料とする。

(2) 授業評価の方法

① 授業評価用紙の作成：実施主体は、FD 委員会とし、本学独自の授業評価票（質問紙）を作成した。

② 質問紙内容は、授業科目（共通基礎科目、専門科目、看護学実習、特別研究、課題研究）、学生生活など。方法は、選択的回答形式および自由記載法による質問紙法とした。

(3) 授業評価の実施

① 対象：各年度に開講している大学院の全科目

② 方法：大学院 FD 委員会を通じて、在籍する大学院生に質問紙を配布、空き時間で回答を行う。

③ 回収方法：用紙の回収は学部事務室に設置する回収ボックスで行う留め置き法。その際、提出の有無などチェックは行わない。

④ 倫理的配慮：個人情報保護を遵守すること、回答内容は成績評価に関係することはなく個人に不利益が及ぶことはないことについて、口頭および書面で説明をした。

尚、調査の結果は、個人や科目名を特定しない形で、ホームページ等に公開する可能性があることも了解を得た。

(4) 評価結果の共有方法

調査結果は、FD 委員会がまとめ、研究科委員会において教育改善のために活用する資料として教員に配布し、検討資料とした。

学生に対しては、研究科委員長および FD 委員が、同資料をもとに評価内容について説明した。その授業評価結果をもとに、研究科委員会で検討した内容について報告を行い、さらに委員会の中で次年度に向けての検討を行った。

大学院生には、上記の検討内容を踏まえて、継続して欲しい点（共通科目は専門科目の基盤となる科目として高評価を得た）、および改善すべき点（「わかりにくい」とされた科目の内容および順序性など再検討をした、学習環境について調整を行った）について、具体的に説明し、改善策を提示した。

4) 教員の研究指導力の向上に向けて

看護学研究の特徴について共通理解をしていく為に、看護学において人間をどのように観ていくのかという原点に立ち戻る必要性があった。そのため、宗教哲学者でありまた看護学にも精通されている、永見勇先生に講演を依頼した。看護学の基盤となる人間観について熟考する機会を得、今後も看護学研究の基盤とその方向性について検討をしていく。それと共に、看護学研究の指導力の向上を目指すためのプログラムを設定していく方針である。

【評価】

看護学研究科における平成24年度、平成25年度のFDは、学部FDと協働しながら、教育力の向上に取り組んできた。その評価については、学部FDの項目に記載しているとおりである。しかし、大学院教育は始まったばかりであり、今後は、看護学研究における指導力の向上に向けたプログラムを実施していく必要がある。

【課題】

- ・看護学研究に関する研修会を設け、教員の研究力の向上を図る。
- ・看護学教育研究の指導方法についての検討会、及び研修会を設け、指導力の向上を図る。

8.3 教育課程・教育活動

8.3.1 科目と科目配置

【現状】

1) 教育目標に合致する科目配置

本研究科は、看護実践に根ざした看護学研究の推進及び近年急速に変化・深化しつつある看護実践現場の質向上に繋がる質の高い高度な看護実践を支える教育・研究者及び指導者、特定の専門看護分野で活躍できる専門看護師の養成を目指した教育課程を編成している。

教育研究の領域は、「看護実践学分野」「女性健康看護学分野」「がん看護学分野」「老年看護学分野」「地域看護学分野」の5分野で構成し、5分野共通の「共通基礎科目」と各分野に「専門科目」「特別研究」を配置している。また「がん看護学分野」「老年看護学分野」「地域看護学分野」の3分野には、将来専門看護師を目指す者のために、「実習科目」及び「課題研究」を配置している。

共通基礎科目は、関連諸科学の理論や技法を学び、専門科目の基盤としての看護学に関する専門的知識・技術を修得し、変化する社会に対し高いヒューマンケアの実践能力、専門知識と技術を備えた指導・調整能力を養うことができる科目を配置した。共通基礎科目のうち「看護研究方法論」と「看護倫理」は、分野の枠を越えて共通に求められる知識や思考力などの知的な技法を修得させる必修科目とした。

専門科目は各分野に関連する基礎的要素を修得し、看護学の視点から保健医療の発展に必要な課題を探索し、その課題に対して主体的に研究計画の立案と調査・実験、そして分析ができる能力を身に付けることができるよう編成した。

分野ごとに「特講科目」、「援助特講科目」、「演習科目」を設けている。「特講科目」では、各専門分野における最新知見の内容を、「援助特講科目」では、専門分野の対象や問題に焦点を当てその特性及び課題と解決方法を創造的・先駆的に探求するための内容、「演習科目」では、文献探索と批判的講読、グループワーク等により各専門分野の実践における現状の理解と課題の発見、探求を行う内容である。専門科目のうち、学生が専攻する分野における「特別研究」または「課題研究」及び「特講科目」「援助特講科目」「演習科目」は必修とした。なお、専攻分野以外においては、「特講科目」は履修選択可能とするが、「援助特講科目」「演習科目」「実習科目」「特別研究」「課題研

究」については履修選択できない。

授業科目は、2学期制での開講を考慮し、特講科目2単位（1単位15時間）、援助特講科目2単位（1単位15時間）、演習科目2単位（1単位30時間）である。また、特別研究は8単位とし、各専門分野の修士論文テーマに沿った研究を行う。課題研究は4単位とし、実習を通して課題研究のテーマに沿った研究を行う。授業科目と単位数は表8-1に示した。

表8-1 看護学研究科 修士課程 授業科目表

看護学専攻(34単位以上)					
		授 業 科 目	単 位	配 当 年 次	開 講 区 分
共通 基礎 科目		実践哲学	2	1～	前期
		看護研究方法論	2	1	前期
		看護倫理	2	1	後期
		看護理論	2	1～	後期
		看護教育学	2	1～	前期
		看護管理	2	1～	後期
		家族看護論	1	1～	前期
		司法看護論	2	1～	前期
		保健・看護情報学	2	1～	前期
		保健福祉政策論	2	1～	後期
		国際保健論	2	1～	後期
		コンサルテーション論	2	1～	後期
		ヘルスアセスメント	2	1～	後期
		臨床薬理学	2	1～	後期
		統計解析学	1	1	前期
専門 科目	看護実践学 分野	看護実践学特講	2	1	前期
		看護実践学演習Ⅰ	2	1	前期
		看護実践学演習Ⅱ	2	1	後期
		看護実践学特別研究	8	2	通年
	女性健康 看護学分野	女性健康看護学特講	2	1	前期
		女性健康看護学援助特講	2	1	前期
		女性健康看護学演習	2	1	後期
		女性健康看護学特別研究	8	2	通年
	がん看護学 分野	がん看護学特講	2	1	前期
		がん病理看護学特講	2	1	前期
		がん疾病看護学特講	2	1	後期
		がん看護学援助特講	2	1	前期
		がん看護学演習Ⅰ	2	1	後期
		がん看護学演習Ⅱ	2	1	後期
		がん看護学実習	6	2	前期
		がん看護学課題研究	4	2	通年
	老年看護学 分野	がん看護学特別研究	8	2	通年
		老年看護学特講	2	1	前期
		老年看護学援助特講	2	1	前期
		老年看護学演習Ⅰ	2	1	後期
		老年看護学演習Ⅱ	2	1	後期
		老年看護学実習Ⅰ	4	1	通年
		老年看護学実習Ⅱ	4	2	前期
		老年看護学課題研究	4	2	通年
	地域看護学 分野	老年看護学特別研究	8	2	通年
		地域看護学特講	2	1	前期
		地域看護学援助特講	2	1	前期
		地域看護学演習Ⅰ	2	1	
		地域看護学演習Ⅱ	2	1	後期
		地域看護学実習	6	2	
地域看護学課題研究		4	2	通年	
地域看護学特別研究		8	2	通年	

2) 教育課程の運用とシラバスの活用

すべての開講科目について、講義科目2単位30時間は15回、演習科目2単位60時間は30回の規定時間数の授業を実施している。単位修得の認定は学年末に行い、成績の評価はA・B・C・Dの4段階とし、A・B・Cを合格、Dを不合格、Fを失格としている。修了要件は、共通基礎科目の必修科目4単位及び共通基礎科目と専門科目の選択科目から30単位以上の合計34単位以上を修得し、修士論文もしくは課題研究の審査及び最終試験に合格することが必要である。

シラバスは毎年科目担当者が作成し Web 上で公開している。平成 23 年度は学生要覧に添付したが、平成 24 年度からは Canpas square で閲覧している。シラバスには、授業担当者名、授業のねらい、到達目標、評価基準、テキスト及び参考図書、授業計画と日程、履修制限等を明示している。学生はシラバスを履修選択の際のガイドとして活用している。

【評価】

開設後 2 年間における教育課程においては大学院設置の認可時の計画通りに履行できた。

2 年間の期間に科目担当者（就任予定者や非常勤講師の辞退のため）が一部変更となった科目があったが、後任の担当者を早急に決定したため授業には支障はなかった。また、一部の科目で担当者が複数の非常勤講師によるオムニバス方式の授業があり、時間割作成及び変更時の調整が煩雑となったが、調整窓口教員を決めて対応することで混乱はなかった。

平成24年度、平成25年度の未開講科目は「地域看護学演習Ⅰ」「地域看護学実習」「地域看護学課題研究」の3科目であるが、これは履修希望者がいなかったためである。それ以外の科目については開講でき、共通基礎科目の「統計解析学」（選択）については看護研究に必要な科目であるため全学生が履修した。どの科目においても学生の授業への出席率は良く、真面目に学習に取り組んでいた。

学生による授業評価アンケート（12名、回収率80%）では、「共通基礎科目」は「看護専門科目を学ぶ上で役立った」と回答した者は100%、「特講義・援助特講・演習」科目において、「シラバスは授業の展開する上で役立った」と回答した者は約50%、「看護専門職の基盤となる知識、思考方法、問題解決方法等を学ぶことができたか」は「非常に～あてはまる」と回答した者は100%、「看護学研究に取り組むにあたり参考になることが多かった」と回答した者が約85%であった。また、「授業は学生同士や教員との対話があり、質問が自由にできる学生参加型の授業であった」と回答した者は約80%、「授業や課題に熱心に取り組むことができた」と回答した者は約80%であった。今回の授業評価アンケートは科目毎ではなく全体的な内容としたが、教育課程の運用、授業内容や方法については概ね良かった。

【課題】

平成 25 年度末に研究科教員が 6 名退職することに伴い科目担当者の補充及び一部の非常勤講師の辞退による後任教員の補充が必要である。また、共通基礎科目の内 13 科目が選択科目であるが、履修者が 1 名であっても開講したが学生の学習効果からみて毎年開講する必要があるか見直しが必要であ

る。また、今後、学生の国際性の涵養や看護学発展のために学生の海外研修や海外の大学との単位互換、留学生の受け入れなど検討していく必要がある。

8.3.2 専門看護師の教育課程

【現状】

教育目的に専門看護師の育成をあげ、人材養成で「がん看護学」「老年看護学」「地域看護学」の3分野において養成することを述べている。26単位申請では、共通科目は8単位以上が必要である。そこで本学研究科では、看護教育論は看護教育学、看護管理論は看護管理、看護理論、看護研究は看護研究方法論、コンサルテーション論、看護倫理、看護政策論は保健福祉政策論の名称で授業科目を設けた。また、がん看護学分野、老年看護学分野、地域看護学分野それぞれ審査基準を満たすための専攻分野共通科目、専攻分野専門科目、実習科目を取り入れた教育課程とした。

平成25年7月末にがん看護学分野と老年看護学分野が26単位専門看護師教育課程の審査を受けるために申請した。そして平成26年2月に、「甲南女子大学大学院看護学研究科看護学専攻修士課程がん看護学分野CNSコース」「甲南女子大学大学院看護学研究科看護学専攻修士課程老年看護学分野老年看護CNSコース」として有効期限は2021年3月までであるが、看護系大学協議会の専門看護師教育課程の認定を受けた。

【評価】

看護系大学協議会の専門看護師教育課程の認定は受けたが26単位の申請である。有効期間は平成32年度までであるのでそれまでに38単位の申請をする必要がある。また本学研究科修了後も専門看護師の資格取得のための活動状況を確認し、生涯学習の支援も大切であると考えます。

【課題】

看護系大学協議会の専門看護師教育課程38単位申請のための準備とカリキュラムの見直しが必要である。

8.3.3 履修方法

【現状】

学生への履修指導は、入学時の履修ガイダンスと研究指導教員による個別指導を行っている。履修科目の年間登録上限は特に設けていないが、選択した科目を十分修得できる範囲となるよう指導している。

履修科目選択のガイドとして専攻分野別履修モデルを学生要覧に掲載し周知している。履修モデルは教育・研究者及び指導者を旨とする者用・社会人学生用・長期履修学生用、がん・老人・地域看護専門看護師資格取得を旨とする者用・社会人学生用・長期履修学生用である。

科目単位認定の異義申立については新学期のオリエンテーションで学生に周知している。成績評価

がF（失格）の場合に限り学生は教務課に申立て手続きを行い、教務課から担当教員に問い合わせが行われる。担当教員は授業の出席回数、試験やレポートの内容、指導経緯などを確認し、評価に対して説明を求められた際は根拠資料をもとに対応することになっている。また、科目担当者は成績評価の根拠となる資料を1年間保管している。

社会人入学については、大学院設置基準第14条特例を適用し実施している。長期履修制度の適用をうける学生は、入学手続き時に申請を行い、認められた者については計画的に3年間で課程修了できるよう学習計画を立てている。また適用の取りやめを希望する場合は、1年次の定められた期間内に必要書類を提出し認められれば2年間で修了できるようにしている。また、社会人学生の学習環境への配慮として、授業を平日の18時以降と土曜日に開講し、自家用車での通学を許可するなどの方策を実施している。

なお、平成24年度入学生は8人、平成25年度入学生のうち5人の合計13人は社会人（社会人入学率86.7%）であった。また、長期履修の申請者は平成24年度入学生8人の内4人、平成25年度入学生7人の内4人、合計8人は長期履修（長期履修申請率53.3%）であった。

【評価】

学生への履修指導を入学時と研究指導教員による個別で実施していることから、学生は自身の学習計画を立てながら無理なく履修できていた。特に社会人学生は勤務を続けながらの就学となるため長期履修制度の活用や時間割上の配慮をすることで履修できた。

【課題】

社会人学生に対する学習支援として、研究指導の時間帯が学生の勤務の都合上やむを得ず日曜日及び夜間となっている。学部と大学院を兼務している教員の負担が大きいこともあり、今後、学習支援体制の検討も必要である。

8.3.4 入学選抜

【現状】

8.3.4.1 大学院生の募集・選抜方法

1) 入学者選抜の概要

入学者選抜は一般選抜と社会人選抜の2つの選抜方法を設定した。一般選抜の出願資格については、保健師、助産師、看護師のいずれかの免許取得者ならびに当該年度に取得見込みの者であり、かつ、大学を卒業した者及び当該年度に卒業見込みの者であること、あるいは、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者とした。また、社会人特別選抜の出願資格は、一般選抜の出願資格を満たし、保健師、助産師、看護師のいずれかの免許を取得後、通算3年以上（受験時）の看護職としての実務経験を有し、かつ本研究科の教育理念、教育目的を理解し、意欲的に学ぶ姿勢があり、入学までに25歳に達する者とした。

なお、本大学院において独自の認定審査を行ったが、審査は、研究科委員会委員長及び各分野の特別研究担当教授で構成する出願資格認定審査委員会において、実務経験（リーダー経験、部下の育成経験等）と研究活動（学会発表、論文等）を重視し判定した。なお、専門看護師資格取得を目指す者は、資格取得時に原則として実務経験5年以上でそのうち3年は各専門分野の実務経験を有することが必要なことから、志望する分野で、3年以上に相当する実務経験者（受験時）であること。また、出願手続きの前に、希望する分野の教員（希望する分野が不明の場合は、研究科委員会委員長）と、履修や研究に関する事前相談を受けるものとした。

2) 選抜体制及び選抜方法

入学者の選抜については、入学試験委員会を設置し、「一般選抜」及び「社会人特別選抜」を行った。

- ① 一般選抜：筆記試験（小論文（英語読解含む）、専門科目）、口述試問及び出願書類を総合して判定した。
- ② 社会人特別選抜：筆記試験（小論文、専門科目）、口述試問及び出願書類を総合して判定した。

3) 履行状況

入学選抜は、初年度である平成24年度は1回のみでの選抜であったが、平成25年度は定員に満たなかったため追加募集を実施した。選抜試験等は設置時の計画に則って実施しており、受験区分と受験者・合格者等は以下のとおりである。（表8-2、表8-3）それぞれの年度の合格者は全員が入学しており、平成25年度時点での在学者は1年生7人、2年生8人の合計15人であった。

表8-2 平成24年度看護学研究科修士課程入学試験結果

専攻	コース	一般					社会人特別					総計				
		志願者	受験者	合格者	手続者	入学者	志願者	受験者	合格者	手続者	入学者	志願者	受験者	合格者	手続者	入学者
看護学	看護実践学	0	0	0	0	0	3	3	2	2	2	3	3	2	2	2
	女性健康看護学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	がん看護学	0	0	0	0	0	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
	老年看護学	0	0	0	0	0	4	4	2	2	2	4	4	2	2	
	地域看護学	0	0	0	0	0	3	3	2	2	2	3	3	2	2	
合計		0	2	2	2	0	12	12	8	8	8	12	12	8	8	

表8-3 平成25年度看護学研究科修士課程入学試験結果（追加募集を含む）

専攻	コース	一般					社会人特別					総計				
		志願者	受験者	合格者	手続者	入学者	志願者	受験者	合格者	手続者	入学者	志願者	受験者	合格者	手続者	入学者
看護学	看護実践学	0	0	0	0	0	5	5	2	2	2	5	5	2	2	2
	女性健康看護学	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2
	がん看護学	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	老年看護学	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1
	地域看護学	0	0	0	0	0	2	2	1	1	1	2	2	1	1	1
合計		2	2	2	2	2	9	9	5	5	5	11	11	7	7	7

8.3.4.2 アドミッション・ポリシー

1) 設置時の計画

看護学専攻のアドミッション・ポリシーは、「本学の教育理念に基づき高い倫理観・看護実践能力とリーダーシップを身につけた高度専門職業人としての連携・調整能力、組織的問題解決能力、教育能力、実践能力を持ち、活動分野でのケアの開発・構築に携わることができ、また高度専門看護職者として社会に貢献しようとする者」である。このような理念と目標を達成するため、次のような資質と能力、意欲を持った学生を求めている。

- (1) 看護学に対する強い関心と探究心を持ち、主体的に学ぶ姿勢を有する者
- (2) 本学研究科の教育を受けるための基礎学力を有する者
- (3) 本学研究過程修了後は看護分野の教育・研究及び指導者、また専門看護師として実践活動や社会貢献できる者

2) 履行状況

入試要項やインターネットを通じて入学生にもとめている内容を明示するなど設置時の計画に従って履行した。

8.3.4.3 社会人受け入れのための具体的方策

1) 入学資格審査の計画と履行状況

出願資格に個別の入学資格審査を実施し、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者の受験を許可しており、平成24年度は7人、25年度は6人の入学資格審査を行い、合計12人を承認(承認率92.3%)した(表8-4)。

表8-4 平成24・25年度入学資格審査実施状況(追加募集に伴う資格審査を含む)

	平成24年度			平成25年度			合計			
	志願者	承認者	否	志願者	承認者	否	志願者	承認者	否	
看護学	看護実践学	3	3	0	2	2	0	5	5	0
	女性健康看護学	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	がん看護学	1	1	0	1	1	0	2	2	0
	老年看護学	2	2	0	0	0	0	2	2	0
	地域看護学	1	1	0	3	2	1	4	3	1
合計	7	7	0	6	5	1	13	12	1	

2) 社会人特別選抜と長期履修制度の計画と履行状況

本研究科では、出願資格に社会人特別選抜を設けており、筆記試験(小論文)の英文読解の配点を一般選抜の2分の1の配点にして社会人を積極的に受け入れている。その結果、平成24年度入学生は8人、平成25年度入学生のうち5人の合計13人は社会人(社会人入学率86.7%)であった(表8-2, 8-3)。なお、勤務を続けながら教育・研究が可能にするために①長期履修制度を導入、②時間割上の配慮(土

曜日と平日の18時以降を講義時間とする)、③自家用車での通学を許可などの方策を実施している。その結果、長期履修の申請者は平成24年度入学生8人の内4人、平成25年度入学生7人の内4人、合計8人は長期履修申請者(長期履修申請率53.3%)であった。

出願前に、研究・教育(履修内容)等について具体的な相談ができるよう「志望する専攻分野指導教員」との事前相談を設定しており、ホームページ及び募集要項等に担当教員名・研究指導テーマの例・メールアドレスを公表している。

8.3.4.4 入学者選抜等の入試に関する情報提供

1) 設置時の計画:

学内(学生・教職員向け)並びに、学外(受験生・地域社会向け)に対して、①各種刊行物による情報発信、②ホームページによる情報発信・公表、③専門職者向け研究会開催による看護学情報の提供、④公開講座、学会の開催、各種講演等による看護学情報の提供・発信を計画した。

2) 履行状況

(1) 学内(学生・教職員向け)

ホームページや、大学院案内パンフレットによる情報発信・公表した。なお、教職員に対しては全学教授会等を通して、学生に対しては卒業時の説明会時や、卒業研究時に情報提供した。また、「甲南女子Letter」は教職員用(甲南中・高校を含む)に1,100部配布し、さらに、年1回発行の同窓会誌「清友」5,000部、同じく年1回発行の教育後援会報「大学だより」4,000部によって情報提供した。

(2) 学外(受験生・地域社会向け)

ホームページによる大学院情報発信・公表の他、大学院案内パンフレット並びに募集要項を平成24年度各1,000部、平成25年度各2,000部作成し、全国看護系大学や近畿・東海・北陸・中国・四国・九州の保健師・助産師・看護師養成機関、学部実習施設等へ郵送(郵送機関数総数393カ所)した。また、学部実習施設等へはパンフレットや募集要項を持参して施設・機関の看護部長・師長等を通じて、情報提供し、入学希望者へ大学院の紹介を依頼した。さらに、オープンキャンパス時にも情報提供した。なお、大学院案内パンフレット等の発送は、平成24年度については初年度でもあり、パンフレットは2回発送した。さらに、甲南女子大学同窓生への情報発信では、「甲南女子Letter」を約37,000部(海外を含む)発送、一部は入試説明会時にも配布し、さらに大学院担当教員の個別での情報提供では、①全国レベルでの学会開催時、②学内公開講座開催時、③講演会・研修会の場合を通じて大学院情報を提供した。

8.3.4.5 定員管理

看護学研究科の入学定員は5名であり、入学した学生は初年度である平成24年度は8名、平成25年度は7名の合計15であり、2年間の定員に占める入学生の倍率は1.5倍である。しかし、長期履修制度申請者が8名であるため、実質の倍率はそれ以下となる。しかも、担当教員数、特に修士論文の

表 8-5 分野別入学生と論文担当教員との関係

単位：人

	看護 実践学	女性健康 看護学	がん 看護学	老年 看護学	地域 看護学	計
24・25年度入学生(a)	4	2	3	3	3	15
論文指導教員(b)	3	4	2	2	3	14
教員1人当たり学生数:a/b	1.3	0.5	1.5	1.5	1.0	1.1

指導教授は看護実践学分野3人、女性健康看護学分野4人、がん看護学分野2人、老年看護学分野2人、地域看護学分野3人の合計14人を擁しており、決してバランスを欠くような入学生数ではない。

【課題】

入学者選抜方法、社会人受入のための具体的方法、入学希望者への情報提供等の各方策については、入学試験合格者全員が入学し、定員を満たしていることから、当初の計画通りほぼ順調に履行できていると評価できる。しかし、今後は大学院教育内容の質を担保し、更なる向上・発展のためには継続的に入学生を確保することが求められ、積極的・具体的な方策を検討する必要がある。また、入学定員は看護学専攻全体としての定数であり、分野別には定められていない。したがって論文指導教員1人当たりの学生数は1.1人となっている。しかし、表8-5に示すように分野別の論文担当教員1人当たりの学生数では最小から最大までは3倍の差が認められる。もっとも大学開設初年度から2年間のデータであるため、今後は修正されていくものと考え、この傾向を踏まえて実情に適した建設的な取組が求められる。

8.4 学位論文指導体制・評価基準

8.4.1 学位論文作成過程と指導体制

【現状】

本学大学院研究科の学位論文作成プロセスは図8-2に示す。論文提出までの手続きとその時期などを明記し、学生要覧に記載した。学生には入学時・前期・後期のオリエンテーション時学生要覧を用いて説明し周知した。学位論文の指導体制は、看護学研究科研究指導内規に記載しているが、1年次に当該学生の専門分野について指導教員1名（修士の学位論文等作成を含む）を定めた者が行うこととしている。学位規程第8条の2には、学位論文審査は審査委員3名で行い、論文指導教員は論文審査委員にすることはできないとある。このことから学位論文作成プロセスの段階から、複数の教員からの指導を受ける機会を設ける必要があった。そこで、研究計画書を研究科委員会で発表する場や中間発表会を開催して複数の教員からの指導を受ける機会を設けた。

【評価】

看護学研究科を開設して、始めて研究計画書作成から学位授与までの論文指導のプロセスを行った。

初めてのことであり、教員間の認識の違いもあり、スムーズにはいかなかった。看護学研究科の研究指導教員は、担当学生の論文審査委員は務めることはできないということからくる学生の論文指導体制は、教員間の認識の違いがあり、ある学生は審査委員が論文指導にもあたっていたり、ある学生は論文作成が遅いために審査委員が目を通すのが、ほとんどできていなかったりした。論文指導に不公平感があつたことは否めない。また長期履修学生に対する研究計画書から学位授与までのプロセスが検討されていなかったことから、学生も教員も戸惑った。

【課題】

長期履修学生に対する研究計画書から学位授与までのプロセスについての検討が必要である。研究指導教員1名と審査委員との関係をどのようにしていくのか、また複数の教員からの指導を受ける機会をどのようにするのかについても検討が必要である。さらに論文の指導教員の変更方法、研究成果の公表に関する取り決めや海外への公表に対して、英文論文の指導体制、国際学会への参加を奨励することなど今後検討していく必要があると考える。

8.4.2 学位論文作成過程における倫理的配慮

【現状】

倫理に関する規定は、研究倫理委員会規程、研究倫理委員会規程があり、大学として組織的に研究倫理審査機関が設けられている。研究倫理審査基準は、研究倫理審査細則、大学院生の研究活動に関する倫理的指針として学生要覧に記載し、研究倫理委員会は原則として年3回は実施しており、適切な審査が行われている。倫理委員会では、研究対象者が十分保護されるように自己決定の保障、十分な情報提供、プライバシーの十分な保護、研究対象者の負担を最小限にすること、また研究フィールドが不利益を被らないように、また学生の安全への配慮などを申請用紙に記載されているかを確認し審査している。研究倫理委員会が適切な倫理審査が行われるように、研究倫理委員会に提出する前、研究計画発表会を行なった。

【評価】

本看護学研究科の学生は、研究計画発表会を倫理委員会開催の前に行っていることもあり、適切な倫理審査を受けることができていた。しかし、学位論文作成プロセスでは、3月の倫理委員会に申請することとして記載していたので、5月や10月にも申請するにはどのようにすべきか検討が必要である。特に長期履修学生の研究倫理審査申請については時期の検討が必要である。

【課題】

学位論文作成プロセスの中に5月と10月に研究倫理審査を受ける場合や長期履修学生の研究倫理審査申請時期について検討し記載する必要があると考える。

8.4.3 評価基準

【現状】

学位論文審査の評価項目と評価基準は表 8-6 に示す。評価項目・基準は学生要覧に記載し、学生に周知している。評価項目は、1. 学術上・看護の専門性向上の意義、2. 研究計画、研究方法の妥当性、3. 研究目的に添う結果、結論を得ているか、4. 修士論文の構成・体裁、5. 審査でのプレゼンテーション、6. 研究成果の波及効果・発展性とした。看護学の論文としての評価は、評価項目のなかの学術上・看護の専門性向上の意義の項目に看護学・看護実践への貢献に対する評価を含めた。論文審査の判定は、審査委員会の合否判定で審査委員 3 名の合計得点が 60 点以上を合格とし、論文審査の主査は論文結果要旨（表 8-6）としてまとめ研究科委員会に提出することとした。審査結果の論文の点数は審査に加わらなかった研究指導教員が出席状況と点数を入力することになっている。

【評価】

評価項目・基準については、適切であり不合格となる学生もいなかった。審査結果の論文の点数は審査に加わらなかった研究指導教員が出席状況の提出と審査委員の出した点数を、特別研究 8 単位、課題研究 4 単位の科目担当者として成績入力することになっている。しかし、審査に加わっていない指導教員が評価の点数入力をするにはやはり問題があると考ええる。

【課題】

審査結果の論文点数が最終の成績評価として残ることになる。審査委員が論文点数を出すのなら審査委員が点数入力を行うような仕組みに変更すべきである。しかし、特別研究 8 単位、課題研究 4 単位の科目を指導してきた担当教員の意見も反映できるシステムにすべきではないかと考える。

8.5 修了認定

8.5.1 修了認定

【現状】

最終試験は、学位規程第 9 条にあるように審査委員 3 名と指導教員 1 名で行い、最終試験は学位論文審査終了後、学位論文を中心として、広くこれに関連のある科目について口頭によって行うこととした。また、最終試験では外国語 1 科目を課して行なうことから論文作成時に使用した英文を用い答えてもらうこととした。学位規程第 19 条にあるように研究科委員会は、審査委員の主査が提出した論文結果要旨と論文指導教員が提出した最終試験結果の要旨および学生の修士論文の要旨を基に修士の学位授与の可否について審議した。研究科委員の 3 分の 2 以上が出席し、出席委員の 3 分の 2 以上の議決により合否の判定を行った。

【評価】

看護学研究科看護学専攻の履修規程は、1. 「共通基礎科目」必修科目 4 単位、2. 「共通基礎科目」

および「専門科目選択科目 30 単位以上で、終了するには修士論文の審査及び最終試験に合格することとなっている。1. 「共通基礎科目」必修科目 4 単位、2. 「共通基礎科目」および「専門科目選択科目 30 単位以上履修しているのかの確認も必要であったと考える。

【課題】

研究委員会で修士の学位授与の可否について審議をするときには、履修科目の習得状況を確認するとともに、特別研究は 8 単位、課題研究は 4 単位であるが論文評価に対する違いをどのように考えるのか検討が必要である。学際性を鑑み、複数の教員からの指導を受ける体制、学生の研究成果の公表については今後の検討課題である。

8.5.2 学位授与状況

【現状】

平成 24 年度の入学生は 8 名で、平成 26 年 3 月に修了し学位授与できた学生は 6 名であった。2 名は長期履修生である。

【評価】

入学した学生が順調に修了できている。

【課題】

長期履修制度を取り入れる場合や適用を取りやめる場合の変更申請書類についての学生に対する説明や確認が必要と考える。

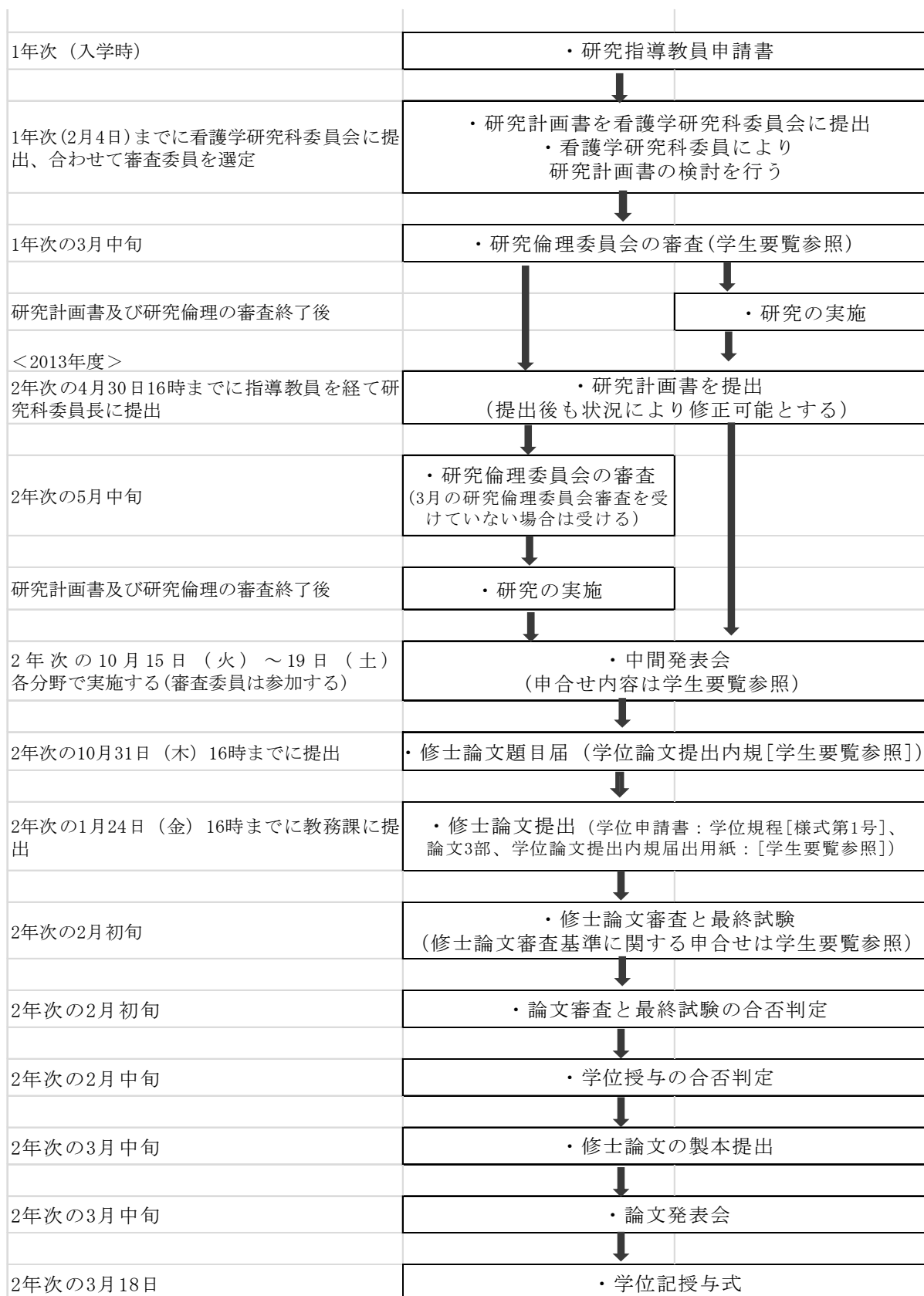


図8-2 研究計画書作成から学位記授与までのプロセス

表 8-6 論文審査用紙

平成 年 月 日

論文審査結果 要旨

審査委員氏名： _____ 印

氏名： _____ 印

学位申請者氏名：

氏名： _____ 印

論文題目：

修士論文審査項目と得点

項目	所見 (良い点、課題点)
1 学術上・看護の専門性向上の意義	
2 研究計画、研究方法の妥当性	
3 研究目的に添う結果、結論を得ているか	
4 修士論文の構成・体裁	
5 審査でのプレゼンテーション	
6 研究成果の波及効果・発展性など	
7 その他	
合計 (/100 点)	
審査員としての意見	

最終試験審査結果の要旨		平成 年 月 日提出	
論文名			
専攻分野			
学籍番号 氏名			
審査結果の要旨	(300 字程度)		
審査委員	主査氏名	印	試験の成績
	副査氏名	印	
	副査氏名	印	
指導教員氏名	印	合 否	

8.6 中期目標・中期計画

本研究科開設と同時に看護学研究科の中期目標・中期計画の策定に取組み、各年度ごとに評価を行い、2年間の評価を行ったので掲載する（表 8-7, 8-8）。

表 8-7 看護学研究科 中期計画評価報告書（平成 24 年度）

2013.04.01

項目	3年間の具体的目標	24年度取組み結果・評価	担当
<p>I. 入試に関する事項</p> <p>・教育目的に適った入学生の確保</p> <p>1. 入学定員数安定確保</p> <p>2. 入学生の質確保</p>	<p>1-1. 入試PRの工夫</p> <p>①リーフレットの作成</p> <p>②大学ホームページの充実</p> <p>③周知の機会を設ける（公開講座等）</p> <p>1-2. 学費に関する見直し</p> <p>2-1. 教育の質担保のため、入試の工夫</p>	<p>1-1. 入試PRの工夫</p> <p>①リーフレットは、平成26年度は次の2点の工夫を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門分野開講科目変更に伴い、論文担当科目教員全員の主要研究テーマを記載し受験生に受験領域等を、よりわかりやすくした。 ・大学院生、特に社会人入学生の学習生活がイメージできやすいものに変更した。 <p>②写真や英語標記の修正を加えた</p> <p>③大学のオープンキャンパスでも質問があり、あらゆる場が周知の機会となっている。公開講座の開催が看護学科でなかったため、今後、場の設定等検討予定</p> <p>1-2. 学費に関する見直しは次年度引き続き検討予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CNS 臨地実習に伴う学生個人負担の実習費用軽減のため、担当教授が実習施設と交渉し負担軽減に尽力した。 <p>2-1. 小論文と専門科目の時間を分離させ、英語の評価ができるように変更した</p> <p>3回の入試、入学学生の学習状況を踏まえ、今後、入試方法の検討を更に行っていく。</p>	<p>臼井川村</p>
<p>II. 教育の質向上に関する事項</p> <p>・教育理念に添う教育方針の確立</p> <p>1. 教育目的・目標を踏まえた教育の実施</p>	<p>1-1. 3つのポリシー（アドミッションポリシー：求める本研究科入学生、カリキュラムポリシー：教育課程編成・実施の方針、ディプロマポリシー：学位授与の方針）に基づく教員の教育・研究指導能力の向上に向けたFD活動取組み</p> <p>1-2. 教育・研究者ならびに専門看護師育成のための看護学専門分野の特徴・独自性を活かしたFD活動の取組み</p> <p>1-3. 学部と共同による教育倫理の徹底</p> <p>1-4. 上記1-1.3つのポリシーに基づく教育評価（学生・教員）の枠組み作成・実施</p>	<p>1-1. 3つのポリシーについて（FD委員会）</p> <p>3つのポリシー（アドミッションポリシー：求める本研究科入学生、カリキュラムポリシー）について、学部と研究科との教育的連携の円滑化を目的に、看護学研究科および学部教育に携わる教員にも周知する機会を設けた。今年度は、大学院が開学して1年目であり、学生要覧に載せて入学時オリエンテーション等で周知することが主であった。次年度以降は、各ポリシーに沿った評価を中心に活動していく必要がある。</p> <p>1-2. 看護学専門分野の特徴・独自性を活かしたFD活動の取組み（FD委員会）</p> <p>米国より看護専門職者（NP）を招聘し、米国の看護専門職者教育の実践を学ぶ機会を設けた。</p> <p>テーマ：「アメリカにおけるナース・プラクティショナーの教育と実践」</p> <p>講師：神埼桂子先生（ミレニア・ウンド・マネージメント株式会社）</p> <p>日程：2012年8月3日</p> <p>場所：甲南女子大学1号館大会議室</p> <p>次年度も継続して、大学院教育および研究指導に参考になるテーマを設定し、取り組んでいく予定である。</p> <p>1-3. 学部と共同では行わず、院生への研究倫理等の教育は、看護研究計画書作成等の授業や演習を通して実施。</p> <p>次年度以降に学部と共同での教育倫理の検討を行う。</p> <p>1-4. 3つのポリシーに基づく教育評価のうち、学生による授業評価（FD委員会）を作成。</p>	<p>前川荒賀</p>

<p>・教育目標に沿った教育内容の展開と評価</p> <p>2. 教育目標に添う教育課程・科目の編成</p>	<p>2-1. 学生による授業評価</p> <p>①必修科目及び受講学生が複数いる科目の授業評価の実施</p> <p>2-2. 各科目の授業内容評価</p> <p>①授業内容が教育目標に沿って展開されたかを、各科目担当教員が自己評価</p> <p>②自己評価の結果をもって研究科委員会で全体的に評価</p> <p>③評価結果を基に各科目内容の充実を図る</p> <p>2-3. 時間割等の検討</p> <p>学生が効果的に学べているかという視点で時間割の順序性を評価、検討する</p> <p>2-4. 図書館利用環境の整備</p>	<p>2-1. 2-2. 学生による授業評価 (FD 委員会)</p> <p>・学生による授業評価方法について策定した。</p> <p>①授業評価の目的、②授業評価用紙 (共通科目、専門科目、学生生活など) の作成、③授業評価の方法の決定、④評価結果の共有方法、について確認した。</p> <p>上記は、学生に向けて年度末に説明を行い実施をした。</p> <p>評価結果は、次年度の教育改善のための資料として活用していく予定である。</p> <p>2-3. 平成 24 年度の時間割は、初年度ということもあり、非常勤講師との日程調整や入試行事等による土曜日の授業変更があり、再三調整を行った。当該年度に履修学生がなく未開講となったのは 5 科目であった。時間割の順序性等の検討については、学年進行中であり、全体の評価は今後行うことになる。学生による授業評価及び成績状況をもとに検討する予定である。</p> <p>2-4. 図書館利用時間の変更：平日 9 時～午後 9 時、土曜日午前 9 時～午後 5 時に変更、授業期間及び試験期間を除く期間の平日午前 9 時 10 分～午後 4 時 50 分に延長された。</p> <p>・貸出冊数の増加：学生にアンケートを実施した結果貸出冊数を増やしてほしいとの希望が多く、院生 14 冊から 20 冊に増やした。以上 2 項目は規程改正を行った。また今年度の看護学科 (研究科含む) 図書費で研究科図書を重点的に購入した。</p> <p>・図書館内の学習室の設置：学習室として図書館本館 1 階に 40 席を準備し、そこでグループ学習ができるよう学習環境整備のための予算要求を図書委員会より申請し認められた。平成 25 年 6 月には学習室の設置がされる。図書館利用状況調査の集計は 6 月頃の予定であるが、学生にとって利用しやすい環境整備に努めた。</p>	<p>池内 玉木</p>
<p>・CNS 等選択学生育成</p> <p>3. CNS コース申請</p>	<p>3-1. がん看護、老年看護 CNS 申請作業開始</p> <p>3-2. がん看護、老年看護 CNS 実習等の環境充実・整備</p>	<p>・申請作業の日程や申請する書類の作成、申請する共通科目や専門科目の授業内容等の整理を行った。資料が膨大となるために分担を決め作業に取り掛かることを確認した。また日本看護系大学協議会審査委員との連携に努めている。</p> <p>・老年看護の CNS 実習は実習施設と連携しながら後期より開始している。がん看護の CNS 実習については、実習病院の看護部長や CNS 達とも連携がとれており、実習できる体制を整えた。実習指導要項も作成し実習の環境充実・整備を行った。</p>	<p>白田 臼井</p>
<p>・魅力ある専門分野</p> <p>4. 専門分野の教育課程の検討</p>	<p>4-1. 魅力ある専門分野の検討</p> <p>①助産コースの検討</p> <p>②各分野の検討</p>	<p>4-1-①助産師教育のコース検討にあたって、平成 24 年度は助産師教育に関するニーズ調査 (質問紙法) を実施した。オープンキャンパスの来場者 372 名、看護学科在学生 378 名、保証人 123 名 (1 月 7 日現在) から調査票を回収し、現在データを整理、分析中である。また、近隣の実習病院等の施設に関する調査は、年度内に実施する予定である。このニーズ調査の結果をもとに助産師教育のコース検討を行う。</p> <p>4-1-②24 年度第 10 回看護学研究科委員会 (12 月 5 日) で審議、完成年度 (25 年度) 迄は現行、26 年度に 2 年間の授業評価を行った上で分野等の改正を行うことを決定。</p>	<p>池内 川村</p> <p>津村</p>

<p>Ⅲ. 学生支援に関する事項</p> <p>・安心・安全、意欲の持てる学生生活</p> <p>1. 学習環境の整備</p> <p>2. 学生生活支援</p>	<p>1-1. 院生研究室の整備 1-2. 教室整備</p> <p>1-3. 夜間授業による登・下校への支援対策</p> <p>2-1. ハラスメントに関する支援</p> <p>2-2. 健康管理に関する支援</p> <p>2-3. 甲南女子大学研究奨励金他、学費支援に尽力</p>	<p>1-1. 1-2 2 回生の入学に伴う院生増加に対し、院生室の整備と授業教室の確保を行う。</p> <p>1-3. 夜間受講授業対策</p> <p>・夜間登校学生の1号館から図書館、管理棟等に向く学生の安全確保のため、夜光灯が通路に設置された。</p> <p>・夜間通学学生の登下校安全確保のため、基準を設定し、これに基づく自家用車使用許可証が発行されている。</p> <p>2-1. ハラスメントに関する支援は学部生と同様の支援システムである。発生は0件。</p> <p>2-2. 健康診断とツベルクリン反応検査の実施に対する周知を行う。25年度よりツベルクリン反応検査は1回法に変更になる予定。</p> <p>2-3. 甲南女子大学研究奨励金は半期毎、学生に渡されている。</p>	<p>池内 玉木</p> <p>白田 吾妻</p>
<p>Ⅳ. 研究の質向上に関する事項</p> <p>・教員の研究意欲向上による科学研究費等の申請増加</p> <p>1. 研究への取り組み支援</p> <p>2. 研究水準向上の支援</p>	<p>1-1. 外部資金の獲得推進（科研費申請数777）</p> <p>1-2. 学内研究助成金の活用</p> <p>2-1. 学部と共同による研修会開催の検討</p> <p>2-2. 学部と共同による研究発表会の開催</p> <p>2-3. 院・学部共同研究会誌発刊</p>	<p>1-1. 外部資金の獲得推進に努める)</p> <p>・科研費の今年度の応募は、看護リハビリテーション学部では昨年度8件であったが、本年度11件[看護6件：リハ5件)、他学部も多数の応募があった。研究活動関係チームや学術研究支援室と連携を取りながら教員への研究費獲得に向けての情報発信に努めた。</p> <p>2-1. 学部と共同による研修会開催</p> <p>・教員の外部研究費の獲得増に向けて申請率を高めるための講演会が開催されたので出席の要請などに取り組んだ。しかし9月5日の講演会では、全学で40名余の参加者があったが、看護学科の参加者は少なかった。</p> <p>・研究会誌の発刊に向けては、調査結果を踏まえて、看護学科会議や研究科委員会に提案する資料を作成することができた。今年度は看護学科会議で審議したが、継続審議となった。その結果を踏まえ、次年度の委員会での今後の方向性を検討する。</p> <p>2-2. 学部の教員との合同での研究発表会の実施については引き続き検討する。看護学研究科では、大学院生の「研究計画書作成から学位記授与までのプロセス」についての道筋が研究科委員会で決定した。その中で研究計画書の発表会、中間発表会や修士論文発表会について実施することとなった。</p>	<p>白田</p>
<p>Ⅴ. 社会貢献に関する事項</p> <p>・社会貢献に寄与する活動維持</p> <p>1. 学会開催支援</p> <p>2. 実習施設等の研究支援</p> <p>3. 地域住民支援</p>	<p>1. 本研究科教員が主催する各学会等への支援</p> <p>2-1. 実習施設スタッフ等研究・研修支援</p> <p>2-2. 実習施設へ講師派遣</p> <p>3-1. 公開講座、教育講演講師派遣</p>	<p>1-1. 臼井教授が大会長で主催する第9回日本高齢者虐待防止学会への支援を看護学科関連領域教員の協力を得て運営支援。7月14日学会参加者300名 学会当日市民対象2講座実施、参加市民約350名。</p> <p>2-1. ・六甲アイランド病院での看護研究指導を行っているが、今年度は研究指導しているスタッフが看護管理学会で発表し、学会誌への投稿できた。</p> <p>2-2. 臨地実習施設等への講師派遣は、依頼があれば積極的に協力（甲南病院、姫路市、明石市、神戸兵庫区など）</p> <p>3-1. 日本高齢者虐待防止学会(7月14日)当日に市民を対象に2講座実施。 「認知症高齢者の虐待を防ぐまちづくり」 「心身が傷ついた人に対するバイオフィードバックによる癒し」参加市民約350名</p>	<p>津村</p>

<p>VI. 研究科運営・企画に関する事項</p> <p>・研究科組織の円滑な運営</p> <p>1. 研究科運営の基盤整備</p> <p>2. 諸規定等の充実</p> <p>3. 必要経費の獲得</p> <p>・博士課程設置検討</p> <p>4. 大学院博士課程設立は凍結</p>	<p>1-1. 各委員会組織編制</p> <p>1-2. 各申し合わせ事項等の作成</p> <p>2-1. 論文審査基準等の作成</p> <p>3-1. 研究費、図書費、実験実習費等の適正配分</p> <p>3-2. 昼夜開講に伴う教員手当の検討</p> <p>4-1. 学内理事会検討結果、学部・院両方の教育が充実し、教員体制が整うまで検討は凍結</p>	<p>1-1. 大学院運営のため、学部と連動させ、次の委員会組織を編制した。 学生生活委員会、教務委員会、図書委員、入試委員会、全学FD委員会、大学評議委員</p> <p>1-2. 申し合わせ事項3つ作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護学研究科入学資格審査要件と審査基準の申し合わせ事項（2012年7月11日審議、9月5日改正） ・甲南女子大学看護学研究科修士論文の審査基準及び実施に関する申し合わせ事項（2012年7月11日審議、了承） ・甲南女子大学看護学研究科委員会規程第2条の看護学研究科委員会に係る取扱い内規（2013年3月27日審議、了承） <p>2-1. 「研究計画書作成から学位記授与までのプロセス」図を作成。併せて、論文審査基準等について検討。</p> <p>3-1. 本年度は、学部より割り当てられた予算額内（学生数分+初年度割り当て経費分）。 次年度からは実習経費も必要。</p> <p>3-2. 昼夜開講に伴う教員手当の検討は他研究科も同様の状況もあることから、他研究科との差異状況を引き続きみたと上で検討することになった。</p> <p>4-1. 博士課程設置検討は本中期目標より削除する。</p>	<p>津村</p> <p>白田</p> <p>津村 友田</p> <p>津村</p>
<p>VII. 卒業生に関する事項</p> <p>・卒後の修了生・教員の組織的な連携により構築</p> <p>1. 卒業後の動向</p> <p>2. 同窓会組織育成</p> <p>3. 修了生のCNS資格取得に向け事例検討会開催</p>	<p>1-1. 卒業後の就業状況の把握</p> <p>2-1. 同窓会組織構築</p> <p>3-1. CNS資格取得に向け事例検討会開催</p>	<p>1-1. 卒業後の就業状況は、院開設初年度のため記載不要。</p> <p>2-1. 同窓会組織は入学時より会費を支払う必要があるため、看護学研究科初年度学生に会費納入により、准会員となるよう説明。次年度学生からは入学時オリエンテーションで同総会入会について説明する予定。</p> <p>3-1. CNS資格取得教育課程25年度申請のため、本年度はCNS資格取得に向けた事例検討会等は開催不可能</p>	<p>津村</p>
<p>VIII. その他</p> <p>・2年間(24,25年度)の自己点検評価報告書作成</p> <p>1. 自己点検・自己評価</p> <p>・ホームページの充実</p> <p>2. ホームページづくり</p>	<p>1-1. 教員の自己点検評価票実施</p> <p>1-2. 自己点検・評価結果の公表（報告書等）</p> <p>1-3. 各種委員会活動の評価・充実</p> <p>2-1. 魅力あるホームページの工夫</p>	<p>1-1、1-2、1-3迄</p> <p>学部の自己点検・評価の公表に合わせ平成26年度に学部と大学院を合わせた報告書を作成する予定である。</p> <p>2-1</p> <p>学部では入学希望者向けに「学科について」で本学の学習のねらい、「領域の紹介」で看護学科で学ぶ領域と担当教員を、「キャンパスアルバム」で学生の生活を紹介し「研究科」で領域の特徴を紹介している。学部HP委員に全面的協力を得て、学習情報については更新できていないが、イベントに応じ、2か月に学部の内容を中心に1回更新している。</p> <p>2-1 昨年度は、企画広報課と連携しホームページの英語表記の修正と写真の修正を行った。</p>	<p>前川 荒賀 友田</p>

表 8-8 看護学研究科 中期計画評価報告書（平成 25 年度）

2014 年 3 月 31 日

項目	3 年間の具体的目標	25 年度取組み結果・評価	担当
<p>I. 入試に関する事項</p> <p>・教育目的に合った入学生の確保</p> <p>1. 入定員数安定確保</p> <p>2. 入学生の質確保</p>	<p>1-1. 入試PRの工夫</p> <p>①リーフレットの作成</p> <p>②大学ホームページの充実</p> <p>③周知の機会を設ける（公開講座等）</p> <p>1-2. 学費に関する見直し</p> <p>2-1. 教育の質担保のため、入試の工夫</p>	<p>1-1. 入試PRの工夫</p> <p>① リーフレットは、在学生の視点を反映した内容を盛り込む リーフレットには在籍中の1年生、2年生各1名ずつの志望動機や1週間の科目の選択図を示して分かりやすく説明している。1名は勉学と勤務との両立が可能であること、もう1名は大学院進学の意味と将来の希望を語っており、親しみやすく好感の持てるメッセージである。なお、今回は写真は教員分を外して在籍者の写真にしており、親しみやすさでは一歩前進したのではないかと感じる。</p> <p>② 魅力ある大学院であることを大学ホームページでPRする 英文表記について微修正を行った。1期生の修了に合わせて実施した修士論文・課題研究発表会のプログラムをアップした。</p> <p>1-2. 学費に関する見直しは次年度引き続き検討予定</p> <p>・CNS 臨地実習費用に伴う学生個人負担の軽減のため、担当教授が実習施設と交渉し負担軽減に尽力した結果、施設によっては学部の実習費に準じた設定にさせていただくなどの配慮がなされた。また、仕事を辞めて入学した学生については、教授の研究補助作業等を依頼することで実習費の半額が工面できた。</p> <p>2-1. 小論文の構成を検討し、時間配分に見合った出題内容にする 従来は、小論文として英文と和文についてそれぞれ出題していたが、英文を素材にして、英文能力と、論理的思考・表現力の双方が確認できるような出題形式に変更した。</p>	<p>臼井川村</p>
<p>II. 教育の質向上に関する事項</p> <p>・教育理念に添う教育方針の確立</p> <p>1. 教育目的・目標を踏まえた教育の実施</p>	<p>1-1. 3つのポリシー（アドミッションポリシー：求める本研究科入学生、カリキュラムポリシー：教育課程編成・実施の方針、ディプロマポリシー：学位授与の方針）に基づく教員の教育・研究指導能力の向上に向けたFD活動取組み</p> <p>1-2. 教育・研究者ならびに専門看護師育成のための看護学専門分野の特徴・独自性を活かしたFD活動の取組み</p> <p>1-3. 学部と共同による教育倫理の徹底</p> <p>1-4. 上記1-1.3つのポリシーに基づく教育評価（学生・教員）の枠組み作成・実施</p>	<p>1-1. 3つのポリシーについて（FD委員会） 3つのポリシー（アドミッションポリシー：求める本研究科入学生、カリキュラムポリシー）について、昨年度は、学部と研究科との教育的連携の円滑化を目的に、看護学研究科および学部教育に携わる教員にも周知することが中心であった。今年度は、それに基づき、各ポリシーに沿ったFD活動の企画を立案し実施した。</p> <p>1-2. 看護学専門分野の特徴・独自性を活かした研修会を企画する 看護学専門分野の特徴・独自性を活かしたFD活動の取組み（FD委員会） 1)教育力の向上に関するFD ①テーマ「ポートフォリオを基盤にした授業の取り組み」 講師：藤永新子先生 日程：平成26年5月 場所：場所：甲南女子大学1号館7階大会議室 参加者：教員30名 評価：アンケート結果では、ポートフォリオの積極的な活用という点で好意的な意見が得られた。 ②テーマ「学生・教員相互の能動的な学修の開発に向けて～テクニックから本質へ～」 方法：学部教員4名によるシンポジウム 日程：平成25年6月 場所：甲南女子大学1号館7階大会議室 参加者：27名 評価：アンケート結果では、教員が本研修内容に興味や関心を持っている反面、教育の難しさを感じていることがわかった。また教員としても成長していきたいなどの発展的な意見が大半だった。</p>	<p>前川荒賀</p> <p>FD+ 教務委員</p>

<p>・教育目標に沿った教育内容の展開と評価</p> <p>2. 教育目標に添う教育課程・科目の編成</p>	<p>2-1. 学生による授業評価</p> <p>①必修科目及び受講学生が複数いる科目の授業評価の実施</p> <p>2-2. 各科目の授業内容評価</p> <p>①授業内容が教育目標に沿って展開されたかを、各科目担当教員が自己評価</p> <p>②自己評価の結果をもって研究科委員会で全体的に評価</p> <p>③評価結果を基に各科目内容の充実を図る</p> <p>2-3. 時間割等の検討</p> <p>学生が効果的に学んでいるかという視点で時間割の順序性を評価、検討する</p> <p>2-4. 図書館利用環境整備</p>	<p>2) 看護学研究を基盤にしたFD</p> <p>①テーマ「ナイチンゲール思想を基盤とした KOMI ケア理論を学ぶ」</p> <p>講師：金井一薫先生</p> <p>日程：平成 26 年 8 月 27 日</p> <p>参加者：教員・大学院生の計 20 名</p> <p>②テーマ「看護教育と人間観～現象学・解釈学が教えてくれること～」</p> <p>講師：永見勇先生</p> <p>日程：平成 25 年 11 月 18 日</p> <p>場所：甲南女子大学 1 号館 7 階大会議室</p> <p>参加者：教員 16 名、院生 5 名の計 21 名</p> <p>評価：参加者の全員が本研修に関心を持ってたというアンケート結果を得た。</p> <p>2-1. 学生による授業評価を継続することで、大学院教育の改善につとめる</p> <p>昨年度に本研究科委員会で承認された授業評価を、今年度も実施する。</p> <p>また評価結果は、院生有志と研究科委員長・FD 委員（授業評価担当者）で共有し、併せて研究科委員会で検討することで次年度の教育改善のための資料として活用していく方針である。</p> <p>さらに、上記の内容は、「平成 23～25 年度自己点検・評価報告書」に記載する予定である。</p> <p>2-2 継続して取り組む</p> <p>2-3. 時間割については概ね夜間と土曜日および集中講義で授業を実施しているが、仕事を有しない学生には一部の科目で昼間開講も行った。今後、教員組織の再編成等も考慮し科目及び科目内容の見直しが必要である</p> <p>2-4. 看護学研究科の資料として、2013 年現在、16,705 冊（うち外国書 1,693 冊）を所蔵。既存の共用図書（図書約 444,800 冊、うち外国書約 17,700 冊）、学術雑誌 5,377 種（うち外国書約 1,079 種）、視聴覚資料のマイクロフィルム・マルチメディア図書等 8,300 点（うち外国書約 2,400 点）になった。データベースの同時アクセス数を増やし、また新たなデータベースを追加したことで学生の利用数も増加した。研究科学生は図書の貸出利用も多く、館内での利用も多かった。館内の閲覧環境として、閲覧席数を増やしたこと、館内の無線 LAN が利用できる貸出用ノートパソコンを 15 台に増やすなどの整備を行った。</p> <p><新たな取り組み></p> <p>2-5. 研究計画書作成から学位論文作成までのプロセスの見直し</p> <p>2-6. H26 以降の科目名変更及び新設科目の検討</p> <p>H27 年にむけて検討していく予定</p> <p>2-7. 本年度文部科学省より「設置に係る設置計画履行状況等調査」の面接調査を 11 月 29 日文科省において受けた。</p> <p>結果通知は 2 月 12 日付で本研究科に関する事項は 2 件付された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護教員の定年規定にさだめる退職年齢を超える教員数の割合が高いことから、適切な運営と、教員組織編成の将来構想を策定し、着実に実行すること。 ・学生募集要項に就任予定教員の研究テーマの掲載は誤解を招く。慎重にすること。 	<p>池内 玉木</p> <p>津村 池内 前川</p> <p>白田 臼井 津村</p>
--	--	---	--

<p>・CNS等選択学生育成 3. CNS コース申請</p> <p>・魅力ある専門分野 4. 専門分野の教育課程の検討</p>	<p>3-1. がん看護、老年看護 CNS 申請</p> <p>3-2. がん看護、老年看護の CNS 実習の環境充実・整備</p> <p>4-1. 魅力ある専門分野の検討 ①助産コースの検討</p> <p>②各分野の検討</p>	<p>3-1. がん看護、老年看護 CNS 申請(26 単位用)を7月末に日本看護系大学協議会認定委員会に提出した。結果は2月4日に通知され、共通7科目14単位、がん看護10科目19単位、老年看護11科目18単位が認定された。</p> <p>3-2. 臨床側の専門看護師指導受ける体制の整備を行い、より質の高い実習内容となるように人的な学習環境を整え、実習生の意見を反映した教育環境整備を行った。また実習終了後には多施設からの指導者達への報告会を実施し反省と今後の課題を確認した。</p> <p>4-1-①. 助産師教育に対するニーズを質問紙法により調査した。対象は、本学看護学科学学生378名、保証人124名、看護学科オープンキャンパス来場者366名、産科病棟を有する近隣実習施設の看護師38名であった。結果、助産師への興味は高く、特にオープンキャンパスに来場する保護者や学生の保証人が高かった。助産師への希望に関しても同様であった。助産学教育に関しては現行の大学(助産コース選択)を望ましいと考え、また希望するものも同様であった。その理由としては教育内容(専門性や幅広い教養)、経済面、時間的側面、卒業生の活躍等が挙がっていた。看護師は専修学校を希望するものが最も多かった。大学院や専攻科については、その特徴を理解して教育を考えるのではなく、大学教育でできない(コース選考で入れない、看護師との両立が無理)といった消去法的な考えが述べられ、本質的な意見はなかった。これらのことから、本学では大学(助産コース)のニーズが高いことが示された。助産師教育に関するニーズ調査の結果から、現行教育を続ける方針である。4-1-②24年度第10回看護学研究科委員会(12月5日)で審議、完成年度(25年度)迄は現行、26年度に2年間の授業評価を行った上で分野等の改正を行うことを決定</p>	<p>池内 川村</p> <p>津村</p>
<p>Ⅲ. 学生支援に関する事項 ・安心・安全、意欲の持てる学生生活 1. 学習環境の整備 2. 学生生活支援</p>	<p>1-1. 院生研究室の整備</p> <p>1-2. 教室整備</p> <p>1-3. 夜間授業による登・下校への支援対策</p> <p>2-1. ハラスメントに関する支援</p> <p>2-2. 健康管理に関する支援</p> <p>2-3. 甲南女子大学研究奨励金他、学費支援に尽力</p>	<p>Ⅲ-1, Ⅲ-2. 一応の安心、安全確保のため必要な予定していた支援は1年目できており、問題状況は発生していない。2回生の入学に伴う院生増加に対しても授業教室の確保、院生室の使用も問題なくできている。校内は原則宿泊禁止としているが、やむを得ない事情で宿泊しなければいけない場合は3日前までに届け出をすることにし、教員、事務、警備員室が把握することにし、安全確保に努めている。</p> <p>2-1. ハラスメントに関する支援は学部生と同様の支援システムで、入学時オリエンテーション時に支援体制について説明している。発生は0件。</p> <p>2-2. 健康診断とツベルクリン反応検査の実施に対する周知を行う。</p> <p>2-3. 甲南女子大学研究奨励金は半期毎、学生に渡されている。1回生、2回生とも全員奨学金を取得している。一般の奨学金については、入学時オリエンテーション時に説明を行っている。</p>	<p>白田 吾妻</p>
<p>Ⅳ. 研究の質向上に関する事項 ・教員の研究意欲向上による科学研究費等の申請増加 1. 研究への取り組み支援 2. 研究水準向上の支援</p>	<p>1-1. 外部資金の獲得推進(科研費申請数777)</p> <p>1-2. 学内研究助成金の活用</p> <p>2-1. 学部と共同による研修会開催の検討</p> <p>2-2. 学部と共同による研究発表会の開催</p> <p>2-3. 院・学部共同研究会誌発刊</p>	<p>1-1. 外部資金の獲得推進に向けて、講演会開催、研究費に関する情報発信に努め、科研費の申請率を高めた。</p> <p>1-2. 左記継続</p> <p>2-1. 左記継続 学部と共同による研修会開催</p> <p>2-2. 学部の教員との合同での研究発表会の実施については引き続き検討する。看護学研究科では、大学院生の「研究計画書作成から学位記授与までのプロセス」についての道筋に従って、研究計画書の発表会、中間発表会や修士論文発表会を実施した。</p>	<p>白田</p> <p>池内 白田</p>

<p>V. 社会貢献に関する事項 ・社会貢献に寄与する活動維持</p> <p>1. 学会開催支援 2. 実習施設等の研究支援 3. 地域住民支援</p>	<p>-1. 本研究科教員が主催する各学会等への支援</p> <p>2-1. 実習施設スタッフ等研究・研修支援 2-2. 実習施設へ講師派遣</p> <p>3-1. 公開講座、教育講演講師派遣</p>	<p>1. 本年度は開催なし</p> <p>2-1. ・六甲アイランド病院での看護研究指導を行っているが、今年度は研究指導しているスタッフが看護管理学会で発表し、学会誌への投稿ができた。 2-2. 臨地実習施設等への講師派遣は、依頼があれば積極的に協力（甲南病院、姫路市、明石市、神戸兵庫区など）</p> <p>3-1. 本年度は開催なし</p>	津村
<p>VI. 研究科運営・企画に関する事項 ・研究科組織の円滑な運営</p> <p>1. 研究科運営の基盤整備 2. 諸規程等の充実 3. 必要経費の獲得</p> <p>・博士課程設置検討 4. 大学院博士課程設立は凍結</p>	<p>1-1. 各委員会組織編成</p> <p>1-2. 各申し合わせ事項等の作成</p> <p>2-1. 論文審査基準等の作成 3-1. 研究費、図書費、実験実習費等の適正配分</p> <p>3-2. 昼夜開講に伴う教員手当の検討 4-1. 学内理事会検討結果、学部・院両方の教育が充実し、教員体制が整うまで検討は凍結</p>	<p>1-3. 大学院運営のため、学部と連動させ、次の委員会組織を編成した 学生生活委員会、教務委員会、図書委員会、入試委員会、全学FD委員会、大学評議員</p> <p>1-4. 申し合わせ事項3件作成 ・「大学院研究科委員会規程第2条の看護学研究科委員会に係る取扱い内規（H25.3.27）」（委任状制度） ・「甲南女子大学大学院看護学研究科長期履修制度規程（長期履修学生の取扱いに関する申合せ H25.11.13）」 ・「大学院研究科委員会規程第2条第1項の看護学研究科委員会に関する申合せ（H26.2.5）」（看護学研究科委員会構成員について）</p> <p>2-1. 「2年次生の論文作成過程に従い、研究計画書提出から学位記授与までの過程をチェック、翌年の学生要覧を一部修正した 3-1. 本年度は、学部より割り当てられた予算額内（学生数分+2年度割り当て経費分） CNS課程の学生実習経費は学生自己負担。教員経費及び、次年度CNS再申請予備費を含め確保、申請した共通科目及び専門科目2科目とも認可され、再申請費用不要となった。 3-2. 昼夜開講に伴う教員手当の検討は他研究科も同様の状況もあることから、他研究科との差異状況を引き続きみたと上で検討することになった。 4-1. 博士課程設置検討は本中期待目標より削除する</p>	津村 白田 津村 友田 津村
<p>VII. 卒業生に関する事項 ・卒後の修了生・教員の組織的な連携により構築</p> <p>1. 卒業後の動向 2. 同窓会組織育成 3. 修了生のCNS資格取得に向け事例検討会開催</p>	<p>1-1. 卒業後の就業状況の把握</p> <p>2-1. 同窓会組織構築</p> <p>3-1. CNS資格取得に向け事例検討会開催</p>	<p>1-1. 卒業後の就業状況は、現職継続5名（保健師2名、看護師2名、大学教員1名）復職（大学教員1名）である。</p> <p>2-1. 同窓会組織は入学時より会費を支払う必要があるため、看護学研究科入学生に会費納入により、准会員となるよう説明。1.2年次生13人/15人は加入。今後も入学時オリエンテーションで同総会入会を勧奨する。</p> <p>3-1. CNS資格取得教育課程25年度申請のため、本年度はCNS資格取得に向けた事例検討会等は開催不可能</p>	津村

<p>Ⅷ. その他</p> <p>・2年間(24, 25年度)の自己点検評価報告書作成</p> <p>1. 自己点検・自己評価</p> <p>・ホームページの充実</p> <p>2. ホームページづくり</p>	<p>1-1. 教員の自己点検評価表実施</p> <p>1-2. 自己点検・評価結果の公表(報告書等)</p> <p>1-3. 各種委員会活動の評価・充実</p> <p>2-1. 魅力あるホームページの工夫</p>	<p>1-1、1-3 迄</p> <p>学部の自己点検・評価の公表に合わせ平成25年度末までを、学部と大学院を合わせた報告書を26年度前期に作成する予定である</p> <p>1-2.</p> <p>①授業評価アンケートを作成し、実施した。</p> <p>②「自己点検・評価報告書」の公表は、学部と時期を合わせ、継続する。</p> <p>2-1. 魅力あるホームページの工夫</p> <p>完成年度以降の、26年度に2年間の授業評価を行った上で分野等の改正を行うため、それらを十分に練り上げた上で、改めてホームページ作成を検討する。それまでは、現行のホームページに多少の工夫(例えば、学生が学部生の白衣姿であるものをゼミをしている院生の姿に変更する、など)を実施していくことをホームページ管理している企画広報課と確認した。</p>	<p>前川 荒賀 友田</p>
---	---	--	-------------------------

8.7 研究・学習の環境

8.7.1 施設・設備

【現状】

研究科の授業及び研究に関する施設は、学部の講義・演習室7室、演習・実習室1室を共用して使用している。

授業内容や受講生の人数により、講義室(主に160教室、141教室)、演習室及び教員の個人研究室を使い分け、より効果的な授業や研究指導を行っている。また、学生の研究が効率的に進められるよう研究科学生研究室(自習室)及び教員研究室は同一の建物内に配置し、授業時間外でも教員と学生の交流が容易に行われるよう配慮している。

研究科学生研究室(自習室87㎡)には、16人分の机、椅子そしてロッカーを設置すると共に、研究活動を促進するためのPC端末10台、プリンター1台に加え、研究活動の資料等を保管するための保管庫等も設置している。また、談話スペースにも、学生16人が一度に利用できる机(4脚)と椅子(16脚)を設置したほか、冷蔵庫や給水設備も設置し、院生の意見交換や交流、また時には研究活動の休息の場としても十分に活用されている。他に図書館にグループ学習ができるラーニングcommons(54席)を設置し、学生の学習及び研究活動が促進できるよう整えている。自習室の使用に関する時間制限は設けていないが、施設管理上学生の自由な宿泊は認めていない。

【評価】

教室及び学生研究室(自習室)の確保と設備は整備されており、授業や研究活動には現在のところ特に支障はない。

【課題】

少人数の授業は主に教員個人研究室を使用しているが、3人以上の受講生がある科目ではマルチメディア機器を設置した160教室、141教室を使用している。現在、研究科の授業は主に平日の6・7時限（18:00～21:10）と土曜日（9:00～17:50）で実施しているが、学生と教員の都合により平日の昼間に授業を行うこともある。平日の昼間の時間帯で授業が行われる場合に1号館に教室が少なく学部授業との教室の調整が困難である。今後、学部学生数が増えることも鑑みて教室・演習室の増設が望まれる。

8.7.2 実習体制

1) 看護学研究科における実習の基本的な考え方と構成

大学院における実習とは、専門看護師を育成するために行うものである。専門看護師は、ある特定の看護分野において「卓越した看護実践能力」を有することを認定される看護職者である。そして実習は、専門看護師にとって極めて重要な実践能力を高めるものである。実習方法は単に実践するだけでなく、スーパービジョンや事例検討や討議セミナーを持ち、多様な方法を駆使することが必要となる。本学看護学研究科ではがん看護学分野と老年看護学分野が専門看護師を育成するために実習を取り入れている。

【現状】

1) がん看護学分野

<実習目的>

がん看護学分野の実習は、がん看護学実習Ⅰとがん看護学実習Ⅱで構成する。がん看護学実習Ⅰは、がん看護専門看護師の機能と役割（実践・相談・調整・教育・倫理的調整・研究）を実際の活動場面から学び、がん看護専門看護師に必要な基礎的能力を習得する実習である。がん看護学実習Ⅱは、がん患者に対する直接的なケアを習熟し、がん看護専門看護師の役割（実践・相談・調整・教育・倫理的調整）を実践するなかで、総合的な実践力を習得する実習である。

実習では講義・演習で学んだ理論などの知識、技術を実践的に統合し、がん看護分野の特殊性を踏まえて、がん看護専門看護師としての包括的なアセスメント能力・関連職種間の連携・調整・ケアマネジメント・相談・教育的機能を果たす能力・援助方法の開発推進等について、諸理論を活用し論理的思考で実習する。そしてがん看護専門看護師としての専門的・総合的実践能力を養う。

<実習方法>

①単位数：6単位（がん看護学実習Ⅰとがん看護学実習Ⅱを含む）

②履修年次：2年次前期

③実習時期：2年次前期（6月16日～7月25日）、実習期間：実習機関での実習（病院内での実習、以下病院実習とする）は、原則として6週間とする。但し、実習目標の達成が不十分である場合には、夏期期間中に補習実習を行う。

④実習場所：神戸市立医療センター中央市民病院

⑤実習指導者：神戸市立医療センター中央市民病院 がん看護専門看護師：梅田節子、濱田麻美、実習指導教員：がん看護学担当教員：白田久美子、田中登美（25年度のみ）、実習指導方法は、実習場所との連携を密に行ない、実習目標が達成できるように行った。

<実習評価>

単位認定者：がん看護学担当教員白田久美子

単位認定方法：

①実習に対する取り組みの姿勢・態度

②実習で受け持った、複雑で対応困難な問題を抱えるがん患者及び家族に対して実践・分析・評価したケースレポート（3例）

③実習で経験したがん看護専門看護師の各役割に関するレポート（相談、調整、スタッフ教育、倫理調整）

④実習を通して学んだがん看護専門看護師の役割と今後の課題のレポートを総合して評価を行なった。

2) 老年看護学分野

<実習目的>

老年看護学分野の実習は、老年看護学実習Ⅰと老年看護学実習Ⅱで構成する。老年看護学実習Ⅰは、病院・施設老人看護に関する実習であり、老年看護学実習Ⅱは認知症高齢者看護に関する実習である。実習では講義・演習で学んだ理論、知識、技術を実践的に統合し、老人看護専門看護師に要求されている老人看護の卓越した実践、スタッフや他職種への教育、相談、連携・調整研究、倫理的問題への調整能力形成の基盤となる能力を習得するための実習を展開する。

<実習方法>

①単位数：老年看護学実習Ⅰは4単位、老年看護学実習Ⅱは4単位の合計8単位である。

②履修年次：老年看護学実習Ⅰは1年次後期、老年看護学実習Ⅱは2年次前期

③実習時期：老年看護学実習Ⅰは1年次後期（2月18日～3月15日）、老年看護学実習Ⅱは2年次前期（5月6日～5月31日、6月10日～6月14日）、実習期間：実習機関での実習は、原則として9週間とする。但し、実習目標の達成が不十分である場合には、夏期期間中に補習実習を行う。

④実習場所：老年看護学実習Ⅰは神戸海星病院、実習Ⅱは甲南介護老人保健施設及び甲南訪問看護ステーションで実施した。

⑤実習指導者：神戸海星病院は正田美紀（老人看護専門看護師）、甲南介護老人保健施設は松本多津子（看護部長）、田村浩恵（副師長）、甲南訪問看護ステーションは上杉悦子（所長）、実習指導教員は老年看護学担当教員の臼井キミカ、佐瀬美恵子、兼田美代（老人看護専門看護師）であり、実習方法は、実習機関との連携を綿密に行ない、実習目標が達成できるように行った。

<実習評価>

単位認定者：老年看護学担当教員臼井キミカ

単位認定方法：

- ①実習に対する取り組みの姿勢・態度
- ②実習で受け持った複雑で対応困難な問題を抱える老年患者及び家族に対して実践・分析・評価したケースレポート（3例）
- ③在宅における老人看護の課題を論述するレポート。
- ④老年看護活動計画、スタッフ教育、相談、調整に関するレポート
- ⑤実習機関における実践的実態的研究課題についてのレポートを作成させ、実習指導者と教員が協力して総合的に評価を行なった。

【評価】

1) がん看護学分野

がん看護専門看護師を希望する学生は、平成25年度に1名、平成26年度に1名であったことからそれぞれに実習を行った。2名ともに臨床経験が長く、現在も臨床で仕事をしている学生であったことから、ケア内容は十分に達成できたが、各部署との調整・ケアマネジメント・相談・教育的機能について施設の専門看護師の指導を受けながら達成できていた。

2) 老年看護学分野

老人看護専門看護師を希望する学生は、平成25年度に2名であったが、1名は辞退したことから1名のみ実習を行った。学生は病院及び施設での実践経験を有しており、ケア内容は十分に達成できたが、各部署との調整・ケアマネジメント・相談・教育的機能については専門看護師等の指導を受けて達成できた。なお、総合的評価はすべての実習が終了し、各種課題のレポートが提出された時期に、各実習機関の指導者と大学教員が集まり、実習報告会を開催し総合的に評価した。

【課題】

1) がん看護学分野

- (1) がん看護専門看護師の機能と役割を最初の2週間でいき、その後のがん患者に対する直接的なケアを行う実習4週間を行ったが、反対の方ががん専門看護師の機能と役割がより理解できると考える。
- (2) 1施設のみで行ったが、様々な事例を見るためにも検討が必要である。

2) 老年看護学分野

- (1) 教育課程規定では老年看護学実習単位数は6単位となっているが、実際は実習Ⅰでは4週間、実習Ⅱでは5週間の実質9週間の実習が求められている。また、課題研究は、実習での実践で明らかになった老年看護学領域の課題を明らかにすることが謳われているものの、実質的にはこれらを併行して行わざるを得ないため、実習単位数等の見直しが必要である。

(2) 実習施設および実習期間については、専門看護師コースを選択した学生の背景等に合わせて柔軟な対応が可能なように複数の実習機関と実習期間を準備し、実習機関との綿密な連絡・調整を行ってきた。結果的には1名の学生は専門看護師コース選択を辞退したため、それらの準備は不要となったが、入学後のコースの変更は学則上は可能であり、学生のニーズには最大限応じたいものの、履修学生数が増加した場合には再検討が必要と考える。

8.7.3 図書館

【現状】

看護学研究科の資料として、平成23年度に専門図書689冊（うち外国書124冊）を新たに購入して、平成25年現在、看護学研究科用図書は16,705冊（うち外国書1,693冊）を所蔵している。既存の共用図書（図書約469,509冊うち外国書約177,000冊）、学術雑誌5,480種（うち外国書約1,079種）、視聴覚資料のマイクロフィルム・マルチメディア図書等約8,300点（うち外国書約2,400点）とあわせて、教育研究を行う上で十分な冊数・種類の蔵書がある。また、既存のデータベースに加え、看護学研究科における学習研究のため、「医中誌 Web」「メディカルオンライン」の同時アクセス数を増加し、新たに「CINAHL Plus with Full Text」を加え、「ライブラリー・プラス」を追加した。アクセス数を増やしたことで学生の利用数は増加している。また多言語対応、マイライブラリー等の機能システムを導入し、文献検索のみならず図書の購入や予約、相互利用の申込み等インターネット経由で行うことができる等充実している。

図書館開館時間は、看護学研究科の開設に伴い、平日の開館時間と土曜日の開館時間が延長された。

授業期間及び試験期間は平日9:00～21:00、土曜日9:00～17:00、授業期間及び試験期間を除く休業期間は平日9:10～16:50に拡大され、利便性が高まった。一方、メディアコーナーの利用時間は、平日9:00～19:00までの利用に制限されている。

図書館利用に関して、平成24年度末に行った学生アンケートで院生の図書貸出数の増冊の要望が多かったことから一人14冊から20冊に増やした。研究科用図書全体の貸出件数は、平成24年度302件、平成25年度は908件で、利用時間帯は15時から20時までが多かった。

【評価】

図書館における施設・設備面に関しては、図書・雑誌・メディアの収蔵数は毎年増加し、電子媒体に関しても、利用に関する講義などを併せ充実している。また図書館の開館時間延長や開館日の増加により、利用者数も増加している。しかし、看護学研究科の通常授業時間は平日18:00～21:10、土曜日は9:00～17:50であるため、仕事と両立している社会人学生にとっては図書館開館時間にあわせて利用するのに大変苦労している状況があり、開館時間帯の延長や日曜・祝日などの開館の要望もある。

【課題】

年度毎に蔵書数の増加など、学生の学びをサポートする環境は整備されてきているが、常に進歩する医療や研究分野に必要な書籍や資料、メディアの選書を行う必要がある。また、図書館開館時間については平日 21 時まで、土曜日は 17 時までと延長されたが、看護学研究科の授業時間帯から考えると、社会人学生がより利用しやすい時間帯に延長するなどの検討も必要である。

8.7.4 学生支援体制

8.7.4.1 経済的支援および就職支援

【現状】

現在、本学大学院研究科に在学中の学生が対象となる奨学金を表 8-9 に示す。No.1、2 の奨学金は学生生活課が窓口となり、各選考会議等を経て対象者が選考されている。その他、各市町村団体などの学生生活課が把握している各種奨学金は同課にて資料により広報されている。看護学科学部生を対象に近隣医療機関の章が奨学金説明会を 4 月のオリエンテーション時に開催しており、研究科学生にも情報提供している。

また、看護学研究科に在学する学生のうち、学業、人物の優秀な者に対し、研究奨励として研究費を前期 10 万円、後期 10 万円を給付期間 2 年以内で支給している。4 月のオリエンテーション時に説明会を実施しており、看護リハビリテーション学部事務室が窓口となっている。平成 24 年度入学生のうち 8 名（全入学生 8 名）、平成 25 年度入学生のうち 7 名（全入学生 7 名）に支給され研究として活用している。

表 8-9 看護学研究科学生奨学金

No	奨学金種類	貸与・給付	対 象
1	日本学生生活支援機構奨学金	貸与	大学院生
2	甲南女子大学大学院奨学金	給付	大学院生
3	甲南女子大学大学院看護学研究科研究奨励金	給付	看護学研究科学生

TA 制度については教務課が窓口となり、学部授業の情報を明示している。入学生のほとんどが社会人学生で有職者であるが、平成 24 年度、25 年度は基礎看護援助論、基礎看護学実習に TA を活用している。

就職支援に関しては、有職者がほとんどであるため、終了後はこれまでの仕事を継続する予定であるが、就職希望者に対しては研究指導教員が相談窓口となっている。

【評価】

奨学金説明会は、4 月のオリエンテーション期間中に希望者を対象に実施されており、「甲南女子大学大学院看護学研究科研究奨励金」については学生生活委員会の教員から申請方法、奨学金の受け取り方法について周知しており、大学院生全員が給付を受けている。ほとんどの学生が正規、非正規の

形で有職者であったり、TA制度を活用しているため、経済的に困難な学生は現在のところみられない。今年度修了生の7名については、就職支援の必要は特になかった。

【課題】

経済的な問題は個人のプライバシーと深く関わるため慎重な対応を求められるが、研究指導教員を通じて問題状況の把握を行い必要時支援していくことが必要であると考えられる。

8.7.4.2 健康保持増進支援および保険

【現状】

本学では学校保健安全法・本学健康診断規定にもとづき、毎年定期健康診断を実施し学生の健康状態の把握に努めている。結核感染予防の考え方としては、定期健康診断における胸部X-P間接撮影、1年次の6月にツベルクリン反応検査の結果をもとに結核感染予防を行っている。ツベルクリン反応検査陰性者のためのBCG接種は校費にて実施している。

保健センターでは、健康診断結果の個人への通知、さらに学外専門医による健康相談日を設け、健康相談にあたっている。本学の学生を対象に、一般財団法人甲南会診療費（入院・外来）は減額になる優遇措置がある。さらに、常設の学生相談室によりカウンセリングを受ける体制を整えている。

傷害保険については、大学が全額負担して学生教育傷害保険に加入している。加えて、臨地実習中の事故に対応するために、全国大学生協協同組合連行会共済センターの学生共済保険の加入オリエンテーション時に説明している。

【評価】

健康診断についてはこれまで未受診者はいないが、未受診者については保健センターから学生本人および学生生活委員に連絡があり、各自病院・医院・保健所等で健康診断を受け、診断書を提出する旨オリエンテーションしている。ツベルクリン反応検査は、学部生と同日に行っており、平成24年度は2段階法で、平成25年度からは1段階法で実施している。学生は看護職として勤務していることもあり時間の調整が難しいこと、すでに陽転していることもあり全員が検査を受けていないのが現状である。

臨地実習における傷害保険については、臨地実習を行う、または臨床現場でデータ収集を行う学生が加入を勧めている。これらの加入状況については、学生生活委員が生協に確認し把握している。未加入の場合は研究指導教員から学生に指導を依頼しているという体制を取っている。

【課題】

健康診断および傷害保険に関してはこれまでどおり実施するが、ツベルクリン反応検査の全員実施にむけたオリエンテーションの強化をしていく必要がある。

8.7.4.3 ハラスメントおよび多様な学生が学ぶための支援について

【現状】

本学では学部と合同で人権侵害の防止に対して、「甲南女子学園ハラスメント等人権侵害防止規定運用指針」を制定しており、指針に基づき具体的な対策と手続きを定めている。規定に基づき設置された人権問題委員会には、本学科から1名の教員が委員となっている。学生には、ハラスメントとは何かということ、相談員を入学時のオリエンテーションで紹介している。

【評価】

平成24年度、25年度のハラスメントの発生は0件であった。

【課題】

学内でのハラスメント等の人権侵害の予防につとめるため、人権問題委員および身近な相談者として学生生活委員が窓口となることを意識して啓蒙活動を行う。

8.7.4.4 学生生活環境の整備

【現状】

大学院生の自学自習室として院生研究室を確保した。院生のセキュリティ確保のため、暗証番号での入室管理を行っている。院生室には、研究領域毎に机とパソコン、学生の交流の場、グループワークなど学習を促進する場、憩いの場として活用するため大テーブルを設置している。そのため、院生室の使用ルールを作成し学生の自主的な運営を促している。2回生の入学に伴う院生増加に対しても授業教室の確保、院生室の使用も問題なくできている。

校内は原則宿泊禁止としているが、やむを得ない事情で宿泊しなければいけない場合は当日の午前中までに届け出をすることにし、教員、事務室、警備員室が把握することにし、安全確保に努めている。授業は主に夜間開講であり、仕事を持ちながら通う院生がほとんどであることから、学生生活課の許可を得て自家用自動車登校している。さらに、学内の外灯の整備を行った。

【評価】

2回生の入学に伴う院生増加に対しても院生室の使用も問題なくできている。安心、安全確保のために必要な予定していた支援は行うことが出来た。

【課題】

今後、学生数の増加に伴う新たな事項が発生時には適宜対応する必要がある。

8.8 自己点検・自己評価体制

【現状】

研究科の自己点検・自己評価委員会は、看護学研究科の教育・研究・社会活動の向上を図るため、

学部の自己点検・自己評価委員会と協力体制で点検・評価を行うことを目的として、平成24年度に発足した。本委員会の構成は、学部、学科の特徴をいかした上で、研究科独自の自己点検・自己評価ではないものを検討することを可能にするために学部及び研究科で任命された教員によって構成している。そのため、研究科の自己点検・自己評価委員会の構成員は教授1名である。

(1) 自己点検・自己評価実施の目的

研究科の自己点検・自己評価の目的は、教育・研究・社会活動、研究科運営に関する2年間の活動を評価し、課題を見いだすことである。

(2) 評価方法

評価期間は、平成24年度から平成25年度（平成24年4月1日から平成26年3月31日まで）の2年間である。評価対象項目は、教育、研究、社会活動、研究科運営として、これらに関する各種委員会資料、各教員個人資料を参考に、【現状】【評価】【課題】に分類してまとめた。評価指標は、文部科学省評価研究委託「日本看護系大学協議会における大学院評価基準」を参考にした。評価担当者は、それぞれに文責として表記した。

【評価】

研究科開設の平成24年度は、自己点検・自己評価を実施するための基盤づくりとなった。これは、学部と連携して自己点検・自己評価を実施するため、学部の委員会活動に合わせるように動くこととなったためである。本委員会で作成した研究科の評価基準は、文部科学省大学評価研究委託資料「日本看護系大学協議会における大学院評価基準」に準ずるようにして作成した。これらは、今後、本研究科の特徴を明確にし、その特徴を活かした評価基準を検討していく必要性も明らかとなった。しかし、そのためには今回の研究科の自己点検・自己評価を行うことは意義があり、その妥当性を検討していくことが重要である。そのために今回の「日本看護系大学協議会における大学院評価基準」に準じ評価することが必要であった。

【課題】

自己点検・自己評価を実施する意図は、研究科の教育力の向上および活性化、教員のセルフ・エスティームを高め自己能力を向上し、自己啓発を目指すことにある。今後も途絶えることなく、マニュアル化されることなく、教育・研究・社会貢献、大学運営に関する改善策が活発に議論されるように可視化し、取り組みシステム作りが課題となる。

文責：看護学研究科	委員長	荒賀直子
看護学研究科	教務委員会	池内佳子
看護学研究科	入学試験委員会	臼井キミカ
看護学研究科	学生生活委員会	吾妻知美
看護学研究科	予算委員会	津村智恵子

看護学研究科	図書委員会	池内佳子
看護学研究科	FD委員会	前川幸子
看護学研究科	自己点検・自己評価委員会	友田尋子
看護学研究科	がん看護学分野	白田久美子
看護学研究科	老年看護学分野	臼井キミカ

第9章 教員による自己評価

9.1 看護学科

教員の「教育活動」「研究活動」「大学運営」「社会活動」の現状について記し、実際のエフォートに基づき評価を行う。

【現状】

9.1.1 教育活動

1) 授業担当回数

看護学科では、平成23年度から平成25年度にかけて、科目担当者および単元担当者の変更を行ったほか、平成24年度大学院看護学研究科が開講したことで、各職位で授業担当回数の増減があった。特に平成25年度は、教授が大学院授業を担当することもあり、学部での授業担当回数が前年度よりも27.9回減少していた。

准教授および講師に関しては、年度毎にばらつきがみられ(表9-1)、また、授業回数の内訳についても、各職位と年度で増減があった(表9-2)。

表9-1 職位別にみた教育活動における授業回数

	授業回数			
	H23年度	H24年度	H25年度	平均
教授	51.1	67.5	39.6	52.8
准教授	76.0	82.0	62.3	73.4
講師	68.2	42.3	40.0	50.2
助教・助手	23.1	27.9	21.8	24.2

※数字は回数(1回=90分)を示す

表9-2 職位別にみた授業の内訳

	講義				演習			
	H23年度	H24年度	H25年度	平均	H23年度	H24年度	H25年度	平均
教授	31.8	46.0	24.4	34.1	19.3	21.5	15.3	18.7
准教授	59.0	31.6	26.3	39.0	17.0	50.4	36.0	34.5
講師	37.6	20.8	15.3	24.6	30.5	21.5	24.7	25.6
助教・助手	7.8	5.1	6.7	6.5	15.3	22.7	15.1	17.7

※数字は回数(1回=90分)を示す

2) 実習担当時間

教授が担当する実習時間は、平成23年度は344.1時間、平成24年度は239.1時間、平成25年度は193.6時間であった。減少の要因としては、先述の通り平成24年度より大学院教育を担当していると考えられる。教授の担当時間数の減少はあったが、これまで看護学実習の責任者は、主に准教授、講師が担当していることから、教育内容に問題はなかった。

准教授、講師、助教・助手についての実習時間数は、表9-3に示すとおりである。

表9-3 職位別にみた教育活動における実習時間

	実習時間			
	H23年度	H24年度	H25年度	平均
教授	344.1	239.1	193.6	258.9
准教授	586.3	550.6	535.0	557.3
講師	638.8	661.5	753.8	684.7
助教・助手	632.9	1654.3	477.2	921.5

※数字は時間数を示す

3) 時間外指導時間

教員が、正規の授業時間以外に行った学生の自己学習（基礎看護技術、フィジカルアセスメント、助産学演習など）の指導や補習時間は、講師および助教・助手が多かった。内訳として、講師が平成23年度は66.5時間、平成24年度は67.3時間、平成25年度は33.5時間、助教・助手が平成23年度は50.5時間、平成24年度は60.2時間、平成25年度は65.3時間となっており、ほぼ50時間を超える時間数となっている(表9-4)。

表9-4 職位別にみた教育活動における時間外指導時間

	時間外指導時間			
	H23年度	H24年度	H25年度	平均
教授	22.9	23.2	19.1	21.8
准教授	10.0	57.2	30.0	32.4
講師	66.5	67.3	33.5	55.7
助教・助手	50.5	60.2	65.3	58.7

※数字は時間数を示す

9.1.2 研究活動

研究活動は、学術論文発表数は平成23年度から平成25年度にかけて、僅かではあるが増加している。その他の論文および口演・示説発表に関しては、年度毎の大きな変化はなく、ほぼ横ばいとなっている。

また、論文数で見ると、いずれの職位においても学術論文およびその他の論文発表数よりも口演・示説発表の本数が多い結果となっている(表9-5, 表9-6, 表9-7)。

表9-5 職位別にみた研究活動状況(学術論文発表)

	学術論文			
	H23年度	H24年度	H25年度	平均
教授	1.4	1.5	1.4	1.4
准教授	0.0	0.2	1.5	0.6
講師	0.9	0.6	1.1	0.9
助教・助手	0.5	0.0	0.2	0.2

表9-6 職位別にみた研究活動状況(その他の論文発表)

	その他の論文			
	H23年度	H24年度	H25年度	平均
教授	0.3	0.3	0.2	0.3
准教授	0.0	0.0	0.3	0.1
講師	0.5	0.5	0.4	0.5
助教・助手	0.1	0.4	0.0	0.2

9.1.3 大学運営

大学運営における各種委員会は、全学委員会(10)および学部委員会(6)、およびカリキュラムワーキングである。各委員会の教員配置は、活動内容および職位などを考慮したものであり、教員一名が2~3の委員会活動を担当している。

入試担当業務として、オープンキャンパスおよび出前授業があり、その開催は入学者数が定着してきたことで、減少の傾向にある。また、教員一名当たりの担当回数は2回程度となっている(表9-8)。

入試業務における作問および面接の平均担当回数は、教授が25.3回、准教授

表9-7 職位別にみた研究活動状況(その他の論文発表)

	口演・示説発表			
	H23年度	H24年度	H25年度	平均
教授	2.2	2.3	2.5	2.3
准教授	3.0	0.4	1.2	1.5
講師	1.7	1.3	2.4	1.8
助教・助手	1.8	1.3	1.1	1.4

表9-8 入試関係業務直接担当状況

	H23年度	H24年度	H25年度	平均
オープンキャンパス および出前授業	62	60	50	57.3
進学相談会	8	8	9	8.3

※数字は回数を示す

が0.3回、講師が3.3回、助教・助手が1.0回となっており、仕事の内容上、教授の担当回数が多くなっている。

9.1.4 社会活動

社会活動としては、学会や学術集会等での役割、公開講座および研修会の実施などがある。社会活動をしている教員の割合は、平成23年度は86.5%、平成24年度は91.4%、平成25年度は79.5%となっていることから、例年8割近くの教員が社会活動を実施している状況にある。また、平成23年度および平成24年度には、本学科の地域貢献事業として定着している「実習指導をデザインする臨床実習指導者育成コース(D-PEC)」を開講し、これまでに73名の修了生を輩出している。平成25年度は、実習指導者の育成により実習関連施設での看護学実習指導が安定してきたことから、D-PECの開講を一旦停止し、事業の更なる発展を目指すための準備期間へと移行している。

また、兵庫県12大学看護系大学協議会にも参画し、地域看護学実習の実習期間やオリエンテーションに関する大学間での調整や、兵庫県看護協会の研修講師の担当など、看護基礎教育から生涯学習に至るまでの活動を積極的に行っている。

【評価】

「教育活動」「研究活動」「大学運営」「社会活動」の4分野における目標エフォート達成状況(平均)は、表9-9、9-10、9-11、9-12に、職位別に見た実際エフォートは、表9-13、9-14、9-15、9-16に示すとおりである。

表9-9 目標エフォート達成状況(教育活動)

	H23年度	H24年度	H25年度
S	6(16.7)	10(27.0)	5(12.2)
A	20(55.6)	20(54.1)	23(56.1)
B	10(27.8)	7(18.9)	12(29.3)
C	0(0)	0(0)	0(0)
無回答	0(0)	0(0)	1(2.4)
計	36(100)	37(100)	41(100)

※数字は人数、()内は割合を示す

表9-10 目標エフォート達成状況(研究活動)

	H23年度	H24年度	H25年度
S	1(2.8)	3(8.1)	3(7.3)
A	12(33.3)	9(24.3)	14(34.1)
B	12(33.3)	13(35.1)	15(36.6)
C	11(30.6)	11(29.7)	7(17.1)
無回答	0(0)	1(2.7)	2(4.9)
計	36(100)	37(100)	41(100)

※数字は人数、()内は割合を示す

表9-11 目標エフォート達成状況(大学運営)

	H23年度	H24年度	H25年度
S	6(16.7)	5(13.5)	4(9.8)
A	15(41.7)	16(43.2)	18(43.9)
B	14(38.9)	14(37.8)	14(34.1)
C	1(2.8)	1(2.7)	2(4.9)
無回答	0(0)	1(2.7)	3(7.3)
計	36(100)	37(100)	41(100)

※数字は人数、()内は割合を示す

表9-12 目標エフォート達成状況(社会活動)

	H23年度	H24年度	H25年度
S	3(8.3)	4(10.8)	6(14.6)
A	15(41.7)	18(48.6)	16(39.0)
B	11(30.6)	12(32.4)	9(22.0)
C	7(19.4)	3(8.1)	8(19.5)
無回答	0(0)	0(0)	2(4.9)
計	36(100)	37(100)	41(100)

※数字は人数、()内は割合を示す

教育活動の目標エフォート達成状況は、各年度においてAと評価している教員が50%を超えており、大学における教育活動を重視していることが分かる。職位別にみた実際エフォートをみていくと、教授は40%台、准教授、講師、助教・助手は50～70%の割合で行っていることが分かった。看護学科は、新たなカリキュラムの元に教育を刷新している途上であること、また入学定員数を90名に増員したことなどから、教育の質を維持するための努力を行っていることが伺える。教育の質の向上に関してはエフォートだけで押し量ることができない。今後はFDの成果と併せながら、学科の各ポリシー（アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー）をもとに教育力の評価指針を構築していく必要がある。

研究活動の目標エフォート達成状況は、教育活動のエフォートの割合が高かったためか、低値を示している。また、実際エフォートを見ると、教授、助教・助手、講師、に比して、准教授の割合が低いことが分かった。准教授は、学内・学外問わず広い範囲で教育の指導的役割を担うことが多く、教育活動における実際エフォート値が60%をこえていたこと、また委員会活動など、大学運営においても実働的な役割を担っていることから、准教授が研究活動に充てる時間が取りにくい傾向にあることが見えてきた。

表 9-13 職位別にみた実際エフォート(教育活動)

	H23年度	H24年度	H25年度	平均
教授	46.1	43.8	39.4	43.1
准教授	50.0	70.0	69.2	63.1
講師	63.7	63.7	58.1	61.8
助教・助手	53.5	61.4	64.4	59.8

※数字は割合(%)を示す

表 9-14 職位別にみた実際エフォート(研究活動)

	H23年度	H24年度	H25年度	平均
教授	20.4	19.6	21.3	20.4
准教授	8.0	8.0	10.8	8.9
講師	14.8	16.0	18.9	16.6
助教・助手	23.0	17.1	17.2	19.1

※数字は割合(%)を示す

研究活動は、教員の個人的な努力はもちろんのこと、学科における教員の研究力を培う仕組みが必要である。領域を越えた研究のネットワーク作り、また大学を越えた研究の取り組みをとおして、教員の研究力の向上が求められる。また、研究には時間的なマネジメント力も求められる。そのため、他の活動との調整を図りながら、研究への取り組みが可能となるような体制作りを検討していきたい。

大学運営に関する目標エフォート達成状況は、各年度においてAと評価している教員が40%を超えていた。本学科は、平成25年度で7年目を迎えたことから、各委員会活動の見直しの時期に入っている。委員会の役割や内容が定着しつつも、改善策を打ち出すことのできる力量が備わっていることを鑑みると、エフォートの数値だけでなく評価できる点である。今後も継続的に、組織的な改善を図っていく方針である。

表 9-15 職位別にみた実際エフォート(大学運営)

	H23年度	H24年度	H25年度	平均
教授	23.6	23.5	22.5	23.2
准教授	40.0	14.0	12.5	22.2
講師	15.1	13.3	11.8	13.4
助教・助手	14.5	12.3	12.8	13.2

※数字は割合(%)を示す

表 9-16 職位別にみた実際エフォート(社会活動)

	H23年度	H24年度	H25年度	平均
教授	12.5	13.8	9.4	11.9
准教授	2.0	8.0	7.5	5.8
講師	6.5	7.0	8.2	7.2
助教・助手	9.0	9.2	5.6	7.9

※数字は割合(%)を示す

社会活動に関する目標エフォート達成状況は、各年度においてAと評価している教員が40%前後のであった。社会活動の教員の意識として、教育活動、大学運営を優先させながらも本活動を行っていることが伺えた。

社会活動の一環として本学科で取り組んできた「実習指導をデザインする臨床実習指導者育成コース(D-PEC)」は、実習施設の指導者の質の向上を図る目的で行ってきた。修了生たちは、自施設に戻り指導者として評価されていることから、本活動の意義は高く組織的取り組みとしても高く評価できる。今後は、卒業生も含めた看護師の生涯教育の支援と共に、地域貢献に向けた取り組みへとその範囲を広げていきたい。

【課題】

- (1) 学科の各ポリシーをもとにした教員の教育力の評価指針を構築する。
- (2) 教員の研究力の向上に向けて、領域を越えた研究のネットワークを作る。
- (3) 活動評価を基にした、継続的な組織的改善を行う。
- (4) 卒業生も含めた看護師の生涯教育の支援と、地域貢献に向けた取り組みを行う。

9.2 理学療法学科

【現状】

教員の「教育活動」「研究活動」「大学運営」「社会活動」の4分野におけるエフォートの実績(表9-17)と目標エフォートの達成状況(表9-18)を示す。

エフォートの実績について、大学が標準例として提示している各職位別の一般的エフォートと比較すると、全体的に教育活動(平均53%)および大学運営(平均17%)に対するエフォートが高く、研究活動(平均18%)のエフォートが低い傾向がみられた。一方、各教員の目標エフォートに対する達成状況については、「目標を順調に達成」したというAレベル以上の平均比率をみると、「教育活動」84%、「研究活動」51%、「大学運営」60%、「社会活動」69%を示し、各分野に対し半数以上の教員が目標を順調に達成したことを報告している。

表9-17 各活動における職位別エフォートの実績：(%)

職位	教育活動				研究活動				大学運営				社会活動			
	一般	23年度	24年度	25年度	一般	23年度	24年度	25年度	一般	23年度	24年度	25年度	一般	23年度	24年度	25年度
教授	40	52	52	40	30	13	15	17	20	17	19	20	10	16	14	14
准教授	40	41	39	40	40	21	25	21	10	21	16	21	10	16	20	18
講師	40	61	55	50	40	14	21	16	10	20	14	19	10	5	10	15
助教	45	70	65	65	45	20	5	20	5	5	20	13	5	5	10	3
平均	—	56	53	49	—	17	17	19	—	16	17	18	—	11	14	13

※ 太字は職位別エフォート例

表 9-18 各分野における目標エフォートの達成状況：人数（％）

評価	教育活動			研究活動			大学運営			社会活動		
	23年度	24年度	25年度	23年度	24年度	25年度	23年度	24年度	25年度	23年度	24年度	25年度
S	5(28)	4(22)	4(21)	1(6)	4(22)	4(21)	1(6)	3(17)	2(11)	2(11)	5(28)	4(21)
A	11(61)	11(61)	11(58)	6(33)	7(39)	6(32)	8(44)	8(44)	11(58)	8(44)	7(39)	12(63)
B	2(11)	3(17)	3(16)	5(28)	0(0)	3(16)	6(33)	7(39)	5(26)	5(26)	5(28)	1(5)
C	0(0)	0(0)	1(5)	6(33)	7(39)	6(32)	3(17)	0(0)	1(5)	3(17)	1(6)	2(11)
計	18 (100)	18 (100)	19 (100)	18 (100)	18 (100)	19 (100)	18 (100)	18 (100)	19 (100)	18 (100)	18 (100)	19 (100)

* S:目標以上の成果達成 A:目標を順調に達成 B:目標をおおよそ達成 C:目標を下回った

9.2.1 教育活動

1) 授業担当時間

今期の各職位別の平均授業担当時間を表 9-19 に示す。各職位の平均時間（講義時間、演習時間、実習関連時間の合計）は、教授 182.3 時間、准教授 195.3 時間、講師 194.2 時間、助教 179.5 時間であった。大学より示されている教員の責任担当時間（週 6 コマ＝180 時間）をほぼ遂行している。授業時間以外の指導として、レポート作成や授業内容のフィードバック、国家試験対策、卒業研究などにかかわる時間におよそ 100 時間あまりを費やしている。

表 9-19 授業担当時間：（時間）

	講義時間	演習時間	実習関連時間	時間外指導時間
教授	71.3	80.3	30.7	109.6
准教授	81.5	76.3	37.5	101.1
講師	56.0	100.7	37.5	90.2
助教	69.5	75.0	35.0	141.3

2) 国家試験対策

今期の国家試験合格率は、平成 23 年度 92.2%、平成 24 年度 98.1%、平成 25 年度 98.2%であった。年を追うごとに合格率が上がったのは、まさしく教員の努力の結果である。平成 22 年度から学部为国家試験支援室は設置されていたが、年度を重ねるたびに学科教員の負担も大きくなったため、平成 25 年度から国家試験対策のための指導教員（第 3 種特任助教）が採用された。その結果、試験の合格率が向上し、指導教員の有用性が明示されるとともに、各教員の時間外指導時間は、過去 2 年間（平成 23・24 年度）の 132.4 時間と比較し、25 年度は 67.0 時間とおおよそ半減していた。このことから、本学では国家試験に対する学生支援活動の比重が大きいと推察された。

9.2.2 研究活動

1) 学術活動

学術論文の執筆および研究発表における学術活動は、表 9-20 に示す。年度ごとの学術書および論

表 9-20 学術活動：件（教員 1 名あたり）

	23 年度		24 年度		25 年度	
	n=18		n=19		n=20	
学術書・教科書	9	(0.5)	11	(0.6)	14	(0.7)
論文掲載	36	(2.0)	48	(2.5)	34	(1.7)
同（筆頭論文）	19	(1.1)	14	(0.7)	12	(0.6)
口演・自説発表	61	(3.4)	70	(3.7)	87	(4.4)
同（第 1 発表者）	24	(1.3)	32	(1.7)	27	(1.4)

文の執筆状況は、各々9件（平成23年度）から14件（平成25年度）、34件（平成24年度）から48件（平成25年度）と多少の増減はあるもののほぼ同様な活動状況がみられた。また、研究などの口演発表（第1発表者）についても、24件（平成23年度）から32件（平成24年度）と、執筆状況と同様な活動状況であった。

2) 競争的資金獲得状況

競争的資金獲得状況を表 9-21 に示す。今期の科研費の申請件数は11件が行われたが、採択件数は3件（採択率27%）にとどまっている。また、受託研究件数は申請数4件に対し採択件数は3件（採択率75%）であった。実際に、研究活動におけるエフォートの実績をみると18%前後と一般的エフォートと比較するとかなり低く、さらに目標エフォートの達成状況では、30%の教員が「目標を下回った」と答えていることから、研究活動の低迷さは否定できない

表 9-21 競争的資金獲得状況：件（教員 1 名あたり）

	23 年度	24 年度	25 年度
	n=16	n=17	n=17
科学研究費代表申請件数	4(0.3)	3(0.2)	4(0.2)
科学研究費採択件数	1(0.1)	1(0.1)	1(0.1)
科学研究費共同研究者申請件数	0(0)	0(0)	0(0)
受託研究代表申請件数	1(0.1)	2(0.1)	1(0.1)
受託研究採択数人数	1(0.1)	2(0.1)	0(0)
受託研究共同研究者採択人数	0(0)	0(0)	0(0)

※ 第3種特任教員を除く

9.2.3 大学運営

各種委員会での委員担当数は、平成23年度3.3件、平成24年度4.4件、平成25年度4.4件と大きな変動はないものの、教員1名あたり4種以上の役割を果たしており、前期（平成21、22年度）の3.1件を上回っていた。また、各種ワーキングへの参加数は平成23年度2名であったが、平成24、25年度ともに10名を数えた（表9-22）。また、オープンキャンパスを担当する教員数は14名（82%）とやや増加しているものの、担当回数は約2.2回とほぼ一定している（表9-23）。一方、就職支援のための施設訪問回数は、教員の施設担当数によってばらつきが大きいですが、最近の社会情勢から求人情

報が多く寄せられるため、就職支援の活動回数に減少傾向がみられる（表9-24）。

大学運営におけるエフォートから、実績が平均 17%、達成状況では 90%以上が「目標をおおよそ達成」したと回答しており（表9-17, 9-18）、大学運営にかかわる業務については順調な業務遂行が行われたことを伺わせる。

表9-22 各種委員会・ワーキング担当状況：人数（%）

担当数	各種委員会			ワーキング・プロジェクト		
	23年度	24年度	25年度	23年度	24年度	25年度
0	2 (11)	2 (11)	3 (15)	16 (89)	9 (47)	13 (65)
1	1 (6)	0 (0)	1 (5)	2 (11)	9 (47)	4 (20)
2	0 (0)	2 (11)	1 (5)	0 (0)	1 (5)	3 (15)
3	7 (39)	5 (26)	7 (35)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
4	6 (33)	2 (11)	3 (15)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
5	0 (0)	3 (16)	3 (15)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
6	1 (6)	3 (16)	2 (10)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
7以上	1 (6)	2 (11)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)

※ 第3種特任教員を除く

表9-23 オープンキャンパス担当状況：人数（%）

回数	オープンキャンパス		
	23年度	24年度	25年度
0	5 (29)	3 (18)	3 (18)
1	1 (6)	2 (12)	5 (29)
2	3 (18)	4 (24)	7 (41)
3	8 (47)	7 (41)	4 (24)
4	1 (6)	2 (12)	1 (6)
5	0 (0)	1 (6)	0 (0)

※ 第3種特任教員を除く

表9-24 就職支援活動のための施設訪問 人数（%）

回数	就職支援活動（施設訪問）		
	23年度	24年度	25年度
0	10 (56)	9 (47)	13 (65)
1～9	6 (33)	6 (32)	4 (20)
10～19	0 (0)	2 (11)	0 (0)
20回以上	2 (11)	2 (11)	3 (15)

※ 第3種特任教員を除く

9.2.4 社会活動

学術イベントへの関与は、毎年 60%以上の教員にみられた。多いものでは 6 件以上のイベントにかかわっている。また、各種団体役員への就任は年度ごとに減少してきているが、平成 25 年度でも 9 名が団体活動の運営に携わっている（表 9-25）。さらに、今期の学外を含む講演会や公開講座の講演件数は毎年、平均 13 名の教員（68%）によって合計 232 件の講演が実施され、教員 1 名あたり 5.9 件を数え（表 9-26）、前期の活動と比較すると、2 倍以上実施されている（平成 22 年度 2.8 件）。

社会活動におけるエフォートでは、実績は平均 13%を占め、社会活動が活発かつ順調に遂行され、ほぼ 90%の教員が「目標をおおよそ達成」したことから、本学科教員が果たした社会的貢献の大きさを示している。

表 9-25 社会活動状況：人数（%）

担当数	学術イベントの主催・協力			各種団体役員への就任		
	23 年度	24 年度	25 年度	23 年度	24 年度	25 年度
なし	7 (39)	8 (42)	6 (30)	3 (17)	6 (32)	11 (55)
1	2 (11)	2 (11)	6 (30)	6 (33)	4 (21)	3 (15)
2	3 (17)	4 (21)	1 (5)	3 (17)	5 (26)	3 (15)
3	3 (17)	1 (5)	2 (10)	4 (22)	2 (11)	1 (5)
4	1 (6)	1 (5)	2 (10)	0 (0)	2 (11)	1 (5)
5	1 (6)	2 (11)	0 (0)	1 (6)	0 (0)	1 (5)
6 件以上	1 (6)	1 (5)	3 (15)	1 (6)	0 (0)	0 (0)

表 9-26 社会活動状況：件

	講演会・公開講座などの講師			
	23 年度	24 年度	25 年度	合計
	n=13	n=14	n=12	
件数	73	89	70	232
平均	5.6	6.4	5.8	5.9

※ n：教員数

【評価】

今期のエフォートの実績比率では、教育活動が高い傾向を示す反面、研究活動は著明に低かった。完成年度を過ぎ、2 クール目の評価であったが、この傾向は持続しており、エフォート実績において大きな変化はみられなかった。

教育活動について、大学が提示する講義時間（演習を含む）の一定の目安である週 6 コマ（180 時

間) の他、軽減されてきたとはいえ、100 時間を超える時間外指導時間などを加えると、教員の実績比率を上昇させる要因となっていると考える。特に、講師や助教の比率が高いことから、その原因を解明し現状のあり方を改善する必要がある。

一方、研究活動は早急な活性化が必要である。広義の学術活動が行われていないわけではなく、学術書や論文などの執筆活動や講演活動は、増加傾向を示しつつ継続的に遂行されている。しかし、科学研究費を代表とする競争的資金の獲得状況は、ほとんど改善されていないといわざるを得ない。教育活動の向上と充実を推進するためにも研究活動は必須であり、教員全員が他の領域におけるエフォート比率を、研究領域へのエフォート比率に転換する姿勢を示す必要がある。その一つとして、平成 25 年度に研究活動の活性化を目的に教員を 4 つの研究グループに分けて対応することとした。今後の成果に期待するところである。

大学運営および社会活動については、実績比率においてやや高くなっているが、達成状況も「目標をおおよそ達成」したものがほぼ 90% を占め、順調に遂行されたことがわかる。さらに今後は大学運営の見直し、効率化を図ることや講演会への講師依頼を吟味することにより高い比率を低減し、研究活動のエフォートを上昇するための対策を検討する必要がある。

【課題】

- (1) 時間外指導業務の内容を点検し、指導時間の減少を図ることによって、バランスのとれた活動エフォートの達成を目指す。
- (2) 研究グループによる研究活動を推進し、研究活動の活性化を図る。
- (3) 学科運営を見直し、効率化や簡素化の可能性を探る。

文責：看護リハビリテーション学部	学部長	荒賀直子
看護学科	学科長	前川幸子
理学療法学科	学科長	八木範彦

第10章 自己点検・自己評価体制

【現状】

自己点検・自己評価委員会は、学部教育・研究・運営・社会活動の向上を図るため、自己点検・自己評価を行うことを目的に平成20年度に発足した。本委員会の構成は、両学科共通の点検・評価項目、および各学科の独自性を生かした点検・評価項目について検討することを可能にするために学部教授会で任命された両学科教員により構成している。平成26年度の構成員は、看護学科では准教授1名、講師3名、理学療法学科では、教授1名、講師1名の計6名である。

(1) 自己点検・自己評価実施の目的

本学部の自己点検・自己評価の目的は、以下の3点である。①本学部における教育、研究、地域貢献、および学部運営に関する3年間の活動を評価し、後年度に向けての課題および改善点を見出す。②専門職教育の重点化を図るための基礎的資料とする。③評価結果を冊子として纏め、関連する実習施設および教育機関へ配布することで本学部の教育内容を周知する。

(2) 評価方法

①評価対象期間は、平成23年度から25年度（平成23年4月1日～平成25年3月31日まで）、の3年間であり、評価対象項目は『教育・研究・地域貢献・学部運営』として、これらに関する各種委員会資料および各教員個人資料を参考に、1) 現状、2) 評価、3) 課題に分類してまとめた。

②評価指標は、日本高等教育評価機構および文部科学省大学評価研究委託「日本看護系大学協議会における学士課程評価基準」を参考に本委員会が作成した本学部における『評価基準』を用いた。

③評価担当者は、『教育・研究・地域貢献』については該当年度の各委員会の担当者を、学部運営に相当する『組織・運営および教員による自己評価』については学部長、学部事務長、両学科主任をそれぞれ当てた。

平成26年度は「平成23～25年度自己点検・自己評価」の冊子を作成し、国内の大学教育関係者および学内における他学部へは冊子を配布することで本学部の教育内容の周知に努めた。なお、大学教育関係者(私学)への郵送内訳は看護学科23校、理学療法学科63校の計86校であった。平成26年度は「平成23～25年度自己点検・自己評価」冊子の内容を、広く関係者の閲覧に供することを目的として甲南女子大学ホームページに掲載した。

【評価】

本委員会で作成した評価基準は、日本高等教育評価機構および文部科学省大学評価研究委託資料「日本看護系大学協議会における学士課程評価基準」を参考にして作成したものである。これらの評価項目や内容は、社会背景とともに変容するものである。現時点では、大きな変革はないため、これまでと同様の体制で自己評価・自己点検し、大きな問題なく進行できた。

【課題】

自己点検・自己評価の実施の意図は、学部・大学院の全体の教育力および研究力の活性化と向上、また教員の自己能力の開発、自己啓発を目指すことにある。今後も着実な評価を基に、教育・研究・地域貢献および学部運営に関する改善のために具体的に取り組んでいくサイクルを培っていくことが課題となる。

文責：看護学科	自己点検・自己評価委員会	兼田美代
理学療法学科	自己点検・自己評価委員会	伊藤浩充
看護学研究科	自己点検・自己評価委員会	牧野裕子

自己点検自己評価委員会

甲南女子大学看護リハビリテーション学部

自己点検評価『評価基準』

看護リハビリテーション学部		専門分野の学士課程評価基準	
自己点検・評価項目	評価項目	評価の根拠	
第1章 本学部の教育理念・目標 1. 教育理念	・当該教育課程の教育理念と目標は、看護・理学療法教育に相応しい内容であり、学内で共有されていること	1) 教育理念・教育目標の記述内容は確認できたか 2) 記述内容は適切であるか 3) 明示・公表をしているか 4) 学内での共通認識はされているか 5) 当該大学の理念・目標との関連性は適切であるか	
	・当該教育課程で育成しようとする人材像を示し、課程を修めることにより付与できる資格を公表していること	1) 育成する看護・理学療法職者像の記述は、適切な考え方と内容であるか 2) 志願者に正しく伝わる内容であるか 3) 入学後の学生自身の目標形成に有効であるか 4) 付与できる資格等の明示は正確で分かりやすいか 5) 適切に公表しているか	
	・当該大学の設置主体は、当該教育課程での教育研究活動に対して、それを支える方針や考えを明確にしていること	1) 当該課程の教育研究活動の位置づけが設置主体側に確実に支持されているか 2) 当該課程の人材育成にかかわる社会的使命の議論が設置主体の側で十分になされ、価値の評価がされているか 3) 学生、教職員を含む学内関係者が当該課程の社会的使命につき共有する（内部議論）努力をしているか	
	・当該教育課程は自大学の独自性を含む編成方向であること	1) 教育課程は、自大学の独自性を持つ編成であるか	
第2章 組織と運営 1. 組織（構成） 2. 教授会組織、役割 1) 看護学科 2) 理学療法学科	・看護学・理学療法教育を実施するのに相応しい教員組織編制となっていること	1) 看護学・理学療法教育に相応しい教員組織編制か 2) 当該教育課程の目的・理念に即した教育研究組織編制か 3) 教員確保のための基本方針を有し、教員が適切に確保されているか	
	・当該教育課程の目的・理念を達成するため、教養教育・専門関連科目の体制が適切に整備され、機能していること	1) 教養教育・専門関連教育の実施体制は、当該教育課程の教育体制として適切か	
3. 学部運営 1) 看護学科 2) 理学療法学科 3) 学部事務室	・当該教育課程の看護学・理学療法教育研究の責任者が、組織上適切に位置づけられていること	1) 当該教育課程の責任者の位置づけは適切であるか 2) 責任者は適切に十分機能を果たしているか	
	・当該教育課程の教育・研究活動に係わる重要事項を審査するための機関が設置されていること	1) 重要事項を審議するための管理機関の位置づけと、実際の機能は適切であるか	
	・教育課程の目標達成に必要な教員及び支援者が適切に確保されていること	1) 当該教育課程に、質・量両面において十分な教員が確保されているか 2) 看護学・理学療法学の主要科目を担当する教員が配置されているか 3) 臨地実習指導者が大学及び実習施設に確保されているか	
	・教育活動を活性化するために適切な人材確保の方針があり、十分に確保されていること	1) 教員活動活性化のために弾力的な人材確保がなされているか 2) 教員がそれぞれの職位に相応しいキャリアアップをするために研修等に参加できるか	
	・臨地実習指導について、教員及び教育支援者に対する計画的な研修をしていること	1) 教育支援者である臨地臨床側の実習指導者、教員の産休等代替要因である教育補助者の資質向上に向けた研修の取り組みがなされているか 2) 看護学・理学療法学の発展に寄与する研究能力を有する教員が確保されているか	

看護リハビリテーション学部	専門分野の学士課程評価基準	
自己点検・評価項目	評価項目	評価の根拠
第2章 組織と運営(つづき) 4. 委員会組織・役割	・当該教育課程の看護学・理学療法教育の運営を主体的・組織的に取り組むための委員会活動体制が整備され、機能していること	1) 教務・学生生活・就職対策など委員会活動体制があり、教職員連携により適切に機能しているか 2) 委員会構成は適切か
	・当該教育課程の意思決定のプロセスが明確に確立され、適切に運用されていること	1) 学科会議などでの意思決定過程が明確になっているか 2) 学部内組織での意思決定過程は明確になっているか
	・学部教授会は、当該教育課程の運営に必要な事項を適切に取り上げていること	1) 当該教育課程が直面した課題に関して適切な対応ができていないか 2) 教授会は看護・理学療法学科長（当該教育課程の責任者）によって適切に連携・協力できているか 3) 当該教育課程の責任者に対しては、必要に応じた権限委譲ができていないか
	・学部教授会は、当該教育課程等が提起した課題を全学的意思決定にするために適切な取り組みができていないこと	1) 当該教育課程の教育活動及び研究活動に関する意思決定の体制を整備していないか 2) 上記体制での意思決定が当該大学（組織全体）の管理・運営に反映される仕組みとして機能していないか
	・評議会など全学的審議機関と看護リハビリテーション学部教授会は適切に連携協力し、適切な権限委譲がなされていること	1) 審議機関（評議会など）と教授会との権限委譲が明確になっているか
5. 事務組織・役割	・当該教育課程の教育活動を支える事務組織体制が適切に整備され、機能していること	1) 事務職員の組織体制は、当該教育課程の活動を支えるのに適切であるか 2) 事務職員の配置は、当該教育課程の活動の特性を踏まえ、適切であるか 3) 支援体制が適切にできているか 4) 事務職員は、看護学・理学療法教育の特性を把握して管理・運営上の支援ができていないか
6. 予算	・当該教育課程の教育研究の目的・目標を実現するうえで必要な予算措置が適切になされていること	1) 教育に要する経費は適切に措置されているか 2) 看護学・理学療法実習に伴う諸経費（施設料指導謝金・指導旅費）などの確保が適切か 3) 当該教育課程の教員は、教育等に必要予算措置要求過程に適切に関与できる仕組みがあるか 4) 当該教育課程の教員は、教育等に必要予算の執行ができる仕組みか
	・当該教育課程の教員研究費配分は適切であること	1) 教員の個人別研究費等の配分が適切か
	・当該教育課程にかかわる経費の分析がなされ、財政計画がつけられていること	1) 当該教育課程にかかわる経費等の分析・検証、将来計画が取り組まれているか
	・当該教育課程にかかわる教員は外部資金確保を適切に取り組んでいること	1) 文部科学省科学研究費補助金等の外部資金の受け入れを適切に行なっているか
第3章 学生の受け入れ 1. 学部に関するPR 1) 看護学科 2) 理学療法学科	・当該教育に関する特徴について、社会に向けた周知活動を行っていること	1) 当該教育の特徴を踏まえながら、学部教育の目的・目標についての説明がなされているか 2) 当該教育が求める学生像や、入学後の教育について説明がなされているか 3) 受験対象者別にわかりやすい工夫がされているか 4) 学部PR活動を評価する仕組みがあるか

看護リハビリテーション学部	専門分野の学士課程評価基準	
自己点検・評価項目	評価項目	評価の根拠
第3章 学生の受け入れ（つづき） 2. 学生の募集・選抜方法 1) 入学試験実施状況 (1) 看護学科 (2) 理学療法学科	・当該教育が求める学生像や入学者選抜の方針を明確に定め、公表していること	1) 理念・目的に適合した学生像と選抜方針か 2) 高校生にわかりやすい言葉で明示しているか
	・当該教育課程の入学者受け入れ方針に沿って、適切な選抜方法を採用していること	1) 一般選抜・推薦・社会人選抜など、採用方式は実質的に適切な選抜方法として機能しているか 2) 当該教育課程の求める入学者を選抜するために、面接試験などを適切に行なっているか
	・入学者選抜方法を検証して改善措置への取り組みが図られていること	1) 試験科目・試験方法の適切性を検証しているか 2) 入学方法に関する評価を担当する委員会等の組織をもち、機能させているか
	・当該教育の選抜方法に相応しい実施体制であること	1) 適切な試験体制であるか 2) 入試実施体制の評価に基づき、改善する仕組みがあるか
	・正確性・機密性を保つ成績管理システムが確立されていること	1) 試験問題作成過程では問題および採点基準の適切性を担保する点検システムを確立し、実行しているか 2) 採点作業は、基準に基づき、組織的・計画的に実施しているか 3) 成績データの正確性を担保する点検システム機能しているか
	・試験問題・解答の公開など、透明性のある対応が図られていること	1) 採点基準・評価基準を公開しているか 2) 受験者の得点の公開は、当事者が確認できるような対応か
	・入学定員の設定が適切であること	1) 看護学・理学療法学の教育課程を展開するのに適切な定員規模か 2) 定員は教職員構成や設備状況との関連で適切か
	・入学者決定過程は適切であること	1) 入学者数は適切か 2) 入学者及び入学者数の決定に教員が適切に参画しているか
3. 生涯教育 1) 看護学科 Promotion Course of Clinical Practicum Educators Designing the Practicum Education (D-PEC)	・看護職・理学療法職向け実施の研修等が、専門性を深めるための生涯支援に有用な取り組みとなっていること	1) 看護職・理学療法職向けの研修を意図的に取り組んでいるか 2) 実施内容が看護・理学療法職者の専門性を高めるために有効であることを立証できるか
第4章 教育課程 1. 看護学科教育課程 1) 国家資格4種類の履修モデル [看護師・保健師・助産師・養護教諭] (1) 旧カリキュラム (2) 新カリキュラム 2) 編入学教育 2. 理学療法学科教育課程 1) 国家試験取得の履修モデル	・当該教育課程の教育理念・目標及び人材育成像に相応しい課程編成方針（考え方）が明示されていること	1) 方針・考え方を捉える視点が適切か 2) 看護学・理学療法学の学士課程としての独自の開発の実績が確認されるか
	・教育課程全体として体系的、教養教育・専門教育の適切性が確認でき明示されていること	1) 看護学・理学療法学への導入が適切にできる体系か 2) 学習の順序性が適切であるか 3) 学士課程としての教養教育であるか 4) 専門関連分野の教育内容はその位置づけが適切であるか 5) 専門科目の構成・内容が適切であるか 6) 学生及び教職員は共有しているか

看護リハビリテーション学部	専門分野の学士課程評価基準	
自己点検・評価項目	評価項目	評価の根拠
第4章 教育課程（つづき）	・授業科目は、看護学・理学療法学の専門の基礎を効果的に教授する科目構成と内容で体系化していること	1) 当該課程の理念・目標に沿った独自の編成であるか 2) 各科目の目標（到達レベル）を明示しているか 3) 臨地実習等体験学習は、講義・演習科目と連動した看護学・理学療法学の学士課程、又は看護学・理学療法学の授業科目として位置づけているか 4) 臨地実習は、効果的に展開する工夫をしているか 5) 看護・理学療法倫理教育を実施しているか(看護・理学療法倫理を教授できているか)
	・専門関連科目は看護学・理学療法学を学ぶために必要な関連分野について、各授業科目の目的・目標を示し、適切な体系化をもった教育内容であること	1) 看護学・理学療法学に不可欠な知識を体系的・効果的に編成しているか 2) 授業担当者は、当該課程上の科目設定目的・目標を共有しているか 3) 専門科目の授業展開への発展的利用を指導しているか
	・教養教育の授業科目は、人材育成の目的・目標に沿った教育内容で構成していること	1) 人材育成の基盤として位置づけているか 2) 目的・目標を全教員が共有する機会があるか 3) 目的・目標の履修指導をしているか
	・理念・目標を踏まえ、編入学者への教育目的・目標が明示されていること	1) 編入生の既習内容・既修得レベルを考慮した教育課程か 2) 一般入学者の課程に、不適切な影響・歪みはないか
	・編入学者の既習内容とレベルを適切に考慮した体系的な教育課程の編成であること	1) 既修得単位の認定方法は適切であるか
	・教育目的、目標、履修方法などのガイダンス及び履修指導を適時実施していること	1) 具体的なレベルで履修指導をしているか
	・教育活動を企画・運営・実施する組織は、適切に構成され、機能していること	1) 教務委員会等は、教育活動を共同で計画・実施する組織構成となっているか 2) 教育の組織的活動は、専門・専門関連・教養の各科目に及び適切に機能しているか 3) 臨地実習を計画・運営する組織は、適切に構成され、機能しているか 4) 臨地実習を実施する体制（教員・指導者・外部機関との連携）は、適切に構成され、機能しているか 5) 教授会等意思決定機関との関連は適切に機能しているか 6) 職務委員会等の授業担当者との連携は適切であるか
	・教員の組織的取り組みと事務組織の活動との連携が適切に機能していること	1) 事務組織の関わりは適切であるか
	・教育活動の改善充実に向け、組織的な取り組みをしていること	1) 学外の実習施設とは、会議等による連携が図れているか 2) 実習指導に関するファカルティ・ディベロップメント（Faculty Development：FD）など、独自な取り組みをしているか 3) 教育活動改善にむけ、定期的な見直しをしているか
	・専門科目は「専門基礎」を教授するに相応しい体制が整えられていること	1) 教員は適切に配置されているか 2) 効率的な教育実施に向け、専門科目間で有機的連携が図れているか 3) 改善措置に向けた取り組みがなされているか
・専門関連科目は、専門科目の授業展開に不可欠な教育内容であること	1) 専門科目教育にいかされる有効な連携が図れているか 2) 高校での理系既修得状況を配慮しているか	

看護リハビリテーション学部		専門分野の学士課程評価基準
自己点検・評価項目	評価項目	評価の根拠
第4章 教育課程（つづき）	・教養教育を組織的に実施する体制が整えられていること	1) 授業担当者が、目的・目標の共通 認識のもとで教育を実施できる（責任ある）運営体制であるか 2) 各科目には、相応しい教員が配置されているか 3) 委員会などが組織的に対応することで改善措置に向けた取り組みがなされているか
	・教育理念・目標・教育課程の成り立ち、授業科目の設定意図、学修の進度・段階などが十分説明されていること	1) 教育課程の編成方針や課程の体系性を説明しているか 2) 学生は履修計画を自分でつくれるか 3) 教養教育の目的・目標を学生に十分説明し、理解されているか
	・入学時及び学期開始時のガイダンスが、計画的に実施されていること	1) 定期的なガイダンス・履修指導を実施しているか
	・履修指導の実施企画は常に見直されていること	1) ガイダンスや履修指導の方法を、常に改善していく姿勢がみられるか 2) 効率的な教育実施のために、各科目間の有機的な連携が図れているか 3) 改善にむけた取り組みがなされているか
	・各授業科目の評価は、授業目標・到達目標に沿って厳格になされていること	1) 各授業科目の評価基準を学生に明示・説明しているか 2) 成績評価への疑問・不服等の受け止めや事後指導の体制は整っているか
	・評価にかかわる教員は評価基準を共有していること	1) 教員間で判定基準を共有しているか 2) 科目ごとに、授業目標・到達目標の特性を考慮した評価基準を策定しているか 3) 当該課程の実績分析に基づき、組織的な議論がなされているか
3. 臨地臨床実習 1) 看護学科 2) 理学療法学科	・臨地実習体験に基づき、理論と実践を一体化した教育を工夫していること	1) 理論と実践との結びつきを十分理解させる努力をしているか
	・卒業時到達目標である看護・理学療法実践能力（技術・看護・理学療法実践の理論）の修得レベルについて、確認および指導できること	1) 生涯学習の出発点の能力として、看護・理学療法実践能力の修得レベルを確認しているか 2) 看護・理学療法職者の生涯の出発点に相応しい指導であるか
	・臨地実習の過程では、看護・理学療法対象者との人間関係形成方法の基礎習得を十分教授できていること	1) 人間関係（援助関係）形成過程における個人別学習支援をしているか
	・臨地実習などに伴う諸経費の確保が適切に行われていること	1) 当該教育課程の教員は、実習費用を適切に執行できる仕組みか
	・看護・理学療法及び看護・理学療法実習における倫理を具体的に指導していること	1) ケア対象者（看護・理学療法サービスの利用者）の人権を尊重する具体的方法を教授しているか 2) 臨地実習の「実習倫理指針」と「手続き」が明確であり、教授されているか 3) 実習倫理のあり方、具体的方法については、実習施設側の指導者に認識され、かつ教育される環境が整っているか
	・看護・理学療法者の提供するケアが、常に方法開発しつつ実施されていることが伝えられていること	1) 看護・理学療法実践がいつも個別状況に応じた方法で開発されていることを学生が実感できるよう、配慮しているか 2) 臨地実習施設で、看護・理学療法職による実践研究の必要性を伝えているか

看護リハビリテーション学部		専門分野の学士課程評価基準	
自己点検・評価項目	評価項目	評価の根拠	
第4章 教育課程（つづき）	・確実に感染症対策と安全管理にかかわる対策学生への指導がなされていること	1) 学生自身及びケア対象者双方の健康と安全の保護における対策の必要性を学生に指導しているか 2) 予防接種などに対する大学側の取り組み体制や経費負担などは十分であるか 3) 感染症発症時の危機管理体制は十分か	
	・実習中の事故に対する対応方法が定められ学生に指導されていること	1) 実習中の事故対策が明示され、学生へ十分説明しているか 2) 教職員・実習場の指導者と共通認識しているか	
	・看護・理学療法実践能力にかかわる卒業時の到達レベルの確認体制と実施の現状が適切であること	1) 取得すべき看護・理学療法実践能力について、到達レベルの確認・指導を行なっているか	
	・当該教育課程の看護学・理学療法教育においては、倫理的配慮が確実になされていること	1) 実習の実施に関して、個人情報保護等倫理的配慮について、管理・運営上の措置が行なわれているか	
	・当該教育課程の臨地実習等学外施設は、大学の責任において確保する努力がなされていること	1) 当該教育課程の学外の教育研究協力施設化確保の重要性が十分認識されているか 2) 看護学・理学療法学の学外実習施設の恒常的確保が大学の責任で取り組まれているか 3) 臨地実習施設との契約などの仕組みは適切であるか	
4. その他教育に関する支援 1) 施設・設備	・当該教育課程のカリキュラムの展開にふさわしい施設・設備が学内に整備されていること	1) 看護学・理学療法学科目を教授するための演習室・実習室が適切に設置されているか 2) 実習用モデルなど機器・備品の更新が適切に行なわれているか	
	・当該教育課程の臨地実習に必要な施設を確保していること	1) 臨地実習が適切に実施できるための施設数が確保されているか 2) 臨地実習施設にはカンファレンスルーム・更衣室が整備されているか 3) 臨地実習施設には、実習用の図書・資料・材料等が整備されているか 4) 臨地実習を行なうに適した施設の確保は当該大学の責任において実施されているか	
2) 実習施設の確保・整備	・実習室の管理・指導体制が整備され機能していること	1) 実習室では、自主学習ができるよう管理・指導体制ができていないか 2) 看護・理学療法展開の基本を伝えるようにふさわしく常時管理され、使用ルールを共有しているか 3) 実習室の運用に関する方針が規定され、教員や学生に周知されているか	
	・医療廃棄物処理法に基づいた安全管理体制が整備され、教職員・学生に周知されていること	1) 看護・理学療法実習室での医療安全管理対策ができていないか 2) 医療廃棄物処理設備の使用原則につき、学生への教育ができていないか	
3) 図書・メディア	・当該教育課程に係わる図書館は、構成員（学生）が十分に活用できるよう整備されていること	1) 配置場所・開館時間（特に実習との関連）は、学生の利用の便に配慮されているか 2) 学生のニーズに適合した図書・資料等が配備される仕組みがあり、整備されているか	
第5章 教育・研究・社会（地域貢献）活動 1. 教育・研究・社会（地域貢献）活動 1) 看護学科 2) 理学療法学科	・看護学・理学療法学の教員は、それぞれの専門性にかかわる教育及び学術的発展を支える研究をすること	1) 演習・実習などの実施プロセスで直面する課題を個人及び教員組織で研究し、改善している 2) 実習施設の看護学・理学療法学の実践充実・向上のための研究に取り組んでいるか	
	・研究成果の公表を適切に実施していること	1) 教育を発展させる研究活動を行い、成果を報告しているか	

看護リハビリテーション学部	専門分野の学士課程評価基準	
自己点検・評価項目	評価項目	評価の根拠
第5章 教育・研究・社会（地域貢献）活動（つづき）		2) 自己の専門性に応じた研究活動を行い、当該分野の学会報告活動などを行っているか
2. 研究倫理審査	・当該研究課程の教員が、研究に取り組むのに相応しい研究費を確保していること	1) 当該教育課程の教員の研究費の確保が適切になされているか
	・当該教育課程の教員は、外部資金の確保を適切に実施していること	1) 科研費等、外部資金確保のための申請が適切になされ、当該教育課程の教員の研究費の確保が適切になされ、採択しているか
	・当該教育課程の教員は実習施設等へのかかわりの中で、当該施設の看護・理学療法サービス向上への取り組みができていること	1) 実習施設等の看護・理学療法職者との連携・共通認識のもとに研究的取り組みがなされているか 2) 実習施設等の看護・理学療法者との連携で実績評価がなされているか
	・当該大学の教育研究活動及び社会貢献（地域貢献）活動において、看護学・理学療法学の発展を目指す諸活動が十分に位置づけられ、適切に評価されていること	1) 当該教育課程における看護学・理学療法学の発展を目指す諸活動が、当該大学において適切に評価され、位置づけられているか
3. 学部における地域貢献 1) 高大連携講座（公開講座含む）	・各教員が当該教育課程の教員としての専門性を生かした社会貢献活動に取り組んでいること	1) 教員が自己の専門性に基づき実施した社会貢献活動実績を自己評価できるか 2) 大学として専門性に相応しい社会貢献活動を組織的に強化する仕組みがあるか
	・社会貢献活動状況を外部評価する仕組みがあること	1) 当該課程の教員集団の実績について、活動に関係のある外部者、看護・理学療法専門職者からの評価を受けているか 2) 社会貢献活動の実績を公表しているか
4. FDについて	・当該教育課程に相応しい教育能力開発方針と実施体制を持っていること	1) 教育能力開発は、組織としての方針があり、取り組み体制があるか
	・教員が主体的に取り組んでいること	1) その組織を通じて、教員が当該教育課程の教育能力開発に取り組んでいるか
	・教育能力は開発に必要な経費が確保されていること	1) 教育能力開発のために使用できる経費が予算化されているか
	・当該課程の教員の教育評価に連動した対策に取り組むこと	1) 授業評価に基づく教育能力向上を目指した取り組みであるか
	・当該教育課程の教員が学士課程教育を相対的視野で教育活動に取り組む適切な研修を実施していること	1) 当該教育課程に関わる教員が、課程全体の中での自己の役割や共同活動としての教育活動について認識を深める研修を行なっているか 2) 看護学・理学療法学の学士課程教育における教養教育の位置づけが共有できる研修を行なっているか
	・当該教育課程の教員のFDに関するニーズに即した組織的取り組みがなされていること	1) 当該課程の教員の背景・現状・希望などのニーズ分析を組織的にしているか 2) 当該課程の責任者の考えと教員の希望とを適切に取り入れたFD実施計画であるか
	・教員が実践現場等での実践能力を維持・向上するための研修会の機会が組織的に準備されていること	1) 学生に対して看護・理学療法実践モデルを示しうる能力を培う実践研修を行っているか
	・当該教育課程の教育方法を充実させるための教員能力開発を組織的・計画的に取り組んでいること	1) 研鑽が必要な当該課程の看護・理学療法実習・看護・理学療法教育の課題を計画的・意図的に設定しているか

看護リハビリテーション学部		専門分野の学士課程評価基準	
自己点検・評価項目	評価項目	評価の根拠	
第5章 教育・研究・社会（地域貢献）活動（つづき）	・実習指導に関わる指導方法の開発研究や研修がなされていること	1) 臨地実習での学生の行動特性に適合させた教育方法の開発や研鑽をしているか 2) 実習指導教員に、教育課程全体の視野で捉えた指導方法を共有しているか	
	・現場側指導者は、当該課程の学生指導能力を高める取り組みができていないこと	1) 実習現場の指導者と密接な協力体制による教育開発のための組織的連携プログラムをもっている	
	・多様な方法による取り組みがなされ、実績を上げていること	1) 教育力向上にむけ、適切な回数研修会、研究会を年間計画の中で実施しているか 2) 実施後の評価に基づき、改善にむけた検討がなされているか	
	・参加教員の主体性に基づく評価が行なわれ、それによる改善措置の取り組みがなされていること	1) 参加者による評価を組織的にしているか 2) 改善措置の取り組みがなされているか	
第6章 学生生活の支援 1. 学生生活に関して 1) アドバイザー制度 2) 奨学金制度 3) 感染症対策	・経済的問題への相談および支援体制があり、適切に機能していること	1) 課程への緊急事態発生を含めて経済的問題への相談・対応ができていないか 2) 施設固有の奨学金の相談・指導が適切か	
	・心身の健康相談のために、専任の専門職者が配置され、機能していること	1) 保健師・看護師・校医を配置し、健康相談を行っているか 2) カウンセラーによるカウンセリングを常時行っているか 3) 学生の健康相談、カウンセリングの利用状況分析を行っており、その後の対策は適切であるか	
	・心身の健康相談体制について学生のプライバシー及び利便性が配慮されていること	1) 個別対応・管理運営の全プログラムを通して、個人情報保護が的確であるか 2) 来談予約などのシステムは的確であるか	
	・当該教育課程の学生に対して、生活の安全確保・管理に関して、適切な対策がなされ実行されていること	1) 学内・外における多様な課題に対し、安全確保対策（方針・責任体制・組織図）があり、関係者・機関と連携を含めて、組織的に取り組んでいるか 2) 安全管理の諸対策は学生に周知しているか 3) 必要なマニュアルは整備され、関係者で共有しているか	
	・当該教育課程の学生の心とからだの健康管理に関して、適切な対策を実施していること	1) 健康管理の対策（方針・責任体制・組織図）が示され、常に進行管理を行なっているか 2) 健康管理に関わる校医・看護・理学療法職・カウンセラーとの連携を適切に行っているか 3) 健康問題発生時の対応における責任体制・仕組みが適切であるか 4) 健康管理指導と学業の指導とが必要な距離をもって連携できる体制で行なっているか（担当教員と校医、カウンセラー間などで）	
4) コモンルームの使用	・自主的に学習できる環境の整備、支援体制を整備していること	1) スペースの確保等、施設設備は整備されているか 2) 学生側の要望を常に捉えた適切な対応及び指導か 3) 看護・理学療法技術の自己学習を支援する教員体制は整備されているか	
	・大学の管理運営の日常活動において、構成員（学生等・教職員）への倫理的配慮が的確になされていること	1) 学生の個人情報保護（成績通知・奨学金・相談・カウンセリング・呼び出し等）はあらゆる面で適切に配慮されているか 2) 教職員における個人情報の保護等、倫理的配慮は十分か	
2. 学生の福利厚生	・学生が学業を継続するに当たって、福利厚生が準備されていること	1) 福利厚生はどのような内容・仕組みか 2) どのような奨学金制度か	

看護リハビリテーション学部		専門分野の学士課程評価基準	
自己点検・評価項目	評価項目	評価の根拠	
第6章 学生生活の支援(つづき) 3. 国際交流	・国際感覚を備えた専門職業人育成のためのプログラムが準備されていること	1) 学生が選択できるプログラム内容が準備されているか 2) 渡航上の危機管理体制が整えられているか	
4. 国家試験	・学習支援体制がなされていること	1) 学生の学習促進につながる体制か 2) 支援活動についての評価体制があるか	
	・修業年限内での課程卒業率に適切であり、必要な対策がとられていること	1) 入学年次別の卒業率分析と初期の目的を達成できない理由分析、その対策が適切に実施されているか 2) 円滑な修学を促す対策に取り組んでいるか	
	・卒業時の免許取得状況が適切であること	1) 入学年次別における各種免許の種類別取得者状況は適切であるか 2) 各種免許の国家試験合格率は適切であり、また、不合格者への対策は整っているか	
5. 就職活動	・学生に対する就職情報の提供や就職相談・指導体制が整備され、適切に実施されていること	1) 学生への進路指導方針は的確であるか 2) 採用情報・施設情報の提供が適切か	
	・卒業後の就職状況が当該課程の社会的使命を達成するに相応しい現状であること	1) 当該課程が目指す領域への就業状況を点検、評価しているか 2) 実績分析データを持っているか 3) 卒業後の活躍状況を追跡できる仕組みができているか 4) 当該教育課程の人材育成目標を達成しているか	
6. ハラスメントに関する保護	・各種ハラスメントに対応する体制が整備され、学生が利用できていること	1) 学内において諸種のハラスメント防止対策があり、教職員、非常勤講師等、学生にかかわる者に共有され、組織的に取り組んでいるか 2) 学外実習などにおけるハラスメント防止対策があり、実習施設との共有ができているか 3) 上記1) 2) のハラスメント対策を学生へ周知・指導し、相談体制ができているか	
第7章 学生による授業評価 1. 講義・演習に関する評価 2. 臨地実習に関する評価	・当該教育課程の学生による授業評価が、倫理的配慮を踏まえて実施されていること	1) 授業評価の目的・方法および評価結果の取り扱いについて学生に説明・同意を得ているか 2) 評価方法の妥当性が検討されているか 3) 評価結果が当該教員の授業改善に反映されているか 4) 授業評価活動を評価する仕組みがあるか	
第8章 大学院 1. 大学院の教育目標の明確化と自己改革 1) 大学院の教育目標	・看護学に特化された教育目標が明示されていること	1) 教育目標が文章化されているか 2) 教育目標が公表されているか 3) 教育目標に容易にアクセスできるか	
	・教育目標に看護学・看護実践への貢献が明示されていること	1) 育成する人材の看護学・看護実践への寄与が明示されているか 2) 看護実践の理論化に貢献することをめざしているか	
2) 自主性・独立性	・教育活動に関する重要事項が、自主性・独立性を持って意思決定されていること	1) 当該研究科・専攻が組織の独立性を保っているか 2) 当該研究科・専攻の組織責任者が看護学の研究者であるか	
2. 教育課程・教育活動 1) 科目と科目配置	・教育目標に合致する科目配置がなされていること	1) 研究者養成・高度実践家養成などの各目的に合致した形で科目配置が組まれているか 2) 専門性が明確になるように教育科目が組まれているか 3) 専門看護師育成を目的とする教育課程は、看護系大学協議会の専門看護師教育課程の認定を受けているか	

看護リハビリテーション学部	専門分野の学士課程評価基準	
自己点検・評価項目	評価項目	評価の根拠
第8章 大学院（つづき）	・教育課程が適切な運用がなされていること	1) 科目担当者が適切であるか 2) 教育方法が適切であるか 3) 単位認定の方法が明確か
	・シラバスが準備され、適切に活用されていること	1) シラバスにはその科目の目的、学修方法、日程、評価方法が明示されているか 2) 学生がシラバスを活用できているか
	・学生の国際性の涵養がはかられていること	1) 海外の大学との単位互換制度はあるか 2) 学生の海外研修の機会があるか 3) 留学生を受け入れているか 4) 外国人教員による指導の機会があるか
2) 履修方法	・学生が履修科目の選択を適切に行える支援体制があること	1) 履修ガイダンスが実施されているか
	・科目単位認定に対する学生からの異議申立手続が規定されており適切に実施されていること	1) 手続きの規定があるか 2) 手続きの規定が明示されているか 3) 手続きが学生に周知されているか 4) 学生が保護されているか
	・社会人入学制度がある場合、具体的配慮が明示されていること	1) 大学院設置基準の14条特例が適用され、適切に実施されているか 2) 長期在学制度がある場合、その履修課程が明示されているか
	・遠隔教育が行われている場合、具体的配慮が明示されていること	1) 遠隔教育用の施設が整備されているか 2) 教員からのレスポンスが適切に実施されているか 3) 進捗の評価が適切にできているか
3) 改善に向けた組織的取り組み	・カリキュラム・教育活動の改善充実に向けて組織的に取り組んでいること	1) 教育内容や教育方法についての学生による評価を行なっているか 2) 学生による評価を活用する取り組みがなされているか 3) 教育課程を組織的に継続的に検討、改善するシステムがあるか
3. 入学者選抜 1) 入学者選抜	・入学者選抜の基準、手順が適切であること	1) どのような学生を求めているかを明示しているか 2) 教育目標に適した学生の選抜基準、選抜手続が明確であるか 3) 入学者選抜の基準及び手続は適切に運用されているか 4) 実務経験の必要性がある課程はそれが明示されているか
	・留学生に対する入学者選抜の基準が整っていること	1) 留学生の入学者選抜の基準、選抜手続が明確であるか 2) 留学生の入学者選抜の基準及び手続に従って適切に実施されているか
2) 定員管理	・定員が適切に管理されていること	1) 入学者数が入学定員に対してバランスを失っていないか 2) 在籍者数が収容定員に対してバランスを失っていないか
4. 学生支援体制 1) 経済的支援	・奨学金制度が整備されていること	1) 学生支援機構等の奨学金の情報が学生に周知されているか 2) 博士課程にあつては日本学術振興会特別研究員制度が周知されているか 3) 経済的支援制度は十分に活用されているか
	・TA/RA 制度が整備されていること	1) TA/RA 制度が明示されているか 2) TA/RA 制度が活用されているか

看護リハビリテーション学部	専門分野の学士課程評価基準	
自己点検・評価項目	評価項目	評価の根拠
第8章 大学院（つづき）	・研究費獲得のための支援がなされていること	1) 研究助成に関する情報が伝わっているか 2) 研究費申請の指導がなされているか
2) 就職支援	・学生の修了後の進路に合わせた就職支援が計画的になされていること	1) 就職に関する情報提供がなされているか 2) 就職の相談体制が整備されているか
3) 健康保持増進支援	・学生が適切に健康を保持増進できる体制が機能していること	1) 学生は定期健診を受診しているか 2) 健康相談をできる体制は活用されているか 3) カウンセリングを受ける体制が整備され、学生に活用されているか 4) 研究や課外活動で起こりうる感染予防・感染拡大予防の対策が実施されているか
4) 保険	・保険制度が整備されていること	1) 学生は保険に加入しているか 2) 保険加入の制度が学生に周知されているか 3) 学生の保険加入状況を大学が把握しているか
5) ハラスメント対策	・ハラスメントの予防策がとられていること	1) アカデミック／セクシャルハラスメントの予防策が学内で周知徹底されているか
	・ハラスメントへの対応策が整備されていること	1) アカデミック／セクシャルハラスメントへの対応策が整備されているか 2) アカデミック／セクシャルハラスメントへの対応が組織的に行われているか 3) アカデミック／セクシャルハラスメントへの対応策が学生に周知されているか
6) 多様な学生が学ぶための支援	・妊娠中・育児中の学生への配慮がなされていること	1) 妊娠中・育児中に必要である体制が整備されているか 2) 妊娠中・育児中の学生に支援体制について周知しているか
	・留学生に対する配慮がなされていること	1) 留学生を支援する体制が整備されているか 2) 支援体制について留学生に周知しているか
5. 学位論文指導体制・評価基準 1) 学位論文指導体制	・学位論文作成のプロセスが明示されていること	1) 論文提出までの手続きとその時期等が明記され、周知されているか
	・学位論文の指導体制が明示されていること	1) 指導教員の決定・変更方法が明示されているか 2) 学際性を鑑み、複数の教員から指導を受けることができる体制になっているか
	・海外に渡航しての学術調査について規定があること	1) 規定が整備されているか 2) 規定が学生に周知されているか
2) 学位論文作成過程における倫理的配慮	・倫理審査に関する規定が整備され、機能していること	1) 大学としての組織的な研究倫理審査機関があるか 2) 研究倫理審査基準が整っているか 3) 適切に審査が行われているか
	・研究対象者が十分に保護されていること	1) 自己決定の保証がなされているか 2) 十分な情報提供が行なわれているか 3) プライバシーが十分保護されているか 4) 研究対象者の負担が最小限になるように配慮できているか
	・研究フィールドへの影響を配慮できていること	1) 研究フィールドが不利益をこうむらないように配慮できているか
	・学生の権利が守られていること	1) データ収集に際しての学生の安全への配慮がなされているか
3) 評価基準の明確化	・学位論文審査の評価項目と評価基準が明示されていること	1) 評価項目・基準が明記されているか 2) 評価項目・基準が学生に周知されているか
	・看護学の論文としての評価基準が明確にされていること	1) 評価基準に看護学・看護実践への貢献が明記されているか

看護リハビリテーション学部	専門分野の学士課程評価基準	
自己点検・評価項目	評価項目	評価の根拠
第8章 大学院（つづき） 4) 研究成果の公表	・研究成果の公表に関する取り決めがあること	1) 取り決めが明示されているか 2) 取り決めが学生に周知されているか
	・海外への公表に対して配慮されていること	1) 英文指導の体制があるか 2) 国際学会への参加を奨励しているか
6. 修了認定 1) 修了認定	・最終試験の評価項目と評価基準が明示されていること	1) 評価項目・基準が明記されているか 2) 評価項目は教育目標と合致しているか
	・修了認定基準、修了認定の体制・手続が適切に設定され、実施されていること	1) 修了認定基準が明示されているか 2) 修了認定基準が学生に周知されているか
	・論文審査、最終試験に関する学生からの異議申立手続が規定されており適切に実施されていること	1) 手続きの規定があるか 2) 手続きの規定が明示されているか 3) 手続きが学生に周知されているか 4) 学生が保護されているか
2) 学位授与状況	・学位授与状況が適切であること	1) 修了者数が入学者数に対してバランスを失っていないか
7. 教員 1) 教員体制	・教員の配置が適切であること	1) 看護学を専攻している教員が必要数配置されているか 2) 看護学を支える近接領域の教員が適切に配置されているか
	・教員の資格認定が適切であること	1) 資格認定の基準が明確であるか 2) 資格認定の基準にそって、適切に運用されているか
2) 教員支援体制	・教員の教育活動を支援する仕組み・体制が整備されていること	1) 教員の担当する授業時間数が、十分な授業準備をすることができる程度の適正なものであるか 2) 教育に必要な教材を準備するための支援がなされているか
3) 教員の研究活動	・教員の研究活動を支援するための制度・環境に配慮がなされていること	1) 研究時間の確保がなされているか 2) 研究費獲得の支援がなされているか 3) 研究のための特別な制度があるか 4) 研究のための種々の制度は活用されているか
	・教員へのハラスメントの予防策がとられていること	1) アカデミック／セクシャルハラスメントの予防策が学内で周知徹底されているか
	・教員へのハラスメントへの対応策が整備されていること	1) アカデミック／セクシャルハラスメントへの対応策が整備されているか 2) アカデミック／セクシャルハラスメントへの対応が組織的に行われているか 3) アカデミック／セクシャルハラスメントへの対応策が教員に周知されているか
	・看護実践領域の教員が実践家と学術的交流を行っていること	1) 教育・研究領域でフィールドを開拓しているか 2) 実践家と協働し、実践の改革に取り組んでいるか
	・他機関との共同研究を行っていること	1) 他機関との共同研究を行っているか
	・国際的な研究活動を行なっていること	1) 論文は国際誌掲載されているか 2) 海外の大学と共同研究を行っているか 3) 海外をフィールドとした研究を行っているか
	・研究を行なうための資金があること	1) 大学運営の参加の負担はバランスが取れているか
	4) 大学運営への参画	・教員が大学運営に参加していること
8. FD 1) 教育力の開発のための取り組み	・看護学系大学院固有のニーズに合わせた組織的取り組みがあること	1) FD 組織があるか 2) FD 委員会活動のための経費措置がとられているか 3) FD 活動が継続的に行なわれているか 4) 教員の参加が得られているか

看護リハビリテーション学部		専門分野の学士課程評価基準	
自己点検・評価項目	評価項目	評価の根拠	
第8章 大学院（つづき） 9. 教育・研究・学習の環境 1) 施設・設備	・授業等の教育の実施や学修に必要な施設・設備が適切に確保・整備されていること	1) 授業に使える場所が確保されているか 2) 研究に使える実験室・実習室が確保されているか 3) 学生が自主学習できる場所が確保されているか 4) 自主学習の場所を使える時間が制限されていないか 5) コンピュータの台数が十分であるか 6) コンピュータを使う時間が制限されていないか	
	2) 実習体制	1) 実習場は確保されているか 2) 適切な指導体制がとられているか	
第8章 大学院（つづき） 3) 図書館	・図書・雑誌・その他資料が十分に整備されていること	1) 看護学の研究に必要な図書・雑誌が整備されているか 2) 教育・研究・学習するのに十分な量確保されているか	
	・図書館のサービス体制が整備されていること	1) 図書館のホームページが整備されているか 2) 図書・雑誌の検索機能が整備されているか 3) 電子ジャーナルが整備されているか 4) 図書館の開館時間が十分であるか	
10. 自己点検評価 1) 自己点検	・自己点検をしていること	1) 外部評価を適切に受けているか 2) 研究科・専攻単位ごとに自己点検評価をしているか	
	・自己点検評価の結果を反映させていること	1) 自己点検評価の結果に基づき、組織的に改善に取り組むシステムがあるか	
	・修了生が社会的に活躍していること	1) 修了生が教育目標に応じた場所で活躍しているか	
第9章 教員による自己評価 1. 看護リハビリテーション学部全体 1) 学部教員全体の主要4業務フェーズの年次別比較 2) 教育活動 3) 研究活動	・教員は、授業を自己評価し、授業評価に基づく教育力向上の取り組みをしていること	1) 教員自身が自分の授業を評価し、受講学生の視点から改善するしくみがあるか 2) 学生による授業評価に基づき、授業改善の取り組みを組織的に行なっているか	
	・教員同士で授業を評価し、改善する仕組みをもっていること	1) 教員同士がピアレビューして自分では気づかなかった改善すべき点を互いに共有しているか	
	・教員は当該教育課程の教育に十分貢献していること	1) 当該教育課程の教員として、目的とする教育活動に貢献しているか	
	・教員は、当該教育課程の運営に適切に参加していること	1) 委員会委員など、教員の職位等背景に相応しい運営参加をしているか 2) 当該課程の研究組織に相応しい役割分担について、方針があり、実績を分析しているか	
2. 看護学科の現状及び評価	・各教員の大学運営参加について、自己評価を組織的に実施し、教員同士で評価する仕組みがあること	1) 教員が大学あるいは当該教育課程の運営への参画状況を自己評価できているか	
3. 理学療法学科の現状及び評価	・所属委員会等は、活動状況を自己点検・評価する仕組みをもち、実行していること	1) 所属委員会等の委員同士の活動状況の評価をしているか	
	・大学運営参加実績を当該教育課程の責任者が評価する仕組みをもっていること	1) 大学運営参加実績が当該教員の実績評価に反映できる体制であるか	
	・各教員が当該教育課程の教員としての専門性に相応しい社会貢献活動実績を自己評価する仕組みがあること	1) 教員が自己の専門性に基づき実施した社会貢献活動実績を自己評価できるか 2) 大学として、専門性に相応しい社会貢献活動を組織的に評価する取り組みがあるか	

看護リハビリテーション学部		専門分野の学士課程評価基準	
自己点検・評価項目	評価項目	評価の根拠	
	・臨地実習施設を含め、地域の看護・理学療法及び看護・理学療法職の資質の向上にむけた社会貢献活動が取り組まれていること	1) 臨地実習施設を含め看護・理学療法・看護・理学療法職者の質の向上について大学側の取り組み方針があるか 2) 上記方針に沿って、組織的に活動の発展に取り組んでいるか 3) 上記の方針に沿って、当該課程の教員がそれぞれの専門性に応じた取り組みをしているか	
	・社会貢献活動状況を外部評価する仕組みがあること	1) 当該課程の教員集団の実績について、活動に関係のある外部者、看護・理学療法専門職者からの評価を受けているか 2) 社会貢献活動などについては、実績を公表しているか	
第10章 自己点検・評価体制 1. 自己点検・評価の組織	・当該教育課程の自己点検評価体制組織をもち、機能していること	1) 当該教育課程に対する自己点検評価組織が計画的に機能しているか 2) 各種委員会活動との連携による組織的改善取り組み体制であるか 3) 看護学・理学療法教育の中心となる教員が、自己点検評価委員会のメンバーであるか	
	・当該教育課程の教育活動に責任をもつ教員が参画し、主体的に改善しようとする組織であること	1) 活動の実施者・責任者が入った主体性をもった組織であるか	
2. 自己点検・評価体制に関する委員会活動 1) 自己点検・評価の実施・目的	・当該教育課程の独自の自己点検評価項目を設定していること	1) 教育研究活動全体を通して、当該教育課程の社会的使命との関連で、自己点検評価主要項目が設定されているか 2) 当該教育課程で、その時期に必要な項目を申し合わせているか 3) 当該教育課程の発展を考慮した項目の設定か	
	2) 評価方法	・自己点検評価の実施計画を持っていること	1) 当該課程での実施計画があるか 2) 大学全体での実施計画があるか 3) 将来計画とのかかわりにおいて中長期的実施計画、見通しがあるか 4) 一定期間ごとに点検評価が実施され、改善措置が確認されるか
今回の評価には入らない項目	・当該教育課程の人材育成に関係する外部者からの意見・評価を受ける仕組みがあること	1) 当該教育課程の人材育成・活動に関わる識見のある外部者、卒業生の雇用側の者などの意見を聴く仕組みがあるか 2) 学外実習などの教育協力施設側からの評価・意見を聞いているか	
	・上記の外部者の意見に基づく改善措置ができていないこと	1) 上記システムの評価意見に基づき改善措置ができていないか	
	・機関別評価に基づく改善措置の実績があること	1) 指摘に基づく改善措置・改善計画があるか	

編集後記

甲南女子大学看護リハビリテーション学部自己点検・自己評価報告書第3号（平成23～25年度版）をお届けすることができました。

本報告書は学部開設5年目～7年目までの3年間の教育・管理・運営の状況の評価と、今後の課題を明らかにし、今後の本学部のさらなる発展に資することを目的として作成しました。今回も前回同様に日本看護系大学の「平成20年度看護専門領域の評価システム構築報告書—学士課程評価基準」を参考に、本学独自の自己点検評価基準を作成し、学部の教育・管理・運営社会貢献の状況などを分析・評価しています。編集作業を通じて、学部の教職員の皆さまに多大なご協力を受けて本書の作成を完遂できたことを深く感謝申し上げます。

さて、本学部は医療の高度化、専門化、少子高齢社会に対応するため、生命の尊厳や人権の尊重について深く理解し、地域住民の生活の質を探究する豊かな人間性と高邁な倫理観を兼ね備えた医療専門職者の養成を目的として開設され、すでに今春には第四期生を送り出しました。卒業生が人々に信頼され、地域の保健・医療・福祉の一端を担う役割を果たすことができるような社会人に成長することを期待するばかりですが、そのことは同時に教育機関としての真価が問われていることに他なりません。教職員は本学の建学の精神、教育理念のもと、一層研鑽しすべく、身の引き締まる思いです。

今後も学部の教職員の相互協力によって、関西における女子教育の高等教育機関としての実績を有する大学として、さらに本学の建学の精神、教育理念のもと、地域社会に貢献できる教育機関としての評価を受けられるように邁進し続けていきたいと願っております。

平成27年1月吉日

看護リハビリテーション学部自己点検・自己評価委員会
伊藤浩充、兼田美代、谷口清弥
牧野裕子、梶田聖子、松谷綾子



甲南女子大学
KONAN WOMEN'S UNIVERSITY

〒658-0001 神戸市東灘区森北町6丁目2番23号
TEL 078-413-3722 (看護リハビリテーション学部事務室)